(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6472713号
(P6472713)
(45)発行日　平成31年2月20日(2019.2.20)　(24)登録日　平成31年2月1日(2019.2.1)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 320
A63F 7/02 315A
A63F 7/02 312Z

請求項の数 2　(全 323 頁)

(21)出願番号　特願2015-110961(P2015-110961)
(22)出願日　平成27年5月29日(2015.5.29)
(65)公開番号　特開2016-220997(P2016-220997A)
(43)公開日　平成28年12月28日(2016.12.28)
審査請求日　平成29年9月5日(2017.9.5)

(73)特許権者　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(74)代理人　100174182
弁理士　古田　広人
(74)代理人　100084227
弁理士　今崎　一司
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　後藤　聡
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の遊技が行われる遊技領域と、
正面視において該遊技領域の下方で前方へ膨出し、所定の内部空間が形成された膨出部と、
前記膨出部の上面側に設けられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
前記内部空間に収容され、遊技者が操作可能な操作装置と、
所定形状の底壁部と所定高さの立壁部により形成される貯留領域に遊技媒体を貯留可能な下皿本体を有し、所定の供給口から遊技媒体が流入可能な下皿と
を備え、
前記膨出部における前記内部空間と左右方向に並設される空間に、前記下皿本体が設けられ、
前記下皿本体は、遊技機の前方に臨む領域が形成される第１下皿部と、該第１下皿部に一体的に設けられて遊技機の前方に臨まない領域が形成される第２下皿部とを含み、
前記第２下皿部の上方を覆うカバー手段を前記下皿本体と一体的に設け、
前記カバー手段は、前記第２下皿部における前記底壁部の上方空間と前記内部空間との境界となって前記内部空間へ遊技媒体が侵入しないようにする境界壁を備え、当該境界壁が前記第２下皿部の上方を覆うことで前記第２下皿部から前記第１下皿部側以外の下皿外部へ遊技媒体が流出することを阻止するものであって、

さらに、前記内部空間を境として前記下皿が設けられる側の反対側には、遊技媒体を発射するためのハンドル部が設けられており、
前記膨出部は、前記ハンドル部の最前部分よりも当該遊技機の前方に突出するように設けられ、
さらに、前記下皿には、所定の供給口を介して遊技媒体が供給され、
前記供給口は、前記下皿の左右幅の中心よりも前記第２下皿部側にずれて設けられる
ことを特徴とする遊技機。
【請求項２】
所定の遊技が行われる遊技領域と、
正面視において該遊技領域の下方で前方へ膨出し、所定の内部空間が形成された膨出部と、
前記膨出部の上面側に設けられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
前記内部空間に収容され、所定の演出効果を奏する演出装置と、
所定形状の底壁部と所定高さの立壁部により形成される貯留領域に遊技媒体を貯留可能な下皿本体を有し、所定の供給口から遊技媒体が流入可能な下皿と
を備え、
前記膨出部における前記内部空間と左右方向に並設される空間に、前記下皿本体が設けられ、
前記下皿本体は、遊技機の前方に臨む領域が形成される第１下皿部と、該第１下皿部に一体的に設けられて遊技機の前方に臨まない領域が形成される第２下皿部とを含み、
前記第２下皿部の上方を覆うカバー手段を前記下皿本体と一体的に設け、
前記カバー手段は、前記第２下皿部における前記底壁部の上方空間と前記内部空間との境界となって前記内部空間へ遊技媒体が侵入しないようにする境界壁を備え、当該境界壁が前記第２下皿部の上方を覆うことで前記第２下皿部から前記第１下皿部側以外の下皿外部へ遊技媒体が流出することを阻止するものであって、
さらに、前記内部空間を境として前記下皿が設けられる側の反対側には、遊技媒体を発射するためのハンドル部が設けられており、
前記膨出部は、前記ハンドル部の最前部分よりも当該遊技機の前方に突出するように設けられ、
さらに、前記下皿には、所定の供給口を介して遊技媒体が供給され、
前記供給口は、前記下皿の左右幅の中心よりも前記第２下皿部側にずれて設けられる
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ぱちんこ遊技機（一般に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般に「パチスロ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、始動口に遊技球が入賞したことに基づいて大当りとするか否かの抽選を行うと共に表示装置に図柄を変動表示して抽選結果に応じた態様で図柄を停止表示するようにし、抽選結果が大当りとなった場合には、表示装置に大当り図柄を停止表示して大当り遊技状態を発生させる遊技機が知られている。この大当り遊技状態では、通常時に閉鎖される入賞口としての大入賞口を開放し、その大入賞口に遊技球を次々と入賞させることで、多量の賞球を短時間で獲得することができる。
【０００３】
また、従来の遊技機として、正面視における遊技領域の下方に、遊技領域内に打込むための遊技媒体が貯留される上皿と、上皿の下側に配置され上皿から溢れた遊技媒体が貯留される下皿とを備えているものが一般である（例えば、特許文献１）。

【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００９－２８３９０号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、従来の遊技機では、遊技者に対する訴求力が低かった。
【０００６】
そこで、本発明は、上記の実情に鑑み、遊技者に対する訴求力の高い遊技機の提供を課題とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明は、
所定の遊技が行われる遊技領域と、
正面視において該遊技領域の下方で前方へ膨出し、所定の内部空間が形成された膨出部と、
前記膨出部の上面側に設けられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
前記内部空間に収容され、遊技者が操作可能な操作装置と、
所定形状の底壁部と所定高さの立壁部により形成される貯留領域に遊技媒体を貯留可能な下皿本体を有し、所定の供給口から遊技媒体が流入可能な下皿と
を備え、
前記膨出部における前記内部空間と左右方向に並設される空間に、前記下皿本体が設けられ、
前記下皿本体は、遊技機の前方に臨む領域が形成される第１下皿部と、該第１下皿部に一体的に設けられて遊技機の前方に臨まない領域が形成される第２下皿部とを含み、
前記第２下皿部の上方を覆うカバー手段を前記下皿本体と一体的に設け、
前記カバー手段は、前記第２下皿部における前記底壁部の上方空間と前記内部空間との境界となって前記内部空間へ遊技媒体が侵入しないようにする境界壁を備え、当該境界壁が前記第２下皿部の上方を覆うことで前記第２下皿部から前記第１下皿部側以外の下皿外部へ遊技媒体が流出することを阻止するものであって、
さらに、前記内部空間を境として前記下皿が設けられる側の反対側には、遊技媒体を発射するためのハンドル部が設けられており、
前記膨出部は、前記ハンドル部の最前部分よりも当該遊技機の前方に突出するように設けられ、
さらに、前記下皿には、所定の供給口を介して遊技媒体が供給され、
前記供給口は、前記下皿の左右幅の中心よりも前記第２下皿部側にずれて設けられる
ことを特徴とする。
また、所定の遊技が行われる遊技領域と、
正面視において該遊技領域の下方で前方へ膨出し、所定の内部空間が形成された膨出部と、
前記膨出部の上面側に設けられ、前記遊技領域で遊技を行うための遊技媒体が貯留される上皿と、
前記内部空間に収容され、所定の演出効果を奏する演出装置と、
所定形状の底壁部と所定高さの立壁部により形成される貯留領域に遊技媒体を貯留可能な下皿本体を有し、所定の供給口から遊技媒体が流入可能な下皿と
を備え、
前記膨出部における前記内部空間と左右方向に並設される空間に、前記下皿本体が設けられ、

前記下皿本体は、遊技機の前方に臨む領域が形成される第１下皿部と、該第１下皿部に一体的に設けられて遊技機の前方に臨まない領域が形成される第２下皿部とを含み、
前記第２下皿部の上方を覆うカバー手段を前記下皿本体と一体的に設け、
前記カバー手段は、前記第２下皿部における前記底壁部の上方空間と前記内部空間との境界となって前記内部空間へ遊技媒体が侵入しないようにする境界壁を備え、当該境界壁が前記第２下皿部の上方を覆うことで前記第２下皿部から前記第１下皿部側以外の下皿外部へ遊技媒体が流出することを阻止するものであって、
さらに、前記内部空間を境として前記下皿が設けられる側の反対側には、遊技媒体を発射するためのハンドル部が設けられており、
前記膨出部は、前記ハンドル部の最前部分よりも当該遊技機の前方に突出するように設けられ、
さらに、前記下皿には、所定の供給口を介して遊技媒体が供給され、
前記供給口は、前記下皿の左右幅の中心よりも前記第２下皿部側にずれて設けられる
ことを特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

このように、本発明によれば、訴求力の高い遊技機を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の右側面図である。
【図３】パチンコ機の左側面図である。
【図４】パチンコ機の背面図である。
【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。
【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。
【図８】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。
【図９】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１】パチンコ機における外枠の正面図である。
【図１２】外枠の右側面図である。
【図１３】外枠を前から見た斜視図である。
【図１４】外枠を後ろから見た斜視図である。
【図１５】外枠を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６】（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。
【図１７】（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。
【図１８】外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。
【図１９】パチンコ機における扉枠の正面図である。
【図２０】扉枠の右側面図である。
【図２１】扉枠の左側面図である。
【図２２】扉枠の背面図である。
【図２３】扉枠を右前から見た斜視図である。
【図２４】扉枠を左前から見た斜視図である。
【図２５】扉枠を後ろから見た斜視図である。

【図２６】図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図２７】図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。
【図２８】図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。
【図２９】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３０】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３１】（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３２】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３３】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３４】（ａ）は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３５】（ａ）は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。
【図３６】（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３７】（ａ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。
【図３８】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
【図３９】（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、（ｂ）はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４０】（ａ）はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４１】（ａ）は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左前から見た斜視図である。
【図４２】（ａ）は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。
【図４３】皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図４４】皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４５】図２８の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。
【図４６】（ａ）は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｂ）は下皿に（ａ）とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｃ）は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。
【図４７】（ａ）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。
【図４８】（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。
【図４９】（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５０】演出操作ユニットを、操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図５１】図４８（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図である。
【図５２】図４８（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。
【図５３】（ａ）は図４８（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。
【図５４】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図５５】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５６】（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボ

タンを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５７】演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図５８】（ａ）は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５９】演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図６０】演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６１】図５１の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。
【図６２】（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図６３】（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図６４】（ａ）は図４８乃至図６３の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの右側面図である。
【図６５】（ａ）は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図６６】第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図６７】図６４（ａ）におけるＧ－Ｇ線で切断した断面図である。
【図６８】図６４（ｂ）におけるＨ－Ｈ線で切断した断面図である。
【図６９】（ａ）は図６４（ｂ）におけるＩ－Ｉ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。
【図７０】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図７１】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７２】（ａ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７３】第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。
【図７４】（ａ）はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、（ｂ）はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。
【図７５】（ａ）は図７４（ａ）におけるＪ－Ｊ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図７４（ｂ）におけるＫ－Ｋ線で切断した断面図である。
【図７６】（ａ）はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図７７】（ａ）はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレー

ム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図７８】（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図７９】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８０】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８１】図７８（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。
【図８２】（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８３】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８４】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８５】図８２（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。
【図８６】（ａ）は図８２（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図８２（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。
【図８７】（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８８】扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８９】扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９０】図８７におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。
【図９１】本体枠を前から見た斜視図である。
【図９２】本体枠を後ろから見た斜視図である。
【図９３】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９４】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９５】払出ユニットを前から見た斜視図である。
【図９６】払出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図９７】払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９８】払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９９】（ａ）は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１００】球誘導ユニットの分解斜視図である。
【図１０１】（ａ）は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出装置を後ろから見た斜視図である。
【図１０２】払出装置を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０３】払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０４】（ａ）は払出装置の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＱ－Ｑ線で切断した断面図である。
【図１０５】（ａ）は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、（ｂ）は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。
【図１０６】（ａ）は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１０７】（ａ）は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０８】（ａ）は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１０９】下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１１０】下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１１】（ａ）は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態

を示す説明図であり、（ｂ）は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。
【図１１２】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。
【図１１３】払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。
【図１１４】遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。
【図１１５】図１１４の状態の遊技盤を右前から見た斜視図である。
【図１１６】図１１４の状態の遊技盤を左前から見た斜視図である。
【図１１７】遊技盤を後ろから見た斜視図である。
【図１１８】図１１４におけるＲ－Ｒ線で切断した断面図である。
【図１１９】図１１４におけるＳ－Ｓ線で切断した断面図である。
【図１２０】遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。
【図１２１】遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。
【図１２２】遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２３】遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２４】（ａ）は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を後ろから見た斜視図である。
【図１２５】（ａ）は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロープ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を後ろから見た斜視図である。
【図１２６】表ユニットにおけるアタッカユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。
【図１２７】（ａ）は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、（ｂ）はセンター役物を後ろから見た斜視図である。
【図１２８】遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図である。
【図１２９】裏ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３０】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３１】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。
【図１３２】（ａ）は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＴ－Ｔ線で切断して拡大した拡大断面図である。
【図１３３】（ａ）は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３４】裏上可動演出ニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３５】裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３６】（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。
【図１３７】裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３８】裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３９】（ａ）は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。
【図１４０】（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。
【図１４１】裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４２】裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４３】（ａ）は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【図１４４】（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。
【図１４５】裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４６】裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４７】（ａ）は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。
【図１４８】（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１４９】裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１５０】裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１５１】裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。
【図１５２】（ａ）は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、（ｂ）は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。
【図１５３】（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１５４】（ａ）は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１５５】（ａ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１５６】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１５７】裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１５８】（ａ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。
【図１５９】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。
【図１６０】裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。
【図１６１】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図である。
【図１６２】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。
【図１６３】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。
【図１６４】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに４５度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。
【図１６５】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。
【図１６６】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。
【図１６７】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図である。
【図１６８】裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベース

ユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。
【図１６９】（ａ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、（ｂ）は裏下可動演出ユニットの背面図であり、（ｃ）は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。
【図１７０】裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７１】裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７２】図１７１の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７３】図１７１の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７４】裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７５】図１７４の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ４５度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７６】図１７５の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に４５度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７７】図１７６の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７８】裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１７９】図１７８の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１８０】遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのＬＥＤを備えた例を示す説明図である。
【図１８１】遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。
【図１８２】主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図である。
【図１８３】図１８２のつづきを示すブロック図である。

【図１８４】主基板を構成する払出制御基板とＣＲユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図である。
【図１８５】図１８２のつづきを示すブロック図である。
【図１８６】周辺制御ＭＰＵの概略を示すブロック図である。
【図１８７】液晶及び音制御部における音源内蔵ＶＤＰ周辺のブロック図である。
【図１８８】（ａ）は、同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行されるメイン処理についてその手順を示すフローチャートであり、（ｂ）は、同実施の形態の主制御ＭＰＵによって定期的に行われる割り込み処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９０】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第二始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９２】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９３】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９４】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大当り判定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９５】（Ａ）は、大当りについての抽選処理に用いられる大当り判定テーブルであり、（Ｂ）は、大当りの種類についての抽選処理に用いられる図柄決定テーブルである。
【図１９６】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止図柄設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９７】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一変動パターン設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９８】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄変動処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１９９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２００】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大当り制御処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大入賞口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０２】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第二受入口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０３】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される普通図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０４】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行されるゲート部通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０５】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される普通図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０６】同実施の形態の周辺制御ＭＰＵによって実行されるサブメイン処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０７】同実施の形態の周辺制御ＭＰＵによって実行される１６ｍｓ定常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２０８】（Ａ）は、第二受入口の閉鎖状態を示す図であり、（Ｂ）は、第二受入口の開放状態を示す図である。
【図２０９】（Ａ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルであり、（Ｂ）は、１

５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルである。
【図２１０】（Ａ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートであり、（Ｂ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートである。
【図２１１】演出表示装置における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの実行時の具体的な演出例である。
【図２１２】（Ａ）は、第一実施形態の変形例として用いられる１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルであり、（Ｂ）は、第一実施形態の変形例として用いられる１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルである。
【図２１３】（Ａ）は、第一実施形態の変形例の１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートであり、（Ｂ）は、第一実施形態の変形例の１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートである。
【図２１４】第一の別演出例として示唆演出を実行する演出パターンの決定に用いられる演出パターン決定テーブルである。
【図２１５】第一の別演出例として示唆演出の実行時のタイミングチャートである。
【図２１６】第一の別演出例として演出表示装置における示唆演出の実行時の具体的な演出例である。
【図２１７】第二の別演出例として示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂを実行する演出パターンの決定に用いられる演出パターン決定テーブルである。
【図２１８】第二の別演出例として示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂの実行時のタイミングチャートである。
【図２１９】第二の別演出例として演出表示装置における示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂの実行時の具体的な演出例である。
【図２２０】第二実施形態の遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。
【図２２１】第二実施形態の大当りの種類についての抽選処理に用いられる図柄決定テーブルである。
【図２２２】第二実施形態として用いられる１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃ時の実行テーブルである。
【図２２３】（Ａ）は、第二実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートであり、（Ｂ）は、第二実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートである。
【図２２４】第二実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ｃ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートである。
【図２２５】第二実施形態の演出表示装置における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの実行時の具体的な演出例である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１０を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図８は本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図９はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た

分解斜視図である。

【００１１】

本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。

【００１２】

パチンコ機１の外枠２は、図９及び図１０等に示すように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。

【００１３】

また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３が開閉可能に取付けられている。

【００１４】

パチンコ機１の扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で前後に貫通している貫通口１１１を有した枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面右下隅に取付けられており遊技球を遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作可能なハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられており遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて遊技者に参加型の演出を提示することが可能な演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも上側の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００１５】

パチンコ機１の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球を打込むための球発射装置６８０と、本体枠ベース６００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット７００と、本体枠ベース６００の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆Ｌ字状の払出ユニット８００と、本体枠ベース６００の後面下部に取付けられている基板ユニット９００と、本体枠ベース６００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース６００に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー９８０と、を備えている。

【００１６】
本体枠４の払出ユニット８００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる逆Ｌ字状の払出ユニットベース８０１と、払出ユニットベース８０１の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク８０２と、球タンク８０２の下側で払出ユニットベース８０１に取付けられており球タンク８０２内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール８０３と、払出ユニットベース８０１における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール８０３からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット８２０と、球誘導ユニット８２０の下側で払出ユニットベース８０１から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット８２０により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス９５０に収容された払出制御基板９５１からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置８３０と、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１及び満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

【００１７】
本体枠４の基板ユニット９００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる基板ユニットベース９１０と、基板ユニットベース９１０の正面視左側で本体枠ベース６００の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ９２１を有したスピーカユニット９２０と、基板ユニットベース９１０の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス９３０と、スピーカユニット９２０の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス９４０と、電源基板ボックス９３０及びインターフェイス制御基板ボックス９４０に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板９５１が収容された払出制御基板ボックス９５０と、を備えている。

【００１８】
パチンコ機１の遊技盤５は、図９及び図１０等に示すように、遊技球が打込まれる遊技領域５ａの外周を区画し球発射装置６８０から発射された遊技球を遊技領域５ａの上部に案内する外レール１００１及び内レール１００２を有した前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられると共に遊技領域５ａの後端を区画する平板状の遊技パネル１１００と、を備えている。

【００１９】
本実施形態のパチンコ機１は、上皿３２１に遊技球を貯留した状態で、遊技者がハンドル３０２を回転操作すると、球発射装置６８０によってハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込まれる。そして、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、入賞口に受入れられると、受入れられた入賞口に応じて、所定数の遊技球が払出装置８３０によって上皿３２１に払出される。この遊技球の払出しによって遊技者の興趣を高めることができるため、上皿３２１内の遊技球を遊技領域５ａ内へ打込ませることができ、遊技者に遊技を楽しませることができる。

【００２０】
［２．外枠の全体構成］
パチンコ機１の外枠２について、図１１乃至図１６を参照して説明する。図１１はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１２は外枠の右側面図である。また、図１３は外枠を前から見た斜視図であり、図１４は外枠を後ろから見た斜視図である。図１５は、外枠を分解して前から見た分解斜視図である。図１６（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解し

て示す分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。

【００２１】

外枠２は、図示するように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。また、外枠２は、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右両端面と、左枠部材３０及び右枠部材４０の左右方向の外側を向いた側面とが、同一面となるように組立てられている。

【００２２】

また、外枠２は、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、外枠側上ヒンジ部材６０の下面に取付けられているロック部材６６と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３を開閉可能に取付けることができる。

【００２３】

また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、幕板部材５０の後側に取付けられていると共に両端が左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々取付けられる幕板補強部材８０と、幕板部材５０の上面における左右中央から左寄りの位置に取付けられている平板状の左滑り部材８１と、幕板部材５０の上面における右端付近の位置に取付けられている平板状の右滑り部材８２と、を備えている。幕板補強部材８０は、中実の部材（例えば、木材、合板、等）によって形成されており、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０に、取付けられている。

【００２４】

更に、外枠２は、上枠部材１０と左枠部材３０、上枠部材１０と右枠部材４０、下枠部材２０と左枠部材３０、及び下枠部材２０と右枠部材４０を、夫々連結している連結部材８５を備えている。また、外枠２は、右枠部材４０の内側（左側面側）に取付けられており後述する施錠ユニット７００の外枠用鉤７０３が係止される上鉤掛部材９０及び下鉤掛部材９１を、備えている。

【００２５】

［２－１．上枠部材］

外枠２の上枠部材１０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この上枠部材１０は、左右両端における前後方向の中央に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部１１を備えている。この係合切欠部１１内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７が取付けられる。また、上枠部材１０は、正面視左側端部の上面と前面に、一般面よりも窪んだ取付段部１２を備えている。この取付段部１２には、外枠側上ヒンジ部材６０が取付けられる。

【００２６】

［２－２．下枠部材］

外枠２の下枠部材２０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この下枠部材２０は、左右の長さ及び上下の厚さが、上枠部材１０の左右の長さ及び上下の厚さと同じ寸法に形成されていると共に、前後の幅が、上枠部材１０の前後の幅よりも長く形成されている。下枠部材２０は、左右両端における前後方向の中央よりも後側寄りの位置に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部２１を備えている。この係合切欠部２１内には、連結部材８５の後述する左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８が取付けられる。

【００２７】
　また、下枠部材２０は、左右両端の前面から後方へ窪んだ前端切欠部２２を備えている。下枠部材２０において、前端切欠部２２の後端から下枠部材２０の後面までの前後方向の幅が、上枠部材１０の前後方向の幅と同じ寸法に形成されている。この下枠部材２０は、外枠２に組立てた状態で、左右の前端切欠部２２同士の間の部位が、幕板部材５０内に挿入される。
【００２８】
［２－３．左枠部材及び右枠部材］
　外枠２の左枠部材３０及び右枠部材４０は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金等の金属の押出形材によって形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、平面視において互いに対称の形状に形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、外枠２として組立てた時に、左右方向の外側となる側面において、前後方向中央に対して後寄りの位置から後端付近までの間に、内側へ窪んだ凹部３１，４１と、凹部３１，４１の反対側の側面から膨出しており内部が空洞に形成されている突出部３２，４２と、を備えている。この左枠部材３０及び右枠部材４０は、突出部３２，４２によって、強度・剛性が高められている。また、突出部３２，４２内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８が挿入されて取付けられる。
【００２９】
　また、左枠部材３０及び右枠部材４０は、表面に上下に延びた複数の溝が形成されている。この複数の溝によって、パチンコ機１を遊技ホール等の島設備に設置したり運搬したりする等の際に、作業者の指掛りとなってパチンコ機１を持ち易くすることができると共に、パチンコ機１の外観の意匠性を高めることとができる。
【００３０】
［２－４．幕板部材］
　外枠２の幕板部材５０は、後側が開放された箱状に形成されている。幕板部材５０は、上面における正面視左端付近に後方へ平板状に延出している後方延出部５１と、後方延出部５１の左端から遊技球が通過可能な大きさでＵ字状に切欠かれており上下に貫通している左排出孔５２と、後方延出部５１における左排出孔５２の右側において遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している右排出孔５３と、後方延出部５１の後端を含む幕板部材５０の上面の後端から上方へ平板状に延出している立壁部５４と、立壁部５４の上端付近から前方へ膨出しており前面が上方へ向かうに従って後方へ向かうように傾斜している返し部５５と、を備えている。
【００３１】
　幕板部材５０は、後方延出部５１の前側の上面と、後方延出部５１の上面とに、外枠側下ヒンジ部材７０が載置されるように、外枠側下ヒンジ部材７０の後述する水平部７１が取付けられる。また、幕板部材５０の左排出孔５２は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０の後述する排出孔７４と一致する位置に形成されている。また、右排出孔５３は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０よりも右側となる位置に形成されている。右排出孔５３は、左排出孔５２よりも大きく形成されている。
【００３２】
　また、幕板部材５０は、後方延出部５１よりも右側の上面が、前端側が低くなるように傾斜している。また、幕板部材５０は、上面における後方延出部５１よりも右側の部位に左滑り部材８１を取付けるための左取付部５６と、上面における右端付近に右滑り部材８２を取付けるための右取付部５７と、を備えている。幕板部材５０は、上面に、左滑り部材８１及び右滑り部材８２を介して本体枠４の下面が載置される。
【００３３】
　この幕板部材５０は、図示するように、前面に浅いレリーフ状の装飾が形成されている。また、幕板部材５０は、図示は省略するが、箱状の内部が複数のリブによって格子状に仕切られており、強度・剛性が高められている。また、幕板部材５０は、幕板補強部材８０の前側半分を、内部に収容可能に形成されている。

【００３４】
［２－５．外枠側上ヒンジ部材］
外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０は、図示するように、水平に延びた平板状で外形が四角形の上固定部６１と、上固定部６１の前端から前方へ延出している平板状の前方延出部６２と、前方延出部６２の右端から前方へ向かうに従って前方延出部６２の左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝６３と、上固定部６１の平面視左辺から下方へ延びている平板状の横固定部６４と、前方延出部６２の左端から前端を周って軸受溝６３が開口している部位までの端辺から下方へ延びており横固定部６４と連続している平板状の垂下部６５と、を備えている（図１６（ｂ）等を参照）。
【００３５】
外枠側上ヒンジ部材６０は、外枠２が組立てられた状態で、上固定部６１が、上枠部材１０の取付段部１２の上面に載置されており、図示しないビスによって固定されている。また、前方延出部６２は、上枠部材１０の前端よりも前方へ延出している。また、横固定部６４は、左枠部材３０の外側側面の凹部３１内に上側から挿入された状態で、ビスによって左枠部材３０に固定されている。
【００３６】
この外枠側上ヒンジ部材６０は、軸受溝６３内に本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入させることで、外枠側下ヒンジ部材７０と協働して本体枠４を開閉可能に支持することができる。この外枠側上ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。
【００３７】
［２－６．ロック部材］
外枠２のロック部材６６は、図１６に示すように、左右が所定幅で前後に延びている帯板状のロック本体６６ａと、ロック本体６６ａの後端から右方へ突出している操作部６６ｂと、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部６６ｃと、ロック本体６６ａの後端付近で上下に貫通している取付孔６６ｄと、を備えている。このロック部材６６は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材６６は、取付ビス６７によって、外枠側上ヒンジ部材６０における前方延出部６２の下面に回動可能に取付けられる。
【００３８】
このロック部材６６は、取付孔６６ｄを通して、ロック本体６６ａの後端が、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２における軸受溝６３よりも後側の位置に取付けられる。また、ロック部材６６を外枠側上ヒンジ部材６０に取付けた状態では、ロック本体６６ａが、平面視で軸受溝６３を遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠側上ヒンジ部材６０の垂下部６５における軸受溝６３の開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている（図１８を参照）。
【００３９】
また、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びている弾性部６６ｃの先端は、外枠側上ヒンジ部材６０における垂下部６５の内周面に当接している。このロック部材６６は、弾性部６６ｃの付勢力によって取付孔６６ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端付近の右側面が、垂下部６５に当接している（図１８を参照）。この状態では、軸受溝６３におけるロック本体６６ａよりも前側の部位に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の後述する本体枠上ヒンジピン６２２を収容可能な空間が形成される。
【００４０】
このロック部材６６は、操作部６６ｂを操作することで、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａを回動させることができる。そして、操作部６６ｂの操作によって、ロック本体６６ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させることができ、軸受溝６３が全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入

したり、軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を外したりすることができる。

【００４１】

［２－７．外枠側下ヒンジ部材］

外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０は、図示するように、水平に延びている平板状の水平部７１と、水平部７１の左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上り部７２と、水平部７１の前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン７３と、水平部７１を上下に貫通しており遊技球が一つのみ通過可能な大きさの排出孔７４と、を備えている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【００４２】

外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン７３は、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン７３は、水平部７１の前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔７４は、水平部７１において、立上り部７２の前後方向中央の部位と接し、水平部７１の左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔７４は、幕板部材５０の左排出孔５２と、略同じ大きさに形成されている。

【００４３】

外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠２が組立てられた状態では、水平部７１が、幕板部材５０の左端付近の上面と後方延出部５１上に載置されており、水平部７１が、幕板部材５０の上面を貫通する図示しないビスによって幕板補強部材８０に固定されている。また、外枠２が組立てられた状態では、立上り部７２が、左枠部材３０の内側側面における突出部３２よりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠下ヒンジピン７３を、本体枠４の本体枠側下ヒンジ部材６４０における本体枠用下ヒンジ孔（図示は省略）に挿通させることで、外枠側上ヒンジ部材６０と協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。

【００４４】

また、外枠２が組立てられた状態では、排出孔７４が、幕板部材５０の左排出孔５２と一致している。これにより、水平部７１上の遊技球を、排出孔７４及び左排出孔５２を通して、幕板部材５０の後側へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球が、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔７４から排出させることができる。この際に、排出孔７４が、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球を、排出孔７４から排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位に遊技球が留まり難くすることができる。

【００４５】

［２－８．連結部材］

外枠２の連結部材８５は、上枠部材１０と左枠部材３０とを連結する左上連結部材８５Ａと、上枠部材１０と右枠部材４０とを連結する右上連結部材８５Ｂと、下枠部材２０と左枠部材３０とを連結する左下連結部材８５Ｃと、下枠部材２０と右枠部材４０とを連結する右下連結部材８５Ｄと、がある。

【００４６】

連結部材８５は、水平に延びた平板状の水平固定部８６と、水平固定部８６の左右側辺の何れか一方から上方へ延出している平板状の上横固定部８７と、水平固定部８６における上横固定部８７が延出している部位と同じ側から下方へ延出している平板状の下横固定部８８と、を備えている。この連結部材８５は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００４７】
左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、水平固定部８６の前後方向の中央から上横固定部８７が上方へ延出していると共に、上横固定部８７の前後両側から下横固定部８８が下方へ延出している。つまり、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、下横固定部８８が前後に離間して二つ備えられている。左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの水平固定部８６は、上枠部材１０の下面に当接した状態で上枠部材１０に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７は、上枠部材１０の係合切欠部２１内に挿入されて、上枠部材１０の左右方向の端部に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの前側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２内に挿入されて外側側面から捩じ込まれるビスにより左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々固定される。

【００４８】
左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端が、水平固定部８６の後端よりも後方へ突出していると共に、上横固定部８７の水平固定部８６よりも後方へ突出している部位の下端から下横固定部８８が水平固定部８６よりも下方へ延出している。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端から水平固定部８６と同じ側へ突出している屈曲部８９を更に備えている。左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの水平固定部８６は、下枠部材２０の上面に当接した状態で固定される。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの上横固定部８７は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８は、下枠部材２０の係合切欠部２１内に挿入されて下枠部材２０の左右方向の端部面に夫々固定される。

【００４９】
［２－９．外枠側上ヒンジ部材のロック機構］
次に、本実施形態のパチンコ機１の外枠２において、外枠側上ヒンジ部材６０におけるロック部材６６による本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０に対するロック機構について、図１７及び図１８を参照して説明する。図１７（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。図１８は、外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。

【００５０】
外枠２におけるロック部材６６は、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２に取付けた状態（通常の状態）では、弾性部６６ｃの先端が垂下部６５の内周面と当接しており、ロック本体６６ａがく字状に屈曲した軸受溝６３の一部を閉塞するようになっていると共に、ロック本体６６ａの先端部分が、軸受溝６３の最深部分を閉塞した状態とはならず、軸受溝６３の最深部分に本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入可能な空間が形成された状態となっている。

【００５１】
本実施形態における外枠側上ヒンジ部材６０とロック部材６６とを用いた本体枠上ヒンジピン６２２の支持機構は、本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の最深部分に挿入されてロック本体６６ａの前端の右側面が、右側の垂下部６５と接近している状態（この状態ではロック本体６６ａの前端の右側面と右側の垂下部６５との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない）である通常の軸支状態においては、屈曲している軸受溝６３の最深部分に位置する本体枠上ヒンジピン６２２とロック本体６６ａの前端面との夫々の中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。

【００５２】
そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠４を軸支している本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の前端部分に当接した状態となっているので、本体枠上ヒ

ンジピン６２２からロック本体６６ａの前端面への負荷がほとんどかかっていない。つまり、ロック部材６６の弾性部６６ｃに対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ロック本体６６ａの前端面が円弧状に形成されているため、ロック部材６６を回動させるために操作部６６ｂを回動操作した時に、ロック部材６６がスムーズに回動するようになっている。また、図示では、ロック本体６６ａの前端面の円弧中心が、取付孔６６ｄの中心（ロック部材６６の回転中心）とされている。

【００５３】

従って、本体枠上ヒンジピン６２２がく字状に形成された軸受溝６３の傾斜に沿って抜ける方向に作用力Ｆがかかって、ロック本体６６ａの円弧状の前端面に当接したとき、その作用力Ｆを、本体枠上ヒンジピン６２２と円弧状の前端面との当接部分に作用する分力Ｆ１（ロック本体６６ａの前端面の円弧の法線方向）と、本体枠上ヒンジピン６２２と軸受溝６３の一側内面との当接部分に作用する分力Ｆ２と、に分けたときに、分力Ｆ１の方向が取付孔６６ｄ（取付ビス６７）の中心（ロック部材６６の回転中心）を向くため、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端が、右側の垂下部６５から離れる方向に回転させるモーメントが働かず、本体枠上ヒンジピン６２２がロック部材６６のロック本体６６ａの前端部と軸受溝６３の一側内面との間に挟持された状態が保持される。

【００５４】

このため、通常の軸支状態、或は、本体枠上ヒンジピン６２２の作用力がロック部材６６にかかった状態でも、ロック部材６６の弾性部６６ｃに常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性部６６ｃのクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って本体枠上ヒンジピン６２２の軸受溝６３からの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材６６のロック本体６６ａの前端部が右方へ移動する方向へ回転させられても、ロック本体６６ａの前端右側面が垂下部６５に当接してそれ以上回転しないので、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ないようになっている。

【００５５】

なお、ロック本体６６ａの前端面の形状は円弧状でなくても、上記した分力Ｆ１の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材６６をその前端部が前方延出部６２の外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材６６の回転中心（取付ビス６７により固定される軸）を位置させることにより、常時ロック部材６６の弾性部６６ｃに対しても負荷がかかることはないし、ロック部材６６が回転してもロック本体６６ａの前端の右側面が垂下部６５に当接するだけであるため、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ることもない。

【００５６】

外枠側上ヒンジ部材６０の軸受溝６３に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を支持させる場合は、軸受溝６３の開放されている側から軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入する。軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入すると、ロック部材６６のロック本体６６ａの右側面に本体枠上ヒンジピン６２２が当接し、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６が取付ビス６７を中心に回動する。これにより、軸受溝６３を閉鎖していたロック本体６６ａが後退して軸受溝６３が開放され、軸受溝６３の最深部（前端）へ本体枠上ヒンジピン６２２を移動させることができるようになる。

【００５７】

そして、軸受溝６３の最深部に本体枠上ヒンジピン６２２を移動させると、本体枠上ヒンジピン６２２とロック部材６６のロック本体６６ａとの当接が解除され、弾性部６６ｃの付勢力によってロック本体６６ａの前端が右方へ移動するようにロック部材６６が回動し、ロック部材６６が通常の状態に復帰する。これにより、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３内におけるロック本体６６ａの前端よりも前側の空間に収容された状態となり、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３の最深部において回動可能な状態で保持（ロック）された状態となる。

【００５８】

軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を取外す場合は、ロック部材６６の操作部６６ｂを操作して、ロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６を回動させ、弾性部６６ｃの付勢力に抗して軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させる。これにより、軸受溝６３の最深部と開口部とが連通した状態となり、軸受溝６３から本体枠上ヒンジピン６２２を取外すことができる。

【００５９】

［２－１０．外枠側下ヒンジ部材の部位における防犯機構と球噛み防止機構］

本実施形態のパチンコ機１における外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０の部位における防犯機構と外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを防止するための球噛み防止機構について説明する。

【００６０】

外枠２は、組立てた状態では、幕板部材５０の上面における正面視左端部に外枠側下ヒンジ部材７０が取付けられている。外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、幕板部材５０の上面の左端付近と後方延出部５１の上面とに載置された状態で取付けられている。この幕板部材５０には、上面の後端から上方へ立上っている立壁部５４を備えている。これにより、外枠側下ヒンジ部材７０と本体枠側下ヒンジ部材６４０との間の隙間を通して、本体枠４（パチンコ機１）の後側へピアノ線等の不正な工具を侵入させようとしても、不正な工具の先端が幕板部材５０の上面の後端から上方へ延出している立壁部５４に当接するため、不正な工具がこれ以上後側へ挿入されるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われるのを防止することができる。

【００６１】

また、立壁部５４の上端に、前方へ延出している返し部５５を備えているため、立壁部５４に当接した不正な工具が上方へ曲がった場合、返し部５５によって不正な工具の先端を更に前方へ折返させることができるため、本体枠４の後側に不正な工具が侵入させられるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われるのを確実に阻止することができる。

【００６２】

ところで、幕板部材５０の上面の後端に上方へ延出している立壁部５４を備えるようにした場合、外枠２に対して本体枠４を開いている状態で、遊技球が外枠側下ヒンジ部材７０（水平部７１）上に落下した場合、水平部７１上の遊技球が、立壁部５４の存在によって水平部７１の後端から後方へ排出されないため、外枠２と本体枠４との間に挟まれてしまう虞がある。これに対して、本実施形態では、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１と、幕板部材５０の後方延出部５１とに、遊技球が通過可能な排出孔７４、左排出孔５２、及び右排出孔５３を備えているため、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１上の遊技球を、排出孔７４等から下方へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを低減させることができる。

【００６３】

従って、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれることで、外枠側下ヒンジ部材７０の周りが破損したり、本体枠４が正常な状態で閉まらずに外枠２と本体枠４との間に隙間ができてしまい、その隙間を使って不正行為が行われてしまったりするのを防止することができる。

【００６４】

［３．扉枠の全体構成］

パチンコ機１の扉枠３について、図１９乃至図３０を参照して説明する。図１９はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図２０は扉枠の右側面図であり、図２１は扉枠の左側面図であり、図２２は扉枠の背面図である。図２３は扉枠を右前から見た斜視図であり、図２４は扉枠を左前から見た斜視図であり、図２５は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２６は図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図であり、図２７は図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図であり、図２８は図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。図２９は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３０は扉枠を

主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００６５】

扉枠３は、図２９及び図３０等に示すように、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられている演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００６６】

扉枠３の扉枠ベースユニット１００は、詳細は後述するが、正面視の外形が上下に延びた長方形（四角形）で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられ開閉可能とされている扉枠３と本体枠４、及び本体枠４と外枠２との間を施錠するための開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ遊技球を球発射装置６８０に送るための球送りユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ球発射装置６８０により発射されて遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球を受けて下皿３２２へ排出させるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００６７】

扉枠３のハンドルユニット３００は、詳細は後述するが、回転可能なハンドル３０２を遊技者が回転操作することで、上皿３２１内に貯留されている遊技球を、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。

【００６８】

扉枠３の皿ユニット３２０は、詳細は後述するが、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面において貫通口１１１の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出していると共に、左右方向中央の前端に演出操作ユニット４００が取付けられる。皿ユニット３２０は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球を貯留する上皿３２１と、上皿３２１の下側に配置されており上皿３２１やファールカバーユニット２７０から供給される遊技球を貯留可能な下皿３２２と、上皿３２１に貯留されている遊技球を下皿３２２へ抜くための上皿球抜きボタン３２７と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残金の範囲内で遊技者に遊技球を貸し出すための球貸ボタン３２８と、球貸機から貸出された遊技球の分を差し引いた現金やプリペイドカードを返却させるための返却ボタン３２９と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数等を表示する球貸返却表示部３３０と、演出提示時に遊技者の操作が受付可能とされている演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２と、下皿３２２内の遊技球を皿ユニット３２０の下方へ排出するための下皿球抜きボタン３３３と、を備えている。

【００６９】

扉枠３の演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。この演出操作ユニット４００は、詳細は後述するが、遊技者が操作可能な大型の操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０内に遊技者側から視認可能に配置され演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。

【００７０】
扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の左外側を装飾するものである。扉枠左サイドユニット５３０は、発光装飾可能な左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）を備えている。
【００７１】
扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の右外側を装飾するものである。この扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく突出しており、左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を備えている。扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させることができる。
【００７２】
扉枠３の扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられ、扉枠３の上部を装飾するものである。扉枠トップユニット５７０は、詳細な内容は後述するが、左右に離間した一対の上部スピーカ５７３と、前面中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、を備えている。扉枠トップユニット５７０は、トップ中装飾部材５７６、トップ左装飾レンズ部材５７９、及びトップ右装飾レンズ部材５８０を発光装飾させることができる。
【００７３】
［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］
扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００７４】
扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４の前面を閉鎖するように本体枠４に対して開閉可能（ヒンジ回転可能）に取付けられるものである。扉枠ベースユニット１００は、前面下隅にハンドルユニット３００が、貫通口１１１の下側前面に演出操作ユニット４００が取付けられる皿ユニット３２０が、貫通口１１１の左外側前面に扉枠左サイドユニット５３０が、貫通口１１１の右外側前面に扉枠右サイドユニット５５０が、貫通口１１１の上外側前面に扉枠トップユニット５７０が、夫々取付けられるものである。
【００７５】
扉枠ベースユニット１００は、図３２及び図３３に等に示すように、正面視の外形が上下に延びた長方形で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており扉枠ベース１１０から前方へ突出して本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０に回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板１６０と、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのガラスユニット取付部材１７０と、を備えている。
【００７６】
また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１１０の前面で正面視右下隅に取付け

られておりハンドルユニット３００を取付けるための筒状のハンドル取付部材１８０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられる開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられる球送りユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００７７】

更に、扉枠ベースユニット１００は、図示は省略するが、扉枠３に備えられている各種の装飾基板、球送ソレノイド２５５、ハンドル回転検知センサ３０７、ハンドルタッチセンサ３１０、単発ボタン操作センサ３１２、球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、球貸返却表示部３３０、演出選択左ボタン３３１、演出選択右ボタン３３２、振動モータ４２４、押圧検知センサ４４０、扉枠側演出表示装置４６０（液晶表示装置４６１）、上部スピーカ５７３、等と、本体枠４における基板ユニット９００の扉枠用中継基板９１１との接続を中継するための扉本体中継基板を備えている。

【００７８】

［３－１ａ．扉枠ベース］

扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１１０は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１１０は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された貫通口１１１を備えている。貫通口１１１は、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１１０の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１１０の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。従って、扉枠ベース１１０は、前後に貫通している貫通口１１１により全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１１０は、合成樹脂により一体成形されている。

【００７９】

扉枠ベース１１０は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面１１２と、ハンドル取付座面１１２と貫通口１１１との間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３が取付けられるシリンダ取付部１１３と、シリンダ取付部１１３において前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通孔１１４と、シリンダ挿通孔１１４及びハンドル取付座面１１２の正面視左側で前後に貫通しており球送りユニット２５０の進入口２５１ａ及び球抜口２５１ｂを前方に臨ませるための球送り開口１１５と、を備えている。

【００８０】

また、扉枠ベース１１０は、扉枠ベース１１０の左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面１１２と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の球放出口２７６を前方に臨ませる下皿用通過口１１６と、扉枠ベース１１０の正面視左端付近で貫通口１１１の下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３を前方に臨ませる上皿用通過口１１７と、貫通口１１１の内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１９０のガラス枠１９１が挿入されるガラスユニット取付部１１８と、扉枠ベース１１０の左右両上隅において前後に貫通しており扉枠トップユニット５７０の上部スピーカ５７３の後端が挿通されるスピーカ挿通口１１９と、を備えている。

【００８１】

［３－１ｂ．補強ユニット］

扉枠ベースユニット１００の補強ユニット１３０について、図３１及び図３３等を参照して詳細に説明する。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後側に取付けられることで扉枠ベース１１０を補強して、扉枠ベース１１０（扉枠３）の強度剛性を高めている。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後面における上辺に沿って取付けられる左

右に延びた上補強板金１３１と、扉枠ベース１１０の後面における貫通口１１１の下側に取付けられる左右に延びた中補強板金１３２と、扉枠ベース１１０の後面における正面視左辺に沿って取付けられる上下に延びた左補強板金１３３と、扉枠ベース１１０の後面における正面視右辺に沿って取付けられる上下に延びた右補強板金１３４と、右補強板金１３４の後面に取付けられており施錠ユニット７００の扉枠用鉤７０２が係止される施錠係止部１３５と、を備えている。

【００８２】

補強ユニット１３０は、上補強板金１３１の左右両端が左補強板金１３３及び右補強板金１３４の夫々の上端にビスによって連結固定されており、中補強板金１３２の左端が左補強板金１３３にビスによって連結固定されている。中補強板金１３２の右端は、後述する開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３を介して右補強板金１３４に連結固定されている。従って、補強ユニット１３０は、上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４等によって、枠状に形成されている。

【００８３】

補強ユニット１３０の上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、右補強板金１３４、及び施錠係止部１３５は、夫々金属板を適宜屈曲させて形成されている。中補強板金１３２は、扉枠ベース１１０の上皿用通過口１１７と対応する位置に、前後に貫通した切欠部１３２ａが形成されている。

【００８４】

補強ユニット１３０は、詳細な図示は省略するが、各上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４において、夫々前後方向に屈曲された部位を有しており、その部位によって、強度剛性が高められていると共に、外部からのピアノ線やマイナスドライバー等の不正な工具の侵入を防止している。

【００８５】

［３－１ｃ．扉枠側上ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠側上ヒンジ部材１４０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠ベース１１０に取付けられ上下に離間している一対の突出片１４１ａを有した扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１と、扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａを貫通しており、上端が本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入される円柱状の扉枠上ヒンジピン１４２と、扉枠上ヒンジピン１４２における一対の突出片１４１ａの間の位置に取付けられている円盤状の鍔部材１４３と、鍔部材１４３と一対の突出片１４１ａのうちの下側の突出片１４１ａとの間に介装されていると共に扉枠上ヒンジピン１４２が挿通されており、扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢しているロックバネ１４４と、を備えている。

【００８６】

扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、図示は省略するが一対の突出片１４１ａの後端同士を連結している平板状の取付片を有しており、側面視の形状が前方へ開放されたコ字状に形成されている。扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、一対の突出片１４１ａ同士を連結している取付片が、ビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。

【００８７】

扉枠上ヒンジピン１４２は、上側の突出片１４１ａよりも上方に突出している部位（上端）が、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して回転可能に挿入される。また、扉枠上ヒンジピン１４２は、図示は省略するが、下側の突出片１４１ａよりも下方に突出している部位が水平方向に屈曲している。この屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、扉枠上ヒンジピン１４２の上方への移動を規制している。

【００８８】

鍔部材１４３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１４２の外周に形成されている溝内に挿入保持されている。ロックバネ１４４は、扉枠上ヒンジピン１４２を挿通可

能なコイルスプリングとされており、上端が鍔部材１４３に当接していると共に、下端が下側の突出片１４１ａに当接している。このロックバネ１４４は、鍔部材１４３と下側の突出片１４１ａとの間に、圧縮された状態で介装されており、鍔部材１４３を介して扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢している。

【００８９】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２がロックバネ１４４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１４２の上端が、上側の突出片１４１ａの上面よりも所定量上方に突出している。

【００９０】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位を作業者が持って、ロックバネ１４４の付勢力に抗してその部位を下方へ引っ張ると、扉枠上ヒンジピン１４２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、上側の突出片１４１ａの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【００９１】

また、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａにより支持されている部位が、後述する扉枠側下ヒンジ部材１５０の扉枠下ヒンジピン１５２と同軸上に支持されている。これにより、扉枠側上ヒンジ部材１４０と扉枠側下ヒンジ部材１５０とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【００９２】

［３－１ｄ．扉枠側下ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠側下ヒンジ部材１５０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠ベース１１０に取付けられ前方に延出している平板状の延出片１５１ａを有している扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１と、扉枠下ヒンジ軸ブラケットにおける延出片１５１ａの前端部付近から下方に突出している円柱状の扉枠下ヒンジピン１５２（図２１及び図２２を参照）と、を備えている。

【００９３】

扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、水平に延びた平板状の延出片１５１ａの後端から上方に延出した平板状の取付片（図示は省略）を有しており、側面視の全体形状が略Ｌ字状に形成されている。この扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、図示しない取付片がビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。

【００９４】

扉枠下ヒンジピン１５２は、下端部が、下方へ向かうほど窄まる円錐台状に形成されている。この扉枠下ヒンジピン１５２は、後述する本体枠４における本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に、上方から回転可能に挿入される。扉枠下ヒンジピン１５２は、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２と同軸上に配置されている。

【００９５】

この扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠下ヒンジピン１５２が本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に挿入されることで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【００９６】
［３－１ｅ．扉枠左サイド装飾基板］
扉枠ベースユニット１００の扉枠左サイド装飾基板１６０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０の前面において、貫通口１１１の正面視左側に取付けられている。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０における正面視左側のスピーカ挿通口１１９よりも下側の位置の高さから貫通口１１１の上下方向の中央付近の高さまで上下に延びている扉枠左サイド上装飾基板１６１と、扉枠左サイド上装飾基板１６１の下側の位置の高さから上皿用通過口１１７の下端と略同じ高さまで上下に延びている扉枠左サイド下装飾基板１６２と、を備えている。
【００９７】
扉枠左サイド装飾基板１６０の扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２は、夫々前面に、前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを備えている。これらＬＥＤ１６１ａ，１６２ａは、フルカラーＬＥＤとされている。
【００９８】
扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠３を組立てた状態で、後述する扉枠左サイドユニット５３０の後方に位置しており、前面に備えられた（実装された）複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを適宜発光させることで、扉枠左サイドユニット５３０の左ユニット装飾レンズ部材を発光装飾させることができる。
【００９９】
［３－１ｆ．ガラスユニット取付部材］
扉枠ベースユニット１００のガラスユニット取付部材１７０について、主に図３１（ｂ）等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのものである。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１と、基部１７１から回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部１７２と、を有している。
【０１００】
ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後面における一対のスピーカ挿通口１１９の下側で、ガラスユニット取付部１１８よりも外側の部位に、夫々回転可能に取付けられている。
【０１０１】
ガラスユニット取付部材１７０は、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させた状態とすることで、背面視において扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８よりも突出部１７２が外側に位置した状態となり、扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に対してガラスユニット１９０を挿入したり、ガラスユニット取付部１１８からガラスユニット１９０を取外したりすることができる。
【０１０２】
ガラスユニット取付部材１７０は、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に挿入させた状態で、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出するように回転させると、突出部１７２がガラスユニット１９０の取付片１９１ａの後側と当接し、ガラスユニット１９０上部の後方への移動を規制した状態となり、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０に取付けることができる。
【０１０３】
ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０に回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１から突出部１７２が突出しているため、ガラスユニット取付部材１７０の重心位置が突出部１７２内に位置している。このことから、ガラスユニット取付部材１７０が自由に回転できる状態では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出した状態で安定することとなる。そして、ガラスユニット取付部材１７０では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出している回転位置の時に、突出部１７２によりガラスユニット１９０の

後方への移動を規制させるようにしているため、ガラスユニット取付部材１７０に振動等が作用しても、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように全体が回転することはなく、ガラスユニット１９０の後方への移動の規制が自然に解除されることはない。

【０１０４】

なお、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外す場合は、ガラスユニット取付部材１７０を、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させて、突出部１７２をガラスユニット１９０の取付片１９１ａよりも外側へ移動させることで、ガラスユニット１９０の上部側を後方へ移動させることができるようになり、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外すことができる。

【０１０５】

［３－１ｇ．ハンドル取付部材］

扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材１８０は、扉枠ベース１１０の前面にハンドルユニット３００を取付けるためのものである。ハンドル取付部材１８０は、図３２及び図３３等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部１８１と、筒部１８１の後端から筒部１８１の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部１８２と、筒部１８１内に突出していると共に筒部１８１の軸方向全長に亘って延びており筒部１８１の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条１８３と、筒部１８１の外周面とフランジ部１８２の前面とを繋ぎ、筒部１８１の周方向に対して複数配置された補強リブ１８４と、を備えている。

【０１０６】

ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面を、扉枠ベース１１０におけるハンドル取付座面１１２の前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面１１２に取付けられる。

【０１０７】

筒部１８１は、内径がハンドルユニット３００におけるハンドルベース３０１の基部３０１ａの外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条１８３は、一つが筒部１８１内の上側に備えられており、残り二つが筒部１８１内の下側に備えられている。これら三つの突条１８３は、ハンドルベース３０１における三つの溝部３０１ｃと対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材１８０は、三つの突条１８３と、ハンドルベース３０１の三つの溝部３０１ｃとを一致させた状態でのみ、筒部１８１内にハンドルベース３０１の基部３０１ａを挿入させることができ、扉枠ベース１１０に対してハンドルベース３０１（ハンドルユニット３００）の回転位置を規制することができる。

【０１０８】

なお、ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面に対して、筒部１８１の軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース１１０の傾斜したハンドル取付座面１１２に取付けることで、筒部１８１の軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット３００を同様に傾いた状態で扉枠ベース１１０に取付けることができる。

【０１０９】

［３－１ｈ．ガラスユニット］

扉枠ベースユニット１００のガラスユニット１９０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１を、前方から後方が視認できるように閉鎖するものである。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１１８に取付可能な枠状のガラス枠１９１と、ガラス枠１９１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１９１に取付けられている透明な二つのガラス板１９２と、を備えている。二つのガラス板１９２は、ガラス枠１９１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図２６等を参照）。

【０１１０】

ガラス枠１９１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している

一対の取付片１９１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１９１ｂと、を有している。ガラス枠１９１の取付片１９１ａは、ガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２と当接可能とされている。係止片１９１ｂは、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の空間内に挿入可能とされている（図２６を参照）。

【０１１１】

このガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の後側から、ガラス枠１９１の係止片１９１ｂを、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１９１の前端を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８の後面に当接させ、ガラスユニット取付部材１７０を回転させてガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２をガラス枠１９１の取付片１９１ａの後面と当接させることで、扉枠ベース１１０に取付けられる。

【０１１２】

ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０に対して着脱可能となっている。

【０１１３】

［３－１ｉ．防犯カバー］

扉枠ベースユニット１００の防犯カバー２００について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。防犯カバー２００は、ガラスユニット１９０の後面下部を覆うように扉枠ベース１１０の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー２００は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部２０１と、本体部２０１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片２０２と、左右に離間して配置され本体部２０１よりも前方に突出し、扉枠ベース１１０の後側に係止可能とされている一対の係止片２０３と、を備えている。

【０１１４】

防犯カバー２００の本体部２０１は、扉枠ベース１１０に取付けた状態で下端がガラスユニット１９０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部２０１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部２０１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

【０１１５】

後方突片２０２は、本体部２０１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー２００は、本体部２０１と後方突片２０２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片２０２は、図３３に示すように、本体部２０１の外周縁とは異なる本体部２０１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部２０１の後面の一部から後方に突出している後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０１１６】

なお、後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球（球発射装置６８０により発射された遊技球）が、防犯カバー２００の後方突片２０２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球の打込みを阻害することはない。

【０１１７】

一対の係止片２０３は、扉枠ベース１１０の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー２００は、扉枠ベース１１０に対して容易に着脱することができる。

【０１１８】
防犯カバー２００は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部２０１の前面がガラスユニット１９０の後面（ガラス枠１９１の後端）と当接し、本体部２０１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片２０２が、後述する前構成部材１０００の防犯凹部１００８内に挿入された状態となる。また、防犯カバー２００は、本体部２０１の下辺から後方に突出している後方突片２０２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。
【０１１９】
［３－１ｊ．開閉シリンダユニット］
扉枠ベースユニット１００の開閉シリンダユニット２１０について、主に図３１乃至図３３等を参照して説明する。開閉シリンダユニット２１０は、正面視において扉枠ベース１１０の右端付近で貫通口１１１とハンドル取付座面１１２との間の位置のシリンダ取付部１１３に後側から取付けられ、後述する施錠ユニット７００と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉に使用されるものである。
【０１２０】
開閉シリンダユニット２１０は、前面に鍵穴２１１ａを有し前後に延びた円筒状のシリンダ錠２１１と、シリンダ錠２１１の後端に取付けられており鍵穴２１１ａに挿入された鍵の回動操作を施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させる回転伝達部材２１２と、シリンダ錠２１１を扉枠ベース１１０（補強ユニット１３０）に取付けるシリンダ取付板金２１３と、を備えている。
【０１２１】
シリンダ錠２１１は、対応する鍵（図示は省略）を鍵穴２１１ａに差し込むことで、鍵を回転させることができるものであり、対応する鍵であれば、正面視において時計回り及び反時計回りの何れの方向へも所定角度回転させることができる。
【０１２２】
回転伝達部材２１２は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部２１２ａを有している。この回転伝達部材２１２は、本体枠４における施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０が後方から挿入されるように形成されており、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０の突起が一対の切欠部２１２ａ内に挿入されることで、回転伝達部材２１２（シリンダ錠２１１の鍵穴２１１ａに挿入された鍵）の回転を、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させて鍵シリンダ７１０を回転させることができる。
【０１２３】
シリンダ取付板金２１３は、一枚の金属板を屈曲させて形成されており、平面視の形状が前方へ突出している凸形状に形成されている。詳述すると、シリンダ取付板金２１３は、正面視において上下に延びた長方形で平板状の前板部２１３ａと、前板部２１３ａの左右両辺から後方へ平板状に延出している一対の側板部２１３ｂと、一対の側板部２１３ｂの夫々の後辺から互いに遠ざかる方向へ平板状に延出している一対の取付板部２１３ｃと、を備えている。シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａは、上下方向略中央の位置で後方からシリンダ錠２１１が貫通し、前板部２１３ａの後面にシリンダ錠２１１の後端が取付けられる。シリンダ取付板金２１３の一対の取付板部２１３ｃは、正面視左側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の中補強板金１３２の右端部に取付けられ、正面視右側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の右補強板金１３４に取付けられる。これにより、シリンダ取付板金２１３によって、補強ユニット１３０の中補強板金１３２と右補

強板金１３４とが連結される。
【０１２４】
開閉シリンダユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａから前方に突出しているシリンダ錠２１１の前端が、扉枠ベース１１０の後側からシリンダ挿通孔１１４に挿通されて扉枠ベース１１０の前方へ突出していると共に、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａ及び一対の側板部２１３ｂが後方へ開放されている箱状のシリンダ取付部１１３内に収容されている。
【０１２５】
［３－１ｋ．球送りユニット］
扉枠ベースユニット１００の球送りユニット２５０について、主に図３４及び図３５を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は扉枠ベースユニットの球送りユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送りユニットを後ろから見た斜視図である。図３５（ａ）は球送りユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送りユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送りユニット２５０は、皿ユニット３２０の上皿３２１から供給される遊技球を一つずつ球発射装置６８０へ供給することができると共に、上皿３２１内に貯留された遊技球を、上皿球抜きボタン３２７の操作によって下皿へ抜くことができるものである。
【０１２６】
球送りユニット２５０は、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球が、皿ユニットベース３２３の上皿球送り口３２３ｄ及び扉枠ベース１１０の球送り開口１１５を通して供給され前後方向に貫通した進入口２５１ａ、及び進入口２５１ａの下側に開口する球抜口２５１ｂを有し後方が開放された箱状の前カバー２５１と、前カバー２５１の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー２５１の進入口２５１ａから進入した遊技球を球発射装置６８０へ供給するための打球供給口２５２ａを有した後カバー２５２と、後カバー２５２及び前カバー２５１の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー２５１の後側で進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切る仕切部２５３ａを有した球抜き部材２５３と、球抜き部材２５３の仕切部２５３ａ上の遊技球を一つずつ後カバー２５２の打球供給口２５２ａへ送り、前カバー２５１と後カバー２５２との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送り部材２５４と、球送り部材２５４を回動させる球送ソレノイド２５５と、を備えている。
【０１２７】
この球送りユニット２５０は、図示するように、正面視で、球送り部材２５４が進入口２５１ａの右側に配置されており、球送り部材２５４の左側に球抜き部材２５３が、球送り部材２５４の右側に球送ソレノイド２５５が夫々配置されている。
【０１２８】
球送りユニット２５０の前カバー２５１は、正面視で球抜口２５１ｂの左側に、球抜き部材２５３の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット２５１ｃを備えており、このスリット２５１ｃから後述する球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃが前方へ延びだすようになっている。また、前カバー２５１は、進入口２５１ａの上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠３を組立てた際に、皿ユニットベース３２３の球送り誘導路３２３ｅ及び球抜き誘導路３２３ｆの上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。
【０１２９】
球抜き部材２５３は、進入口２５１ａよりも下側で進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切り上面が球送り部材２５４の方向へ向かって低くなる仕切部２５３ａと、仕切部２５３ａの球送り部材２５４とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口２５１ｂの下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部２５３ｂと、回動棹部２５３ｂの上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹２５３ｃと、作動棹２５３ｃよりも下側で回動棹部２５３ｂの側面から仕切部２５３ａとは反対側へ突出した錘部２５３ｄと、を備えている。球抜

き部材２５３の作動棹２５３ｃは、前カバー２５１に形成された円弧状のスリット２５１ｃを通して前方へ突出するように形成されている（図３４（ａ）を参照）。作動棹２５３ｃは、扉枠ベース１１０の球送り開口１１５を介して皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によって動作する作動伝達部３２７ａの上端と当接する。

【０１３０】

球送り部材２５４は、進入口２５１ａ及び球抜き部材２５３の仕切部２５３ａの方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部２５４ａと、遮断部２５４ａの後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部２５４ｂと、球保持部２５４ｂの後端から下方へ延出する棒状の棹部２５４ｃと、を備えている。球送り部材２５４における遮断部２５４ａと球保持部２５４ｂは、夫々回転軸芯を中心とした約１８０°の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送り部材２５４の球保持部２５４ｂは、一つの遊技球を保持可能な大きさとされている。球送り部材２５４は、球送ソレノイド２５５の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部２５４ｃが左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【０１３１】

この球送り部材２５４は、遮断部２５４ａが仕切部２５３ａの方向を向くと同時に球保持部２５４ｂが打球供給口２５２ａと連通した方向を向いた供給位置と、球保持部２５４ｂが仕切部２５３ａの方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送り部材２５４が供給位置の時には、球保持部２５４ｂに保持された遊技球が、打球供給口２５２ａから球発射装置６８０へ供給されると共に、進入口２５１ａから仕切部２５３ａ上に進入した遊技球が、遮断部２５４ａによって球保持部２５４ｂ（打球供給口２５２ａ）側への移動が遮断されて仕切部２５３ａ上に留まった状態となる。一方、球送り部材２５４が保持位置へ回動すると、球保持部２５４ｂが仕切部２５３ａの方向を向くと共に、球保持部２５４ｂの棹部２５４ｃ側の端部が打球供給口２５２ａを閉鎖した状態となり、仕切部２５３ａ上の遊技球が一つだけ球保持部２５４ｂ内に保持される。

【０１３２】

また、球送りユニット２５０は、球送ソレノイド２５５の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送り作動桿２５６と、球送り作動桿２５６における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送り部材２５４を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送りクランク２５７と、を備えている。球送りクランク２５７は、球送り作動桿２５６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部２５７ａと、係合部２５７ａの球送り作動桿２５６と係合する側とは反対側に配置され前カバー２５１と後カバー２５２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部２５７ｂと、軸部２５７ｂから上方へ延出しており、球送り部材２５４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部２５４ｃ（図３５（ｂ）を参照）と係合する伝達部２５７ｃと、を備えている。

【０１３３】

この球送りユニット２５０は、球送り作動桿２５６及び球送りクランク２５７によって、上下方向へ進退する球送ソレノイド２５５の駆動により揺動する球送り作動桿２５６の動きを伝達させて球送り部材２５４を回動させることができる。なお、球送ソレノイド２５５の非駆動時（通常時）では、球送り作動桿２５６が球送ソレノイド２５５の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送り部材２５４が供給位置に位置した状態となる。また、球送ソレノイド２５５の駆動時では、球送り作動桿２５６が球送ソレノイド２５５の下端に吸引されて先端が上方へ位置した状態となり、球送り部材２５４が保持位置へ回動する。つまり、球送ソレノイド２５５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送り部材２５４が遊技球を一つ受入れ、球送ソレノイド２５５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送り部材２５４が受入れた遊技球を球発射装置６８０側へ送る（供給する）ことができる。この球送りユニット２５０における球送ソレノイド２５５の駆動は、払出制御基板９５１の発射制御部（図示は省略）により発射ソレノイド６８２の駆動制御と同期して制御される。

【０１３４】
また、球送りユニット２５０における回動可能に軸支された球抜き部材２５３は、錘部２５３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっているが、前方へ突出した作動棹２５３ｃが皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によって動作する作動伝達部３２７ａの上端と当接することで、その回動が規制されるため、通常時では、球抜き部材２５３の仕切部２５３ａが進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切っており、球抜口２５１ｂ側へ遊技球が侵入することはない。
【０１３５】
そして、遊技者が、皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７を下方へ押圧操作すると、上皿球抜きスライダ３２７ｂが作動伝達部３２７ａと共に下方へスライドして、作動伝達部３２７ａの下方への移動に伴って作動棹２５３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部３２７ａと共に作動棹２５３ｃが下方へ移動すると、球抜き部材２５３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部２５３ａによる進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間の仕切りが解除される。これにより、進入口２５１ａから進入した遊技球が、球抜口２５１ｂから皿ユニット３２０の球抜き誘導路３２３ｆへと排出され、下皿球供給口３２３ｃを介して下皿３２２へ排出（供給）させることができる。
【０１３６】
なお、球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃが当接する作動伝達部３２７ａが形成されている上皿球抜きスライダ３２７ｂは、上皿球抜きバネ３２７ｃによって上方へ付勢されているので、仕切部２５３ａ上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹２５３ｃを介して上皿球抜きバネ３２７ｃによって吸収させることができ、球抜き部材２５３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球が仕切部２５３ａで跳ね返るのを防止することができる。
【０１３７】
また、球送りユニット２５０は、後カバー２５２における打球供給口２５２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部２５２ｂ（図３５（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部２５２ｂ内に不正防止部材２６０が取付けられている。球送りユニット２５０の不正防止部材２６０は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。
【０１３８】
不正防止部材２６０は、正面視の外形が左右に延びた長方形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部２６１及び下片部２６２と、上片部２６１及び下片部２６２の互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部２６３と、を備えている。不正防止部材２６０の上片部２６１は、不正防止部材２６０の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部２６２は、不正防止部材２６０の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部２６１と下片部２６２とによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。
【０１３９】
不正防止部材２６０は、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂに取付けられることで、上片部２６１と下片部２６２とで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口２５２ａ内と連通した状態となる。
【０１４０】
この不正防止部材２６０によれば、紐を取付けた不正な遊技球を、上皿３２１から球送りユニット２５０を介して球発射装置６８０により遊技領域５ａ内に打込み、不正な遊技球に取付けられた紐を操作して、不正な遊技球を第一始動口２００２等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置６８０により発射（打球）された不正な遊技球の勢いによって、不正な遊技球に取付けられた紐を、上片部２６１と下片部２６２との間に挿入させた上で、上片部２６１と下片部２６２とによって形成されたＶ字状の狭くな

った部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球を用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【０１４１】

［３－１１．ファールカバーユニット］

扉枠ベースユニット１００のファールカバーユニット２７０について、図３６乃至図３８を参照して詳細に説明する。図３６（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図３７（ａ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。更に、図３８は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。

【０１４２】

ファールカバーユニット２７０は、図示するように、扉枠ベース１１０の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体２７１と、ユニット本体２７１の前面に取付けられている平板状の蓋部材２７２と、を備えている。ファールカバーユニット２７０は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１と皿ユニット３２０の上皿球供給口３２３ａとを連通させる貫通球通路２７３と、貫通球通路２７３の正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２と連通可能な満タン球受口２７４と、を備えている。

【０１４３】

また、ファールカバーユニット２７０は、満タン球受口２７４の正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠４の球発射装置６８０により発射されにも関わらず遊技領域５ａ内へ到達しなかった遊技球（ファール球）を受けるファール球受口２７５と、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口２７４及びファール球受口２７５に受入れられた遊技球を前方へ放出すると共に皿ユニット３２０の下皿球供給口３２３ｃと連通する球放出口２７６と、を備えている。

【０１４４】

更に、ファールカバーユニット２７０は、ユニット本体２７１及び蓋部材２７２によって、満タン球受口２７４及びファール球受口２７５と球放出口２７６との間に形成されており所定量の遊技球を貯留可能な広さを有している貯留通路２７７と、貯留通路２７７の内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体２７１に取付けられている平板状の可動片２７８と、可動片２７８の貯留通路２７７から遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ２７９と、可動片２７８を貯留通路２７７の中心側へ付勢しているバネ２８０と、を備えている。

【０１４５】

このファールカバーユニット２７０は、皿ユニット３２０の下皿３２２内が遊技球で一杯になって、球放出口２７６から遊技球が下皿３２２側へ放出されなくなると、貯留通路２７７内にある程度の数の遊技球を貯留することができる。そして、貯留通路２７７内にある程度の数の遊技球が貯留されると、遊技球の重さによって可動片２７８の上端がバネ２８０の付勢力に抗して貯留通路２７７から遠ざかる方向へ移動するように可動片２７８が回動し、その回動が満タン検知センサ２７９によって検知される。これにより、下皿３２２が遊技球で満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ２７９により満タンが検知されると、これ以上の遊技球の払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿３２２の満タンを解消させるように促すことができる。

【０１４６】

また、ファールカバーユニット２７０は、ユニット本体２７１の後側で貫通球通路２７３の下側に取付けられており、本体枠４の後述する払出ユニット８００における下部満タン球経路ユニット８６０の誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接可能な扉開閉当

接部２８１を備えている（図１１２を参照）。扉開閉当接部２８１は、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部２８１は、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接するように形成されている。この扉開閉当接部２８１に誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接することで、誘導路開閉扉８６３が回動して通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の下流端（前側開口）を開放させることができる。

【０１４７】

［３－２．ハンドルユニット］

扉枠３のハンドルユニット３００について、主に図３９及び図４０を参照して詳細に説明する。図３９（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、（ｂ）はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４０（ａ）はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。ハンドルユニット３００は、扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿３２１内の遊技球を遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。

【０１４８】

ハンドルユニット３００は、扉枠ベースユニット１００におけるハンドル取付部材１８０の筒部１８１に取付けられるハンドルベース３０１と、ハンドルベース３０１の前端に回転可能に取付けられるハンドル３０２と、ハンドル３０２の前端側を覆うようにハンドルベース３０１に取付けられるハンドルカバー３０３と、を備えている。

【０１４９】

また、ハンドルユニット３００は、ハンドル３０２の後側でハンドルベース３０１の前面に取付けられるインナーベース３０４と、前端にハンドル３０２が取付けられると共にインナーベース３０４とハンドルベース３０１とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部３０５ａを有している軸部材３０５と、軸部材３０５の駆動ギア部３０５ａと噛合している伝達ギア３０６と、伝達ギア３０６と一体回転する検知軸３０７ａを有しハンドルベース３０１とインナーベースとの間に挟持されているハンドル回転検知センサ３０７と、を備えている。

【０１５０】

更に、ハンドルユニット３００は、一端側がハンドルベース３０１に取付けられると共に他端側がハンドル３０２に取付けられハンドル３０２を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ３０８と、一端側がインナーベース３０４に取付けられると共に他端側が伝達ギア３０６に取付けられ伝達ギア３０６を介してハンドル回転検知センサ３０７の検知軸３０７ａを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ３０９と、インナーベース３０４の後方でハンドルベース３０１に取付けられているハンドルタッチセンサ３１０と、先端側がハンドルベース３０１の前端外周面の正面視おける左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース３０４の後方でハンドルベース３０１に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン３１１と、単発ボタン３１１の押圧操作を検知しハンドルベース３０１に取付けられている単発ボタン操作センサ３１２と、を備えている。

【０１５１】

ハンドルユニット３００のハンドルベース３０１は、前後に延びた円筒状の基部３０１ａと、基部３０１ａの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部３０１ｂと、円筒状の基部３０１ａの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部３０１ｃと、を備えている。ハンドルベース３０１の基部３０１ａは、外径がハンドル取付部材１８０の筒部１８１の内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部３０１ｃは、ハンドル取付部材１８０における筒部１８１の三つの突条１８３と対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部３０１ｃを三つの突条１８３と一致させた状態で、基部３０１ａをハンドル取付部材１８０の筒部１８１内に挿

入させることができると共に、三つの溝部３０１ｃ内に夫々突条１８３が挿入されることで、ハンドルベース３０１がハンドル取付部材１８０に対して相対回転不能な状態となる。

【０１５２】

ハンドル３０２は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起３０２ａ、第二突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄと、回転軸（軸部材３０５）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット３０２ｅと、スリット３０２ｅよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ３０８の他端側が係止される係止突部３０２ｆと、を備えている。

【０１５３】

四つの第一突起３０２ａ、第二突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄは、正面視において時計回りの方向に順番に備えられている。詳述すると、第一突起３０２ａは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでいる（抉れている）。第二突起３０２ｂは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第一突起３０２ａの最も突出した部位から時計回りの方向へ約８５度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａよりはやや低く突出している。この第二突起３０２ｂは、最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでおり、第一突起３０２ａと相似した形状に形成されている。

【０１５４】

第三突起３０２ｃは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第二突起３０２ｂの最も突出した部位から時計回りの方向へ約７０度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａの約半分の高さで突出している。この第三突起３０２ｃは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、時計回りの方向の側面が反対側である反時計回りの方向の側面よりもなだらかに傾斜している。第四突起３０２ｄは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第三突起３０２ｃの最も突出した部位から時計回りの方向へ約５５度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａよりもやや高く突出している。この第四突起３０２ｄは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、略二等辺三角形に形成されている。

【０１５５】

ハンドルカバー３０３は、前面の中心が丸く前方へ膨出しており、後方へ突出している三つの取付ボス３０３ａを備えている。三つの取付ボス３０３ａは、ハンドル３０２のスリット３０２ｅを前方から貫通してハンドルベース３０１の前面に取付けられる。ハンドルカバー３０３の取付ボス３０３ａが、ハンドル３０２のスリット３０２ｅを貫通していることから、取付ボス３０３ａがスリット３０２ｅの周方向端部に当接することとなり、ハンドル３０２の回転角度を規制している。本例では、ハンドル３０２を、約１２０度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

【０１５６】

このハンドルユニット３００は、扉枠ベース１１０のハンドル取付座面１１２に対して、ハンドル取付部材１８０を介して取付けられる。この扉枠ベース１１０のハンドル取付座面１１２は、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドル取付部材１８０を介して取付けられるハンドルユニット３００も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機１の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機１の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠３に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット３００のハンドル３０２が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【０１５７】

ハンドルユニット３００のハンドル回転検知センサ３０７は、可変抵抗器とされており、ハンドル３０２を回転させると、軸部材３０５及び伝達ギア３０６を介してハンドル回

転検知センサ３０７の検知軸３０７ａが回転する。この検知軸３０７ａの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ３０７の内部抵抗が変化し、ハンドル回転検知センサ３０７の内部抵抗に応じて後述する球発射装置６８０における発射ソレノイド６８２の駆動力が変化して、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技領域５ａ内へ打込まれる。

【０１５８】

ハンドル３０２やハンドルカバー３０３の外周表面は、導電性のメッキが施されており、遊技者がハンドル３０２等に接触することでハンドルタッチセンサ３１０が接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ３１０が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル３０２を回動させると、ハンドル回転検知センサ３０７の検知が受付けられ、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド６８２の駆動が制御されて、遊技球を打込むことができる。つまり、遊技者がハンドル３０２に触れずに、何らかの方法でハンドル３０２を回転させて遊技球を遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射ソレノイド６８２は駆動されず、遊技球を打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル３０２を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機１を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。

【０１５９】

また、ハンドルユニット３００は、遊技者がハンドル３０２を回転操作中に、単発ボタン３１１を押圧すると、単発ボタン操作センサ３１２が単発ボタン３１１の操作を検知し、払出制御基板９５１の発射制御部（図示は省略）によって発射ソレノイド６８２の回転駆動が停止させられる。これにより、ハンドル３０２の回転操作を戻さなくても、遊技球の発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン３１１の押圧操作を解除することで、単発ボタン３１１を操作する前の打込み強さで再び遊技球を遊技領域５ａ内に打込むことができる。

【０１６０】

更に、ハンドルユニット３００は、ハンドル３０２に、四つの第一突起３０２ａ、第二突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄを備えており、ハンドル３０２を正面視時計回りの方向へ最も回転させて、遊技球を最も強く遊技領域５ａ内に打込むようにした（所謂、「右打ち」した）時に、第四突起３０２ｄが、ハンドル３０２を回転させていない時の第一突起３０２ａの位置と、略同じ位置となるため、第四突起３０２ｄを第一突起３０２ａとしてハンドル３０２を持ち替えることで、遊技者が楽な状態で「右打ち」の位置でハンドル３０２を維持させることができ、遊技者の疲労感を軽減させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０１６１】

［３－３．皿ユニットの全体構成］

扉枠３における皿ユニット３２０について、主に図４１乃至図４５を参照して詳細に説明する。図４１（ａ）は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左前から見た斜視図である。また、図４２（ａ）は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。図４３は皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図４４は皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図４５は、図２８の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。皿ユニット３２０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面において貫通口１１１の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出している。皿ユニット３２０の前面には、後述する演出操作ユニット４００が取付けられる。

【０１６２】

皿ユニット３２０は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球を貯留する上皿３２１と、上皿３２１の下側に配置されており上皿３２１やファールカバーユニット２７０から供給される遊技球を貯留可能な下皿３２２と、を備えている。

【０１６３】
皿ユニット３２０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０に取付けられる平板状の皿ユニットベース３２３と、皿ユニットベース３２３の前面上部に取付けられると共に左右中央より左側が前方へ大きく膨出しており上皿３２１を形成している上皿本体３２４と、皿ユニットベース３２３の前面下部で左右中央よりも左側に取付けられると共に前方へ大きく膨出しており下皿３２２を形成している下皿本体３２５と、上皿本体３２４及び下皿本体３２５の前側を覆うように皿ユニットベース３２３の前面に取付けられている皿ユニットカバー３２６と、を備えている。
【０１６４】
また、皿ユニット３２０は、皿ユニットカバー３２６の上面における上皿３２１の正面視右方で上方から押圧操作可能に取付けられている上皿球抜きボタン３２７と、上皿球抜きボタン３２７の正面視右方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている球貸ボタン３２８と、球貸ボタン３２８の正面視右方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている返却ボタン３２９と、球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９の後方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている球貸返却表示部３３０と、上皿３２１の前方で皿ユニットカバー３２６の前面における皿前上装飾部３２６ｂに取付けられている演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２と、下皿３２２の前方で皿ユニットカバー３２６の前面から前方に突出しており前方から押圧操作可能に取付けられている下皿球抜きボタン３３３と、を備えている。
【０１６５】
［３－３ａ．上皿］
皿ユニット３２０の上皿３２１について、主に図４１及び図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニット３２０の上皿３２１は、皿ユニットベース３２３と上皿本体３２４とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿３２１（上皿本体３２４）は、扉枠３の左右方向の幅に対して左端から右方へ約１／３の部位が最も前方に膨出している。上皿３２１は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球の外径よりも若干大きい誘導通路部３２１ａが形成されている。上皿３２１は、誘導通路部３２１ａを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部３２１ａの正面視右端側が、皿ユニットカバー３２６の上面（上皿球抜きボタン３２７）の下方へ潜り込んでいる（図４４を参照）。
【０１６６】
上皿３２１は、皿ユニットベース３２３に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース３２３の上皿球供給口３２３ａよりも下側の位置から上皿球送り口３２３ｄの上端に対して遊技球の外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口３２３ａから前方へ放出された遊技球が、上皿３２１内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球を誘導通路部３２１ａの右端側から上皿球送り口３２３ｄへ供給させることができる。
【０１６７】
上皿３２１は、上述したように、前後方向の奥行が狭くなる誘導通路部３２１ａにおいて、その底面が下方へ向かって低くなるように形成されている。つまり、上皿３２１の一部が、後述する演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が取付けられる皿ユニットカバー３２６の取付空間３２６ｊ内へ、上方から突出している。従って、上皿３２１において、遊技球の貯留量を十分に確保することができるようになっている。なお、上皿３２１（上皿本体３２４）は、皿ユニットカバー３２６の取付空間３２６ｊ内へ、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）と接触しないように突出している。
【０１６８】
なお、誘導通路部３２１ａには、パチンコ機１において電気的に接地（アース）されている金属製のアース金具３２１ｂが備えられており、遊技球が接触（転動）することで、

遊技球に帯電した静電気を除去させることができる。

【０１６９】

［３－３ｂ．下皿］

皿ユニット３２０の下皿３２２について、主に図４１乃至図４５等を参照して詳細に説明する。下皿３２２は、上皿３２１の下方で、正面視おいて皿ユニット３２０（扉枠３）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿３２２は、遊技球を貯留可能な容器状に形成されており、底壁部３２５ａに上下に貫通し遊技球を排出可能とされた下皿球抜き孔３２２ａと、皿ユニットカバー３２６に取付けられた演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）との接触を回避させるための逃し部３２２ｂと、を備えている。下皿３２２の逃し部３２２ｂは、右前隅が、後方へ向かって円弧状に窪むように形成されている。

【０１７０】

下皿３２２は、上方及び後方が開放されている下皿本体３２５と、下皿本体３２５の左端側から上方を覆っている皿ユニットカバー３２６の下皿カバー部３２６ｋと、下皿本体３２５の開放されている後方を閉鎖している皿ユニットベース３２３と、下皿本体３２５における演出操作ユニット取付部３２６ａ内に突出している部位の上側を覆う下皿カバー３４０とによって、形成されており、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄから外方に臨んでいる。下皿３２２は、図２８及び図４５に示すように、平面視の外周形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置された台形と、を組合せたような形状に形成されており、台形の斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲している。この下皿３２２は、平面視において、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。

【０１７１】

下皿本体３２５は、図４３及び図４４等に示すように、上方及び後方が開放された容器状に形成されている。下皿本体３２５は、平板状の底壁部３２５ａと、底壁部３２５ａの後端辺を除いた外周端から上方へ延出している本体立壁部３２５ｂと、底壁部３２５ａを遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している下皿球抜き孔３２２ａと、を備えている。底壁部３２５ａの外周形状は、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置され斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲した台形と、を組合せたような形状に形成されている。底壁部３２５ａ（の上面）は、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。本体立壁部３２５ｂは、底壁部３２５ａから上方へ、遊技球の直径の２倍～５倍の高さで立上っている。下皿球抜き孔３２２ａは、下皿本体３２５（底壁部３２５ａ）の左右方向中央よりも右寄りの位置に形成されている。下皿本体３２５では、底壁部３２５ａ及び本体立壁部３２５ｂにおける正面視右前隅の湾曲している部位が、逃し部３２２ｂに相当している。

【０１７２】

下皿カバー３４０は、下皿本体３２５の上方のおよそ右半部を覆うように形成されている。下皿カバー３４０は、図４３及び図４４等に示すように、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から上方へ立上っているカバー立壁部３４０ａと、カバー立壁部３４０ａの上端から略水平に延びている天井部３４０ｂと、を備えている。カバー立壁部３４０ａは、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂにおける前辺側の一部から右辺の後端までの部位から立上っている。下皿カバー３４０は、皿ユニット３２０に組立てた状態で、カバー立壁部３４０ａ及び天井部３４０ｂの後端が、皿ユニットベース３２３の前面に当接している。また、カバー立壁部３４０ａの前端（前辺における左端側）が、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄの右端辺と当接している。更に、天井部３４０ｂの左端が、皿ユニットカバー３２６の下皿カバー部３２６ｋの右端に当接している。この下皿カバー３４０では、カバー立壁部３４０ａにおける湾曲面状の部位と、その後側においてカバー立壁部３４０ａと天井部３４０ｂとの間で斜めに延びている部位とが、逃し部３２２ｂに相当している。

【０１７３】

下皿３２２は、前端側の左右に短く延びている部位の正面視左端付近から右側が、皿ユニットカバー３２６（演出操作ユニット４００）によって覆われており、正面視において半分以上が演出操作ユニット４００の後方に位置している。つまり、下皿３２２は、右半分が、演出操作ユニット４００の後方へ回り込むように形成されている。従って、下皿３２２は、図４５に示すように、後述する皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄの後方に位置する下皿第一領域Ａ１（図４５においてクロスハッチの領域）と、下皿開口部３２６ｄよりも右側（演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側）の後方に位置する下皿第二領域Ａ２（図４５において網掛けの領域）と、を有している。換言すると、下皿３２２は、遊技球を貯留可能な貯留領域（平面視における貯留面積に相当し、下皿第一領域Ａ１と下皿第二領域Ａ２とを合せた領域）の半分以上が、演出操作ユニット４００の後方に位置している。なお、図４５において点線ハッチの領域は、皿ユニットカバー３２６における取付空間３２６ｊの残りの空間（領域）である。

【０１７４】

下皿３２２は、後壁を形成している皿ユニットベース３２３の下皿球供給口３２３ｃが、後壁の正面視左右方向中央よりも右側に開口している。更に詳述すると、下皿３２２の下皿球供給口３２３ｃは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方となる下皿第二領域Ａ２に配置されている。これにより、扉枠３を正面から見た時に、下皿球供給口３２３ｃが下皿開口部３２６ｄを通して遊技者側から見えないようになっている（図１９等を参照）。従って、下皿３２２は、前方に膨出している皿ユニット３２０（皿ユニットカバー３２６）の左側面の下皿開口部３２６ｄから演出操作ユニット４００の後方へ向かって抉れるように形成されており、正面から見える範囲よりも遊技球の貯留容積が大きく形成されている。換言すると、下皿３２２は、下皿第一領域Ａ１よりも下皿第二領域Ａ２の方が大きく形成されている。これにより、外側（遊技者側）から下皿３２２を見た時に、見た目以上に下皿３２２内に多くの遊技球を貯留させることができる。

【０１７５】

下皿３２２は、下皿本体３２５の左右方向の右側半分（下皿第二領域Ａ２）が、図４１（ａ）に示すように、皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ（取付空間３２６ｊ）内に突出しており、下皿本体３２５における演出操作ユニット取付部３２６ａ内に突出している部位の上側を、下皿カバー３４０が覆っている。この下皿カバー３４０により、下皿開口部３２６ｄから下皿３２２内に遊技者が手指を挿入した時に、その指先が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に触れるのを阻止することができる。

【０１７６】

下皿３２２は、下皿第二領域Ａ２内である下皿球供給口３２３ｃの真正面に、上下に貫通している下皿球抜き孔３２２ａを備えている。下皿３２２の底面は、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａは、下皿球抜きボタン３３３の押圧操作によって動作する蓋部材３３４によって開閉可能に閉鎖されている。下皿３２２は、通常の状態では、下皿球抜き孔３２２ａが蓋部材３３４によって閉鎖されており、下皿３２２内に遊技球を貯留させることができる。そして、下皿球抜きボタン３３３を押圧操作して蓋部材３３４を開動作させると、下皿３２２内の遊技球を、下皿球抜き孔３２２ａから皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。

【０１７７】

下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａは、下皿３２２の後壁を形成している皿ユニットベース３２３の下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）に配置されている。従って、扉枠３に組立てた状態では、下皿球抜き孔３２２ａが、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側で演出操作ユニット４００におけるフレームユニット４１５の後方に位置しているため、遊技者（正面）側からは見えないようになっている。

【０１７８】
この下皿３２２は、上述したように、外周形状が、左右に延びた四角形の前側に、前方側が窄まった台形を組合せた形状に形成されていると共に、底面が、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って、蓋部材３３４が開いて下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態で、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内へ供給された遊技球は、下皿球供給口３２３ｃの真正面に開口している下皿球抜き孔３２２ａから即座に下方へ排出される。この下皿球抜き孔３２２ａの左端は、下皿球供給口３２３ｃの左端よりも若干左方に位置していることから、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球が、下皿３２２内における下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域へ直接流通することはなく、下皿球抜き孔３２２ａから排出されることとなる。
【０１７９】
一方、下皿球抜き孔３２２ａの右端は、下皿球供給口３２３ｃの右端よりも左方に位置していることから、下皿球供給口３２３ｃの右端付近から下皿３２２へ供給された遊技球が、本体立壁部３２５ｂにおける下皿３２２の右側の立壁を形成している部位に当接することとなる。この下皿３２２の右側の立壁は、下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように前後方向に対して斜めに湾曲しているため、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球が、この傾斜している部位に当接すると、下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射することとなり、下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域へ行くことなく、下皿球抜き孔３２２ａから排出される（図４５を参照）。
【０１８０】
このように、本実施形態の下皿３２２は、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球を、下皿球抜き孔３２２ａへ誘導するように形成しているため、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球を、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａを開いたままの状態とすると、遊技者側からは下皿３２２上を流通している遊技球が見えないため、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。
【０１８１】
また、本実施形態の下皿３２２は、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂと、本体立壁部３２５ｂの上端から上方へ延出した下皿カバー３４０，３４０Ａとを備えているため、下皿３２２内に供給され遊技球が、下皿３２２内で跳ねて飛び上がっても、下皿３２２内から取付空間３２６ｊ側へ遊技球が侵入するのを防止することができ、下皿３２２内の遊技球が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に接触するのを阻止することができる。従って、下皿３２２内に供給された遊技球や下皿３２２に貯留されている遊技球が、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に当接したり押圧したりするのを防止することができ、遊技球によって演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側が破損するのを防止することができる。
【０１８２】
更に、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方に下皿球抜き孔３２２ａを備えていることから、下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態では、下皿球供給口３２３ｃから放出された遊技球をそのまま下皿球抜き孔３２２ａに進入させて下方（ドル箱）へ排出させることができるため、遊技球を下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側に到達し難くすることができる。また、下皿３２２の前端付近の下皿本体３２５の底壁部３２５ａが、前方へ向かうほど高くなっているため、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側へ向かう遊技球が、傾斜した底面を登ることとなり、遊技球の移動速度を減衰させることができる。従って、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内に放出された遊技球が

、下皿カバー３４０，３４０Ａや本体立壁部３２５ｂに当接した時の衝撃を小さくすることができ、それらを破損し難くすることができる。

【０１８３】

なお、本実施形態では、上皿球抜きボタン３２７に対して、下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を連動させるようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、蓋部材３３４も可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くため、上皿３２１から下皿３２２へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿３２１から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜きボタン３３３を操作していないにも関わらず、上皿３２１の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿３２１の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、上述した作用効果をより一層発揮させることができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０１８４】

また、本実施形態では、下皿３２２を構成している下皿本体３２５と下皿カバー３４０とが分解可能な別体のものを示したが、下皿本体３２５と下皿カバー３４０とが分解不能な一体のものとしても良い。また、下皿カバー３４０のカバー立壁部３４０ａが、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から立上った例を示したが、下皿本体３２５の底壁部３２５ａから下皿カバー３４０のカバー立壁部３４０ａが立上っていても良い。また、下皿カバー３４０の天井部３４０ｂが、カバー立壁部３４０ａの上端から略水平に延びた例を示したが、下皿カバー３４０の天井部３４０ｂが、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から略水平に延びるようにしても良い。

【０１８５】

更に、本実施形態では、下皿３２２の演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）との接触を回避させるための逃し部３２２ｂを備えた例を示したが、逃し部３２２ｂを備えていない下皿３２２としても良い。

【０１８６】

また、本実施形態では、下皿３２２（下皿本体３２５や下皿カバー３４０等）として、貫通した孔の無い一様な面状のものを示したが、遊技球が通過不能な複数の貫通した孔を有するものであっても良い。具体的には、下皿３２２の底壁部３２５ａ、本体立壁部３２５ｂ、カバー立壁部３４０ａ、天井部３４０ｂ等の少なくとも一部を、遊技球が通過不能な隙間を有した、柵状に形成したものや網状に形成したものとしても良い。なお、皿ユニットカバー３２６（取付空間３２６ｊ）内に、ＬＥＤ等の発光体を配置し、下皿３２２の柵状や網状の隙間を通して下皿３２２内を照らす（発光装飾させる）ようにしても良い。

【０１８７】

なお、本実施形態では、夫々別体に形成された下皿本体３２５、下皿カバー３４０、皿ユニットベース３２３、及び皿ユニットカバー３２６（下皿カバー部３２６ｋ）によって、下皿３２２を形成したものを示したが、それら四つの部材が適宜の組合せで一体とされて下皿３２２を形成するようにしても良い。具体的には、下皿カバー３４０と下皿本体３２５とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、等としても良い。

【０１８８】
［３－３ｂ－１．下皿の球誘導部］
皿ユニット３２０の下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ遊技球を誘導する球誘導部３２２ｃ等を備えた実施形態について、図４６を参照して詳細に説明する。図４６（ａ）は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｂ）は下皿に（ａ）とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｃ）は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。図４６では、上記と同じ構成については、同一の符号を付してある。
【０１８９】
図４６（ａ）の下皿３２２の例は、下皿３２２の底面における下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとの間の部位に、下皿球抜き孔３２２ａの直径と略同じ距離で左右に離間して配置された一対の球誘導部３２２ｃを備えている。一対の球誘導部３２２ｃは、下皿３２２の底面から突出した状態で前後に延びたレール状（突条）に形成されている。また、下皿３２２は、底面が下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内へ供給された遊技球は、球誘導部３２２ｃを乗り越えることなく、一対の球誘導部３２２ｃにより下皿球抜き孔３２２ａへ誘導され、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。
【０１９０】
そして、この例の下皿３２２は、上記と同様に、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２）に、下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとが前後方向へ直線状に並んで配置されている。従って、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方に位置しており、正面からは見えないようになっている。
【０１９１】
このように、本例の下皿３２２は、一対の球誘導部３２２ｃを備えているため、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球を、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。そして、遊技者側からは下皿３２２上を流通している遊技球が見えないため、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。
【０１９２】
この図４６（ａ）の例では、球誘導部３２２ｃとして、レール状のものを示したが、これに限らず、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって延びた溝のように、遊技球を下皿球抜き孔３２２ａへ誘導できるものであれば良い。
【０１９３】
次に、図４６（ｂ）の下皿３２２の例は、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの右側の壁部を、下皿球供給口３２３ｃから右斜め前方へ放出された遊技球が、下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射するような形状に形成していると共に、遊技球が当接する部位に緩衝部３２２ｄを備えるようにしたものである。この緩衝部３２２ｄは、ゴムや発泡体等で形成されている。
【０１９４】
本例の下皿３２２も上記と同様に、下皿球供給口３２３ｃの真正面に下皿球抜き孔３２２ａが配置されていると共に、下皿３２２の底面が下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って。下皿球供給口３２３ｃから真直ぐに前方へ放出された遊技球は、そのまま下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。一方、下皿球供給口３２３ｃから右前方へ放出された遊技球は、緩衝部３２２ｄで下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射して、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。この際

に、遊技球が緩衝部３２２ｄに当接して反射するため、反射時の衝突音が低減される。
【０１９５】
更に、この例の下皿３２２も上記と同様に、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２である演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。
【０１９６】
このように、本例の下皿３２２は、遊技球を反射させる壁部に緩衝部３２２ｄを備えているため、下皿球供給口３２３ｃから遊技球が真直ぐに前方へ放出されなかった場合でも、緩衝部３２２ｄにより音もなく下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射させて下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等がドル箱へ排出される際に、下皿３２２から遊技球の衝突音が聞こえないため、恰も直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。
【０１９７】
続いて、図４６（ｃ）の下皿３２２の例は、下皿３２２の底面（底壁部３２５ａ）における下皿球抜き孔３２２ａを間にして下皿球供給口３２３ｃとは反対側の部位から上方へ突出し、下皿球抜き孔３２２ａを飛び越えた遊技球を下皿球抜き孔３２２ａ側へ反射させる返し部３２２ｅを備えたものである。なお、返し部３２２ｅは、下皿３２２を形成している素材と同じ素材を用いても良いし、ゴムや発泡体等の反射時の衝突音を緩和させる緩衝材を用いても良い。また、返し部３２２ｅは、下皿３２２の側壁を構成していないものとしても良いし、下皿３２２の側壁（本体立壁部３２５ｂ）の一部を構成するものとしても良い。
【０１９８】
この下皿３２２では、下皿球供給口３２３ｃ、下皿球抜き孔３２２ａ、及び返し部３２２ｅが、後方から前方へ向かって順番に直線上に配置されていると共に、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２である演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。この下皿３２２では、下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ流通する遊技球が、万が一、下皿球抜き孔３２２ａを飛び越えても、返し部３２２ｅにより下皿球抜き孔３２２ａ側へ反射させて、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【０１９９】
なお、本実施形態では、下皿３２２に対して、上記の球誘導部３２２ｃと緩衝部３２２ｄとを、適宜に組合せても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。
【０２００】
［３－３ｂ－２．下皿の別の実施形態］
皿ユニット３２０の下皿３２２の別の実施形態について、図４７を参照して説明する。図４７（ａ）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。図４７に示す下皿３２２は、下皿本体３２５が下皿第二領域Ａ２内に配置された分割線ＰＬを境に分割可能とされているものである。なお、図４７において点線ハッチで示す領域は、取付空間３２６ｊの残りの空間を示している。
【０２０１】
まず、図４７（ａ）に示す下皿本体３２５（下皿３２２）は、下皿第一領域Ａ１及び下皿第二領域Ａ２の一部を構成し下皿球抜き孔３２２ａを有している本体部３２５Ａと、本

体部３２５Ａの右側に取付けられており下皿第二領域Ａ２の残りの領域を構成している第一増設部３２５Ｂとを備えている。第一増設部３２５Ｂは、本体部３２５Ａよりも更に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が収容される取付空間３２６ｊの残りの空間（演出操作ユニット４００や第二演出操作ユニット４００Ａの後方の空間）内へ突出している。この第一増設部３２５Ｂは、図示するように、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。また、第一増設部３２５Ｂは、右前隅に、第二演出操作ユニット４００Ａとの接触を回避させるための逃し部３２２ｂが形成されている。

【０２０２】

次に、図４７（ｂ）及び図４７（ｃ）の例は、演出操作ユニット４００の後端が、下皿３２２の前端よりも後方へ突出しておらず、図４７（ａ）の例よりも、演出操作ユニット４００の後方の空間（取付空間３２６ｊの残りの空間）が広くなっている。そして、この下皿本体３２５（下皿３２２）は、下皿第一領域Ａ１及び下皿第二領域Ａ２の一部を構成し下皿球抜き孔３２２ａを有している本体部３２５Ａと、本体部３２５Ａの右側に取付けられていると共に下皿第二領域Ａ２の残りの領域を構成しており第一増設部３２５Ｂよりも大きい第二増設部３２５Ｃとを備えている。この第二増設部３２５Ｃは、図示するように、前端から後端までの左右方向の幅が一定に形成されており、第一増設部３２５Ｂよりも遊技球の貯留領域が大きく形成されている。また、この下皿３２２は、第二増設部３２５Ｃの形状と対応した形状の下皿カバー３４０Ａが取付けられている（図４７（ｃ）を参照）。

【０２０３】

図４７に示した例では、本体部３２５Ａに第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃを取付けることで、夫々の遊技球の貯留領域同士が連続（連通）した状態となり、遊技球の貯留領域が拡大する。また、本体部３２５Ａと、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃとの境が、分割線ＰＬとなっている。また、下皿本体３２５における第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃは、演出操作ユニット４００や第二演出操作ユニット４００Ａの後面との間に、所定の隙間（取付空間３２６ｊと連通している空間）が生じるように形成されている。

【０２０４】

このように、上記の例では、下皿本体３２５（下皿３２２）を分割可能な構成とすると共に、分割された部材の少なくとも一方を交換可能としていることから、下皿３２２内における遊技球の貯留領域を、必要に応じて、大きくしたり、小さくしたりすることができる。また、下皿本体３２５（下皿３２２）を分割可能な構成としているため、皿ユニットカバー３２６に取付けられる演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方（取付空間３２６ｊ内）への突出量に応じた大きさの増設部（第一増設部３２５Ｂ又は第二増設部３２５Ｃ）を取付けることができる。

【０２０５】

なお、上記の実施形態では、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方となる下皿第二領域Ａ２内に分割線ＰＬを配置したものを示したが、分割線ＰＬを、下皿第一領域Ａ１と下皿第二領域Ａ２との境界線上に配置しても良いし、下皿第一領域Ａ１内に配置しても良い。

【０２０６】

また、上記の実施形態では、下皿本体３２５（下皿３２２）における本体部３２５Ａに、下皿球抜き孔３２２ａを備えたものを示したが、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃに下皿球抜き孔３２２ａを備えるようにしても良い。

【０２０７】

また、上記の実施形態では、下皿本体３２５の本体部３２５Ａの右側に、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃを取付けたものを示したが、本体部３２５Ａの右側に、遊技球の貯留領域を有しない、平板状の閉鎖部材を取付けるようにしても良い。

【０２０８】

更に、上記の実施形態では、下皿３２２における下皿本体３２５について説明したが、下皿カバー３４０についても、下皿本体３２５と同様に分割可能としたり、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃの大きさに合せた形状としたりしても良い。

【０２０９】

［３－３ｃ．皿ユニットベース］

皿ユニット３２０の皿ユニットベース３２３について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース３２３は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の下側に取付けられ、扉枠ベース１１０の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。

【０２１０】

皿ユニットベース３２３は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口３２３ａと、上皿球供給口３２３ａの下側で前後に貫通していると共に上下に延びている複数の長穴からなるスピーカスリット３２３ｂと、正面視左右中央から左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口３２３ｃと、下皿球供給口３２３ｃの正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体３２４の右端に位置する上皿球送り口３２３ｄと、を備えている。

【０２１１】

また、皿ユニットベース３２３は、上皿球送り口３２３ｄを通って皿ユニットベース３２３の後側に送られた遊技球を球送りユニット２５０の進入口２５１ａへ誘導する球送り誘導路３２３ｅと、球送り誘導路３２３ｅの下側から垂下した後に下皿球供給口３２３ｃの筒状の正面視右側面へ向かって低くなるように略Ｌ字状に延びており球送りユニット２５０の球抜口２５１ｂから放出された遊技球を下皿球供給口３２３ｃへ誘導する球抜き誘導路３２３ｆと、球送り誘導路３２３ｅの正面視左方で且つ球送り誘導路３２３ｅの下端と球抜き誘導路３２３ｆの上端との間の高さの位置で前後に貫通しており球送りユニット２５０の作動棹２５３ｃと当接し上皿球抜きボタン３２７により動作する作動伝達部３２７ａが後方へ臨むように突出する開口部３２３ｇと、を備えている。球抜き誘導路３２３ｆは、下流端が下皿球供給口３２３ｃにおける筒状の部位内に開口している。

【０２１２】

更に、皿ユニットベース３２３は、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０の筒部１８１が挿通されるハンドル挿通口３２３ｈと、正面視右隅付近で前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通口３２３ｉと、を備えている。

【０２１３】

皿ユニットベース３２３の上皿球供給口３２３ａは、扉枠３に組立てた状態で、前端が上皿３２１の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１１０の上皿用通過口１１７を前側から貫通してファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３の前端と接続している。これにより、払出ユニット８００から払出された遊技球が、上皿球供給口３２３ａを通って上皿３２１内に供給（払出）される。

【０２１４】

下皿球供給口３２３ｃは、扉枠３に組立てた状態で、前端が下皿３２２の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１１０の下皿用通過口１１６を前側から貫通してファールカバーユニット２７０の球放出口２７６の前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内を流通する遊技球が、下皿球供給口３２３ｃを通って下皿３２２内に供給される。この下皿球供給口３２３ｃは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置されており、扉枠３を正面から見た時に、下皿開口部３２６ｄを通して遊技者側から見えないようになっている。

【０２１５】

［３－３ｄ．皿ユニットカバー］

皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニットカバー３２６は、上皿本体３２４及び下皿本体３２５の前側を覆うように皿ユニットベース３２３の前面に取付けられる。皿ユニットカバー３２６は、左右方向中央が前方へ膨出しており左右方向中央に前方へ大きく開口し演出操作ユニット４００が取付けられる演出操作ユニット取付部３２６ａと、演出操作ユニット取付部３２６ａの左右両側における上皿３２１と略同じ高さに形成されている皿前上装飾部３２６ｂと、左右の皿前上装飾部３２６ｂの夫々の下側に形成されている皿前下装飾部３２６ｃと、を備えている。

【０２１６】

演出操作ユニット取付部３２６ａは、左右方向が皿ユニット３２０の左右方向の全幅に対して約１／３の大きさに形成されていると共に、上下方向が皿ユニット３２０の上下方向の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット取付部３２６ａは、前端が上方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。詳しくは、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端は、垂直線に対して２７度の角度で傾斜している。

【０２１７】

皿前上装飾部３２６ｂは、前面が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が前方へやや膨出した湾曲面状に形成されている。また、皿前上装飾部３２６ｂは、下端が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側（演出操作ユニット取付部３２６ａ側）から左右両端側へ向かって上下方向が窄まるように形成されている。皿ユニットカバー３２６は、正面視左側の皿前上装飾部３２６ｂに、演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２が取付けられている。

【０２１８】

皿前下装飾部３２６ｃは、前面が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が後方へ窪むような湾曲面状に形成されている。

【０２１９】

正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃには、前後に貫通している下皿開口部３２６ｄが形成されており、下皿開口部３２６ｄから下皿３２２が前方に臨んでいる。正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃでは、下皿開口部３２６ｄの下側前面から下皿球抜きボタン３３３が前方へ突出している。また、正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃにおける下皿開口部３２６ｄの左側には、パンチングメタルからなる下スピーカ口３２６ｅが形成されている。下スピーカ口３２６ｅは、皿ユニット３２０に組立てた状態で、皿ユニットベース３２３のスピーカスリット３２３ｂの前方に位置している。

【０２２０】

正面視右側の皿前下装飾部３２６ｃには、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０の筒部１８１が挿通されるハンドル挿通口３２６ｆと、正面視右隅付近におけるハンドル挿通口３２６ｆの上側で前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通口３２６ｇと、が形成されている。

【０２２１】

皿ユニットカバー３２６は、正面視右側の皿前上装飾部３２６ｂの上端から皿ユニットベース３２３の前端まで延びた板状の天板部３２６ｈを有しており、天板部３２６ｈにより上皿３２１の右側上方を覆っている。この天板部３２６ｈに、上皿球抜きボタン３２７、球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０が取付けられている。

【０２２２】

皿ユニットカバー３２６は、皿前下装飾部３２６ｃの下端から皿ユニットベース３２３の前面まで延びている平板状の底板部３２６ｉを備えている。この底板部３２６ｉにより皿ユニット３２０の下側が閉鎖されている。なお、底板部３２６ｉは、下皿３２２の下方に位置する部位が下方から上方へ凹むように段状に形成されており、その部位に後述する下皿球抜きベース３３５が取付けられている。また、底板部３２６ｉには、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａと対応した位置に、上下に貫通した孔が形成されている。

【０２２３】

皿ユニットカバー３２６は、演出操作ユニット取付部３２６ａの部位で前方へ開口しており演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側が挿入（収容）される取付空間３２６ｊを備えている。また、皿ユニットカバー３２６は、下皿開口部３２６ｄの左辺及び上辺から後方へ平板状に延出しており、下皿３２２を覆っている下皿カバー部３２６ｋを備えている（図４４を参照）。下皿カバー部３２６ｋは、左端に、下皿本体３２５における本体立壁部３２５ｂの左辺の上端が当接していると共に、右端に、下皿カバー３４０における天井部３４０ｂの左端が当接するようになっている。

【０２２４】

［３－３ｅ．上皿球抜きボタン］

皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。上皿球抜きボタン３２７は、上皿３２１の正面視右側で、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈに取付けられており、押圧操作することで、上皿３２１内の遊技球を下皿３２２へ抜くことができるものである。上皿球抜きボタン３２７は、詳細な図示は省略するが、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈの下側に取付けられている球抜きボタンホルダによって、天板部３２６ｈの下方で後端側が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。上皿球抜きボタン３２７は、その前端下面に、上下に延びている球抜きレバーの上端が当接している。この球抜きレバーは、上皿球抜きボタン３２７の下方で皿ユニットベース３２３の前面に取付けられている球抜きベースによって上下方向へスライド可能に取付けられている。

【０２２５】

そして、上皿球抜きボタン３２７の前端下面に上端が当接している球抜きレバーは、皿ユニットベース３２３によって上下にスライド可能に取付けられている上皿球抜きスライダ３２７ｂの上部に上側から当接している。この上皿球抜きスライダ３２７ｂは、後面から後方に突出している作動伝達部３２７ａを備えており、扉枠３を組立てた状態で、この作動伝達部３２７ａが、皿ユニットベース３２３における開口部３２３ｇから臨むように後方に突出すると共に、球送りユニット２５０における球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃに下方から当接する。なお、上皿球抜きスライダ３２７ｂは、上皿球抜きバネ３２７ｃにより上方へ付勢されており、この上皿球抜きバネ３２７ｃの付勢力により、上皿球抜きスライダ３２７ｂ及び球抜きレバーを介して上皿球抜きボタン３２７が上昇端に位置している。

【０２２６】

従って、上皿球抜きボタン３２７を、上皿球抜きバネ３２７ｃの付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜きスライダ３２７ｂの作動伝達部３２７ａが下方へ移動し、作動伝達部３２７ａの上端側に当接している球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃも相対的に下方へ移動することとなるため、球抜き部材２５３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部２５３ａによる進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間の仕切りが解除され、それらが互いに連通した状態となる。これにより、上皿３２１内の遊技球が、球送りユニット２５０の球抜口２５１ｂから皿ユニット３２０の球抜き誘導路３２３ｆへと排出され、下皿球供給口３２３ｃを介して下皿３２２へ排出（供給）させることができる。

【０２２７】

なお、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４が連動して可動するようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、蓋部材３３４も可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くため、上皿３２１か

ら下皿３２２へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿３２１から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜きボタン３３３を操作していないにも関わらず、上皿３２１の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿３２１の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０２２８】

［３－３ｆ．球貸ボタン、返却ボタン、及び球貸返却表示部］

皿ユニット３２０の球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０について、主に図４１を参照して詳細に説明する。球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０は、図示するように、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈにおける上皿球抜きボタン３２７の正面視右側で、円形状の装飾内に取付けられている。

【０２２９】

球貸ボタン３２８は、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、押圧操作することで、所定数の遊技球を皿ユニット３２０の上皿３２１内へ貸出す（払出す）ものである。返却ボタン３２９は、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを投入した状態で押圧操作すると、貸出された遊技球の分を差し引いた上で、現金やプリペイドカードを返却するものである。

【０２３０】

球貸返却表示部３３０は、図示は省略するが、透明な表面の下側に三桁の７セグメントＬＥＤが配置されており、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数、或は、球貸機が故障した時のエラーコード等、を表示するものである。

【０２３１】

［３－３ｇ．演出選択左ボタン及び演出選択右ボタン］

皿ユニット３２０の演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２について、主に図４１等を参照して詳細に説明する。演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２は、図示するように、皿ユニットカバー３２６における正面視左側の皿前上装飾部３２６ｂにおける演出操作ユニット取付部３２６ａに近い右端付近に取付けられている。演出選択左ボタン３３１は、一つの頂点を左方へ向けた三角形状に形成されている。演出選択右ボタン３３２は、演出選択左ボタン３３１の右方で一つの頂点を右方へ向けた三角形状に形成されている。

【０２３２】

演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２は、正面視において遊技領域５ａ内に配置された遊技盤側演出表示装置１６００や演出操作ユニット４００の扉枠側演出表示装置４６０等において、遊技者に対して選択を促す演出画像が表示されると、押圧操作が受付可能となり、所定時間内に演出選択左ボタン３３１や演出選択右ボタン３３２を操作して所望の選択肢を選択するためのものである。

【０２３３】

［３－３ｈ．下皿球抜きボタン］

皿ユニット３２０の下皿球抜きボタン３３３について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。下皿球抜きボタン３３３は、下皿３２２の前方となる皿ユニットカバー３２６における下皿開口部３２６ｄの下側で、正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃの前面下端から前方に突出している。この下皿球抜きボタン３３３は、押圧操作することで、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を回動させることができ、蓋部材３３４が回動することで下皿球抜き孔３２２ａが開放されて、下皿３２２内に貯留されている遊技球を、皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。

【０２３４】
下皿球抜きボタン３３３は、下皿本体３２５の下側で皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉに取付けられている下皿球抜きベース３３５（図４２（ｂ）を参照）によって前後方向へスライド可能に取付けられている。下皿球抜きボタン３３３は、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａに対して左方に配置されている（図２８等を参照）。
【０２３５】
下皿球抜きベース３３５には、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉにおいて、下皿３２２の下方の位置で下方から上方へ凹むように段状に形成されている部位に収容されるように、底板部３２６ｉに取付けられている。下皿球抜きベース３３５は、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａの直下となる位置に、下皿球抜き孔３２２ａと同じ大きさで上下に貫通している排出口３３５ａが形成されている。蓋部材３３４は、詳細な図示は省略するが、下皿本体３２５と下皿球抜きベース３３５との間に配置されている。これにより、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を開くと、下皿球抜きベース３３５の排出口３３５ａも開くこととなり、下皿球抜き孔３２２ａと排出口３３５ａとが互いに連通した状態となる。
【０２３６】
蓋部材３３４は、図示は省略するが、平面視において、下皿球抜きボタン３３３よりも左方の位置を中心として回動可能に下皿球抜きベース３３５に取付けられている。下皿球抜きボタン３３３には、蓋部材３３４における下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖する部位と、下皿球抜きベース３３５により回動可能に取付けられる部位との間の部位が連結されている。これにより、下皿球抜きボタン３３３を前後方向へ移動させると、蓋部材３３４が上下に延びた軸周りに回動し、下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）を開閉させることができる。
【０２３７】
下皿球抜きベース３３５には、図示は省略するが、下皿球抜きボタン３３３を後方へ押圧して移動させた時に、下皿球抜きボタン３３３を保持する保持装置と、下皿球抜きボタン３３３を前方へ付勢している下皿球抜きバネと、が取付けられている。下皿球抜きボタン３３３が前方に突出して下皿球抜き孔３２２ａを蓋部材３３４により閉鎖している状態で、下皿球抜きボタン３３３を押圧して後方へ移動させると、蓋部材３３４が回動して下皿球抜き孔３２２ａが開くと共に、下皿球抜きボタン３３３が保持装置に保持されて、後方へ移動したままの状態となる。この状態で、下皿球抜きボタン３３３の押圧を放しても、下皿球抜きボタン３３３が前方へ移動することはなく、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態で維持され、下皿３２２内の遊技球を下皿球抜き孔３２２ａ及び排出口３３５ａを通して皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。
【０２３８】
そして、下皿球抜きボタン３３３が保持装置に保持されて下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態で、下皿球抜きボタン３３３を後方へ押圧すると、保持装置による保持が解除される。この状態で、下皿球抜きボタン３３３の押圧を放すと、下皿球抜きボタン３３３が下皿球抜きバネの付勢力により前方へ移動し、突出した状態に復帰すると共に、蓋部材３３４が回動して下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）が閉鎖された状態となる。これにより、下皿３２２内に遊技球を貯留させることができる。
【０２３９】
なお、下皿球抜きボタン３３３の押圧操作とは別に、上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によっても、下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）を閉鎖している蓋部材３３４が可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くようにしても良い。これにより、上皿３２１に貯留された遊技球を皿ユニット３２０の下方に配置されたドル箱に排出させたい時に、上皿球抜きボタン３２７を操作するだけで、下皿３２２を介してドル箱に排出させることができ、球抜きに係る手間を簡素化することができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０２４０】
［３－４．演出操作ユニットの全体構成］
扉枠３における演出操作ユニット４００の全体構成について、主に図４８乃至図５５等を参照して詳細に説明する。図４８（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。また、図４９（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図５０は、演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図５１は図４８（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図であり、図５２は図４８（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。図５３（ａ）は図４８（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。図５４は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図５５は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。
【０２４１】
演出操作ユニット４００は、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の外周を囲み皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる枠状のフレームユニット４１５と、操作ボタン４１０よりも後方に配置されており操作ボタン４１０の外周縁及びフレームユニット４１５を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット４２０と、フレームユニット４１５の後側に取付けられており操作ボタン４１０及び装飾基板ユニット４２０が前面に取付けられているベースユニット４３０と、操作ボタン４１０を通して遊技者側から視認可能にベースユニット４３０に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。
【０２４２】
［３－４ａ．操作ボタン］
演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。図５６（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。操作ボタン４１０は、外形が皿ユニット３２０の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。操作ボタン４１０は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ４１１と、ボタンレンズ４１１の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム４１２と、ボタンフレーム４１２の後側にボタンレンズ４１１の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース４１３と、を備えている。ボタンフレーム４１２及びボタンベース４１３は、光を通し難い部材によって形成されている。
【０２４３】
ボタンレンズ４１１は、全体が略一定の厚さに形成されている。また、ボタンレンズ４１１は、表面側が凹凸の無い滑らかな湾曲面状に形成されている。ボタンレンズ４１１は、ボタンフレーム４１２の内周側となる位置に裏面から断面Ｗ字状に窪んだ状態で中央側（内側）へ所定長さで延びていると共に周方向に列設されている第一ボタン装飾部４１１ａと、第一ボタン装飾部４１１ａよりも外周側の位置に裏面から断面円弧状に窪んだ状態で中央側へ向かう軸線上に延びていると共に周方向に所定角度範囲内で列設されている複数（六つ）の第二ボタン装飾部４１１ｂと、を備えている。
【０２４４】
ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａは、図示するように、操作ボタン４１０に組立てた状態では、ボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びており、左右両側の一群が、上下両側の一群よりも中央側へ長く延びている。
【０２４５】

ボタンレンズ４１１の複数の第二ボタン装飾部４１１ｂは、夫々が同一の円周上において円弧状に延びており、左右両側に夫々三つずつ形成されている。これらの第二ボタン装飾部４１１ｂは、ボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨むように形成されていると共に、前面側がボタンフレーム４１２の前面と略同一面上となるように前方へ突出している。

【０２４６】

ボタンレンズ４１１は、第一ボタン装飾部４１１ａ及び第二ボタン装飾部４１１ｂの部位において、裏面に形成されている断面Ｗ字状や断面円弧状の凹凸により、光が屈折するレンズ効果が発揮されるため、後側が明瞭に見えないようになっている。

【０２４７】

ボタンフレーム４１２は、円環状に形成されており、前後方向に貫通し周方向へ所定長さで円弧状に延びた複数（六つ）のフレーム開口部４１２ａを備えている。六つのフレーム開口部４１２ａは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂと対応している。このボタンフレーム４１２は、表面に金属光沢を有したメッキ層を備えている。

【０２４８】

ボタンベース４１３は、前後方向に短く延びた略円筒状の本体部４１３ａと、本体部４１３ａの前端から外方へ突出している円環状のフランジ部４１３ｂと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ円柱状に突出しており周方向に略等間隔で複数（四つ）配置されているガイドボス部４１３ｃと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ帯板状に突出しており周方向に複数（三つ）配置されている検知片４１３ｄと、本体部４１３ａよりも外側でフランジ部４１３ｂを前後に貫通していると共に外周に沿って所定長さで延びており周方向に複数（六つ）形成されているベース開口部４１３ｅと、本体部４１３ａの前端から前方へ筒状に延出しており前端側がボタンレンズ４１１の内面に沿うように内側（中央側）へ窄まっている内側延出部４１３ｆと、を備えている。

【０２４９】

ボタンベース４１３における内側延出部４１３ｆの外周面と、フランジ部４１３ｂの前面とにボタンレンズ４１１の外周縁及びボタンフレーム４１２が取付けられる。四つのガイドボス部４１３ｃは、本体部４１３ａの周方向に対して、上下左右の四隅に相当する部位に夫々配置されている。これら四つのガイドボス部４１３ｃは、ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂ内に夫々摺動可能に挿入される。三つの検知片４１３ｄは、本体部４１３ａの周方向に対して、上側に二つ、下側に一つ、配されるように、周方向へ略等間隔に配置されている。これら三つの検知片４１３ｄは、操作ボタン４１０が押圧されると、ベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０により検知される。

【０２５０】

六つのベース開口部４１３ｅは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａと対応している。ボタンベース４１３におけるベース開口部４１３ｅの部位では、本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆの一部が、外周側から内側へ窪んでいる。内側延出部４１３ｆは、内側へ窄まっている前端の内径が、ボタンフレーム４１２の内径と略一致している。

【０２５１】

この操作ボタン４１０は、前面が前方へ湾曲面状（略球面の一部の形状）に膨出していると共に、透明に形成されており、後側に配置されている扉枠側演出表示装置４６０の表示画面を前方から視認することができる。操作ボタン４１０は、四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂに摺動可能に挿入されていると共に、ユニットベース４３１の保持孔に４３１ｂに挿入されている操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。操作ボタン４１０は、ベースユニット

４３０の操作ボタンバネ４３８の付勢力により、外周縁の前面側がフレームユニット４１５に当接することで、前方へのこれ以上の移動が規制されており、操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して押圧操作することで、後端がベースユニット４３０の前面に当接するまで後方へ移動する。操作ボタン４１０は、押圧操作して後方へ移動させると、三つの検知片４１３ｄの少なくとも一つがベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０に検知される。この押圧検知センサ４４０による検知片４１３ｄの検知によって、操作ボタン４１０が操作されたこととなる。

【０２５２】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、透明なボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周端から中央側へ延びるように全周に亘って形成されている第一ボタン装飾部４１１ａによって、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くすることができる。

【０２５３】

更に、操作ボタン４１０は、円筒状のボタンベース４１３の前端開口を、ボタンレンズ４１１とボタンフレーム４１２とで閉鎖しており、ボタンレンズ４１１の外周縁に取付けられているボタンフレーム４１２により、操作ボタン４１０の外径に対して、後方が視認可能な透明な部分が、外周から内側へ窄まったように形成されている。このボタンフレーム４１２の存在によっても、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くしている。

【０２５４】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、筒状のボタンベース４１３（本体部４１３ａ）の後端が、装飾基板ユニット４２０の内周側を通して装飾基板ユニット４２０の前面よりも後方へ突出した状態となる。これにより、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に夫々実装されている第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂから前方へ照射された光が、ボタンベース４１３の外側から内側へ漏れるのを防止することができると共に、ベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤから前方へ照射された光がボタンベース４１３の内側から外側へ漏れるのを防止することができる。従って、装飾基板ユニット４２０の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂやベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤが、発光装飾対象としている部位以外が発光装飾されてしまうのを防止することができ、見栄え良く発光装飾を行うことができる。

【０２５５】

［３－４ｂ．フレームユニット］

演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５について、主に図５３乃至図５５等を参照して詳細に説明する。フレームユニット４１５は、操作ボタン４１０の前方側から外周を囲むように、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに前側から取付けられ、操作ボタン４１０の外側を装飾している。フレームユニット４１５は、外形が演出操作ユニット取付部３２６ａの前端側に合せた形状に形成されている。

【０２５６】

フレームユニット４１５は、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられ円形の中央開口部４１６ａを有する枠状のフレーム本体４１６と、中央開口部４１６ａの左右両側でフレーム本体４１６に後側から取付けられる透光性を有した一対のフレームサイドレンズ４１７と、中央開口部４１６ａの上側でフレーム本体４１６に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ４１８と、を備えている。

【０２５７】
フレーム本体４１６は、操作ボタン４１０の外径よりも小径で前後に貫通している円形の中央開口部４１６ａと、中央開口部４１６ａよりも左右両外側で前後に貫通していると共に中央開口部４１６ａの周縁に沿って円弧状に延びており周方向に列設されている複数（六つ）の外周開口部４１６ｂと、中央開口部４１６ａの上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部４１６ｃと、を備えている。中央開口部４１６ａは、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａの外周側の直径と略同じ大きさに形成されている。これにより、フレーム開口部４１２ａの外周後側に操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端側が当接できるようになっている。

【０２５８】
六つの外周開口部４１６ｂは、中央開口部４１６ａの左右両外側に、夫々三つずつ備えられており、後側からフレームサイドレンズ４１７によって閉鎖されている。切欠部４１６ｃは、前後方向にも貫通しており、前側からフレームトップレンズ４１８が嵌込まれている。

【０２５９】
また、フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａの周縁よりも若干外側の位置から後方へ延出している略筒状の内側筒部４１６ｄを備えている。内側筒部４１６ｄは、中央開口部４１６ａと外周開口部４１６ｂとの間の位置から後方へ延出しており、切欠部４１６ｃと対応している部位が切欠かれている。内側筒部４１６ｄは、演出操作ユニット４００を組立てた状態では、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間を仕切っている（図５２を参照）。

【０２６０】
更に、フレーム本体４１６は、外周の左右両側上部において夫々外方へ延出しており、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる一対の取付部４１６ｅを備えている。フレーム本体４１６（演出操作ユニット４００）は、一対の取付部４１６ｅと切欠部４１６ｃの左右両側の部位が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる。

【０２６１】
フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａを間にして切欠部４１６ｃ側（フレームトップレンズ４１８が取付けられる側）とは反対側で切欠部４１６ｃと同じ幅の部位を除いて、表面の略全体に金属光沢を有したメッキ層が形成されている。

【０２６２】
フレームサイドレンズ４１７は、フレーム本体４１６の左右に夫々三つずつ形成されている外周開口部４１６ｂを後側から閉鎖している。フレームサイドレンズ４１７は、前面側が凹凸の無い滑らかな面に形成されており、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿った複数の凹凸が形成されている（図５３及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームサイドレンズ４１７の後側が見えないようになっている。

【０２６３】
フレームトップレンズ４１８は、フレーム本体４１６の切欠部４１６ｃに前側から嵌込まれるように、外形が略四角形に形成されている。フレームトップレンズ４１８は、前面側が滑らかに形成されている。また、フレームトップレンズ４１８は、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿ってジグザグ状に延びた複数の凹凸が中央開口部４１６ａの半径方向に複数列設されている（図５１及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームトップレンズ４１８の後側が見えないようになっている。

【０２６４】
フレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、一対のフレームサイドレンズ４１７が装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操

作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂの前方に位置すると共に、フレームトップレンズ４１８がベースユニット４３０のフレームトップレンズ装飾基板４３７の前方に位置し、それらに実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂ等によって夫々が発光装飾可能となっている。

【０２６５】

［３－４ｃ．装飾基板ユニット］

演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０について、主に図５３乃至図５７等を参照して詳細に説明する。図５７は、演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方でベースユニット４３０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、演出操作ユニット４００に振動を付与させることができるものである。

【０２６６】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。

【０２６７】

基板ベース４２１は、内周側が操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの外径よりも若干大きく形成されていると共に、外周側がボタンベース４１３におけるフランジ部４１３ｂの外径よりも大きく且つフレームユニット４１５の外径よりも小さく形成されている。

【０２６８】

操作ボタン左外装飾基板４２２は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン左外装飾基板４２２は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２２ａと、複数の第一ＬＥＤ４２２ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２２ｂと、を備えている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２３ａと、複数の第一ＬＥＤ４２３ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２３ｂと、を備えている。これら操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３は、前後両面が白色とされている。

【０２６９】

振動モータ４２４は、回転軸に偏芯した錘４２４ａが取付けられており、この錘４２４ａを回転させることで振動を発生させることができる。

【０２７０】

装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、基板ベース４２１の内側に、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の筒状の本体部４１３ａ後端側が挿入されている。また、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａが操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に位置し、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂがフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７の後方に位置している。また、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３の夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に、フレームユニット４１５の内側筒部４１６ｄが位置している（図５２を参照）。

【０２７１】

従って、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右

外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光によって操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを発光装飾させることができると共に、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光によってフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを発光装飾させることができる。

【０２７２】

また、装飾基板ユニット４２０は、振動モータ４２４の錘４２４ａを回転させることで、振動を発生させて、演出操作ユニット４００全体を振動させることができる。

【０２７３】

［３－４ｄ．ベースユニット］

演出操作ユニット４００のベースユニット４３０について、主に図５８乃至図６０等を参照して詳細に説明する。図５８（ａ）は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。図５９は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。また、図６０は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット４００のベースユニット４３０は、操作ボタン４１０を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、フレームユニット４１５の後側に取付けられるものである。

【０２７４】

ベースユニット４３０は、フレームユニット４１５の後側に取付けられ中央部において上下に延びた略四角形に貫通している貫通孔４３１ａ、及び貫通孔４３１ａの外側で前方に開放された止り孔からなる四つの保持孔４３１ｂを有する環状のユニットベース４３１と、ユニットベース４３１の前面で貫通孔４３１ａを覆うように取付けられており前後に短く筒状延びた透光性を有する操作ボタン内装飾部材４３２と、操作ボタン内装飾部材４３２の後方でユニットベース４３１の前面における貫通孔４３１ａの左右両側に夫々取付けられている操作ボタン左内装飾基板４３３及び操作ボタン右内装飾基板４３４と、操作ボタン内装飾部材４３２の後方でユニットベース４３１の前面における貫通孔４３１ａの上下両側に取付けられている操作ボタン上内装飾基板４３５及び操作ボタン下内装飾基板４３６と、ユニットベース４３１の前面上部に取付けられているフレームトップレンズ装飾基板４３７と、を備えている。

【０２７５】

また、ベースユニット４３０は、ユニットベース４３１の四つの保持孔４３１ｂ内に夫々挿入されている四つの操作ボタンバネ４３８と、ユニットベース４３１の前面に取付けられている三つのセンサホルダ４３９と、各センサホルダ４３９に夫々取付けられており操作ボタン４１０の押圧操作を検知する三つの押圧検知センサ４４０と、ユニットベース４３１の後側に取付けられている演出操作ユニット中継基板４４１と、演出操作ユニット中継基板４４１の後側を覆うようにユニットベース４３１の後側に取付けられている中継基板カバー４４２と、を備えている。

【０２７６】

ユニットベース４３１は、外形が略円形状で、フレームユニット４１５の外形よりも若干小さく形成されている。ユニットベース４３１は、中央において前後に貫通しており、上下に延びた略四角形の貫通孔４３１ａが形成されている。この貫通孔４３１ａは、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａ内に収まる大きさで、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面が挿通可能な大きさに形成されている。このユニットベース４３１の後側に扉枠側演出表示装置４６０が取付けられる。

【０２７７】

ユニットベース４３１の四つの保持孔４３１ｂは、貫通孔４３１ａの外側の上下左右の四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４３１ｂは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも若干大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを摺動可能に挿入させることができる。

【０２７８】
更に詳述すると、四つの保持孔４３１ｂのうちの左上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４３１ｂのうちの右上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４３１ｂのうちの下側に配置されている二つの保持孔４３１ｂは、上側の二つの保持孔４３１ｂに対してユニットベース４３１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【０２７９】
また、ユニットベース４３１は、前面上部において、操作ボタン上内装飾基板４３５が取付けられる部位と、フレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられる部位との間から平板状に前方へ突出している遮光壁部４３１ｃを備えている。この遮光壁部４３１ｃにより、フレームトップレンズ装飾基板４３７のみによってフレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０２８０】
操作ボタン内装飾部材４３２は、前後方向へ短く延びた略円筒状の周壁部４３２ａと、周壁部４３２ａの前端側を閉鎖しており中央が前方へ突出するように湾曲面状に形成されている前板部４３２ｂと、前板部４３２ｂを前後に貫通しており上下延びた四角形状の開口部４３２ｃと、周壁部４３２ａの後端から外方へ延出しているフランジ部４３２ｄと、フランジ部４３２ｄから後方へ突出しておりユニットベース４３１に取付けられる複数の取付ボス４３２ｅと、を備えている。

【０２８１】
操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａは、外径が操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内径と略同じ大きさに形成されている。前板部４３２ｂを貫通している開口部４３２ｃは、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面と略同じ大きさに形成されている。

【０２８２】
操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの外周面と、前板部４３２ｂの前面が、凹凸のない滑らかな面に形成されている。

【０２８３】
操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの内周面に形成されており、円弧状に窪んでいると共に前後方向へ延びており、周方向に複数備えられた第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの後面に形成されており、円弧状に膨出し、前板部４３２ｂの中央を中心とするような変八角形状に延びていると共に、前板部４３２ｂの中央を中心として同心円状に複数備えられている第二ボタン内装飾部４３２ｇ（図６３を参照）と、を備えている。第二ボタン内装飾部４３２ｇは、開口部４３２ｃの四つの内周辺と平行に延びている部位を有するように形成されている。

【０２８４】
操作ボタン内装飾部材４３２は、透明な部材によって形成されている。操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの第二ボタン内装飾部４３２ｇとによるレンズ効果により、後方が明瞭に視認できないようになっている。

【０２８５】
操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６は、夫々前面側に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。この操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることで、操作ボタン４１０内や扉枠側演出表示装置４６０の外側を発光装飾させることができる。

【０２８６】
フレームトップレンズ装飾基板４３７は、前面に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで、フレームユニット４１５におけるフレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。
【０２８７】
操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、及びフレームトップレンズ装飾基板４３７に実装されているＬＥＤは、夫々フルカラーＬＥＤとされている。また、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、及びフレームトップレンズ装飾基板４３７は、前面が白色とされている。
【０２８８】
操作ボタンバネ４３８は、コイルバネとされており、ユニットベース４３１における四つの保持孔４３１ｂ内に前方から挿入されている。操作ボタンバネ４３８は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、後端が保持孔４３１ｂの底面に当接しており、前端が操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の本体部４１３ａから後方へ突出しているガイドボス部４１３ｃの後端に当接している。これら操作ボタンバネ４３８により、操作ボタン４１０を前方へ付勢している。
【０２８９】
三つの押圧検知センサ４４０は、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄと対応している位置に配置されている。詳述すると、三つの押圧検知センサ４４０は、ユニットベース４３１の前面において、一つが左上の保持孔４３１ｂの左下側に、もう一つが右上の保持孔４３１ｂの右下側に、残りの一つが左下の保持孔４３１ｂの右下側に夫々センサホルダ４３９を介して取付けられている。三つの押圧検知センサ４４０は、ユニットベース４３１の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ４４０は、操作ボタン４１０の三つの検知片４１３ｄを検知することができる。
【０２９０】
演出操作ユニット中継基板４４１は、ユニットベース４３１の後側において、背面視で貫通孔４３１ａの左側（正面視右側）に取付けられている。演出操作ユニット中継基板４４１は、操作ボタン左外装飾基板４２２、操作ボタン右外装飾基板４２３、振動モータ４２４、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、フレームトップレンズ装飾基板４３７、押圧検知センサ４４０、及び扉枠側演出表示装置４６０と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。
【０２９１】
中継基板カバー４４２は、演出操作ユニット中継基板４４１の後側を覆う部位の下端から正面視左方に延びており、ユニットベース４３１の後面下部に取付けられる脚部４４２ａを備えている。中継基板カバー４４２の脚部４４２ａは、扉枠３に組立てた状態では、下面が略水平に延びていると共に、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底面を形成している底板部３２６ｉとの間で僅かな隙間を形成している（図２６を参照）。これにより、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２ａの下面が皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に当接するまでの間では、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。そして、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方へ移動が規制され、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。
【０２９２】

［３－４ｅ．扉枠側演出表示装置］
演出操作ユニット４００の扉枠側演出表示装置４６０について、主に図５４及び図５５等を参照して詳細に説明する。扉枠側演出表示装置４６０は、表示画面がベースユニット４３０における操作ボタン内装飾部材４３２の開口部４３２ｃから前方へ臨むようにユニットベース４３１の後側に取付けられており、操作ボタン４１０の透明な中央部分を通して前方側（遊技者側）から表示画面を視認することができると共に、表示画面に演出画像を表示させることができるものである。
【０２９３】
扉枠側演出表示装置４６０は、前面に四角形の表示画面を有した液晶表示装置４６１と、液晶表示装置４６１の後側に取付けられていると共に、ベースユニット４３０のユニットベース４３１の後側に取付けられる有底角筒状の取付ブラケット４６２と、を備えている。液晶表示装置４６１は、縦横の比が、１６：９で、対角線の長さが、約４．３ｉｎｃｈの市販のカラー液晶ディスプレイである。取付ブラケット４６２は、外周が液晶表示装置４６１の外周と同じ形状に形成されており、有底筒状の底部が液晶表示装置４６１の後面と当接するように取付けられている。
【０２９４】
扉枠側演出表示装置４６０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、液晶表示装置４６１がユニットベース４３１の貫通孔４３１ａを後側から貫通して、操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａ内に突出している（図５１を参照）。液晶表示装置４６１の前面（表示画面）は、操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの前端付近に位置しており、前板部４３２ｂを貫通している開口部４３２ｃから前方に臨んでいる。
【０２９５】
扉枠側演出表示装置４６０は、液晶表示装置４６１において周辺制御基板１５１０からの制御信号に基づいた所定の演出画像を表示することができる。
【０２９６】
［３－４ｆ．演出操作ユニットの作用効果］
演出操作ユニット４００の作用効果について、主に図６１乃至図６３等を参照して詳細に説明する。図６１は、図５１の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。図６２（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図６３（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【０２９７】
本実施形態の演出操作ユニット４００は、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン４１０の操作をさせて遊技者に提示した演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。
【０２９８】
演出操作ユニット４００は、全高が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット４００は、全幅が、扉枠３の全幅の１／３よりも若干大きく形成されている。演出操作ユニット４００は、正面視において、遊技領域５ａ（扉枠ベース１１０の貫通口１１１）の下側で左右方向の中央に配置されている。
【０２９９】
演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の上部が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられている。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に取付けた状態で、底

面となる中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面が、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６における底板部３２６ｉの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【０３００】

また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５の前面（フレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、演出操作ユニット４００は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、垂直線に対して６３度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機１を用いて遊技を行うために本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット３２０（演出操作ユニット４００）の上方に配置されている遊技盤５における遊技領域５ａの中央の前方に位置するため、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域５ａから演出操作ユニット４００（操作ボタン４１０）に視線を落すと、操作ボタン４１０がその正面視（中心軸線ＣＬと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側演出表示装置４６０等を良好な状態で視認することができる。

【０３０１】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０の四つの保持孔４３１ｂに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。演出操作ユニット４００は、通常の状態（操作ボタン４１０を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ４３８の付勢力によって、操作ボタン４１０のボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の後面における中央開口部４１６ａ付近の部位に当接している。

【０３０２】

演出操作ユニット４００は、通常の状態では、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内周付近から中央側（中心軸線ＣＬ側）が、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン４１０における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している（図５１等を参照）。

【０３０３】

因みに、本実施形態では、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの直径が約１５ｃｍとされており、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ方向に対してボタンレンズ４１１（の前端）がフレームユニット４１５の前面から約４ｃｍ前方へ突出している。

【０３０４】

通常の状態において、遊技者が演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作すると、操作ボタン４１０は操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して中心軸線ＣＬに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン４１０の後端がベースユニット４３０のユニットベース４３１の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。

【０３０５】

この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用

の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、図６１において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる。

【０３０６】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【０３０７】

これに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

【０３０８】

また、演出操作ユニット４００は、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、演出操作ユニット４００が吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４ａを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、演出操作ユニット４００全体を大きく（強く）振動させることができ、演出操作ユニット４００に触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（図６１において白抜きの矢印の位置）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。

【０３０９】

更に、演出操作ユニット４００は、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に隙間が形成されているため、操作ボタン４１０を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接するまでの間、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方への移動を規制し、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させることができ、演出操作ユニット４００等の破損を防止することができる。従って、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や演出操作ユニット４００等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０３１０】

なお、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状と

した場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【０３１１】

また、演出操作ユニット４００は、図６３に示すように、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、フレームトップレンズ４１８、及び操作ボタン内装飾部材４３２が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、第一ボタン内装飾部４３２ｆ、及び第二ボタン内装飾部４３２ｇ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【０３１２】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、操作ボタン内装飾部材４３２の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、位置が固定されている操作ボタン内装飾部材４３２を備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に操作ボタン内装飾部材４３２を問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。

【０３１３】

詳述すると、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２の外周よりも外側で後方側（奥側）にあるユニットベース４３１や装飾基板ユニット４２０等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、図６２において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等を備えているため、操作ボタン内装飾部材４３２の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン４１０、ひいては、演出操作ユニット４００全体の見栄えを良くすることができる。

【０３１４】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａが、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬへ向かうように延びていると共に周方向に列設されているのに対して、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている操作ボタン内装飾部材４３２の前板部４３２ｂに形成されている第二ボタン内装飾部４３２ｇが中心軸線ＣＬを中心とした変八角形状に延びていると共に同心円状に列設されているため、図６３に示すように、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線とが交差することとなり、幾何学的な装飾を遊技者に見せることができる。

【０３１５】

また、演出操作ユニット４００は、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが、前後方向（中心軸線ＣＬの延びている方向）に離れているため、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって奥行のある立体的な感じの幾何学模様を遊技者に見せることができ、操作ボタン４１０内を含む装飾を楽しませることが

できる。
【０３１６】
更に、演出操作ユニット４００では、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と、第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線との重なり具合が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。
【０３１７】
このように、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａと操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。
【０３１８】
また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）で、操作ボタン内装飾部材４３２の後方には、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６が配置されており、それらの前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、操作ボタン４１０内の操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。つまり、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６によって、操作ボタン４１０内を発光装飾させることができる。これら操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の前面に実装されているＬＥＤは、図５２に示すように、中心軸線ＣＬの延びている方向から見て、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの内側に配置されているため、それらからの光が本体部４１３ａの外側に漏れることはなく、操作ボタン４１０内のみを良好に発光装飾させることができる。
【０３１９】
また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、図５２に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。
【０３２０】
更に、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６ｂから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとフレーム本体４１６の外周との間に位置しており、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が内側筒部４１６ｄの内側やフレーム本体４１６の外側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを良好に発光装飾させることができる。

【０３２１】
また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に、ベースユニット４３０におけるフレームトップレンズ装飾基板４３７が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板４３７の前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１のフレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ４１８の下端後方付近まで平板状の遮光壁部４３１ｃが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板４３７のＬＥＤからの光が操作ボタン４１０やフレームサイドレンズ４１７側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８のみを良好に発光装飾させることができる。
【０３２２】
［３－４ｇ．演出操作ユニットの第二実施形態の全体構成］
次に、上記の演出操作ユニット４００の第二実施形態である第二演出操作ユニット４００Ａについて、主に図６４乃至図７１等を参照して詳細に説明する。図６４（ａ）は図４８乃至図６３の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの右側面図である。図６５（ａ）は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図６６は、第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図６７は、図６４（ａ）におけるＧ－Ｇ線で切断した断面図である。図６８は、図６４（ｂ）におけるＨ－Ｈ線で切断した断面図である。図６９（ａ）は図６４（ｂ）におけるＩ－Ｉ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。図７０は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図７１は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【０３２３】
第二演出操作ユニット４００Ａは、上記の演出操作ユニット４００に替えて皿ユニット３２０の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けることができるものである。この第二演出操作ユニット４００Ａは、演出操作ユニット４００と同様に、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。以下では、第二演出操作ユニット４００Ａにおいて、演出操作ユニット４００と同一の構成部材については、同一の符号を付して説明する。
【０３２４】
第二演出操作ユニット４００Ａは、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の外周を囲み皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる枠状のフレームユニット４１５と、操作ボタン４１０よりも後方に配置されており操作ボタン４１０の外周縁及びフレームユニット４１５を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット４２０と、フレームユニット４１５の後側に取付けられており操作ボタン４１０及び装飾基板ユニット４２０が前面に取付けられている第二ベースユニット４５０と、操作ボタン４１０を通して遊技者側から視認可能に第二ベースユニット４５０に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側第二演出表示装置４６０Ａと、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの下面に取付けられている緩衝ユニット５１０と、を備えている。
【０３２５】
また、第二演出操作ユニット４００Ａは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの正面視右側面に取付けられている第二演出操作ユニット中継基板５１５と、第二演出操作ユニット中継基板５１５の表面を覆うように扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの正面視右側面に取付けられている中継基板カバー５１６と、を備えている。第二演出操作ユニット中継基板５１５及び中継基板カバー５１６は、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるプロジェクタ取付部材５０５の正面視右側面に取付けられている。

【０３２６】
第二演出操作ユニット中継基板５１５は、操作ボタン左外装飾基板４２２、操作ボタン右外装飾基板４２３、振動モータ４２４、押圧検知センサ４５４、フレームトップレンズ装飾基板４８２、切替駆動モータ４９２、プロジェクタ５００、及び回転検知センサ５０７と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。
【０３２７】
［３－４ｇ－１．操作ボタン］
第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０について、主に図６９乃至図７２等を参照して詳細に説明する。図７２（ａ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、外形が皿ユニット３２０の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。この操作ボタン４１０は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ４１１と、ボタンレンズ４１１の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム４１２と、ボタンフレーム４１２の後側にボタンレンズ４１１の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース４１３と、を備えており、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０と略同一の構成である。
【０３２８】
具体的な相違点は、第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０と、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０とでは、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａの模様と、ボタンベース４１３のガイドボス部４１３ｃの形状が異なっている。
【０３２９】
詳述すると、図示するように、第二演出操作ユニット４００Ａにおける操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａは、ボタンフレーム４１２の内周と接する部位に、ボタンレンズ４１１の中央側へ一つの頂点を向けた三角形と、中央とは反対側へ一つの頂点を向けた三角形とが、周方向へ交互に全周に亘って複数列設されたトラス状の模様と、トラス状の模様におけるボタンレンズ４１１の中央側を向いている底辺と、その底辺の両端からボタンレンズ４１１の中央側へ延びた辺と、その辺の先端から底辺の中央へ延びている斜辺とで構成された直角三角形状の模様と、直角三角形状の模様の斜辺と、トラス状の模様の三角形の底辺の中央からボタンレンズ４１１の中央側へ直角三角形状の模様よりも長く延びた辺と、その辺の先端から直角三角形状の模様の斜辺の先端へ延びた辺とで構成された変二等辺三角形状の模様と、で形成されている。
【０３３０】
つまり、この第一ボタン装飾部４１１ａは、複数の三角形の組合せによって構成されている。なお、図示は省略するが、第一ボタン装飾部４１１ａを構成している各三角形は、夫々の面が異なる方向を向いており、多面体状に形成されている。これにより、ボタンレンズ４１１の表面側が滑らかな湾曲面状に形成されているのに対して、裏面側が第一ボタン装飾部４１１ａの部位において多面体状に形成されているため、第一ボタン装飾部４１１ａの部位では、ボタンレンズ４１１の板厚が複雑に変化しており、この部位を通る光が乱屈折することとなる。従って、第一ボタン装飾部４１１ａの部位では、複数の三角形が組合わされた幾何学模様を遊技者に見せることができると同時に、乱屈折により後側の部材を見え難くすることができる。
【０３３１】
第二演出操作ユニット４００Ａのボタンベース４１３におけるガイドボス部４１３ｃは、後方が開放されている円筒状に形成されている。このガイドボス部４１３ｃは、第二ベースユニット４５０の保持孔４５１ｄ内に挿入されると共に、筒状の内部に第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の保持孔４５１ｄ内に保持されているボタンシャフト４５２が摺動可能に挿入される。本例では、操作ボタン４１０が、ガイドボス部

４１３ｃ内に後方から挿入される第二ベースユニット４５０のボタンシャフト４５２によって前後方向へ進退可能に取付けられる。

【０３３２】

［３－４ｇ－２．フレームユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａのフレームユニット４１５について、主に図６９乃至図７１等を参照して説明する。フレームユニット４１５は、操作ボタン４１０の前方側から外周を囲むように、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに前側から取付けられ、操作ボタン４１０の外側を装飾している。フレームユニット４１５は、外形が演出操作ユニット取付部３２６ａの前端側に合せた形状に形成されている。

【０３３３】

第二演出操作ユニット４００Ａのフレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【０３３４】

［３－４ｇ－３．装飾基板ユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａの装飾基板ユニット４２０について、主に図５７、図６９乃至図７１等を参照して説明する。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方で第二ベースユニット４５０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、第二演出操作ユニット４００Ａに振動を付与させることができるものである。

【０３３５】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。

【０３３６】

第二演出操作ユニット４００Ａの装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【０３３７】

［３－４ｇ－４．第二ベースユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａの第二ベースユニット４５０について、主に図７３等を参照して詳細に説明する。図７３は、第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。第二演出操作ユニット４００Ａの第二ベースユニット４５０は、操作ボタン４１０を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａが取付けられ、フレームユニット４１５の後側に取付けられるものである。

【０３３８】

第二ベースユニット４５０は、フレームユニット４１５の後側に取付けられるユニットベース４５１と、ユニットベース４５１の前面から突出しており操作ボタン４１０のボタンベース４１３における円筒状の四つのガイドボス部４１３ｃ内に後方から摺動可能に夫々挿入される円柱状の四つのボタンシャフト４５２と、四つのボタンシャフト４５２の夫々が挿通され操作ボタン４１０のガイドボス部４１３ｃの後端を前方へ付勢している操作ボタンバネ（図示は省略）と、ユニットベース４５１の前面に取付けられており、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄを夫々検知する三つの押圧検知センサ４５４と、を備えている。

【０３３９】

第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１は、円環状の本体部４５１ａと、本

体部４５１ａの内周縁から後方へ半球状に突出しているカバー部４５１ｂと、本体部４５１ａの前面に対して垂直方向から見た時に上下に延びた略四角形でカバー部４５１ｂを前後に貫通している貫通口４５１ｃと、本体部４５１ａの前面から後方へ止り孔状に窪んでいる四つの保持孔４５１ｄと、本体部４５１ａの上部において前面から後方へ向かって半円状（Ｕ字状）に窪んでいる上軸受部４５１ｅと、本体部４５１ａの下部において前面から後方へ向かって上軸受部４５１ｅと同軸上で半円状（Ｕ字状）に窪んでいる下軸受部４５１ｆと、本体部４５１ａの上部前面で上軸受部４５１ｅの左右両側に形成されておりスクリーンユニット４７０の回動を規制する一対の回動規制部４５１ｇと、を備えている。

【０３４０】

ユニットベース４５１の円環状の本体部４５１ａは、内周と外周とが、Ｃ字状に形成されている装飾基板ユニット４２０の基板ベース４２１と略同じ大きさに形成されている。この本体部４５１ａの前面に装飾基板ユニット４２０が取付けられる。カバー部４５１ｂは、上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆにより回転可能に取付けられる扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０が回転した時に接触せずに収容可能な大きさに形成されている。貫通口４５１ｃは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００が後方から通過可能な大きさに形成されている。

【０３４１】

ユニットベース４５１の四つの保持孔４５１ｄは、本体部４５１ａの前面の上下左右の四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４５１ｄは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを挿入させることができる。これら四つの保持孔４５１ｄ内には、その中心軸と同軸上にボタンシャフト４５２が取付けられている。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２の前端は、本体部４５１ａの前面よりも前方へ突出している。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２が操作ボタン４１０の筒状のガイドボス部４１３ｃ内に挿入されることで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前後方向へ摺動可能に取付けることができる。

【０３４２】

四つの保持孔４５１ｄのうちの左上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４５１ｄのうちの右上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４５１ｄのうちの下側に配置されている二つの保持孔４５１ｄは、上側の二つの保持孔４５１ｄに対してユニットベース４５１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【０３４３】

また、四つの保持孔４５１ｄ内には、図示しない操作ボタンバネが夫々挿入されており、これら操作ボタンバネの前端がガイドボス部４１３ｃの後端に当接することで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前方へ付勢している。

【０３４４】

ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方が開放されて後方へ延びたＵ字状に形成されている。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、半円弧状に延びている部位の中心が同軸上に位置している。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方から扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上軸部材４７３及び下軸部材４７４が挿入されたうえで、前側から上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５が本体部４５１ａの前面に取付けられることで、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０を回転可能に支持することができる。

【０３４５】

ユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇは、夫々の前面が、その延長線（面

）が、Ｕ字状に後方へ窪んでいる上軸受部４５１ｅにおける半円形状の部位の中心軸を通るように形成されており、中心軸を中心として所定角度周方向へ離反している。これら一対の回動規制部４５１ｇは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが当接することで、スクリーンユニット４７０の回動範囲を規制している。本実施形態では、一対の回動規制部４５１ｇによりスクリーンユニット４７０の回動範囲を、９０度の角度範囲に規制している。

【０３４６】

なお、図示は省略するが、一対の回動規制部４５１ｇ内には、夫々磁石が埋設されており、ストッパ４７５ｂに取付けられている鉄板と磁着することで、回動規制部４５１ｇに当接しているストッパ４７５ｂを回動規制部４５１ｇから離れ難くしている。従って、回動規制部４５１ｇ内の磁石と、ストッパ４７５ｂの鉄板とによって、スクリーンユニット４７０において、メインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態、或いは、サブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態、の何れかにスクリーンユニット４７０を保持することができ、操作ボタン４１０の押圧操作や振動モータ４２４等による振動によって、スクリーンユニット４７０が回動しようとする動きを抑制して扉枠側第二演出表示装置４６０Ａによる演出画像を良好な状態で楽しませることができる。

【０３４７】

三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面において、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄと対応している位置に取付けられている。詳述すると、三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面において、一つが左上の保持孔４５１ｄの左下側に、もう一つが右上の保持孔４５１ｄの右下側に、残りの一つが左下の保持孔４５１ｄの右下側に夫々取付けられている。三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ４５４は、操作ボタン４１０の三つの検知片４１３ｄを検知することができる。

【０３４８】

［３－４ｇ－５．扉枠側第二演出表示装置］

第二演出操作ユニット４００Ａの扉枠側第二演出表示装置４６０Ａについて、主に図７０及び図７１等を参照視して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、第二ベースユニット４５０に取付けられており操作ボタン４１０の透明な部位を通して遊技者に演出画像を見せることができるものである。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、第二ベースユニット４５０の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆにより上下に延びた軸線周りを回動可能に取付けられているスクリーンユニット４７０と、第二ベースユニット４５０の前面上部に取付けられておりスクリーンユニット４７０の上部側を第二ベースユニット４５０と協働して回転可能に取付けている上部軸受部材４８０と、第二ベースユニット４５０の前面下部に取付けられておりスクリーンユニット４７０の下部側を第二ベースユニット４５０と協働して回転可能に取付けている下部軸受部材４８５と、を備えている。

【０３４９】

また、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０を回転駆動させ第二ベースユニット４５０の上部に取付けられている回動駆動ユニット４９０と、第二ベースユニット４５０のカバー部４５１ｂ内に配置され後方からスクリーンユニット４７０に演出画像を投影表示可能なプロジェクタ５００と、プロジェクタ５００が取付けられていると共に第二ベースユニット４５０のカバー部４５１ｂを後側から覆うようにユニットベース４５１の後面取付けられており前方が開放されている箱状のプロジェクタ取付部材５０５と、第二ベースユニット４５０の上部における回動駆動ユニット４９０の正面視左側でスクリーンユニット４７０の作動ギア部材４７５を上方から覆うように取付けられている上部カバー５０６と、上部カバー５０６に取付けられておりスクリーンユニット４７０の回動位置（回転位置）を検知する二つの回転検知センサ５０７と、を備えている。

【０３５０】
［３－４ｇ－５ａ．スクリーンユニット］
扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０は、第二ベースユニット４５０に上下に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられており、プロジェクタ５００から演出画像が投射されることで、その演出画像を遊技者から視認可能に表示（投影表示）することができるものである。
【０３５１】
スクリーンユニット４７０は、半円筒状に形成されており乳白色で透光性を有しているメインスクリーン４７１と、メインスクリーン４７１の軸方向一端側を外周の一部としている円盤状で中央部が軸方向外方へ膨出するように湾曲しており乳白色で透光性を有しているサブスクリーン４７２と、メインスクリーン４７１の両端部の軸方向中央から軸直角方向外方へ夫々円柱状に突出している上軸部材４７３及び下軸部材４７４と、上軸部材４７３の先端に取付けられており外周の略半周に亘ってギア歯４７５ａが形成されている作動ギア部材４７５と、サブスクリーン４７２を貫通する透明で所定のキャラクタ（ドクロ）を模したレリーフ状に形成されているサブスクリーン装飾部材４７６（図７４及び図７５等を参照）と、サブスクリーン４７２の裏面側に取付けられておりサブスクリーン４７２と対向する面に複数のＬＥＤ４７７ａが実装されているサブスクリーン装飾基板４７７（図７５等を参照）と、メインスクリーン４７１のサブスクリーン４７２とは反対側の端部からメインスクリーン４７１の中心軸へ向かって短く延びている半円弧状の周縁装飾部材４７８と、を備えている。
【０３５２】
スクリーンユニット４７０の半円筒状のメインスクリーン４７１は、半径が第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における円環状の本体部４５１ａの内径よりも小さい大きさに形成されている。メインスクリーン４７１は、軸方向の長さが、半円筒状の半径の約４／３倍の大きさに形成されている。メインスクリーン４７１は、軸方向の両端が、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａと周縁装飾部材４７８とによって、縁取られるように装飾されている。
【０３５３】
サブスクリーン４７２は、その中心軸が延びている方向から見た時に、外形が半円筒状のメインスクリーン４７１の半径と一致している円形状に形成されている（図７４（ｂ）を参照）。サブスクリーン４７２は、外周から中心側へ所定幅で円環状に形成されており四角錘状の凹凸が周方向に複数列設されている周縁装飾部４７２ａと、周縁装飾部４７２ａの内側を閉鎖している湾曲面状のスクリーン一般部４７２ｂと、を備えている。サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａは、内周側がメインスクリーン４７１から遠ざかる方向へ突出するように全体が円錐台状に形成されている。スクリーン一般部４７２ｂは、メインスクリーン４７１から遠ざかる方向へ、半円筒状のメインスクリーン４７１の半径よりも大きい半径の球面状に膨出している。サブスクリーン４７２のスクリーン一般部４７２ｂには、貫通した穴が形成されており、その穴を閉鎖するようにサブスクリーン装飾部材４７６が取付けられている。
【０３５４】
上軸部材４７３及び下軸部材４７４は、夫々第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆ内に夫々前方から挿入されて回転可能に取付けられる。
【０３５５】
作動ギア部材４７５は、回動駆動ユニット４９０の第二伝達ギア４９５と噛合し略半周に亘って形成されているギア歯４７５ａと、ギア歯４７５ａの周方向端部の一方から外方へ突出しているストッパ４７５ｂと、ギア歯４７５ａの周方向端部のストッパ４７５ｂとは反対側から外方へ平板状に突出している検知片４７５ｃと、を備えている。作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、上軸

部材４７３の軸芯を中心として円弧状に窪んでいる上部軸受部材４８０の凹部４８１ａ内に位置しており、凹部４８１ａ内の両端部に位置している第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇに当接することでスクリーンユニット４７０の回動範囲が規制される。

【０３５６】

なお、詳細な図示は省略するが、ストッパ４７５ｂにおける回動規制部４５１ｇと当接する部位には、鉄板が取付けられており、この鉄板が回動規制部４５１ｇに埋設されている磁石と磁着できるようになっている。

【０３５７】

このスクリーンユニット４７０は、メインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置と、サブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置との間で回動することができる。検知片４７５ｃは、上部カバー５０６に取付けられている回転検知センサ５０７により検知される。

【０３５８】

サブスクリーン装飾部材４７６は、サブスクリーン４７２におけるスクリーン一般部４７２ｂに取付けられている。サブスクリーン装飾部材４７６は、透明な部材によりドクロを模したレリーフ状に形成されており、その板厚が複雑に変化していることから、透過する光が複雑に乱屈折し、後方が視認し難くなっている。なお、詳細な図示は省略するが、サブスクリーン装飾部材４７６は、ドクロを模したレリーフ内に「ＰＵＳＨ」の文字が形成されている。

【０３５９】

サブスクリーン装飾基板４７７は、サブスクリーン４７２の裏面側に、サブスクリーン４７２との間に隙間が形成されるように取付けられており、前面側（サブスクリーン４７２を向いている側）に複数のＬＥＤ４７７ａが実装されている。サブスクリーン装飾基板４７７は、外形がサブスクリーン装飾部材４７６よりも小さく形成されており、表面が白色とされている。このサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、サブスクリーン装飾部材４７６及びサブスクリーン４７２を発光装飾させることができる。詳述すると、サブスクリーン装飾基板４７７は、ＬＥＤ４７７ａを発光させることで、ドクロの「目」の部分と「ＰＵＳＨ」の文字の部分とを、強く発光装飾させることができる。

【０３６０】

また、サブスクリーン装飾基板４７７は、サブスクリーン４７２に対して比較的接近させて配置していると共に、サブスクリーン４７２との間に光を拡散させる部材を備えていないことから、ＬＥＤ４７７ａを発光させると、ＬＥＤ４７７ａの点光源を遊技者が認識することができるようになっている。更に、サブスクリーン装飾基板４７７は、プロジェクタ５００からの光を遮ることができる。従って、プロジェクタ５００によって、サブスクリーン４７２にサブスクリーン装飾基板４７７の影を投影させることができる。

【０３６１】

周縁装飾部材４７８は、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａの一部と同じ形状に形成されており、周縁装飾部４７２ａと同様に四角錘状の凹凸が円弧の周方向に複数列設されている。

【０３６２】

上述したように、スクリーンユニット４７０は、メインスクリーン４７１とサブスクリーン４７２のように、互いに異なる二つのスクリーンを備えている。メインスクリーン４７１は、プロジェクタ５００から演出画像が半円筒状の全面に亘って投影され、プロジェクタ５００からの投影により遊技者に注目される演出画像の表示を目的としている。一方、サブスクリーン４７２は、プロジェクタ５００からの演出画像が、裏側中央のサブスクリーン装飾基板４７７の存在により、中央のサブスクリーン装飾部材４７６の周囲を形成している狭い範囲（メインスクリーン４７１よりも狭い範囲）に投影され、サブスクリーン装飾部材４７６の周囲を華やかに彩る演出画像の表示を目的としていると共に、ＬＥＤ

４７７ａを用いたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾による遊技者への操作ボタン４１０の押圧操作の促しを目的としている。

【０３６３】

［３－４ｇ－５ｂ．上部軸受部材及び下部軸受部材］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における前方へ開放されている上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆの前側を閉鎖するように、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面に取付けられるものである。また、上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆに、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３及び下軸部材４７４を夫々前方から挿入させた状態で、ユニットベース４５１の前面に取付けることで、上軸部材４７３及び下軸部材４７４を第二ベースユニット４５０に対して回転可能に取付けることができる。

【０３６４】

上部軸受部材４８０は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の本体部４５１ａの上部に、前方側が開放されている上軸受部４５１ｅの前方側を閉鎖するように取付けられる軸受部材４８１と、軸受部材４８１の上部前面に取付けられるフレームトップレンズ装飾基板４８２と、を備えている。軸受部材４８１は、左右方向中央が最も深くなるように、後面から前方へ向かって円弧状に窪んでいる凹部４８１ａを有している。上部軸受部材４８０における軸受部材４８１の凹部４８１ａは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３の軸芯を中心とした円弧状に窪んでおり、内部にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが挿入配置されていると共に、凹部４８１ａの円弧の両端にユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇが位置している。この円弧状に窪んだ凹部４８１ａにより、作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが、一対の回動規制部４５１ｇの間で良好に回動することができる。

【０３６５】

上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２は、表面側に複数のＬＥＤが実装されており、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に位置している。これにより、フレームトップレンズ装飾基板４８２のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０３６６】

下部軸受部材４８５は、略平板状に形成されており、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に、下軸受部４５１ｆの前方を閉鎖するように取付けられる。スクリーンユニット４７０の下軸部材４７４を、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の下軸受部４５１ｆに挿入させた状態で、下部軸受部材４８５をユニットベース４５１の前面に取付けることで、下軸部材４７４を回転可能に取付けることができる。

【０３６７】

［３－４ｇ－５ｃ．回動駆動ユニット］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの回動駆動ユニット４９０について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。回動駆動ユニット４９０は第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の上面に取付けられ、スクリーンユニット４７０を回動駆動させることができるものである。回動駆動ユニット４９０は、ユニットベース４５１の上面に取付けられ内部が中空のユニットケース４９１と、ユニットケース４９１の下面に取付けられており回転軸がユニットケース４９１内に突出している切替駆動モータ４９２と、切替駆動モータの回転軸に固定されている平歯車状の駆動ギア（図示は省略）と、駆動ギアと噛合しておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア（図示は省略）と、第一伝達ギアと噛合していると共にスクリーンユニット４７０

における作動ギア部材４７５のギア歯４７５ａと噛合可能とされておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア４９５と、を備えている。

【０３６８】

回動駆動ユニット４９０は、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、第二伝達ギア４９５が、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５ａと噛合している。回動駆動ユニット４９０は、切替駆動モータ４９２を回転駆動させることで、駆動ギア、第一伝達ギア、第二伝達ギア４９５、及びギア歯４７５ａを介してスクリーンユニット４７０を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０３６９】

［３－４ｇ－５ｄ．プロジェクタ］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ５００は、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の半球状のカバー部４５１ｂ内に配置されており、プロジェクタ取付部材５０５を介してユニットベース４５１の後側に取付けられている。プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２へ向かって演出画像を照射することで、メインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に演出画像を投影表示させることができる。

【０３７０】

プロジェクタ５００は、プロジェクタ取付部材５０５に取付けられる立方体状のプロジェクタ本体５０１と、プロジェクタ本体５０１から円柱状に前方へ突出しており前端から演出画像を前方へ照射するレンズ部５０２と、を備えている。

【０３７１】

このプロジェクタ５００は、プロジェクタ本体５０１の後部がプロジェクタ取付部材５０５に取付けられ、レンズ部５０２及びプロジェクタ本体５０１が、ユニットベース４５１の貫通口４５１ｃを後側から通って、カバー部４５１ｂ内に配置されるように取付けられる。

【０３７２】

プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の略前面に亘って演出画像を投影させることができ、演出画像として、静止画や動画を投影表示させることができる。このプロジェクタ５００は、市販の液晶型プロジェクタとされており、自動焦点機能を有している。

【０３７３】

［３－４ｇ－５ｅ．プロジェクタ取付部材］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ取付部材５０５について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ取付部材５０５は、前方が開放された箱状に形成されており、内部にプロジェクタ５００が取付けられると共に、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられるものである。このプロジェクタ取付部材５０５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられることで、ユニットベース４５１のカバー部４５１ｂ及びプロジェクタ５００の後側を覆うことができる。

【０３７４】

プロジェクタ取付部材５０５は、底壁が水平方向に延びていると共に、後壁が垂直方向に延びており、プロジェクタ５００を、操作ボタン４１０の傾きと一致するように傾斜させた状態で取付けることができる。プロジェクタ取付部材５０５の後壁には、前後に貫通している複数のスリット５０５ａが形成されており、プロジェクタ５００から放出される熱を、スリット５０５ａを通して外部へ排出させることができる。

【０３７５】

プロジェクタ取付部材５０５の正面視右側面には、第二演出操作ユニット中継基板５１５及び中継基板カバー５１６が取付けられる。

【０３７６】

［３－４ｇ－５ｆ．上部カバー及び回転検知センサ］
扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部カバー５０６及び回転検知センサ５０７について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。上部カバー５０６は、スクリーンユニット４７０の作動ギア部材４７５の上方を覆うように、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の本体部４５１ａの上面に取付けられている。回転検知センサ５０７は、スクリーンユニット４７０の回転位置を検知するためのものであり、上部カバー５０６の下面に、互いに離間している状態で二つ取付けられている。
【０３７７】
二つの回転検知センサ５０７は、詳細な図示は省略するが、スクリーンユニット４７０の回転軸を中心にして周方向へ互いに９０度の回転角度離れた位置に取付けられており、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５の検知片４７５ｃを検知することができる。具体的には、二つの回転検知センサ５０７は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１が前方を向いている第一位置の時の検知片４７５ｃと、サブスクリーン４７２が前方を向いている第二位置の時の検知片４７５ｃと、を夫々検知することができる。これら二つの回転検知センサ５０７による検知片４７５ｃの検知信号に基づいて、回動駆動ユニット４９０の切替駆動モータ４９２の回転駆動が制御されている。
【０３７８】
［３－４ｇ－６．緩衝ユニット］
第二演出操作ユニット４００Ａの緩衝ユニット５１０について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。緩衝ユニット５１０は、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの下面に取付けられており、上方から第二演出操作ユニット４００Ａが叩かれたりした時の衝撃を緩和させて、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉに伝達させるものである。
【０３７９】
緩衝ユニット５１０は、上面が扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるプロジェクタ取付部材５０５の下面に接触している弾性変形可能な平板状の緩衝部材５１１と、緩衝部材５１１の下面に当接しておりプロジェクタ取付部材５０５の下面に対して相対的に接近可能に取付けられている緩衝ベース５１２と、を備えている。
【０３８０】
緩衝ユニット５１０の緩衝ベース５１２は、緩衝部材５１１の下面と当接する平板状の本体部５１２ａと、本体部５１２ａの正面視左右両端辺から下方へ突出していると共に前後方向に延びている脚片部５１２ｂと、を備えている。緩衝ベース５１２の脚片部５１２ｂは、扉枠３に組立てた状態で、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に接触している。
【０３８１】
この緩衝ユニット５１０は、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、ベースユニット４３０に取付けられているプロジェクタ取付部材５０５が、緩衝ユニット５１０における緩衝部材５１１を圧縮するように下方へ移動する。この緩衝部材５１１が圧縮されることで衝撃が吸収される。そして、プロジェクタ取付部材５０５が更に下方へ移動した場合、プロジェクタ取付部材５０５の下面が緩衝ベース５１２の本体部５１２ａの上面側に当接する。この本体部５１２ａは、左右の脚片部５１２ｂによって、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に隙間が形成されているため、本体部５１２ａの上面側に当接しているプロジェクタ取付部材５０５が更に下方へ移動すると、平板状の本体部５１２ａが撓むこととなり、本体部５１２ａの撓みによっても衝撃を吸収することができる。更に、プロジェクタ取付部材５０５が下方へ移動した場合、下方へ撓んでいる本体部５１２ａの下面が、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に当接し、本体部５１２ａのこれ以上の撓みが規制され、衝撃が皿ユニットカバー３２６に伝達されることとなる。このように、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を上方から強く叩かれた時に、その衝撃を多段階で吸収させることができ、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニ

ット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。

【０３８２】

［３－４ｇ－７．第二演出操作ユニットの作用効果］

第二演出操作ユニット４００Ａの作用効果について、主に図７４乃至図７７等を参照して詳細に説明する。図７４（ａ）はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、（ｂ）はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。また、図７５（ａ）は図７４（ａ）におけるＪ－Ｊ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図７４（ｂ）におけるＫ－Ｋ線で切断した断面図である。図７６（ａ）はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図７７（ａ）はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。

【０３８３】

本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａは、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて、操作ボタン４１０内の装飾を変化させたり、操作ボタン４１０内に演出画像を表示させたりして遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に操作ボタン４１０の操作をさせて、遊技者に提示した演出に遊技者を参加させることができるものである。

【０３８４】

第二演出操作ユニット４００Ａは、全高が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、第二演出操作ユニット４００Ａは、全幅が、扉枠３の全幅の１／３よりも若干大きく形成されている。第二演出操作ユニット４００Ａは、正面視において、遊技領域５ａ（扉枠ベース１１０の貫通口１１１）の下側で左右方向の中央に配置されている。

【０３８５】

第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の上部が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられている。第二演出操作ユニット４００Ａは、皿ユニット３２０に取付けた状態で、緩衝ユニット５１０の緩衝ベース５１２の脚片部５１２ｂの下端と、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６における底板部３２６ｉの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、第二演出操作ユニット４００Ａは、皿ユニット３２０に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【０３８６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５の前面（フレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、第二演出操作ユニット４００Ａは、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ（図６７を参照）が、垂直線に対して６３度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機１を用いて遊技を行うために本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット３２０（第二演出操作ユニット４００Ａ）の上方に配置されている遊技盤５における遊技領域５ａの中央の前方に位置するため、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ

が、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域５ａから第二演出操作ユニット４００Ａ（操作ボタン４１０）に視線を落すと、操作ボタン４１０がその正面視（中心軸線ＣＬと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ等を良好な状態で視認することができる。

【０３８７】

第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の四つの筒状のガイドボス部４１３ｃに、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の四つの保持孔４５１ｄ内に保持されているボタンシャフト４５２が夫々摺動可能に挿入されていると共に、図示しない操作ボタンバネにより前方へ付勢されている。第二演出操作ユニット４００Ａは、通常の状態（操作ボタン４１０を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネの付勢力によって、操作ボタン４１０のボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の後面における中央開口部４１６ａ付近の部位に当接している。

【０３８８】

第二演出操作ユニット４００Ａは、通常の状態では、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内周付近から中央側（中心軸線ＣＬ側）が、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン４１０における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している（図６７等を参照）。

【０３８９】

因みに、本実施形態では、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの直径が約１５ｃｍとされており、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ方向に対してボタンレンズ４１１（の前端）がフレームユニット４１５の前面から約４ｃｍ前方へ突出している。

【０３９０】

通常の状態において、遊技者が第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０を押圧操作すると、操作ボタン４１０は操作ボタンバネの付勢力に抗して中心軸線ＣＬに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン４１０の後端が第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。

【０３９１】

この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる（図６１を参照）。

【０３９２】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【０３９３】
これに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。
【０３９４】
また、第二演出操作ユニット４００Ａは、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、第二演出操作ユニット４００Ａが吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４ａを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、第二演出操作ユニット４００Ａ全体を大きく（強く）振動させることができ、第二演出操作ユニット４００Ａに触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（操作ボタン４１０の上部付近）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。
【０３９５】
更に、第二演出操作ユニット４００Ａは、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ取付部材５０５と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に、緩衝ユニット５１０を配置している。この緩衝ユニット５１０は、弾性変形可能な緩衝部材５１１を備えていると共に、緩衝部材５１１が上面に当接している本体部５１２ａと皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉとの間に隙間を形成しているため、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、その衝撃を緩衝部材５１１の弾性変形（圧縮）や、緩衝ベース５１２の本体部５１２ａの撓み等によって多段階に吸収することができ、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させることができ、第二演出操作ユニット４００Ａ等の破損を防止することができる。従って、第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０やフレームユニット４１５が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や第二演出操作ユニット４００Ａ等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。
【０３９６】
なお、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。
【０３９７】
また、第二演出操作ユニット４００Ａは、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、及びフレームトップレンズ４１８が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、及び第二ボタン装飾部４１１ｂ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる（図６３を参照）。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなってい

る。
【０３９８】
第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの複数の三角形を組合せた凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０の外周との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、スクリーンユニット４７０の外側や後側の部材を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。
【０３９９】
詳述すると、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２等の外周よりも外側で後方側（奥側）にある第二ベースユニット４５０、上軸部材４７３及び下軸部材４７４等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、メインスクリーン４７１の上下外側、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａの左外側、及び周縁装飾部材４７８の右外側の部位（図７６において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。
【０４００】
一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、サブスクリーン４７２の円環状の周縁装飾部４７２ａの外側の部位（図７６において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等を備えているため、メインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン４１０、ひいては、第二演出操作ユニット４００Ａ全体の見栄えを良くすることができる。
【０４０１】
また、メインスクリーン４７１が前方を向いている第一位置の状態では、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等によって、サブスクリーン４７２のスクリーン一般部４７２ｂ及びサブスクリーン装飾部材４７６や、上軸部材４７３及び下軸部材４７４が、見え難くなっている（図７６を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン４７２の存在や、メインスクリーン４７１が回転可能であること等に、気付き難くなるため、スクリーンユニット４７０を回転させてメインスクリーン４７１からサブスクリーン４７２に切替えると、操作ボタン４１０内において遊技者の予想を超えた動きが行われることで遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０４０２】
更に、サブスクリーン４７２が前方を向いている第二位置の状態では、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等によって、上軸部材４７３及び下軸部材４７４が見え難くなっている（図７７を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン４７２（サブスクリーン装飾部材４７６）が

回転可能であることに気付き難くなるため、サブスクリーン４７２（スクリーンユニット４７０）を回転させた時のインパクトを高めることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４０３】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０における後側に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを視認することができるボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周から中心側へ所定幅の範囲内に、複数の三角形状の面を組合せた多面体状の第一ボタン装飾部４１１ａを備えていると共に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａに、複数の四角錘を列設したサブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａや、周縁装飾部材４７８を備えている。これにより、前側に配置された三角形からなる装飾（第一ボタン装飾部４１１ａ）と後側に配置された四角形からなる装飾（周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８）とが、交差するように重なって見えることとなり、複雑な幾何学模様を遊技者に見せることができ、見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０４０４】

また、上述したように、三角形を主体とした第一ボタン装飾部４１１ａと、四角形を主体とした周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８とが、前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化するため、重なって見える幾何学模様が変化して動きのある装飾を遊技者に見せることができると共に、奥行きのある立体的な感じの装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４０５】

更に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａでは、切替駆動モータ４９２の駆動によりスクリーンユニット４７０を回動させてメインスクリーン４７１を前方へ向けたり、サブスクリーン４７２を前方へ向けたりすることができ、複数の四角形からなる装飾を変化させることができる。詳述すると、メインスクリーン４７１を前方へ向けた状態では、図７４（ａ）に示すように、周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８が左右に離間して上下に延びている状態となり、上下に列設された複数の四角錘からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１ａの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾を縦断しているような幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。一方、サブスクリーン４７２を前方へ向けた状態では、図７４（ｂ）に示すように、周縁装飾部４７２ａが円環状の延びている状態となり、環状に列設された複数の四角錘からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１ａの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾と重なった幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。従って、スクリーンユニット４７０を回動させることで、操作ボタン４１０の装飾（物理的な装飾）を変化させることができるため、装飾の変化によって遊技者の関心を操作ボタン４１０に引付けたり、装飾の変化によって遊技者にチャンスの到来等を示唆させたりすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４０６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０内に備えられている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａに、切替可能な形態の異なるスクリーン（メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２）を有したスクリーンユニット４７０と、スクリーンユニット４７０に演出画像を投影表示させるプロジェクタ５００と、を備えているため、液晶表示装置による演出画像の表示とは全く異なる演出画像を表示させることができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。詳述すると、スクリーンユニット４７０は、半円筒状のメインスクリーン４７１と、円盤状で中央にレリーフ状のサブスクリーン装飾部材４７６を有するサブスクリーン４７２とが、上軸部材４７３及び下軸部材４７４の中心軸を中心として９０度の回転角度周方向へ離間して備えられている。

【０４０７】

そして、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおいて、スクリーンユニット４７０のメイ

ンスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、半円筒状の中心軸が左右方向へ延びるように位置しており、正面から見ると上下に延びた四角形（長方形）に見える（図７４（ａ）を参照）。このメインスクリーン４７１の後方に配置されているプロジェクタ５００から演出画像を前方へ照射すると、その演出画像がメインスクリーン４７１の後面に投影され（図７５（ａ）を参照）、透光性を有する乳白色のメインスクリーン４７１を通して、前方側から投影された演出画像を視認することができる。このメインスクリーン４７１は、表面が滑らかな半円筒状に形成されていることから、演出画像が表示画面も半円筒状に湾曲している。これにより、一般的な液晶表示装置の表示画面が平面であるのに対して、メインスクリーン４７１の表示画面が半円筒状に湾曲しているため、遊技者に対して一見して従来の表示画面とは異なるものであることを認識させることができ、遊技者を驚かせることができると共に、遊技者をメインスクリーン４７１に注目させることができ、メインスクリーン４７１に投影表示される演出画像を楽しませることができる。

【０４０８】

一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、円盤状の中心軸が操作ボタン４１０の中心軸と略一致しており、正面から見ると円形の操作ボタン４１０の中央にドクロを模したサブスクリーン装飾部材４７６が位置した状態に見える（図７４（ｂ）を参照）。この状態で後方に配置されているプロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射すると、その演出画像がサブスクリーン４７２の後面に投影される。ところで、サブスクリーン４７２の後側には平板状で不透光性のサブスクリーン装飾基板４７７が取付けられているため、このサブスクリーン装飾基板４７７の部位ではプロジェクタ５００から照射された演出画像（光）が遮られることとなり、サブスクリーン４７２の後面の中央部分には、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されることとなる（図７５（ｂ）を参照）。従って、サブスクリーン４７２では、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影される中央部分を除いた外周の部分に、プロジェクタ５００からの演出画像が投影表示される。この際に、サブスクリーン装飾基板４７７の前面に実装されているＬＥＤ４７７ａを発光させると、その光によってサブスクリーン４７２の中央部分を発光装飾させることができ、サブスクリーン４７２の中央に備えられているサブスクリーン装飾部材４７６を発光装飾させることができる。また、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、プロジェクタ５００からの光によりサブスクリーン４７２の後面に投影されるサブスクリーン装飾基板４７７の影を見え難くすることができ、サブスクリーン４７２の前面側全体を明るく発光装飾させることができる。

【０４０９】

この扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた状態で、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させると共に、プロジェクタ５００から前方へ演出画像（動画）を照射させると、サブスクリーン４７２におけるサブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されていない部位、つまり、ドクロを模した装飾からなるサブスクリーン装飾部材４７６の外側の部位に、演出画像が表示され、演出画像の内側となるサブスクリーン装飾部材４７６がサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａによって発光装飾される。この状態では、固定されたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾の外側が、演出画像（動画）によって装飾されることとなり、これまでのパチンコ機における装飾部材の発光装飾とは全く異なった装飾演出を遊技者に見せることができ、遊技者に強いインパクトを与えることができると共に、サブスクリーン４７２に対して遊技者を強く注目させることができる。また、この状態では、演出画像の内側において、ＬＥＤ４７７ａの光が、演出画像の明るさよりも明るく（高輝度で）輝くため、従来の液晶表示装置では成し得ない部分的に高輝度な演出画像を表示させることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技者をより楽しませられる演出画像を表示させることができる。

【０４１０】

また、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａでは、プロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射させた状態で、前方へ向いているスクリーンを適宜方向へ回転させて、メインスク

リーン４７１からサブスクリーン４７２に変更したり、サブスクリーン４７２からメインスクリーン４７１に変更したりすると、メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２が回転している途中では、メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２におけるプロジェクタ５００の投影範囲に位置している部位に、演出画像が投影表示される。つまり、演出画像が、メインスクリーン４７１とサブスクリーン４７２とに跨るように表示される。従って、メインスクリーン４７１からサブスクリーン４７２にゆっくり変更させると、プロジェクタ５００から投影されている演出画像上に、周縁装飾部４７２ａやサブスクリーン装飾部材４７６が回転移動してくるような不思議な視覚演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４１１】

このように、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａと扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるスクリーンユニット４７０の装飾（周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８）とによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４１２】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）の後方には、前面にＬＥＤ４７７ａが実装されているサブスクリーン装飾基板４７７や前方へ演出画像等の光を照射可能なプロジェクタ５００を有する扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを備えており、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａによって操作ボタン４１０内を良好に発光装飾させることができる。

【０４１３】

また、第二演出操作ユニット４００Ａ、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、図６８に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。

【０４１４】

更に、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６ｂから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとフレーム本体４１６の外周との間に位置しており、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が内側筒部４１６ｄの内側やフレーム本体４１６の外側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを良好に発光装飾させることができる。

【０４１５】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおける上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板４

８２の前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を良好に発光装飾させることができる。

【０４１６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０を回動させることで、互いに形態の異なる表示画面を有したメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に切替えて演出画像を表示させることができ、表示画面の形状が変化する（切替わる）と言う従来のパチンコ機で有りえない演出を遊技者に提示することができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。

【０４１７】

［３－５．扉枠左サイドユニット］

扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０について、主に図７８乃至図８１を参照して詳細に説明する。図７８（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図７９は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８０は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図８１は図７８（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット５３０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２（扉枠左サイド装飾基板１６０）の前側を覆うように扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられるものである。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の正面視左側を装飾するためのものである。

【０４１８】

扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられる上下に延びた帯板状の左ユニットベース５３１と、左ユニットベース５３１の前面に取付けられている透明な帯板状の左ユニット拡散レンズ部材５３２と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の前方に配置されており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面上部に取付けられており前方へ筒枠状に突出していると共に上下に延びている左ユニット上装飾ベース５３４と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面下部に取付けられており左ユニット上装飾ベース５３４よりも短く前方へ枠状に突出している左ユニット下装飾ベース５３５と、左ユニット上装飾ベース５３４及び左ユニット下装飾ベース５３５の前側から左ユニット装飾レンズ部材の前端側を覆うように左ユニットベース５３１の前側に取付けられている透明な左ユニット装飾カバー５３６と、左ユニット装飾カバー５３６の前側に取付けられている複数の飾り部材５３７と、を備えている。

【０４１９】

扉枠左サイドユニット５３０の左ユニットベース５３１は、後側が開放された浅い箱状に形成されており、前面に前後に貫通している複数の開口部５３１ａを有している。複数の開口部５３１ａは、図示するように、円形状の穴と、上下に延びた四角形状の穴とがある。左ユニットベース５３１は、扉枠左サイド装飾基板１６０（扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２）の前面に実装されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが、複数の開口部５３１ａから前方へ臨むように、扉枠ベース１１０の前面左側に取付けられる。左ユニットベース５３１の各開口部５３１ａは、扉枠３に組立てた時に、扉枠左サイド装飾基板１６０の各ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが上下方向の略中央に位置するように夫々形成されている。この左ユニットベース５３１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４２０】

左ユニット拡散レンズ部材５３２は、透明な部材によって形成されており、上拡散レンズ部材５３２Ａと下拡散レンズ部材５３２Ｂとに上下に分割されている。左ユニット拡散

レンズ部材５３２は、左ユニットベース５３１における円形状の開口部５３１ａと対応している正面視円形の円形レンズ部５３２ａと、四角形状の開口部５３１ａと対応している正面視四角形の角形レンズ部５３２ｂと、を備えている。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠３に組立てた状態で、円形レンズ部５３２ａ及び角形レンズ部５３２ｂの中央の直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の夫々のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置するように形成されている。

【０４２１】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａは、前面及び後面が滑らかな凸レンズ状に形成されている。この円形レンズ部５３２ａによって、後方に配置されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａからの光を、点状のまま前方へ照射させることができる。この円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光によって、左ユニット装飾レンズ部材の円形装飾部を発光装飾させることができる。

【０４２２】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂは、前面中央において円錐状に後方へ窪んだ中央拡散反射部５３２ｃと、前面における中央拡散反射部５３２ｃの外側に形成されている前面拡散レンズ部５３２ｄと、後面中央（中央拡散反射部５３２ｃの直後）において湾曲面状に後方へ膨出している入力レンズ部５３２ｅと、後面における入力レンズ部５３２ｅの外側で全体的に入力レンズ部５３２ｅから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜している前方反射部５３２ｆと、を備えている。

【０４２３】

角形レンズ部５３２ｂの前面拡散レンズ部５３２ｄは、中央拡散反射部５３２ｃを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。更に詳述すると、前面拡散レンズ部５３２ｄは、半径方向に沿って切断した時の断面形状に、溝の部分が後方へ円弧状に窪んでおり、溝と溝の間の山の部分が前方へ円弧状に膨出しており、前面が滑らかな波状に形成されている。また、前面拡散レンズ部５３２ｄは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。

【０４２４】

角形レンズ部５３２ｂの前方反射部５３２ｆは、入力レンズ部５３２ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら複数の溝は、後方から前方へ向かってＶ字状に窪んでおり、最深部が円弧状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、半径方向に沿って切断した時の断面形状が、溝と溝との間の山の部分が後方へ尖った三角形状に形成されており、鋸状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、中心から遠ざかるに従って溝及び山の部分が前方へ移動するように形成されている。また、前方反射部５３２ｆは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。この周方向へ分割している放射状に延びた線は、前面拡散レンズ部５３２ｄにおける放射状に延びた分割線と一致している。

【０４２５】

この角形レンズ部５３２ｂは、扉枠３に組立てた状態で、入力レンズ部５３２ｅの直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の対応しているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置している。

【０４２６】

角形レンズ部５３２ｂは、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５３２ｅから角形レンズ部５３２ｂ内に入力される。この入力レンズ部５３２ｅは、後方へ湾曲面状（凸レンズ状）に膨出していることから、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ広がる光を、前方へ平行に進むように屈折させて、入力された光の略全てを円錐状の中央拡散反射部５３２ｃへ導くことができる。そして、中央拡散反射部５３２ｃへ導かれた光は、中央拡散反射部５３２ｃの傾斜している円錐面により、前後に延びた軸線に対して直角方向（扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と平行な方向）へ拡散するように

反射させられ、角形レンズ部５３２ｂ内をその前面に沿って中央側から外側へ向かって進むこととなる。また、中央拡散反射部５３２ｃで反射した光は、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って、中央側から外側（中央拡散反射部５３２ｃの中心線から遠ざかる方向）へ進む。

【０４２７】

角形レンズ部５３２ｂ内を扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と略平行に中央側から外側へ向かって反射した光が、鋸状の前方反射部５３２ｆに到達すると、前方反射部５３２ｆの面により前方側へ反射する。この際に、前方反射部５３２ｆは、後面が中央拡散反射部５３２ｃから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜していることから、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚が、中央から遠ざかるに従って薄くなっている（図８１を参照）。これにより、中央拡散反射部５３２ｃにおいて角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って外側へ向かって反射している光を、中心側から外側へ向かうに従って、前方反射部５３２ｆにより順次前方へ反射させることができる。

【０４２８】

そして、前方反射部５３２ｆにより前方へ向かって反射させられた光は、前面拡散レンズ部５３２ｄを通って角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射される。この際に、前面拡散レンズ部５３２ｄは、断面が波状に形成されているため、前方反射部５３２ｆで前方へ向かって反射させられた光を様々な方向へ拡散させることができ、角形レンズ部５３２ｂの前面から略均一に光を前方（左ユニット装飾レンズ部材の後面）へ照射させることができる。

【０４２９】

この角形レンズ部５３２ｂは、前面拡散レンズ部５３２ｄ及び前方反射部５３２ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、角形レンズ部５３２ｂの前面から前方へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を前方へ照射させることができる。これにより、左ユニット装飾レンズ部材における角形レンズ部５３２ｂの前方の多面装飾部を略均一に発光装飾させることができる。

【０４３０】

図示しない左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット装飾カバー５３６の前面に沿うように形成されている。左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａの前方の位置する部位に形成されている円形装飾部と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂの前方に位置する部位に形成されている多面装飾部と、を備えている。円形装飾部は、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部は、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。円形装飾部及び多面装飾部は、扉枠右サイドユニット５５０における右ユニット装飾レンズ部材５６１の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂと、同じ形状に形成されている。

【０４３１】

左ユニット装飾レンズ部材は、透明な左ユニット装飾カバー５３６を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。また、左ユニット装飾レンズ部材は、円形装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光により、多面装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射された光により、夫々発光装飾させられる。

【０４３２】

左ユニット上装飾ベース５３４は、正面視の形状が上下に延びた四角形で、前後に延びた角筒状に形成されている。左ユニット上装飾ベース５３４は、外周における下面を構成する部位が、前端側から後端側へ向かうに従って下方へ突出するように傾斜していおり、

その部位の下部が前後に貫通している。この左ユニット上装飾ベース５３４は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３３】

左ユニット下装飾ベース５３５は、正面視の形状が、上方へ開放されているコ字状に形成されている。左ユニット下装飾ベース５３５は、前端における上下方向略中央から上側が、上方へ向かうに従って後方へ移動するように後端まで傾斜している。この左ユニット下装飾ベース５３５は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３４】

左ユニット装飾カバー５３６は、扉枠左サイドユニット５３０の全高に亘って上下に延びている。左ユニット装飾カバー５３６は、上下方向の中間部が後方へ凹むように屈曲しており、左ユニット上装飾ベース５３４の前端に沿うように下部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、左ユニット下装飾ベース５３５の前端に沿うように上部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、上側のく字状の部位の下端と下側のく字状の部位の上端とを結んでいる直線状の部位と、で構成されている。

【０４３５】

左ユニット装飾カバー５３６は、上下両端が左ユニット上装飾ベース５３４の前面と、左ユニット下装飾ベース５３５の前面とに夫々取付けられる。この左ユニット装飾カバー５３６は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている左ユニット装飾レンズ部材を前方側から視認することができる。

【０４３６】

飾り部材５３７は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で左ユニット装飾カバー５３６の前面に取付けられている。飾り部材５３７は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３７】

［３－６．扉枠右サイドユニット］

扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０について、主に図８２乃至図８６等を参照して詳細に説明する。図８２（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図８３は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８４は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図８５は、図８２（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。図８６（ａ）は図８２（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図８２（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット５５０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の右側に取付けられるものである。

【０４３８】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視右側に取付けられる上下に延びた箱状の右ユニットベース５５１と、右ユニットベース５５１の前面に取付けられている扉枠右サイド装飾基板５５２と、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より左側に取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット左拡散レンズ部材５５３と、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の左側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット左装飾部材５５４と、右ユニット左装飾部材５５４の左側を覆うように右ユニット左拡散レンズ部材５５３に取付けられている透明平板状の右ユニット左カバー５５５と、を備えている。

【０４３９】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側且つ右ユニット左拡散レンズ部材５５３の正面視右側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より右側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３とに取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット右拡散レンズ部材５５６と、右ユニット右

拡散レンズ部材５５６の右側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット右装飾部材５５７と、右ユニット右装飾部材５５７の右側を覆うように右ユニット右拡散レンズ部材５５６に取付けられている透明平板状の右ユニット右カバーと５５８、を備えている。

【０４４０】

更に、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３と右ユニット右拡散レンズ部材５５６との間に配置されており前方及び右方が開放された上下方向及び前後方向に延びた浅い箱状で不透光性の右ユニット左遮光部材５５９と、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の左側で右ユニット左遮光部材５５９の開放されている右側を閉鎖するように取付けられている不透光性で平板状の右ユニット右遮光部材５６０と、を備えている。

【０４４１】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する右ユニット装飾レンズ部材５６１と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端側を覆うように右ユニットベース５５１の前面に取付けられている前後に貫通した枠状の右ユニット装飾ベース５６２と、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖するように右ユニット装飾ベース５６２の前側に取付けられている透明な右ユニットカバー５６３と、右ユニットカバー５６３の前側に取付けられている複数の飾り部材５６４と、を備えている。なお、図示は省略するが、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニットベース５５１を上下に貫通するように取付けられ、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板と、扉枠トップユニット５７０の扉枠トップユニット中継基板５８９とを接続するための接続ケーブルを備えている。

【０４４２】

扉枠右サイドユニット５５０の右ユニットベース５５１は、正面視の形状が上下に長く延びた四角形で、前後に短く角筒状に延びており、前後方向の中央付近が閉鎖された箱状に形成されている。この右ユニットベース５５１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４４３】

扉枠右サイド装飾基板５５２は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、前面における左右方向中央より左側に実装されている複数の左ＬＥＤ５５２ａと、前面における左右方向中央より右側に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂと、前面における左右方向中央に実装されている複数の中ＬＥＤ５５２ｃと、を備えている。扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を介して右ユニット左装飾部材５５４を発光装飾させためのものである。また、右ＬＥＤ５５２ｂは、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を介して右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させるためのものである。中ＬＥＤ５５２ｃは、右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させるためのものである。

【０４４４】

扉枠右サイド装飾基板５５２は、前後両面が白色に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、上側の扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａと、下側の扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂとに上下に分割されている。図示は省略するが、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂは、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板に接続されており、扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａは、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂに接続されている。

【０４４５】

右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５３ａと、本体部５５３ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５３ｂと、後壁部５５３ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５３ｃと、本体部５５３ａの正面視左面側にお

いて右ユニット左装飾部材５５４を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５３ｄと、本体部５５３ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５３ｅと、本体部５５３ａの正面視右面側において各入力レンズ部５５３ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５３ｆと、を備えている。

【０４４６】

右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されている。また、本体部５５３ａは、図８６に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視右方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５３ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０４４７】

後壁部５５３ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その右端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５３ｂの右端には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の後壁部５５６ｂの左端が当接する。

【０４４８】

複数の切欠部５５３ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５３ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨んでおり、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４４９】

収容凹部５５３ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット左装飾部材５５４の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット左装飾部材５５４を収容することができる。

【０４５０】

複数の入力レンズ部５５３ｅは、本体部５５３ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５３ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５３ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａの直前に夫々位置している。これにより、左ＬＥＤ５５２ａからの光を、本体部５５３ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０４５１】

側面反射部５５３ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５３ｅに近い側の面が本体部５５３ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５３ｅから遠い側の面が本体部５５３ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５３ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０４５２】

この右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５

５２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５３ｅの後面から右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５３ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により左ＬＥＤ５５２ａからの光が広がるように屈折し、本体部５５３ａ内において、各入力レンズ部５５３ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【０４５３】

本体部５５３ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視右方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている左ＬＥＤ５５２ａから照射されて入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に入射された光が、本体部５５３ａ内の平坦な左面に当たることとなる。しかしながら、左ＬＥＤ５５２ａからの直接光は、本体部５５３ａの左面に対する入射角度の関係で、本体部５５３ａの左面から外部へ放射されることはなく、左面の内面で側面反射部５５３ｆ側へ反射することとなる。

【０４５４】

そして、入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５３ｆに当たることで正面視左方へ反射し、本体部５５３ａの左面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５３ａの右面（側面反射部５５３ｆ）からも外方（正面視右方）へ光が照射されるが、本体部５５３ａの右側に配置されている右ユニット左遮光部材５５９が白色の部材とされているため、右ユニット左遮光部材５５９の左面が明るく照らされることとなり、右ユニット左遮光部材５５９で反射した間接光が本体部５５３ａを通って左方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５３ａの左面からは、本体部５５３ａ内において側面反射部５５３ｆにより左方へ反射された光と、側面反射部５５３ｆから右方へ照射されて右ユニット左遮光部材５５９の左面で左方へ反射して本体部５５３ａを通過した光とが、左方へ照射されるため、本体部５５３ａの左側に取付けられている右ユニット左装飾部材５５４を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０４５５】

また、側面反射部５５３ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５３ａの左面から外方（左方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を左方へ照射させることができる。これにより、本体部５５３ａの左面の収容凹部５５３ｄに収容されている右ユニット左装飾部材５５４を、略均一に発光装飾させることができる。

【０４５６】

なお、右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、透明な部材により形成されているため、本体部５５３ａの正面視左側（収容凹部５５３ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５３ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット左装飾部材５５４において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット左拡散レンズ部材５５３の側面反射部５５３ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット左装飾部材５５４における透明な部分を側面反射部５５３ｆによって装飾することができる。

【０４５７】

右ユニット左装飾部材５５４は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット左カバー５５５は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット左装飾部材５５４の外面を保護している。

【０４５８】

右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３とは略左右対称に形成されており、同じような構成を備えている。詳述すると、右ユニット右拡散レ

ンズ部材５５６は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５６ａと、本体部５５６ａの後辺から正面視左方へ短く平板状に突出している後壁部５５６ｂと、後壁部５５６ｂの正面視左端側から右方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５６ｃと、本体部５５６ａの正面視右面側において右ユニット右装飾部材５５７を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５６ｄと、本体部５５６ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５６ｅと、本体部５５６ａの正面視左面側において各入力レンズ部５５６ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５６ｆと、を備えている。

【０４５９】

右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａと外形が略同じ形状に形成されている。また、本体部５５６ａは、図８６に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視左方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５６ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０４６０】

後壁部５５６ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５６ｂの左端には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の後壁部５５３ｂの右端が当接する。

【０４６１】

複数の切欠部５５６ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５６ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の複数の切欠部５５３ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の切欠部５５３ｃと、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の切欠部５５６ｃとで、前後に貫通している四角い開口部が形成され、その開口部から扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４６２】

収容凹部５５６ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット右装飾部材５５７の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット右装飾部材５５７を収容することができる。

【０４６３】

複数の入力レンズ部５５６ｅは、本体部５５６ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５６ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５６ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂの直前に夫々位置している。これにより、右ＬＥＤ５５２ｂからの光を、本体部５５６ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０４６４】

側面反射部５５６ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５６ｅに近い側の面が本体部５５６ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５６ｅから遠い側の面が本体部５５６ａの面に対して垂

直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５６ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０４６５】

この右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５６ｅの後面から右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５６ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により右ＬＥＤ５５２ｂからの光が広がるように屈折し、本体部５５６ａ内において、各入力レンズ部５５６ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【０４６６】

本体部５５６ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視左方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂから照射されて入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に入射された光が、本体部５５６ａ内の平坦な右面に当ることとなる。しかしながら、右ＬＥＤ５５２ｂからの直接光は、本体部５５６ａの右面に対する入射角度の関係で、本体部５５６ａの左面から外部へ放射されることはなく、右面の内面で側面反射部５５６ｆ側へ反射することとなる。

【０４６７】

そして、入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５６ｆに当ることで正面視右方へ反射し、本体部５５６ａの右面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５６ａの右面（側面反射部５５６ｆ）からも外方（正面視左方）へ光が照射されるが、本体部５５６ａの左側に配置されている右ユニット右遮光部材５６０が白色の部材とされているため、右ユニット右遮光部材５６０の右面が明るく照らされることとなり、右ユニット右遮光部材５６０で反射した間接光が本体部５５６ａを通って右方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５６ａの右面からは、本体部５５６ａ内において側面反射部５５６ｆにより右方へ反射された光と、側面反射部５５６ｆから左方へ照射されて右ユニット右遮光部材５６０の右面で右方へ反射して本体部５５６ａを通過した光とが、右方へ照射されるため、本体部５５６ａの右側に取付けられている右ユニット右装飾部材５５７を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０４６８】

また、側面反射部５５６ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５６ａの右面から外方（右方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を右方へ照射させることができる。これにより、本体部５５６ａの右面の収容凹部５５６ｄに収容されている右ユニット右装飾部材５５７を、略均一に発光装飾させることができる。

【０４６９】

なお、右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、透明な部材により形成されているため、本体部５５６ａの正面視右側（収容凹部５５６ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５６ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット右装飾部材５５７において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面反射部５５６ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット右装飾部材５５７における透明な部分を側面反射部５５６ｆによって装飾することができる。

【０４７０】

右ユニット右装飾部材５５７は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット右カバー５５８は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット右装飾部材５５７の外面を保護している。右ユニット右装飾部材５５７及び右ユニット右カバー５５８は、右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット左カバー５５５とは、略左右対称に形成されている。また、右ユニット左装飾部材５５４と右ユニット右装飾部材５５７とに施される装飾は、同じ装飾であっても良いし、異なる装飾であっても良い。

【０４７１】

右ユニット左遮光部材５５９は、側面視の形状が右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面視の形状と、略同じ形状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、前方及び右方が開放された浅い箱状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５９ａと、本体部５５９ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５９ｂと、後壁部５５９ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５９ｃと、本体部５５９ａの右面から右方へ延出していると共に後壁部５５９ｂから本体部５５９ａの前端まで延びている平板状の複数の補強部５５９ｄと、を備えている。

【０４７２】

右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと外形が略同じ形状に形成されている。

【０４７３】

後壁部５５９ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央よりも右側へ延出している。この後壁部５５９ｂの右端には、右ユニット右遮光部材５６０の左面が当接する。

【０４７４】

複数の切欠部５５９ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５９ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の複数の切欠部５５３ｃ，５５６ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５９ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４７５】

複数の補強部５５９ｄは、左右の幅と略同じ高さで上下方向に離間している一対の補強部５５９ｄを一組として、上下方向へ所定距離離間して三組備えられている。各組の補強部５５９ｄは、右ユニットカバー５６３に取付けられる飾り部材５６４の後方となる位置に夫々形成されている。これら複数の補強部５５９ｄによって、扉枠右サイドユニット５５０の全体の強度・剛性を高めている。

【０４７６】

右ユニット右遮光部材５６０は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左遮光部材５５９における本体部５５９ａと略同じ形状に形成されている。右ユニット右遮光部材５６０は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、浅い箱状に形成されている右ユニット左遮光部材５５９の右方へ開放されている右側開口を閉鎖している。

【０４７７】

右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、白色の部材によって夫々形成されている。右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、図８６に示すように、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、夫々の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０が、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと近接するように配置されている。これにより、右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士が左右方向に離間しており、左右方向に所定幅で上下方向及び前後方向に延びた空間を形成している。この右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士の間に形成された空間を通して、扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃから前方へ放射された光が、右ユニット装飾レンズ部材５６１の後側に照射される。

【０４７８】

また、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、不透光性の部材によって形成されており、扉枠右サイド装飾基板５５２における左ＬＥＤ５５２ａ、中ＬＥＤ５５２ｃ、右ＬＥＤ５５２ｂから夫々前方へ照射される光が、互いに干渉するのを防止しており、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を、夫々対応している左ＬＥＤ５５２ａ、右ＬＥＤ５５２ｂ、及び中ＬＥＤ５５２ｃによってのみ発光装飾させることができる。

【０４７９】

更に、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、三組の補強部５５９ｄによって内部空間が上下方向へ四つに分割されているため、分割された夫々の空間の後側に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、各空間同士の間で光が干渉しないようにすることができ、右ユニット装飾レンズ部材５６１の各空間の前方に位置している部位を、夫々独立して発光装飾させることができる。つまり、扉枠右サイドユニット５５０の前端側において、上下方向へ複数（四つ）の領域に分割して夫々を独立して発光装飾させることができる。

【０４８０】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、正面視において円形状に形成されている円形装飾部５６１ａと、上下に延びており複数の多面体が形成されている多面装飾部５６１ｂと、を備えている。円形装飾部５６１ａは、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部５６１ｂは、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。

【０４８１】

詳述すると、右ユニット装飾レンズ部材５６１は、複数の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂが、右ユニット左遮光部材５５９における三組の補強部５５９ｄによって四つに分割されている夫々の空間の前方に位置する部位において、上から三つの部位では、上下方向の中央に配置された円形装飾部５６１ａの上下両側に一つずつ多面装飾部５６１ｂが配置され、最も下側の部位では、多面装飾部５６１ｂのみが配置されるように形成されている。

【０４８２】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、透明な右ユニットカバー５６３を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。この右ユニット装飾レンズ部材５６１は、後方に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、発光装飾させられる。

【０４８３】

右ユニット装飾ベース５６２は、前後方向に貫通している筒枠状に形成されている。右

ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端及び上端の形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６における前端付近の左右両外側と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側を被覆可能に形成されている。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット装飾ベース５６２の前端よりも、右ユニット装飾レンズ部材５６１の前端が、僅かに前方へ突出している。この右ユニット装飾ベース５６２は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４８４】

右ユニットカバー５６３は、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖可能に形成されている。この右ユニットカバー５６３は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている右ユニット装飾レンズ部材５６１を前方側から視認することができる。

【０４８５】

飾り部材５６４は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で右ユニットカバー５６３の前面に取付けられている。飾り部材５６４は、不透光性の部材によって形成されている。三つの飾り部材５６４は、右ユニットカバー５６３（右ユニット装飾レンズ部材５６１）を上下方向へ四つに分割している。

【０４８６】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく板状に突出しており、皿ユニット３２０の上皿３２１前端よりも若干前方へ突出している。扉枠右サイドユニット５５０は、突出した左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を夫々独立して発光装飾させることができる。

【０４８７】

扉枠右サイドユニット５５０は、板状で前方へ大きく突出していることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができる。これにより、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているように錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。

【０４８８】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、前方へ大きく突出していることから、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホールでは、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向からでも視認することができ、多数のパチンコ機が列設されている遊技ホール内において本パチンコ機１を目立たせることができる。従って、扉枠右サイドユニット５５０の左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させると、本パチンコ機１の前方近辺に位置していなくても、遠くから本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４８９】

更に、扉枠右サイドユニット５５０において、本パチンコ機１で球詰りやエラー等の不具合が発生した時に、左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１等を特有な態様で発光装飾させるようにすることで、遊技ホールの係員に対して、不具合の発生を直ち知らせて認識させることができ、不具合に対して素早い対応ができるようになることから、遊技者の遊技の中断を早期に解決させることができ、遊技者が苛立ちを覚えて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４９０】

［３－７．扉枠トップユニット］

扉枠３の扉枠トップユニット５７０について、主に図８７乃至図９０等を参照して詳細に説明する。図８７（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。図８８は扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８９は扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図９０は、図８７におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられるものである。

【０４９１】

扉枠トップユニット５７０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側で左右方向の中央に取付けられる中央ベース５７１と、中央ベース５７１の左右両側に取付けられていると共に扉枠ベース１１０の前面に取付けられる一対のサイドベース５７２と、一対のサイドベース５７２の前面に夫々取付けられている一対の上部スピーカ５７３と、左右に延びていると共に左右方向中央が前方へ突出しており後方が開放されている箱状で一対の上部スピーカ５７３の前方位置で前後に夫々貫通している一対の開口部５７４ａ、及び一対の開口部５７４ａよりも左右方向中央寄りの位置から中央付近まで夫々延びていると共に前後方向に夫々貫通しており上下に離間している複数（左右夫々三つ）のスリット５７４ｂを有しており中央ベース５７１及び一対のサイドベース５７２の前側に取付けられているユニット本体５７４と、一対の上部スピーカ５７３の前側に夫々配置されており一対の開口部５７４ａを閉鎖するようにユニット本体５７４の後側に取付けられているパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５と、を備えている。

【０４９２】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４の左右方向中央の前面に取付けられており透光性を有しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中装飾基板５７７と、ユニット本体５７４の前面に夫々取付けられており複数のスリット５７４ｂを夫々閉鎖していると共にトップ中装飾部材５７６の左右両端付近から開口部５７４ａを跨いでユニット本体５７４の左右両端付近まで夫々延びている透明平板状の複数（左右夫々三つ）の導光部材５７８と、ユニット本体５７４の前面におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８の前面を夫々覆っているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の前方側からユニット本体５７４の前面に夫々取付けられておりトップ中装飾部材５７６の左右両側から開口部５７４ａの中央側端部付近まで夫々延びているトップ中左装飾部材５８１及びトップ中右装飾部材５８２と、を備えている。

【０４９３】

更に、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４における左右両側面の内側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８における左右方向外側端部と対面する部位にＬＥＤが夫々実装されている扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ右装飾基板５８４と、ユニット本体５７４の後側における左右方向中央の左右両側に夫々形成されている複数（三つの）スリット５７４ｂが貫通している部位に夫々取付けられている一対の基板ベース５８５と、一対の基板ベース５８５の前面に夫々取付けられておりユニット本体５７４のスリット５７４ｂの後方となる位置に複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａが実装されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の前側でユニット本体５７４の後側に夫々取付けられている一対の遮光部材５８８と、を備えている。

【０４９４】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４内で中央ベース５７１の前面に取付けられている扉枠トップユニット中継基板５８９と、扉枠トップユニット中継基板

５８９の前面を覆うように中央ベース５７１に取付けられている中継基板カバー５９０と、ユニット本体５７４の上開口部５７４ｃを閉鎖するようにユニット本体５７４に取付けられている上カバー５９１と、ユニット本体５７４の下開口部５７４ｄを閉鎖するようにユニット本体５７４に取付けられている下カバー５９２と、を備えている。

【０４９５】

扉枠トップユニット５７０の中央ベース５７１は、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されている。中央ベース５７１は、後方へ開放された箱状に形成されており、前面に複数の凹凸を備えている。一対のサイドベース５７２は、中央ベース５７１の左右両端に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、各サイドベース５７２の前面に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、夫々の前面が、扉枠トップユニット５７０の左右方向中央に近い側が後方へ移動するように斜めに取付けられている。一対の上部スピーカ５７３は、広い周波数帯域で音を出力可能なフルレンジのコーン型スピーカである。

【０４９６】

ユニット本体５７４は、正面視の形状が、左右に延びた四角形の左右両端付近の下部が下方へ膨出したような形状に形成されている。換言すると、ユニット本体５７４は、正面視の形状が、左右に延びた四角形を、下端辺側から上方へ窄まった台形で切欠いたような形状に形成されている。ユニット本体５７４は、平面視の形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前端辺側における左右方向中央を中心にして全幅（左右方向の長さ）の約１／２の部位を底辺とする前方へ突出した台形と、その台形の前端辺を長辺として前方へ短く突出した四角形と、を組合せた形状に形成されている。従って、ユニット本体５７４は、前面における左右方向中央で前方へ突出した部位の両側が、ユニット本体５７４の左右方向の端部と、前方へ突出した部位の前端の左右方向端部とを結んだ線よりも後方に位置している（窪んでいる）。

【０４９７】

ユニット本体５７４は、前面における左右方向両端から前方へ突出している部位よりも外側の位置までの部位に、夫々前後に貫通している開口部５７４ａが形成されている。また、ユニット本体５７４は、前面における前方へ台形に突出している部位の斜めに延びている部位に、上下方向に所定の高さで左右に延びていると共に前後方向に貫通している複数のスリット５７４ｂが形成されている。複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体５７４の前面における前方へ斜めに延びている部位の前端付近から、開口部５７４ａ付近まで左右に延びている。また、複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体５７４の左右方向中央の両側に、夫々三つずつ上下に離間して形成されている。

【０４９８】

また、ユニット本体５７４は、上面における左右方向中央に後端から前方へ向かって四角く切欠かれた上開口部５７４ｃと、下面における左右方向に後端から前方へ向かって切欠かれた下開口部５７４ｄと、を備えている。ユニット本体５７４の上開口部５７４ｃは、上カバー５９１によって閉鎖される。また、下開口部５７４ｄは、下カバー５９２によって閉鎖される。

【０４９９】

また、ユニット本体５７４は、左右両端に上下に延びたトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆを備えている。トップ左装飾部５７４ｅは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面と、前後方向が略同じ位置に形成されている。トップ右装飾部５７４ｆは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面よりも前方へ位置するように形成されている。このユニット本体５７４は、不透光性の部材によって形成されている。

【０５００】

トップ中装飾部材５７６は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央において前方へ突出している部位の前端に取付けられる。トップ中装飾部材５７６は、正面視の形状が、略正方形の下辺の左右方向中央部が下方へ位置するように折れ曲がった変五角形と

、変五角形の左右の辺の上端から左右方向外側へ延出した辺の先端と辺五角形の左右の辺の下端とを結んだ略直角三角形と、を組合せたような形状に形成されている。トップ中装飾部材５７６は、前面の変五角形の部位が、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。このトップ中装飾部材５７６は、全体が立体的な形状に形成されており、透光性を有している。

【０５０１】

扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面が、トップ中装飾部材５７６の変五角形の部位の前面と沿うように、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜した状態でトップ中装飾部材５７６の後側に取付けられる。扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで、トップ中装飾部材５７６を発光装飾させることができる。

【０５０２】

導光部材５７８は、透明な部材によって形成されている。導光部材５７８は、ユニット本体５７４の前面における前方へ突出した部位の前端よりも左右両外側の形状に沿った形状に形成されている。ユニット本体５７４の左右方向両端部に近い側を端部側、中央に近い側を中央側として説明すると、導光部材５７８は、端部側から中央側へ向かって左右に真っすぐに延びた直部５７８ａと、直部５７８ａの中央側の端部側から中央側へ向かうに従って前方へ移動するように半径の大きい円弧状に延びた円弧部５７８ｂと、で構成されている。導光部材５７８は、直部５７８ａでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも小さく形成されており、円弧部５７８ｂでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも大きく形成されている。また、導光部材５７８は、直部５７８ａでは上下方向の高さが一定に形成されており、円弧部５７８ｂでは上下方向の高さが中央側へ向かうに従って小さくなるように形成されている。導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、直部５７８ａがユニット本体５７４の開口部５７４ａの直前に位置し、円弧部５７８ｂがユニット本体５７４のスリット５７４ｂを前方から閉鎖している。

【０５０３】

導光部材５７８は、直部５７８ａの後面に形成されている鋸状の凹凸からなる拡散反射部５７８ｃと、円弧部５７８ｂの後面側に形成されている複数の凹凸からなる拡散入力部５７８ｄと、を備えている。

【０５０４】

導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、左右方向両外側の端部が、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａと対面していると共に、拡散入力部５７８ｄが扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａと対面している。この導光部材５７８は、左右方向両外側の端部から、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａからの光が入射されると、その光が直部５７８ａ内を中央側へ進むと共に、直部５７８ａの後面に形成されている拡散反射部５７８ｃにより端部側から順次前方へ反射され、直部５７８ａの前面全体から光が前方へ照射される。導光部材５７８の前方にはトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されており、それらのうちの直部５７８ａの前方となる部位が発光装飾させられる。

【０５０５】

また、導光部材５７８は、円弧部５７８ｂの後面に形成されている拡散入力部５７８ｄから、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａからの光が入射されると、その光が拡散入力部５７８ｄの凹凸により円弧部５７８ｂ内へ広く拡散され、円弧部５７８ｂの前面全体から光が前方へ照射される。これにより、トップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０における円弧部５７８ｂの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【０５０６】

このように、導光部材５７８は、扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾

基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａ、又は、扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａ、からの光を導いて、前方に配置されているトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０の全体を良好（均一）な状態で発光装飾させることができる。

【０５０７】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央より左側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５７９ａを有している。トップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５７９ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０５０８】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左端から、ユニット本体５７４のトップ左装飾部５７４ｅの右端まで延びている。つまり、トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも左側の略全体を装飾している。このトップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａによって発光装飾させられる。

【０５０９】

トップ右装飾レンズ部材５８０は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央より右側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５８０ａを有している。トップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５８０ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０５１０】

トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の右端から、ユニット本体５７４のトップ右装飾部５７４ｆの左端まで延びている。つまり、トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも右側の略全体を装飾している。このトップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａによって発光装飾させられる。

【０５１１】

トップ中左装飾部材５８１は、ユニット本体５７４の前面における左側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ左装飾レンズ部材５７９の前方からユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ中左装飾部材５８１は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ左装飾レンズ部材５７９の三つの装飾レンズ部５７９ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ左装飾レンズ部材５７９の前面よりも前方に突出している。このトップ中左装飾部材５８１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０５１２】

トップ中右装飾部材５８２は、ユニット本体５７４の前面における右側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ右装飾レンズ部材５８０の前方からユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ中右装飾部材５８２は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ右装飾レンズ部材５８０の三つの装飾レンズ部５８０ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ右装飾レンズ部材５８０の前面よりも前方に突出している。このトップ中右装飾部材５８２は、不透光性の部材によって形成されている。

【０５１３】
扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体５７４内における左側面（トップ左装飾部５７４ｅ）の内側に、ＬＥＤ５８３ａが実装されている面を右方へ向けて取付けられている。扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体５７４の左右方向中央より左側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の左端面と対向する位置にＬＥＤ５８３ａが実装されている（図９０を参照）。三つのＬＥＤ５８３ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ左装飾基板５８３のＬＥＤ５８３ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９におけるユニット本体５７４の左側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。
【０５１４】
扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体５７４内における右側面（トップ右装飾部５７４ｆ）の内側に、ＬＥＤ５８４ａが実装されている面を左方へ向けて取付けられている。扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体５７４の左右方向中央より右側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の右端面と対向する位置にＬＥＤ５８４ａが実装されている（図９０を参照）。三つのＬＥＤ５８４ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８４ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０におけるユニット本体５７４の右側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。
【０５１５】
一対の基板ベース５８５は、ユニット本体５７４内における複数のスリット５７４ｂが形成されている部位の後側に取付けられるものである。一対の基板ベース５８５は、互いが略左右対称に形成されている。基板ベース５８５は、上下及び前後に延びた辺を有する側面視略正方形の側壁と、側壁の後辺から直角に左右方向外方へ延びた正面視四角形の後壁と、側壁の上辺の前端から側壁の上辺途中までを結んだ線を斜辺として側壁と後壁の上辺同士を結んでいる略直角三角形の上壁と、上壁とは反対側で側壁と後壁の下辺同士を結んでいる略直角三角形の下壁と、を備え、上下の斜辺同士の間が開放された三角柱状の箱状に形成されている。基板ベース５８５は、開放されている部位が、ユニット本体５７４によって閉鎖されるようにユニット本体５７４に取付けられる。この基板ベース５８５は、開放されている部位が閉鎖されるように、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７が取付けられる。
【０５１６】
扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体５７４における左右中央より左側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央より左側の三つのスリット５７４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。
【０５１７】
扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体５７４の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８６ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体５７４の中央より左側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８６ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、複数のＬＥＤ５８６ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。
【０５１８】
扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体５７４における左右中央より右側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖

するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央より右側の三つのスリット５７４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

【０５１９】

扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体５７４の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８７ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体５７４の中央より右側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８７ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、複数のＬＥＤ５８７ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。

【０５２０】

一対の遮光部材５８８は、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７とユニット本体５７４との間の位置で、ユニット本体５７４の前面後側に取付けられるものである。一対の遮光部材５８８は、不透光性の部材によって、互いが略左右対称に形成されている。遮光部材５８８は、ユニット本体５７４における三つのスリット５７４ｂと対応して列設されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａの上下の間を仕切っている。この遮光部材５８８により、各導光部材５７８の直後に位置しているＬＥＤ５８６ａ，５８７ａによってのみ、その導光部材５７８により光を前方へ誘導させることができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａを夫々独立させた状態で良好に発光装飾させることができる。

【０５２１】

扉枠トップユニット中継基板５８９は、中央ベース５７１の前面に取付けられている。扉枠トップユニット中継基板５８９は、一対の上部スピーカ５７３、扉枠トップ中装飾基板５７７、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継している。扉枠トップユニット中継基板５８９は、扉枠右サイドユニット５５０に備えられている図示しない接続ケーブルを介して、扉本体中継基板と接続されている。この扉枠トップユニット中継基板５８９は、前側が中継基板カバー５９０によって覆われている。

【０５２２】

この扉枠トップユニット５７０は、左右方向中央において前方へ突出したトップ中装飾部材５７６を備えていると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ抉れているように湾曲しているため、トップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように遊技者を錯覚させることができ、遊技者の関心を本パチンコ機１に対して強く引付けさせることができる。

【０５２３】

また、扉枠トップユニット５７０は、中央に配置されているトップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を、トップ中装飾部材５７６の左右両側から、ユニット本体５７４の左右両端に形成されているトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆまで延びるように形成している。これにより、扉枠トップユニット５７０によって、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができる。

【０５２４】

この際に、扉枠トップユニット５７０では、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されている左右方向両端付近の夫々の後方に、パンチング

メタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された上部スピーカ５７３を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の上下に離間している三つの装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａの間からスピーカカバー５７５が前方へ臨むようにしているため、左右の上部スピーカ５７３から出力されるサウンドを、良好な状態で遊技者に聴かせることができ、良質なステレオサウンドを楽しませることができる。

【０５２５】

また、扉枠トップユニット５７０は、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の後側に備えられた複数の導光部材５７８により、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７からの光を、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０に導くことができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を良好に発光装飾させることができる。従って、扉枠トップユニット５７０は、左右の上部スピーカ５７３の前方を含む扉枠３の上部の前面全体を発光装飾させることができる。

【０５２６】

［３－８．扉枠の作用効果］

扉枠３の作用効果について説明する。本実施形態のパチンコ機１における扉枠３は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前後に貫通している貫通口１１１を、従来のパチンコ機よりは上下及び左右方向へ大きくしており、貫通口１１１の拡大に合せて、皿ユニット３２０及び扉枠トップユニット５７０の上下方向の高さを小さくしていると共に、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の左右方向の幅を小さくしている。これにより、貫通口１１１（ガラスユニット１９０）を通して、本体枠４に取付けられた遊技盤５（遊技領域５ａ）の前面を、可及的に広く遊技者（前方）から見えるようにすることができ、遊技領域５ａの広い遊技盤５に対応している。

【０５２７】

扉枠３は、貫通口１１１の下側において、前方へ膨出している皿ユニット３２０の左右方向中央に大きな半球面状の操作ボタン４１０を有した演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）を備え、演出操作ユニット４００の左右両側における下半分（上皿３２１よりも下側の部分）の前面（皿前下装飾部３２６ｃの前面）を、後方へ抉れるように窪んだ形状（皿ユニット３２０の左右両端の前端と、演出操作ユニット４００の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、演出操作ユニット４００の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、皿ユニット３２０の左右方向中央の前面に取付けられている演出操作ユニット４００が前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対して演出操作ユニット４００を目立たせて強調して見せることができ、演出操作ユニット４００に強く注目させることができる。

【０５２８】

扉枠３は、貫通口１１１よりも下側の皿ユニット３２０の前面に配置されている演出操作ユニット４００を、大きな半球面状の透明な操作ボタン４１０が、斜め上前方を向くように傾けた状態で取付けているため、本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、操作ボタン４１０が遊技者の頭部（顔）を向いた状態となり、遊技者が視線を落として演出操作ユニット４００を見ると、操作ボタン４１０が略正面に近い状態で見えることとなり、大きくて丸い操作ボタン４１０を強烈に視認させることができ、操作ボタン４１０を用いた演出に対して期待感を高めさせることができると共に、透明な操作ボタン４１０内に配置されている扉枠側演出表示装置４６０に表示される演出画像を良好な状態で視認させることができ、演出画像を十分に楽しませることができる。

【０５２９】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の全高と略同じ直径の大きくて前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を備えているため、操作ボタン４１０を操作する際に、短い距離の手の移動で操作ボタン４１０の何れかの部位に触れることができ、操作ボタン４１０の「早押し」を比較的容易に行うことができる。また、大径で前方へ丸く膨出した操作ボタン４１

０を、傾けた状態で取付けているため、従来のパチンコ機の操作ボタンのように上から押圧操作することができるだけでなく、左方や右方、或いは、前方からでも良好に操作することができ、操作性の良い操作ボタン４１０によって操作ボタン４１０を用いた演出をより楽しませることができる。

【０５３０】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０によって演出操作ユニット４００を、吊り下げたような状態で取付けていると共に、演出操作ユニット４００の下部に振動を発生させる振動モータ４２４を備えているため、遊技状態に応じて振動モータ４２４を回転させて振動を発生させると、操作ボタン４１０の上部に触れている遊技者の手に対して、強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて操作ボタン４１０を用いた演出をより一層楽しませることができる。

【０５３１】

更に、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面中央に、皿ユニット３２０の全高に亘る大きな操作ボタン４１０（演出操作ユニット４００）を備えていることから、従来のパチンコ機と比較して上皿３２１の下にある下皿３２２が目立ち難くなるため、従来のパチンコ機を見慣れた遊技者に対して、明らかに異なっていると認識させ易くすることができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５３２】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面における演出操作ユニット４００の左側に開口している下皿開口部３２６ｄに対して、下皿３２２を、演出操作ユニット４００の後側へ回り込むように形成しているため、下皿開口部３２６ｄの大きさに対して、下皿３２２の容積を大きくすることができ、下皿３２２での遊技球の貯留数を十分に確保することができる。また、下皿３２２の後部が演出操作ユニット４００の後側へ回り込んでいることから、遊技者が下皿３２２内に左手を入れたり、下皿開口部３２６ｄに左手の指を掛けたりした時に、指先が下皿３２２の後の壁に触れ難くなるため、遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、下皿開口部３２６ｄの大きさに比べて下皿３２２の容積が大きいことを触覚でも認識させることができる。

【０５３３】

更に、扉枠３は、上皿３２１からの遊技球が下皿３２２に放出される下皿球供給口３２３ｃと下皿３２２の遊技球を皿ユニット３２０の下方のドル箱等に抜くための下皿球抜き孔３２２ａとを、前後に直線状に配置すると共に、正面視において下皿開口部３２６ｄの右外側（演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５の左端よりも右側）に配置している。つまり、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａを、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置しているため、遊技者側から下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えず、皿ユニット３２０（パチンコ機１）の外観をスッキリさせることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０５３４】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）の下方に下皿球抜き孔３２２ａを配置しているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いた状態とすると、上皿３２１等から下皿３２２へ放出された遊技球が、下皿３２２に入ると直ぐに下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱等へ排出されることとなる。この際に、遊技者側からは、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えないため、上皿３２１等から下皿３２２を通ってドル箱へ排出される遊技球の流れも見ることができない。これにより、遊技者に対して上皿３２１の遊技球や上皿３２１が満タンな状態で払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができるため、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５３５】
また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方左寄りの位置に下皿球抜き孔３２２ａを配置すると共に、下皿球抜き孔３２２ａよりも右側の下皿３２２の立上った壁部を下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように斜めに湾曲させているため、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球を、直接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したり、右側の壁部に反射させて間接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したりすることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球が、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域（下皿第一領域Ａ１）へ侵入することなく、下皿球抜き孔３２２ａから下方へ排出させることができるため、下皿３２２内を流通する遊技球を遊技者に見せることなく下皿３２２の下方（ドル箱）へ遊技球を排出させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。
【０５３６】
また、扉枠３は、下皿３２２が前方へ臨む皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄを、演出操作ユニット取付部３２６ａ（演出操作ユニット４００）と下スピーカ口３２６ｅとの間に備えているため、遊技者が下皿開口部３２６ｄに手を掛けたり、下皿３２２に手を入れたりしても、下スピーカ口３２６ｅの前方が遊技者の手によって遮られることはないため、本体枠４の基板ユニット９００におけるスピーカ９２１からのサウンドを、良好に前方へ出力させることができ、本パチンコ機１によるサウンドを楽しませることができる。また、遊技者が下皿３２２に手を入れたり近付けたりすると、下スピーカ口３２６ｅから前方へ出力されるスピーカ９２１からの重低音による振動を、遊技者に触覚的に感じさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０５３７】
また、扉枠３は、貫通口１１１の右側から板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０を備えていることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができるため、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているような感じに錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。
【０５３８】
更に、扉枠３は、板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０の前端や左右両面を、発光装飾させることができるため、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホール内において、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向から等の遠くからでも本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。
【０５３９】
また、扉枠３は、貫通口１１１の上側の扉枠トップユニット５７０において、左右方向中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６を備えると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面を、後方へ抉れるように窪んだ形状（扉枠トップユニット５７０の左右両端の前端と、トップ中装飾部材５７６の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対してトップ中装飾部材５７６を目立たせて強調して見せることができ、トップ中装飾部材５７６に強く注目させることができる。
【０５４０】
ところで、従来のパチンコ機における扉枠の上部には、左右に離間した一対の上部スピーカが備えられており二つの上部スピーカが目立っていた。これに対して、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１の上側に取付けられている扉枠トップユニット５７０において、左右両端にパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された一対

の上部スピーカ５７３を備えた上で、中央のトップ中装飾部材５７６の左右両側からスピーカカバー５７５の前を通って左右方向両端まで延びたトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を、発光装飾できるようにしている。これにより、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができるため、扉枠３の上部において、一対の上部スピーカ５７３が目立たなくなり、従来のパチンコ機とは明らかに異なる装飾が施されていることを一見して遊技者に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、一対の上部スピーカ５７３により良質なステレオサウンドを遊技者に楽しませることができる。

【０５４１】

このように、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１より下側と上側において、皿ユニット３２０に取付けられている演出操作ユニット４００と、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６とが、夫々左右方向の中央で前方へ大きく突出しているため、左右方向中央を通る仮想線が目立つような上下において統一感のある装飾を遊技者に見せることができると共に、洗練された感じの装飾により他のパチンコ機よりも目立たせることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５４２】

また、扉枠３は、左右方向の中央において上下に配置されている扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６と演出操作ユニット４００とを、前方へ突出させているため、トップ中装飾部材５７６及び演出操作ユニット４００を発光装飾させると、扉枠３の前面の左右方向中央で上下に延びたような発光ラインを遊技者に見せることができ、遊技者の視線を左右方向中央に配置された演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０等に誘導させることができる。

【０５４３】

［４．本体枠の全体構成］

本実施形態のパチンコ機１における本体枠４について、図９１乃至図９４を参照して説明する。図９１は本体枠を前から見た斜視図であり、図９２は本体枠を後ろから見た斜視図である。また、図９３は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９４は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。本実施形態の本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に遊技盤５が着脱可能に収容される。この本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられるものである。

【０５４４】

本実施形態の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、を備えている。

【０５４５】

また、本体枠４は、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球を打込むための球発射装置６８０と、本体枠ベース６００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット７００と、本体枠ベース６００の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆Ｌ字状の払出ユニット８００と、本体枠ベース６００の後面下部に取付けられている基板ユニット９００と、本体枠ベース６００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース６００に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー９８０と、を備えている。

【０５４６】
［４－１．本体枠ベース］
本実施形態における本体枠４の本体枠ベース６００は、図９１乃至図９４に示すように、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されている。この本体枠ベース６００は、上端よりやや下側の位置から全高の約３／４の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤５が前側から挿入される遊技盤挿入口６０１と、遊技盤挿入口６０１の下辺を形成しており遊技盤５が載置される遊技盤載置部６０２と、遊技盤載置部６０２の左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤５の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部６０３と、を備えている。
【０５４７】
また、本体枠ベース６００は、遊技盤載置部６０２の正面視右下側に形成されている球発射装置６８０を取付けるための発射装置取付部６０４と、発射装置取付部６０４の正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０が挿通されるシリンダ挿通口６０５と、遊技盤載置部６０２の正面視左右中央から左寄り下側で前後に貫通しており基板ユニット９００の扉枠用中継基板９１１を前方へ臨ませる接続用開口部６０６と、遊技盤載置部６０２の正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット９００におけるスピーカユニット９２０を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部６０７と、を備えている。
【０５４８】
更に、本体枠ベース６００は、遊技盤挿入口６０１の正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット７００が取付けられると共に、後端に裏カバー９８０が回動可能に取付けられる後方延出部６０８を備えている。また、本体枠４の本体枠ベース６００は、後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０を取付けるための上ヒンジ取付部６０９及び下ヒンジ取付部６１０を備えている。
【０５４９】
また、本体枠ベース６００は、接続用開口部６０６を開閉可能に閉鎖する開口カバー６１５と、遊技盤載置部６０２の正面視左右中央より左側でやや下側の位置に回動可能に取付けられ、遊技盤挿入口６０１に挿通された遊技盤５の前方への移動を規制可能な遊技盤ロック部材６１６と、を備えている。
【０５５０】
［４－２．本体枠側上ヒンジ部材及び本体枠側下ヒンジ部材］
本実施形態における本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０と本体枠側下ヒンジ部材６４０について、図９１乃至図９４を参照して説明する。この本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０は、本体枠ベース６００の上ヒンジ取付部６０９及び下ヒンジ取付部６１０に取付けられるものである。
【０５５１】
本体枠側上ヒンジ部材６２０は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へＬ字状に折り曲げられている上ヒンジ本体６２１と、上ヒンジ本体６２１の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠側上ヒンジ部材６０に軸支される本体枠上ヒンジピン６２２と、本体枠上ヒンジピン６２２の正面視左側で上ヒンジ本体６２１を貫通しており扉枠側上ヒンジ部材１４０を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔６２３と、を備えている。本体枠側上ヒンジ部材６２０は、上ヒンジ本体６２１における下方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース６００の上ヒンジ取付部６０９に取付けられる。
【０５５２】
本体枠側下ヒンジ部材６４０は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体６４１と、下ヒンジ第一本体６４１の前端で上下に貫通しており外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０に軸支される外枠用下ヒンジ孔（図示は省略）と、下ヒンジ第一本体６４１の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体６４３と、下ヒンジ第二本体６４

３の前端で上下に貫通しており扉枠３の扉枠側下ヒンジ部材１５０を軸支するための扉枠用ヒンジ孔６４４と、下ヒンジ第二本体６４３の水平に延びている部位における扉枠用ヒンジ孔６４４よりも後側で左端から上方へ延出しており扉枠３の回動範囲を規制するための規制片６４５と、を備えている。

【０５５３】

下ヒンジ第二本体６４３は、水平に延びた部位が、下ヒンジ第一本体６４１の水平に延びた部位の上側に一定の間隔を開けた状態で、上方へ折り曲げられた部位が下ヒンジ第一本体６４１の上方へ折り曲げられた部位の前面に当接している。この本体枠側下ヒンジ部材６４０は、下ヒンジ第一本体６４１及び下ヒンジ第二本体６４３の上方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース６００の下ヒンジ取付部６１０に取付けられる。

【０５５４】

［４－３．補強フレーム］

本実施形態における本体枠４の補強フレーム６６０について、図９１乃至図９４を参照して説明する。補強フレーム６６０は、本体枠ベース６００の左側面に取付けられるものである。この補強フレーム６６０は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。また、補強フレーム６６０には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース６００の遊技盤挿入口６０１に挿入された遊技盤５が前方及び上下に移動するのを規制する左位置決め部材６６１が、上下に離間して一組取付けられている。

【０５５５】

この補強フレーム６６０によって本体枠ベース６００のヒンジ側（正面視左側）を補強することができると共に、外枠２と本体枠４の間を通した左側からの本体枠４内（遊技盤５）への不正な工具の差し込みを防止することができる。

【０５５６】

［４－４．球発射装置］

本実施形態における本体枠４の球発射装置６８０について、図９１、図９３及び図９４を参照して説明する。球発射装置６８０は、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留されている遊技球を、本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むための装置である。この球発射装置６８０は、扉枠３の前面右下隅のハンドルユニット３００のハンドル３０２の回動角度に応じて、遊技球の打込強さが変化する。

【０５５７】

球発射装置６８０は、本体枠ベース６００の発射装置取付部６０４に取付けられる平板状の発射ベース６８１と、発射ベース６８１の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース６８１を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド６８２と、発射ソレノイド６８２の回転軸に基端が取付けられている打球槌６８３と、打球槌６８３の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース６８１の前面に取付けられており遊技球が転動可能な発射レール６８４と、を備えている。

【０５５８】

この球発射装置６８０は、扉枠３の球送りユニット２５０から遊技球が発射レール６８４の上面右端に供給されるようになっており、発射レール６８４の上面右端に遊技球が供給されている状態で、ハンドル３０２を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド６８２が駆動して、打球槌６８３により遊技球を打球する。そして、打球槌６８３により打たれた遊技球は、発射レール６８４を通って遊技盤５の外レール１００１及び内レール１００２に案内されて遊技領域５ａ内に打込まれる。

【０５５９】

なお、遊技球の打込強さ等の関係で、打球した遊技球が遊技領域５ａ内に到達しなかった場合は、発射レール６８４と遊技盤５（外レール１００１及び内レール１００２）との間から、下方のファールカバーユニット２７０のファール球受口２７５へ落下し、ファールカバーユニット２７０内を通って下皿３２２に排出される。

【０５６０】

［４－５．施錠ユニット］
本実施形態における本体枠４の施錠ユニット７００について、図９１乃至図９４を参照して説明する。本実施形態の施錠ユニット７００は、本体枠４の本体枠ベース６００に取付けられ、本体枠４と扉枠３、本体枠４と外枠２、との間を施錠することができる。施錠ユニット７００は、本体枠ベース６００の後方延出部６０８の右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース７０１と、ユニットベース７０１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤７０２と、ユニットベース７０１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤７０３と、ユニットベース７０１の下部にから前方に円柱状に突出していると共に、前端部から軸直角方向へ突起が突出しており、扉枠３の開閉シリンダユニット２１０の回転伝達部材２１２と係合することでシリンダ錠２１１の回転が伝達され、鍵の回動方向に応じて扉枠用鉤７０２又は外枠用鉤７０３の何れかの係止を開錠させる鍵シリンダ７１０と、を備えている。
【０５６１】
［４－６．払出ユニット］
本実施形態における本体枠４の払出ユニット８００について、図９５乃至図１１３を参照して説明する。図９５は払出ユニットを前から見た斜視図であり、図９６は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図９７は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９８は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。また、図９９（ａ）は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。更に、図１００は、球誘導ユニットの分解斜視図である。また、図１０１（ａ）は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出装置を後ろから見た斜視図である。また、図１０２は払出装置を分解して前から見た分解斜視図であり、図１０３は払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１０４（ａ）は払出装置の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＱ－Ｑ線で切断した断面図である。また、図１０５（ａ）は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、（ｂ）は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。
【０５６２】
また、図１０６（ａ）は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１０７（ａ）は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１０８（ａ）は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１０９は下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１１０は下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１１１（ａ）は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、（ｂ）は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。また、図１１２は、扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。図１１３は、払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。
【０５６３】
本実施形態の払出ユニット８００は、図９５及び図９６等に示すように、本体枠ベース６００の後側に取付けられる逆Ｌ字状の払出ユニットベース８０１と、払出ユニットベース８０１の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない遊技ホールの島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク８０２と、球タンク８０２の下側で払出ユニットベース８０１に取付けられており球タンク８０２内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール８０３と、を備えている。タンクレール８０３内では、遊技球を左方へ誘導させながら、上方から揺動可能に垂下している球均し部材８０４（図１１３を参照）によって、前後二列に整列させる。
【０５６４】

また、払出ユニット８００は、払出ユニットベース８０１における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール８０３からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット８２０と、球誘導ユニット８２０の下側で払出ユニットベース８０１から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット８２０により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス９５０に収容された払出制御基板９５１からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置８３０と、を備えている。タンクレール８０３から払出装置８３０までは、遊技球が二列で流通し、払出装置８３０からは、遊技球が一つずつ払出される。

【０５６５】

更に、払出ユニット８００は、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１、満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２、及び通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を本体枠４に対する扉枠３の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉８６３、を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

【０５６６】

［４－６ａ．球誘導ユニット］

本実施形態における払出ユニット８００の球誘導ユニット８２０について、図９９及び図１００を参照して説明する。球誘導ユニット８２０は、上下に延びており後側が開放された箱状の前ケース８２１と、前ケース８２１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の後ケース８２２と、前ケース８２１と後ケース８２２との間に取付けられており前ケース８２１と後ケース８２２と間を仕切る平板状の仕切板８２３と、仕切板８２３を貫通して前後両端が前ケース８２１及び後ケース８２２に取付けられている棒状の軸部材８２４と、軸部材８２４によって回動可能に取付けられており前ケース８２１内及び後ケース８２２内に夫々配置されている一対の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６と、前ケース８２１内に取付けられており一対の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の回動位置を検知可能な球切れ検知センサ８２７と、を備えている。

【０５６７】

前ケース８２１は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２１ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２１ｂと、球誘導入口８２１ａと球誘導出口８２１ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２１ｃと、を備えている。誘導通路８２１ｃは、球誘導入口８２１ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２１ｄと、導入部８２１ｄから前ケース８２１の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２１ｅと、検知部８２１ｅから前ケース８２１の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２１ｆと、で構成されている。また、前ケース８２１は、誘導通路８２１ｃにおける検知部８２１ｅの正面視右側の壁に切欠部８２１ｇを備えている。

【０５６８】

後ケース８２２は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２２ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２２ｂと、球誘導入口８２２ａと球誘導出口８２２ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２２ｃと、を備えている。誘導通路８２２ｃは、球誘導入口８２２ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２２ｄと、導入部８２２ｄから後ケース８２２の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２２ｅと、検知部８２２ｅから後ケース８２２の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２２ｆと、で構成されている。また、後ケース８２２は

、誘導通路８２２ｃにおける検知部８２２ｅの正面視右側の壁に切欠部８２２ｇを備えている。

【０５６９】

この後ケース８２２は、前ケース８２１に対して左右に略対称に形成されており、球誘導ユニット８２０に組立てた状態で、誘導通路８２１ｃと誘導通路８２２ｃとが前後に一致するように形成されている。

【０５７０】

軸部材８２４は、前ケース８２１及び後ケース８２２における切欠部８２１ｇ，８２２ｇの上端の下側且つ誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側の位置に前後の端部が取付けられている。

【０５７１】

可動片部材前８２５は、上下に延びた平板状の可動片８２５ａと、可動片８２５ａの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２５ｂと、可動片８２５ａの上端から可動片８２５ａの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２５ｃと、延出部８２５ｃと可動片８２５ａとを連結しており軸孔８２５ｂを中心に扇状に延びている連結部８２５ｄと、延出部８２５ｃの上部及び連結部８２５ｄの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２５ｅと、延出部８２５ｃの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により検知可能な検知片８２５ｆと、連結部８２５ｄの外周における可動片８２５ａに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片８２５ｇと、を備えている。

【０５７２】

この可動片部材前８２５は、軸孔８２５ｂに軸部材８２４を通すと、その自重によって、連結部８２５ｄの外周から突出している錘取付部８２５ｅが、軸孔８２５ｂの直下に位置するように回動し、可動片８２５ａが軸孔８２５ｂの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット８２０を組立てた状態では、連結部８２５ｄが前ケース８２１の切欠部８２１ｇに挿通されて、可動片８２５ａの下端が誘導通路８２１ｃ内に突出した状態となると共に、ストッパ片８２５ｇが誘導通路８２１ｃ（検知部８２１ｅ）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片８２５ｇが誘導通路８２１ｃの外壁に当接することで、可動片８２５ａの下端が、誘導通路８２１ｃ内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材前８２５は、可動片８２５ａの下端を、誘導通路８２１ｃの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片８２５ａの左側の面が、誘導通路８２１ｃの内面と一致する。この状態では、可動片部材前８２５の検知片８２５ｆは、球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路８２１ｃ内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ８２７が非検知となる。

【０５７３】

可動片部材後８２６は、上下に延びた平板状の可動片８２６ａと、可動片８２６ａの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２６ｂと、可動片８２６ａの上端から可動片８２６ａの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２６ｃと、延出部８２６ｃと可動片８２６ａとを連結しており軸孔８２６ｂを中心に扇状に延びている連結部８２６ｄと、延出部８２６ｃの上部及び連結部８２６ｄの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２６ｅと、延出部８２６ｃの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により検知可能な検知片８２６ｆと、連結部８２６ｄの外周における可動片８２６ａに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片８２６ｇと、を備えている。

【０５７４】

この可動片部材後８２６は、軸孔８２６ｂに軸部材８２４を通すと、その自重によって、連結部８２６ｄの外周から突出している錘取付部８２６ｅが、軸孔８２６ｂの直下に位置するように回動し、可動片８２６ａが軸孔８２６ｂの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット８２０を組立てた状態では、連結部８２６ｄが後ケース

８２２の切欠部８２２ｇに挿通されて、可動片８２６ａの下端が誘導通路８２２ｃ内に突出した状態となると共に、ストッパ片８２６ｇが誘導通路８２２ｃ（検知部８２２ｅ）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片８２６ｇが誘導通路８２２ｃの外壁に当接することで、可動片８２６ａの下端が、誘導通路８２２ｃ内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材後８２６は、可動片８２６ａの下端を、誘導通路８２２ｃの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片８２６ａの左側の面が、誘導通路８２２ｃの内面と一致する。この状態では、可動片部材後８２６の検知片８２６ｆは、球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路８２２ｃ内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ８２７が非検知となる。

【０５７５】

本実施形態の球誘導ユニット８２０は、タンクレール８０３によって複数の遊技球が前後に夫々一列で並ばされた状態で供給され、複数の遊技球が一列に並んだ状態で、前ケース８２１及び後ケース８２２によって、前後に二列の状態で下方の払出装置８３０へ誘導することができる（図１１３を参照）。この際に、前ケース８２１と後ケース８２２とは仕切板８２３によって仕切られているため、夫々の誘導通路８２１ｃ，８２２ｃを流通する遊技球が、互いに干渉し合うことはなく、良好に流通することができる。

【０５７６】

また、球誘導ユニット８２０の誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流通すると、遊技球が可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａに当接し、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁面と一致する方向へ可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が回動する。これにより、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の検知片８２５ｆ，８２６ｆが球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となり、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に遊技球があることが判る。

【０５７７】

そして、球誘導ユニット８２０の下流側の払出装置８３０により遊技球の払出し等が行われると、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球が下流へ流れることとなる。誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流れると、導入部８２１ｄ，８２２ｄを流れる遊技球の勢いが強くなり、導入部８２１ｄ，８２２ｄを流れた遊技球が、検知部８２１ｅ，８２２ｅの上部で可動片８２５ａ，８２６ａ側へ跳ね返り、可動片８２５ａ，８２６ａに当接することとなる。この遊技球の当接により、可動片８２５ａ，８２６ａが振動することとなるため、その振動により可動片８２５ａ，８２６ａと誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの切欠部８２１ｇ，８２２ｇとの間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片８２５ａ，８２６ａが良好に回動できるようになる。

【０５７８】

また、球誘導ユニット８２０は、各誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を流通する遊技球を夫々別々の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６によって検知するようにしていると共に、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の夫々の検知片８２５ｆ，８２６ｆを一つの球切れ検知センサ８２７で検知するようにしているため、何れかの誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球がなくなると、可動片部材前８２５又は可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内へ突出するように回動し、遊技球のなくなった側の検知片８２５ｆ，８２６ｆが球切れ検知センサ８２７で検知される。従って、遊技球の球切れを早期に検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【０５７９】

更に、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに、錘として金属ビスを捩じ込んで取付けることで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６と錘の重量とによって、可動片８２５ａ，８２６ａの下端側を、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出する方向へ回動させ易くすることができる。また、可動片８２５ａ，８

２６ａの上端を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出するようにしているため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の埃やゴミ等が、可動片８２５ａ，８２６ａの上端や下端に付着することがない。従って、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁側に回動しても、可動片８２５ａ，８２６ａの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片８２５ａ，８２６ａが回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【０５８０】

このように、本実施形態の球誘導ユニット８２０は、自重によって下端側が遊技球の流通する誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内へ突出する可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａにおいて、遊技球と当接する面の反対側の錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに金属ビスからなる錘を取付けることで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の自重と錘の重量とによって、可動片８２５ａ，８２６ａの下端側を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に回動（突出）させ易くすることができる。また、可動片８２５ａ，８２６ａの上端を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出するようにしているため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の埃やゴミ等が、可動片８２５ａ，８２６ａの上端や下端に付着することがない。従って、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁側に回動しても、可動片８２５ａ，８２６ａの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片８２５ａ，８２６ａ（可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６）が回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【０５８１】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに捩じ込んで取付けるため、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が頻繁に回動しても、錘が可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６（錘取付部８２５ｅ，８２６ｅ）から外れることがなく、長期に亘って可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに金属ビスを捩じ込むだけで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機１の組立てに係るコストを低減させることができる。

【０５８２】

更に、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内において可動片８２５ａ，８２６ａが内部に突出する部位よりも上流側に、可動片８２５ａ，８２６ａへ向かって遊技球を誘導させる導入部８２１ｄ，８２２ｄを備えていることから、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流れることで、遊技球が可動片８２５ａ，８２６ａに当接するため、遊技球の当接によって可動片８２５ａ，８２６ａを振動させることができる。従って、可動片８２５ａ，８２６ａの振動により、可動片８２５ａ，８２６ａと誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が良好に回動するようにできる。

【０５８３】

従って、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６を良好に回動させることができるため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球の状態（有無）を確実に検知させることができ、遊技球の誤検知等による不具合の発生を抑制させることができる。また、払出装置８３０へ供給される遊技球が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内からなくなっても、可動片８２５ａ，８２６ａを介して確実に誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の有無を検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【０５８４】

［４－６ｂ．払出装置］

本実施形態における払出ユニット８００の払出装置８３０について、図１０１乃至図１０５を参照して説明する。払出装置８３０は、後側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口８３１ａ、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口８３１ｂ、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口８３１ｃ、払出入口８３１ａと払出出口８３１ｂとを連通しており遊技球が流通可能な払出通路８３１ｄ、及び払出通路８３１ｄの途中から分岐して球抜き出口８３１ｃと連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路８３１ｅ、を有している前箱８３１と、前箱８３１の後側に取付けられており前側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口８３２ａ、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口８３２ｂ、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口８３２ｃ、払出入口８３２ａと払出出口８３２ｂとを連通しており遊技球が流通可能な払出通路８３２ｄ、及び払出通路８３２ｄの途中から分岐して球抜き出口８３２ｃと連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路８３２ｅ、を有している後箱８３２、を備えている。

【０５８５】

また、払出装置８３０は、前箱８３１の前側に取付けられており後側が開放されている浅い箱状の前カバー８３３と、前箱８３１内に取付けられており回転軸が前箱８３１を貫通して前カバー８３３内に延出している払出モータ８３４と、払出モータ８３４の回転軸に取付けられている駆動ギア８３５と、駆動ギア８３５と噛合しており前箱８３１と前カバー８３３とで回転可能に取付けられている平歯車状の中間ギア８３６と、中間ギア８３６と噛合している従動ギア８３７と、従動ギア８３７が回転可能に貫通しており前端が前カバー８３３に取付けられていると共に後端が前箱８３１を貫通して後箱８３２に取付けられている軸部材８３８と、軸部材８３８を貫通して回転可能に取付けられていると共に前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内に配置されており従動ギア８３７と一体回転する払出羽根８３９と、前箱８３１と後箱８３２との間に取付けられており払出羽根８３９の回転を検知する羽根回転検知センサ８４０と、を備えている。

【０５８６】

更に、払出装置８３０は、前箱８３１と後箱８３２の間に取付けられており前箱８３１の払出通路８３１ｄと後箱８３２の払出通路８３２ｄとを仕切る平板状の仕切板８４１と、前箱８３１と後箱８３２との間に取付けられており払出羽根８３９の回転により払出されて払出出口８３１ｂ，８３２ｂから放出される遊技球を検知する払出検知センサ８４２と、払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅとが分岐している部位で前箱８３１と後箱８３２とによって回動可能に取付けられており球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖可能な球抜き可動片８４３と、前箱８３１及び後箱８３２の正面視右側面上部で上下にスライド可能に取付けられており球抜き可動片８４３を回動可能又は回動不能とする球抜きレバー８４４と、を備えている。

【０５８７】

前箱８３１の払出通路８３１ｄは、払出入口８３１ａから球抜き出口８３１ｃへ向かうように正面視右下へ斜めに延び、前箱８３１の全高に対して上面から約１／３の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、前箱８３１の左右の幅に対して左端から約１／３のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、前箱８３１の全高に対して底面から約１／４の高さのところで払出出口８３１ｂの直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口８３１ｂへ垂直に延びている。払出通路８３１ｄ内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根８３９が配置される。

【０５８８】

一方、球抜き通路８３１ｅは、払出通路８３１ｄにおいて払出入口８３１ａから右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、前箱８３１の全高に対して上面から約１／３の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【０５８９】

また、前箱８３１は、払出通路８３１ｄ内の払出出口８３１ｂへ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って後方へ突出している誘導棚８３１ｆと、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー８４４を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部８３１ｇと、を備えている。

【０５９０】

後箱８３２の払出通路８３２ｄは、払出入口８３２ａから球抜き出口８３２ｃへ向かうように正面視右下へ斜めに延び、後箱８３２の全高に対して上面から約１／３の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、後箱８３２の左右の幅に対して左端から約１／３のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、後箱８３２の全高に対して底面から約１／４の高さのところで払出出口８３２ｂの直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口８３２ｂへ垂直に延びている。払出通路８３２ｄ内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根８３９が配置される。

【０５９１】

一方、球抜き通路８３２ｅは、払出通路８３２ｄにおいて払出入口８３２ａから右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、後箱８３２の全高に対して上面から約１／３の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【０５９２】

また、後箱８３２は、払出通路８３２ｄ内の払出出口８３２ｂへ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って前方へ突出している誘導棚８３２ｆと、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー８４４を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部８３２ｇと、を備えている。

【０５９３】

前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅは、同じ形状に形成されている。払出通路８３１ｄ，８３２ｄは、払出羽根８３９が配置されている部位の上流までが仕切板８４１によって仕切られている。また、誘導棚８３１ｆ，８３２ｆと払出出口８３１ｂ，８３２ｂとの間に、払出検知センサ８４２が取付けられている。つまり、前箱８３１の払出通路８３１ｄを流通した遊技球と、後箱８３２の払出通路８３２ｄを流通した遊技球とは、夫々の誘導棚８３１ｆ，８３２ｆによって前箱８３１と後箱８３２との前後の境界付近に寄せられて、一つの払出検知センサ８４２により検知される。

【０５９４】

従動ギア８３７は、中間ギア８３６と噛合する平歯車状のギア部８３７ａと、ギア部８３７ａの後面から周方向へ６０度の角度の間隔で放射状に突出しており羽根回転検知センサ８４０によって検知可能な複数の検知片８３７ｂと、ギア部８３７ａの中心から後方へ円筒状に突出していると共に後端の周面に凹凸が形成されており払出羽根８３９と連結可能な連結部８３７ｃと、を備えている。

【０５９５】

払出羽根８３９は、前後に円筒状に延びており軸部材８３８が挿通されるベース筒部８３９ａと、ベース筒部８３９ａの前端から周方向に一定間隔でベース筒部８３９ａの軸直角方向へ突出している複数（三つ）の前羽根８３９ｂと、ベース筒部８３９ａの後端から前羽根８３９ｂとは互い違いとなるように周方向に一定間隔でベース筒部８３９ａの軸直角方向へ突出している複数（三つ）の後羽根８３９ｃと、ベース筒部８３９ａの前端から前方へ筒状に突出していると共に前端の周面に従動ギア８３７の連結部８３７ｃと連結可能な凹凸が形成されている被連結部８３９ｄと、を備えている。

【０５９６】

払出羽根８３９の前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃは、周方向へ１２０度の角度の間隔で夫々三つずつ備えられており、互い違いとなるように、前羽根８３９ｂに対して後羽根８３９ｃが、周方向へ６０度の角度でオフセットして外方へ延出している。本実施形態の払出羽根８３９は、三つの前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間が中心側へ窪ん

だ円弧によって結ばれており、その円弧の直径が遊技球の直径と同じか若干大きい。これにより、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間には、遊技球が一つのみ収容することが可能な球収容部８３９ｅが形成されている。

【０５９７】

また、三つの前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃは、ベース筒部８３９ａの軸を中心としたそれらの外周の直径Ｄ１が、遊技球の外径の１～１．４倍に形成されている。また、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間の円弧の部位（球収容部８３９ｅ）におけるベース筒部８３９ａの軸に最も接近した部位までの、ベース筒部８３９ａの軸を中心とした直径Ｄ２は、遊技球の外径の約０．３～０．４倍に形成されている。つまり、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周から球収容部８３９ｅの最も凹んだ部位までの深さ［（直径Ｄ１－直径Ｄ２）／２］が、遊技球の外径の０．１～０．４倍とされている。

【０５９８】

従って、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間の円弧の部位（球収容部８３９ｅ）により、遊技球の外周の約３／１０（１／４～１／３の間）を保持することができる。換言すると、遊技球の外径の約１／５（１／７～１／４）の深さを収容することができる。これにより、払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内の遊技球を、速やかに前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間（球収容部８３９ｅ）に収容することができる。

【０５９９】

本実施形態の払出羽根８３９は、払出装置８３０を組立てた状態で、前羽根８３９ｂが前箱８３１の払出通路８３１ｄ内に、後羽根８３９ｃが後箱８３２の払出通路８３２ｄ内に位置し、夫々の払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内の遊技球を、夫々払出すことができる。また、払出羽根８３９は、払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、前箱８３１及び後箱８３２の全高の中央よりも下側でクランク状に折れ曲がっている部位に配置されている。詳しくは、払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、前箱８３１及び後箱８３２の全高の中央付近から下方へ垂直に延びている部位の直下に、払出羽根８３９の回転中心が位置している。そして、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位では、払出羽根８３９から遠い側の壁（内壁）が、払出羽根８３９の回転中心を中心とし、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周から遊技球の外径よりも小さい距離Ｓだけ離れた円弧状に形成されている。なお、本実施形態では、距離Ｓが、遊技球の外径の０．７～０．９倍とされている。換言すると、球収容部８３９ｅの最も凹んだ部位から払出通路８３１ｄ，８３２ｄの円弧状に形成されている部位までの距離が、遊技球の外径の１．０３～１．１倍とされている。

【０６００】

これにより、払出装置８３０は、払出羽根８３９上に流下してきた遊技球が、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周に当接すると、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができず、払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出されることはない。一方、遊技球が、球収容部８３９ｅに収容されると、払出羽根８３９の回転と共に移動し、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができ、払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出される。

【０６０１】

また、払出装置８３０では、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの直径Ｄ１を、遊技球の外径の約１．２～１．４倍とすると共に、球収容部８３９ｅにより遊技球の外径の１／７～１／４の深さを収容するようにしているため、払出羽根８３９の外径を可及的に小さくしつつ、遊技球の収容にかかる時間を短くすることができる。これにより、払出羽根８３９を速く回転させても、球収容部８３９ｅに遊技球を収容させて、払出出口８３１ｂ，８３２ｂ側へ送ることができる。従って、従来よりも単位時間当りの遊技球の払出数を多くすることができ、遊技球の払出しにかかる時間を短縮することができる。

【０６０２】

球抜き可動片８４３は、上下及び前後に板状に延びており下部が折れ曲がって正面視く字状に形成されている本体部８４３ａと、本体部８４３ａの上端で前後に筒状に延びてお

り両端が夫々前箱８３１及び後箱８３２に回動可能に取付けられる軸筒部８４３ｂと、本体部８４３ａのく字状に折れ曲がっている外側面の上部から突出している突出部８４３ｃと、本体部８４３ａのく字状に折れ曲がっている下部において前後に貫通している貫通孔からなる錘取付部８４３ｄ（図１０５を参照）と、を備えている。

【０６０３】

球抜き可動片８４３は、払出装置８３０を組立てた状態では、本体部８４３ａの下部が正面視斜め左下へ延びるような向きで、上端の軸筒部８４３ｂが、前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、払出入口８３１ａ，８３２ａから正面視右下へ斜めに延びている部位で、且つ、下方へ折れ曲がる部位よりもやや上側の正面視右側の壁の外側の位置で、回動可能に取付けられている。

【０６０４】

本実施形態の払出装置８３０は、通常の状態では、球抜きレバー８４４を下方へスライドさせた状態としており、球抜きレバー８４４の下部が球抜き可動片８４３の突出部８４３ｃに正面視右側から当接している。これにより、球抜き可動片８４３は、正面視反時計回りへの回動が規制されている（図１０５（ａ）を参照）。

【０６０５】

この通常の状態では、球抜き可動片８４３のく字状に折れ曲がっている本体部８４３ａにおいて、曲がっている部位よりも上側が垂直に延びていると共に、曲がっている部位の下側が正面視斜め左下へ延びている。そして、本体部８４３ａの下端は、払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅとが分岐している部位の近傍に位置している。従って、球抜き可動片８４３（本体部８４３ａ）によって、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖していると共に、本体部８４３ａの左側を向いた面が、払出通路８３１ｄ，８３２ｄの一部の壁を形成している。

【０６０６】

本実施形態の球抜き可動片８４３は、通常の状態において、球抜き可動片８４３の重心が、軸筒部８４３ｂの中心を通る垂直線の正面視左側に位置するように形成されており、自重によって正面視反時計回りに回転させようとする力が作用しているが、球抜きレバー８４４によって反時計回りへの回動が規制されているため、通常の状態が維持される。

【０６０７】

通常の状態から、球抜きレバー８４４を上方へスライドさせると、球抜きレバー８４４の下部が、球抜き可動片８４３の突出部８４３ｃから離れ、球抜き可動片８４３の正面視反時計回りへの回動の規制が解除される。従って、球抜き可動片８４３は、重心が軸筒部８４３ｂの直下へ位置するように、自重によって反時計回りへ回動することとなる。なお、球抜き可動片８４３は、本体部８４３ａの下部の右側側面が、前箱８３１及び後箱８３２の右側面を形成している部材の左面に当接するまで、反時計回りに回動することができる（図１０５（ｂ）を参照）。これにより、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅが開放された状態となり、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、払出通路８３１ｄ，８３２ｄの途中で、球抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接して球抜き可動片８４３を正面視反時計回りへ回動させて球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを開放し、開放された球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを流通して球抜き出口８３１ｃ，８３２ｃから下方へ放出されることとなる。

【０６０８】

本実施形態では、球抜き可動片８４３に錘取付部８４３ｄを備えているため、この錘取付部８４３ｄに金属ビスからなる錘を捩じ込んで取付けることで、球抜きレバー８４４を上方へスライドさせて、正面視反時計回りへの回動の規制を解除した時に、球抜き可動片８４３の自重と錘の重量とによって、球抜き可動片８４３の下端を球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅ内へ突出する方向へ（正面視反時計回りに）回動させ易くすることができる。

【０６０９】

また、球抜きレバー８４４を下方へスライドさせて球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖している通常の状態において、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、球

抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接するようにしているため、遊技球の当接によって球抜き可動片８４３を振動させることができる。従って、球抜き可動片８４３の下端と球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅの内面との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を、球抜き可動片８４３の振動によって除去することができ、埃やゴミ等を噛み込んで球抜き可動片８４３が回動できなくなるのを防止することができる。

【０６１０】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部８４３ｄに捩じ込んで取付けることができるため、球抜き可動片８４３が頻繁に回動しても、錘が球抜き可動片８４３（錘取付部８４３ｄ）から外れることがなく、長期に亘って球抜き可動片８４３を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部８４３ｄに金属ビスを捩じ込むだけで、球抜き可動片８４３に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機１の組立てに係るコストを低減させることができる。

【０６１１】

ところで、球抜き可動片８４３によって球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを長期に亘って閉鎖していると、球抜き可動片８４３の回転軸に微細な埃が付着したり回転軸が錆びたりして、球抜き可動片８４３が回動し辛くなることがある。これに対して、本実施形態では、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、球抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接するようにしているため、球抜き可動片８４３により球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖している状態から、閉鎖を解除する球抜きレバー８４４を上方へスライドさせてロックを外した時に、遊技球が球抜き可動片８４３に当接することで、その当接の衝撃によって球抜き可動片８４３を回動させることができ、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを確実に開放させることができる。

【０６１２】

従って、球抜きレバー８４４を操作して球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを開放させる際に、球抜き可動片８４３が良好に回動することができるため、遊技球の抜取り作業を確実に行うことができ、メンテナンス等の際の作業性を良くすることができる。

【０６１３】

［４－６ｃ．上部満タン球経路ユニット］

本実施形態における払出ユニット８００の上部満タン球経路ユニット８５０について、図１０６及び図１０７を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニットベース８０１において、払出装置８３０の下側の位置に取付けられるものである。この上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニットベース８０１に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース８５１と、上部満タンベース８５１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー８５２と、上部満タンカバー８５２の後側に回転可能に取付けられており払出装置８３０を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材８５３と、を備えている。

【０６１４】

また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上面における正面視左右中央から左側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部払出球受口８５０ａと、上面における正面視左右中央から右側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部球抜き入口８５０ｂと、上部満タンベース８５１と上部満タンカバー８５２との間に形成されており上部払出球受口８５０ａに受けられた遊技球が流通する所定広さの上部球貯留通路８５０ｃと、上部球貯留通路８５０ｃの下端における上部払出球受口８５０ａの直下の部位で下方へ開口している通常放出口８５０ｄと、上部球貯留通路８５０ｃの下端における通常放出口８５０ｄを除いた部位で下方へ開口している満タン放出口８５０ｅと、通常放出口８５０ｄと満タン放出口８５０ｅとの間から上方へ突出しており上部球貯留通路８５０ｃ内の下部を左右に仕切っている仕切片８５０ｆと、を備えている。

【０６１５】

また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上部球抜き入口８５０ｂから進入した遊技球を下方へ誘導する上部球抜き通路８５０ｇと、上部球抜き通路８５０ｇの下端で下方へ

向かって開口している上部球抜き出口８５０ｈと、を備えている。この上部満タン球経路ユニット８５０は、正面視で左側から、通常放出口８５０ｄ、満タン放出口８５０ｅ、上部球抜き出口８５０ｈが順に並んで下方へ開口している。また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上部満タンベース８５１の右端に裏カバー９８０を取付けるための裏カバー取付部８５４を備えている。

【０６１６】

この上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニット８００に組立てた状態で、上部払出球受口８５０ａが、払出装置８３０の払出出口８３１ｂ，８３２ｂの直下に位置していると共に、上部球抜き入口８５０ｂが、払出装置８３０の球抜き出口８３１ｃ，８３２ｃの直下に位置している。また、上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニット８００に組立てた状態で、通常放出口８５０ｄ、満タン放出口８５０ｅ、及び上部球抜き出口８５０ｈは、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５の夫々後端開口の直上に夫々開口している（図１１３を参照）。

【０６１７】

上部満タン球経路ユニット８５０は、払出装置８３０によって払出されて払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出された遊技球が、上部払出球受口８５０ａから上部球貯留通路８５０ｃ内へ進入する。上部球貯留通路８５０ｃの下端の通常放出口８５０ｄが閉鎖されていない状態では、上部払出球受口８５０ａから上部球貯留通路８５０ｃ内へ進入した遊技球が、上部払出球受口８５０ａの直下に開口している通常放出口８５０ｄから放出される。

【０６１８】

扉枠３の上皿３２１内が遊技球で満たされて遊技球を貯留させることができなくなり、更に、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１内が遊技球で満たされると、通常放出口８５０ｄが閉鎖された状態となる。この状態で上部球貯留通路８５０ｃ内に遊技球が進入すると、通常放出口８５０ｄの上側に貯留される。そして、通常放出口８５０ｄの上側に貯留されている遊技球の量が、仕切片８５０ｆよりも高くなると、新たに上部球貯留通路８５０ｃ内に進入してきた遊技球は、仕切片８５０ｆを乗り越えて満タン放出口８５０ｅから下方へ放出されることとなり、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２を通って下皿３２２に送られることとなる。

【０６１９】

このように、上部満タン球経路ユニット８５０は、払出装置８３０から払出された遊技球を、扉枠３における上皿３２１での遊技球の貯留量に応じて、自動的に上皿３２１から下皿３２２へ振分けることができる。

【０６２０】

［４－６ｄ．下部満タン球経路ユニット］

本実施形態における払出ユニット８００の下部満タン球経路ユニット８６０について、図１０８乃至図１１２を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット８６０は、払出ユニットベース８０１における上部満タン球経路ユニット８５０の下側に取付けられるものである。下部満タン球経路ユニット８６０は、上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１と、上部満タン球経路ユニット８５０の満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２と、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を本体枠４に対する扉枠３の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉８６３と、誘導路開閉扉８６３を通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖する方向へ付勢している閉鎖バネ８６４と、を備えている。

【０６２１】

また、下部満タン球経路ユニット８６０は、上部満タン球経路ユニット８５０の上部球抜き出口８５０ｈから放出された遊技球を前方へ誘導し前後方向の中央右端から基板ユニ

ット９００の基板ユニットベース９１０上へ放出する下部球抜き誘導路８６５を、備えている。

【０６２２】

下部満タン球経路ユニット８６０は、通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５が、正面視において、左側から順に右側へ並んでいる。これら通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５は、後端が上方へ向かって開口している。また、通常誘導路８６１、及び満タン誘導路８６２は、左右に遊技球が複数並ぶ幅で、前端側が低くなるように本体枠４の前端付近まで前方へ延びている。更に、満タン誘導路８６２は、通常誘導路８６１よりも低い位置で前方へ延びている。これら通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５は、図示するように、上下に分割可能な上ケース８６６及び下ケース８６７によって形成されている。

【０６２３】

誘導路開閉扉８６３は、下ケース８６７の前端における通常誘導路８６１と満タン誘導路８６２との間の部位に、回動可能に取付けられており、閉鎖バネ８６４によって正面視時計回りの方向へ付勢されている。更に詳述すると、下部満タン球経路ユニット８６０の前端において、正面視で通常誘導路８６１の前端開口の右側に開口している満タン誘導路８６２は、通常誘導路８６１に対して一つの遊技球の高さ分低い位置に配置されている。そして、誘導路開閉扉８６３は、通常誘導路８６１の下側で、且つ、満タン誘導路８６２の左側の位置で、前後に延びた軸周りに対して回動可能に取付けられている。

【０６２４】

誘導路開閉扉８６３は、回転可能に取付けられる円盤状の基部８６３ａと、基部８６３ａから斜め左上側に平板状に延びており通常誘導路８６１の前端開口を閉鎖可能な第一扉板部８６３ｂと、基部８６３ａから右側に平板状に延びており満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖可能な第二扉板部８６３ｃと、基部８６３ａから斜め左下側に平板状に延びている延出部８６３ｄと、延出部８６３ｄの先端部前面から前方へ突出しており扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の扉開閉当接部２８１と当接可能な作動突部８６３ｅと、を備えている。

【０６２５】

ここで、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖するとは、開口を密閉する必要はなく、遊技球が通過不能となれば良いことである。作動突部８６３ｅは、正面視の形状が、基部８６３ａを中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近付くに従って前方へ突出するように傾斜している。

【０６２６】

誘導路開閉扉８６３は、閉鎖バネ８６４によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、第二扉板部８６３ｃが、下ケース８６７の前端における満タン誘導路８６２の前端開口の下側から前方へ突出しているボス部８６７ａに当接することで、時計回りの方向への回動が規制される。

【０６２７】

本実施形態の下部満タン球経路ユニット８６０は、パチンコ機１を組立てた状態で、前端が、扉枠３のファールカバーユニット２７０における貫通球通路２７３、満タン球受口２７４、及び扉開閉当接部２８１と対向する位置に取付けられている（図１１２を参照）。そして、誘導路開閉扉８６３は、本体枠４に対して扉枠３が開いている状態では、作動突部８６３ｅに何も当接していないため、誘導路開閉扉８６３は閉鎖バネ８６４の付勢力によって、正面視時計回りの方向へ回動させられ、第二扉板部８６３ｃが下ケース８６７のボス部８６７ａに当接した状態で停止する。この状態では、第一扉板部８６３ｂと第二扉板部８６３ｃが、通常誘導路８６１と満タン誘導路８６２の前端開口の前面に位置しており、前端開口を閉鎖している（図１１１（ａ）を参照）。従って、この状態では、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２内の遊技球が、前端開口から前方へ移動することができず、扉枠３を開けても、通常誘導路８６１や満タン誘導路８６２から遊技球がこぼれることはない。

【０６２８】
そして、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅの前端面に、扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の扉開閉当接部２８１が当接し、作動突部８６３ｅの前端面の傾斜によって、閉鎖バネ８６４の付勢力に抗して誘導路開閉扉８６３を正面視反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用する。これにより、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖していた第一扉板部８６３ｂと第二扉板部８６３ｃが、前端開口から離れる方向へ回動し、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が開放された状態となる（図１１１（ｂ）を参照）。この状態では、図示するように、第一扉板部８６３ｂが通常誘導路８６１の前端開口の下側に、第二扉板部８６３ｃが満タン誘導路８６２の前端開口の上側に位置している。

【０６２９】
この通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を開放させた状態では、本体枠４に対して扉枠３が完全に閉じられた状態となっていると共に、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口の前側に、扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３及び満タン球受口２７４が位置しており、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２側から、貫通球通路２７３及び満タン球受口２７４側へ遊技球を受渡すことができる。

【０６３０】
このように、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を上下方向に異ならせると共に、誘導路開閉扉８６３を回動させることで通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を開閉させるようにしているため、誘導路開閉扉８６３の動作範囲を可及的に狭くすることができ、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の開閉機構を小型化することができる。従って、相対的に他の部材のためのスペースを広くすることができ、パチンコ機１の内部空間をより有効活用することができる。

【０６３１】
本実施形態の払出ユニット８００は、扉枠３の上皿３２１が遊技球で一杯になり、上皿３２１へ遊技球を放出することができなくなった状態で、払出装置８３０から更に多くの遊技球が払出されると、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１内が遊技球で一杯になるまで遊技球を貯留することができる。そして、通常誘導路８６１が遊技球で一杯になった状態で払出装置８３０から更に遊技球が払出されると、上部満タン球経路ユニット８５０の上部球貯留通路８５０ｃ内において、遊技球が通常放出口８５０ｄよりも上側に留って仕切片８５０ｆを超えると、満タン放出口８５０ｅ側へ流通するようになり、満タン放出口８５０ｅから、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２、ファールカバーユニット２７０を通って下皿３２２へ遊技球の払出しが自動的に切換えられる。その後、払出装置８３０から更に遊技球が払出されて、上皿３２１に加えて下皿３２２も遊技球で一杯になって下皿３２２へ遊技球を供給することができなくなると、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内に遊技球が貯留される。そして、貯留通路２７７内に遊技球が貯留されることで可動片２７８が回動して満タン検知センサ２７９により検知されると、上皿３２１及び下皿３２２が遊技球で満タンであることが報知されると共に、満タン検知センサ２７９による可動片２７８の検知が解除されるまで払出装置８３０による遊技球の払出しが一時的に停止される。

【０６３２】
なお、満タン検知センサ２７９による可動片２７８の検知に対する払出装置８３０による遊技球の払出しの停止を、例えば、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内に可動片２７８が検知されるまで遊技球が貯留されている状態で、その上流側の貯留通路２７７、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２、及び上部満タン球経路ユニット８５０の上部球貯留通路８５０ｃ内を満たすことが可能な数の遊技球が払出されると、払出装置８３０による遊技球の払出しを停止させるようにしても良い。これにより、従来のパチンコ機よりも多くの遊技球を貯留することができるため、大当り遊技中等の多くの遊技球が払出される遊技状態において、遊技球の払出しによって上皿３２１や下皿

３２２が遊技球で一杯になることに対して気に掛ける必要を低減させることができ、遊技者を大当り遊技に専念させて楽しませることができる。

【０６３３】

［４－７．基板ユニット］

本実施形態における本体枠４の基板ユニット９００について、図９１乃至図９４を参照して説明する。本体枠４の基板ユニット９００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる基板ユニットベース９１０と、基板ユニットベース９１０の正面視左側で本体枠ベース６００の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ９２１を有したスピーカユニット９２０と、基板ユニットベース９１０の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス９３０と、スピーカユニット９２０の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス９４０と、電源基板ボックス９３０及びインターフェイス制御基板ボックス９４０に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板９５１が収容された払出制御基板ボックス９５０と、を備えている。

【０６３４】

基板ユニット９００は、基板ユニットベース９１０の前面で、本体枠ベース６００の接続用開口部６０６から前方へ臨むように取付けられている扉枠用中継基板９１１を備えている。この扉枠用中継基板９１１は、払出制御基板９５１、主制御基板１３１０、及び周辺制御基板１５１０と、扉枠３の扉枠ベースユニット１００に取付けられている扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。払出制御基板ボックス９５０内に収容された払出制御基板９５１によって、払出装置８３０が制御されている。

【０６３５】

［５．遊技盤の全体構成］

次に、パチンコ機１の遊技盤５の全体構成について、主に図１１４乃至図１２３を参照して詳細に説明する。図１１４は、遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。図１１５は図１１４の状態の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図１１６は図１１４の状態の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図１１７は遊技盤を後ろから見た斜視図である。また、図１１８は図１１４におけるＲ－Ｒ線で切断した断面図であり、図１１９は図１１４におけるＳ－Ｓ線で切断した断面図である。更に、図１２０は、遊技盤における表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。また、図１２１は、遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。また、図１２２は遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１２３は遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０６３６】

遊技盤５は、遊技者がハンドルユニット３００のハンドル３０２を操作することで遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有している。また、遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており遊技球を遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。遊技パネル１１００の前面において遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球と当接する複数の障害釘が所定のゲージ配列で植設されている（図示は省略）。

【０６３７】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左下隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に取付けられている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な遊技盤側演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えてい

る。裏ユニット３０００の後面に遊技盤側演出表示装置１６００が取付けられていると共に、遊技盤側演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が取付けられている。

【０６３８】

遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。

【０６３９】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能に常時開口している複数の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２００３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、を備えている。

【０６４０】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように取付けられており複数（ここでは三つ）の一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ２３００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６を有しているアタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００及びサイドユニット２２００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに取付けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０６４１】

裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており遊技盤側演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａの下側に取付けられている演出駆動基板３０３１と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３１の背面視右側に取付けられているパネル中継基板３０３２と、裏箱３０１０の後面でパネル中継基板３０３２の背面視右側に取付けられている左下中継基板３０３３と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３１の背面視左側に取付けられている右下中継基板３０３４と、を備えている。

【０６４２】

更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット３１００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａを囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの上側に取付けられている裏上可動演出ユニット３５００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット３７００と、を備えている。

【０６４３】

［５－１．前構成部材］

次に、前構成部材１０００について、主に図１２４を参照して説明する。図１２４（ａ）は遊技盤における前構成部材と遊技パネルとを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ

）を後ろから見た斜視図である。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０６４４】

また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１００４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球が当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０６４５】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０６４６】

更に、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００８を備えている。この防犯凹部１００８は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー２００の後方へ突出した後方突片２０２が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０６４７】

また、前構成部材１０００は、図示は省略するが、内レール１００２の後端から後方へ突出している複数の位置決め突起を備えている。これら位置決め突起は、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０に形成されている内レール固定孔に挿入させることで、内レール１００２をパネル板１１１０の前面に位置決め固定することができる。

【０６４８】

更に、前構成部材１０００は、図示は省略するが、後面から後方へ突出している複数の取付ボスを備えている。複数の取付ボスは、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の取付孔（図示は省略）に挿入されることで、パネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）との間を位置決めすることができる。

【０６４９】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１１を備えている。この切欠部１０１１は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の切欠部１１２７と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１，１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０６５０】
［５－２．遊技パネル］
次に、遊技パネル１１００について、主に図１２４を参照して説明する。遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。
【０６５１】
遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダ１１２０よりも薄く、障害釘を前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０ｍｍ）とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によってパネル板１１１０が形成されている。
【０６５２】
パネル板１１１０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に下端から上方へ窪んだアウト凹部１１１１が形成されている。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。
【０６５３】
また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔と、を備えている。これら嵌合孔及び長孔は、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネルホルダ１１２０との位置決めを行うものである。また、パネル板１１１０は、上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部が夫々備えられている。これら係合段部は、パネル板１１１０の板厚の略半分まで切欠いた形態とされると共に、嵌合孔及び長孔と同様に、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネル板１１１０をパネルホルダ１１２０へ係合固定するためのものである。
【０６５４】
また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、所定位置に内レール固定孔が複数備えられている。この内レール固定孔に内レール１００２の後側から突出する位置決め突起（図示は省略）を嵌合固定させることで、内レール１００２を所定の位置に固定することができる。
【０６５５】
遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本例では、約２０ｍｍ）形成されている。パネルホルダ１１２０は、合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部（図示は省略）と、保持段部の内側において略遊技領域５ａと同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口１１２２と、を備えている。
【０６５６】
パネルホルダ１１２０の保持段部は、前面からの深さがパネル板１１１０の厚さと略同じ深さとされており、保持段部内に保持されたパネル板１１１０の前面が、パネルホルダ１１２０の前面と略同一面となる。また、保持段部は、その前側内周面が、パネル板１１１０の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさに形成されている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板１１１０が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。
【０６５７】
また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、保持段部に保持されるパネル板１１１０に形成されている嵌合孔及び長孔と対応する位置に配置され、保持段部の前面から前方に向かって延びており、パネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通可能な複

数の突出ピンを備えている。これらの突出ピンをパネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ１１２０とパネル板１１１０とを互いに位置決めすることができる。

【０６５８】

更に、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、パネル板１１１０の係合段部と対応する位置に、係合段部と係合する係合爪及び係合片を備えている。詳述すると、係合爪は、パネルホルダ１１２０の保持段部の上部に配置されており、パネル板１１１０における上側の係合段部と対応し、保持段部の前面から前方に向かって突出し、係合段部と弾性係合するようになっている。この係合爪は、先端がパネルホルダ１１２０の前面から突出しない大きさとされている。

【０６５９】

パネルホルダ１１２０の係合片は、パネルホルダ１１２０の保持段部の下部に配置され、パネル板１１１０における下側の係合段部と対応している。この係合片は、保持段部の前面との間にパネル板１１１０の係合段部が挿入可能な大きさの隙間を形成した状態で、パネルホルダの前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びている。これら係合爪及び係合片にパネル板１１１０の係合段部を係合させることで、パネル板１１１０がパネルホルダ１１２０に対して着脱可能に保持される。

【０６６０】

また、パネルホルダ１１２０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に前後に貫通しているアウト口１１２６を備えている。パネルホルダ１１２０は、アウト口１１２６の後面下側が、アウト口１１２６と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。

【０６６１】

更に、パネルホルダ１１２０は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１１２７を備えている。この切欠部１１２７は、前構成部材１０００の切欠部１０１１と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１，１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０６６２】

また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、前構成部材１０００における複数の取付ボス（図示は省略）と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔を備えている。これら複数の取付孔に、前構成部材１０００の取付ボスを挿入することで、パネルホルダ１１２０を前構成部材１０００の後側に取付けることができると共に、前構成部材１０００との間でパネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）を位置決めすることができる。

【０６６３】

また、パネルホルダ１１２０は、切欠部１１２７の上側で前後方向に貫通している四角い挿通孔１１２９を備えている。この挿通孔１１２９は、機能表示ユニット１４００の後端が挿通される。

【０６６４】

遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後側に取付けた状態では、前構成部材１０００のアウト誘導部１００３の後側にパネルホルダ１１２０のアウト口１１２６が開口した状態となる。これにより、遊技領域５ａの下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部１００３によって後側のアウト口１１２６へ誘導され、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出される。

【０６６５】

［５－３．基板ホルダ］

次に、基板ホルダ１２００について、主に図１２２及び図１２３を参照して説明する。基板ホルダ１２００は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。この基板ホルダ１２００は、遊技盤５に組立てた状態で、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３００

０の下部を下側から覆うことができる。これにより、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出された遊技球、及び、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球、を全て受けることができ、底面に形成された排出部１２０１から下方へ排出させることができる。

【０６６６】

［５－４．主制御基板ユニット］

次に、主制御ユニット１３００について、主に図１２２及び図１２３を参照して説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。この主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板１３１０（図１１８を参照）と、主制御基板１３１０を収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。

【０６６７】

主制御基板ボックス１３２０は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。

【０６６８】

主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、払出制御基板９５１、及び周辺制御基板１５１０と、接続されている。また、主制御基板１３１０は、パネル中継基板３０３２を介して、機能表示ユニット１４００、ゲートセンサ２４０１、第一始動口センサ３１１２、第二始動口センサ４００４、磁気検出センサ４０２４、第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口センサ２４０２、第一受入口センサ２４３４、第二受入口センサ２４３５、一般入賞口センサ３１１１、ゲートセンサ２４０１、始動口ソレノイド２１０７、第一アタッカソレノイド２１０８、第二アタッカソレノイド２１０９、振分ソレノイド２１１０と接続されている。

【０６６９】

［５－５．機能表示ユニット］

次に、機能表示ユニット１４００について、主に図１１４等を参照して説明する。機能表示ユニット１４００は、図示するように、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左下隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、遊技盤５をパチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の貫通口１１１を通して前方（遊技者側）から視認することができる（図１８１を参照）。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

【０６７０】

機能表示ユニット１４００は、図示するように、遊技状態を表示する一つのＬＥＤからなる状態表示器１４０１と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過により抽選される普通抽選結果を表示する四つのＬＥＤからなる普通図柄表示器１４０２と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過に係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器１４０８と、第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器１４０３と、第一始動口２００２への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器１４０４と、第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器１４０５と、第二始動口２００４への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器１４０６と、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「大当り」等の時に、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する三つのＬＥＤからなるラウンド表示器１４０７と、を主に備えている。

【０６７１】
この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。
【０６７２】
［５－６．周辺制御ユニット］
次に、周辺制御ユニット１５００について、主に図１１７及び図１２３等を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられる遊技盤側演出表示装置１６００の後側に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基いて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０（図１１８を参照）と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、図示は省略するが、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部と、演出画像を制御するための演出表示制御部と、を備えている。
【０６７３】
周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０、演出操作ユニット４００、扉枠３側の各種装飾基板、遊技盤側演出表示装置１６００、演出駆動基板３０３１、等と接続されている。
【０６７４】
［５－７．遊技盤側演出表示装置］
次に、遊技盤側演出表示装置１６００について、主に図１２２及び図１２３を参照して説明する。遊技盤側演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。詳述すると、遊技盤側演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。この遊技盤側演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。遊技盤側演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとしたフルカラーの液晶表示装置である。遊技盤側演出表示装置１６００は、周辺制御基板１５１０に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。
【０６７５】
遊技盤側演出表示装置１６００は、正面視左側面から外方へ突出している二つの左固定片１６０１と、正面視右側面から外方へ突出している右固定片１６０２と、を備えている。この遊技盤側演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の枠状の液晶取付部３０１０ｂ内の正面視左内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｃに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの左固定片１６０１を挿入した上で、右固定片１６０２側を前方へ移動させて、右固定片１６０２をロック機構３０２０の開口部内に挿入し、ロック機構３０２０を下方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。
【０６７６】
［５－８．表ユニットの全体構成］
次に、表ユニット２０００の全体構成について、主に図１２２及び図１２３を参照して説明する。遊技盤５の表ユニット２０００は、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に、前方から取付けられており、前端がパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出していると共に、後端が開口部１１１２を貫通してパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。
【０６７７】
本実施形態の表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能としており常時開口している複数の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２０

０３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて何れかにおいて遊技球の受入れが可能となる第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６と、を備えている。

【０６７８】

複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１は、遊技領域５ａ内の下部に配置されおり、左右方向中央に対して左側に三つ、右側に一つ夫々配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に配置されている。ゲート部２００３は、遊技領域５ａ内における正面視右端付近で上下方向中央の下寄りに配置されている。第二始動口２００４は、ゲート部２００３の直下に配置されている。第一大入賞口２００５は、左右方向中央より右側の一般入賞口２００１の右方で当該一般入賞口２００１と第一始動口２００２との間の高さに配置されている。第二大入賞口２００６は、第二始動口２００４と第一大入賞口２００５との間に配置されている。

【０６７９】

また、表ユニット２０００は、第一大入賞口２００５と第二大入賞口２００６との間に、遊技球を遊技領域５ａ内から排出するサブアウト口２００７を備えている。

【０６８０】

更に、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように取付けられており三つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左端上方に取付けられているサイドスロープ２３００と、始動口ユニット２１００の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６を有しているアタッカユニット２４００と、遊技領域５ａ内の略中央に取付けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０６８１】

［５－８ａ．始動口ユニット］

次に、表ユニット２０００の始動口ユニット２１００について、主に図１２５を参照して説明する。図１２５（ａ）は遊技盤の表ユニットにおける始動口ユニット、サイドユニット、サイドスロープ、及びアタッカユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を後ろから見た斜視図である。始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口１１２６の直上に配置されており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。この始動口ユニット２１００は、最上部において、第一始動口２００２が、遊技球を一度に一つのみ受入可能な大きさで上方に向かって常時開口している。

【０６８２】

始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２が形成されており遊技パネル１１００のパネル板１１１０に前方から取付けられる透光性を有したユニット本体２１０１と、ユニット本体２１０１の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている始動口装飾基板２１０２（図１２０を参照）と、を備えている。この始動口ユニット２１００は、始動口装飾基板２１０２のＬＥＤを発光させることで、第一始動口２００２の下側を発光装飾させることができる。

【０６８３】

始動口ユニット２１００は、パネル板１１１０に取付けることで、第一始動口２００２がパネル板１１１０の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、第一始動口２００２が後述するセンター役物２５００のステージ２５３０におけるチャンス出口２５３６の直下に位置している。従って、ステージ２５３０のチャンス出口２５３６から下方へ遊技球が放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる

。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２に受入れられた遊技球を、パネル板１１１０の後方へ誘導し、後述する裏ユニット３０００における裏前飾りユニット３１００の中央受渡口３１３５に受け渡すことができる。

【０６８４】

［５－８ｂ．サイドユニット］

次に、表ユニット２０００のサイドユニット２２００について、主に図１２５を参照して詳細に説明する。サイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿うように円弧状に延びており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。サイドユニット２２００は、上方へ向かって常時開口している三つの一般入賞口２００１を有している。

【０６８５】

サイドユニット２２００は、三つの一般入賞口２００１が左右に列設された状態で備えられていると共に、三つの一般入賞口２００１が正面視左方へ向かうほど高くなるように備えられている。

【０６８６】

サイドユニット２２００は、パネル板１１１０に取付けることで、三つの一般入賞口２００１が、パネル板１１１０の前面よりも前方へ突出した状態となると共に、第一始動口２００２よりも下方で、且つ、始動口ユニット２１００とサイドスロープ２３００との間に配置された状態となる。サイドユニット２２００は、各一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を、パネル板１１１０の後方へ誘導し、後述する裏ユニット３０００の裏前飾りユニット３１００における球誘導ユニット３１５０の受渡口３１５１に受け渡すことができる。

【０６８７】

［５－８ｃ．サイドスロープ］

次に、表ユニット２０００のサイドスロープ２３００について、主に図１２５を参照して詳細に説明する。サイドスロープ２３００は、遊技領域５ａ内において、サイドユニット２２００の正面視左上方で上下方向中央からやや下寄りに前方からパネル板１１１０に取付けられる。サイドスロープ２３００は、前方に突出していると共に正面視右端側が低くなるように左右に延びている棚部２３０１を備えている。

【０６８８】

サイドスロープ２３００は、パネル板１１１０の前面に取付けた状態で、棚部２３０１の左端が内レール１００２に接近していると共に、棚部２３０１の右端がサイドユニット２２００の最も左側の一般入賞口２００１よりも左方に位置している。また、サイドスロープ２３００は、パネル板１１１０に取付けた状態で、棚部２３０１が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２よりも上方に位置している。これにより、サイドスロープ２３００は、内レール１００２に沿って流下してきた遊技球を、棚部２３０１により右方（遊技領域５ａの左右方向中央）へ誘導させることができ、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２、及びサイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１の何れかに遊技球が受入れられる可能性がある。

【０６８９】

［５－８ｄ．アタッカユニット］

次に、表ユニット２０００のアタッカユニット２４００について、主に図１２５及び図１２６を参照して詳細に説明する。図１２６は、表ユニットにおけるアタッカユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断して正面から示した説明図である。アタッカユニット２４００は、遊技領域５ａ内において、正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に配置されており、パネル板１１１０の前面に前方から取付けられている。このアタッカユニット２４００は、四つの一般入賞口２００１のうちの一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、及びサブアウト口２００７を備えている。

【０６９０】

アタッカユニット２４００は、図１２６等に示すように、正面視における外形形状が、右端がやや上方に位置するように傾斜した底辺と、底辺の右端から略垂直に立ち上がった右辺と、右辺の上端と底辺の左端とを結ぶように斜めに延びた斜辺と、を有するような略三角形に形成されている。このアタッカユニット２４００は、右上隅に遊技球が上下に流通（通過）するゲート部２００３が配置されていると共に、ゲート部２００３の直下に前方へ開口可能な第二始動口２００４が配置されている。また、アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４の左下に上方へ開口可能な第二大入賞口２００６が配置されていると共に、第二大入賞口２００６の左下に左方へ常時開口しているサブアウト口２００７が配置されている。更に、アタッカユニット２４００は、サブアウト口２００７のやや下側の左方に上方へ開口可能な第一大入賞口２００５が配置されている共に、第一大入賞口２００５の左下に上方へ常時開口している一般入賞口２００１が配置されている。

【０６９１】

アタッカユニット２４００は、ゲート部２００３を通過する遊技球を検知するゲートセンサ２４０１と、第二始動口２００４に受入れられた遊技球を検知する第二始動口センサ４００４と、第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球を検知する第一大入賞口センサ４００５と、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球を検知する第二大入賞口センサ２４０２と、を備えている。

【０６９２】

アタッカユニット２４００は、ゲート部２００３の遊技球の通過により抽選される普通抽選結果に応じて第二始動口２００４を開閉する第二始動口扉２４１１と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第一大入賞口２００５を開閉する第一大入賞口扉２４１２と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて第二大入賞口２００６を開閉する第二大入賞口扉２４１３と、を備えている。

【０６９３】

アタッカユニット２４００は、正面視において右上隅で上下に延びており遊技球が流通可能なゲート通路２４２０と、ゲート通路２４２０の左側で上下に延びており遊技球が流通可能な左サイド通路２４２１と、ゲート通路２４２０の右側で上下に延びており遊技球が流通可能な右サイド通路２４２２と、ゲート通路２４２０、左サイド通路２４２１、及び右サイド通路２４２２の下方で右サイド通路２４２２の下方から左端側が低くなるように左サイド通路２４２１よりも左方へ延びており遊技球が流通可能なアタッカ通路２４２３と、アタッカ通路２４２３の左側の下方で左端側が低くなるように左方へ延びており遊技球を誘導可能なアタッカ棚部２４２４と、を備えている。

【０６９４】

ゲート通路２４２０は、上部付近にゲート部２００３が配置されていると共に、下部に第二始動口２００４が配置されている。このゲート通路２４２０は、ゲート部２００３と第二始動口２００４との間において、左サイド通路２４２１及び右サイド通路２４２２と夫々連通するように左右両壁が貫通している。ゲート通路２４２０は、遊技球の外径よりも若干広い幅で上下に延びている。

【０６９５】

アタッカ通路２４２３は、左サイド通路２４２１よりも左方における底壁に、第二大入賞口２００６が開口している。このアタッカ通路２４２３は、第二大入賞口２００６を開閉可能に閉鎖する第二大入賞口扉２４１３が、底壁の一部を形成している。また、アタッカ通路２４２３は、最も低くなっている左端側が、下方へ向かって開口している。第二大入賞口２００６は、遊技球の外径の約１．５倍の幅で開口している。

【０６９６】

アタッカ棚部２４２４は、第一大入賞口２００５が開口しており、第一大入賞口２００５を開閉可能に閉鎖している第一大入賞口扉２４１２が一部を形成している。第一大入賞口２００５は、遊技球の外径の約３倍の幅で開口している。アタッカ棚部２４２４の右端

において、サブアウト口２００７が開口している。また、アタッカ棚部２４２４の左端よりも左下において、一つの一般入賞口２００１が開口している。

【０６９７】

第二始動口扉２４１１は、前方へ開口している第二始動口２００４を、前方から閉鎖可能としており、第二始動口２００４の下端付近において、下辺が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。この第二始動口扉２４１１は、上辺が前方へ移動するように回転（回動）することで、第二始動口２００４を開放すると共に、ゲート通路２４２０を閉鎖し、ゲート通路２４２０内を流下してきた遊技球を、第二始動口２００４側へ誘導して、第二始動口２００４へ受入れさせることができる。第二始動口扉２４１１は、始動口ソレノイド２１０７の駆動によって回動するように形成されており、始動口ソレノイド２１０７がＯＦＦ（非通電時）の時は第二始動口２００４を閉鎖し、始動口ソレノイド２１０７がＯＮ（通電時）の時は第二始動口２００４を開放させる。

【０６９８】

第一大入賞口扉２４１２は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第一大入賞口２００５を閉鎖可能としている。第一大入賞口扉２４１２は、前進することで第一大入賞口２００５を閉鎖すると共に、アタッカ棚部２４２４の一部を形成し、アタッカ棚部２４２４上に流下してきた遊技球を、左方へ誘導してアタッカ棚部２４２４の左端から下方へ放出する。また、第一大入賞口扉２４１２は、後退することで第一大入賞口２００５を開放し、アタッカ通路２４２３等を介してアタッカ棚部２４２４上に流下してきた遊技球を、第一大入賞口２００５に受入れさせることができる。この第一大入賞口扉２４１２は、第一アタッカソレノイド２１０８の駆動によって進退するように形成されており、第一アタッカソレノイド２１０８がＯＦＦ（非通電時）の時は第一大入賞口２００５を閉鎖し、第一アタッカソレノイド２１０８がＯＮ（通電時）の時は第一大入賞口２００５を開放させる。

【０６９９】

第二大入賞口扉２４１３は、前後に延びていると共に、左端が低くなるように左右に延びている板状に形成されており、前後に進退することで上方へ開口している第二大入賞口２００６を閉鎖可能としている。第二大入賞口扉２４１３は、前進することで第二大入賞口２００６を閉鎖すると共に、アタッカ通路２４２３の底壁の一部を形成し、ゲート通路２４２０、左サイド通路２４２１、及び右サイド通路２４２２の何れかを通過した遊技球を、左方へ誘導して、アタッカ通路２４２３の左端から下方へ放出する。また、第二大入賞口扉２４１３は、後退することで第二大入賞口２００６を開放し、アタッカ通路２４２３に進入してきた遊技球を、高い確率で第二大入賞口２００６に受入れさせることができる。この第二大入賞口扉２４１３は、第二アタッカソレノイド２１０９の駆動によって進退するように形成されており、第二アタッカソレノイド２１０９がＯＦＦ（非通電時）の時は第二大入賞口２００６を閉鎖し、第二アタッカソレノイド２１０９がＯＮ（通電時）の時は第二大入賞口２００６を開放させる。

【０７００】

また、アタッカユニット２４００は、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球が流通可能な内部通路２４３０と、内部通路２４３０の底部に開口している第一受入口（第一球通路）２４３１及び第二受入口（第二球通路）２４３２と、内部通路２４３０において遊技球を第一受入口２４３１又は第二受入口２４３２の何れかに振り分ける振分片２４３３と、第一受入口２４３１に受入れられた遊技球を検知する第一受入口センサ２４３４と、第二受入口２４３２に受入れられた遊技球を検知する第二受入口センサ２４３５と、を備えている。

【０７０１】

内部通路２４３０は、第二大入賞口センサ２４０２の下流側に形成されている。第一受入口２４３１は、第二大入賞口センサ２４０２における遊技球が通過する部位の直下に配置されており、第二受入口２４３２は、第一受入口２４３１の正面視右側に配置されてい

る。振分片２４３３は、内部通路２４３０内における第一受入口２４３１と第二受入口２４３２との間に配置されており、下辺が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。振分片２４３３は、垂直に立上って第二大入賞口２００６と第一受入口２４３１とを連通させた状態と、上辺が正面視左方へ移動して内部通路２４３０の左側の側壁に当接（或いは、接近）して第二大入賞口２００６と第二受入口２４３２とを連通させた状態との間で回転するように取付けられている。この振分片２４３３は、振分ソレノイド２１１０の駆動によって回転するように形成されており、振分ソレノイド２１１０がＯＦＦ（非通電時）の時は第一受入口２４３１へ遊技球を振り分け、振分ソレノイド２１１０がＯＮ（通電時）の時は第二受入口２４３２へ遊技球を振り分ける。

【０７０２】

このアタッカユニット２４００は、パネル板１１１０の前面に取付けた状態で、ゲート通路２４２０が、後述するセンター役物２５００における右案内通路２５４０の下流側の開口部の直下に位置していると共に、ゲート部２００３がセンター役物２５００のステージ２５３０よりも上方に位置している。また、第一大入賞口２００５と一般入賞口２００１とが、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２よりも下方に位置している。

【０７０３】

続いて、アタッカユニット２４００における遊技球の流れについて説明する。遊技盤５に組立てた状態で、アタッカユニット２４００のゲート部２００３が、センター役物２５００のステージ２５３０よりも上方に位置していることから、ステージ２５３０から遊技球が放出されてもゲート部２００３を通過することはない。従って、センター役物２５００の右側を流下した遊技球のみゲート部２００３を通過する可能がある。ゲート部２００３が配置されているゲート通路２４２０の上端開口は、センター役物２５００における右案内通路２５４０の下流側の開口の直下で上方へ向けて開口していることから、センター役物２５００の右側を流下した遊技球は、高い確率でゲート通路２４２０に進入し、ゲート部２００３を通過することとなる。

【０７０４】

そして、ゲート部２００３を通過した遊技球は、その直下の第二始動口２００４を閉鎖している第二始動口扉２４１１の前方を通って、ゲート通路２４２０からアタッカ通路２４２３へ放出される。この際に、第二始動口扉２４１１が前方へ回動して開位置の状態となっていると、ゲート部２００３を通過した遊技球が第二始動口扉２４１１の裏面に当接して第二始動口２００４側へ誘導され、第二始動口２００４に受入れられることとなる。第二始動口扉２４１１は、ゲート部２００３を遊技球が通過する（ゲートセンサ２４０１より遊技球が検知される）ことで抽選される普通抽選結果に応じて（普通抽選結果が「普通当り」の時に）駆動させられるため、普通抽選結果の抽選時間や第二始動口扉２４１１の開閉タイミング等を適宜設定することで、「普通当り」を抽選した遊技球そのものを第二始動口２００４へ受入れさせることができる。

【０７０５】

第二始動口２００４に受入れられた遊技球は、第二始動口センサにより検知された後、遊技パネル１１００の後側において下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。

【０７０６】

なお、ゲート通路２４２０では、ゲート部２００３と第二始動口２００４との間の部位の左右両側が、左サイド通路２４２１や右サイド通路２４２２と連通していることから、ゲート部２００３を通過した遊技球が、稀に連通している部位を通って左サイド通路２４２１や右サイド通路２４２２側へ進入することがある。つまり、ゲート部２００３を通過した遊技球は、第二始動口扉２４１１の前方を必ずしも通過するとは限らない。

【０７０７】

センター役物２５００の右側を流下した遊技球が、ゲート通路２４２０に進入しなかった場合は、ゲート通路２４２０の左右両側に配置された左サイド通路２４２１又は右サイド通路２４２２の何れかに進入し、左サイド通路２４２１又は右サイド通路２４２２を通ってアタッカ通路２４２３へ放出される。

【０７０８】
ゲート通路２４２０、左サイド通路２４２１、及び右サイド通路２４２２の何れかからアタッカ通路２４２３に放出された遊技球は、アタッカ通路２４２３の傾斜に沿って左方へ誘導され、アタッカ通路２４２３の左端から下方へ放出される。この際に、第二大入賞口２００６を閉鎖している第二大入賞口扉２４１３が後退して第二大入賞口２００６が開いていると、アタッカ通路２４２３内に放出された遊技球が、高い確率で第二大入賞口２００６に受入れられる。第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球は、第二大入賞口センサ２４０２に検知された後、内部通路２４３０に送られ、振分片２４３３によって第一受入口２４３１又は第二受入口２４３２の何れかに振り分けられる。
【０７０９】
第一受入口２４３１又は第二受入口２４３２に受入れられた遊技球は、第一受入口センサ２４３４又は第二受入口センサ２４３５により検知された上で、遊技パネル１１００の後側において下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。
【０７１０】
なお、第二大入賞口２００６は、左右の幅が遊技球の外径の約１．５倍とされていることから、第二大入賞口扉２４１３が後退して第二大入賞口２００６が開いていても、アタッカ通路２４２３を流通している遊技球の速度や挙動等によっては、遊技球が第二大入賞口２００６を飛び越えてしまい、第二大入賞口２００６に受入れられないことがある。
【０７１１】
アタッカ通路２４２３から放出された遊技球は、アタッカ棚部２４２４上に流下し、アタッカ棚部２４２４に誘導されて、アタッカ棚部２４２４の左端から下方へ放出される。この際に、第一大入賞口扉２４１２が後退して第一大入賞口２００５が開いていると、アタッカ通路２４２３から放出された遊技球が、第一大入賞口２００５に受入れられることとなる。従って、第一大入賞口２００５が開いている時に、センター役物２５００の右側を流通するように遊技球を遊技領域５ａ内に打込むと、高い確率で第一大入賞口２００５に遊技球を受入させることができる。
【０７１２】
第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球は、第一大入賞口センサ４００５に検知された後、遊技パネル１１００の後側において下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。
【０７１３】
アタッカ棚部２４２４から下方へ放出された遊技球は、下方に配置されている一つの一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球は、パネル板１１１０の後側へ誘導された後に、裏ユニット３０００における裏前飾りユニット３１００の右受渡口３１３６に受け渡される。一方、一般入賞口２００１に受入れられなかった遊技球は、遊技領域５ａ下端のアウト口１１２６を通り、遊技パネル１１００の後側において下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。
【０７１４】
［５－８ｅ．センター役物］
次に、表ユニット２０００のセンター役物２５００について、主に図１２７を参照して詳細に説明する。図１２７（ａ）は表ユニットにおけるセンター役物を前から見た斜視図であり、（ｂ）はセンター役物を後ろから見た斜視図である。センター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００、及びサイドユニット２２００よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に取付けられている。センター役物２５００は、枠状に形成されており、枠内を通して遊技パネル１１００の後方に配置された遊技盤側演出表示装置１６００や裏ユニット３０００に備えられている演出ユニット等を前方から視認することができる。
【０７１５】
枠状のセンター役物２５００は、下辺を除いた全周が、遊技パネル１１００のパネル板

１１１０の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、枠内に侵入できないようになっている。

【０７１６】

センター役物２５００は、正面視左側の外周面に、遊技領域５ａ内の遊技球が進入可能に開口しているワープ入口２５２０と、ワープ入口２５２０に進入した遊技球を放出可能とされ枠内に開口しているワープ出口２５２２と、ワープ出口２５２２から放出された遊技球を左右方向に転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出可能なステージ２５３０と、を備えている（図１２０等を参照）。

【０７１７】

センター役物２５００のステージ２５３０は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センター役物２５００を遊技パネル１１００（パネル板１１１０）に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状に形成されている。このステージ２５３０は、波状に形成されている中央両側の最も低くなっている部位から、遊技球を遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【０７１８】

センター役物２５００は、ステージ２５３０における中央の若干高くなっている部位の最も高い位置において前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能なチャンス入口２５３５と、チャンス入口２５３５に進入した遊技球をステージ２５３０よりも下方で遊技領域５ａ内へ放出するチャンス出口２５３６と、を備えている。チャンス出口２５３６は、センター役物２５００を遊技盤５に組立てた状態で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上に位置している。これにより、遊技球がチャンス出口２５３６から放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【０７１９】

また、センター役物２５００は、正面視右側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、やや左方へ誘導した後に下方へ放出する右案内通路２５４０を備えている。この右案内通路２５４０は、センター役物２５００を遊技盤５に組立てた状態で、右案内通路２５４０における下流端が、アタッカユニット２４００におけるゲート通路２４２０（ゲート部２００３）の直上に位置するように形成されている。

【０７２０】

このセンター役物２５００は、遊技盤５に組立てた状態で、右側の外周面が、前構成部材１０００における右レール１００５から遊技球の外径よりも若干大きい離れるように形成されている。従って、遊技球がセンター役物２５００の右側を流通すると、センター役物２５００の右側の外周面に沿って流通することとなり、センター役物２５００の右側を流通する遊技球は全て右案内通路２５４０に進入して案内される。これにより、遊技球がセンター役物２５００の右側を流通するように遊技領域５ａ内に打込む（所謂、右打ちする）と、極めて高い確率でゲート部２００３に対して遊技球を通過させることができる。

【０７２１】

［５－９．裏ユニットの全体構成］

次に、遊技盤５における裏ユニット３０００の全体構成について、主に図１２８乃至図１３１を参照して詳細に説明する。図１２８は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、図１２９は裏ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１３０は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１３１は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられている。また、裏ユニット３０００の後側に遊技盤側演出表示装置１６００及び周辺制御ユニット１５００が取付けられている。

【０７２２】

裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後

面に取付けられており遊技盤側演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａの下側に取付けられている演出駆動基板３０３１と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３１の背面視右側に取付けられているパネル中継基板３０３２と、裏箱３０１０の後面でパネル中継基板３０３２の背面視右側に取付けられている左下中継基板３０３３と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３１の背面視左側に取付けられている右下中継基板３０３４と、を備えている。

【０７２３】

演出駆動基板３０３１は、周辺制御基板１５１０からの制御信号に基づいて、裏前飾りユニット３１００、裏中可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、裏上可動演出ユニット３５００、及び裏下可動演出ユニット３７００、に備えられている装飾基板や駆動モータ等を制御している。パネル中継基板３０３２は、主制御基板１３１０と、機能表示ユニット１４００、ゲートセンサ２４０１、第一始動口センサ３１１２、第二始動口センサ４００４、磁気検出センサ４０２４、第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口センサ２４０２、第一受入口センサ２４３４、第二受入口センサ２４３５、一般入賞口センサ３１１１、ゲートセンサ２４０１、始動口ソレノイド２１０７、第一アタッカソレノイド２１０８、第二アタッカソレノイド２１０９、振分ソレノイド２１１０との接続を中継している。

【０７２４】

左下中継基板３０３３は、演出駆動基板３０３１と、裏左可動演出ユニット３３００との接続を中継している。右下中継基板３０３４は、演出駆動基板３０３１と、裏前飾りユニット３１００、裏中可動演出ユニット３２００、裏右可動演出ユニット３４００、裏上可動演出ユニット３５００、及び裏下可動演出ユニット３７００との接続を中継している。

【０７２５】

また、裏ユニット３０００は、演出駆動基板３０３１、パネル中継基板３０３２、左下中継基板３０３３、及び右下中継基板３０３４の夫々の後側を夫々覆うように裏箱３０１０の後面に取付けられている演出駆動基板カバー３０３５、パネル中継基板カバー３０３６、左下中継基板カバー３０３７、及び右下中継基板カバー３０３８を備えている。

【０７２６】

また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端で正面視左辺側と下辺側とにかけて取付けられている裏前飾りユニット３１００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａを囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの左右両側に夫々取付けられている裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの上側に取付けられている裏上可動演出ユニット３５００と、裏箱３０１０内において開口部３０１０ａの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット３７００と、を備えている。

【０７２７】

［５－９ａ．裏箱］

次に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０について、主に図１２８乃至図１３１を参照して詳細に説明する。裏ユニット３０００の裏箱３０１０は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部３０１０ａと、開口部３０１０ａの周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部３０１０ｂと、液晶取付部３０１０ｂにおける背面視右辺において枠内の内側から外方へ向かって窪んでおり遊技盤側演出表示装置１６００の左固定片１６０１が挿入される二つの固定溝３０１０ｃと、液晶取付部３０１０ｂの背面視左辺の上下方向中央において後端から裏箱３０１０の後壁まで切欠かれロック機構３０２０が取付けられる切欠部３０１０ｄと、を備えている。

【０７２８】

裏箱３０１０の開口部３０１０ａは、遊技盤側演出表示装置１６００の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部３０１０ｂは、枠内に遊技盤側演出表示装置１６００を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱３０１０は、後面にお

ける切欠部３０１０ｄの背面視左側にロック機構３０２０が上下にスライド可能に取付けられる。

【０７２９】

また、裏箱３０１０は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部３０１０ｅを備えている。この固定片部３０１０ｅは、前面が遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０の後面に当接した状態で、パネルホルダ１１２０に取付けられる。裏箱３０１０は、各可動演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【０７３０】

［５－９ｂ．裏前飾りユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏前飾りユニット３１００について、主に図１２８乃至図１３２を参照して詳細に説明する。図１３２（ａ）は裏ユニットにおける裏前飾りユニットの正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＴ－Ｔ線で切断して拡大した拡大断面図である。裏前飾りユニット３１００は、裏箱３０１０における前端の正面視左辺側から下辺側にかかるように取付けられている。

【０７３１】

裏前飾りユニット３１００は、裏箱３０１０の前端における左辺側と下辺側とに沿うようにＬ字型（三日月型）に形成されており裏箱３０１０の前端に取付けられる透明なユニットベース３１１０と、表ユニット２０００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を検知する一般入賞口センサ３１１１と、表ユニット２０００の第一始動口２００２に受入れられた遊技球を検知する第一始動口センサ３１１２と、遊技領域５ａ内に外部から作用させられた不正な磁気を検知可能な磁気検出センサ４０２４と、を備えている。

【０７３２】

また、裏前飾りユニット３１００は、裏箱３０１０の左辺に沿うよう上下に延びておりユニットベース３１１０の前面に取付けられている裏前左飾りユニット３１２０と、裏前左飾りユニット３１２０の下端から裏箱３０１０の辺に沿うように左右に延びておりユニットベース３１１０の前面に取付けられている裏前下飾りユニット３１３０と、裏前下飾りユニット３１３０の正面視左側の下部に配置されておりユニットベース３１１０の前面に取付けられている球誘導ユニット３１５０と、を備えている。

【０７３３】

裏前飾りユニット３１００の裏前左飾りユニット３１２０は、図示するように、「ドドドド」の文字の装飾を有した透光性を有する平板状の裏前左飾り装飾体３１２１と、裏前左飾り装飾体３１２１の後側に取付けられている透明で平板状の裏前左導光レンズ３１２２と、裏前左導光レンズ３１２２の左側面に向かって光を照射可能な複数のＬＥＤ３１２３ａが実装された裏前左装飾基板３１２３と、を備えている（図１３２（ｂ）を参照）。

【０７３４】

裏前左導光レンズ３１２２は、裏前左飾り装飾体３１２１における「ド」の字の装飾の後方となる後面に、円錐状に形成された複数の反射部３１２２ａを有している。裏前左導光レンズ３１２２の左側面から内部に入射された光は、複数の反射部３１２２ａによって前方へ反射させられ、裏前左導光レンズ３１２２の前方に配置された裏前左飾り装飾体３１２１を面状に発光装飾させることができる。

【０７３５】

裏前飾りユニット３１００の裏前下飾りユニット３１３０は、遊技領域５ａの左右方向中央と対応するように配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下中央レンズ３１３１と、裏前下中央レンズ３１３１の左右両側に夫々配置されており前面に所定の立体的な装飾が形成されている裏前下左レンズ３１３２及び裏前下右レンズ３１３３と、裏前下中央レンズ３１３１、裏前下左レンズ３１３２、及び裏前下右レンズ３１３３の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前下装飾基板３１３４と、を備えている。裏前下装飾基板のＬＥＤを適宜発光させることで、裏前下中央レンズ３１３１、裏前下左レンズ３１３２、及び裏前下右レンズ３１３３を、夫々独立させた状態で発光装飾させることができる。

【０７３６】
また、裏前下飾りユニット３１３０は、裏前下中央レンズ３１３１の上部中央において前方へ向かって開口しており始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な中央受渡口３１３５と、裏前下中央レンズ３１３１の下部の右外側において前方へ向かって開口しておりアタッカユニット２４００の一般入賞口２００１に受入れられて後方へ誘導された遊技球が進入可能な左受渡口３１３７と、を備えている。中央受渡口３１３５に進入した遊技球は、第一始動口センサ３１１２に検知された後に、下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。また、右受渡口３１３６に進入した遊技球は、一般入賞口センサ３１１１に検知された後に、下方（基板ホルダ１２００上）へ排出される。

【０７３７】
裏前飾りユニット３１００の球誘導ユニット３１５０は、裏前下飾りユニット３１３０における裏前下左レンズ３１３２の下方に配置されるようにユニットベース３１１０に取付けられている。球誘導ユニット３１５０は、全体が箱状に形成されており、サイドユニット２２００における三つの一般入賞口２００１と対応した位置で前方へ向かって開口しており遊技球が進入可能な三つの受渡口３１５１と、受渡口３１５１から内部に進入した遊技球を下方（基板ホルダ１２００上）へ排出する排出口（図示は省略）と、を備えている。受渡口３１５１から内部に進入した遊技球は、一般入賞口センサ３１１１に検知された後に、排出口から下方へ排出される。

【０７３８】
［５－９ｃ．裏中可動演出ユニット］
次に、裏ユニット３０００における裏中可動演出ユニット３２００について、主に図１３０及び図１３１を参照して詳細に説明する。裏中可動演出ユニット３２００は、裏箱３０１０内の後壁に、開口部３０１０ａを囲むように取付けられる。裏中可動演出ユニット３２００は、正面視において左側に配置され裏箱３０１０の開口部３０１０ａの高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中左装飾体３２１０と、正面視において右側に配置され裏箱３０１０の開口部３０１０ａの高さよりも高く上下に延びており所定の装飾を有している裏中右装飾体３２２０と、裏箱３０１０内の後壁における開口部３０１０ａの上下両外側に取付けられ裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０を左右方向へ移動させる裏中駆動ユニット３２５０と、を備えている。

【０７３９】
裏中左装飾体３２１０は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中左装飾レンズ３２１１と、裏中左装飾レンズ３２１１の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中左装飾基板（図示は省略）と、裏中左装飾基板の後面を覆うように裏中左装飾レンズ３２１１の後側に取付けられている平板状の裏中左装飾体ベース３２１２と、を備えている。裏中左装飾体ベース３２１２は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が上方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中左装飾体３２１０は、裏中左装飾基板のＬＥＤを発光させることで、裏中左装飾レンズ３２１１を発光装飾させることができる。

【０７４０】
裏中右装飾体３２２０は、前面にレリーフ状の装飾が形成された透光性を有する平板状の裏中右装飾レンズ３２２１と、裏中右装飾レンズ３２２１の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中右装飾基板（図示は省略）と、裏中右装飾基板の後面を覆うように裏中右装飾レンズ３２２１の後側に取付けられている平板状の裏中右装飾体ベース３２２２と、を備えている。裏中右装飾体ベース３２２２は、図示は省略するが、下端に、左右へ延びていると共にギア歯が下方へ向けて形成されているラックギアを備えている。この裏中右装飾体３２２０は、裏中右装飾基板のＬＥＤを発光させることで、裏中右装飾レンズ３２２１を発光装飾させることができる。

【０７４１】
裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０の裏中左装飾レンズ３２１１及び裏中

右装飾レンズ３２２１は、互いが左右対称の形状に形成されており、上下方向の略中央において、遊技盤５の左右方向中央に近い側が抉れたような形状に形成されている。

【０７４２】

裏中駆動ユニット３２５０は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上側に取付けられ裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０の上端を左右方向へスライド可能に支持する上レール３２５１と、裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０の下端を左右方向へスライド可能に支持する平板状のユニットベース３２５２と、ユニットベース３２５２の後側に取付けられており裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下側に取付けられる平板状の取付ベース３２５３と、取付ベース３２５３とユニットベース３２５２の間に回転軸が突出するようにユニットベース３２５２の前面に取付けられている裏中駆動モータ３２５４と、裏中駆動モータ３２５４の回転が伝達されると共に取付ベース３２５３の前面において回転可能に取付けられており上下から挟まれるように裏中左装飾体３２１０のラックギアと裏中右装飾体３２２０のラックギアとが噛合しているピニオンギア（図示は省略）と、を備えている。

【０７４３】

裏中可動演出ユニット３２００は、通常の状態では、左右の裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０が、互いに最も離反した退避位置の状態となっている。この状態では、裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０が、センター役物２５００の枠内を通して僅かに見えるようになっている（図１１４等を参照）。通常の状態から裏中駆動モータ３２５４の駆動によりピニオンギアを正面視反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合している裏中左装飾体３２１０のラックギアと裏中右装飾体３２２０のラックギアとにより、裏中左装飾体３２１０が右方へ移動すると共に裏中右装飾体３２２０が左方へ移動することとなる。

【０７４４】

これにより、互いに離反していた裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０とが互いに接近するように移動し、互いに当接する直前で移動が停止する。この状態では、裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０とが、遊技盤側演出表示装置１６００の前面側の略中央（出現位置）に位置した状態となり、裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０との装飾が合体して、一つの大きな装飾（桜の花弁を模した装飾）を形成した状態となる（図１７０を参照）。

【０７４５】

［５－９ｄ．裏左可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏左可動演出ユニット３３００について、主に図１３０及び図１３１を参照して詳細に説明する。裏左可動演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの正面視左外側に取付けられている。裏左可動演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内の開口部３０１０ａを間にして、裏右可動演出ユニット３４００に対して略左右対称に形成されている。

【０７４６】

裏左可動演出ユニット３３００は、三角柱状に形成されている裏左装飾体３３１０と、裏左装飾体３３１０を上下に延びた軸線周りに回転させる裏左回転駆動ユニット３３３０と、裏箱３０１０内に取付けられ裏左回転駆動ユニット３３３０の上端側を左右方向へ移動させる裏左移動駆動ユニット３３５０と、裏箱３０１０内に取付けられ裏左回転駆動ユニット３３３０の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏左下案内レール３３７０と、裏左移動駆動ユニット３３５０の前側に取付けられており所定の装飾を有している裏左上装飾体３３９０と、を備えている。

【０７４７】

裏左装飾体３３１０は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱３０１０における開口部３０１０ａの上下の高さよりも短く延びている。裏左装飾体３３１０は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面３３１１と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面３３１２と、第二装飾面３３１２とは異なる文字の装飾が形成されている第三

装飾面３３１３と、を備えている。裏左装飾体３３１０は、透光性を有するように形成されている。また、裏左装飾体３３１０は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

【０７４８】

裏左回転駆動ユニット３３３０は、裏左移動駆動ユニット３３５０により左右方向へ移動可能に取付けられる上下延びた移動ベース３３３１と、前方へ突出するように移動ベース３３３１の下部に取付けられており裏左装飾体３３１０の下端を回転可能に支持している下回転ベース３３３２と、裏左装飾体３３１０の上側へ突出するように移動ベース３３３１の上部に取付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏左装飾体３３１０の上端に取付けられている裏左回転駆動モータ（図示は省略）と、裏左回転駆動モータの外周を覆うように移動ベース３３３１に取付けられているモータカバー３３３３と、裏左装飾体３３１０の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース３３３２に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏左装飾基板３３３４（図１１９を参照）と、を備えている。

【０７４９】

移動ベース３３３１は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース３３３２は、裏左装飾体３３１０の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース３３３２は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏左下案内レール３３７０に案内される突起を有している。

【０７５０】

裏左装飾基板３３３４は、円筒状の軸部内を通して裏左装飾体３３１０の内部に配置されている。この裏左装飾基板３３３４は、図示は省略するが、上端側が裏左装飾体３３１０の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏左回転駆動モータの駆動によって裏左装飾体３３１０のみが回転するように形成されている。また、裏左装飾基板３３３４のＬＥＤは常に前方を向いており、裏左装飾体３３１０における裏左装飾基板３３３４の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

【０７５１】

裏左移動駆動ユニット３３５０は、裏箱３０１０内である後壁の前面における開口部３０１０ａより上側の左上隅に取付けられるユニットベース３３５１と、ユニットベース３３５１を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース３３５１の前面に取付けられている裏左移動駆動モータ３３５２と、裏左移動駆動モータ３３５２の回転軸に取付けられている駆動ギア３３５３と、駆動ギア３３５３と噛合していると共に裏左回転駆動ユニット３３３０のラックギアと噛合しておりユニットベース３３５１に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース３３５１の前面下部に取付けられており裏左回転駆動ユニット３３３０の移動ベース３３３１を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

【０７５２】

裏左移動駆動ユニット３３５０は、裏左移動駆動モータ３３５２により駆動ギア３３５３を介してピニオンギアを正面視において反時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏左回転駆動ユニット３３３０（裏左装飾体３３１０）を右方へ移動させることができる。

【０７５３】

裏左下案内レール３３７０は、裏箱３０１０の後壁の前面における開口部３０１０ａの下側で左端付近に取付けられる。裏左下案内レール３３７０は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏左下案内レール３３７０は、上面の開口に、裏左回転駆動ユニット３３３０の下回転ベース３３３２の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【０７５４】

裏左上装飾体３３９０は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏左上装飾レンズ３３９１と、裏左上装飾レンズ３３９１の後側に取付けられており裏左移動駆動ユニット３３５０のユニットベース３３５１の前面に取付けられる装飾体ベース３３９２と、装飾体ベース３３９２と裏左上装飾レンズ３３９１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装された裏左上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏左上装飾体３３９０は、裏左上装飾基板のＬＥＤを発光させることで、裏左上装飾レンズ３３９１を発光装飾させることができる。

【０７５５】

この裏左可動演出ユニット３３００は、通常の状態では、裏左移動駆動ユニット３３５０により裏左回転駆動ユニット３３３０（裏左装飾体３３１０）が、最も左側へ移動した位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏左装飾体３３１０が、裏前飾りユニット３１００における裏前左飾りユニット３１２０の後方に位置しており、裏前左飾りユニット３１２０に遮られて前方から殆ど視認することができない（図１１４等を参照）。

【０７５６】

この通常の状態において、裏左移動駆動ユニット３３５０の裏左移動駆動モータ３３５２を駆動させることで、裏左回転駆動ユニット３３３０を介して裏左装飾体３３１０を右方へ移動させることができ、裏左移動駆動ユニット３３５０のスライドレールの右端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏左回転駆動ユニット３３３０を介して裏左装飾体３３１０が、裏前飾りユニット３１００における裏前左飾りユニット３１２０よりも右側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置１６００の前面における左端付近に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して視認可能な状態となっている（図１７１乃至図１７３を参照）。

【０７５７】

また、裏左可動演出ユニット３３００は、裏左回転駆動ユニット３３３０の裏左回転駆動モータにより裏左装飾体３３１０をグルグルと回転させたり、裏左装飾体３３１０の第一装飾面３３１１、第二装飾面３３１２、及び第三装飾面３３１３の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏左装飾体３３１０は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

【０７５８】

［５－９ｅ．裏右可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏右可動演出ユニット３４００について、主に図１３０及び図１３１を参照して詳細に説明する。裏右可動演出ユニット３４００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの正面視右外側に取付けられている。裏右可動演出ユニット３４００は、裏箱３０１０内の開口部３０１０ａを間にして、裏左可動演出ユニット３３００に対して略左右対称に形成されている。

【０７５９】

裏右可動演出ユニット３４００は、三角柱状に形成されている裏右装飾体３４１０と、裏右装飾体３４１０を上下に延びた軸線周りに回転させる裏右回転駆動ユニット３４３０と、裏箱３０１０内に取付けられ裏右回転駆動ユニット３４３０の上端側を左右方向へ移動させる裏右移動駆動ユニット３４５０と、裏箱３０１０内に取付けられ裏右回転駆動ユニット３４３０の下端側を左右方向へ移動可能に案内している裏右下案内レール３４７０と、裏右移動駆動ユニット３４５０の前側に取付けられており所定の装飾を有している裏右上装飾体３４９０と、を備えている。

【０７６０】

裏右装飾体３４１０は、上下に延びた三角柱状に形成されており、裏箱３０１０における開口部３０１０ａの上下の高さよりも短く延びている。裏右装飾体３４１０は、仁王像のレリーフが形成されている第一装飾面３４１１と、所定の文字の装飾が形成されている第二装飾面３４１２と、第二装飾面３４１２とは異なる文字の装飾が形成されている第三装飾面３４１３と、を備えている。裏右装飾体３４１０は、透光性を有するように形成さ

れている。また、裏右装飾体３４１０は、図示は省略するが、下端に円筒状の軸部を備えている。

【０７６１】

裏右回転駆動ユニット３４３０は、裏右移動駆動ユニット３４５０により左右方向へ移動可能に取付けられる上下延びた移動ベース３４３１と、前方へ突出するように移動ベース３４３１の下部に取付けられており裏右装飾体３４１０の下端を回転可能に支持している下回転ベース３４３２と、裏右装飾体３４１０の上側へ突出するように移動ベース３４３１の上部に取付けられている上回転ベース（図示は省略）と、上回転ベースに回転軸が下方へ突出するように取付けられており、上回転ベースを貫通した回転軸が裏右装飾体３４１０の上端に取付けられている裏右回転駆動モータ（図示は省略）と、裏右回転駆動モータの外周を覆うように移動ベース３４３１に取付けられているモータカバー３４３３と、裏右装飾体３４１０の内部に配置されていると共に下端が下回転ベース３４３２に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏右装飾基板３４３４（図１１９を参照）と、を備えている。

【０７６２】

移動ベース３４３１は、図示は省略するが、上端に左右へ延びたラックギアを備えている。下回転ベース３４３２は、裏右装飾体３４１０の円筒状の軸部の外周面に対して回転可能に支持している。この下回転ベース３４３２は、図示は省略するが、下面から下方へ突出し、裏右下案内レール３４７０に案内される突起を有している。

【０７６３】

裏右装飾基板３４３４は、円筒状の軸部内を通して裏右装飾体３４１０の内部に配置されている。この裏右装飾基板３４３４は、図示は省略するが、上端側が裏右装飾体３４１０の上端の下側において、相対的に回転可能に支持されている。これにより、裏右回転駆動モータの駆動によって裏右装飾体３４１０のみが回転するように形成されている。また、裏右装飾基板３４３４のＬＥＤは常に前方を向いており、裏右装飾体３４１０における裏右装飾基板３４３４の前方に位置した部位（つまり、前方を向いている装飾面）のみを発光装飾させることができる。

【０７６４】

裏右移動駆動ユニット３４５０は、裏箱３０１０内である後壁の前面における開口部３０１０ａより上側の右上隅に取付けられるユニットベース３４５１と、ユニットベース３４５１を貫通して回転軸が後方へ突出するようにユニットベース３４５１の前面に取付けられている裏右移動駆動モータ３４５２と、裏右移動駆動モータ３４５２の回転軸に取付けられている駆動ギア３４５３と、駆動ギア３４５３と噛合していると共に裏右回転駆動ユニット３４３０のラックギアと噛合しておりユニットベース３４５１に回転可能に取付けられているピニオンギア（図示は省略）と、ユニットベース３４５１の前面下部に取付けられており裏右回転駆動ユニット３４３０の移動ベース３４３１を左右方向へ移動可能に取付けているスライドレール（図示は省略）と、を備えている。

【０７６５】

裏右移動駆動ユニット３４５０は、裏右移動駆動モータ３４５２により駆動ギア３４５３を介してピニオンギアを正面視において時計回りの方向へ回転させると、ピニオンギアに噛合しているラックギアにより裏右回転駆動ユニット３４３０（裏右装飾体３４１０）を左方へ移動させることができる。

【０７６６】

裏右下案内レール３４７０は、裏箱３０１０の後壁の前面における開口部３０１０ａの下側で右端付近に取付けられる。裏右下案内レール３４７０は、左右に延びており、上面が開口した箱状に形成されている。この裏右下案内レール３４７０は、上面の開口に、裏右回転駆動ユニット３４３０の下回転ベース３４３２の下面から突出している突起を挿入することで、その突起を左右方向へ摺動可能に案内することができる。

【０７６７】

裏右上装飾体３４９０は、所定の装飾が形成された透光性を有する裏右上装飾レンズ３

４９１と、裏右上装飾レンズ３４９１の後側に取付けられており裏右移動駆動ユニット３４５０のユニットベース３４５１の前面に取付けられる装飾体ベース３４９２と、装飾体ベース３４９２と裏右上装飾レンズ３４９１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装された裏右上装飾基板（図示は省略）と、を備えている。この裏右上装飾体３４９０は、裏右上装飾基板のＬＥＤを発光させることで、裏右上装飾レンズ３４９１を発光装飾させることができる。

【０７６８】

この裏右可動演出ユニット３４００は、通常の状態では、裏右移動駆動ユニット３４５０により裏右回転駆動ユニット３４３０（裏右装飾体３４１０）が、最も右側へ移動した位置（退避位置）の状態となっている。この通常の状態では、裏右装飾体３４１０が、センター役物２５００における右辺側の後方に位置しており、一部を、センター役物２５００の枠内を通して視認することができる（図１１４等を参照）。

【０７６９】

この通常の状態において、裏右移動駆動ユニット３４５０の裏右移動駆動モータ３４５２を駆動させることで、裏右回転駆動ユニット３４３０を介して裏右装飾体３４１０を右方へ移動させることができ、裏右移動駆動ユニット３４５０のスライドレールの左端位置（出現位置）に到達すると、移動が停止する。この出現位置の状態では、裏右回転駆動ユニット３４３０を介して裏右装飾体３４１０が、センター役物２５００における右辺側よりも左側に位置していると共に、遊技盤側演出表示装置１６００の前面における右端付近に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して全体が視認可能な状態となっている（図１７１乃至図１７３を参照）。

【０７７０】

また、裏右可動演出ユニット３４００は、裏右回転駆動ユニット３４３０の裏右回転駆動モータにより裏右装飾体３４１０をグルグルと回転させたり、裏右装飾体３４１０の第一装飾面３４１１、第二装飾面３４１２、及び第三装飾面３４１３の何れかが前方を向くように回転停止させたり、することができる。裏右装飾体３４１０は、退避位置、及び出現位置、の何れの位置においても回転させることができる。

【０７７１】

［５－９ｆ．裏上可動演出ユニットの全体構成］

次に、裏ユニット３０００における裏上可動演出ユニット３５００の全体構成について、主に図１３３乃至図１５８を参照して詳細に説明する。図１３３（ａ）は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１３４は裏上可動演出ニットを主に構成ユニット毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１３５は裏上可動演出ユニットを主な構成ユニット毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。裏上可動演出ユニット３５００は、裏箱３０１０内において、後壁の前面で開口部３０１０ａの上側に取付けられる。

【０７７２】

裏上可動演出ユニット３５００は、所定の文字の装飾を有した裏上第一装飾体ユニット３５１０と、裏上第一装飾体ユニット３５１０とは異なる文字の装飾を有した裏上第二装飾体ユニット３５３０と、裏上第一装飾体ユニット３５１０及び裏上第二装飾体ユニット３５３０とは異なる文字の装飾を有した裏上第三装飾体ユニット３５５０と、長手方向の中央において裏上第一装飾体ユニット３５１０が前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられると共に、長手方向の両端付近において裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が夫々前後に延びた軸線周りに対して相対的に回転可能に取付けられている裏上回転ベースユニット３５７０と、裏上回転ベースユニット３５７０を貫通して裏上第一装飾体ユニット３５１０を回転不能に取付けていると共に、裏上第一装飾体ユニット３５１０と裏上回転ベースユニット３５７０とを昇降させ、裏箱３０１０内に取付けられる裏上昇降ユニット３６００と、を備えている。

【０７７３】

［５－９ｆ－１．裏上第一装飾体ユニット］

次に、裏上可動演出ユニット３５００における裏上第一装飾体ユニット３５１０について、主に図１３６乃至図１３９を参照して詳細に説明する。図１３６（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第一装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図１３７は裏上第一装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３８は裏上第一装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３９（ａ）は裏上第一装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第一装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット３５００の裏上第一装飾体ユニット３５１０は、後端が、裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の前面に回転不能に取付けられている。

【０７７４】

裏上第一装飾体ユニット３５１０は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２と、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第一固定装飾レンズ３５１３と、第一固定装飾レンズ３５１３の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上第一装飾基板３５１４と、裏上第一装飾基板３５１４の後面を覆うように第一固定装飾レンズ３５１３の後側に取付けられている平板状の第一装飾体ベース３５１５と、を備えている。なお、第一固定装飾レンズ３５１３には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

【０７７５】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一装飾体ベース３５１５の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第一装飾体ベース３５１５の左外側で第一左可動装飾レンズ３５１１の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア３５１６ａ、及びラックギア３５１６ａの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５１６ｂを有する第一下アーム３５１６と、第一下アーム３５１６のスリット３５１６ｂを通して第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられており第一装飾体ベース３５１５と協働して第一下アーム３５１６を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え３５１７と、を備えている。

【０７７６】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一装飾体ベース３５１５の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第一装飾体ベース３５１５の右外側で第一右可動装飾レンズ３５１２の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア３５１８ａ、及びラックギア３５１８ａの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５１８ｂを有する第一上アーム３５１８と、第一上アーム３５１８のスリット３５１８ｂを通して第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられており第一装飾体ベース３５１５と協働して第一上アーム３５１８を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え３５１９と、を備えている。

【０７７７】

更に、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一下アーム３５１６のラックギア３５１６ａと第一上アーム３５１８のラックギア３５１８ａとに夫々噛合する大径の伝達ギア部３５２０ａ、及び伝達ギア部３５２０ａの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部３５２０ｂを有し、第一装飾体ベース３５１５の後側に回転可能に取付けられている第一開閉ギア部材３５２０を、備えている。

【０７７８】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一装飾体ベース３５１５の後側における第一開閉ギア部材３５２０の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に第一開閉ギア部材３５２０の駆動ギア部３５２０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５２１ａ、後面の下部から後方へ円柱状に突出している受ボス３５２１ｂ、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット３５２１ｃを有する第一開閉アーム

３５２１と、第一開閉アーム３５２１のスリット３５２１ｃを通して第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられており第一装飾体ベース３５１５と協働して第一開閉アーム３５２１を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え３５２２と、を備えている。

【０７７９】

更に、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、左端が第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられていると共に右端が第一上アーム３５１８に取付けられており第一上アーム３５１８を正面視左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ３５２３と、第一開閉ギア部材３５２０の後側を覆うように第一装飾体ベース３５１５の後側に取付けられている第一取付ベース３５２４と、第一取付ベース３５２４の後側に取付けられており、右側の外周面に開口している水平ロック孔３５２５ａ、前後方向が水平ロック孔３５２５ａと同じ位置に形成されており下側の外周面に開口している垂直ロック孔３５２５ｂ、及び垂直ロック孔３５２５ｂよりも後側において円筒状に後方へ突出している取付軸部３５２５ｃを有し、取付軸部３５２５ｃの後端が裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の前面に取付けられる第一取付軸部材３５２５と、を備えている。

【０７８０】

続いて、裏上第一装飾体ユニット３５１０の動きについて詳述する。裏上第一装飾体ユニット３５１０は、左右の第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【０７８１】

裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一左可動装飾レンズ３５１１が取付けられている第一下アーム３５１６の上方に、第一右可動装飾レンズ３５１２が取付けられている第一上アーム３５１８が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第一下アーム３５１６では、左右に延びたラックギア３５１６ａが上方へ向けて備えられていると共に、第一上アーム３５１８では、左右に延びたラックギア３５１８ａが下方へ向けて備えられており、第一下アーム３５１６のラックギア３５１６ａと第一上アーム３５１８のラックギア３５１８ａとが互いに対向している。そして、第一下アーム３５１６と第一上アーム３５１８との間において、第一開閉ギア部材３５２０の伝達ギア部３５２０ａが、第一下アーム３５１６のラックギア３５１６ａと第一上アーム３５１８のラックギア３５１８ａとに夫々噛合している。これにより、第一開閉ギア部材３５２０（伝達ギア部３５２０ａ）を回転させると、第一下アーム３５１６と第一上アーム３５１８とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

【０７８２】

従って、第一開閉ギア部材３５２０を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム３５１６及び第一上アーム３５１８を介して、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができ、第一開閉ギア部材３５２０を正面視時計回りの方向へ回転させると、第一下アーム３５１６及び第一上アーム３５１８を介して、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０７８３】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０では、第一開閉ギア部材３５２０に、伝達ギア部３５２０ａと一体回転する駆動ギア部３５２０ｂを有していると共に、駆動ギア部３５２０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５２１ａを有した第一開閉アーム３５２１を備えている。この第一開閉アーム３５２１は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第一開閉ギア部材３５２０が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第一開閉アーム３５２１は、第一開閉ギア部材３５２０の正面視左側に配置されていることから、第一開閉ギア部材３５２０を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第一開閉ギア部材３５２０を正面視時計周りの方向へ回転させ

ると上方へスライドする。

【０７８４】

換言すると、第一開閉アーム３５２１を下方へスライドさせると、第一開閉ギア部材３５２０が正面視反時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第一開閉アーム３５２１を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材３５２０が正面視時計回りの方向へ回転して、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０７８５】

この裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一上アーム３５１８が左方へ移動するように付勢している第一開閉バネ３５２３を有しているため、第一開閉アーム３５２１に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第一開閉バネ３５２３の付勢力により、第一上アーム３５１８が左方へスライドさせられ、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第一開閉ギア部材３５２０の伝達ギア部３５２０ａが、第一下アーム３５１６におけるラックギア３５１６ａの左端付近と噛合していると共に、第一上アーム３５１８におけるラックギア３５１８ａの右端付近と噛合している。また、この状態では、第一開閉ギア部材３５２０の駆動ギア部３５２０ｂが、第一開閉アーム３５２１における駆動ラックギア３５２１ａの上端付近と噛合している（図１３９（ａ）を参照）。

【０７８６】

この閉位置の状態から、第一開閉バネ３５２３の付勢力に抗するように第一開閉アーム３５２１を上方へスライドさせると、第一開閉ギア部材３５２０が正面視時計回りの方向へ回転し、第一下アーム３５１６及び第一上アーム３５１８を介して、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図１３９（ｂ）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第一下アーム３５１６のスリット３５１６ｂ、第一上アーム３５１８のスリット３５１８ｂ、及び第一開閉アーム３５２１のスリット３５２１ｃ、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え３５１７、上アーム押え３５１９、及び開閉アーム押え３５２２、が当接することでスライドが規制される。

【０７８７】

従って、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが閉位置の時には、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが第一固定装飾レンズ３５１３の前方に位置し、第一固定装飾レンズ３５１３が前方から殆ど見えない状態となると共に、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが開位置の時には、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが離反してそれらの間から第一固定装飾レンズ３５１３の装飾が見える状態となる。

【０７８８】

また、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、裏上第一装飾基板３５１４のＬＥＤを適宜発光させることで、第一左可動装飾レンズ３５１１、第一右可動装飾レンズ３５１２、及び第一固定装飾レンズ３５１３を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが閉位置の時に、裏上第一装飾基板３５１４のＬＥＤを発光させると、第一固定装飾レンズ３５１３を介して第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２と発光装飾させることができる。一方、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２とが開位置の時に、裏上第一装飾基板３５１４のＬＥＤを発光させると、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２との間から臨む第一固定装飾レンズ３５１３のみを発光

装飾させることができる。

【０７８９】

［５－９ｆ－２．裏上第二装飾体ユニット］

次に、裏上可動演出ユニット３５００における裏上第二装飾体ユニット３５３０について、主に図１４０乃至図１４３を参照して詳細に説明する。図１４０（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第二装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第二装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図１４１は裏上第二装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１４２は裏上第二装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４３（ａ）は裏上第二装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第二装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット３５００の裏上第二装飾体ユニット３５３０は、後端が、裏上回転ベースユニット３５７０の長手方向の一方の端部付近（水平位置の時の右端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。

【０７９０】

裏上第二装飾体ユニット３５３０は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２と、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第二固定装飾レンズ３５３３と、第二固定装飾レンズ３５３３の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上第二装飾基板３５３４と、裏上第二装飾基板３５３４の後面を覆うように第二固定装飾レンズ３５３３の後側に取付けられている平板状の第二装飾体ベース３５３５と、を備えている。なお、第二固定装飾レンズ３５３３には、稲妻を模したような装飾が形成されている。

【０７９１】

また、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二装飾体ベース３５３５の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第二装飾体ベース３５３５の左外側で第二左可動装飾レンズ３５３１の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア３５３６ａ、及びラックギア３５３６ａの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５３６ｂを有する第二下アーム３５３６と、第二下アーム３５３６のスリット３５３６ｂを通して第二装飾体ベース３５３５の後側に取付けられており第二装飾体ベース３５３５と協働して第二下アーム３５３６を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え３５３７と、を備えている。

【０７９２】

また、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二装飾体ベース３５３５の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第二装飾体ベース３５３５の右外側で第二右可動装飾レンズ３５３２の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア３５３８ａ、及びラックギア３５３８ａの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５３８ｂを有する第二上アーム３５３８と、第二上アーム３５３８のスリット３５３８ｂを通して第二装飾体ベース３５３５の後側に取付けられており第二装飾体ベース３５３５と協働して第二上アーム３５３８を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え３５３９と、を備えている。

【０７９３】

更に、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二下アーム３５３６のラックギア３５３６ａと第二上アーム３５３８のラックギア３５３８ａとに夫々噛合する大径の伝達ギア部３５４０ａ、及び伝達ギア部３５４０ａの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部３５４０ｂを有し、第二装飾体ベース３５３５の後側に回転可能に取付けられている第二開閉ギア部材３５４０を、備えている。

【０７９４】

また、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二装飾体ベース３５３５の後側における第二開閉ギア部材３５４０の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に

第二開閉ギア部材３５４０の駆動ギア部３５４０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５４１ａ、後面の上端部付近から後方へ円柱状に突出している受ボス３５４１ｂ、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット３５４１ｃを有する第二開閉アーム３５４１と、第二開閉アーム３５４１のスリット３５４１ｃを通して第二装飾体ベース３５３５の後側に取付けられており第二装飾体ベース３５３５と協働して第二開閉アーム３５４１を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え３５４２と、を備えている。

【０７９５】

更に、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、左端が第二下アーム３５３６に取付けられていると共に右端が第二装飾体ベース３５３５の後側に取付けられており第二下アーム３５３６を正面視右方へ移動するように付勢している第二開閉バネ３５４３と、第二開閉ギア部材３５４０の後側を覆うように第二装飾体ベース３５３５の後側に取付けられている第二取付ベース３５４４と、を備えている。第二取付ベース３５４４は、後述する裏上回転ベースユニット３５７０の第二用駆動リンクギア部材３５７３に取付けられている。

【０７９６】

続いて、裏上第二装飾体ユニット３５３０の動きについて詳述する。裏上第二装飾体ユニット３５３０は、左右の第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【０７９７】

裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二左可動装飾レンズ３５３１が取付けられている第二下アーム３５３６の上方に、第二右可動装飾レンズ３５３２が取付けられている第二上アーム３５３８が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第二下アーム３５３６では、左右に延びたラックギア３５３６ａが上方へ向けて備えられていると共に、第二上アーム３５３８では、左右に延びたラックギア３５３８ａが下方へ向けて備えられており、第二下アーム３５３６のラックギア３５３６ａと第二上アーム３５３８のラックギア３５３８ａとが互いに対向している。そして、第二下アーム３５３６と第二上アーム３５３８との間において、第二開閉ギア部材３５４０の伝達ギア部３５４０ａが、第二下アーム３５３６のラックギア３５３６ａと第二上アーム３５３８のラックギア３５３８ａとに夫々噛合している。これにより、第二開閉ギア部材３５４０（伝達ギア部３５４０ａ）を回転させると、第二下アーム３５３６と第二上アーム３５３８とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

【０７９８】

従って、第二開閉ギア部材３５４０を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム３５３６及び第二上アーム３５３８を介して、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができ、第二開閉ギア部材３５４０を正面視時計回りの方向へ回転させると、第二下アーム３５３６及び第二上アーム３５３８を介して、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０７９９】

また、裏上第二装飾体ユニット３５３０では、第二開閉ギア部材３５４０に、伝達ギア部３５４０ａと一体回転する駆動ギア部３５４０ｂを有していると共に、駆動ギア部３５４０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５４１ａを有した第二開閉アーム３５４１を備えている。この第二開閉アーム３５４１は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第二開閉ギア部材３５４０が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第二開閉アーム３５４１は、第二開閉ギア部材３５４０の正面視左側に配置されていることから、第二開閉ギア部材３５４０を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第二開閉ギア部材３５４０を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【０８００】
換言すると、第二開閉アーム３５４１を下方へスライドさせると、第二開閉ギア部材３５４０が正面視反時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第二開閉アーム３５４１を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材３５４０が正面視時計回りの方向へ回転して、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０８０１】
この裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二下アーム３５３６が右方へ移動するように付勢している第二開閉バネ３５４３を有しているため、第二開閉アーム３５４１に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第二開閉バネ３５４３の付勢力により、第二下アーム３５３６が右方へスライドさせられ、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第二開閉ギア部材３５４０の伝達ギア部３５４０ａが、第二下アーム３５３６におけるラックギア３５３６ａの左端付近と噛合していると共に、第二上アーム３５３８におけるラックギア３５３８ａの右端付近と噛合している。また、この状態では、第二開閉ギア部材３５４０の駆動ギア部３５４０ｂが、第二開閉アーム３５４１における駆動ラックギア３５４１ａの上端付近と噛合している（図１４３（ａ）を参照）。

【０８０２】
この閉位置の状態から、第二開閉バネ３５４３の付勢力に抗するように第二開閉アーム３５４１を上方へスライドさせると、第二開閉ギア部材３５４０が正面視時計回りの方向へ回転し、第二下アーム３５３６及び第二上アーム３５３８を介して、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図１４３（ｂ）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第二下アーム３５３６のスリット３５３６ｂ、第二上アーム３５３８のスリット３５３８ｂ、及び第二開閉アーム３５４１のスリット３５４１ｃ、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え３５３７、上アーム押え３５３９、及び開閉アーム押え３５４２、が当接することでスライドが規制される。

【０８０３】
従って、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが閉位置の時には、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが第二固定装飾レンズ３５３３の前方に位置し、第二固定装飾レンズ３５３３が前方から殆ど見えない状態となると共に、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが開位置の時には、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが離反してそれらの間から第二固定装飾レンズ３５３３の装飾が見える状態となる。

【０８０４】
また、裏上第二装飾体ユニット３５３０は、裏上第二装飾基板３５３４のＬＥＤを適宜発光させることで、第二左可動装飾レンズ３５３１、第二右可動装飾レンズ３５３２、及び第二固定装飾レンズ３５３３を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが閉位置の時に、裏上第二装飾基板３５３４のＬＥＤを発光させると、第二固定装飾レンズ３５３３を介して第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２と発光装飾させることができる。一方、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２とが開位置の時に、裏上第二装飾基板３５３４のＬＥＤを発光させると、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２との間から臨む第二固定装飾レンズ３５３３のみを発光装飾させることができる。

【０８０５】
［５－９ｆ－３．裏上第三装飾体ユニット］
次に、裏上可動演出ユニット３５００における裏上第三装飾体ユニット３５５０について、主に図１４４乃至図１４７を参照して詳細に説明する。図１４４（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上第三装飾体ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上第三装飾体ユニットを後ろから見斜視図である。図１４５は裏上第三装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１４６は裏上第三装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４７（ａ）は裏上第三装飾体ユニットが閉位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上第三装飾体ユニットが開位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。裏上可動演出ユニット３５００の裏上第三装飾体ユニット３５５０は、後端が、裏上回転ベースユニット３５７０の長手方向の裏上第二装飾体ユニット３５３０とは反対側の端部付近（水平位置の時の左端部付近）に、前後方向へ延びた軸周りに回転可能に取付けられている。
【０８０６】
裏上第三装飾体ユニット３５５０は、一対一組で所定の文字となるような装飾が形成されており透光性を有する第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２と、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２の後側に配置されており所定の装飾が形成された透光性を有する第三固定装飾レンズ３５５３と、第三固定装飾レンズ３５５３の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上第三装飾基板３５５４と、裏上第三装飾基板３５５４の後面を覆うように第三固定装飾レンズ３５５３の後側に取付けられている平板状の第三装飾体ベース３５５５と、を備えている。なお、第三固定装飾レンズ３５５３には、稲妻を模したような装飾が形成されている。
【０８０７】
また、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三装飾体ベース３５５５の後側の下部において左右方向へ延びていると共に左端が第三装飾体ベース３５５５の左外側で第三左可動装飾レンズ３５５１の後側に取付けられており、上辺に左右に延びたラックギア３５５６ａ、及びラックギア３５５６ａの下側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５５６ｂを有する第三下アーム３５５６と、第三下アーム３５５６のスリット３５５６ｂを通して第三装飾体ベース３５５５の後側に取付けられており第三装飾体ベース３５５５と協働して第三下アーム３５５６を左右方向へスライド可能に取付けている下アーム押え３５５７と、を備えている。
【０８０８】
また、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三装飾体ベース３５５５の後側の上部において左右方向へ延びていると共に右端が第三装飾体ベース３５５５の右外側で第三右可動装飾レンズ３５５２の後側に取付けられており、下辺に左右に延びたラックギア３５５８ａ、及びラックギア３５５８ａの上側で前後に貫通し左右に延びているスリット３５５８ｂを有する第三上アーム３５５８と、第三上アーム３５５８のスリット３５５８ｂを通して第三装飾体ベース３５５５の後側に取付けられており第三装飾体ベース３５５５と協働して第三上アーム３５５８を左右方向へスライド可能に取付けている上アーム押え３５５９と、を備えている。
【０８０９】
更に、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三下アーム３５５６のラックギア３５５６ａと第三上アーム３５５８のラックギア３５５８ａとに夫々噛合する大径の伝達ギア部３５６０ａ、及び伝達ギア部３５６０ａの後面に一体的に形成されている小径の駆動ギア部３５６０ｂを有し、第三装飾体ベース３５５５の後側に回転可能に取付けられている第三開閉ギア部材３５６０を、備えている。
【０８１０】
また、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三装飾体ベース３５５５の後側における第三開閉ギア部材３５６０の正面視左側において平板状で上下方向へ延びており、右辺に

第三開閉ギア部材３５６０の駆動ギア部３５６０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５６１ａ、及び左辺付近において前後に貫通し上下に延びているスリット３５６１ｃを有する第三開閉アーム３５６１と、第三開閉アーム３５６１のスリット３５６１ｃを通して第三装飾体ベース３５５５の後側に取付けられており第三装飾体ベース３５５５と協働して第三開閉アーム３５６１を上下方向へスライド可能に取付けている開閉アーム押え３５６２と、を備えている。

【０８１１】

更に、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、左端が第三下アーム３５５６に取付けられていると共に右端が第三装飾体ベース３５５５の後側に取付けられており第三下アーム３５５６を正面視右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ３５６３と、第三開閉ギア部材３５６０の後側を覆うように第三装飾体ベース３５５５の後側に取付けられている第三取付ベース３５６４と、を備えている。第三取付ベース３５６４は、後述する裏上回転ベースユニット３５７０の第三用駆動リンクギア部材３５７８に取付けられている。

【０８１２】

続いて、裏上第三装飾体ユニット３５５０の動きについて詳述する。裏上第三装飾体ユニット３５５０は、左右の第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが、互いに接近して当接した閉位置と、互いに離反した開位置との間で左右方向へスライドするように形成されている。

【０８１３】

裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三左可動装飾レンズ３５５１が取付けられている第三下アーム３５５６の上方に、第三右可動装飾レンズ３５５２が取付けられている第三上アーム３５５８が配置されており、夫々が左右方向へスライド可能に取付けられている。第三下アーム３５５６では、左右に延びたラックギア３５５６ａが上方へ向けて備えられていると共に、第三上アーム３５５８では、左右に延びたラックギア３５５８ａが下方へ向けて備えられており、第三下アーム３５５６のラックギア３５５６ａと第三上アーム３５５８のラックギア３５５８ａとが互いに対向している。そして、第三下アーム３５５６と第三上アーム３５５８との間において、第三開閉ギア部材３５６０の伝達ギア部３５６０ａが、第三下アーム３５５６のラックギア３５５６ａと第三上アーム３５５８のラックギア３５５８ａとに夫々噛合している。これにより、第三開閉ギア部材３５６０（伝達ギア部３５６０ａ）を回転させると、第三下アーム３５５６と第三上アーム３５５８とを互いに左右方向の異なる方向へスライドさせることができる。

【０８１４】

従って、第三開閉ギア部材３５６０を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム３５５６及び第三上アーム３５５８を介して、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができ、第三開閉ギア部材３５６０を正面視時計回りの方向へ回転させると、第三下アーム３５５６及び第三上アーム３５５８を介して、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０８１５】

また、裏上第三装飾体ユニット３５５０では、第三開閉ギア部材３５６０に、伝達ギア部３５６０ａと一体回転する駆動ギア部３５６０ｂを有していると共に、駆動ギア部３５６０ｂと噛合する上下に延びた駆動ラックギア３５６１ａを有した第三開閉アーム３５６１を備えている。この第三開閉アーム３５６１は、上下方向へスライド可能に取付けられていることから、第三開閉ギア部材３５６０が回転すると、上下方向へスライドすることとなる。そして、第三開閉アーム３５６１は、第三開閉ギア部材３５６０の正面視左側に配置されていることから、第三開閉ギア部材３５６０を正面視反時計回りの方向へ回転させると下方へスライドし、第三開閉ギア部材３５６０を正面視時計周りの方向へ回転させると上方へスライドする。

【０８１６】

換言すると、第三開閉アーム３５６１を下方へスライドさせると、第三開閉ギア部材３５６０が正面視反時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とを互いに接近する方向（閉位置の方向）へスライドさせることができる。一方、第三開閉アーム３５６１を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材３５６０が正面視時計回りの方向へ回転して、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とを互いに離反する方向（開位置の方向）へスライドさせることができる。

【０８１７】

この裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三下アーム３５５６が右方へ移動するように付勢している第三開閉バネ３５６３を有しているため、第三開閉アーム３５６１に力が作用していない時（通常の状態の時）には、第三開閉バネ３５６３の付勢力により、第三下アーム３５５６が右方へスライドさせられ、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが互いに当接した閉位置の状態となる。この閉位置の状態では、第三開閉ギア部材３５６０の伝達ギア部３５６０ａが、第三下アーム３５５６におけるラックギア３５５６ａの左端付近と噛合していると共に、第三上アーム３５５８におけるラックギア３５５８ａの右端付近と噛合している。また、この状態では、第三開閉ギア部材３５６０の駆動ギア部３５６０ｂが、第三開閉アーム３５６１における駆動ラックギア３５６１ａの上端付近と噛合している（図１４７（ａ）を参照）。

【０８１８】

この閉位置の状態から、第三開閉バネ３５６３の付勢力に抗するように第三開閉アーム３５６１を上方へスライドさせると、第三開閉ギア部材３５６０が正面視時計回りの方向へ回転し、第三下アーム３５５６及び第三上アーム３５５８を介して、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが互いに離反する方向へスライドする。そして、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが開位置に到達すると、スライドが停止する（図１４７（ｂ）を参照）。この開位置でのスライドの停止は、第三下アーム３５５６のスリット３５５６ｂ、第三上アーム３５５８のスリット３５５８ｂ、及び第三開閉アーム３５６１のスリット３５６１ｃ、の少なくとも一つにおいて長孔の端部に、下アーム押え３５５７、上アーム押え３５５９、及び開閉アーム押え３５６２、が当接することでスライドが規制される。

【０８１９】

従って、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが閉位置の時には、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが第三固定装飾レンズ３５５３の前方に位置し、第三固定装飾レンズ３５５３が前方から殆ど見えない状態となると共に、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とにより所定の文字の装飾が見える状態となる。一方、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが開位置の時には、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが離反してそれらの間から第三固定装飾レンズ３５５３の装飾が見える状態となる。

【０８２０】

また、裏上第三装飾体ユニット３５５０は、裏上第三装飾基板３５５４のＬＥＤを適宜発光させることで、第三左可動装飾レンズ３５５１、第三右可動装飾レンズ３５５２、及び第三固定装飾レンズ３５５３を、適宜発光装飾させることができる。具体的には、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが閉位置の時に、裏上第三装飾基板３５５４のＬＥＤを発光させると、第三固定装飾レンズ３５５３を介して第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２と発光装飾させることができる。一方、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２とが開位置の時に、裏上第三装飾基板３５５４のＬＥＤを発光させると、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２との間から臨む第三固定装飾レンズ３５５３のみを発光装飾させることができる。

【０８２１】

［５－９ｆ－４．裏上回転ベースユニット］

次に、裏上可動演出ユニット３５００の裏上回転ベースユニット３５７０について、主に図１４８乃至図１５２を参照して詳細に説明する。図１４８（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上回転ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上回転ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図１４９は裏上回転ベースユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１５０は裏上回転ベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１５１は、裏上回転ベースユニットにおけるギア構成を正面から示す説明図である。図１５２（ａ）は裏上回転ベースユニットにおける作用レバーが作用位置の状態を正面から示す説明図であり、（ｂ）は作用レバーが非作用位置の状態を正面から示す説明図である。

【０８２２】

裏上可動演出ユニット３５００の裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上昇降ユニットにおける可動側ユニットの前面に、前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられていると共に、長手方向の両端に裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０を、夫々前後に延びた軸周りに対して相対的に回転可能に取付けている。

【０８２３】

裏上回転ベースユニット３５７０は、前後方向へ延びた軸線に直交する面に対して平行に延びており、長手方向中央に前後に貫通している第一孔３５７１ａ、長手方向の両端付近において夫々前後に貫通している第二孔３５７１ｂ及び第三孔３５７１ｃ、及び第一孔３５７１ａの外周から後方へ円筒状に突出しており裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０に回転可能に取付けられる取付筒部３５７１ｄを有している裏上回転ベースを備えている。第一孔３５７１ａ（取付筒部３５７１ｄの内径）は、裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一取付軸部材３５２５の取付軸部３５２５ｃが通過可能な大きさに形成されている。第二孔３５７１ｂ及び第三孔３５７１ｃは、第一孔３５７１ａよりも若干小さく形成されていると共に、互いに同じ大きさに形成されている。また、第二孔３５７１ｂ及び第三孔３５７１ｃは、裏上回転ベース３５７１を水平に延びた状態とした時（水平位置の時）に、正面視において、右端付近と左端付近とに夫々形成されている。なお、以下では、裏上回転ベース３５７１が水平に延びている状態で説明する。

【０８２４】

また、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の後側に取付けられており第一孔３５７１ａの中心と同心上で半円弧状に延びた回転ベース被駆動ギア３５７２を備えている。回転ベース被駆動ギア３５７２は、中心軸を前後に延ばした状態の円環に対して、上半分の形態に形成されており、外周面にギア歯が形成されている。回転ベース被駆動ギア３５７２は、取付筒部３５７１ｄの上側の外周面との間で、隙間が形成されるように取付けられている。この回転ベース被駆動ギア３５７２は、後述する裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における回転ベース駆動ギア３６１４と噛合する。

【０８２５】

また、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の第二孔３５７１ｂに対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部３５７３ａ、及び軸部３５７３ａの前端から同心円状で扇形に形成された第二用リンクギア部３５７３ｂを有しており、前面に裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二取付ベース３５４４の後面が取付けられる第二用駆動リンクギア部材３５７３と、裏上回転ベース３５７１の後側から第二用駆動リンクギア部材３５７３の後側に取付けられており第二孔３５７１ｂよりも大径の押え部材３５７４と、を備えている。第二用駆動リンクギア部材３５７３は、第二用リンクギア部３５７３ｂが、第二孔３５７１ｂよりも大径に形成されている。また、第二用リンクギア部３５７３ｂは、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の中央リンクギア３６１１ｂと、同径で同じピッチに形成されている。この第二用駆動リンクギア部材３５７３は、第二孔３５７１ｂに挿入した軸部３５７３ａの後側に、押え部材３５７４が取付けられることで、第二孔３５７１ｂに対して前後への移動が

規制された状態で回転可能に取付けられる。
【０８２６】
更に、裏上回転ベースユニット３５７０は、第二孔３５７１ｂの正面視左側で裏上回転ベース３５７１の後側に回転可能に取付けられており第二用駆動リンクギア部材３５７３の第二用リンクギア部３５７３ｂと噛合している平歯車状の第二用第一リンクギア３５７５と、第二用第一リンクギア３５７５の正面視左側で裏上回転ベース３５７１の後側に回転可能に取付けられており第二用第一リンクギア３５７５と噛合している平歯車状の第二用第二リンクギア３５７６と、第二用第二リンクギア３５７６の正面視左側で裏上回転ベース３５７１の後側に回転可能に取付けられており第二用第二リンクギア３５７６と噛合している平歯車状の第二用第三リンクギア３５７７と、を備えている。
【０８２７】
第二用駆動リンクギア部材３５７３の第二用リンクギア部３５７３ｂと、第二用第一リンクギア３５７５とは、裏上回転ベース３５７１に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第二用第三リンクギア３５７７は、左端側が裏上回転ベース３５７１における取付筒部３５７１ｄの右側の外周面に接近している。この第二用第三リンクギア３５７７は、後述する裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の中央リンクギア３６１１ｂと噛合する。
【０８２８】
また、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の第三孔３５７１ｃに対して前方から回転可能に挿入される円環状の軸部３５７８ａ、及び軸部３５７８ａの前端から同心円状で扇形に形成された第三用リンクギア部３５７８ｂを有しており、前面に裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三取付ベース３５６４の後面が取付けられる第三用駆動リンクギア部材３５７８と、裏上回転ベース３５７１の後側から第三用駆動リンクギア部材３５７８の後側に取付けられており第三孔３５７１ｃよりも大径の押え部材３５７９と、を備えている。第三用駆動リンクギア部材３５７８は、第三用リンクギア部３５７８ｂが、第三孔３５７１ｃよりも大径に形成されている。また、第三用リンクギア部３５７８ｂは、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の中央リンクギア３６１１ｂと、同径で同じピッチに形成されている。この第三用駆動リンクギア部材３５７８は、第三孔３５７１ｃに挿入した軸部３５７８ａの後側に、押え部材３５７９が取付けられることで、第三孔３５７１ｃに対して前後への移動が規制された状態で回転可能に取付けられる。
【０８２９】
更に、裏上回転ベースユニット３５７０は、第三孔３５７１ｃの正面視右側で裏上回転ベース３５７１の前側に回転可能に取付けられており第三用駆動リンクギア部材３５７８の第三用リンクギア部３５７８ｂと噛合している平歯車状の第三用第一リンクギア３５８０と、第三用第一リンクギア３５８０の正面視右側で裏上回転ベース３５７１の後側に回転可能に取付けられており第三用第一リンクギア３５８０と噛合している平歯車状の第三用第二リンクギア３５８１と、第三用第二リンクギア３５８１の正面視右側で裏上回転ベース３５７１の後側に回転可能に取付けられており第三用第二リンクギア３５８１と噛合している平歯車状の第三用第三リンクギア３５８２と、を備えている。
【０８３０】
第三用第一リンクギア３５８０と、第三用第二リンクギア３５８１とは、裏上回転ベース３５７１に形成されている開口部を通して互いに噛合している。第三用第三リンクギア３５８２は、右端側が裏上回転ベース３５７１における取付筒部３５７１ｄの左側の外周面に接近している。この第三用第三リンクギア３５８２は、後述する裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の中央リンクギア３６１１ｂと噛合する。
【０８３１】
また、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１における第一孔３５７１ａと第二孔３５７１ｂとの間の下部の後側に取付けられており回転軸が裏上回転ベ

ース３５７１を貫通して前方へ突出している作用レバー駆動モータ３５８３と、作用レバー駆動モータ３５８３の回転軸に取付けられている平歯車状の作用レバー駆動ギア３５８４と、作用レバー駆動ギア３５８４と噛合しており裏上回転ベース３５７１の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の作用レバーピニオンギア３５８５と、作用レバーピニオンギア３５８５に対して上方から噛合しており左右に延びている作用レバーラックギア３５８６ａを有し裏上回転ベース３５７１の前面に左右方向へスライド可能に取付けられている作用レバー３５８６と、作用レバー３５８６の前方への移動を規制しており裏上回転ベース３５７１の前面に取付けられている作用レバー押え３５８７と、裏上回転ベース３５７１の前面に取付けられており作用レバー３５８６の左右方向への移動を検知する作用レバー移動検知センサ３５８８と、を備えている。

【０８３２】

作用レバー３５８６は、下辺に作用レバーラックギア３５８６ａが形成されている横長四角形の本体部３５８６ｂと、本体部３５８６ｂの上辺と接続されていると共に本体部３５８６ｂよりも左方へ帯板状に延びており裏上回転ベース３５７１の前面上部に左右方向へスライド可能に取付けられるスライド取付部３５８６ｃと、本体部３５８６ｂの左辺から左方へ突出しており裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一取付軸部材３５２５の水平ロック孔３５２５ａ及び垂直ロック孔３５２５ｂに挿入可能なロック片３５８６ｄと、本体部３５８６ｂから下方へ延びているる第一延出部３５８６ｅと、第一延出部３５８６ｅの下端からロック片３５８６ｄよりも左方へ突出している第一用作用部３５８６ｆと、本体部３５８６ｂの上辺の右端付近と接続されており右方へ延びている第二右延出部３５８６ｇと、第二右延出部３５８６ｇの右端から第一用作用部３５８６ｆよりも若干高い位置まで下方へ延びている第二下延出部３５８６ｈと、第二下延出部３５８６ｈの左辺の下端付近から左方に延びている第二用作用部３５８６ｉと、スライド取付部３５８６ｃの左端から第一延出部３５８６ｅの下端と略同じ高さまで下方へ延びている第三延出部３５８６ｊと、第三延出部３５８６ｊの左辺の下端付近から左方に延びている第三用作用部３５８６ｋと、を備えている（図１５２を参照）。

【０８３３】

また、裏上回転ベースユニット３５７０は、作用レバー駆動ギア３５８４及び作用レバーピニオンギア３５８５の前面を覆うように裏上回転ベース３５７１の前面に取付けられている前ギアカバー３５８９と、裏上回転ベース３５７１の前面で第一孔３５７１ａの下側に取付けられており裏上回転ベースユニット３５７０の回転位置を検知する裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０と、裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０の前側を覆うように裏上回転ベース３５７１の前面に取付けられている裏上回転ベース中継基板３５９１と、裏上回転ベース中継基板３５９１の前面を覆うように裏上回転ベース３５７１の前面に取付けられている基板カバー３５９２と、を備えている。

【０８３４】

裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０は、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の回転検知片３６１１ｄを検知することで、裏上回転ベースユニット３５７０の回転位置を検知するものである。裏上回転ベース中継基板３５９１は、裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の裏上回転駆動モータ３６１２と、裏上第二装飾基板３５３４、裏上第三装飾基板３５５４、作用レバー駆動モータ３５８３、作用レバー移動検知センサ３５８８、及び裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０との接続を中継している。

【０８３５】

更に、裏上回転ベースユニット３５７０は、第二用第一リンクギア３５７５、第二用第二リンクギア３５７６、及び第二用第三リンクギア３５７７の後側を覆うように裏上回転ベース３５７１の後側に取付けられている後右ギアカバー３５９３と、第三用第二リンクギア３５８１、及び第三用第三リンクギア３５８２の後側を覆うように裏上回転ベース３５７１の後側に取付けられている後左ギアカバー３５９４と、作用レバー駆動モータ３５８３の下側を覆うように裏上回転ベース３５７１の後側に取付けられているモータカバー

３５９５と、を備えている。
【０８３６】
続いて、裏上回転ベースユニット３５７０の動きについて説明する。この裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の後方へ突出している取付筒部３５７１ｄが、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の軸筒部３６１１ａ内に挿入されることで、可動側ユニット３６１０の前面において前後に延びた軸周りに回転するように取付けられる。なお、裏上回転ベースユニット３５７０は、取付筒部３５７１ｄを前方から貫通して可動側ユニットの前面に取付けられる裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一取付軸部材３５２５によって前方への移動が規制される。また、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の第二孔３５７１ｂに回転可能に取付けられている第二用駆動リンクギア部材３５７３の前面に、裏上第二装飾体ユニット３５３０における第二取付ベース３５４４の後面を取付けることで、裏上第二装飾体ユニット３５３０を裏上回転ベース３５７１に対して相対的に回転可能に取付けることができる。更に、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上回転ベース３５７１の第三孔３５７１ｃに回転可能に取付けられている第三用駆動リンクギア部材３５７８の前面に、裏上第三装飾体ユニット３５５０における第三取付ベース３５６４の後面を取付けることで、裏上第三装飾体ユニット３５５０を裏上回転ベース３５７１に対して相対的に回転可能に取付けることができる。
【０８３７】
この裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の前面に取付けた状態で、回転ベース被駆動ギア３５７２が、可動側ユニット３６１０の回転ベース駆動ギア３６１４と噛合していると共に、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が、可動側ユニット３６１０の可動側ベース３６１１における中央リンクギア３６１１ｂと噛合している（図１６３を参照）。そして、可動側ユニット３６１０の裏上回転駆動モータ３６１２の駆動により回転ベース駆動ギア３６１４を回転させると、回転ベース被駆動ギア３５７２を介して、裏上回転ベースユニット３５７０が、第一孔３５７１ａ（取付筒部３５７１ｄ）の軸芯を中心として前後に延びた軸周りに回転する。そして、裏上回転ベースユニット３５７０は、長手方向（第一孔３５７１ａ、第二孔３５７１ｂ、及び第三孔３５７１ｃが並んでいる方向）が水平に延びている水平位置と、垂直に延びている垂直位置との間で、９０度回転することができる。水平位置の状態では、第一孔３５７１ａの右方に第二孔３５７１ｂが位置し、垂直位置の状態では、第一孔３５７１ａの下方に第二孔３５７１ｂが位置している。この水平位置の時に、裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０が、裏上昇降ユニット３６００における可動側ユニット３６１０の回転検知片３６１１ｄを検知している。
【０８３８】
裏上回転ベースユニット３５７０は、第一孔３５７１ａを中心に水平位置と垂直位置との間で回転すると、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が、可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転するように移動する。この際に、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２は、中央リンクギア３６１１ｂと噛合しているため、中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転すると、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が夫々自転し、夫々が裏上回転ベース３５７１に対して相対的に回転することとなる。
【０８３９】
そして、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が回転すると、それらの回転が、第二用第三リンクギア３５７７からは、第二用第二リンクギア３５７６、及び第二用第一リンクギア３５７５を介して第二用リンクギア部３５７３ｂに伝達され、第二用駆動リンクギア部材３５７３が第二用第三リンクギア３５７７とは反対方向へ回転し、第三用第三リンクギア３５８２からは、第三用第二リンクギア３５８１、及び第三用第一リンクギア３５８０を介して第三用リンクギア部３５７８ｂに伝達され、第三用駆動リンクギア部材３５７８が第三用第三リンクギア３５８２とは反対方向へ回転する

。
【０８４０】
この際に、第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用リンクギア部３５７８ｂは、可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂと同じ径であるため、裏上回転ベース３５７１と中央リンクギア３６１１ｂとの回転角度と、裏上回転ベース３５７１と第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用リンクギア部３５７８ｂとの回転角度とが同じとなる。この可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂは、回転不能に取付けられていることから、裏上回転ベース３５７１が回転すると、第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用リンクギア部３５７８ｂが、前後に延びた軸周りに対して回転することなく、中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット３５７０は、裏上第二装飾体ユニット３５３０と裏上第三装飾体ユニット３５５０とを、その上下方向の向きを一定に保った状態で、第一孔３５７１ａ（可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂ）を中心に公転させることができる。
【０８４１】
また、裏上回転ベースユニット３５７０は、作用レバー駆動モータ３５８３により作用レバーピニオンギア３５８５を正面視反時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア３５８６ａを介して作用レバー３５８６を左方へ移動させることができ、作用レバーピニオンギア３５８５を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーラックギア３５８６ａを介して作用レバー３５８６を右方へ移動させることができる。
【０８４２】
詳述すると、作用レバー３５８６は、裏上回転ベースユニット３５７０に組立てた状態で、本体部３５８６ｂが、正面視において裏上回転ベース３５７１における第一孔３５７１ａの右側に位置している。作用レバー３５８６のスライド取付部３５８６ｃは、第一孔３５７１ａの上外側を跨ぐように第三孔３５７１ｃ付近まで左方へ延びている。第一用作用部３５８６ｆは、第一孔３５７１ａよりも下側に位置している。第二右延出部３５８６ｇは、第二孔３５７１ｂよりも上側で第二孔３５７１ｂ付近まで延びている。第二下延出部３５８６ｈは、下端が第二孔３５７１ｂよりも下側に位置するように延びている。第二用作用部３５８６ｉは、第二孔３５７１ｂの下部付近の高さに位置している。第三延出部３５８６ｊは、第三孔３５７１ｃよりも下側に下端が延びている。従って、第三用作用部３５８６ｋは、第三孔３５７１ｃよりも下側に位置している。
【０８４３】
この作用レバー３５８６は、図１５２（ａ）に示すように、最も左方へ移動させた状態（作用位置の状態）では、正面視において本体部３５８６ｂの左辺から左方へ突出しているロック片３５８６ｄが、第一孔３５７１ａ内へ突出した状態となっている。また、この状態では、第一用作用部３５８６ｆの左端が第一孔３５７１ａの中心よりもやや左方に位置している。また、第二用作用部３５８６ｉの左端は、第二孔３５７１ｂよりも左方に位置している。更に、第三用作用部３５８６ｋの左端は、第三孔３５７１ｃの右端付近に位置している。また、この状態では、作用レバー３５８６の第三延出部３５８６ｊの下端が、作用レバー移動検知センサ３５８８により検知されている。
【０８４４】
一方、作用レバー３５８６を、最も右方へ移動させた状態（非作用位置の状態）では、ロック片３５８６ｄ及び第一用作用部３５８６ｆが、第一孔３５７１ａよりも右方に位置している。また、第二用作用部３５８６ｉの左端は、第二孔３５７１ｂの中心に対して若干左寄りに位置している。更に、第三用作用部３５８６ｋの左端は、第三孔３５７１ｃよりも右方に位置している。この状態では、作用レバー３５８６の第三延出部３５８６ｊの下端が、作用レバー移動検知センサ３５８８から離れており、非検知の状態となっている。
【０８４５】
作用レバー３５８６は、詳細は後述するが、作用位置へ移動させて、ロック片３５８６ｄを、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一取付軸部材３５２５における水平ロック孔

３５２５ａ又は垂直ロック孔３５２５ｂに挿入させることで、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の回転を規制（ロック）することができる。従って、作用レバー３５８６を非作用位置へ移動させると、ロック片３５８６ｄが、水平ロック孔３５２５ａ又は垂直ロック孔３５２５ｂから抜けた状態となり、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０に対して裏上回転ベースユニット３５７０を回転させることができるようになる。

【０８４６】

また、作用レバー３５８６は、第一用作用部３５８６ｆ、第二用作用部３５８６ｉ、及び第三用作用部３５８６ｋの夫々の左端が、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一開閉アーム３５２１、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二開閉アーム３５４１、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三開閉アーム３５６１と、当接可能とされている。従って、裏上回転ベースユニット３５７０を回転させて垂直に延びた状態に位置させた時に、作用レバー３５８６を作用位置へ移動させると、第一開閉アーム３５２１、第二開閉アーム３５４１、及び第三開閉アーム３５６１を、上方へスライドさせることができる。

【０８４７】

［５－９ｆ－５．裏上昇降ユニット］

次に、裏上可動演出ユニット３５００の裏上昇降ユニット３６００について、主に図１５３乃至図１５８を参照して詳細に説明する。図１５３（ａ）は裏上可動演出ユニットにおける裏上昇降ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットを後ろから見た斜視図である。図１５４（ａ）は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットを可動側ユニットと固定側ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。図１５５（ａ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は可動側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１５６は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１５７は裏上昇降ユニットの固定側ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１５８（ａ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の駆動系を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の駆動系を正面から示す説明図である。

【０８４８】

裏上昇降ユニット３６００は、裏箱３０１０の後壁の前面における開口部３０１０ａの上側で、裏左可動演出ユニット３３００と裏右可動演出ユニット３４００との間に取付けられる。裏上昇降ユニット３６００は、前面に裏上第一装飾体ユニット３５１０及び裏上回転ベースユニット３５７０が取付けられる可動側ユニット３６１０と、可動側ユニット３６１０を昇降させ裏箱３０１０ａ内に取付けられる固定側ユニット３６５０と、を備えている。

【０８４９】

まず、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０は、図１５５に示すように、正面視において左右に延びた略四角形の可動側ベース３６１１と、可動側ベース３６１１の前面における右上隅に取付けられており回転軸が可動側ベース３６１１を貫通して後方へ突出している裏上回転駆動モータ３６１２と、裏上回転駆動モータ３６１２の回転軸に取付けられている回転駆動ギア３６１３と、回転駆動ギア３６１３と噛合していると共に裏上回転ベースユニット３５７０の回転ベース被駆動ギア３５７２と噛合し、可動側ベース３６１１の前面に回転可能に取付けられている回転ベース駆動ギア３６１４と、を備えている。

【０８５０】

また、可動側ユニット３６１０は、裏上回転駆動モータ３６１２を覆うように可動側ベース３６１１の前面に取付けられているモータカバー３６１５と、可動側ベース３６１１の後側に取付けられている平板状のベースカバー３６１６と、ベースカバー３６１６の前面に取付けられている可動側中継基板３６１７と、を備えている。

【０８５１】

可動側ユニット３６１０の可動側ベース３６１１は、前面における左右方向中央の下部から前方へ円筒状に突出している軸筒部３６１１ａと、軸筒部３６１１ａの外周面の前端に形成されており裏上回転ベースユニット３５７０の第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２と噛合する中央リンクギア３６１１ｂと、上部における左右方向中央から左寄りの位置で前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の昇降スリット３６１１ｃと、前面における軸筒部３６１１ａの下側に取付けられており裏上回転ベースユニット３５７０の裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０により検知される回転検知片３６１１ｄ（図１５８を参照）と、を備えている。

【０８５２】

可動側ベース３６１１の軸筒部３６１１ａは、内径が、裏上回転ベースユニット３５７０における裏上回転ベース３５７１の取付筒部３５７１ｄの外径よりも若干大径に形成されており取付筒部３５７１ｄを回転可能に挿入させることができる。中央リンクギア３６１１ｂは、裏上回転ベースユニット３５７０における第二用駆動リンクギア部材３５７３の第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用駆動リンクギア部材３５７８の第三用リンクギア部３５７８ｂと、同径で同じピッチに形成されている。

【０８５３】

可動側中継基板３６１７は、固定側ユニット３６５０の裏上中継基板３６５９と、裏上第一装飾体ユニット３５１０の裏上第一装飾基板３５１４、裏上回転ベースユニット３５７０の裏上回転ベース中継基板３５９１、及び裏上回転駆動モータ３６１２との接続を中継している。ベースカバー３６１７は、後面における左右両端に固定側ユニット３６５０の昇降スライドレール３６５６が取付けられる。また、ベースカバー３６１７の後側には、固定側ユニット３６５０の昇降バネ３６５７の下端が取付けられる。

【０８５４】

裏上昇降ユニット３６００の固定側ユニット３６５０は、図１５６及び図１５７等に示すように、裏箱３０１０内に取付けられ正面視において左右に延びた略四角形の固定側ベース３６５１と、固定側ベース３６５１の前面中央で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている平歯車状の昇降ギア部３６５２ａ、昇降ギア部３６５２ａの前面における外周付近から前方へ円柱状に突出しており可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の昇降スリット３６１１ｃ内に摺動可能に挿入される昇降駆動ピン３６５２ｂ、及び昇降ギア部３６５２ａから外方へ扇状の延出している昇降検知片３６５２ｃを有した昇降用回転体３６５２と、昇降用回転体３６５２の昇降ギア部３６５２ａと噛合する昇降駆動ギア３６５３と、昇降駆動ギア３６５３が回転軸に取付けられており固定側ベース３６５１の後面に取付けられている裏上昇降駆動モータ３６５４と、を備えている。

【０８５５】

また、固定側ユニット３６５０は、固定側ベース３６５１の前面に取付けられており昇降用回転体３６５２の検知片３６５２ｃを検知する昇降検知センサ３６５５と、固定側ベース３６５１の前面における左右両側付近に取付けられると共に前面に可動側ユニット３６１０のベースカバー３６１６が取付けられ、上下に伸縮可能な一対の昇降スライドレール３６５６と、一対の昇降スライドレール３６５６よりも外側で固定側ベース３６５１の前面の下部における左右両端側に上端側が取付けられると共に、下端側が可動側ユニット３６１０の可動側ベース３６１１に取付けられ可動側ベース３６１１が上方へ移動するように付勢している一対の昇降バネ３６５７と、を備えている。

【０８５６】

更に、固定側ユニット３６５０は、前後に貫通していると共に半円弧状に延びており昇降用回転体３６５２の昇降駆動ピン３６５２ｂが通過可能な挿通スリット３６５８ａを有しており、一対の昇降スライドレール３６５６の間において昇降用回転体３６５２の前面を覆うように固定側ベース３６５１の前面に取付けられている固定側前カバー３６５８と、固定側ベース３６５１の後面に取付けられており、可動側ユニット３６１０の可動側中継基板３６１７、裏上昇降駆動モータ３６５４、及び昇降検知センサ３６５５と、右下中継基板３０３４とを接続している裏上中継基板３６５９と、裏上中継基板３６５９の後側

を覆うように固定側ベース３６５１の後側に取付けられている基板カバー３６６０と、を備えている。

【０８５７】

続いて、裏上昇降ユニット３６００の動作について説明する。裏上昇降ユニット３６００は、可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の軸筒部３６１１ａ内に、裏上回転ベースユニット３５７０における裏上回転ベース３５７１の取付筒部３５７１ｄが回転可能に挿入されると共に、裏上回転ベース３５７１の取付筒部３５７１ｄを通して可動側ベース３６１１の前面に裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一取付軸部材３５２５の後端が取付けられる。これにより、可動側ユニット３６１０は、裏上回転ベースユニット３５７０を、前方へ移動不能な状態で、軸筒部３６１１ａ（第一孔３５７１ａ）を中心とした前後に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【０８５８】

可動側ユニット３６１０の可動側ベース３６１１に裏上回転ベースユニット３５７０を取付けた状態では、回転ベース駆動ギア３６１４が裏上回転ベースユニット３５７０の回転ベース被駆動ギア３５７２と噛合している状態となる。従って、裏上回転駆動モータ３６１２の駆動により回転駆動ギア３６１３を介して回転ベース駆動ギア３６１４を回転させると、裏上回転ベースユニット３５７０を、軸筒部３６１１ａ（第一孔３５７１ａ）を中心に回転させることができる。この可動側ユニット３６１０は、裏上回転ベースユニット３５７０を、水平に延びた水平位置の状態と、垂直に延びた垂直位置の状態との間で、９０度回転させることができる。なお、可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の回転検知片３６１１ｄは、裏上回転ベースユニット３５７０が水平位置の時に、裏上回転ベースユニット３５７０の裏上回転ベースユニット回転検知センサ３５９０により検知される。

【０８５９】

また、裏上昇降ユニット３６００は、組立てた状態では、固定側ユニット３６５０の一対の昇降スライドレール３６５６によって可動側ユニット３６１０が固定側ユニット３６５０に対して上下方向へのみ移動可能（昇降可能）となっている。可動側ユニット３６１０は、可動側ベース３６１１の昇降スリット３６１１ｃ内に固定側ユニット３６５０における昇降用回転体３６５２の昇降駆動ピン３６５２ｂが左右方向へ摺動可能に挿入されている。従って、可動側ユニット３６１０は、昇降用回転体３６５２における昇降駆動ピン３６５２ｂの高さ位置によって、上下方向の位置が規制されている。また、可動側ユニット３６１０は、一対の昇降バネ３６５７によって、上方へ移動するように付勢されている。

【０８６０】

この裏上昇降ユニット３６００は、通常の状態では、図１５８（ａ）に示すように、昇降用回転体３６５２の回転により公転する昇降駆動ピン３６５２ｂが、昇降用回転体３６５２の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置しており、昇降駆動ピン３６５２ｂにより可動側ユニット３６１０が最も上側に位置した上昇位置の状態となっている。この状態では、昇降用回転体３６５２の検知片３６５２ｃが、昇降検知センサ３６５５に検知されている。また、この状態では、昇降駆動ピン３６５２ｂが、可動側ユニット３６１０における可動側ベース３６１１の左右に延びた昇降スリット３６１１ｃ内の右端に当接している。

【０８６１】

従って、可動側ユニット３６１０側の重量が昇降駆動ピン３６５２ｂに作用することで、昇降駆動ピン３６５２ｂを介して昇降用回転体３６５２が正面視時計回りの方向へ回転しようとしても、昇降駆動ピン３６５２ｂが昇降スリット３６１１ｃの右端に当接しているため、昇降用回転体３６５２がこれ以上正面視時計回りの方向へ回転することができず、可動側ユニット３６１０の下方への移動が阻止された状態となっている。つまり、可動側ユニット３６１０が、上昇位置でロックされた状態となっている。これにより、可動側ユニット３６１０側からの重量（荷重）が、昇降用回転体３６５２の昇降ギア部３６５２

ａ、及び昇降駆動ギア３６５３を介して、裏上昇降駆動モータ３６５４に作用することはなく、裏上昇降駆動モータ３６５４に負荷がかからないようになっている。

【０８６２】

この上昇位置の状態から、裏上昇降駆動モータ３６５４により昇降用回転体３６５２を正面視反時計回りの方向へ回転させると、昇降用回転体３６５２の昇降駆動ピン３６５２ｂが、左方へ移動しつつ下方へ移動するように公転することとなり、昇降駆動ピン３６５２ｂが昇降スリット３６１１ｃ内を左方へ摺動しつつ、昇降スリット３６１１ｃを介して可動側ユニット３６１０が、一対の昇降バネ３６５７の付勢力に抗して下方へ移動することとなる。昇降用回転体３６５２が、反時計回りに回転することで公転する昇降駆動ピン３６５２ｂが、昇降用回転体３６５２の回転中心と同じ高さを越えて下方へ公転すると、昇降駆動ピン３６５２ｂの左右方向の移動の向きが変わって、右方へ移動しつつ下方へ移動することとなり、昇降スリット３６１１ｃ内を右方へ摺動することとなる。

【０８６３】

そして、昇降駆動ピン３６５２ｂが、昇降用回転体３６５２の中心の直下に位置すると、昇降用回転体３６５２の回転が停止すると同時に、可動側ユニット３６１０の下方への移動が停止し、可動側ユニット３６１０が最も下降した下降位置の状態となる（図１５８（ｂ）を参照）。なお、可動側ユニット３６１０を下降位置から上昇位置へ移動させる場合は、裏上昇降駆動モータ３６５４を上記とは逆方向へ駆動して昇降用回転体３６５２を正面視時計回りの方向へ回転させることで、上昇位置へ復帰させることができる。この際に、可動側ユニット３６１０の上方への移動が、一対の昇降バネ３６５７の付勢力によってアシストされ、裏上昇降駆動モータ３６５４にかかる負荷が軽減されている。

【０８６４】

このように、裏上昇降ユニット３６００は、可動側ユニット３６１０を介して、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベースユニット３５７０を、上昇位置と下降位置との間で上下に移動（昇降）させることができる。

【０８６５】

［５－９ｆ－６．裏上可動演出ユニットの動作］

次に、裏上可動演出ユニット３５００の動作について、主に図１５９乃至図１６８を参照して詳細に説明する。図１５９は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが上昇位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図であり、図１６０は裏上可動演出ユニットにおいて裏上昇降ユニットの可動側ユニットが下降位置の時の昇降用の駆動系を示す説明図である。図１６１は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが作用位置の状態を示す説明図であり、図１６２は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図である。図１６３は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図１６４は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが水平位置から時計回りに４５度回転したの時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図であり、図１６５は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時の裏上回転ベースユニットの駆動系を示す説明図である。

【０８６６】

また、図１６６は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが非作用位置の状態を示す説明図であり、図１６７は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で回転を規制している状態を示す説明図であり、図１６８は裏上可動演出ユニットにおいて可動側ユニットが下降位置で裏上回転ベースユニットが垂直位置の時に、作用レバーが作用位置で裏上第一装飾体ユニット、裏

上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットに作用を及ぼしている状態を示す説明図である。

【０８６７】

裏上可動演出ユニット３５００は、通常の状態では、図１５９等に示すように、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０が最も上昇した上昇位置の状態となっていると共に、裏上回転ベースユニット３５７０が水平に延びた水平位置の状態となっている。この状態では、裏上第一装飾体ユニット３５１０を中央にして、裏上第二装飾体ユニット３５３０と裏上第三装飾体ユニット３５５０とが左右両側に並んでいる。また、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２は、夫々第一開閉バネ３５２３、第二開閉バネ３５４３、及び第三開閉バネ３５６３の付勢力により、夫々互いに当接した閉位置の状態となっている。

【０８６８】

この通常の状態では、図１５９に示すように、裏上昇降ユニット３６００における固定側ユニット３６５０の公転する昇降駆動ピン３６５２ｂが、昇降用回転体３６５２の回転中心の直上に対してやや右寄りに位置して、可動側ベース３６１１の左右に延びた昇降スリット３６１１ｃ内の右端に当接している。これにより、可動側ユニット３６１０の昇降スリット３６１１ｃを介して、昇降駆動ピン３６５２ｂに、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上回転ベースユニット３５７０、及び可動側ユニット３６１０の重量（荷重）が作用しても、昇降駆動ピン３６５２ｂが、これ以上正面視時計回りの方向へ公転することができず、可動側ユニット３６１０の下方への移動が規制され、上昇位置でロックされた状態となっている。

【０８６９】

従って、通常の状態では、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上回転ベースユニット３５７０、及び可動側ユニット３６１０、の荷重が、裏上昇降駆動モータ３６５４に作用することはなく、裏上昇降駆動モータ３６５４に負荷がかからないようになっている。また、通常の状態では、昇降駆動ピン３６５２ｂを公転させる昇降用回転体３６５２の検知片３６５２ｃが、昇降検知センサ３６５５に検知されている。

【０８７０】

この通常の状態から、裏上昇降駆動モータ３６５４を駆動して昇降用回転体３６５２の昇降駆動ピン３６５２ｂを、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン３６５２ｂが昇降スリット３６１１ｃ内を摺動しつつ下降することとなり、昇降駆動ピン３６５２ｂの下降に伴って可動側ユニット３６１０が下方へ移動し、昇降駆動ピン３６５２ｂが、最も下降した位置に到達すると、昇降駆動ピン３６５２ｂの公転が停止して、可動側ユニット３６１０が下降位置に位置することとなる（図１６０を参照）。

【０８７１】

裏上可動演出ユニット３５００は、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０を下降位置に移動させることで、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベースユニット３５７０を、遊技盤側演出表示装置１６００の前面側の上部に位置させることができる（図１７４を参照）。

【０８７２】

裏上可動演出ユニット３５００は、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０を、上昇位置と下降位置との間で移動させる時には、裏上回転ベースユニット３５７０の作用レバー３５８６を作用位置に移動させている。作用レバー３５８６は、作用レバー駆動モータ３５８３の駆動により左方の作用位置に移動している状態では、図１６１に示

すように、作用レバー３５８６のロック片３５８６ｄが、裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一取付軸部材３５２５の水平ロック孔３５２５ａに挿入された状態となっている。これにより、作用レバー３５８６が、第一取付軸部材３５２５の周りに回転することができなくなるため、作用レバー３５８６が取付けられている裏上回転ベースユニット３５７０が、第一取付軸部材３５２５（可動側ユニット３６１０の軸筒部３６１１ａ）に対して回転がロックされた状態となる。つまり、裏上回転ベースユニット３５７０が、水平位置で回転がロックされた状態となる。

【０８７３】

なお、作用レバー３５８６のロック片３５８６ｄは、先端がテーパー状に形成されているため、裏上回転ベースユニット３５７０が水平位置に対して多少ずれていても、第一取付軸部材３５２５の水平ロック孔３５２５ａに挿入させることで、裏上回転ベースユニット３５７０を水平位置に移動させて、回転をロックさせることができる。

【０８７４】

この作用レバー３５８６においては、図示は省略するが、作用レバー３５８６の第二右延出部３５８６ｇが、裏上第二装飾体ユニット３５３０における第二開閉アーム３５４１の受ボス３５４１ｂに上方から当接していると共に、作用レバー３５８６の第三延出部３５８６ｊ（スライド取付部３５８６ｃの左端）が、裏上第三装飾体ユニット３５５０における第三上アーム３５５８の所定位置に右方から当接している。これにより、作用レバー３５８６によって、裏上第二装飾体ユニット３５３０における裏上回転ベース３５７１の第二孔３５７１ｂを中心とした軸線周りへの回転と、裏上第三装飾体ユニット３５５０における裏上回転ベース３５７１の第三孔３５７１ｃを中心とした軸線周りへの回転とを、阻止している。従って、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０を上下方向へ移動（昇降）させることで、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベースユニット３５７０に振動が作用しても、作用位置に位置した作用レバー３５８６の作用により、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベースユニット３５７０が揺れないようになっている。

【０８７５】

裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０を介して、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベースユニット３５７０を、下降位置に位置させた状態で、作用レバー駆動モータ３５８３により作用レバー駆動ギア３５８４を介して作用レバーピニオンギア３５８５を正面視時計回りの方向へ回転させると、作用レバーピニオンギア３５８５に噛合している作用レバーラックギア３５８６ａにより水平状態の作用レバー３５８６が右方の非作用位置へ移動し、第一取付軸部材３５２５の水平ロック孔３５２５ａからロック片３５８６ｄが抜けた状態となる（図１６２を参照）。これにより、裏上回転ベースユニット３５７０が、第一取付軸部材３５２５の取付軸部３５２５ｃ（裏上回転ベース３５７１の第一孔３５７１ａ、可動側ベース３６１１の軸筒部３６１１ａ）を中心として回転することができるようになる。

【０８７６】

裏上可動演出ユニット３５００の裏上回転ベースユニット３５７０では、図１６３に示すように、回転ベース被駆動ギア３５７２が、可動側ユニット３６１０における回転ベース駆動ギア３６１４と噛合していると共に、第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が、可動側ユニット３６１０の可動側ベース３６１１における中央リンクギア３６１１ｂと噛合している。

【０８７７】

そして、裏上回転ベースユニット３５７０を水平位置とすると共に、作用レバー３５８６を非作用位置とした状態で、可動側ユニット３６１０の裏上回転駆動モータ３６１２を駆動して回転ベース駆動ギア３６１４を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア３６１４と噛合している回転ベース被駆動ギア３５７２を介して、裏上回転

ベースユニット３５７０が、中央リンクギア３６１１ｂ（第一孔３５７１ａ、取付筒部３５７１ｄ）の軸芯を中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる（図１６４を参照）。この際に、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、裏上回転ベースユニット３５７０の回転中心である第一孔３５７１ａを貫通して可動側ユニット３６１０の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット３５７０と一緒に回転することはない。

【０８７８】

裏上可動演出ユニット３５００は、裏上回転ベースユニット３５７０が、中央リンクギア３６１１ｂを中心にして回転すると、中央リンクギア３６１１ｂと噛合している第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が、中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転しながら自転することとなり、裏上回転ベース３５７１に対して時計回りの方向へ夫々回転することとなる。これら第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が回転すると、それらの回転が、第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用リンクギア部３５７８ｂに伝達され、第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８が、裏上回転ベース３５７１に対して反時計回りの方向へ夫々回転することとなる。つまり、裏上回転ベースユニット３５７０を正面視時計回りの方向へ回転させると、裏上回転ベース３５７１の長手方向両端の第二孔３５７１ｂ及び第三孔３５７１ｃに夫々回転可能に取付けられている第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８が、第一孔３５７１ａを中心に時計回りの方向へ公転すると共に、第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８が、裏上回転ベース３５７１の第二孔３５７１ｂ及び第三孔３５７１ｃにおいて夫々反時計回りの方向へ回転（自転）する。

【０８７９】

第二用駆動リンクギア部材３５７３の第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用駆動リンクギア部材３５７８の第三用リンクギア部３５７８ｂは、可動側ユニット３６１０の中央リンクギア３６１１ｂと同じ径であるため、裏上回転ベース３５７１と中央リンクギア３６１１ｂとの回転角度と、裏上回転ベース３５７１と第二用リンクギア部３５７３ｂ及び第三用リンクギア部３５７８ｂとの回転角度とが同じとなる。裏上回転ベース３５７１を、中央リンクギア３６１１ｂを中心にして回転させると、第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８が、その回転向きを一定に保ったまま中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転する（図１６４及び図１６５を参照）。そして、第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８の前面には、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が夫々取付けられていることから、裏上回転ベース３５７１を回転させると、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、その上下の向きを一定に保った状態で、裏上第一装飾体ユニット３５１０の周りを公転することとなる。

【０８８０】

この裏上可動演出ユニット３５００は、裏上回転ベースユニット３５７０が水平位置の時に、裏上第一装飾体ユニット３５１０の右側に裏上第二装飾体ユニット３５３０が配置されていると共に、裏上第一装飾体ユニット３５１０の左側に裏上第三装飾体ユニット３５５０が配置されているため、裏上回転ベースユニット３５７０を正面視時計回りの方向へ回転させて垂直位置の状態とすると、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、その上下の向きをそのままにして、裏上第一装飾体ユニット３５１０の下側と上側とに夫々配置された状態となる（図１６５を参照）。従って、裏上回転ベースユニット３５７０が垂直位置の時には、裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０の順に上から並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、夫々閉位置の状態で、遊技領域５ａの左右方向中央で、センター役物２５００の枠内の略全高に亘って縦断するように位置している（図１７６を参照）。

【０８８１】

この裏上回転ベースユニット３５７０を、水平位置から垂直位置へ回転させた状態では、図１６６に示すように、非作用位置に位置している裏上回転ベースユニット３５７０の作用レバー３５８６が、ロック片３５８６ｄを上方へ向けた状態となっている。この状態で、作用レバー駆動モータ３５８３の駆動により作用レバーピニオンギア３５８５を正面視反時計回りの方向へ回転させて、作用レバー３５８６を上方へ移動させて非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー３５８６のロック片３５８６ｄが、第一取付軸部材３５２５の垂直ロック孔３５２５ｂに挿入された状態となる（図１６７を参照）。これにより、裏上回転ベースユニット３５７０が、垂直位置で回転がロックされた状態となる。

【０８８２】

裏上可動演出ユニット３５００は、裏上回転ベースユニット３５７０が垂直位置の状態で、作用レバー３５８６を非作用位置から作用位置へ移動させると、作用レバー３５８６の上方への移動に伴って、作用レバー３５８６の第一用作用部３５８６ｆ、第二用作用部３５８６ｉ、及び第三用作用部３５８６ｋ、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一開閉アーム３５２１の受ボス３５２１ｂ、裏上第二装飾体ユニット３５３０における第二開閉アーム３５４１の受ボス３５４１ｂ、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０における第三開閉アーム３５６１の下端、に夫々下方から当接して、第一開閉アーム３５２１、第二開閉アーム３５４１、及び第三開閉アーム３５６１、を上方へ移動させる。

【０８８３】

そして、第一開閉アーム３５２１、第二開閉アーム３５４１、及び第三開閉アーム３５６１が、夫々上方へ移動すると、夫々閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２、が夫々互いに離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図１６８を参照）。

【０８８４】

これにより、裏上第三装飾体ユニット３５５０における第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２との間から臨んだ第三固定装飾レンズ３５５３、裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２との間から臨んだ第一固定装飾レンズ３５１３、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０における第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２との間から臨んだ第二固定装飾レンズ３５３３が、上から下へ順に一直線に並んだ状態となる。この状態では、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、夫々開位置の状態で、遊技領域５ａの左右方向中央で、センター役物２５００の枠内の略全高に亘って縦断するように位置しており、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が、裏前飾りユニット３１００における裏前下中央レンズ３１３１と連続するように略同じ幅で上下に並んでいる（図１７７を参照）。

【０８８５】

なお、裏上可動演出ユニット３５００を、通常の状態に戻すには、上記と逆の動作をさせることで、通常の状態に復帰させることができる。

【０８８６】

また、裏上可動演出ユニット３５００は、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２、が夫々互いに当接した閉位置の状態では、夫々が異なる文字の装飾を見せることができ、左から右へ裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０

、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０が、並んだ状態では、三つの文字が、パチンコ機１のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きとした状態となり、遊技者に対して本パチンコ機１のコンセプトを認識させることができる。なお、裏上回転ベースユニット３５７０を垂直位置とすることで上から下へ裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０が並ぶと、パチンコ機１のコンセプトに沿ったロゴが縦書きの状態となり、この状態でも遊技者に対してロゴを認識させることができる。

【０８８７】

このように、裏上可動演出ユニット３５００によれば、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の相対的な回転位置（水平位置又は垂直位置）によって、作用位置と非作用位置との間で移動する作用レバー３５８６により、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に回転ロック（第一作用）と開位置への移動（第二作用）の別の作用を及ぼして異なる演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽き難くさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０８８８】

［５－９ｇ．裏下可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏下可動演出ユニット３７００について、主に図１６９等を参照して詳細に説明する。図１６９（ａ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットの正面図であり、（ｂ）は裏下可動演出ユニットの背面図であり、（ｃ）は裏下可動演出ユニットにおいて裏下可動装飾体ユニットを上昇させた状態で示す背面図である。裏下可動演出ユニット３７００は、裏箱３０１０内における後壁の前面の左右方向中央で開口部３０１０ａの下側に取付けられている。裏下可動演出ユニット３７００は、所定の立体的な装飾を有している裏下可動装飾体ユニット３７１０と、裏箱３０１０内に取付けられており裏下可動装飾体ユニット３７１０を上下に移動させる裏下駆動ユニット３７５０と、を備えている。

【０８８９】

裏下可動装飾体ユニット３７１０は、左右に延びた屋根の下に複数の門を左右に列設した立体的な装飾が形成されており各門の部位が前後に貫通している裏下装飾体本体３７１１と、裏下装飾体本体３７１１における各門の部位に対して二つ一組で前方へ観音開き状に開閉するように取付けられている複数の裏下扉部材３７１２と、裏下扉部材３７１２よりも後方で裏下装飾体本体３７１１の後側に取付けられており左右に延びている裏下装飾体ベース３７１３と、裏下装飾体ベース３７１３の前面下部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材３７１２における正面視左側の裏下扉部材３７１２をヒンジ回転させる下開閉スライダ３７１４と、裏下装飾体ベース３７１３の前面上部において左右方向へスライド可能に取付けられており二つ一組の複数の裏下扉部材３７１２における正面視右側の裏下扉部材３７１２をヒンジ回転させる上開閉スライダ３７１５と、を備えている。

【０８９０】

また、裏下可動装飾体ユニット３７１０は、裏下装飾体ベース３７１３の後側に回転可能に取付けられており下開閉スライダ３７１４及び上開閉スライダ３７１５を左右方向の互いに異なる方向へスライドさせる開閉用回転体３７１６と、開閉用回転体３７１６の上端に一端側が取付けられていると共に裏下装飾体ベース３７１３に他端側が取付けられており下開閉スライダ３７１４及び上開閉スライダ３７１５を介して各裏下扉部材３７１２が閉じる方向へヒンジ回転するように開閉用回転体３７１６を付勢している扉閉鎖バネ３７１７と、を備えている。扉閉鎖バネ３７１７は、開閉用回転体３７１６が、背面視において反時計回りの方向へ回転するように付勢している。

【０８９１】

更に、裏下可動装飾体ユニット３７１０は、裏下装飾体本体３７１２の後側に取付けられている裏下装飾レンズ３７１８（図１７９を参照）と、裏下装飾レンズ３７１８の後側に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏下装飾基板３７１９と、裏下装飾体ベース３７１３の後側に取付けられており裏下装飾基板３７１９と裏下中継基板３７５７とを接続する配線ケーブル３７０１を誘導可能な上配線カバー３７２０と、を備えている。配線ケーブル３７０１は、フレキシブルフラットケーブルとされている。上配線カバー３７２０は、裏下装飾体ベース３７１３に取付けることで、配線ケーブル３７０１を収容可能な下方に開口した空間を形成する。また、上配線カバー３７２０は、背面視において、右端側に、配線ケーブル３７０１を誘導するための湾曲した上誘導部３７２０ａを有している。

【０８９２】

裏下駆動ユニット３７５０は、裏箱３０１０の後壁の前面における左右方向中央で開口部３０１０ａの下側に取付けられ、正面視左上隅に前後に貫通し左右に延びていると共に右端から上方へ短く延びているリンクスリット３７５１ａを有している裏下駆動ベース３７５１と、裏下駆動ベース３７５１の前面において上下に移動可能に取付けられていると共に上部に裏下装飾体ユニット３７１０が取付けられている裏下昇降ベース３７５２と、裏下駆動ベース３７５１の前面における左右両端付近に夫々回転可能に取付けられており裏下昇降ベース３７５２を上下に移動させる一対の昇降アーム３７５３と、裏下駆動ベース３７５１の後側に取付けられている裏下駆動モータ３７５４と、裏下駆動モータ３７５４の回転を伝達して一対の昇降アーム３７５３を互いに異なる方向へ回転させる複数の伝達ギア３７５５と、を備えている。

【０８９３】

また、裏下駆動ユニット３７５０は、下端側が裏下駆動ベース３７５１のリンクスリット３７５１ａ内に摺動可能に取付けられていると共に上端側が裏下装飾体ユニット３７１０の開閉用回転体３７１６に回転可能に取付けられている棒状のリンクアーム３７５６を備えている。リンクアーム３７５６の上端は、開閉用回転体３７１６における回転中心よりも背面視右側の部位に回転可能に取付けられている。これにより、リンクアーム３７５６を下方へ引っ張ると、扉閉鎖バネ３７１７の付勢力に抗して開閉用回転体３７１６が背面視時計周りの方向へ回転する。

【０８９４】

更に、裏下駆動ユニット３７５０は、裏下駆動ベース３７５１の後側に取付けられており裏下装飾基板３７１９及び裏下駆動モータ３７５４と右下中継基板３０３４との接続を中継している裏下中継基板３７５７と、裏下駆動ベース３７５１の後側における裏下中継基板３７５７の上方に取付けられており裏下中継基板３７５７と裏下装飾基板３７１９とを接続している配線ケーブル３７０１を誘導可能な下配線カバー３７５８と、を備えている。下配線カバー３７５８は、裏下駆動ベース３７５１に取付けることで、配線ケーブル３７０１を収容可能な上方に開口した空間を形成する。また、下配線カバー３７５８は、背面視において、右端側に、配線ケーブル３７０１を誘導するための湾曲した下誘導部３７５８ａを有している。

【０８９５】

続いて、裏下可動演出ユニット３７００の動作について説明する。裏下可動演出ユニット３７００は、通常の状態では、裏下可動装飾体ユニット３７１０が、最も下降した状態となっている（図１６９（ａ）及び（ｂ）を参照）。この状態では、扉閉鎖バネ３７１７の付勢力により、開閉用回転体３７１６、下開閉スライダ３７１４及び上開閉スライダ３７１５により、複数の裏下扉部材３７１２が閉状態となっており、裏下装飾体本体３７１１の複数の門の扉（裏下扉部材３７１２）が閉じられた状態となっている。また、この状態では、枠状のセンター役物２５００における下辺を形成している部位の上端よりも下側に位置しており、正面からは殆ど見ることができない（図１１４等を参照）。

【０８９６】

この通常の状態において、裏下駆動モータ３７５４を駆動して一対の昇降アーム３７５

３を、夫々を向いた側が上方へ移動するように回転させると、裏下昇降ベース３７５２が上方へ移動し、裏下昇降ベース３７５２に取付けられている裏下可動装飾体ユニット３７１０が上昇する。

【０８９７】

この際に、リンクアーム３７５６は、上端側が裏下可動装飾体ユニット３７１０における開閉用回転体３７１６に上端が取付けられているため、裏下可動装飾体ユニット３７１０と共に上昇することとなり、下端側が裏下駆動ベース３７５１におけるリンクスリット３７５１ａ内を上方（背面視左方）へ向かって摺動することとなる。

【０８９８】

そして、裏下可動装飾体ユニット３７１０が上昇することで、リンクアーム３７５６の下端側がリンクスリット３７５１ａの上端に到達すると、リンクアーム３７５６がこれ以上上方へ移動することができなくなる。裏下可動演出ユニット３７００は、この位置（第一上昇位置）で、裏下可動装飾体ユニット３７１０の上下方向の移動を一旦停止させることができる。この状態では、裏下装飾体本体３７１１の複数の門の部位が、センター役物２５００における下辺（ステージ２５３０）よりも上側に位置した状態となり、センター役物２５００の枠内を通して、扉が閉じた状態の複数の門を視認することができる（図１７８を参照）。

【０８９９】

この第一昇降位置の状態で、裏下可動装飾体ユニット３７１０が更に上昇すると、リンクアーム３７５６がリンクスリット３７５１ａにより裏下可動装飾体ユニット３７１０に対して相対的に下方へ引っ張られる状態となり、リンクアーム３７５２の上端側が取付けられている開閉用回転体３７１６が、扉閉鎖バネ３７１７の付勢力に抗して背面視時計回りの方向へ回転することとなる（図１６９（ｃ）を参照）。この開閉用回転体３７１６が背面視時計回りの方向へ回転すると、下開閉スライダ３７１４及び上開閉スライダ３７１５が複数の裏下扉部材３７１２を開かせる方向へスライドし、裏下装飾体本体３７１１における複数の門の扉（裏下扉部材３７１２）が開いた状態となって上昇が停止する。裏下扉部材３７１２が開いた位置（第二上昇位置）の状態では、裏下装飾体本体３７１１の複数の門を通して後側に配置された裏下装飾レンズ３７１８が視認できるようになる（図１７９を参照）。この状態で、裏下装飾基板３７１９のＬＥＤを発光させることで、開いた門を発光装飾させることができる。

【０９００】

この裏下可動演出ユニット３７００は、裏下可動装飾体ユニット３７１０の裏下装飾基板３７１９と、裏下駆動ユニット３７５０の裏下中継基板３７５７とを接続している配線ケーブル３７０１が、上配線カバー３７２０と下配線カバー３７５８とによって支持されている。上配線カバー３７２０は、上辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の下端が下方へ延出している上誘導部３７２０ａを有している。下配線カバー３７５８は、下辺と背面視右辺との間が湾曲し右辺の上端が上方へ延出している下誘導部３７５８ａを有している。

【０９０１】

裏下装飾基板３７１９と裏下中継基板３７５７とを接続している配線ケーブル３７０１は、裏下可動装飾体ユニット３７１０側では上配線カバー３７２０の上辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられており、裏下駆動ユニット３７５０側では下配線カバーの下辺における背面視左端において背面視右方へ延びるように取付けられている。これにより、裏下可動装飾体ユニット３７１０が最も下降した通常位置の状態では、配線ケーブル３７０１は、上誘導部３７２０ａ及び下誘導部３７５８ａに沿うように湾曲して延びており、極端に折れ曲がることなく裏下装飾基板３７１９と裏下中継基板３７５７とを良好に接続している（図１６９（ｂ）を参照）。

【０９０２】

一方、裏下可動装飾体ユニット３７１０が上昇した状態では、図１６９（ｃ）に示すように、配線ケーブル３７０１は、上配線カバー３７２０の上辺及び背面視右辺（上誘導部３７２０ａ）、及び下配線カバー３７５８の下辺及び背面視右辺（下誘導部３７５８ａ）

、から夫々離れた状態で裏下装飾基板３７１９と裏下中継基板３７５７とを接続している。そして、裏下可動装飾体ユニット３７１０が上昇した状態から下降する際に、上誘導部３７２０ａ及び下誘導部３７５８ａに夫々誘導されることで、折れ曲がることなくスムーズに湾曲し、上配線カバー３７２０及び下配線カバー３７５８に収容されることとなる。従って、裏下可動演出ユニット３７００は、裏下可動装飾体ユニット３７１０と裏下駆動ユニット３７５０とを接続している配線ケーブル３７０１を、裏下可動装飾体ユニット３７１０の昇降を繰返しても、極端に折れ曲がるのを阻止することができ、配線ケーブル３７０１の断線を防止することができる。

【０９０３】

［５－１０．遊技盤における演出］

次に、遊技盤５における主な可動演出について、主に図１７０乃至図１７９を参照して詳細に説明する。図１７０は、裏ユニットにおける裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体及び裏中右装飾体を中央側の出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１７１は裏ユニットにおける裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を中央寄りの出現位置へ移動させた上で、夫々の第一装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７２は図１７１の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第二装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７３は図１７１の状態から左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体及び裏右装飾体を回転させて夫々の第三装飾面を前方へ向けた状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９０４】

図１７４は裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々閉位置の状態とした上で、裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが水平に並ぶように裏上回転ベースユニットを水平位置の状態としたまま下降位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７５は図１７４の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ４５度回転させて裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが斜めに並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７６は図１７５の状態から裏上回転ベースユニットを正面視時計回りの方向へ更に４５度回転させて垂直位置の状態として裏上第一装飾体ユニット、裏上第二装飾体ユニット、及び裏上第三装飾体ユニットが垂直に並んだ状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７７は図１７６の状態から裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９０５】

図１７８は裏ユニットにおける裏下可動演出ユニットの裏下可動装飾体ユニットを第一上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１７９は図１７８の状態から裏下可動装飾体ユニットを更に上昇させて第二上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９０６】

遊技盤５は、通常の状態では、図１１４及び図１２１等に示すように、センター役物２５００の枠内を通して裏ユニット３０００の後側に取付けられている遊技盤側演出表示装置１６００の表示画面を、遊技者側（前方）から良好に視認することができる。裏中可動演出ユニット３２００では、左右の裏中左装飾体３２１０及び裏中右装飾体３２２０が、退避位置の裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０の後方となる互いに最も離反した退避位置の状態となっており、センター役物２５００の枠内を通して裏中左装飾体３２１

０及び裏中右装飾体３２２０の一部が僅かに見えている。裏左可動演出ユニット３３００では、裏左装飾体３３１０が、最も左側へ移動した退避位置の状態となっており、裏前飾りユニット３１００における裏前左飾りユニット３１２０の後方に位置して前方から殆ど見えない。裏右可動演出ユニット３４００では、裏右装飾体３４１０が、最も右側へ移動した退避位置の状態となっており、センター役物２５００における右辺側において一部がセンター役物２５００の枠内を通して見えている。

【０９０７】

また、通常の状態において、裏上可動演出ユニット３５００では、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０が最も上昇した上昇位置の状態となっていると共に、裏上回転ベースユニット３５７０が水平に延びた水平位置の状態となっている。また、裏上第一装飾体ユニット３５１０を中央にして、裏上第二装飾体ユニット３５３０が右側に、裏上第三装飾体ユニット３５５０が左側に並んでいる。そして、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２は、夫々第一開閉バネ３５２３、第二開閉バネ３５４３、及び第三開閉バネ３５６３の付勢力によって夫々互いに当接した閉位置の状態となっており、夫々において所定の文字の装飾を形成している。裏上可動演出ユニット３５００は、左から右へ裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０が、並んだ状態となることで、三つの文字によりパチンコ機１のコンセプトに沿った所定のロゴを横書きで見せることができ、遊技盤側演出表示装置１６００の上部よりも上側でセンター役物２５００の枠内の上部において、所定のロゴが遊技者側（前方）から見えている。

【０９０８】

遊技盤５は、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、裏ユニット３０００の裏前飾りユニット３１００、裏中可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、裏上可動演出ユニット３５００、及び裏下可動演出ユニット３７００が、所定の演出（可動演出や発光演出）を行う。

【０９０９】

具体的には、例えば、裏ユニット３０００の裏中可動演出ユニット３２００を用いた演出として、裏中駆動モータ３２５４の駆動により、互いに左右へ離反している裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０とを、互いに接近するように移動させて、略中央の出現位置に移動させる（図１７０を参照）。これにより、裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０とが、遊技盤側演出表示装置１６００の前面側の略中央に位置した状態となり、裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０との装飾が合体した状態となる。この出現位置の状態では、裏中左装飾体３２１０と裏中右装飾体３２２０とが、遊技盤側演出表示装置１６００に表示されている演出画像を遮ることとなり、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、合体することで一つの大きな装飾（桜の花弁を模した装飾）を形成するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【０９１０】

また、裏ユニット３０００の裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００を用いた演出として、例えば、裏左移動駆動ユニット３３５０及び裏右移動駆動ユニット３４５０の裏左移動駆動モータ３３５２及び裏右移動駆動モータ３４５２を駆動することで、裏左回転駆動ユニット３３３０裏右回転駆動ユニット３４３０を介して裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０を左右方向の中央側の出現位置に移動させる。これにより、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０が、枠状のセンター役物２５００において、左辺側及び右辺側に接近した中央寄りの位置の状態となる。換言すると、センター役物２５００の枠内において、遊技盤側演出表示装置１６００の前面における左右両

端付近に位置している（図１７１乃至図１７３を参照）。
【０９１１】
これにより、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０が見えるようになることで、遊技者を驚かせることができ、遊技者の関心を裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０に引付けさせることができる。この際に、裏左装飾基板３３３４及び裏右装飾基板３４３４のＬＥＤを発光させることで、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０を発光装飾させることができ、遊技者の関心を更に引付けさせることができる。また、この状態では、裏左装飾体３３１０と裏右装飾体３４１０との間から遊技盤側演出表示装置１６００の表示画面が見えるため、演出画像とコラボレートした演出も楽しませることができる。
【０９１２】
そして、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０を出現位置に移動させた状態で、裏左回転駆動ユニット３３３０及び裏右回転駆動ユニット３４３０の図示しない裏左回転駆動モータ及び裏右回転駆動モータにより、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０を上下に延びた軸線周りにグルグルと回転させることで、遊技者を楽しませることができる。回転させている裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０を停止させる際に、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０の第一装飾面３３１１，３４１１が前方を向くように停止させたり（図１７１を参照）、第二装飾面３３１２，３４１２が前方を向くように停止させたり（図１７２を参照）、第三装飾面３３１３，３４１３が前方を向くように停止させたり（図１７３を参照）することができる。裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０の回転を停止させる向きによって装飾が変わるため、遊技者に変化する装飾を楽しませることができると共に、所望の装飾で裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０が停止するか否かでハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者の興趣を高めさせることができる。
【０９１３】
なお、裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００は、夫々独立して可動させることができるため、何れか一方のみを可動させるようにしても良いし、裏左装飾体３３１０及び裏右装飾体３４１０の回転を停止させた時に、前方を向いている装飾面が異なっているようにしても良い。これにより、より多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。
【０９１４】
裏ユニット３０００の裏上可動演出ユニット３５００を用いた演出として、例えば、通常の位置の状態において、裏上回転ベースユニット３５７０を水平位置とすると共に、作用レバー３５８６を作用位置とした状態で、裏上昇降駆動モータ３６５４により昇降駆動ピン３６５２ｂを、正面視反時計回りの方向へ公転させると、昇降駆動ピン３６５２ｂの公転に伴って可動側ユニット３６１０が下方へ移動し、可動側ユニット３６１０に取付けられている裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が下降する。そして、昇降駆動ピン３６５２ｂが、最も下降した位置に到達して公転が停止すると、可動側ユニット３６１０を介して裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、左右（水平）に並んで下降位置に位置することとなる（図１７４を参照）。
【０９１５】
この状態では、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、センター役物２５００の枠内における上下方向中央から上寄りに位置し、遊技盤側演出表示装置１６００の前面の上半分を覆ったような状態となる。これにより、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の三つで形成される所定のロゴが、遊技盤側演出表示装置１６００に表示されている演出画像の一部を遮るように中央側へ下降するため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。
【０９１６】

図１７４の状態で、作用レバー駆動モータ３５８３により作用レバーピニオンギア３５８５を正面視時計回りの方向へ回転させて作用レバー３５８６を作用位置からが右方の非作用位置へ移動させると、第一取付軸部材３５２５の水平ロック孔３５２５ａに挿入されていたロック片３５８６ｄが、水平ロック孔３５２５ａから抜けた状態となり、裏上回転ベースユニット３５７０の回転ロックが解除された状態となる。

【０９１７】

作用レバー３５８６による裏上回転ベースユニット３５７０の回転ロックを解除した状態で、可動側ユニット３６１０の裏上回転駆動モータ３６１２により回転ベース駆動ギア３６１４を正面視反時計周りの方向へ回転させると、回転ベース駆動ギア３６１４と噛合している回転ベース被駆動ギア３５７２を介して、裏上回転ベースユニット３５７０が、中央リンクギア３６１１ｂを中心として正面視時計回りの方向へ回転することとなる。この際に、裏上第一装飾体ユニット３５１０は、裏上回転ベースユニット３５７０の回転中心である第一孔３５７１ａを貫通して可動側ユニット３６１０の前面に取付けられているため、裏上回転ベースユニット３５７０と一緒に回転することはない。

【０９１８】

裏上回転ベースユニット３５７０が、中央リンクギア３６１１ｂを中心にして回転すると、中央リンクギア３６１１ｂと噛合している第二用第三リンクギア３５７７及び第三用第三リンクギア３５８２が、中央リンクギア３６１１ｂの周りを公転しながら自転し、それらの回転が第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８に伝達され、第二用駆動リンクギア部材３５７３及び第三用駆動リンクギア部材３５７８が、裏上回転ベース３５７１に対して反時計回りの方向へ夫々回転する。従って、裏上回転ベース３５７１を回転させると、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、その上下の向きを一定に保ったままの状態で、裏上第一装飾体ユニット３５１０の周りを公転する（図１７５及び図１７６を参照）。

【０９１９】

この裏上回転ベースユニット３５７０の回転により、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、裏上第一装飾体ユニット３５１０の周りを公転する際に、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の上下の向きが保たれていることから、三つの装飾の文字による所定のロゴを遊技者に対して十分に認識させることができるため、横書きのロゴが縦書きのロゴに変化する動きを楽しませることができる。

【０９２０】

裏上回転ベースユニット３５７０が、水平位置から正面視時計回りの方向へ９０度回転すると、垂直位置に到達しその回転が停止する。この状態では、上から下へ順に、裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０が並んだ状態となる（図１７６を参照）。これにより、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０によって形成されるロゴが、センター役物２５００の枠内の中央において、その枠内の略全高に亘って縦断するように見えるため、遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者の興趣を高めさせることができる。

【０９２１】

そして、裏上回転ベースユニット３５７０を、垂直位置へ回転させて、裏上第三装飾体ユニット３５５０、裏上第一装飾体ユニット３５１０、及び裏上第二装飾体ユニット３５３０を、上下に並べた状態で、作用レバー駆動モータ３５８３により作用レバーピニオンギア３５８５を正面視反時計回りの方向へ回転させて、非作用位置の作用レバー３５８６を上方へ移動させて作用位置へ移動させると、作用レバー３５８６のロック片３５８６ｄが、第一取付軸部材３５２５の垂直ロック孔３５２５ｂに挿入されることとなり、裏上回転ベースユニット３５７０が、垂直位置で回転ロックされた状態となる。

【０９２２】

この作用レバー３５８６が、非作用位置から作用位置へ移動（上昇）する時に、作用レ

バー３５８６の第一用作用部３５８６ｆ、第二用作用部３５８６ｉ、及び第三用作用部３５８６ｋ、の夫々の先端（上端）が、裏上第一装飾体ユニット３５１０における第一開閉アーム３５２１の受ボス３５２１ｂ、裏上第二装飾体ユニット３５３０における第二開閉アーム３５４１の受ボス３５４１ｂ、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０における第三開閉アーム３５６１の下端、に夫々下方から当接し、第一開閉アーム３５２１、第二開閉アーム３５４１、及び第三開閉アーム３５６１、を夫々上方へ移動させる。従って、閉位置の状態となっていた裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２、が夫々互いに離反するように左右方向外方へ移動して開位置の状態となる（図１７７を参照）。

【０９２３】

これにより、遊技領域５ａ内の左右中央を縦断するように、第三左可動装飾レンズ３５５１と第三右可動装飾レンズ３５５２との間から臨んだ第三固定装飾レンズ３５５３と、第一左可動装飾レンズ３５１１と第一右可動装飾レンズ３５１２との間から臨んだ第一固定装飾レンズ３５１３と、第二左可動装飾レンズ３５３１と第二右可動装飾レンズ３５３２との間から臨んだ第二固定装飾レンズ３５３３と、裏前飾りユニット３１００の裏前下中央レンズ３１３１とが、上から下へに一直線に並んだ状態となり、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【０９２４】

そして、この状態で、裏上第三装飾基板３５５４、裏上第一装飾基板３５１４、裏上第二装飾基板３５３４、及び裏前下装飾基板３１３４、に実装されているＬＥＤを適宜発光させて、第三固定装飾レンズ３５５３、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び裏前下中央レンズ３１３１を、順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、上方や下方に誘導させることができ、遊技者を楽しませることができる。なお、第三固定装飾レンズ３５５３、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び裏前下中央レンズ３１３１は、演出操作ユニット４００における扉枠側演出表示装置４６０と略同じ幅に形成されているため、第三固定装飾レンズ３５５３、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、裏前下中央レンズ３１３１、及び扉枠側演出表示装置４６０により、パチンコ機１の左右方向中央を縦断するような発光演出を遊技者に見せることができる（図１８１を参照）。

【０９２５】

裏ユニット３０００の裏下可動演出ユニット３７００を用いた演出として、例えば、通常の状態から、裏下駆動モータ３７５４により裏下可動装飾体ユニット３７１０を第一昇降位置へ移動させると、裏下装飾体本体３７１１がセンター役物２５００におけるステージ２５３０の上側に位置した状態となり、センター役物２５００の枠内を通して見えることとなる。これにより、裏下装飾体本体３７１１が見えるようになることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができる（図１７８を参照）。この第一昇降位置の状態では、裏下装飾体本体３７１１の複数の門が、複数の裏下扉部材３７１２によって閉じられている。

【０９２６】

そして、裏下可動装飾体ユニット３７１０が、第一昇降位置から第二昇降位置へ僅かに上昇すると、複数の裏下扉部材３７１２がヒンジ回転して裏下装飾体本体３７１１の複数の門が開いた状態となる（図１７９を参照）。この門（裏下扉部材３７１２）が開く動作をすることで、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。そして、この状態で、裏下装飾基板３７１９のＬＥＤを発光させて開いた門を発光装飾させると、遊技者に対してチャンスの到来を確信させることができ、遊技者の興趣をより高めさせることができる。

【０９２７】

このように、本実施形態の遊技盤５では、裏前飾りユニット３１００、裏中可動演出ユ

ニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、裏上可動演出ユニット３５００、及び裏下可動演出ユニット３７００、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【０９２８】

［５－１１．遊技盤における異なる実施形態］

次に、遊技盤５における上記とは異なる実施形態について、図１８０を参照して詳細に説明する。図１８０は、遊技盤の別の実施形態として、裏ユニットの裏上可動演出ユニットに、センター役物のステージや裏前飾りユニットの裏前下中央レンズを発光装飾させるためのＬＥＤを備えた例を示す説明図である。図１８０の実施形態は、裏上可動演出ユニット３５００における裏上第二装飾体ユニット３５３０の裏上第二装飾基板３５３４に、下方へ光を照射可能な複数の下部ＬＥＤ３５３４ａを備えるようにしたものである。

【０９２９】

これにより、裏上回転ベースユニット３５７０を垂直位置に回転させることで、裏上第二装飾体ユニット３５３０の下端が、センター役物２５００のステージ２５３０の中央（チャンス入口２５３５付近）や、裏前飾りユニット３１００の裏前下中央レンズ３１３１の上端と、接近した状態となり、この状態で下部ＬＥＤ３５３４ａを発光させることで、ステージ２５３０の中央や、裏前下中央レンズ３１３１の上部を発光装飾させることができる。従って、後方にＬＥＤを備えた装飾基板を配置することができない部位でも、外側（ここでは上側）から光を供給して発光装飾させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な発光演出を行うことができる。

【０９３０】

［５－１２．扉枠と遊技盤とによる演出］

次に、扉枠３と遊技盤５とを用いた演出について、主に図１８１を参照して説明する。図１８１は、遊技盤の裏ユニットにおける裏上可動演出ユニットにおいて、裏上回転ベースユニットを垂直位置の状態とすると共に、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態として夫々の第一固定装飾レンズ、第二固定装飾レンズ、及び第三固定装飾レンズを視認可能とした状態で示すパチンコ機の正面図である。

【０９３１】

扉枠３と遊技盤５とによる演出として、例えば、扉枠３における演出操作ユニット４００と、遊技盤５における裏ユニット３０００の裏上可動演出ユニット３５００と、を用いた演出がある。具体的には、遊技盤５の裏ユニット３０００における裏上可動演出ユニット３５００において、裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０を下降位置に移動させた状態で、裏上回転ベースユニット３５７０を垂直位置の状態に回転し、作用レバー３５８６を非作用位置から作用位置へ移動させて、裏上第一装飾体ユニットの第一左可動装飾レンズ及び第一右可動装飾レンズ、裏上第二装飾体ユニットの第二左可動装飾レンズ及び第二右可動装飾レンズ、及び裏上第三装飾体ユニットの第三左可動装飾レンズ及び第三右可動装飾レンズ、を夫々開位置の状態とする。

【０９３２】

この状態では、図１８１に示すように、パチンコ機１の左右方向中央において、略同じ幅に形成された、第三固定装飾レンズ３５５３、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、裏前下中央レンズ３１３１、及び扉枠側演出表示装置４６０が、上から下へ並んだ状態となり、遊技者を驚かせて強いインパクトを与えることができる。そして、この状態で、裏上第三装飾基板３５５４、裏上第一装飾基板３５１４、裏上第二装飾基板３５３４、及び裏前下装飾基板３１３４により、第三固定装飾レンズ３５５３、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び裏前下中央レンズ３１３１を、上から順次発光装飾させることで、遊技者の視線を、扉枠３における演出操作ユニット４００の扉枠側演出表示装置４６０へ誘導させることができ、扉枠側演出表示装置４

６０に表示された演出画像を楽しませることができると共に、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を操作させて、遊技者参加型演出を確実に楽しませることができる。

【０９３３】

［６．本実施形態の特徴的な作用効果］

このように、本実施形態のパチンコ機１によると、通常の状態では、裏ユニット３０００の裏上可動演出ユニット３５００における裏上昇降ユニット３６００の可動側ユニット３６１０（可動側ベース３６１１）を、遊技領域５ａの正面視中央から離れた上方の上方位置に位置させると共に、可動側ベース３６１１に回転可能に取付けられている裏上回転ベースユニット３５７０を水平位置に位置させた状態とし、裏上回転ベースユニット３５７０の前面に備えられている裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、左右方向へ列設された状態で視認可能となっている。この際に、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０では、夫々一対を一組とした、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が、夫々第一開閉バネ３５２３、第二開閉バネ３５４３、及び第三開閉バネ３５６３の付勢力によって閉位置に位置しているため、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２によって夫々視認不能に隠された状態となっている。このため、各裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０では、閉位置の状態の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２によって形成される文字による所定のロゴの装飾のみを遊技者に楽しませることができる。

【０９３４】

そして、可動側ユニット３６１０を、上昇位置から下降位置へ移動させると、可動側ユニット３６１０に取付けられている裏上回転ベースユニット３５７０や、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が、遊技領域５ａの正面視中央に接近した状態となるため、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０を目立たせることができ、遊技者の関心を裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に強く引付けさせることができる。

【０９３５】

裏上回転ベースユニット３５７０が上昇位置の時や、上昇位置から下降位置へ移動させる時に、作用レバー３５８６を裏上回転ベースユニット３５７０における裏上回転ベース３５７１に沿って非作用位置から上方の作用位置へ移動させて、各裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に、作用レバー３５８６に第一作用を及ぼすと、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０と裏上回転ベースユニット３５７０との相対的な回転が規制（ロック）された状態となり、振動や慣性力等によって、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が揺れ動いたり移動したりするのを防止することができ、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の装飾を見栄え良く楽しませることができる。

【０９３６】

この裏上回転ベースユニット３５７０を下降位置へ移動させると共に、作用レバー３５８６を非作用位置へ移動させた状態で、裏上回転ベースユニット３５７０を前後に延びた軸線周りに回転させて、水平位置から垂直位置へ回転移動させると、裏上回転ベースユニット３５７０の長手方向両端に備えられている裏上第二装飾体ユニット３５３０と裏上第三装飾体ユニット３５５０とが、上下の向きを保ったままで裏上回転ベースユニット３５７０に対して夫々相対的に回転すると共に、裏上第一装飾体ユニット３５１０の周りを公転し、水平位置の時とは異なる垂直方向へ列設された状態となり、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０の並んだ方向が変化する演出を遊技者に見せて楽しませることができる。

【０９３７】

裏上回転ベースユニット３５７０を垂直位置へ回転させた状態で、作用レバー３５８６を非作用位置から作用位置へ裏上回転ベース３５７１に沿って上方へ移動させて、各裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に第二作用を及ぼすようにすると、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０では、第一開閉バネ３５２３、第二開閉バネ３５４３、及び第三開閉バネ３５６３の付勢力に抗して第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が閉位置から開位置へ移動し、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２の間から第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となるため、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が見えるようになることで遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができると共に、遊技者に対し、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が開いて、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となる演出にプレミアム感を付与することができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【０９３８】

従って、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の相対的な回転位置（水平位置又は垂直位置）によって、作用位置と非作用位置との間で移動する作用レバー３５８６により、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に回転ロック（第一作用）と開位置への移動（第二作用）の別の作用を及ぼして異なる演出を遊技者に見せることができ、多彩な演出により遊技者を飽き難くさせることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９３９】

また、上述したように、通常の状態から、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０における第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が開位置へ移動して、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となるまでに、多段階の動き（演出）があることから、各段階において、次の段階に移るか否かで遊技者をドキドキ・ワクワクさせることができるため、遊技者に裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０による一連の動き（演出）を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９４０】
更に、裏上回転ベースユニット３５７０を、前後に延びた軸線周りに回転させることで、水平位置と垂直位置との間で回転して移動するようにしていることから、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に対する裏上回転ベースユニット３５７０の向きが変化することとなるため、水平位置と垂直位置との時では、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に対して作用レバー３５８６の向きも異なることとなり、作用レバー３５８６を非作用位置から作用位置へ移動させた時に、水平位置と垂直位置とでは作用レバー３５８６から裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に作用する向き（方向）が異なることとなる。従って、水平位置と垂直位置とでは第一作用と第二作用とが異なる方向へ作用することから、第一作用と第二作用とで裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に及ぼされる作用を容易に異ならせることができるため、上述したように、回転ロックする第一作用と、開位置へ移動させる第二作用とを作用させる機構を比較的簡単な構成とすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を具現化し易くすることができる。
【０９４１】
また、非作用位置と作用位置との間で作用レバー３５８６を裏上回転ベースユニット３５７０の裏上回転ベース３５７１に沿って直線的に移動（スライド）させるようにしているため、作用レバー３５８６を回転させる場合と比較して、非作用位置と作用位置との間の距離を長くし易くすることができ、作用レバー３５８６により裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に十分な作用を及ぼして所望の演出を行い易くすることができる。
【０９４２】
また、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０において、第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２を、第一開閉バネ３５２３、第二開閉バネ３５４３、及び第三開閉バネ３５６３により閉位置へ付勢するようにしていることから、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が移動したり振動したりすることで、意図せずに第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２が開位置へ移動して、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３が視認可能となるのを阻止することができる。これにより、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０に第二作用が及ぼされた時のみ第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２を移動させて、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３を視認可能とすることができ、第一固定装飾レンズ３５１３、第二固定装飾レンズ３５３３、及び第三固定装飾レンズ３５５３を視認可能とする演出効果をより高めさせることができる。
【０９４３】
更に、可動側ユニット３６１０により裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０や、裏上回転ベースユニット３５７０を、遊技領域５ａの正面視中央に近い下降位置へ移動させることができることから、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０や、裏上回転ベースユニット３５７０を下降位置へ移動させると、裏上第二装飾体ユニット３５３０、裏上第三装飾体ユニット３５５０、及び裏上回転ベ

ースユニット３５７０を回転させるためのスペースが確保し易くなり、水平位置と垂直位置との間で回転移動する裏上回転ベースユニット３５７０の移動範囲をより大きくすることができるため、裏上第二装飾体ユニット３５３０及び裏上第三装飾体ユニット３５５０が大きく公転することで遊技者を驚かせてより楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９４４】

また、上記の実施形態では、裏上可動演出ユニット３５００において、裏上回転ベースユニット３５７０が垂直位置の時に、非作用位置から作用位置へ移動させることで作用レバー３５８６により及ぼされる作用（第二作用）として、裏上第一装飾体ユニット３５１０の第一左可動装飾レンズ３５１１及び第一右可動装飾レンズ３５１２、裏上第二装飾体ユニット３５３０の第二左可動装飾レンズ３５３１及び第二右可動装飾レンズ３５３２、及び、裏上第三装飾体ユニット３５５０の第三左可動装飾レンズ３５５１及び第三右可動装飾レンズ３５５２を、閉位置から開位置へ移動させるものを示したが、これに限定するものではなく、例えば、それらを開位置から閉位置へ移動させるようにしたり、裏上第一装飾体ユニット３５１０、裏上第二装飾体ユニット３５３０、及び裏上第三装飾体ユニット３５５０を前後に延びた軸周りに回転させるようにしたりしても良い。

【０９４５】

［７．主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板］

次に、パチンコ機１の各種制御を行う制御基板について、図１８２～図１８７を参照して説明する。図１８２は主制御基板、払出制御基板及び周辺制御基板のブロック図であり、図１８３は図１８２のつづきを示すブロック図であり、図１８４は主基板を構成する払出制御基板とＣＲユニット及び度数表示板との電気的な接続を中継する遊技球等貸出装置接続端子板に入出力される各種検出信号の概略図であり、図１８５は図１８２のつづきを示すブロック図であり、図１８６は周辺制御ＭＰＵの概略を示すブロック図であり、図１８７は液晶表示制御部における音源内蔵ＶＤＰ周辺のブロック図である。

【０９４６】

パチンコ機１の制御構成は、図１２３に示すように、主制御基板１３１０、払出制御基板９５１及び周辺制御基板１５１０から主として構成されており、各種制御が分担されている。まず、主制御基板１３１０について説明し、続いて払出制御基板９５１、電源基板９３１、そして周辺制御基板１５１０について説明する。

【０９４７】

［７－１．主制御基板］

遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、図１８２に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに遊技動作を制御するメイン制御プログラムなどの各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路１３１０ｂと、各種信号を外部の基板等へ出力するための主制御出力回路１３１０ｃと、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄと、予め定めた電圧の停電又は瞬停の兆候を監視する停電監視回路１３１０ｅと、を主として備えている。

【０９４８】

主制御ＭＰＵ１３１０ａには、その内蔵されているＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）や、その内蔵されているＲＯＭ（以下、「主制御内蔵ＲＯＭ」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマ１３１０ａｆ（以下、「主制御内蔵ＷＤＴ１３１０ａｆ」と記載する。）や不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【０９４９】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭが内蔵されている。この不揮発性のＲＡＭには、主制御ＭＰＵ１３１０ａを製造したメーカによって個体を識別するための

ユニークな符号（世界で１つしか存在しない符号）が付された固有のＩＤコードが予め記憶されている。この一度付されたＩＤコードは、不揮発性のＲＡＭに記憶されるため、外部装置を用いても書き換えることができない。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出して参照することができるようになっている。

【０９５０】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための大当り判定用乱数をハードウェアにより更新するハード乱数回路１３１０ａｎ（以下、「主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎ」と記載する。）が内蔵されている。この主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎは、予め定めた数値範囲（本実施形態では、最小値として値０～最大値として値３２７６７という数値範囲が予め設定されている。）内において乱数を生成し、初期値として予め定めた値が固定されておらず（つまり、初期値が固定されておらず）、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされるごとに異なる値がセットされるように回路構成されている。具体的には、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎは、主制御ＭＰＵ１３１０ａがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号（後述する主制御水晶発振器から出力されるクロック信号）に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが繰り返し行い、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎから値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路１３１０ａｎが抽出した値を大当り判定用乱数としてセットするようになっている。

【０９５１】

主制御入力回路１３１０ｂは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、主制御入力回路１３１０ｂは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、主制御入力回路１３１０ｂは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０９５２】

主制御出力回路１３１０ｃは、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂと、から構成されている。リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂは、後述する主制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する主制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成さ

れている。
【０９５３】
図１１４に示した、第一始動口２００２に入球した遊技球を検出する第一始動口センサ３１１２、第二始動口２００４に入球した遊技球を検出する第二始動口センサ４００４、及び一般入賞口２００１に入球した遊技球を検出する一般入賞口センサ３１１１からの検出信号や停電監視回路１３１０ｅからの信号は、主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。また、図１１４に示した、ゲート部２００３を通過した遊技球を検出するゲートセンサ２４０１、第一大入賞口２００５に入球した遊技球を検出する第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口２００６に入球した遊技球を検出する第二大入賞口センサ２４０２、及び図９に示した裏ユニット３０００に取り付けられて磁石を用いた不正行為を検出する磁気検出センサ４０２４からの検出信号は、遊技盤５に取り付けられたパネル中継基板３０３２、そして主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。
【０９５４】
主制御ＭＰＵ１３１０ａは、これらの各スイッチからの検出信号に基づいて、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄに制御信号を出力し、主制御ソレノイド駆動回路１３１０ｄからパネル中継基板３０３２を介して始動口ソレノイド２１０７、第一アタッカソレノイド２１０８、第二アタッカソレノイド２１０９及び振分ソレノイド２１１０に駆動信号を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに駆動信号を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａからパネル中継基板３０３２、そして機能表示ユニット１４００を介して第一特別図柄表示器１４０３、第二特別図柄表示器１４０５、第一特別保留数表示器１４０４、第二特別保留数表示器１４０６、普通図柄表示器１４０２、状態表示器１４０１、及びラウンド表示器１４０７に駆動信号を出力したりする。
【０９５５】
また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから払出制御基板９５１に遊技に関する各種情報（遊技情報）を出力したり、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに信号（停電クリア信号）を出力することにより、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから停電監視回路１３１０ｅに信号（停電クリア信号）を出力したりする。
【０９５６】
なお、本実施形態おいて、第一始動口センサ３１１２、第二始動口センサ４００４、ゲートセンサ２４０１、第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口センサ２４０２、第一受入口センサ２４３４及び第二受入口センサ２４３５には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ３１１１には、接触タイプのＯＮ／ＯＦＦ動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球が第一始動口２００２や第二始動口２００４に頻繁に入球するし、ゲート部２００３を頻繁に通過するため、第一始動口センサ３１１２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ２４０１による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ３１１２、第二始動口センサ４００４、及びゲートセンサ２４０１には、寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技者にとって有利となる大当り遊技状態が発生すると、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６が開放されて遊技球が頻繁に入球するし、第二大入賞口２００６に入球した遊技球が第一受入口２４３１又は第二受入口２４３２の何れかに振り分けられるため、第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口センサ２４０２、第一受入口センサ２４３４及び第二受入口センサ２４３５による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、

第一大入賞口センサ４００５、第二大入賞口センサ２４０２、第一受入口センサ２４３４及び第二受入口センサ２４３５にも、寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球が頻繁に入球しない一般入賞口２００１には、一般入賞口センサ３１１１による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ３１１１には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。

【０９５７】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに払い出しに関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから払出制御基板９５１に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ＡＣＫ信号）を主制御基板１３１０に出力する。この信号（払主ＡＣＫ信号）が主制御入力回路１３１０ｂを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

【０９５８】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からのパチンコ機１の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして主制御入力回路１３１０ｂで受信することにより、主制御入力回路１３１０ｂからその所定のシリアル入力ポートの入力端子で各種コマンドをシリアルデータとして受信する。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、払出制御基板９５１からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ＡＣＫ信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａに出力し、リセット機能付き主制御出力回路１３１０ｃａから払出制御基板９５１に信号（主払ＡＣＫ信号）を出力する。

【０９５９】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その所定のシリアル出力ポートの出力端子からリセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂに遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機１の状態に関する各種コマンドをシリアルデータとして送信することにより、リセット機能なし主制御出力回路１３１０ｃｂから周辺制御基板１５１０に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。

【０９６０】

ここで、周辺制御基板１５１０へ各種コマンドをシリアルデータとして送信する主周シリアル送信ポートについて簡単に説明する。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、主制御ＣＰＵコア１３１０ａａを中心として構成されており、主制御内蔵ＲＡＭのほかに、主制御各種シリアルＩ／Ｏポートの１つである主周シリアル送信ポート１３１０ａｅ等がバス１３１０ａｈを介して回路接続されている（図１３３を参照）。主周シリアル送信ポート１３１０ａｅは、周辺制御基板１５１０へ各種コマンドを主周シリアルデータとして送信するものであり、送信シフトレジスタ１３１０ａｅａ、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂ、シリアル管理部１３１０ａｅｃ等を主として構成されている（図１３３を参照）。主制御ＣＰＵコア１３１０ａａは、コマンドを送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットして送信開始信号をシリアル管理部１３１０ａｅｃに出力すると、このシリアル管理部１３１０ａｅｃが送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂにセットされたコマンドを送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂから送信シフトレジスタ１３１０ａｅａに転送して主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信開始する。本実施形態では、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂの記憶容量として３２バイトを有している。主制御ＣＰＵコア１３１０ａａは、送信バッファレジスタ１３１０ａｅｂに複数のコマンドをセットした後にシリアル管理部１３１０ａｅｃに送信開始信号を出力することによって複数のコマンドを連続的に周辺制御基板１５１０に送信している。

【０９６１】

なお、主制御基板１３１０に各種電圧を供給する電源基板９３１は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二

重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）ＢＣ０（図１２９を参照）を備えている。このキャパシタＢＣ０により主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を主制御内蔵ＲＡＭに記憶することができるようになっている。主制御内蔵ＲＡＭに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に後述する払出制御基板９５１の操作スイッチ９５４が操作されると、操作スイッチ９５４からの操作信号（ＲＡＭクリア信号）が払出制御基板９５１から出力され、主制御入力回路１３１０ｂを介して、主制御ＭＰＵ１３１０ａの所定の入力ポートの入力端子に入力され、これを契機として、主制御ＭＰＵ１３１０ａによって主制御内蔵ＲＡＭから完全に消去（クリア）されるようになっている。

【０９６２】

［７－２．払出制御基板］

遊技球の払い出し等を制御する払出制御基板９５１は、図１８３に示すように、払い出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２と、各種機能を兼用する操作スイッチ９５４と、パチンコ機１の状態を表示するエラーＬＥＤ表示器８６０ｂと、を備えている。また、ＲＡＭクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ９５４は、操作されることによって出力された検出信号に基づいて、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭ（以下、「主制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）に記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリア信号を出力する。

【０９６３】

［７－２－１．払出制御部］

払い出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２は、図１８３に示すように、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行される遊技媒体の払出動作を制御する払出制御プログラムを含む各種制御プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａと、払い出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路９５２ｂと、各種信号を外部の基板等へ出力するための払出制御出力回路９５２ｃと、図１０３に示した払出装置８３０の払出モータ８３４に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路９５２ｄと、ＣＲユニット６との各種信号をやり取りするためのＣＲユニット入出力回路９５２ｅと、を備えている。払出制御ＭＰＵ９５２ａには、その内蔵されているＲＡＭ（以下、「払出制御内蔵ＲＡＭ」と記載する。）や、その内蔵されているＲＯＭ（以下、「払出制御内蔵ＲＯＭ」と記載する。）のほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【０９６４】

払出制御プログラムは、払出制御ＭＰＵ９５２ａの制御によって、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドをそれぞれ払出制御入力回路９５２ｂを介して主払シリアルデータ受信信号としてシリアル方式でシリアルデータを受信する。また、払出制御プログラムは、遊技球の払出動作にエラーが発生したことを契機として枠状態１コマンド（第１のエラー発生コマンドに相当）を生成したり、エラー解除部としての操作スイッチ９５４の操作信号（検出信号）に基づいて１６ビット（２バイト）のエラー解除ナビコマンド（第１のエラー解除コマンドに相当）を作成し、これらエラー発生コマンド及びエラー解除ナビコマンドをそれぞれ、払主シリアルデータ送信信号としてシリアル方式のシリアルデータとして、払出制御Ｉ／Ｏポート９５２ｂを介して主制御基板１３１０の受信ポートに対して出力する（コマンド送信手段）。また、この払出制御プログラムは、電源投入時から所定時間が経過した後、即ち、払出制御部メイン処理が実行されたり払出制御部タイマ割り込み処理が実行されて払出制御が開始された後に、その払出動作に関してエラーが発生した場合、操作スイッチ９５４の操作に伴って発生した検出信号に基づいて当該エラーを解除するとともに当該エラーに応じた警告情報の出力などを停止させる（エラー解除制御手段）。

【０９６５】

また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ６１８からその開放操作に伴う検出信号（扉枠開放検出信号）が入力されると扉枠開放コマンドの（第１の扉開放コマンド）を出力するとともに、本体枠開放スイッチ６１９からその開放操作に伴う検出信号（本体枠開放検出信号）が入力されると本体枠開放コマンド（第１の本体枠開放コマンド）を出力する。一方、また、この払出制御プログラムは、扉枠開放スイッチ６１８からその閉鎖操作に伴う検出信号（扉枠閉鎖検出信号）が入力されると扉枠閉鎖コマンド（第１の扉枠閉鎖コマンド）のを出力するとともに、本体枠開放スイッチ６１９からその閉鎖操作に伴う検出信号（本体枠閉鎖検出信号）が入力されると本体枠閉鎖コマンド（第１の本体枠閉鎖コマンド）を出力する。

【０９６６】

払出制御入力回路９５２ｂは、その各種入力端子に各種検出スイッチからの検出信号がそれぞれ入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられず、リセット機能を有していない。このため、払出制御入力回路９５２ｂは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、払出制御入力回路９５２ｂは、その各種入力端子に入力されている各種検出スイッチからの検出信号に基づく情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく各種信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０９６７】

払出制御出力回路９５２ｃは、エミッタ端子がグランド（ＧＮＤ）と接地されたオープンコレクタ出力タイプとして回路構成されており、その各種入力端子に各種信号を外部の基板等へ出力するための各種信号が入力された情報を強制的にリセットするためのリセット端子が設けられるリセット機能を有するリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａと、リセット端子が設けられていないリセット機能を有しないリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂと、から構成されている。リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力される回路として構成されている。つまり、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされることによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から全く出力されない回路として構成されている。これに対して、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂは、後述する払出制御システムリセットからのシステムリセット信号が入力されない回路として構成されている。つまり、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂは、その各種入力端子に入力されている各種信号を外部の基板等へ出力するための情報が後述する払出制御システムリセットによりリセットされないことによって、その情報に基づく信号がその各種出力端子から出力される回路として構成されている。

【０９６８】

払出ユニット８００の球誘導ユニット８２０の供給通路内の遊技球の球切れを検知する球切れ検知センサ８２７、及び払出装置８３０の払出出口８３１ｂ，８３２ｂから放出される遊技球を検知する払出検知センサ８４２、払出羽根８３９の回転を検知する羽根回転検知センサ８４０からの検出信号は、払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。なお、後述の説明上、羽根回転検知センサ８４０を、この明細書において単に回転検知センサ８４０ということにする。

【０９６９】

また、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチ６１８、及び外枠２に対する本体枠４の開放を検出する本体枠開放スイッチ６１９からの検出信号は、払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【０９７０】

また、図１に示したファールカバーユニット２７０の収容空間が貯留された遊技球で満タンであるか否かを検出する満タン検知センサ２７９からの検出信号は、まずハンドル中継端子板３１５、電源基板９３１、そして払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されている。

【０９７１】

払出制御ＭＰＵ９５２ａは、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを、払出制御入力回路９５２ｂを介して、そのシリアル入力ポートの入力端子でシリアルデータ方式で受信したり、操作スイッチ９５４の操作信号（検出信号）を払出制御入力回路９５２ｂを介して主制御基板１３１０に対して出力する。払出制御ＭＰＵ９５２ａは、主制御基板１３１０からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（払主ＡＣＫ信号）を、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから主制御基板１３１０に信号（払主ＡＣＫ信号）を出力する。

【０９７２】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、そのシリアル出力ポートの出力端子から、パチンコ機１の状態を示すための各種コマンドをシリアルデータとしてリセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂに送信することにより、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから主制御基板１３１０に各種コマンドをシリアルデータとして送信する。

主制御基板１３１０は、払出制御基板９５１からの各種コマンドをシリアルデータとして正常受信完了すると、その旨を伝える信号（主払ＡＣＫ信号）を払出制御基板９５１に出力する。この信号（主払ＡＣＫ信号）が払出制御入力回路９５２ｂを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。

【０９７３】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、その所定の出力ポートの出力端子から、払出モータ８３４を駆動するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから駆動信号を払出モータ駆動回路９５２ｄに出力し、払出モータ駆動回路９５２ｄから駆動信号を払出モータ８３４に出力したり、その所定の出力ポートの出力端子から、パチンコ機１の状態をエラーＬＥＤ表示器８６０ｂに表示するための駆動信号をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから駆動信号をエラーＬＥＤ表示器８６０ｂに出力したりする。

【０９７４】

エラーＬＥＤ表示器８６０ｂは、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機１の状態を表示している。エラーＬＥＤ表示器８６０ｂが表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「－」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「０」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間において電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「１」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切れ検知センサ８２７からの検出信号に基づいて払出装置８３０の供給通路内に遊技球がない旨）を報知し、数字「２」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、回転検知センサ８４０からの検出信号に基づいて払出装置８３０の供給通路と連通する振分空間の入り口において払出回転体と遊技球とがその入り口近傍でかみ合って払出回転体が回転困難となっている旨）を報知し、数字「３」が表示されているときには「払出検知センサエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ８４２からの検出信号に基づいて払出検知センサ８４２に不具合が生じている旨）を報知し、数字「５」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払い出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「６」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ２７９からの検出信号に基づいてファールカバーユニット２７０の収容空間が貯留された遊技球で満タンである旨）を報知し、数字「７」が表示されているときには「ＣＲ未接続」である旨（払出制

御基板９５１からＣＲユニット６までに亘るいずれかにおいて電気的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「９」が表示されているときには「ストック中（賞球ストック（未払出）あり）」である旨（具体的には、まだ払い出していない遊技球の球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【０９７５】

また、払出制御ＭＰＵ９５２ａは、その所定の出力ポートの出力端子から、実際に払い出した遊技球の球数等をリセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａに出力することにより、リセット機能付き払出制御出力回路９５２ｃａから図示しない抵抗を介して外部端子板７８４に実際に払い出した遊技球の球数等を出力したりする。

【０９７６】

また、払出制御基板９５１は、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）を図示しない抵抗を介して外部端子板７８４に出力している。外部端子板７８４は、図示しない複数のフォトカプラ（赤外ＬＥＤとフォトＩＣとが内蔵されて構成されている。）が設けられており、これらの複数のフォトカプラを介して、遊技場（ホール）に設置されたホールコンピュータに遊技球の球数等及び各種情報（遊技情報、遊技球の払出動作に関するエラー内容或いはエラーがあった旨）をそれぞれ伝えるようになっている。外部端子板７８４とホールコンピュータとは、複数のフォトカプラにより電気的に絶縁された状態となっており、パチンコ機１の外部端子板７８４を経由してホールコンピュータへ異常な電圧が印加されてホールコンピュータが誤動作したり故障したりしないようになっているし、ホールコンピュータからパチンコ機１の外部端子板７８４を経由して遊技を進行する主制御基板１３１０や払出等を制御する払出制御基板９５１に異常な電圧が印加されて誤動作したり故障したりしなしようになっている。ホールコンピュータは、パチンコ機１が払い出した遊技球の球数等やパチンコ機１の遊技情報を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

【０９７７】

球貸ボタン３２８からの遊技球の球貸要求信号、及び返却ボタン３２９からのプリペイドカードの返却要求信号は、まず度数表示板３６５、主扉中継端子板８８０、そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。ＣＲユニット６は、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球の球数を指定した信号を、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して払出制御基板９５１にシリアル方式で送信し、この信号がＣＲユニット入出力回路９５２ｅを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力されるようになっている。また、ＣＲユニット６は、貸し出した遊技球の球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度を球貸返却表示部３３０に表示するための信号を、遊技球等貸出装置接続端子板８６９、主扉中継端子板８８０、そして度数表示板３６５に出力し、この信号が球貸返却表示部３３０に入力されるようになっている。また、球貸返却表示部３３０に隣接するＣＲユニットランプ３６５ｄは、ＣＲユニット６からの供給電圧が遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して入力されるようになっている。

【０９７８】

なお、払出制御基板９５１に各種電圧を供給する電源基板９３１は、電源遮断時にでも所定時間、払出制御基板９５１に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタＢＣ１（図１２９を参照）を備えている。このキャパシタＢＣ１により払出制御ＭＰＵ９５２ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御内蔵ＲＡＭ（払出記憶部）に記憶することができるようになっている。払出制御内蔵ＲＡＭに記憶される各種情報は、電源投入時から予め定めた期間内に操作スイッチ９５４が操作されると、その操作信号が払出制御入力回路９５２ｂを介して、払出制御ＭＰＵ９５２ａの所定の入力ポートの入力端子に入力され、払出制御ＭＰＵ９５２ａは払出制御内蔵ＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリア信号として判断し、これを契機として、払出制御ＭＰＵ９５２ａによって払出制御内蔵ＲＡＭから完全に消去（クリア）されるようになっている。この操作信号（ＲＡＭクリア信号）は、リセット機能なし払出制御出力回

路９５２ｃｂに出力され、リセット機能なし払出制御出力回路９５２ｃｂから主制御基板１３１０に出力されるようにもなっている。

【０９７９】

［７－２－２．遊技球等貸出装置接続端子板との各種信号のやり取り］

ここで、払出制御部９５２とＣＲユニット６とにおける各種信号のやり取り、及びＣＲユニット６と度数表示板３６５とにおける各種信号のやり取りについて、図１８４に基づいて説明する。遊技球等貸出装置接続端子板８６９は、図１８４に示すように、ＣＲユニット６と払出制御基板９５１との基板間の電気的な接続を中継するほかに、ＣＲユニット６と度数表示板３６５との基板間の電気的な接続も中継している（正確には、遊技球等貸出装置接続端子板８６９は、主扉中継端子板８８０を介して度数表示板３６５と電気的に接続されており、ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９とが電気的に接続され、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と主扉中継端子板８８０とが電気的に接続され、そして主扉中継端子板８８０と度数表示板３６５とが電気的に接続されている）。ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と払出制御基板９５１との基板間、遊技球等貸出装置接続端子板８６９と主扉中継端子板８８０との基板間、及び遊技球等貸出装置接続端子板８６９と度数表示板３６５との基板間は、各配線（ハーネス）によって電気的にそれぞれ接続されている。また、電源基板９３１からの後述するＡＣ２４Ｖが遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に供給されている。ＣＲユニット６は、この供給されたＡＣ２４Ｖから所定電圧ＶＬ（本実施形態では、直流＋１２Ｖ（ＤＣ＋１２Ｖ、以下「＋１２Ｖ」記載する。））を、内蔵する図示しない電圧作成回路により作成してグランドＬＧとともに、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して払出制御基板９５１に供給する一方、遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して度数表示板３６５に供給している。

【０９８０】

度数表示板３６５は、その部品面に、の球貸ボタン３２８と対応する位置に押ボタンスイッチである球貸ボタン３２８が実装され、貸球ユニット３６０の返却ボタン３２９と対応する位置に押ボタンスイッチである返却ボタン３２９が実装され、貸球ユニット３６０の貸出残表示部３６３と対応する位置にセグメント表示器である球貸返却表示部３３０が実装されている。

【０９８１】

球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９は、ＣＲユニット６からのグランドＬＧが遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して電気的に接続されている。球貸ボタン３２８は、球貸ボタン３２８が押圧操作されると、球貸ボタン３２８のスイッチが入り（ＯＮし）、球貸ボタン３２８からの球貸操作信号ＴＤＳが主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。返却ボタン３２９は、返却ボタン３２９が押圧操作されると、返却ボタン３２９のスイッチが入り（ＯＮし）、返却ボタン３２９からの返却操作信号ＲＥＳが主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介してＣＲユニット６に入力されるようになっている。

【０９８２】

球貸返却表示部３３０は、セグメント表示器が３個一列に並設されたものであり、これら３桁のセグメント表示器のうち１桁のセグメント表示器ずつ順次駆動する、いわゆるダイナミック点灯方式によって３桁のセグメント表示器が点灯制御されるようになっている。このような点灯制御によって、球貸返却表示部３３０は、ＣＲユニット６に挿入されたプリペイドカードの残額を表示したり、ＣＲユニット６のエラーを表示したりする。球貸返却表示部３３０は、３桁のセグメント表示器のうち１桁のセグメント表示器を指定するためのデジット信号ＤＧ０～ＤＧ２（計３本の信号）と、この指定した１桁のセグメント表示器を点灯させて表示させる内容を指定するためのセグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇ（計７本の信号）と、がＣＲユニット６から遊技球等貸出装置接続端子板８６９

そして主扉中継端子板８８０を介して入力されると、この入力された、デジット信号ＤＧ０～ＤＧ２及びセグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇに従って１桁のセグメント表示器が順次発光され、これらの３桁のセグメント表示器の発光による内容が貸出残表示部３６３を通して視認することができるようになっている。

【０９８３】

なお、球貸返却表示部３３０に隣接してＣＲユニットランプ３６５ｄが度数表示板３６５に実装されている。このＣＲユニットランプ３６５ｄは、ＣＲユニット６からの所定電圧ＶＬが遊技球等貸出装置接続端子板８６９そして主扉中継端子板８８０を介して入力されている。所定電圧ＶＬは、ＣＲユニットランプ３６５ｄを介して遊技球等貸出装置接続端子板８６９に実装された電流制限抵抗を通って球貸可能信号ＴＤＬとしてＣＲユニット６に入力されている。ＣＲユニット６は、内蔵する電圧作成回路で電源基板９３１から供給されたＡＣ２４Ｖから所定電圧ＶＬを作成しており、球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９が有効である球貸可能な状態である場合には球貸可能信号ＴＤＬの論理を制御してＣＲユニットランプ３６５ｄを発光させ、この発光が貸出残表示部３６３を通して視認することができるようになっている。また、セグメント駆動信号ＳＥＧ－Ａ～ＳＥＧ－Ｇは、遊技球等貸出装置接続端子板８６９に実装された電流制限抵抗を通って球貸返却表示部３３０に入力されている。

【０９８４】

ＣＲユニット６は、球貸ボタン３２８が押圧操作されて球貸ボタン３２８からの球貸操作信号ＴＤＳが度数表示板３６５から主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して入力されると、貸球要求信号であるＢＲＤＹを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）に出力するようになっている。そしてＣＲユニット６は、１回の払出動作で所定の貸球数（本実施形態では、２５球であり、金額として１００円に相当する。）を払い出すための１回の払出動作開始要求信号であるＢＲＱを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）に出力するようになっている。ＢＲＤＹ及びＢＲＱが入力される払出制御基板９５１（払出制御ＭＰＵ９５２ａ）は、１回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるための信号であるＥＸＳを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６に出力したり、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨又は不可能である旨を伝えるための信号であるＰＲＤＹを、遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して、ＣＲユニット６に出力したりする。なお、例えば、球貸ボタン３２８が押圧操作されると、２００円分の遊技球が払い出されるように、ホールの店員等がＣＲユニット６に予め設定している場合には、１回の払出動作が連続して２回行われるようになっており、１００円分の２５球が払い出されると、続けて１００円分の２５球が払い出され、計２００円分の５０球が払い出されることとなる。

【０９８５】

ＣＲユニット６は、返却ボタン３２９が押圧操作されて返却ボタン３２９からの返却操作信号ＲＥＳが度数表示板３６５から主扉中継端子板８８０そして遊技球等貸出装置接続端子板８６９を介して入力されると、プリペイドカードを図示しない挿入口から排出して返却するようになっている。この返却されたプリペイドカードは、球貸ボタン３２８が押圧操作された結果、払い出された遊技球の球数に相当する金額が減算された残額が記憶されている。

【０９８６】

［７－３．電源基板９３１］

次に、電源基板９３１について簡単に説明する。電源基板９３１は、パチンコ島設備から供給され交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）を電気的に接続したり、電気的に遮断したりすることができる電源スイッチ９３４と、各種電源を生成する電源制御部９３５と、図５に示した打球発射装置６５０の発射ソレノイド６８２による発射制御及び図１に示した球送りユニット２５０の球送ソレノイド２５５による球送制御を行う発射制御部９５３と、を備えている。

【０９８７】
［７－３－１．電源制御部］
電源制御部９３５は、電源スイッチ９３４が操作されてパチンコ島設備から供給される交流２４ボルト（ＡＣ２４Ｖ）を整流する同期整流回路９３５ａと、同期整流回路９３５ａで整流された電力の力率を改善する力率改善回路９３５ｂと、力率改善回路９３５ｂで力率が改善された電力を平滑化する平滑化回路９３５ｃと、平滑化回路９３５ｃで平滑化された電力から各種基板に供給するための各種直流電源を作成する電源作成回路９３５ｄと、を備えている。
【０９８８】
［７－３－２．発射制御部］
発射ソレノイド６８２による発射制御と、球送ソレノイド２５５による球送制御と、を行う発射制御部９５３は、発射制御回路９５３ａを主として構成されている。発射制御回路９５３ａは、ハンドル３０２の回転位置に応じて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出す強度（発射強度）を電気的に調節するハンドル回転検知センサ３０７からの操作信号と、ハンドル３０２に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ３１０からの検出信号と、遊技者の意志によって遊技球の打ち出し（発射）を強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ３１２からの検出信号と、がハンドル中継端子板３１５を介して、入力されている。また、発射制御回路９５３ａは、ＣＲユニット６と遊技球等貸出装置接続端子板８６９とが電気的に接続されると、その旨を伝えるＣＲ接続信号が払出制御基板９５１を介して入力されている。
【０９８９】
発射制御回路９５３ａは、ハンドル回転検知センサ３０７からの操作信号に基づいて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出す（発射する）ための駆動電流を調整して発射ソレノイド６８２に出力する制御を行っている一方、ハンドル中継端子板３１５を介して球送ソレノイド２５５に一定電流を出力することにより球送りユニット２５０の球送部材が皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球を１球受け入れ、球送部材が受け入れた遊技球を打球発射装置６５０側へ送る制御を行っている。
【０９９０】
［７－４．周辺制御基板］
周辺制御基板１５１０は、図１８５に示すように、主制御基板１３１０からの各種コマンドに基づいて演出制御を行い、かつ、図１９に示す扉枠側演出表示装置４６０の表示領域の描画を行う演出表示駆動基板４４５０と制御コマンドや各種情報（各種データ）をやり取りする周辺制御部１５１１と、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行う一方、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音制御を行う液晶表示制御部１５１２と、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するリアルタイムクロック（以下、「ＲＴＣ」と記載する。）制御部４１６５と、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節する音量調整ボリューム１５１０ａと、を備えている。
【０９９１】
［７－４－１．周辺制御部］
演出制御を行う周辺制御部１５１１は、図１８５に示すように、マイクロプロセッサとしての周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと、電源投入時に実行される電源投入時処理を制御するとともに電源投入時から所定時間が経過した後に実行されるとともに演出動作を制御するサブ制御プログラムなどの各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータを記憶する周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂと、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのＶブランク信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理をまたいで継続される各種情報（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に描画する画面を規定するスケジュールデータや各種ＬＥＤ等の発光態様を規定するスケジュールデータなどを管理するための情報など）を記憶する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ

と、日をまたいで継続される各種情報（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など）を記憶する周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄと、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが正常に動作しているか否かを監視するための周辺制御外部ウォッチドックタイマ１５１１ｅ（以下、「周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅ」と記載する。）と、を備えている。

【０９９２】

周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃは、瞬停が発生して電力がすぐ復帰する程度の時間しか記憶された内容を保持することができず、電力が長時間遮断された状態（長時間の電断が発生した場合）ではその内容を失うのに対して、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、電源基板９３１に設けられた図示しない大容量の電解コンデンサ（以下、「ＳＲＡＭ用電解コンデンサ」と記載する。）によりバックアップ電源が供給されることにより、記憶された内容を５０時間程度、保持することができるようになっている。電源基板９３１にＳＲＡＭ用電解コンデンサが設けられることにより、遊技盤５をパチンコ機１から取り外した場合には、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄにバックアップ電源が供給されなくなるため、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、記憶された内容を保持することができなくなってその内容を失う。

【０９９３】

周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）に周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、一定期間内にクリア信号を周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅに出力するときには、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅのタイマカウントを再スタートさせることができるため、リセットがかからない。

【０９９４】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を複数内蔵しており、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤５の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから図示しない周辺制御出力回路を介してランプ駆動基板４１７０に送信したり、遊技盤５に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データをモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路を介してモータ駆動基板４１８０に送信したり、扉枠３に設けたダイヤル駆動モータ４１４等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データを枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信したり、扉枠３の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データを枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポートから周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信したりする。

【０９９５】

主制御基板１３１０からの各種コマンドは、図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの主制御基板用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。また、演出操作ユニット４００に設けられた、ダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）を検出するための回転検出スイッチからの検出信号、及び押圧操作部４０５の操作を検出するための押圧検出スイッチからの検出信号は、枠装飾駆動アンプ基板１９４に設けた図示しない扉側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された演出操作ユニット検出データが扉側シリアル送信回路から、周辺扉中継端子板８８２、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの演出操作ユニット検出用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。

【０９９６】
遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチ（例えば、フォトセンサなど。）からの検出信号は、モータ駆動基板４１８０に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化され、このシリアル化された可動体検出データが遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御入力回路を介して、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートに入力されている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートの入出力を切り替えることにより周辺制御基板１５１０とモータ駆動基板４１８０との基板間における各種データのやり取りを行うようになっている。
【０９９７】
なお、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ウォッチドックタイマを内蔵（以下、「周辺制御内蔵ＷＤＴ」と記載する。）しており、周辺制御内蔵ＷＤＴと周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。
【０９９８】
［７－４－１ａ．周辺制御ＭＰＵ］
次に、マイクロコンピュータである周辺制御ＭＰＵ１５１１ａについて説明する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、図１８６に示すように、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを中心として、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＤＭＡ（Ｄｉｒｅｃｔ　Ｍｅｍｏｒｙ　Ａｃｃｅｓｓの略）コントローラ１５１１ａｃ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御アナログ／デジタルコンバータ（以下、周辺制御Ａ／Ｄコンバータと記載する）１５１１ａｋ等から構成されている。
【０９９９】
周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃに対して、内部バス１５１１ａｈを介して、各種データを読み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして周辺バス１５１１ａｉを介して、各種データを読み書きする。
【１０００】
また、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして外部バス１５１１ｈを介して、各種データを読み込む一方、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに対して、内部バス１５１１ａｈ、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ、そして外部バス１５１１ｈを介して、各種データを読み書きする。
【１００１】
周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行う専用のコントローラであり、ＤＭＡ０～ＤＭＡ３という４つのチャンネルを有している。
【１００２】
具体的には、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂの記憶装置と、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１

ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂの記憶装置に対して、内部バス１５１１ａｈを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び周辺バス１５１１ａｉを介して、読み書きする。

【１００３】

また、周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵される、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の装置間において、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａを介すことなく、独立してデータ転送を行うために、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び外部バス１５１１ｈを介して、読み書きする一方、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置に対して、周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄ及び周辺バス１５１１ａｉを介して、読み書きする。

【１００４】

周辺制御バスコントローラ１５１１ａｄは、内部バス１５１１ａｈ、周辺バス１５１１ａｉ、及び外部バス１５１１ｈをコントロールして周辺制御ＭＰＵコア１５１１ａａの中央処理装置と、周辺制御内蔵ＲＡＭ１５１１ａｂ、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃ、及び周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄ等の記憶装置と、周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅ、周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆ、周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇ、及び周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋ等の入出力装置と、の各種装置間において、各種データのやり取りを行う専用のコントローラである。

【１００５】

周辺制御各種シリアルＩ／Ｏポート１５１１ａｅは、ランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート、モータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板ＬＥＤ用シリアルＩ／Ｏポート、枠装飾駆動アンプ基板モータ用シリアルＩ／Ｏポート、主制御基板用シリアルＩ／Ｏポート、演出操作ユニット情報取得用シリアルＩ／Ｏポートを有している。

【１００６】

周辺制御内蔵ウォッチドックタイマ（周辺制御内蔵ＷＤＴ）１５１１ａｆは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのシステムが暴走していないかを監視するためのタイマであり、このタイマがタイマアップすると、ハードウェア的にリセットをかけるようになっている。つまり、周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、ウォッチドックタイマをスタートさせた場合には、一定期間内（タイマがタイマアップするまで）にそのタイマをクリアするクリア信号を周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆに出力しないときには、リセットがかかることとなる。周辺制御ＣＰＵコア１５１１ａａは、ウォッチドックタイマをスタートさせて一定期間内にクリア信号を周辺制御内蔵ＷＤＴ１５１１ａｆに出力するときには、タイマカウントを再スタートさせることができるため、リセットがかからない。

【１００７】

周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇは、遊技盤側モータ駆動ラッチ信号、扉側モータ駆動発光ラッチ信号等の各種ラッチ信号を出力するほかに、周辺制御外部ＷＤＴ１５１１ｅにクリア信号を出力したり、遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を検出するための各種検出スイッチからの検出信号をモータ駆動基板４１８０に設けた図示しない遊技盤側シリアル送信回路でシリアル化して、このシリアル化された可動体

検出データを遊技盤側シリアル送信回路から周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのモータ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートで受信するための可動体情報取得ラッチ信号を出力したりする。このＬＥＤは、高輝度の白色ＬＥＤであり、大当り遊技状態の発生が確定している旨を伝えるための確定告知ランプとなっている。本実施形態では、ＬＥＤと周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇとが電気的に直接接続された構成を採用することにより、ＬＥＤと周辺制御各種パラレルＩ／Ｏポート１５１１ａｇとの経路を短くすることで遊技上重量な意味を持つＬＥＤの点灯制御についてノイズ対策を講ずることができる。なお、ＬＥＤの点灯制御については、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において実行されるようになっており、このＬＥＤを除く他のＬＥＤ等は、後述する周辺制御部定常処理において実行されるようになっている。

【１００８】

周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋは、音量調整ボリューム１５１０ａと電気的に接続されており、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変し、つまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように液晶表示制御部１５１２（後述する音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御してスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整によりスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。

【１００９】

なお、本実施形態では、音楽や効果音のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりする等。）ための告知音もスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部１５１２（後述する音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、上述した７段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。

これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００で繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【１０１０】

［７－４－１ｂ．周辺制御ＲＯＭ］

周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂは、周辺制御部１５１１、液晶表示制御部１５１２、ＲＴＣ

制御部４１６５等を制御する各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータを予め記憶されている。各種スケジュールデータには、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面を生成する画面生成用スケジュールデータ、各種ＬＥＤの発光態様を生成する発光態様生成用スケジュールデータ、音楽や効果音等を生成する音生成用スケジュールデータ、及びモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動態様を生成する電気的駆動源スケジュールデータ等がある。画面生成用スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に描画する画面の順序が規定されている。発光態様生成用スケジュールデータは、各種ＬＥＤの発光態様を規定する発光データが時系列に配列されて構成されている。音生成用スケジュールデータは、音指令データが時系列に配列されて構成されており、音楽や効果音が流れる順番が規定されている。この音指令データには、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数の出力チャンネルのうち、どの出力チャンネルを使用するのかを指示するための出力チャンネル番号と、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックのうち、どのトラックに音楽及び効果音等の音データを組み込むのかを指示するためのトラック番号と、が規定されている。電気的駆動源スケジュールデータは、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データが時系列に配列されて構成されており、モータやソレノイド等の電気的駆動源の動作が規定されている。

【１０１１】

なお、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている各種制御プログラムは、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから直接読み出されて実行されるものもあれば、後述する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御プログラムコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されて実行されるものもある。また周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている、各種データ、各種制御データ及び各種スケジュールデータも、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから直接読み出されるものもあれば、後述する周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリアに電源投入時等においてコピーされたものが読み出されるものもある。

【１０１２】

また、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂには、ＲＴＣ制御部４１６５を制御する各種制御プログラムの１つとして、遊技盤側演出表示装置１６００の使用時間に応じて遊技盤側演出表示装置１６００の輝度を補正するための輝度補正プログラムが含まれている。この輝度補正プログラムは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置１６００の経年変化にともなう輝度低下を補正するものであり、後述するＲＴＣ制御部４１６５の内蔵ＲＡＭから遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時、現在の日時、輝度設定情報等を取得して、この取得した輝度設定情報を補正情報に基づいて補正する。この補正情報は、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに予め記憶されている。輝度設定情報は、後述するように、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度と、が含まれているものであり、例えば、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに６月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、５％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である５％だけさらに上乗せした８０％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに１２月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、１０％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である１０％だけさらに

上乗せした８５％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【１０１３】

［７－４－１ｃ．周辺制御ＲＡＭ］

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃは、図１８６に示すように、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａと、このバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃと、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている各種制御プログラムがコピーされたものを専用に記憶する各種制御プログラムコピーエリア１５１１ｃｄと、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶されている、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータ等がコピーされたものを専用に記憶する各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅと、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっていないものを専用に記憶するバックアップ非管理対象ワークエリア１５１１ｃｆと、が設けられている。

【１０１４】

なお、パチンコ機１の電源投入時（瞬停や停電による復電時も含む。）には、バックアップ非管理対象ワークエリア１５１１ｃｆに対して値０が強制的に書き込まれてゼロクリアされる一方、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａ、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ、及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃについては、パチンコ機１の電源投入時に主制御基板１３１０からの電源投入時状態コマンド（図１４３を参照）がＲＡＭクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである（例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図１８２に示した操作スイッチ９５４が操作された時における演出の開始を指示したりするものである）であるときにはゼロクリアされる。

【１０１５】

バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａは、後述する液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのＶブランク信号が入力されるごとに実行される周辺制御部定常処理において更新される各種情報である演出情報（１ｆｒ）をバックアップ対象として専用に記憶するＢａｎｋ０（１ｆｒ）と、後述する１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに実行される周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において更新される各種情報である演出情報（１ｍｓ）をバックアップ対象として専用に記憶するＢａｎｋ０（１ｍｓ）と、から構成されている。ここで、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）及びＢａｎｋ０（１ｍｓ）の名称について簡単に説明すると、「Ｂａｎｋ」とは、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Ｂａｎｋ」に続く「０」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Ｂａｎｋ０」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂからバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに亘るエリアに設けられる、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」とは、「Ｂａｎｋ０」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「（１ｆｒ）」は、後述するように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが１画面分（１フレーム分）の描画データを遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力するようになっているため、Ｖブランク信号が入力されるごとに、換言すると、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるところから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（１ｆｒ）や後述する演出バックアップ情報（１ｆｒ）についても、同一の意味で用いる）。「（１ｍｓ）」は、後述するように、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理

が実行されるところから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（１ｍｓ）や後述する演出バックアップ情報（１ｍｓ）についても、同一の意味で用いる）。

【１０１６】

Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）には、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａ、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂ、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃ、ＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄ、及びスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅ等が設けられている。ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａには、遊技盤５の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤへの点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂには、扉枠３の各装飾基板に設けた複数のＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、受信コマンド記憶領域１５１１ｃａｃには、主制御基板１３１０から送信される各種コマンドを受信してその受信した各種コマンドがセットされる記憶領域であり、ＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄには、ＲＴＣ制御部４１６５（後述するＲＴＣ４１６５ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａ）から取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅには、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ１３１０ａ）から受信したコマンドに基づいて、この受信したコマンドと対応する各種スケジュールデータがセットされる記憶領域である。スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅには、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅにコピーされた各種スケジュールデータが読み出されてセットされるものもあれば、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから各種スケジュールデータが直接読み出されてセットされるものもある。

【１０１７】

Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）には、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆ、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇ、可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈ、及び演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉ、及び描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋ等が設けられている。枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆには、扉枠３に設けたダイヤル駆動モータ４１４等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇには、遊技盤５に設けた各種可動体を作動させるモータやソレノイド等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされる記憶領域であり、可動体情報取得記憶領域１５１１ｃａｈには、遊技盤５に設けた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて遊技盤５に設けた各種可動体の原位置や可動位置等を取得した各種情報がセットされる記憶領域であり、演出操作ユニット情報取得記憶領域１５１１ｃａｉには、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいてダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）及び押圧操作部４０５の操作等を取得した各種情報（例えば、演出操作ユニット４００に設けられた各種検出スイッチからの検出信号に基づいて作成するダイヤル操作部４０１の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部４０５の操作履歴情報など。）がセットされる記憶領域であり、描画状態情報取得記憶領域１５１１ｃａｋには、演出表示駆動基板４４５０が周辺制御基板１５１０の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝えるために出力する後述するＬＯＣＫＮ信号に基づいて周辺制御基板１５１０と演出表示駆動基板４４５０との接続間における不具合の頻度や不具合の発生状態を取得した各種情報がセットされる記憶領域である。

【１０１８】

なお、Ｂａｎｋ０（１ｆｒ）のランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａ及び枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂと、Ｂａｎｋ０（１ｍｓ）の枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆ及びモー

タ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇとは、第１領域及び第２領域という２つの領域にそれぞれ分割されている。

【１０１９】

ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａは、後述する周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域に、遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域、第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理においてランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第２領域に遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、ランプ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａａの第１領域にセットした遊技盤側発光データＳＬ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。

【１０２０】

枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂは、周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域に、扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部定常処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部定常処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域、第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部定常処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部定常処理において枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第２領域に扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部定常処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側ＬＥＤ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｂの第１領域にセットした扉側発光データＳＴＬ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。

【１０２１】

枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆは、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域に、扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域、第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理において枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第２領域に扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された際に、枠装飾駆動アンプ基板側モータ用送信データ記憶領域１５１１ｃａｆの第１領域にセットした扉側モータ駆動データＳＴＭ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。

【１０２２】

モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇは、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第１領域に、遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされ、次の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されると、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされるようになっており、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、モータ駆動基板側送信データ記

憶領域１５１１ｃａｇの第１領域、第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴが交互にセットされる。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行され、例えば、今回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理においてモータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第２領域に遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴがセットされるときには、前回の周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された際に、モータ駆動基板側送信データ記憶領域１５１１ｃａｇの第１領域にセットした遊技盤側モータ駆動データＳＭ－ＤＡＴに基づいて処理を進行するようになっている。

【１０２３】

次に、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａに記憶されている各種情報である演出情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃについて説明する。バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、２つのバンクを１ペアとする２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容である演出情報（１ｆｒ）は、演出バックアップ情報（１ｆｒ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される内容である演出情報（１ｍｓ）は、演出バックアップ情報（１ｍｓ）として、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされる。１ページの整合性は、そのページを構成する２つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。

【１０２４】

具体的には、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂは、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される記憶は、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【１０２５】

また、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される記憶は、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）の内容が一致しているか否かにより行うとともに、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【１０２６】

このように、本実施形態では、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂは、Ｂａｎｋ１（１ｆｒ）及びＢａｎｋ２（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ１（１ｍｓ）及びＢａｎｋ２（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアを１ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第２エリア１５１１ｃｃは、Ｂａｎｋ３（１ｆｒ）及びＢａｎｋ４（１ｆｒ）を１ペアとし、Ｂａｎｋ３（１ｍｓ）及びＢａｎｋ４（１ｍｓ）を１ペアとする、計２ペアを１ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃの先頭と終端とには、それぞれ異なるＩＤコートが記憶されるようになっている。

【１０２７】

また、本実施形態では、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｆｒ）に記憶される内容である演出情報（１ｆｒ）は、演出バックアップ情報（１ｆｒ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるとともに、通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（１ｍｓ）に記憶される内容である演出情報（１ｍｓ）は、演出バックアップ情報（１ｍｓ）として、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされるようになっているが、これらの周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃによる高速コピーを実行するプログラムは共通化されている。つまり本実施形態では、演出情報（１ｆｒ）、演出情報（１ｍｓ）を、共通の管理手法（共通のプログラムの実行）で情報を管理している。

【１０２８】

［７－４－１ｄ．周辺制御ＳＲＡＭ］

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄは、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報のうち、バックアップ対象となっているものを専用に記憶するバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａと、このバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａに記憶されている各種情報がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃと、が設けられている。なお、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶された内容は、パチンコ機１の電源投入時（瞬停や停電による復電時も含む。）に主制御基板１３１０からの電源投入時状態コマンド（図１４３を参照）がＲＡＭクリア演出開始及び遊技状態を指示するものである（例えば、電源投入時から予め定めた期間内に図１８２に示した操作スイッチ９５４が操作された時における演出の開始を指示したりするものである）ときにおいても、ゼロクリアされない。この点については、上述した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのバックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｃａ、バックアップ第１エリア１５１１ｃｂ、及びバックアップ第２エリア１５１１ｃｃがゼロクリアされる点と、全く異なる。また、パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで、周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている内容（項目）ごとに（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴など。）クリアすることができる一方、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃに記憶されている内容（項目）については、全く表示されず、設定モードにおいてクリアすることができないようになっている。この点についても、周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃと周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄとで全く異なる。

【１０２９】

バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａは、日をまたいで継続される各種情報である演出情報（ＳＲＡＭ）（例えば、大当り遊技状態が発生した履歴を管理するための情報や特別な演出フラグの管理するための情報など）をバックアップ対象として専用に記

憶するＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）から構成されている。ここで、Ｂａｎｋ０（ＳＲＡＭ）の名称について簡単に説明すると、「Ｂａｎｋ」とは、上述したように、各種情報を記憶するための記憶領域の大きさを表す最小管理単位であり、「Ｂａｎｋ」に続く「０」は、各種制御プログラムが実行されることにより更新される各種情報を記憶するための通常使用する記憶領域であることを意味している。つまり「Ｂａｎｋ０」とは、通常使用する記憶領域の大きさを最小管理単位としているという意味である。そして、後述するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂからバックアップ第２エリア１５１１ｄｃに亘るエリアに設けられる、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」とは、「Ｂａｎｋ０」と同一の記憶領域の大きさを有していることを意味している。「（ＳＲＡＭ）」は、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに外付けされる周辺制御ＳＲＡＭ１５１１ｄに記憶されている各種情報がバックアップ対象となっていることから、「Ｂａｎｋ０」、「Ｂａｎｋ１」、「Ｂａｎｋ２」、「Ｂａｎｋ３」、及び「Ｂａｎｋ４」にそれぞれ付記されている（演出情報（ＳＲＡＭ）や後述する演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）についても、同一の意味で用いる）。

【１０３０】

次に、バックアップ管理対象ワークエリア１５１１ｄａに記憶されている各種情報である演出情報（ＳＲＡＭ）がコピーされたものを専用に記憶するバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃについて説明する。バックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、２つのバンクを１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容である演出情報（ＳＲＡＭ）は、演出バックアップ情報（ＳＲＡＭ）として、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃに周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされる。１ページの整合性は、そのページを構成する２つのバンクの内容が一致しているか否かにより行う。

【１０３１】

具体的には、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂは、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【１０３２】

また、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアが１ページとして管理されている。通常使用する記憶領域であるＢａｎｋ０（ＳＲＡＭ）に記憶される内容は、１フレーム（１ｆｒａｍｅ）ごとに周辺制御部定常処理が実行されるごとに、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）に周辺制御ＤＭＡコントローラ１５１１ａｃにより高速にコピーされ、このページの整合性は、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）の内容が一致しているか否かにより行う。

【１０３３】

このように、本実施形態では、バックアップ第１エリア１５１１ｄｂは、Ｂａｎｋ１（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ２（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理するためのエリアであり、バックアップ第２エリア１５１１ｄｃは、Ｂａｎｋ３（ＳＲＡＭ）及びＢａｎｋ４（ＳＲＡＭ）を１ペアとする、この１ペアを１ページとして管理するためのエリアである。各ページの先頭と終端とには、つまりバックアップ第１エリア１５１１ｄｂ及びバックアップ第２エリア１５１１ｄｃの先頭と終端とには、それぞれ異なるＩＤコートが記憶されるようになっている。

【１０３４】
［７－４－２．液晶表示制御部］
遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御とスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音制御とを行う液晶表示制御部１５１２は、図１８５に示すように、音楽や効果音等の音制御を行うための音源が内蔵（以下、「内蔵音源」と記載する。）されるとともに遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の描画制御を行う音源内蔵ＶＤＰ（Ｖｉｄｅｏ　Ｄｉｓｐｌａｙ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒの略）１５１２ａと、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示される画面の各種キャラクタデータに加えて音楽や効果音等の各種音データを記憶する液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂと、シリアル化された音楽や効果音等をオーディオデータとして枠装飾駆動アンプ基板１９４に向かって送信するオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃと、扉枠側演出表示装置４６０へシリアル化された描画データを扉枠３の皿ユニット３２０の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置４６０の下方近傍に配置されて皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０へ向かって送信する扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データをプラス信号とマイナス信号とに差動化する差動化回路１５１２ｅと、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号のほかに、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されるとともに、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されているときには、この信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路１５１２ｅからの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続する強制切替回路１５１２ｆと、を備えている。この液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂには、後述する画面や画像の表示に用いるスプライトデータとして、例えばリング状表示物（環状の表示物）の表示に用いる環状画像データ、後述する操作メニュー背景画像の表示に用いる操作メニュー背景画像データ、後述する少なくとも１つの選択表示物の表示に用いる選択表示物画像データ、後述するボリュームスケールを含む音量調整画面の表示に用いる音調調整背景画像データ、後述する音量調整アイコンの表示に用いる音量設定アイコン画像データ等の他、遊技者から見て本体枠４の背面における各部位の位置が視認可能な本体枠背面画像の表示に用いる本体枠背面画像データ、サービスモード画面の表示に用いるサービスモード画面画像データ、休憩タイマー設定画面の表示に用いる休憩タイマー設定画面画像データ、及び、休憩中画面の表示に用いる休憩中画面画像データが格納されている。なお、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂは、演出操作ユニット４００の押圧操作部４０５（操作部）を操作すべき旨を促すための示唆表示物の表示に用いる示唆表示物画像データをも格納している。
【１０３５】
周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０からのコマンドと対応する画面生成用スケジュールデータを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域に１５１１ｃａｅにセットし、このスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータの先頭の画面データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力した後に、後述するＶブランク信号が入力されたことを契機として、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って先頭の画面データに続く次の画面データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた画面生成用スケジュールデータに従って、この画面生成用スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、Ｖブランク信号が入力されるごとに、先頭の画面データから１つず

つ音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。
【１０３６】
また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、主制御基板１３１０からのコマンドと対応する音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのスケジュールデータ記憶領域に１５１１ｃａｅにセットし、このスケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータの先頭の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力した後に、Ｖブランク信号が入力されたことを契機として、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータに従って先頭の音指令データに続く次の音指令データを、周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂ又は周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃの各種制御データコピーエリア１５１１ｃｅから抽出して音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、スケジュールデータ記憶領域１５１１ｃａｅにセットされた音生成用スケジュールデータに従って、この音生成用スケジュールデータに時系列に配列された音指令データを、Ｖブランク信号が入力されるごとに、先頭の音指令データから１つずつ音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力する。
【１０３７】
［７－４－２ａ．音源内蔵ＶＤＰ］
音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、上述した内蔵音源のほかに、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて、図１８７に示すように、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂから遊技盤側キャラクタデータ及び上皿側キャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを生成するためのＶＲＡＭも内蔵（以下、「内蔵ＶＲＡＭ」と記載する。）している。音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、内蔵ＶＲＡＭ上に生成した描画データのうち、遊技盤側演出表示装置１６００に対する描画データをチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する描画データをチャンネルＣＨ２から、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して、扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）することで、遊技盤側演出表示装置１６００と扉枠側演出表示装置４６０との同期化を図っている。
【１０３８】
チャンネルＣＨ１から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるのに対して、チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０の右側に取り付けられている扉枠側演出表示装置４６０の下方近傍に配置されて皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）される。このように、チャンネルＣＨ１から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるため、周辺制御基板１５１０及び遊技盤側演出表示装置１６００は遊技盤５にそれぞれ取り付けられていることによりチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００までの経路に要する配線の長さが短いものの、チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、上述したように、周辺制御基板１５１０から扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力されるため、周辺制御基板１５１０は遊技盤５に取り付けられているのに対して、演出表示駆動基板４４５０は扉枠３の皿ユニット３２０内に収納されていることによりチャンネルＣＨ２から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして演出表示駆動基板４４５０までの経路に要する配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長く

なることでノイズの影響を極めて受けやすくなる。このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるというチャンネルＣＨ２に対しては、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。

【１０３９】

チャンネルＣＨ１は、ＬＶＤＳ（Ｌｏｗ　Ｖｏｌｔａｇｅ　Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔｉａｌ　Ｓｉｇｎａｌｉｎｇ）というシリアル方式による差動インターフェースを使用しているのに対して、チャンネルＣＨ２は、パラレル方式によるインターフェースを使用している。チャンネルＣＨ２から出力される描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、から構成されており、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ４６１０ｄでシリアル化されて、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される。そして、このシリアル化された各種信号は、演出表示駆動基板４４５０においてパラレル信号に復元されて扉枠側演出表示装置４６０に出力されるようになっている。

【１０４０】

このように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の画面データを音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａに出力すると、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、この入力された画面データに基づいて液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂからキャラクタデータを抽出してスプライトデータを作成して遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭ上で生成し、この生成した描画データうち、遊技盤側演出表示装置１６００に対する画像データをチャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する画像データをチャンネルＣＨ２から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）する。つまり、「１画面分（１フレーム分）の画面データ」とは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に表示する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭ上で生成するためのデータのことである。

【１０４１】

また、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、１画面分（１フレーム分）の描画データを、チャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、扉枠側演出表示装置４６０に対する画像データをチャンネルＣＨ２から図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）すると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号を周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに出力する。本実施形態では、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が出力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、このＶブランク信号が入力されたことを契機として、後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理を実行するようになっている。ここで、Ｖブランク信号が出力される間隔は、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の液晶サイズによって多少変化する。また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａとが実装された周辺制御基板１５１０の製造ロットにおいてもＶブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合がある。

【１０４２】

なお、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、フレームバッファ方式が採用されている。この「フレームバッファ方式」とは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０の画面に描画する１画面分（１フレーム分）の描画データをフレームバッファ（内蔵ＶＲＡＭ）に保持し、このフレームバッファ（内蔵ＶＲＡＭ）に保持した１画面分（１フレーム分）の描画データを、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０に出力する方式である。

【１０４３】

また、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａは、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから上述した音指令データが入力されると、図１８７に示すように、液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂに記憶されている音楽や効果音等の音データを抽出して内蔵音源を制御することにより、音指令データに規定された、トラック番号に従って音楽及び効果音等の音データをトラックに組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定してスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。

【１０４４】

なお、音指令データには、音データを組み込むトラックの音量を調節するためのサブボリューム値も含まれており、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックには、音楽や効果音等の演出音の音データとその音量を調節するサブボリューム値のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音の音データとその音量を調節するサブボリューム値が組み込まれる。具体的には、演出音に対しては、上述した、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として設定され、報知音に対しては、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量がサブボリューム値として設定されるようになっている。
演出音のサブボリューム値は、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで後述する設定モードへ移行して調節することができるようになっている。

【１０４５】

また、音指定データには、出力するチャンネルの音量を調節するためのマスターボリューム値も含まれており、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数の出力チャンネルには、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値と、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力するようになっている。

【１０４６】

本実施形態では、マスターボリューム値は一定値に設定されており、合成した演出音の音量が最大音量であるときに、マスターボリューム値まで増幅されることにより、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量が許容最大音量となるように設定されている。具体的には、演出音に対しては、複数のトラックのうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームと、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力し、報知音に対しては、使用するトラックに組み込まれた報知音の音データと、使用するトラックに組み込まれた報知音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回動操作に基づく音

量調整に全く依存されず最大音量と、を合成して、この合成した報知音の音量を、実際に、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。

【１０４７】

ここで、演出音がスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音を流す制御について簡単に説明すると、まず演出音が組み込まれているトラックのサブボリューム値を強制的に消音に設定し、この演出音が組み込まれたトラックの音データと、その消音に設定したサブボリューム値と、報知音が組み込まれたトラックの音データと、報知音の音量が最大音量に設定されたサブボリューム値と、を合成し、この合成した演出音の音量と報知音の音量とを、実際に、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音及び報知音をシリアル化してオーディオデータとしてオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力する。

【１０４８】

つまり、実際に、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音は、最大音量の報知音だけが流れることとなる。このとき、演出音は消音となっているため、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れないものの、演出音は、上述した音生成用スケジュールデータに従って進行している。本実施形態では、報知音は所定期間（例えば、９０秒）だけスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるようになっており、この所定期間経過すると、これまで消音に強制的に設定された音生成用スケジュールデータに従って進行している演出音の音量が、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部が回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として再び設定され（このとき、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行して調節されている場合には、その調節された演出音のサブボリューム値に設定され）、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるようになっている。

【１０４９】

このように、演出音がスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音が流れるときには、演出音の音量が消音になって報知音がスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるものの、この消音となった演出音は、音生成用スケジュールデータに従って進行しているため、報知音が所定期間経過してスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れなくなると、演出音は、報知音が流れ始めたところから再び流れ始めるのではなく、報知音が流れ始めて所定期間経過した時点まで音生成用スケジュールデータに従って進行したところから再び流れ始めるようになっている。

【１０５０】

［７－４－２ｂ．液晶及び音制御ＲＯＭ］

液晶及び音制御ＲＯＭ１５１２ｂは、図１８７に示すように、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に描画するための遊技盤側キャラクタデータと、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域に描画するための上皿側キャラクタデータと、が予め記憶されるとともに、音楽、効果音、報知音、及び告知音等の各種の音データも予め記憶されている。

【１０５１】

［７－４－２ｃ．オーディオデータ送信ＩＣ］

オーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃは、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからのシリアル化したオーディオデータが入力されると、右側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２を介して、枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信するとともに、左側オーディオデータをプラス信号、マイナス信号とする差分方式のシリアルデータとして、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、そして周

辺扉中継端子板８８２を介して、枠装飾駆動アンプ基板１９４に送信する。これにより、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から各種演出に合わせた音楽や効果音等がステレオ再生されるようになっている。

【１０５２】

なお、オーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃは、周辺制御基板１５１０から枠装飾駆動アンプ基板１９４に亘る基板間を、左右それぞれ差分方式のシリアルデータとしてオーディオデータを出力することにより、例えば、左側オーディオデータのプラス信号、マイナス信号にノイズの影響を受けても、プラス信号に乗ったノイズ成分と、マイナス信号に乗ったノイズ成分と、を枠装飾駆動アンプ基板１９４で合成して１つの左側オーディオデータにする際に、互いにキャンセルし合ってノイズ成分が除去されるようになっているため、ノイズ対策を講じることができる。

【１０５３】

［７－４－２ｄ．扉枠側演出用トランスミッタＩＣ］

扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄは、図１８７に示すように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データが入力されている。チャンネルＣＨ２は、上述したように、パラレル方式によるインターフェースが使用されている。描画データは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、から構成されており、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ８ビット、計２４ビットで構成されている。本実施形態では、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力可能な赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号がそれぞれ６ビット、計１８ビットであるため、各映像信号における上位６ビットが扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力されている。下位２ビットは、人間の目にとって判別困難な極めて微弱な色情報であるため、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａから出力されているものの、微弱な色情報を含む下位２ビットを無効化している。

【１０５４】

音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データである、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、が扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄに入力されると、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄは、赤色映像信号、緑色映像信号、及び青色映像信号という３つの映像信号と、水平同期信号、垂直同期信号、及びクロック信号という３つの同期信号と、がザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化して差動１ペアケーブルのみでこれらの各種信号を、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信する。

【１０５５】

上述したように、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から遊技盤側演出表示装置１６００に出力されるため、チャンネルＣＨ１から遊技盤側演出表示装置１６００までの経路（第１経路）に要する配線の長さが短いものの、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データは、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０を介して扉枠側演出表示装置４６０に出力（送信）されるため、チャンネルＣＨ２から扉枠側演出表示装置４６０までの経路（第２経路）に要する配線の長さが第１経路に要する配線の長さより極めて長くなることによりノイズの影響を極めて受けやすくなる。

【１０５６】

具体的には、図１に示した本体枠４に対して開閉自在に扉枠３が軸支されているため、本体枠４の開放側辺に沿って図５に示した施錠ユニット７００の反対側である閉塞側に、例えば本体枠４に装着される遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０から扉枠３に備える

皿ユニット３２０に収納される演出表示駆動基板４４５０などの、本体枠４側に備える各種基板と扉枠３側に備える各種基板とを電気的に接続する各種配線を通す必要がある。ところが、本体枠４の閉塞側には、払出装置８３０のほかに、この払出装置８３０によって払出された遊技球を、皿ユニット３２０の上皿３２１へ誘導することができると共に上皿３２１が遊技球で満タンになると払出された遊技球を下皿３２２側へ分岐誘導することができる満タン分岐ユニット７７０が配置されている。
また、本体枠４の下側には、パチンコ島設備から電源が供給される図６に示した電源基板９３１等を一纏めにしてユニット化した図５に示した払出ユニット８００が配置されている。このように、本体枠４側に備える各種基板と扉枠３側に備える各種基板とを電気的に接続する各種配線は、払出装置８３０、満タン分岐ユニット７７０、電源基板９３１等の近傍に引き回されることとなり、払出装置８３０に備える払出モータ８３４が駆動されることによるノイズのほかに、遊技球による静電放電によるノイズやパチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等を受ける環境下にある。

【１０５７】
このため、描画データを送るための配線の長さがチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるというチャンネルＣＨ２に対しては、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用することにより、ノイズの影響を受け難い仕組みとなっている。本実施形態では、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続するための配線として、上述したように、差動１ペアケーブルを用いているが、この差動１ペアケーブルは、２本の配線が単に平行に設けられる平行線ではなく、ツイストペアケーブルである。このツイストペアケーブルは、２本の配線を撚り合わせたケーブルであって、撚り対線とも呼ばれるものである。

【１０５８】
ここで、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして平行線を採用した場合について簡単に説明する。描画データを送るための配線の長さが音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるという音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２に対して、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとしても、このようなハードウェアによる構成だけでは、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、平行線におけるシリアルデータが影響を受けると、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信する際にそのノイズがキャンセル（除去）されないため、シリアルデータが影響を受けた状態のまま扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信されることとなり、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データが正規なものと異なる乱れたものとして扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信され、扉枠側演出表示装置４６０の表示領域では、いわゆる砂嵐のような画像が表示されて何の画像であるのかを全く認識することができなくなるという問題がある。

【１０５９】
そこで、本実施形態では、描画データを送るための配線の長さが音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ１と比べて極めて長くなるという音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２に対して、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとする

とともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして採用した。これにより、遊技球の静電放電によるノイズ、パチンコ機１が設置されるパチンコ島設備から供給される電源ラインに侵入したノイズ等により、ツイストペアケーブルにおいてシリアルデータが影響を受けたとしても、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信する際にそのノイズがキャンセル（除去）されるようになっているため、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａのチャンネルＣＨ２から出力される描画データは、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で確実に受信されて扉枠側演出表示装置４６０に出力されることにより、扉枠側演出表示装置４６０において、液晶表示制御部１５１２の音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａが生成した画像を確実に表示することができる。ノイズをキャンセル（除去）することにより、砂嵐のような何の画像であるのかを全く認識することができなくなるような画像が扉枠側演出表示装置４６０で表示されることを防止することができるため、遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。したがって、ノイズの影響による遊技者の遊技意欲の低下を抑制することができる。

【１０６０】

なお、本実施形態では、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間においては、枠周辺中継端子板８６８、そして周辺扉中継端子板８８２が介在している。これは、本体枠４と扉枠３とが一体的に構成されるものではなく、別々に組み立てられたものを、本体枠４に扉枠３を取り付けるという構造を採用しているため、本体枠４に扉枠３を取り付ける作業のあとに、扉枠３側に備える各種基板からのハーネスやツイストケーブルなどの各種配線を本体枠４側に備える周辺扉中継端子板８８２に電気的に接続することによって、本体枠４側に備える各種基板と、扉枠３側に備える各種基板と、を電気的に接続することができるようになっている。このような構成により、本体枠４から扉枠３を開放して各種配線を取り外す作業を行ったあとに、本体枠４から扉枠３を取り外すことで、本体枠４や扉枠３のメンテナンスを行うことができるし、扉枠３に生じた不具合が解消することができない場合には、この不具合のある扉枠３に替えて他の扉枠３’を本体枠４に取り付けて、扉枠３’側に備える各種基板からの各種配線を本体枠４側に備える周辺扉中継端子板８８２に電気的に接続することによって、本体枠４側に備える各種基板と、扉枠３’側に備える各種基板と、を電気的に接続することができる。

【１０６１】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにおいてザインエレクトロニクス株式会社の「Ｖ－ｂｙ－Ｏｎｅ（登録商標）」というディファレンシャル方式の通信を採用してノイズの影響を受け難い仕組みとするとともに、このようなハードウェアによる構成に加えて、ディファレンシャル方式によるシリアルデータが配線に侵入したノイズの影響を受けたとしても受信側においてそのノイズをキャンセル（除去）することができるツイストペアケーブルを、トランスミッタとレシーバとの間を電気的に接続する差動１ペアケーブルとして採用した。具体的には、周辺制御基板１５１０と枠周辺中継端子板８６８との基板間、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２との基板間、そして周辺扉中継端子板８８２と演出表示駆動基板４４５０との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電気的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電気的に接続されている。これにより、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２とには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにより送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送するための映像伝送用配線パターンのほかに、電源用配線パターンやその他の各種信号を伝送するための各種信号

用配線パターンと、が混在している。このため、枠周辺中継端子板８６８、及び周辺扉中継端子板８８２には、電源用配線パターンや各種信号用配線パターンから所定寸法だけ離して上述した映像伝送用配線パターンがそれぞれ形成されている。トランスミッタからレシーバまでの経路には、枠周辺中継端子板８６８、及び周辺扉中継端子板８８２という複数の中継端子板をまたぐこととなるため、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンの入出力間において、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄにより送信されるディファレンシャル方式によるシリアルデータを伝送する信号の一部が反射されてノイズとなったり、その信号の出力レベルが低下するという問題が生ずる。そこで、本実施形態では、これらの複数の中継端子板に形成される映像伝送用配線パターンには、インピーダンス整合が施されている。

【１０６２】

また、本実施形態では、上述したように、周辺制御基板１５１０と枠周辺中継端子板８６８との基板間、枠周辺中継端子板８６８と周辺扉中継端子板８８２との基板間、そして周辺扉中継端子板８８２と演出表示駆動基板４４５０との基板間においては、それぞれツイストペアケーブルにより電気的に接続されているのに対して、電源配線やその他の各種信号を伝える配線においては、それぞれハーネスにより電気的に接続されているが、ツイストペアケーブルのうち、一方の配線を赤色とし、他方の配線を灰色とするとともに、ハーネスのうち、電源を供給する配線を赤色とし、他の複数の配線を灰色としている。なお、電源を供給する配線を赤色とせず、黄色としてもよい。

【１０６３】

［７－４－２ｅ．強制切替回路、差動化回路］

扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号は、強制切替回路１５１２ｆ、図示しない周辺制御出力回路、枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信されるようになっている。この強制切替回路１５１２ｆには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号のほかに、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから出力されるシリアルデータであるＬＯＣＫＮ信号出力要求データが差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化されて入力されている。この差動化回路１５１２ｅでは、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データをディファレンシャル方式のシリアル信号（シリアルデータ）にシリアル化している。このＬＯＣＫＮ信号出力要求データは、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、周辺制御基板１５１０に備える扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄと、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に備える後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０と、の接続間、つまりトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているか否かを確認するために、扉枠側演出表示装置４６０の動作確認要求として送信されるものである。強制切替回路１５１２ｆは、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、この２つの信号を伝送するように回路接続する一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するように回路構成されている。これにより、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されているときには、その２つの信号を伝送するように回路接続するため、その２つの信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される一方、差動化回路１５１２ｅにおいてプラス信号とマイナス信号とに差動化された２つの信号が入力されていないときには、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号を伝送するように回路接続するため、扉枠側演出用トランスミッタＩＣ１５１２ｄから出力される信号が、周辺制御基板１５１０から枠周辺中継

端子板８６８、周辺扉中継端子板８８２、そして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に送信される。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、パチンコ機１の電源投入時における起動画面を遊技盤側演出表示装置１６００に表示している期間や、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間において、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データを、扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０（実際には、周辺制御基板１５１０に備える差動化回路１５１２ｅ）に向かって送信する。

【１０６４】

扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０は、周辺制御基板１５１０からのシリアル信号（シリアルデータ）を後述する扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０で受信すると、シリアル化された各種信号をパラレル信号に復元して扉枠側演出表示装置４６０に出力する液晶モジュール回路４４５０Ｖと、から主として構成されている。

【１０６５】

扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａからの描画データを受信し、この受信した描画データが異常なデータであると判断すると、その旨を伝える後述するＬＯＣＫＮ信号を周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、入力されるＬＯＣＫＮ信号に基づいて、所定の条件が成立すると、その旨を伝えるための画像を音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して生成して遊技盤側演出表示装置１６００に出力することにより遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示して報知する。

【１０６６】

また、扉枠側演出用レシーバＩＣＳＤＩＣ０は、受信したその２つの信号がＬＯＣＫＮ信号出力要求データであると判断したときには、後述するＬＯＣＫＮ信号を周辺扉中継端子板８８２、そして枠周辺中継端子板８６８を介して、周辺制御基板１５１０に出力する。このＬＯＣＫＮ信号は、周辺制御基板１５１０の図示しない周辺制御入力回路を介して、周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力される。これにより、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＬＯＣＫＮ信号出力要求データの送信に対する応答信号として、ＬＯＣＫＮ信号が入力されているときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生していないとして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していないと判断することができる一方、ＬＯＣＫＮ信号が入力されていないときにはトランスミッタとレシーバとの間の接続に不具合が発生しているとして扉枠３の皿ユニット３２０内に収納される演出表示駆動基板４４５０に不具合が発生していると判断して、その旨を伝える報知画像（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しました。店員をお呼びください。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御して遊技盤側演出表示装置１６００に出力するとともに、その旨を伝える報知音（例えば、「上皿側液晶表示装置に不具合が発生しています。」）を、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａを制御してオーディオデータ送信ＩＣ１５１２ｃに出力することにより扉枠３に設けたスピーカから報知音が流れる。これにより、遊技盤側演出表示装置１６００の表示領域に表示される報知画像と、扉枠３に設けたスピーカ等から繰り返し流れる報知音と、により報知を行うことができるようになっている。このとき、扉枠３に備える発光装飾用のＬＥＤや遊技盤５に備える各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤをすべて点灯してもよい。

【１０６７】

［７－４－３．ＲＴＣ制御部］

年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを保持するＲＴＣ制御部４１６５は、図１８５に示すように、ＲＴＣ４１６５ａを中心として構成されている。このＲＴＣ４１６５ａには、カレンダー情報と時刻情報とが保持されるＲＡＭ４１６５ａ

ａが内蔵（以下、「ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａ」と記載する。）されている。ＲＴＣ４１６５ａは、駆動用電源及びＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａのバックアップ用電源として電池４１６５ｂ（本実施形態では、ボタン電池を採用している。）から電力が供給されるようになっている。つまりＲＴＣ４１６５ａは、周辺制御基板１５１０（パチンコ機１）からの電力が全く供給されずに、周辺制御基板１５１０（パチンコ機１）と独立して電池４１６５ｂから電力が供給されている。これにより、ＲＴＣ４１６５ａは、パチンコ機１の電力が遮断されても、電池４１６５ｂからの電力供給により、カレンダー情報や時刻情報を更新保持することができるようになっている。

【１０６８】

周辺制御部１５１１の周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＲＴＣ４１６５ａのＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａからカレンダー情報や時刻情報を取得して上述した周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄにセットし、この取得したカレンダー情報や時刻情報に基づく演出を遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げることができるようになっている。このような演出としては、例えば、１２月２５日であればクリスマスツリーやトナカイの画面が遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられたり、大晦日であれば新年カウントダウンを実行する画面が遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられたりする等を挙げることができる。カレンダー情報や時刻情報は、工場出荷時に設定される。

【１０６９】

なお、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合にはＬＥＤの輝度設定情報が記憶保持されている。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから輝度設定情報を取得してバックライトの輝度調整をＰＷＭ制御により行う。輝度設定情報は、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と、現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のバックライトであるＬＥＤの輝度と、が含まれている。

【１０７０】

また、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報、時刻情報や輝度設定情報のほかに、カレンダー情報、時刻情報、及び輝度設定情報をＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに最初に記憶した年月日及び時分秒の情報として入力日時情報も記憶されている。

【１０７１】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０のバックライトが冷陰極管タイプのものが装着されている場合には、バックライトのＯＮ／ＯＦＦ制御もしくはＯＮのみとするようになっている。

【１０７２】

ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶される、カレンダー情報、時刻情報、輝度設定情報、及び入力日時情報等の各種情報は、遊技機メーカの製造ラインにおいて設定される。製造ラインにおいては、例えば遊技盤側演出表示装置１６００の表示テスト等の各種テストを行うため、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時として入力日時情報が製造ラインで入力された年月日及び時分秒である製造日時に設定される。

【１０７３】

このように、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａには、カレンダー情報や時刻情報のほかに、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合における輝度設定情報、及び入力日時情報等、パチンコ機１の機種情報（例えば、低確率や高確率における大当り遊技状態が発生する確率など）とは独立して維持が必要な情報を記憶保持することができるようになっている。

【１０７４】

また、ＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａに記憶保持される輝度設定情報等は、パチンコ機１が設置されるホールの環境によっては製造日時に設定された遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度では明るすぎたり、暗すぎたりする場合もある。そこで、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行してバックライトの輝度を所定の輝度に調節することができるようになっている。パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるほかに、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することでカレンダー情報、時刻情報を再設定したり、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を所望の輝度に調節したりすることができる。この調節された遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの所望の輝度は、輝度設定情報に記憶されるＬＥＤの輝度としてそれぞれ上書き（更新記憶）されるようになっている。

【１０７５】

なお、設定モードでは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、上述した輝度補正プログラムを実行することにより、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトがＬＥＤタイプのものが装着されている場合には、遊技盤側演出表示装置１６００の経年変化にともなう輝度低下を補正する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから、入力日時情報を取得して遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時を特定し、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定し、遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度が１００％～７０％までに亘る範囲を５％刻みで調節するための輝度調節情報と現在設定されている遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトであるＬＥＤの輝度とを有する輝度設定情報を取得する。この取得した輝度設定情報を周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに予め記憶されている補正情報に基づいて補正する。

【１０７６】

例えば、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時と現在の日時とから、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに６月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、５％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である５％だけさらに上乗せした８０％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯し、遊技盤側演出表示装置１６００を最初に電源投入した日時からすでに１２月を経過している場合には、周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂから対応する補正情報（例えば、１０％）を取得するとともに、輝度設定情報に含まれるＬＥＤの輝度が７５％で遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトを点灯するときには、この７５％に対して取得した補正情報である１０％だけさらに上乗せした８５％の輝度となるように、輝度設定情報に含まれる輝度調節情報に基づいて遊技盤側演出表示装置１６００のバックライトの輝度を調節して点灯する。

【１０７７】

なお、ＲＴＣ制御部４１６５のＲＴＣ内蔵ＲＡＭ４１６５ａａから、直接、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して現在の日時を特定してもいいし、後述する周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理において周辺制御ＲＡＭ１５１１ｃのＲＴＣ情報取得記憶領域１５１１ｃａｄにおける、カレンダー情報記憶部にセットされて周辺制御基板１５１０のシステムにより更新される現在のカレンダー情報と、時刻情報記憶部にセットされて周辺制御基板１５１０

のシステムにより更新される現在の時刻情報と、を取得して現在の日時を特定してもいい。

【１０７８】

［７－４－４．音量調整ボリューム］

音量調整ボリューム１５１０ａは、上述したように、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の音量をつまみ部を回動操作することにより調節することができるようになっている。音量調整ボリューム１５１０ａは、上述したように、そのつまみ部が回動操作されることにより抵抗値が可変するようになっており、電気的に接続された周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋがつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、上述したように、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように液晶表示制御部１５１２（音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御してスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。

【１０７９】

このように、つまみ部の回動操作に基づく音量調整によりスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から音楽や効果音が流れるようになっている。また、本実施形態では、上述したように、音楽や効果音のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音や、遊技演出に関する内容等を告知する（例えば、遊技盤側演出表示装置１６００に繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したり等。）ための告知音もスピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れるが、報知音や告知音は、つまみ部の回動操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより液晶表示制御部１５１２（音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａ）を制御して調整することができるようになっている。

【１０８０】

このプログラムにより調整される音量は、上述した７段階に分けられた基板ボリュームと異なり、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。これにより、例えば、ホールの店員等が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作して音量を小さく設定した場合であっても、スピーカ９２１及び上部スピーカ５７３から流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音によりホールの店員等が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。

【１０８１】

また、つまみ部の回動操作に基づく音量調整により設定されている現在の基板ボリュームに基づいて、広告音を流す音量を小さくして音楽や効果音の妨げとならないようにしたりする一方、広告音を流す音量を大きくして音楽や効果音に加えて遊技盤側演出表示装置１６００及び扉枠側演出表示装置４６０で繰り広げられている画面をより迫力あるものとして演出したり、遊技者にとって有利な遊技状態に移行する可能性が高いこと告知したりすることもできる。

【１０８２】

なお、本実施形態では、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節するようになっていることに加えて、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで設定モードへ移行して音楽や効果音の音量を調節することができるようになっている。パチンコ機１の電源投

入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるほかに、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作すると、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されるようになっている。この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができる。具体的には、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部の回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、周辺制御Ａ／Ｄコンバータ１５１１ａｋがアナログ値からデジタル値に変換して、この変換した値に対して、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることができるようになっている。この調節された音量は、音源内蔵ＶＤＰ１５１２ａの内蔵音源における複数のトラックのうち、音楽や効果音等の演出音の音データが組み込まれたトラックに対して、サブボリューム値として設定更新されて演出音の音量の調節に反映されるものの、上述した報知音や告知音の音量に調節に反映されないようになっている。

【１０８３】

このように、本実施形態では、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を直接回動操作することにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりすることにより音楽や効果音の音量を調節する場合と、の２つの方法がある。音量調整ボリューム１５１０ａは、周辺制御基板１５１０に実装されているため、本体枠４を外枠２から必ず開放した状態にする必要がある。そうすると、音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を回動操作することができるのは、ホールの店員となる。ところが、ホールの店員が調節した音量では、遊技者にとって小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合もあるし、遊技者にとって大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合もある。そこで、パチンコ機１の電源投入後、所定時間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作したり、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが行われている期間内において、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作したりした場合には、設定モードを行うための画面が遊技盤側演出表示装置１６００に表示され、この設定モードの画面に従って演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作することで音楽や効果音の音量を所望の音量に調節することができるようになっている。これにより、遊技者は所望の音量に音楽や効果音の音量を調節することができるため、ホールの店員が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、ホールの店員が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

【１０８４】

また、本実施形態では、パチンコ機１において遊技が行われていない状態が所定時間継続され、客待ち状態となって遊技盤側演出表示装置１６００によるデモンストレーションが繰り返し行われると（例えば、１０回）、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量がキャンセルされて、音量が初期化されるようになっている。この音量の初期化では、ホールの店員が調節した音量、つまりホールの店員が音量調整ボリューム１５１０ａのつまみ部を直接回動操作して調節した音量となるようになっている。これにより、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を小さく感じて音楽や効果音を聞き取り難い場合には、今回、パチンコ機１の

前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで大きくすることができるし、前回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行っていた遊技者が調節した音量を大きく感じて音楽や効果音をうるさく感じる場合には、今回、パチンコ機１の前面に着座して遊技を行う遊技者が演出操作ユニット４００のダイヤル操作部４０１や押圧操作部４０５を操作して所望の音量まで小さくすることができる。

【１０８５】

［８．遊技内容］

次に、本実施形態のパチンコ機１による遊技内容について、図１２０等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の前面右下隅に配置されたハンドルユニット３００のハンドル３０２を遊技者が回転操作することで、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球が、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間を通って遊技領域５ａ内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始される。遊技領域５ａ内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物２５００の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球の打込み強さは、ハンドル３０２の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大１００個の遊技球、つまり、０．６秒間隔で遊技球を打込むことができる。

【１０８６】

また、遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘（図示は省略）が遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面に植設されており、遊技球が障害釘に当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域５ａ内には、障害釘の他に、遊技球の当接により回転する風車（図示は省略）が適宜位置に備えられている。

【１０８７】

センター役物２５００の上部へ打込まれた遊技球は、センター役物２５００の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、図示しない複数の障害釘に当接しながら、センター役物２５００よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物２５００の左側の領域を流下する遊技球が、センター役物２５００の外周面に開口しているワープ入口２５２０に進入すると、ワープ出口２５２２からステージ２５３０に供給される。

【１０８８】

ステージ２５３０に供給された遊技球は、ステージ２５３０上を転動して左右に行ったり来たりして前方へ放出される。ステージ２５３０の中央のチャンス入口２５３５に遊技球が進入してチャンス出口２５３６から遊技領域５ａ内に放出されと、チャンス出口２５３６が第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この第一始動口２００２に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。

【１０８９】

ステージ２５３０を転動している遊技球が、中央以外から遊技領域５ａ内に放出されと、始動口ユニット２１００へ向かって流下する。センター役物２５００のステージ２５３０から遊技領域５ａ内に放出された遊技球は、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２、サイドユニット２２００やアタッカユニット２４００の一般入賞口２００１、及びアタッカユニット２４００における開状態の第一大入賞口２００５等、に受入れられる可能性がある。

【１０９０】

ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球が、ワープ入口２５２０に進入しなかった場合、サイドスロープ２３００の棚部２３０１により左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１や、始動口ユニット２１００の第一

始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口２００１に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、１０個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。

【１０９１】

一方、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球が、センター役物２５００の外周面の最も高くなった部位よりも右側に進入する（所謂、右打ちする）と、センター役物２５００の右案内通路２５４０からアタッカユニット２４００の上部へ放出される。右案内通路２５４０の下流端の直下には、アタッカユニット２４００におけるゲート部２００３と第二始動口２００４とが備えられたゲート通路２４２０が配置されており、高い確率で遊技球がゲート通路２４２０へ進入する。

【１０９２】

そして、右打した遊技球が、ゲート通路２４２０に進入してゲート部２００３を通過すると、主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第二始動口２００４を閉鎖している第二始動口扉２４１１が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、開状態となり、第二始動口２００４への遊技球の受入れが可能となる。そして、第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、４個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。

【１０９３】

本実施形態では、ゲート部２００３を遊技球が通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、０．０１～６０秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。この普通変動時間が短いほど、ゲート部２００３において「普通当り」を抽選した遊技球が、第二始動口２００４に受入れられるようになる。

【１０９４】

なお、遊技球がゲート部２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球がゲート部２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部２００３を遊技球が通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【１０９５】

本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動当り」、「時間短縮当り」、等）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「１５Ｒ大当りＡ」、「１５Ｒ大当りＢ」、等がある。

【１０９６】

第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果の場合、特別変動時間の経過後に、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６が所定の開閉パターンで遊技球の受入れが可能な状態となる。第一大入賞口２００５が開状態の時に、第一大入賞口２００５に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出基板によって払出装置８３０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。一方、第二大入賞口２００６が開状態の時に、第二大入賞口２００６に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出基板によって払出装置８３０から所定数（例えば、３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。従って

、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６が遊技球を受入可能としている時に、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６に遊技球を受入れさせることで、多くの遊技球を払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１０９７】

特別抽選結果が「大当り」の場合、所定のラウンドを複数回発生させる大当り遊技状態が発生する。本実施例の大当り遊技状態は、各ラウンド中に、遊技球を受入可能に開閉する開閉パターン（１回の開閉を有する開閉パターン、または、複数回の開閉を有する開閉パターン）にしたがって第一大入賞口２００５または第二大入賞口２００６が動作する。詳しくは後述するが、本実施例では、例えば「１５Ｒ大当り」であれば、１～３ラウンド目で第二大入賞口２００６を開閉させ、４～１５ラウンド目で第一大入賞口２００５を開閉させる「１５Ｒ大当り遊技状態」が発生する。

【１０９８】

なお、「大当り」では、大当り遊技状態によって第二大入賞口２００６が開状態の時に、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球が、振分片２４３３によって第二受入口２４３２に振り分けられると、大当り遊技状態の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする。

【１０９９】

本実施形態では、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に対して、夫々４つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【１１００】

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット１４００と遊技盤側演出表示装置１６００とで行われる。機能表示ユニット１４００では、主制御基板１３１０によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット１４００での特別抽選結果の示唆は、複数のＬＥＤを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているＬＥＤの組合せによって特別抽選結果を示唆する。

【１１０１】

一方、遊技盤側演出表示装置１６００では、主制御基板１３１０からの制御信号に基いて、周辺制御基板１５１０によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。遊技盤側演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の図柄からなる図柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各図柄列を変動させ、変動表示されている図柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの図柄列の図柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の図柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの図柄列が停止して各図柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が遊技盤側演出表示装置１６００に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、大当り遊技状態Ａ、大当り遊技状態Ｂ、等）が発生する。

【１１０２】

なお、機能表示ユニット１４００での特別抽選結果を示唆する時間（ＬＥＤの点滅時間（変動時間））と、遊技盤側演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する時間（図柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット１４００の方が長い時間に設定されている。

【１１０３】

また、周辺制御基板１５１０では、遊技盤側演出表示装置１６００による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠３における演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０や扉枠側演出表示装置４６０、裏ユニット３０００の裏前飾りユニット３１００、裏中可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、裏上可動演出ユニット３５００、及び裏下可動演出ユニット３７００、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【１１０４】

［９．主制御基板の制御処理］

次に、主制御基板１３１０（特に主制御ＭＰＵ１３１０ａ）で実行される制御処理の例について説明する。図１８８（ａ）は、当該パチンコ機１に電源が投入されたとき、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって行われる制御処理の手順を示すフローチャートである。

【１１０５】

同図１８８（ａ）に示されるように、この実施の形態にかかる主制御基板１３１０はまず、ＲＡＭクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ９５４が操作されていることを条件にステップＳ１の処理として、各種のレジスタやＲＡＭに格納されているデータを初期化する。操作スイッチ９５４はパチンコ機１の背面側に設けられ、本体枠４が開放されなければ操作できないようになっている。また、操作スイッチ９５４は電源投入から所定期間（例えば１秒）が経過する以前の操作に応じてクリア信号を主制御基板１３１０に出力し、電源投入時に主制御ＭＰＵ１３１０ａがクリア信号を入力されていると判断した場合に初期化処理（ステップＳ１）を実行して各種のレジスタや主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されているデータを初期化するようになっている。

【１１０６】

なお、図示していないがこの例では、パチンコ機１への電源を遮断するときには遊技の進行状況を示す情報（例えば各種フラグ等）を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに保存するバックアップ処理を実行する。そしてパチンコ機１への電源を投入したときに操作スイッチ９５４が操作されていなければ、初期化処理（ステップＳ１）を実行することなくバックアップ処理で主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに保存された情報を参照し、該情報に応じた状態に復旧させる復旧処理を実行する。また、パチンコ機１への電源投入時に操作スイッチ９５４を操作した場合には、復旧処理を実行することなく初期化処理を実行してパチンコ機１を初期状態に設定するようになっている。

【１１０７】

次いで、ステップＳ２の処理として、予め定められた数値範囲内で更新される数である乱数の更新を行う。すなわち、この実施の形態にかかる主制御基板１３１０では、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理に供される特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）、上記特別図柄の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）についての抽選処理に供される変動乱数、上記特別図柄の変動表示に対応して演出表示装置１６００で実行される装飾図柄の変動表示にてリーチ（左装飾図柄と右装飾図柄を同一図柄で停止表示して中装飾図柄を未だ停止表示していない状態や、左・中・右の装飾図柄を全て同一図柄となるように同期して変動表示する状態）するか否かの抽選処理に供されるリーチ乱数、上記特別乱数に基づいて大当りとすると判定された場合に大当りの種類を決定するための抽選処理に供される図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）、上記第二始動口扉２４１１の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理に供される乱数（普通乱数）等々、といった乱数を保持する乱数カウンタを備えている。

【１１０８】

なお、本例では第一特別図柄と第二特別図柄とで共通のリーチ乱数を用いるように、すなわち第一始動口２００２に始動入賞した場合であっても、第二始動口２００４に始動入賞した場合であっても、リーチ乱数を更新する同一のカウンタからリーチ乱数を取得する

ように構成しているが、リーチ乱数を更新する乱数の範囲が異なるカウンタから取得することによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよいし、取得したリーチ乱数と比較するリーチ判定テーブルとして第一特別図柄に対応する第一リーチ判定テーブルと、第二特別図柄と対応し、第一リーチ判定テーブルとは異なる判定値が設定される第二リーチ判定テーブルとを備えることによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよい。

【１１０９】

このステップＳ２の処理では、これら乱数のうちの当落に関わらない乱数（変動乱数）のみが更新されるかたちで当該乱数カウンタのカウンタ操作が行われることとなる。なお、こうしてステップＳ１及びＳ２の処理が行われた後は、上記ステップＳ２の処理のみが基本的に繰り返し行われる。ただし、この実施の形態では、例えば４ｍｓ毎に以下のタイマ割込制御が行われる。

【１１１０】

図１８８（ｂ）は、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって定期的に行われるタイマ割込制御についてその処理手順を示すフローチャートである。

【１１１１】

同図１８８（ｂ）に示されるように、この割込制御ではまず、ステップＳ１１の処理として、レジスタの退避処理が行われる。次いで、ステップＳ１２の処理として、上記ゲートセンサ２４０１、上記第一始動口センサ３１１２、上記第二始動口センサ４００４、上記第一大入賞口センサ４００５、上記第二大入賞口センサ２４０２、上記第一受入口センサ２４３４、上記第二受入口センサ２４３５、上記一般入賞口センサ３１１１など、各種のスイッチからの検出信号が入力される。そして次に、ステップＳ１３の処理として、上記乱数を発生させる乱数カウンタの値を更新するための乱数更新処理が行われる。なお、このステップＳ１３の処理では、上述の乱数のうち、上記特別図柄及び上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（特別乱数、普通乱数）が更新されるかたちで上記乱数カウンタのカウンタ操作が行われる。

【１１１２】

そして、こうして乱数の更新が行われた後、当該主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１４の処理として、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む特別図柄プロセス処理を実行する。なお、この特別図柄プロセス処理については後述するが、ここでは、基本的に、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている遊技の進行状況を示す特別図柄プロセスフラグ（第一特別図柄プロセスフラグ、第二特別図柄プロセスフラグ）に基づいて該当する処理が選択的に実行されることとなる。

【１１１３】

そして次に、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１５の処理として、上記第二始動口扉２４１１の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理を含む普通図柄プロセス処理を実行する。なお、この普通図柄プロセス処理でも、基本的に、遊技の進行状況を示す普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理が選択的に実行されることとなる。また、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当り遊技状態の終了後の所定期間内は、上記第二始動口扉２４１１の駆動頻度がより高くなるように当該抽選処理を実行する構成となっている（いわゆる時短状態）。なお、この実施の形態では、上記大当り遊技状態の終了後の所定期間内だけ上記普通図柄の当選確率を高くするとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を短縮し、上記普通図柄の抽選結果が当りとなったときには、上記第二始動口扉２４１１の開放時間を延長することによって、こうした時短状態を実現するようにしている。

【１１１４】

また、上記特別図柄プロセス処理（ステップＳ１４）及び普通図柄プロセス処理（ステップＳ１５）が行われると、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ１６の処理として、同特別図柄プロセス処理にて主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲ

ＡＭの所定の領域に設定されたコマンドを上記周辺制御基板１５１０などに送信する処理を行う。次いで、ステップＳ１７の処理として、上記普通図柄プロセス処理にて同じくＲＡＭの所定の領域に設定されたコマンドを例えば上記周辺制御基板１５１０などに送信する処理を行う。

【１１１５】

また、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ１８の処理として、例えばホール管理用コンピュータに供給される当り情報（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）などのデータを出力する情報出力処理を行う。

【１１１６】

そして次に、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１９の処理として、上記第一始動口センサ３１１２、上記第二始動口センサ４００４、上記第一大入賞口センサ４００５、上記第二大入賞口センサ２４０２、上記一般入賞口センサ３１１１などの検出信号がオン状態にあるときは、それら信号に応じた賞球が遊技者に払い出されるよう上記払出制御基板９５１に払出制御コマンドを出力する。これにより、上記払出制御基板９５１に搭載される払出制御ＭＰＵ９５２ａは、払出モータ駆動回路９５２ｄから払出モータ８３４に駆動信号を出力し、遊技者に賞球を払い出すようになる。

【１１１７】

また、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ２０の処理として、始動記憶数の増減をチェックする記憶処理を実行する。次いで、ステップＳ２１の処理として、パチンコ機１の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力する処理である試験端子処理を実行する。そしてその後、常時動作するアクチュエータの駆動制御を行うとともに（ステップＳ２２）、上記レジスタの内容を復帰させ（ステップＳ２３）、割込許可状態に設定した時点で（ステップＳ２４）、この制御が終了することとなる。

【１１１８】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は４ｍｓ毎に起動されることになる。なお、この実施の形態では、タイマによる割込処理によって遊技制御処理を実行することとしたが、当該割込処理では例えば割り込みが発生したことを示すフラグのセットのみを行うようにしてもよい。ただしこの場合、遊技制御処理をメイン処理にて実行することとなる。

【１１１９】

図１８９は、上記特別図柄プロセス処理（ステップＳ１４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１２０】

いま、各種の抽選処理に供される乱数が更新されたとすると（ステップＳ１３）、同図１８９に示されるように、この主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａはまず、上記第一始動口センサ３１１２による検出信号がオン状態（第一始動口２００２への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ３１）、第一特別図柄の第一特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップＳ３２）。また、上記第二始動口センサ４００４による検出信号がオン状態（第二始動口２００４への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ３３）、第二特別図柄の第二特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップＳ３４）。

【１１２１】

次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し（ステップＳ３５）、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理（ステップＳ３９）を実行する。なお、大当り制御処理では、特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理の結果が「１５Ｒ大当りＡ」を示唆する態様となったときに、１５

Ｒ大当り遊技状態Ａに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御し、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御し、第二大入賞口２００６の開放時に特別状態または非特別状態のいずれかに設定する処理を実行する。また、「１５Ｒ大当りＢ」を示唆する態様となったときに、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御し、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御し、第二大入賞口２００６の開放時に特別状態または非特別状態のいずれかに設定する処理を実行する。

【１１２２】

ここで、「特別状態」及び「非特別状態」について説明する。先ず、本実施形態では、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるときの状態として、「特別状態」と「非特別状態」の２つの状態を有している。ここで、「特別状態」は、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容される（有効化される）状態である。よって、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることによって、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることとなる。また、「非特別状態」は、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない（無効化される）状態である。よって、「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはない。また、「非特別状態」は、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはないものの、大当り遊技状態にて第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることに基づく演出を実行可能とするため、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かについて監視される期間とされている。また、本実施形態では、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることがない状態として、「特別状態」及び「非特別状態」とは異なる「無効状態」を有している。ここで、「無効状態」は、第一大入賞口２００５を開放する４～１５ラウンド目など、原則として第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることがない状態であり、仮に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない（無効化される）状態である。よって、「無効状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはない。また、「無効状態」は、不正行為などの異常が発生することにより第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合において、そのような異常発生に関する情報をホール管理側に通知可能とするため、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かについて監視される期間とされている。

【１１２３】

また、大当り制御処理（ステップＳ４１）では、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の開放制御を行った後、高確率フラグ、時短フラグ、及び時短回数カウンタの各セット処理を実行する。高確率フラグは、高確率状態であることを示すフラグである。大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態の実行中において、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態（高確率時短状態）に制御することから高確率フラグがセットされるが、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合（非特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合など）には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態（高確率時短状態）に制御しないことから高確率フラグがセットされない。そして、高確率フラグがセットされた場合には、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図１２６に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理で高確率フラグがリセットされる。

【１１２４】

また、時短フラグは、時短状態であることを示すフラグであり、大当り遊技状態の終了

後に時短状態（高確率時短状態、低確率時短状態）に制御する大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態を終了するときにセットされる。そして、時短フラグは、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図１２６に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。

【１１２５】

また、時短回数カウンタは、時短状態の継続回数としての特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示の残り回数を示すカウンタであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態（高確率時短状態、低確率時短状態）に制御する大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態を終了するときに、その時短状態の継続回数がセットされる、そして、時短回数カウンタは、そのカウンタ値が「０」になるまで特別図柄の変動表示を実行するごとにカウントダウンされるが、カウンタ値が「０」になるよりも前に次の大当りとなったときには、後述する図１２６に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる（カウンタ値を「０」に戻す）。

【１１２６】

また、大当り実行中フラグがセットされていなければ、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」であることを条件に（ステップＳ３６）、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行し（ステップＳ３７）、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」でないことを条件に（ステップＳ３６）、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ３８）。このようにこの例では、第二特別保留数カウンタの値が「０」でないときには第二特別図柄の変動表示を優先的に実行するように構成されている。

【１１２７】

図１９０は、上記第一始動口通過処理（ステップＳ３２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１２８】

いま、上記ステップＳ３１の処理において、上記第一始動口センサ３１１２がオン状態にあり、上記第一始動口２００２への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１９０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ４１の処理として、まず、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて上述の第一特別図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。

【１１２９】

このステップＳ４１の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ４２～Ｓ４４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ４２の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ４３の処理として、上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ４４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第一特別図柄保留記憶領域に格納する。

【１１３０】

ただし、上記ステップＳ４１の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ４２～ステップＳ４４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１１３１】

図１９１は、上記第二始動口通過処理（ステップＳ３４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１３２】

いま、上記ステップＳ３３の処理において、上記第二始動口センサ２５９３がオン状態にあり、上記第二始動口２００４への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１９１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５１の処理として、まず、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて上述の第二特別図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。

【１１３３】

このステップＳ５１の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ５２～Ｓ５４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ５２の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ５３の処理として、上記第二特別乱数、上記リーチ乱数、上記第二図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ５４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。

【１１３４】

ただし、上記ステップＳ５１の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ５２～ステップＳ５４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１１３５】

図１９２は、第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ３７）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３７で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄プロセス処理のステップＳ３７で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上述の第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行することとなる。

【１１３６】

１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている第一特別乱数を読み出し、読み出した第一特別乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）

２．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）

３．変動乱数に基づいて上記第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記演出表示装置１６００に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）

４．第一特別図柄表示器１４０３における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるまで待機する第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）

５．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記第一特別図柄表示器１４０３に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）

【１１３７】

なお、上記第一特別図柄プロセスフラグは、上述のステップＳ１の処理（図１８８参照）において、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【１１３８】

図１９３は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１３９】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図１９３に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１０１の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ１０２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ１０３及びＳ１０４の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【１１４０】

具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【１１４１】

そしてその後、ステップＳ１０５の処理として、上記読み出された第一特別図柄の第一特別乱数に基づいて上記大当りの当落についての抽選処理である大当り判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ１０６）、この処理を終了する。

【１１４２】

図１９４は、上記大当り判定処理（ステップＳ１０５）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１４３】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が高確率状態（高確率時短状態、高確率非時短状態）であれば（ステップＳ１１１）、図１９５（Ａ）に示す高確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ１１２）、現在の遊技状態が低確率状態であれば（ステップＳ１１１）、図１９５（Ａ）に示す低確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ１１３）、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数とを比較する（ステップＳ１１４）。

【１１４４】

図１９５（Ａ）に示す大当り判定テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭ４１００ｄに記憶され、遊技状態が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態

（低確率時短状態））の場合に使用する低確率時の大当り判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当り判定テーブルと、を備えている。そして、低確率時の大当り判定テーブルでは、１種類の第一特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９９種類の第一特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率：３００分の１）。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルと同様に、１種類の第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９９種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率：３００分の１）。

【１１４５】

また、高確率時の大当り判定テーブルでは、低確率時の大当り判定テーブルに設定される第一特別乱数と同一の第一特別乱数を含む１０種類の第一特別乱数が大当り判定値と一致し、２９０種類の第一特別乱数がはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率：３０分の１）。このように、この実施の形態では、高確率状態（高確率時短状態）では、大当りに当選したことを示す大当り判定値が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の１０倍に高められる。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルと同様に、低確率時の大当り判定テーブルに設定される第二特別乱数と同一の第二特別乱数を含む１０種類の第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９０種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率：３０分の１）。

【１１４６】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数との比較の結果、大当りとすると判定した場合には（ステップＳ１１５）、当該変動が大当りに当選していることを示す大当りフラグをセットして処理を終了し（ステップＳ１１６）、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、図示しないリーチ判定テーブルとステップＳ１０２で読み出したリーチ乱数とを比較する（ステップＳ１１７）。そして、リーチ判定テーブルとステップＳ１０２で読み出したリーチ乱数との比較の結果、リーチはずれとすると判定した場合には（ステップＳ１１８）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップＳ１１９）。

【１１４７】

図１９６は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１４８】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１９６に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記大当り判定処理（ステップＳ１０５）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ１２１）を判別することにより行う。

【１１４９】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１２１で大当りフラグがセットされていれば、

第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一図柄乱数と図１９５（Ｂ）に示す図柄決定テーブルとを比較することにより（ステップＳ１２２）、大当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ１２３）。一方、ステップＳ１２１で大当りフラグがセットされていなければ、第一特別図柄の変動停止時の態様としてはずれ図柄に決定する（ステップＳ１２４）。

【１１５０】

図１９５（Ｂ）に示すように、図柄決定テーブルには、判定結果毎（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）が関連付けされるかたちで記憶されている。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａでは、取得した図柄乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当りの種類を決定する。なお、本例の図柄決定テーブルでは、第一図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率と第二図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率とが異なるように設定している。

【１１５１】

具体的には、

１．１５Ｒ大当り遊技状態Ａに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するものであって、１ラウンド目で第二大入賞口２００６を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）及び長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、２０秒）するときに特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＡ

２．１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するものであって、１ラウンド目で第二大入賞口２００６を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）するときに特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＢ、の２種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

【１１５２】

本例では、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルとを備えている。そして、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルでは、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと比べて判定値の振分けが異なるように設定されており、各々の大当りの決定割合が異なるようにしている。具体的には、図１９５（Ｂ）に示すように、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいて、１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＢのうち、遊技者に比較的有利な１５Ｒ大当りＡ（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当り）に対して５０個の判定値の振分けが設定されているのに対し、遊技者に比較的不利な１５Ｒ大当りＢ（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が低い大当り）に対して５０個の判定値の振分けが設定されている。一方、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいては、１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＢのうち、遊技者に

比較的有利な１５Ｒ大当りＡに対してのみ判定値の振分けが設定されている。このように、第一特別図柄側の大当り時には、遊技者の有利度合いが異なる１５Ｒ大当りＡ又は１５Ｒ大当りＢのいずれかを決定することから、初大当り時にどのような大当りの種類が決定されるかに注目させることができる。また、大当り遊技状態の終了後に制御される時短状態では、第二特別図柄側の遊技（第二始動口２００４への遊技球の入球を可能とする遊技）が行われるが、第二特別図柄側の大当り時には、必ず１５Ｒ大当り遊技Ａに決定することから、連荘時にどの程度の賞球量を獲得することができるかだけに注目させることができる。したがって、初大当り時と連荘時とでゲーム性が変化するため、遊技が単調とはならない。

【１１５３】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定し、１５Ｒ大当りＢに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＢ図柄に決定する。なお、図示しない第二特別図柄停止図柄設定処理において、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定する。

【１１５４】

そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、ステップＳ１２５の処理として、これら抽選結果（大当りの種類、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板１５１０に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする。そしてその後は、ステップＳ１２６の処理として、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように演出表示装置１６００を表示制御する。

【１１５５】

具体的には、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち１５Ｒ大当りＡを特定した場合には１５Ｒ大当りＡ図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には１５Ｒ大当りＢ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御する。このように、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄が１５Ｒ大当りＡ図柄または１５Ｒ大当りＢ図柄のいずれかで変動停止されたときには、その装飾図柄の停止図柄から大当りであることを判別することができるが、１５Ｒ大当りＡ図柄及び１５Ｒ大当りＢ図柄として共通の図柄を用いているため、１５Ｒ大当りＡまたは１５Ｒ大当りＢのいずれかを判別することができない。

【１１５６】

また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドからリーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただし左右の装飾図柄が同一）に決定し、はずれを特定した場合にはリーチを伴わないはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただし左右の装飾図柄が非同一）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御する。

【１１５７】

図１９７は、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１５８】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１９７に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当りフラグがセットされていれば（ステップＳ１４１）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ１２３で決定した大当りの種類、及び現在の遊技状態に応じた大当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ１４２）、リーチフラグがセットされていれば（ステップＳ１４３）、現在の遊技状態に応じたリーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ１４４）、大当りフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のはずれ（リーチ演出を実行しないはずれ）となる場合には、はずれ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップＳ１４５）。
【１１５９】
そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した変動乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップＳ１４６）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板１５１０に通知する変動パターンコマンドをセットして第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップＳ１４７）。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップＳ１４８）。これにより、こうして決定された変動時間だけ第一特別図柄表示器１４０３及び上記演出表示装置１６００にて演出制御が行われるようになる。
【１１６０】
なお、本例の変動パターンテーブルは、特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）及び図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記変動乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、特別乱数及び図柄乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した変動乱数とを比較し、上記読み出した変動乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについての抽選処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶されている。
【１１６１】
また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、リーチ演出のうちスーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも大当り期待度が高く、スーパーリーチ演出が実行されたときには、大当り遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。
【１１６２】
また、第一特別図柄の変動表示制御が開始されると、次にステップＳ１４９の処理として、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【１１６３】
本例では、はずれ時の変動パターンテーブルにおいて、時短時には１秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされる一方、非時短時には１２秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされるかたちで、特別図柄の変動パ

ターンが設定されている。すなわち、時短時に選択されるはずれ時の変動パターンには、非時短時に選択されるはずれ時の変動パターンと比べると、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間が極めて短時間となるよう、上記特別図柄の変動時間情報が設定されている。

【１１６４】

図１９８は、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１６５】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図１９８に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１７１の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（ステップＳ８２）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを１減算する。そして、変動時間タイマが０、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップＳ１７２）、次にステップＳ１７３の処理に移行する。すなわち、このステップＳ１７３の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【１１６６】

図１９９は、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１６７】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図１９９に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１８１の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記第一特別図柄表示器１４０３に表示させるための表示制御を行うとともに、上記演出表示装置１６００に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板１５１０へのコマンドとしてセットする（ステップＳ１８２）。

【１１６８】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記時短フラグがセットされているとともに、時短状態の継続回数がセットされる時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かを判断する（ステップＳ１８３）。そして、このカウンタ値が「０」でなければ、該時短回数カウンタをカウントダウンした後（ステップＳ１８４）、同時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かをさらに判断する（ステップＳ１８５）。そしてこの結果、同カウンタ値が「０」であれば、上記時短フラグをリセットし、さらに上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットする（ステップＳ１８６）。なお、上記ステップＳ１８３の処理にて時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であると判断された場合や、上記ステップＳ１８５の処理にて時短回数カウンタが「０」でないと判断された場合には、その時点でステップＳ１８７の処理に移行する。

【１１６９】

また、上記大当りフラグがセットされているときは（ステップＳ１８７）、大当り遊技状態を開始することを示す大当り開始コマンドをセットし（ステップＳ１８８）、大当り遊技状態を開始（大当りラウンド開始コマンドをセット）するまでの待機時間（大当り遊技状態を開始する旨の表示等を行う期間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ１８９）。そして次に、上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットし、上記時短フラグがセットされている場合には該時短フラグをリセットし、さらに時短回数カウンタのカウンタ値が「０」でない場合には同カウンタ値をリセット（「０」に戻す）した後、大当り遊技状態の実行中であることを示す大当り実行中フラグをセットし（ステップＳ１９０）、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図

柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ１９１）、この処理を終了する。

【１１７０】

なお、大当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りの種類（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に応じて個々に用意されている。ステップＳ１８８では、大当りの種類に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）をセットする。これにより、大当り開始コマンドによって指示された大当りの種類に応じた演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。

【１１７１】

図２００は、上記大当り制御処理（ステップＳ３９）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１７２】

上記ステップＳ１８９では、大当り遊技状態を開始するまでの待機時間をインターバルタイマにセットしているが、ステップＳ４０１の処理において、このインターバルタイマにセットされた待機時間を経過した後には、同図２００に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するとともに、第二大入賞口２００６の開放時に特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）または非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）のいずれかに設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを監視する大入賞口開閉処理（ステップＳ４０２）と、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第二受入口２４３２に振り分けることが可能な振分片２４３３の駆動制御を行う第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）と、を順に実行する。

【１１７３】

図２０１は、上記大入賞口開閉処理（ステップＳ４０２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１７４】

いま、ステップＳ４１１の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６が開放状態にあると判断されるとすると、同図２０１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記第一大入賞口２００５及び上記第二大入賞口２００６の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに２０秒、短時間開放のときに０．５秒）が経過したとき（ステップＳ４１２）、あるいは、開放状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６に遊技球が最大入賞数（例えば、９個）入賞したときには（ステップＳ４１３）、開放状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御する（ステップＳ４１４）。そして、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンドを終了すると判断された場合には（ステップＳ４１５）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして大当りの種類及び現在のラウンド数に応じた大当りラウンド終了コマンドをセットした時点で（ステップＳ４１６）、この処理を終了する。

【１１７５】

また、ステップＳ４１１の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６が閉鎖状態にあると判断されるとすると、同図２０１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記第一大入賞口２００５及び上記第二大入賞口２００６の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態とするタイミングになったときには（ステップＳ４１７）、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御

することにより新たなラウンドを開始すると判断された場合には（ステップＳ４１８）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして大当りの種類及び新たなラウンド数に応じた大当りラウンド開始コマンドをセットする（ステップＳ４１９）。そして、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットするタイミングであると判断された場合、すなわち、上記第二大入賞口２００６の開放時である場合には（ステップＳ４２０）、後述する第二受入口２４３２の状態設定スケジュールに従って、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットする（ステップＳ４２１）。なお、既に特別状態フラグがセットされている場合に特別状態フラグを再セットする必要はなく、同様に、既に非特別状態フラグがセットされている場合に非特別状態フラグを再セットする必要はない。そして、閉鎖状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御した時点で（ステップＳ４２２）、この処理を終了する。なお、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御することにより新たなラウンドを開始することにならない（同じラウンド内における２回目の開放など）と判断された場合（ステップＳ４１９）、あるいは、特別状態フラグまたは非特別状態フラグをセットするタイミングであると判断された場合（上記第二大入賞口２００６の開放時である場合）には（ステップＳ４２０）、閉鎖状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御した時点で（ステップＳ４２２）、この処理を終了する。これにより、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドによって指示された大当りの種類及び現在のラウンド数に応じた演出を演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行することができる。

【１１７６】

なお、特別状態フラグは、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定された状態であることを示すフラグであり、非特別状態フラグは、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定された状態であることを示すフラグである。上記第二大入賞口２００６の開放時には、後述する第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）で第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御することにより第二受入口２４３２に遊技球を受け入れ可能にするとともに、特別状態又は非特別状態のいずれかに設定されている。

【１１７７】

また、ステップＳ４１７の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態とするタイミングではないと判断されるとすると、同図２０１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６の開放状態と閉鎖状態とを繰り返すことにより全てのラウンド数を終了したときには（ステップＳ４２３）、大当り実行中フラグをリセットする（ステップＳ４２４）。そして、後述する第二受入口通過フラグがセットされていると判断された場合には（ステップＳ４２５）、高確率フラグをセットし（ステップＳ４２６）、時短フラグをセットするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、１００回）をセットした時点で（ステップＳ４２７）、この処理を終了する。なお、第二受入口通過フラグがセットされていないと判断された場合には（ステップＳ４２５）、高確率フラグをセットすることがなく、時短フラグをセットするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、１００回）をセットした時点で（ステップＳ４２７）、この処理を終了する。このように、第二受入口通過フラグがセットされている（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた）と判断された場合には、高確率フラグ及び時短フラグをセットし、高確率時短状態に制御するが、第二受入口通過フラグがセットされていない（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった）と判断された場合には、時短フラグのみをセットし、低確率時短状態に制御するようになる。

【１１７８】
図２０２は、上記第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１７９】
いま、ステップＳ４３１の処理において、上記第二受入口２４３２が開放状態（振分片２４３３により第二受入口２４３２側に遊技球が振り分けられる状態）にあると判断されるとすると、同図２０２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記振分片２４３３の動作スケジュールに従って、上記第二受入口２４３２の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに１０秒、短時間開放のときに０．２秒）が経過したとき（ステップＳ４２３）、あるいは、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンドを終了するときには（ステップＳ４３３）、開放状態の上記第二受入口２４３２を閉鎖状態（振分片２４３３により第一受入口２４３１側に遊技球が振り分けられる状態）に制御する（ステップＳ４３４）。
【１１８０】
また、ステップＳ４３１の処理において、上記第二受入口２４３２が閉鎖状態にあると判断されるとすると、同図２０２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記振分片２４３３の動作スケジュールに従って、上記第二受入口２４３２を開放状態とするタイミングになったときには（ステップＳ４３５）、閉鎖状態の上記第二受入口２４３２を開放状態に制御する（ステップＳ４３６）。
【１１８１】
次に、ステップＳ４３７の処理において、開放状態の上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたと判断されるとすると、同図２０２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、特別状態フラグのセット中で、特別状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか（ステップＳ４３８）、あるいは、非特別状態フラグのセット中で、非特別状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか（ステップＳ４４２）、を判断する。そして、特別状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたと判断された場合には（ステップＳ４３８）、その特別状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたことを示す第二受入口通過フラグがセットされていない場合に（ステップＳ４３９）該第二受入口通過フラグをセットし（ステップＳ４４０）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして第二受入口通過コマンドＡをセットした時点で（ステップＳ４４１）、この処理を終了する。また、非特別状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたと判断された場合には（ステップＳ４４２）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして第二受入口通過コマンドＢをセットした時点で（ステップＳ４４３）、この処理を終了する。これにより、第二受入口通過コマンドＡ又は第二受入口通過コマンドＢによって指示された特別状態中又は非特別状態中のいずれで上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたかに応じた演出を演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行することができる。
【１１８２】
図２０３は、上記普通図柄プロセス処理（ステップＳ１５）についてその手順を示すフローチャートである。
【１１８３】
いま、ステップＳ８０１の処理において、上記ゲートセンサ２４０１による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図２０３に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ８０２の処理として、まず、普通図柄の普通乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納するなどのゲート部通過処理を実行する。
【１１８４】

次いで、普通図柄プロセス処理では、普通図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行する。

【１１８５】

１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている普通乱数を読み出し、読み出した普通乱数に基づいて上記普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）

２．普図変動乱数に基づいて上記普通図柄表示器１４０２に表示される普通図柄の変動態様（変動時間）についての抽選処理などが行われる普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ８０４）

３．普通図柄表示器１４０２における上記普通図柄の変動表示が停止されるまで待機する普通図柄変動処理（ステップＳ８０５）

４．普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された普通図柄の変動制御停止時の態様が上記普通図柄表示器１４０２に表示されるように上記普通図柄の変動表示を停止させる普通図柄停止処理（ステップＳ８０６）

５．普通図柄の変動制御停止時の態様についての抽選処理の結果が「普図当り」を示唆する態様となったとき、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御する処理を実行する普通電動役物開放処理（ステップＳ８０７）

【１１８６】

なお、上記普通図柄プロセスフラグは、上述のステップＳ１の処理（図１８８参照）において、上記普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【１１８７】

図２０４は、上記ゲート部通過処理（ステップＳ８０２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１８８】

いま、上記ステップＳ８０１の処理において、上記ゲートセンサ２４０１による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図２０４に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ８１１の処理として、まず、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて普通図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。

【１１８９】

このステップＳ８１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ８１２～Ｓ８１４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ８１２の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ８１３の処理として、上記普通乱数、上記普図変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ８１４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に対応する普通図柄保留記憶領域に格納する。

【１１９０】

ただし、上記ステップＳ８１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ８１２～ステップＳ８１４の処理を実行しないことで、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１１９１】

図２０５は、上記普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１１９２】

上記普通図柄プロセスフラグが当該普通図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図２０５に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ８２１の処理として、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ８２２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納されている普通図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、普通乱数、普図変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ８２３及びＳ８２４の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（普通乱数、普図変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【１１９３】

具体的には、普通図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、上記ゲート部２００３への遊技球の通過に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に上記ゲート部２００３に遊技球が通過するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記普通図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【１１９４】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が時短状態（低確率時短状態、高確率時短状態）であれば（ステップＳ８２６）、時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ８２６）、現在の遊技状態が非時短状態（低確率非時短状態）であれば（ステップＳ８２５）、非時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ８２７）、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数とを比較する（ステップＳ８２８）。

【１１９５】

なお、普図当り判定テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶され、遊技状態が時短時（低確率時短状態、高確率時短状態）の場合に使用する時短時の普図当り判定テーブルと、遊技状態が非時短時（低確率非時短状態）の場合に使用する非時短時の普図当り判定テーブルと、を備えている。そして、普通乱数と比較するために参照される時短時の普図当り判定テーブルでは、２５１種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致し、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致することがないように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとき、普図当りに必ず当選し、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御している。

【１１９６】

また、普通乱数と比較するために参照される非時短時の普図当り判定テーブルでは、２５１種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致することがなく、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致するように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、非時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとしても、普図当りに当選することがないため、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御することがない

。
【１１９７】
上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数との比較の結果、普図当りとすると判定した場合には（ステップＳ８２９）、当該変動が普図当りに当選していることを示す普図当りフラグをセットした後（ステップＳ８３０）、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図当り図柄を決定する（ステップＳ８３１）、一方、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図はずれ図柄を決定する（ステップＳ８３２）。そしてその後、上記普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ８０４）にプロセス移行されるよう上述の普通図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ８３３）、この処理を終了する。
【１１９８】
本例では、上記時短状態の制御において、上記普通図柄の当選確率を２５１／２５１に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当りとなるとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を極端に短い所定時間（例えば、０．３秒）に短縮している。そして、上記普通図柄の抽選結果が当りとなったときには、上記第二始動口２００４を極端に長い所定時間（例えば、５．５秒）の間、開状態として閉鎖する開閉パターンで制御している。つまり、上記時短状態の制御中には、上記普通図柄の抽選結果が当りとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口２００４の開状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口２００４へ遊技球を入賞させることを格段に容易とし、上記第一始動口２００２よりも上記第二始動口２００４を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができる。なお、上記非時短状態の制御においては、上記普通図柄の当選確率を０／２５１に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当りとなることがなく、上記第二始動口２００４を狙ったとしても上記第二始動口２００４に遊技球を入賞させることができない。
【１１９９】
上記したように、上記非時短状態の制御中には、上記第二始動口２００４を狙ったとしても上記第二始動口２００４に遊技球を入賞させることができないため、上記第一始動口２００２に遊技球が入賞するように、上記センター役物２５００の左側を狙って遊技球を発射（いわゆる「左打ち」）しなければならない。また、上記センター役物２５００の左側の遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘が遊技パネル１１００の前面に植設されており、遊技球がその障害釘に当接することで、遊技球に様々な動きが付与されて流下するようになっている。このため、上記第一始動口２００２を狙って上記センター役物２５００の左側に遊技球を打ち込んだとしても、上記第一始動口２００２に入賞するとは限らず、上記第一始動口２００２に入賞しなかった遊技球は、遊技領域５ａの左右方向中央下端に設けられたアウト口１１２６から外部に排出される。
【１２００】
一方、上記時短状態の制御中には、上記第一始動口２００２よりも上記第二始動口２００４を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができるため、上記第二始動口２００４に遊技球が入賞するように、上記センター役物２５００の右側を狙って遊技球を発射（いわゆる「右打ち」）しなければならない。また、遊技盤５の構造上、上記第二始動口２００４を開放したときに、上記第二始動口２００４を狙って上記センター役物２５００の右側に遊技球を打ち込むと、上記ゲート部２００３を通過した遊技球が、上記第二始動口２００４に極めて高い確率で入賞するようになっている。このため、上記時短状態の制御中では、上記センター役物２５００の右側に打ち込んだ遊技球が無駄となる（アウト口１１２６またはサブアウト口２００７から外部に排出される）ことが殆どなく、上記非時短状態の制御中における上記第一始動口２００２と比べて、遊技球が極めて効率良く上記第二始動口２００４に入賞するようになる。

【１２０１】
また、上記時短状態の制御中には、遊技盤５の構造に加え、上記ゲート部２００３を通過したときに、上記普通図柄の抽選結果が当りとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口２００４の開放状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口２００４へ遊技球が入賞しやすく、さらに、上記第二始動口２００４へ遊技球が入賞したときに、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間を１秒程度とし、上記非時短状態の制御中における１０～１２０秒の範囲と比べて極めて短くなるため、短時間で上記特別図柄の変動表示制御（上記特別図柄の変動表示制御の保留）を消化することができる。すなわち、大当り遊技状態の終了後に上記時短状態に制御した場合には、上記第二始動口２００４を狙って上記センター役物２５００の右側に遊技球を打ち込むことで、短時間で再び大当りとなって大当り遊技状態に制御し、多くの遊技球の獲得を期待することができる。なお、上記したように本実施形態では、上記第二始動口２００４への遊技球の入賞により払出される遊技球の数を、１個としているので、上記第二始動口２００４への遊技球の入賞が頻繁に起きたとしても、遊技者の興趣を高めつつ遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【１２０２】
［１０．周辺制御基板の制御処理］
次に、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａによって実行される処理について説明する。図２０６は、当該パチンコ機１に電源が投入されるとき、上記周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａによって行われる制御についてその処理手順を示すフローチャートである。
【１２０３】
図２０６に示すように、パチンコ機１への電力供給が開始されると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、初期設定処理を行う（ステップＳ５０１）。この初期設定処理は、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのＲＡＭをクリアする処理等が行われる。なお、この初期設定処理中では割込禁止となっており、初期設定処理のあと割込許可となる。初期設定処理（ステップＳ５０１）が終了すると、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされたか否かを監視するループ処理を開始する（ステップＳ５０２）。
【１２０４】
この実施の形態では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、２ｍｓ経過毎に割込を発生させ、２ｍｓ定常処理を実行する。２ｍｓ定常処理では、１６ｍｓ経過監視カウンタをカウントアップする（１６ｍｓ経過監視カウンタを１加算する）処理が実行され、１６ｍｓ経過監視カウンタの値が８になったとき、すなわち、１６ｍｓ経過したときに１６ｍｓ経過フラグＴをセットするとともに、１６ｍｓ経過監視カウンタをリセット（０にする）処理が実行される。このように、１６ｍｓ経過フラグＴは、２ｍｓ定常処理にて１６ｍｓ毎に「１」に設定（セット）され、通常は「０」に設定（リセット）されている。ステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグがセットされている（１６ｍｓ経過フラグＴが「１」）ときには、１６ｍｓ経過フラグをリセットした後（ステップＳ５０３）、１６ｍｓ定常処理を行う（ステップＳ５０４）。
【１２０５】
この１６ｍｓ定常処理では、主制御基板１３１０から受信したコマンドにもとづいて演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等を制御する処理が実行される。１６ｍｓ定常処理を終了すると、再びステップＳ５０２に戻り、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされる毎に、つまり１６ｍｓ毎に上述したステップＳ５０３～ステップＳ５０４を繰り返し行う。一方、ステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグＴがセットされていない（１６ｍｓ経過フラグＴが「０」）ときには、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされるまでループ処理を行う。
【１２０６】
図２０７は、サブメイン処理にて１６ｍｓ毎に実行される１６ｍｓ定常処理の一例を示すフローチャートである。１６ｍｓ定常処理において、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ス

テップＳ６０１～ステップＳ６０６の処理を実行する。ステップＳ６０１のコマンド解析処理では、主制御基板１３１０から受信したコマンドを解析する。ステップＳ６０２の演出制御処理では、変動パターン設定処理（第一変動パターン設定処理のステップＳ１４７、第二特別図柄プロセス処理の第一変動パターン設定処理に対応する処理（第二変動パターン設定処理））でセットされることにより送信された変動パターンコマンドを受信したことにもとづいて演出表示装置１６００に関わる制御処理を実行する。

【１２０７】

また、ステップＳ６０３の音制御処理では、スピーカ等に関わる制御処理を実行する。ステップＳ６０４のランプ制御処理では、パチンコ機１に設けられたランプ・ＬＥＤに関わる制御処理を実行する。ステップＳ６０５の情報出力処理では、ランプ駆動基板４０１７にランプ・ＬＥＤの点灯信号を送信する処理などを実行する。ステップＳ６０６の乱数更新処理では、演出制御処理（ステップＳ６０２）で各種設定に用いられる乱数（例えば先読み乱数）を更新する処理を実行する。

【１２０８】

なお、１６ｍｓ定常処理におけるステップＳ６０１～ステップＳ６０６の処理は１６ｍｓ以内に終了する。仮に、１６ｍｓ定常処理を開始してから当該１６ｍｓ定常処理の終了までに１６ｍｓ以上かかったとしても、１６ｍｓ定常処理を開始してから１６ｍｓ経過したときに直ぐに１６ｍｓ定常処理を最初から（ステップＳ６０１のコマンド解析処理から）実行しない。すなわち、１６ｍｓ定常処理の実行中に１６ｍｓ経過したときには、１６ｍｓ経過フラグのセットのみを行い、当該１６ｍｓ定常処理の終了後にステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグがセットされていると判定されたときに１６ｍｓ定常処理を開始する。

【１２０９】

また、この実施の形態では、１６ｍｓ定常処理にて乱数更新処理（ステップＳ６０６）を実行して各種乱数を更新するように構成しているが、各種乱数を更新する時期（タイミング）はこれに限られるものではない。例えば、サブメイン処理におけるループ処理および１６ｍｓ定常処理のいずれか一方または両方にて各種乱数を更新するように構成してもよい。

【１２１０】

［１１．本実施形態の大当り遊技状態について］

本実施形態では、内部に第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６を備え、第二大入賞口２００５の開放中に第二受入口２４３２を開放状態（振分片２４３３により第二受入口２４３２側に遊技球が振り分けられる状態）とし、第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を行い、さらに第二大入賞口２００５の開放中に特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）または非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）のいずれかに設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を行っている。ただし、第二大入賞口２００５の開放中に特別状態または非特別状態のいずれの期間に設定されているかについては、遊技者に通知しておらず、第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられた（受け入れられた）だけでは、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができない。このような特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技例について、図２０８乃至図２１１を参照して説明する。

【１２１１】

図２０８（Ａ）は、上記第二受入口２４３２の閉鎖状態（振分片２４３３により第一受入口２４３１側に遊技球が振り分けられる状態）を示す図であり、図２０８（Ｂ）は、上記第二受入口２４３２の開放状態（振分片２４３３により第二受入口２４３２側に遊技球

が振り分けられる状態）を示す図である。

【１２１２】

上記したようにアタッカユニット２４００は、第二大入賞口２００６と、第二大入賞口２００６を開閉する第二大入賞口扉２４１３と、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球を検知する第二大入賞口センサ２４０２と、を備えている。この第二大入賞口扉２４１３は、第二アタッカソレノイド２１０９の駆動によって進退するように形成されており、第二アタッカソレノイド２１０９がＯＦＦ（非通電時）のときに第二大入賞口２００６を閉鎖し、第二アタッカソレノイド２１０９がＯＮ（通電時）のときに第二大入賞口２００６を開放させる。

【１２１３】

また、アタッカユニット２４００は、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球が流通可能な内部通路２４３０と、内部通路２４３０の底部に開口している第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２と、内部通路２４３０において遊技球を第一受入口２４３１又は第二受入口２４３２の何れかに振り分ける振分片２４３３と、第一受入口２４３１に受入れられた遊技球を検知する第一受入口センサ２４３４と、第二受入口２４３２に受入れられた遊技球を検知する第二受入口センサ２４３５と、を備えている。この振分片２４３３は、振分ソレノイド２１１０の駆動によって回転するように形成されている。図２０８（Ａ）に示すように、振分ソレノイド２１１０がＯＦＦ（非作動時）のときには、振分片２４３３が垂直に立上って第二大入賞口２００６と第一受入口２４３１とを連通させた状態となり、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第一受入口２４３１側に振り分けられる。一方、図２０８（Ｂ）に示すように、振分ソレノイド２１１０がＯＮ（作動時）のときには、振分片２４３３の上辺が正面視左方へ移動して内部通路２４３０の左側の側壁に当接（或いは、接近）して第二大入賞口２００６と第二受入口２４３２とを連通させた状態となり、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２側に振り分けられる。

【１２１４】

図２０９（Ａ）に示す１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭ４１００ｄに記憶され、１～１５ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールと、振分片２４３３の動作スケジュールと、第二受入口２４３２の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。同様に、図２０９（Ｂ）に示す１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭ４１００ｄに記憶され、１～１５ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールと、振分片２４３３の動作スケジュールと、第二受入口２４３２の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。図２１０（Ａ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートであり、図２１０（Ｂ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートである。

【１２１５】

図２０９（Ａ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、１ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）し、ラウンド内インターバル時間として所定時間（４．５秒）が経過した後に第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。

【１２１６】
　また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、２ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。
【１２１７】
　また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、３ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するように設定されている。また、３ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、所定時間（４．８秒）が経過した後に長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。
【１２１８】
　図２０９（Ｂ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。
【１２１９】
　また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、２ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、所定時間（４．８秒）が経過した後に長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。
【１２２０】
　また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、３ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）し、ラウンド内インターバル時間として所定時間（４．５秒）が経過した後に第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するように設定されている。また、３ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、３ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。
【１２２１】

図２１０（Ａ）及び図２１０（Ｂ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１～３ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放パターンを同じにしているため、振分片２４３３の作動パターン（振分片２４３３の作動時間や作動タイミング）が一部で異なるものの、１５Ｒ大当り遊技状態Ａであるか又は１５Ｒ大当り遊技状態Ｂであるかを遊技者が判別困難となっている。

【１２２２】

本実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも１ラウンド目に特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、１ラウンド目における第二大入賞口２００６の２回目の開放時に長時間開放（２０秒）するため、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて容易であり、さらに第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）する期間中に振分片２４３３を長時間作動（１０秒）するため、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて容易となっている。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、特別状態に設定された１ラウンド目で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が極めて高いため、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率も極めて高くなっている。一方、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１ラウンド目に第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）しかしないため、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）する期間中に振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）しかしないため、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、特別状態に設定された１ラウンド目で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が極めて低いため、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率も極めて低くなっている。

【１２２３】

また、本実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも第二大入賞口２００６の１回目の開放時に短時間開放（０．５秒）しかしないため、第二大入賞口２００６の１回目の開放時には、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）する期間中に振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）しかしないため、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。これに対し、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも第二大入賞口２００６の２回目の開放時に長時間開放（２０秒）するため、第二大入賞口２００６の２回目の開放時には、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて容易であり、さらに第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）する期間中に振分片２４３３を長時間作動（１０秒）するため、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて容易となっている。ただし、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、第二大入賞口２００６の２回目の開放時が１ラウンド目に相当し、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、第二大入賞口２００６の２回目の開放時が２ラウンド目に相当し、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。また、第二大入賞口２００６の２回目の開放時が何ラウンド目である

のか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、第二大入賞口２００６の２回目の開放時に、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられた（受け入れられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となっている。

【１２２４】

なお、本実施形態では、第二大入賞口２００６の開放を開始するときに振分片２４３３の作動を開始するようにしているが、第二大入賞口２００６を閉鎖するよりも前に振分片２４３３の作動を終了するようにしている。また、第二大入賞口２００６の開放を開始するときに特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）又は非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）のいずれかに設定し、第二大入賞口２００６を閉鎖した後に次のラウンドを開始するまで、その設定した特別状態又は非特別状態のいずれかを継続するようにしている。このため、振分片２４３３が作動することにより第二受入口２４３２に振り分けられた（受け入れられた）遊技球が、第二大入賞口２００６が閉鎖した後（振分片２４３３の作動が終了した後）に第二受入口センサ２４３３に到達した場合であっても、特別状態又は非特別状態のいずれの期間に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたかを判別できるようになっている。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目では、特別状態又は非特別状態のいずれに設定されているが、それ以外の期間、例えば、第一大入賞口２００５を開放する４～１５ラウンド目では、原則として第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）ことがなく、特別状態及び非特別状態とは異なる無効状態に設定されている。

【１２２５】

また、本実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける各々のラウンド（１～３ラウンド目）では、第二大入賞口２００６の開放時間が経過するよりも前であっても、開放状態の第二大入賞口２００６に遊技球が最大入賞数（例えば、９個）入賞したときには、開放状態の第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御するようにしている。そして、第二大入賞口２００６の開放時間が経過するよりも前に第二大入賞口２００６を閉鎖状態にするときには、振分片２４３３の作動中であれば振分片２４３３を非作動とするようにしている。ただし、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）又は非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）の設定については、第二大入賞口２００６の開放時間が経過するよりも前に第二大入賞口２００６を閉鎖状態にした場合であっても、次のラウンドを開始するまでは、その設定した特別状態又は非特別状態のいずれかを継続するようにしている。

【１２２６】

また、本実施形態では、振分片２４３３の動作スケジュールとして、振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、所定時間（４．８秒）が経過した後に振分片２４３３を長時間開放（１０秒）するように設定されている単一の動作スケジュールを有しており、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける各々のラウンド（１～３ラウンド目）を開始するごとに、そのような振分片２４３３の動作スケジュールを開始するようにしている。このように、振分片２４３３の動作スケジュールを単一の動作スケジュールとすることで、振分片２４３３の動作スケジュールに関するデータ量を極力増加させないようにしている。

【１２２７】

なお、第一実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける各々のラウンドで、第二大入賞口２００６を２回開放する場合には、第二大入賞口２００６の１回目の開放時と２回目の開放時との間に、ラウンド内インターバルとして、４．

５秒が設定されている。一方、ラウンド内の第二大入賞口２００６の開放を終了したときに当該ラウンドを終了するようにし、その第二大入賞口２００６の開放を終了してから次回のラウンドを開始するまでの間に、ラウンド間インターバル時間として、４．５秒が設定されている。このように、ラウンド内インターバル時間と、ラウンド間インターバル時間と、を同じ時間（４．５秒）に設定することで、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開放パターン（動作パターン）を、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで近似させることが可能となっている。

【１２２８】

図２０９（Ａ）及び図２０９（Ｂ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、４～１５ラウンド目の各々のラウンドにおける第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第一大入賞口２００５を長時間開放（３０秒）するように設定されている。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも４～１５ラウンド目では、１～３ラウンド目のような第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を行うことがなく、単純に、第一大入賞口２００５の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うこととなる。そして、４～１５ラウンド目の各々のラウンドにおける第一大入賞口２００５の開放時間は、１～３ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口２００６の開放時間よりも長く、また、４～１５ラウンド目における第一大入賞口２００５の開放により獲得することが可能な賞球量は、１～３ラウンド目における第二大入賞口２００６の開放により獲得することが可能な賞球量よりも多いことから、１～３ラウンド目における遊技とは異なり、４～１５ラウンド目における遊技を遊技者が安心してゆったりと行うことができるようになっている。

【１２２９】

次に、演出表示装置１６００における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの実行時の具体的な演出例について、図２１１を参照して説明する。本実施形態では、少なくとも１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目で、演出表示装置１６００にて共通の演出を実行するようにしている。

【１２３０】

まず、演出表示装置１６００では、周辺制御基板１５１０が受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように表示制御されるが、装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち１５Ｒ大当りＡを特定した場合には１５Ｒ大当りＡ図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には１５Ｒ大当りＢ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御するようにしている。このように、１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＢのいずれに決定した場合にも、演出表示装置１６００に装飾図柄の停止図柄として共通の停止図柄を表示制御することで、装飾図柄の停止図柄からは１５Ｒ大当りＡまたは１５Ｒ大当りＢのいずれかを判別することができない。

【１２３１】

次に、周辺制御基板１５１０が大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）を受信してから１ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信するまでの間、すなわち、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的には、図２１１（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００において、「Ｖアタッカー開放中にＶ通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している

。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

【１２３２】

次に、周辺制御基板１５１０が１ラウンド目の大当り開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信してから３ラウンド目の大当り終了コマンド（３ラウンドＡ終了コマンド、３ラウンドＢ終了コマンド）を受信するまでの間、すなわち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の間には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図２１１（Ｂ）に示すように、演出表示装置１６００において、「チャンスモード中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像を表示している。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域５ａ上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。

【１２３３】

本実施形態では、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００の前面側には、カバー部材が設けられているが、そのカバー部材が透明であることから、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられたか否かや、振分片２４３３が作動しているか否か（第二受入口２４３２が開放状態であるか否か）、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた（振り分けられた）か否かが視認し易くなっている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目で、演出表示装置１６００にて遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像を表示するだけでなく、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００の背面側からＬＥＤによって照射するようにし、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などの遊技者が狙うべき場所を際立たせるようにしている。一方、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を除いては、遊技領域５ａの全体が暗くなるようにＬＥＤなどを発光制御することで、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などの遊技者が狙うべき場所を相対的に際立たせるようにしている。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域５ａ上のどこを狙えばよいのかを容易に把握することができる。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目が開始される前に実行される説明演出においても同様に、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などの遊技者が狙うべき場所を際立たせるようにしてもよい。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目においては、遊技盤５の構成上、実際に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が視認できるようになっているが、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる際にも、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００の背面側からＬＥＤによって照射されていることで、そのような第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かの遊技者の視認がより容易となるようになっている。

【１２３４】

なお、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３を遊技者に識別容易に際立たせる手法の別例として以下のようにしてもよい。例えば、「第二大入賞口２００６を開閉動作の識別が容易な構造（例えば、電チュー型や、開閉扉が前方傾斜する開放型など）としておくこと」、「第二大入賞口２００６の開口面積を第一大入賞口２００５の開口面積よりも大きくしておくこと」等が例示できる。

【１２３５】

次に、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目のうち、周辺制御基板１５１０が第二受入口通過コマンドＡまたは第二受入口コマンドＢを受信したとき、すなわち、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を示すＶ通過時演出を実行している。具体的には、第二受入口通過フラグがセットされる前の特別状態にて第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとき（特別状態にて初めて第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとき）と、第二受入口通過フラグがセットされた後の特別状態にて第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられとき（特別状態にて第二受入口２４３２に２個目以降の遊技球が受け入れられたとき）と、非特別状態にて第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられときに、第二受入口通過コマンドＡまたは第二受入口通過コマンドＢをセットすることに基づいて、図２１１（Ｃ）に示すように、演出表示装置１６００において、「Ｖ通過！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、例えば実際に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が見逃した場合であっても、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を明確に知ることができ、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる期待を高めることができる。

【１２３６】

本実施形態では、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているか又は非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されているかについては、遊技者に通知していない。また、演出表示装置１６００においては、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合（第二受入口通過コマンドＡの受信時）と、非特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合（第二受入口通過コマンドＢの受信時）と、で共通となるＶ通過時演出を実行している。このため、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、その第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた期間が特別状態に設定されていたか又は非特別状態に設定されていたか、すなわち、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができない。

【１２３７】

また、本実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目において、第二受入口２４３２に受け入れることが可能な遊技球の数に制限がないため、第二受入口２４３２に受け入れられる遊技球が多くなるほど、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる確率が高くなるように見せている。そして、演出表示装置１６００においては、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を示すＶ通過時演出を実行した後、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目が終了していない限りは、図２１１（Ｂ）に示した標的指示演出（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す演出）の実行に戻すようにしている。これにより、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目が終了していない限りは、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように遊技者が努力するべきであることを認識させることができる。なお、演出表示装置１６００においては、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を示すＶ通過時演出を実行するだけでなく、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口２４３２に受け入れられた遊技球のトータルの個数を表示するようにしてもよい。

【１２３８】

次に、周辺制御基板１５１０が４ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（４ラウンドＡ開始コマンド、４ラウンドＢ開始コマンド）を受信した後、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの４～１５ラウンド目の間には、１～３ラウンド目のような

第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技ではなく、単純に、第一大入賞口２００５の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うことから、その遊技の期間中を楽しませるための大当り遊技中演出を実行している。具体的には、図２１１（Ｄ）に示すように、演出表示装置１６００において、４～１５ラウンド目の各々で実行されているラウンド数を表示しているが、その他にも、大当り遊技状態以外で表示されることがない特典映像、第一大入賞口２００５の開放時に受け入れられた遊技球の個数や、第一大入賞口２００５に遊技球が受け入れられたことに基づいて払い出される遊技球の個数（トータルの賞球数）などを表示するようにしている。

【１２３９】

本実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目において、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか（制御したか）又は高確率状態に制御しないか（制御していないか）を判別できるようにしている。例えば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの４～１５ラウンド目の実行中において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１５ラウンド目の終了時（終了前後）において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの終了後から特別図柄の変動表示として数変動～数十変動が行われた後に、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを遊技者に通知したりすればよい。これらのうち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの終了後にも、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを潜伏させる場合には、高確率状態に制御されているかも知れないという期待をもって遊技を継続させることができる。

【１２４０】

以上、本実施形態（第一実施形態）によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６の開放中）に特別状態及び非特別状態のいずれかを設定することで、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた（振り分けられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となる。これにより、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても遊技者に安心感を与えず、高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかの期待感や緊張感を遊技者に与えたまま大当り遊技を継続させることが可能となる。

【１２４１】

また、第一実施形態によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６が複数回開放する期間）のうち「特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）」を大当り遊技状態ごと（１５Ｒ大当り遊技状態Ａ、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ）に異ならせている。すなわち、特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）が相対的に多い１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、特別状態に設定されている割合（特別状態に滞在する割合）が相対的に少ない１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに比べて、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる可能性が高められ、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が発生する可能性が高くなる。これにより、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の高い大当り遊技状態（１５Ｒ大当り遊技状態Ａ）と、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の低い大当り遊技状態（１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ）とにより遊技にメリハリを与え、従来の予め定められた時期（特定のラウンド）でＶ入賞（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることに相当）可能に大入賞口が長時間開放するだけの遊

技機に比べて、遊技が単調になることを防止することができる。

【１２４２】

また、第一実施形態によれば、前述したように、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の高い大当り遊技状態（１５Ｒ大当り遊技状態Ａ）と、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性の低い大当り遊技状態（１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ）とを設けることで、「今回の大当り遊技状態が特別状態の発生割合が多い大当り遊技状態であること」に遊技者を期待、注目させるゲームを実現することができる。

【１２４３】

また、第一実施形態によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）のうち１ラウンド目（特定のラウンド）に特別状態を発生させるようにし、１５Ｒ大当り遊技状態Ａの１ラウンド目における第二大入賞口２００６の開閉態様（開放時間や開放回数、開放タイミングなど）と、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１ラウンド目及び２ラウンド目（非特別状態を発生させる非特定のラウンド）にまたがる第二大入賞口２００６の開閉態様と、を同じにしている。これにより、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間のうち１ラウンド目に特別状態を発生させるにも関わらず、第二大入賞口２００６の開閉態様から１ラウンド目であるか否かを判別困難にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【１２４４】

また、第一実施形態によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）のうち１ラウンド目（特定のラウンド）に特別状態を発生させるようにし、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１ラウンド目における第二大入賞口２００６の開放回数を異ならせつつ（１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは２回、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは１回）、２～３ラウンド目における第二大入賞口２００６の開放回数を異ならせている（１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは合計２回、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは合計３回）。その際、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１ラウンド目における第二大入賞口２００６の開放回数を異ならせながらも、１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の総開放回数が同じとなるように、２～３ラウンド目における第二大入賞口２００６の開放回数を設定することで、１～３ラウンドの発生期間のうち１ラウンド目に特別状態を発生させるにも関わらず、第二大入賞口２００６の開閉動作から何ラウンド目が行われているかを判別困難にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【１２４５】

また、第一実施形態によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様を、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで同じにすることで、第二大入賞口２００６の開放動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難（または判別不能）にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【１２４６】

また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様の一部を近似する程度であれば異なるように構成してもよい。例えば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の複数回の開放動作のうち一部の開放動作における開放時間や開放タイミング、或いは第二大入賞口２００６の開放回数を近似する程度に異ならせることが例示できる。こうした形態の第１の例としては、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様として、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ａと同様に「短開

放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを共通としながらも、第二大入賞口２００６の１回目の開放時間を「０．５秒」でなく「０．８秒」に変更したもの（若干長い時間に変更したもの）や、第二大入賞口２００６の２回目の開放時間を「２０秒」でなく「１９秒」に変更したもの（若干短い時間に変更したもの）が例示できる。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａと相違する開放時間の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。第２の例としては、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様として、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ａと同様に「短開放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを共通としながらも、第二大入賞口２００６の１回目の開放と２回目の開放の間の閉鎖時間（ラウンド間インターバルやラウンド内インターバル）を「４．５秒」でなく「４．７秒」に変更して開放タイミングを若干遅延させたものや「４．２秒」に変更して開放タイミングを若干早めたものが例示できる。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａと相違する閉鎖時間の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。第３の例としては、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様として、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ａと同様の「短開放→長開放」という大まかな開閉パターンを有しながらも、その開閉パターンの前後に別の短開放（例えば第二大入賞口２００６を０．５秒で１回開放させる）を加えて開放回数を若干増やしたものや、第一実施形態の１５Ｒ大当り遊技状態Ａの「短開放→長開放→短開放→長開放」という大まかな開閉パターンのうち、２回目の短開放を除いて開放回数を若干減らしたものが例示できる。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａと相違する開放回数の差分は、遊技者が判別困難な程度であればよく、前述したものに限るものではない。これらのように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における第二大入賞口２００６の一連の開閉態様を、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで近似する程度の変更とすることで、第二大入賞口２００６の開放動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難にでき、上述したゲーム性と同等のゲーム性を実現することができる。

【１２４７】

また、第二大入賞口２００６の一連の開閉態様には、第二大入賞口２００６内に設けられた振分片２４３３の作動態様が含まれてもよく、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における振分片２４３３の作動時間や作動タイミングを一部で異ならせているものの、少なくとも振分片２４３３の作動回数を同じ（第一実施形態では５回）にすることで、振分片２４３３の作動態様が含まれる第二大入賞口２００６の一連の開閉態様を、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで近似させており、このように近似させた場合にも、第二大入賞口２００６の開放動作及び振分片２４３３の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難にでき、上述したゲーム性と同等のゲーム性を実現することができる。ただし、後述する第一実施形態の変形例のように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間における振分片２４３３の作動回数だけでなく、振分片２４３３の作動時間や作動タイミングも同じにし、振分片２４３３の作動態様が含まれる第二大入賞口２００６の一連の開閉態様を、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで同じにしてもよく、このように同じとした場合にも、第二大入賞口２００６の開放動作及び振分片２４３３の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難（または判別不能）にでき、上述したゲーム性をより効果的に実現することができる。

【１２４８】

また、第一実施形態によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６が複数回開放する期間）のうち振分片２４３３の作動時には、第二受入口２４３２の状態設定スケジュールに従って、特別状態又は非特別状態のいずれかが設定されている。このため、上

記したように第二大入賞口２００６の開放動作を見ても特別状態又は非特別状態のいずれに設定されているかが判別困難であるものの、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれに制御されているかを予測するとともに、第二大入賞口２００６の何回目の開放が特別状態に設定されているかを予測しながら、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技を楽しませることができる。

【１２４９】

また、第一実施形態のように、各大当り遊技状態にて特別状態および非特別状態を設定して第二受入口２４３２に遊技球を受け入れ可能にすることで、「各当り遊技状態における高確率状態の発生難易」、「各当り遊技状態における高確率状態の発生契機となる第二受入口２４３２への遊技球の受入可能時期、あるいは、高確率状態の発生契機とならない第二受入口２４３２への遊技球の受入可能時期」を遊技設計者の意図を反映するかたちで制御できる。よって、遊技設計者の意図しない高確率状態が発生すること等を抑制して、上述のゲーム性を確実に実現できる。

【１２５０】

また、第一実施形態によれば、従来に比して以下のような遊技効果も奏することができる。すなわち、従来の「Ｖ入賞（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることに相当）することに基づいて高確率状態に制御する遊技機」では、大入賞口内に入球容易な態様（例えば長時間開放）で大入賞口を開放する有利な大当り遊技状態と、大入賞口内に入球困難な態様（例えば短時間開放）で大入賞口を開放する不利な大当り遊技状態とを設け、遊技設計者によってあらかじめ設定された各大当り遊技状態の発生率に基づいて、実質的に高確率状態の発生有無（発生難易）を制御していた。しかしながら、こうした従来の遊技機では、大当り遊技状態にて入球容易な態様で大入賞口が開放するか否かによって、一見して高確率状態の発生有無（発生難易）が遊技者に認識されてしまってしまう問題があった。例えば、有利な大当り遊技状態では、入球容易な態様で大入賞口が開放されることで高確率状態に制御される可能性が高いことが認識されてしまい、その時点で遊技者に安心感を与えてしまう場合がある。この場合、大入賞口への入球およびＶ入賞を生ずるための遊技球の発射操作が単なる作業となってしまい、発射された遊技球の挙動に注目させる遊技機本来の面白みが損なわれ、遊技興趣の低下を招く虞があった。また、不利な大当り遊技状態では、入球困難な態様で大入賞口が開放されることで、高確率状態に制御される可能性が低いことが認識されてしまい、その時点で遊技者に残念感を与えてしまうことがある。この場合にも、遊技意欲を減退させてしまう可能性があり、遊技興趣の低下を招く虞があった。これに対し、第一実施形態によれば、Ｖ入賞（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることに相当）することに基づいて高確率状態に制御する従来の基本構成を有しつつも、各大当り遊技状態（１５Ｒ大当り遊技状態Ａ、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ）にて入球容易な態様で第二大入賞口２００６を開放可能としつつ、第二大入賞口２００６が開放するなかで特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）および非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）を判別困難に発生させることとしている。これにより、遊技設計者によって予め設定された各大当り遊技状態の発生率に基づいて高確率状態の発生有無（発生難易）を制御可能としながらも、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御される可能性を大入賞口の動作から判別不能にでき、各大当り遊技状態中に第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２に積極的に遊技球を入球させる遊技意欲を遊技者に与え続けるとともに、発射された遊技球が第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２に入球するかの挙動に注目させる遊技機本来の面白みを付与することが可能となる。結果、大当り遊技状態中に遊技興趣の低下を招くことを抑制することが可能となる。

【１２５１】

また、第一実施形態によれば、「特別状態」は、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容される（有効化される）状態であり、「非特別状態」は、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れ

られたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない（無効化される）状態である。これにより、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには必ず、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御し、一方、「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととしている。これに対し、「特別状態」及び「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときにそれぞれ大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか否かの抽選を行い、その抽選の結果に基づいて大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するようにし、さらに「特別状態」では大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる抽選の結果を導出する割合が「非特別状態」に比べて高くなるようにしてもよい。具体的には、「大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する割合が高くなるように設定された特別状態用の確率テーブル」と、「大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する割合が特別状態用の確率テーブルに比べて低くなるように設定された非特別状態用の確率テーブル」とを有し、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａが所定の抽選用乱数（０～９９の乱数値）を取得するとともに、その取得した抽選用乱数を「特別状態用の確率テーブル（複数個の当り値が設定される）」を用いて当り値と一致するか否かの判定（抽選）を行うことで、抽選の結果、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる割合を高くすることができる。一方、「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、主制御ＭＰＵ１３１０ａが所定の抽選用乱数（０～９９の乱数値）を取得するとともに、その取得した抽選用乱数を「非特別状態用の確率テーブル（特別状態用の確率テーブルよりも少ない個数の当り値が設定される）」を用いて当り値と一致するか否かの判定（抽選）を行うことで、抽選の結果、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる割合を「非特別状態」に比べて低くすることができる。そして、例えば、「特別状態用の確率テーブル」で大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することなる結果を導出する割合を、９０／１００程度に設定することで、「特別状態」中に複数個の遊技球が受け入れられることにより殆どの場合で、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するようにすることができる。また、「非特別状態用の確率テーブル」で大当り遊技状態の終了後に刻確率状態に制御することとなる割合を、１／１００程度に設定することで、「非特別状態」中に複数個の遊技球が受け入れられたとしても殆どの場合で、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないようにすることができる。このような場合にも、第二大入賞口２００６が開放するなかで「特別状態」及び「非特別状態」のいずれかを第二大入賞口２００６の動作から判別困難とするとともに、少なくとも「特別状態」及び「非特別状態」が終了するまで（第一実施形態では３ラウンド目が終了するまで）抽選の結果を通知しないようにすることで、各大当り遊技状態中に第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２に積極的に遊技球を入球させる遊技意欲を遊技者に与え続けるとともに、発射された遊技球が第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２に入球するかの挙動に注目させる遊技機本来の面白みを付与することが可能となる。結果、大当り遊技状態中に遊技興趣の低下を招くことを抑制することが可能となる。なお、後述する第一実施形態の変形例や、第二実施形態においても、このような抽選を行うようにしてもよい。

【１２５２】

また、上記では、「特別状態」及び「非特別状態」のいずれの場合にも、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときに、それぞれ大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか否かの抽選を行うようにしているが、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、この抽選を行うことなく（例えば、抽選用乱数を取得しない）第一実施形態と同様の処理で大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとし、「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、この抽選を行うことによって大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか否かを決定するようにしてもよい。このような場合には、「非特別状態」で抽選が行われることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる割合が「特別状態」に比べて

低くなるものの、「非特別状態」でも大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御される可能性が残されることから、各大当り遊技状態中に第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２に期待をもって遊技球を入球させることができるとともに、上記と同様の効果を奏することができる。一方、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、抽選を行うことによって大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか否かを決定することとし、「非特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには、抽選を行うことなく（例えば、抽選用乱数を取得しない）第一実施形態と同様の処理で大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないようにしてもよい。このような場合には、「特別状態」で抽選が行われることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる割合が「非特別状態」に比べて高くなるものの、「特別状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが確定しないことから、各大当り遊技状態中に遊技者に安心感を与えることなく第二大入賞口２００６および第二受入口２４３２への遊技球の入球を継続させることができるとともに、上記と同様の効果を奏することができる。

【１２５３】

［１１－１．本実施形態の変形例の大当り遊技状態について］

上記した実施形態（第一実施形態）では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとしているが、振分片２４３３の作動パターン（振分片２４３３の作動時間や作動タイミング）が一部で異なっているため、１５Ｒ大当り遊技状態Ａであるか又は１５Ｒ大当り遊技状態Ｂであるかを遊技者が判別困難であるものの、判別不可能ではない仕様となっている。これに対し、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングだけでなく、振分片２４３３の作動パターン（振分片２４３３の作動時間や作動タイミング）も同じとすることで、１５Ｒ大当り遊技状態Ａであるか又は１５Ｒ大当り遊技状態Ｂであるかを遊技者が判別不可能とする仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第一実施形態の変形例として、図２１２及び図２１３を参照して説明する。図２１２（Ａ）は、第一実施形態の変形例における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルであり、図２１２（Ｂ）は、第一実施形態の変形例における１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルである。図２１３（Ａ）は、第一実施形態の変形例における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートであり、図２１３（Ｂ）は、第一実施形態の変形例における１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートである。なお、図２１２（Ａ）は、図２０９（Ａ）に示した第一実施形態における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルと同じであり、図２１３（Ａ）は、図２１０（Ａ）に示した第一実施形態における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～３ラウンド目のタイミングチャートと同じであることから、説明は省略する。

【１２５４】

図２１２（Ｂ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）するように設定されている。また、１ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。

【１２５５】

また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、２ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（

２０秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、２ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【１２５６】

また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、３ラウンド目における第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）し、ラウンド内インターバル時間として所定時間（４．５秒）が経過した後に第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するように設定されている。また、３ラウンド目における振分片２４３３の動作スケジュールとして、第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、第二大入賞口２００６を長時間開放（２０秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、所定時間（４．８秒）が経過した後に長時間作動（１０秒）するように設定されている。また、３ラウンド目における第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。

【１２５７】

図２１３（Ａ）及び図２１３（Ｂ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、１～３ラウンド目の各々のラウンドにおける第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。そして、第一実施形態の変形例では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目の全体として、振分片２４３３の作動時間及び作動回数、作動タイミングが全て同じとなっている。このように、第一実施形態の変形例では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目の全体として、第二大入賞口２００６の開放パターンだけでなく、振分片２４３３の作動パターンも同じにしているため、１５Ｒ大当り遊技状態Ａであるか又は１５Ｒ大当り遊技状態Ｂであるかを遊技者が判別不可能となっている。したがって、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか（制御したか）又は高確率状態に制御しないか（制御していないか）を判別可能となるまでの間、緊張感をもって遊技を行わせることができる。

【１２５８】

以上、第一実施形態の変形例によれば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンドの発生期間（特別状態及び非特別状態が設定される間）における振分片２４３３の一連の動作パターンを、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで近似させることで、振分片２４３３の動作を見ても特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかを判別困難にでき、第一実施形態のゲーム性をより効果的に実現することができる。

【１２５９】

上記した実施形態（第一実施形態）では、第一大入賞口２００５と、内部に第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６と、の２つの大入賞口を備えているが、第一大入賞口２００５を備えることなく、第二大入賞口２００６のみを備えるようにしてもよい。このような場合には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも４～１５ラウンド目で、第二大入賞口２００５を１回ずつ長時間（例えば２０秒）開放するように設定すればよい。そして、第二大入賞口２００５の開放中

には、第二受入口２４３２を常時閉鎖状態（振分片２４３３により第一受入口２４３１側に遊技球が振り分けられる状態）とすることで、１～３ラウンド目のような第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を行うことがなく、単純に、第二大入賞口２００６の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うようにすればよい。このように、第二大入賞口２００６のみを備えるようにした場合には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂにおける１～３ラウンド目と、４～１５ラウンド目と、で遊技者が狙うべき大入賞口（第二大入賞口２００６）が同じとなることから、遊技球の発射強度を変化させるなどの行為が不要となり、４～１５ラウンド目も継続した遊技を行わせることができる。

【１２６０】

上記した実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも第二大入賞口２００６の１回目の開放時に短時間開放（０．５秒）しかしないため、第二大入賞口２００６の１回目の開放時には、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに第二大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）する期間中に振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）しかしないため、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。これに対し、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも第二大入賞口２００６の１回目の開放時に、第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが可能な程度に開放（例えば、２秒）し、さらに第二大入賞口２００６を開放する期間中に振分片２４３３を、第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）ことが可能な程度に作動（例えば、１秒）するようにしてもよい。これにより、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂのいずれも第二大入賞口２００６の２回目の開放時よりも、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが困難ではあるが、そのような第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）ことが可能となることから、第二大入賞口２００６の１回目の開放時においても、第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を楽しませることができるようになる。

【１２６１】

また、第二大入賞口２００６の３回目の開放時まで特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定される１５Ｒ大当り遊技状態Ｃを別個に設け、第二大入賞口２００６の１回目の開放時よりも２回目の開放時のほうが、第二大入賞口２００６の２回目の開放時よりも３回目の開放時のほうが、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）確率が高くなるように（例えば、第二大入賞口２００６の開放時間及び振分片２４３３の作動時間を段階的に長くするように）構成してもよい。これにより、第二大入賞口２００６の１回目の開放時には、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが困難ではあるが、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれの実行時でも特別状態に設定されており、第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられた（受け入れられた）場合における高確率状態に制御する確率が高くなっている（本例では１００％）。これに対し、第二大入賞口２００６の２，３回目の開放時には、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが容易ではあるが、第二大入賞口２００６の２回目の開放時に１５Ｒ大当り遊技状態Ａ，Ｃの実行時、第二大入賞口２００６の３回目の開放時に１５Ｒ大当り遊技状態Ｃの実行時しか特別状態に設定されておらず、第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられた（受け入れられた）場合における高確率状態に制御する確率が、第二大入賞口２００６の開放回数が増加するほど低くなっている。したがって、第二大入賞口２００６の２，３回目の開放時のうち、第二大入賞口２００６の開放回数が増加するほど第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）確率が高くはなるが、相反して高確率状態に制御する確率

が低くなるという斬新な遊技を楽しませることができるようになる。
【１２６２】
上記したように、第一実施形態の変形例として、第二大入賞口２００６の１回目の開放時に対する開放時間を若干長く（例えば２秒）し、第二大入賞口２００６の１回目の開放時における遊技球の入球可能性を高めることとしてもよい。第一実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂで、特別状態の開始時期を同じとしつつ、特別状態の終了時期を異ならせることとしているため、本構成を用いることで、「第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることが可能とされる第二大入賞口２００６の複数回開放が開始されてからできるだけ早く第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることで、利益付与（高確率状態の付与）の可能性が高まる」という特異なゲーム性も実現可能となる。こうしたゲーム性により、従来に比して「第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるタイミング」に遊技者を注目させる新たな面白みを付加することができる。
【１２６３】
［１１－２．本実施形態の別演出例について］
上記した実施形態（第一実施形態）では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）において、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技が行われているが、演出表示装置１６００にて共通の演出を実行することで、演出からは１５Ｒ大当り遊技状態Ａであるか又は１５Ｒ大当り遊技状態Ｂであるかを遊技者が判別困難としている。このため、第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態が付与される可能性が高いのかどうかすら判別できない仕様となっている。これに対し、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間において、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を、大当りの種別（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいて実行するようにし、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた際に高確率状態が付与される可能性が高いのかどうかを判別可能とする仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第一の別演出例として、図２１４乃至図２１６を参照して説明する。
【１２６４】
まず、大当りの種別（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいて決定される示唆演出の決定方法について説明する。演出制御処理（ステップＳ６０２）において、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、受信した判定結果通知コマンド（大当りの種類に応じた大当り開始コマンドでもよい。）から１５Ｒ大当りＡを特定した場合には、図２１４に示す１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルを選択し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には、図２１４に示す１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルを選択する。そして、乱数更新処理（ステップＳ６０６）で更新されている各種乱数のうち演出パターン決定乱数を読み出し、該読み出した演出パターン決定乱数と上記選択した演出パターン決定テーブルとを比較することにより、６種類の演出パターン（演出パターン０～５）からいずれかの演出パターンを決定する。これにより、演出パターンに基づいた演出として、演出パターン０が決定された場合には、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行することがなく、演出パターン１～５に決定された場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間に示唆演出を実行するようにしている。
【１２６５】
図２１５に示すように、演出パターン０は、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行しない演出パターンであり、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間には、第一実施形態と同様に、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行することとなる。
【１２６６】

また、図２１５に示すように、演出パターン１～５は、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行する演出パターンであり、それぞれの演出パターンで、示唆演出を実行する期間が異なるようにしている。具体的には、示唆演出を実行する期間として、演出パターン１には、第二大入賞口２００６の１回目の開放終了時から２回目の開放開始時までのインターバル時間（４．５秒）に相当する期間、演出パターン２には、第二大入賞口２００６の２回目の開放開始時から所定時間（４．５秒）が経過するまでの期間、演出パターン３には、第二大入賞口２００６の２回目の開放終了時から３回目の開放開始時までのインターバル時間（４．５秒）に相当する期間、演出パターン４には、第二大入賞口２００６の３回目の開放終了時から４回目の開放開始時までのインターバル時間（４．５秒）に相当する期間、演出パターン５には、第二大入賞口２００６の４回目の開放開始時から所定時間（４．５秒）が経過するまでの期間が設定されている。このように、示唆演出を実行する期間は、所定時間（４．５秒）で統一されながらも、第二大入賞口２００６の開放期間だけでなく、閉鎖期間（インターバル時間）にも設定されていることで、示唆演出がいつ実行されるかを分かり難くし、突然的に示唆演出が実行されるかのように見せることができる。

【１２６７】

また、演出パターンとして演出パターン１～５に決定された場合には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１ラウンド目の開始時から、演出パターン０と同様の標的指示演出を実行するが、演出パターンの種類によって指定された期間の開始タイミングで、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出に切り替えて実行するようにしている。そして、示唆演出を実行した後、すなわち演出パターンの種類によって指定された期間が終了した後、１～３ラウンド目の発生期間が終了するまでの期間（４ラウンド目を開始するまでの期間）には、演出パターン０と同様の標的指示演出に戻らず、標的指示演出とは異なる専用演出を実行するようにしている。本演出例では、専用演出として、演出表示装置１６００における背景画像を、標的指示演出の実行時とは異なる赤色の背景画像に変更しているが、示唆演出の実行後である旨が判別し得るものであればよく、例えば、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００の背面側から照射されるＬＥＤを、標的指示演出の実行時とは異なる配色で発光制御したり、遊技盤５に設けた各種可動体を、突然的に作動したりしてもよい。なお、このような専用演出は、示唆演出の実行後ではなく、示唆演出の実行中から実行するようにしてもよい。

【１２６８】

図２１４に示す演出パターン決定テーブルは、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶され、１５Ｒ大当りＡが決定されている場合に使用する１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルと、１５Ｒ大当りＢが決定されている場合に使用する１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルと、を備えている。そして、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルには、演出パターン０に対して１０個の判定値が設定され、演出パターン１～５のそれぞれに対して１８個の判定値が設定されている。一方、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、演出パターン０に対して９０個の判定値が設定され、演出パターン１～５のそれぞれに対して２個の判定値が設定されている。

【１２６９】

上記したように、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルでは、示唆演出を実行する演出パターン１～５に対して合計９０個の判定値が設定されているのに対し、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、示唆演出を実行する演出パターン１～５に対して合計１０個の判定値が設定されている。すなわち、大当りＡが決定されている場合には、９０％の割合で示唆演出を実行するのに対し、大当りＢが決定されている場合には、１０％の割合で示唆演出を実行する。このように、大当りの種類によって示唆演出の実行割合を異ならせることで、示唆演出の実行によって１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆するようにしている。そして、示唆演出の実行によって１５Ｒ大当りＡである可

能性が高い旨が示唆されたときには、１５Ｒ大当りＡが、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当りであることから、１～３ラウンド目の発生期間における遊技（第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技）を、高確率状態となる期待をもって行わせることができる。

【１２７０】

また、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、示唆演出を実行する演出パターン１～５のそれぞれに対して均等に判定値が設定（１５Ｒ大当りＡ時には１８個ずつ、１５Ｒ大当りＢ時には２個ずつ）されることで、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれでの示唆演出の実行割合が同じとなっている。これに対し、示唆演出を実行する演出パターン１～５のそれぞれに対して設定される判定値の数を異ならせ、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれでの示唆演出の実行割合が異なるようにしてもよい。例えば、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン１＞演出パターン２＞演出パターン３＞演出パターン４＞演出パターン５の順で判定値が多くなるように設定することで、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階での示唆演出の実行割合が高くなり、早い段階から１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を認識する割合が高くなる。このような仕様とした場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階から、第二大入賞口２００６及び第二受入口２４３２に遊技球を入球させようとする意欲が高くなり、高確率状態となる期待をもって遊技を行わせることができる。

【１２７１】

また、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、示唆演出を実行する演出パターン１～５のそれぞれに対して均等に判定値が設定（１５Ｒ大当りＡ時には１８個ずつ、１５Ｒ大当りＢ時には２個ずつ）されることで、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれで示唆演出が実行された際に、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が同じとなっている。これに対し、示唆演出を実行する演出パターン１～５のそれぞれに対して設定される判定値の数を異ならせ、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれで示唆演出が実行された場合における、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が異なるようにしてもよい。例えば、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン１＞演出パターン２＞演出パターン３＞演出パターン４＞演出パターン５の順で判定値が多くなるように設定し、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン１＜演出パターン２＜演出パターン３＜演出パターン４＜演出パターン５の順で判定値が多くなるように設定することで、１～３ラウンド目の発生期間のうち遅い段階で示唆演出が実行されるほど、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が高くなる。このような仕様とした場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階で示唆演出が実行されなくても、遅い段階で示唆演出が実行されるほど、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が高くなることから、その後の段階で示唆演出が実行されるかどうかに期待をもって注目させることができる。

【１２７２】

なお、第一の別演出例では、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行可能とする期間として、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの実行期間のうち、１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）、すなわち第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技が行われる期間に設定されているが、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの実行期間であればよく、第一大入賞口２００５を開放する４～１５ラウンド目の発生期間に設定されていてもよい。このように、４～１５ラウンド目の発生期間内で示唆演出が実行された場合には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技の事後に、１５Ｒ大当りＡである可能性が高かった旨を遊技者が認識することができる。

【１２７３】

次に、第一の別演出例として１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）に示唆演出が実行される場合について、演出表示装置１６００における示唆演出の実行時の具体的な演出例を、図２１６を参照して説明する。

【１２７４】

まず、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）を受信してから１ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信するまでの間、すなわち、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的には、図２１６（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００において、「Ｖアタッカー開放中にＶ通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

【１２７５】

次に、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が１ラウンド目の大当り開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信してから３ラウンド目の大当り終了コマンド（３ラウンドＡ終了コマンド、３ラウンドＢ終了コマンド）を受信するまでの間、すなわち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の間には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図２１６（Ｂ）に示すように、演出表示装置１６００において、「チャレンジ中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像を表示している。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域５ａ上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。

【１２７６】

次に、演出パターンとして示唆演出を実行する演出パターン１～５が決定されている場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間において、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行している。具体的には、図２１６（Ｃ）に示すように、演出表示装置１６００において、「大チャンス！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い、すなわち実行中の大当り遊技状態が１５Ｒ大当り遊技状態Ａである可能性が高い旨を遊技者に認識させることができる。そして、示唆演出の実行によって１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨が示唆されたときには、１５Ｒ大当りＡが、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当りであることから、１～３ラウンド目の発生期間における遊技（第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技）を、高確率状態となる期待をもって行わせることができる。

【１２７７】

なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）において、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を実行可能としているが、示唆演出が行われたときの遊技状況が「未だＶ通過していない（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられていない）遊技状況下」であれば、示唆演出の実行により、Ｖ通過に対する意欲、緊張感を一層高

め、大当り遊技状態中の遊技興趣を向上させることができる。一方、示唆演出が行われたときの遊技状況が「既にＶ通過した後（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた後）の遊技状況下」であれば、示唆演出の実行により、安心感や期待感を与えると共に、更なるＶ入賞に向けての意欲を高め、大当り遊技状態中の遊技興趣を向上させることができる。このように、Ｖ通過にかかる遊技（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる（振り分けられる）かどうかの遊技）を実行している最中に示唆演出を行うことで、「Ｖ通過後に示唆演出が行われる場合」と「Ｖ通過前に示唆演出が行われる場合」とで遊技者に異なる印象を与えることができ、そのときの遊技状況に応じたかたちで遊技興趣を高めることが可能となる。

【１２７８】

次いで、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間において、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出が実行された後には、標的指示演出とは背景色が異なる専用演出を実行している。具体的には、図２１６（Ｄ）に示すように、演出表示装置１６００において、「大チャンス中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知するとともに、演出表示装置１６００における背景画像を、標的指示演出の実行時とは異なる赤色の背景画像に変更している。これにより、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆演出から継続して遊技者に認識させることができ、１～３ラウンド目の発生期間の残りの期間において、第二大入賞口２００６及び第二受入口２４３２に遊技球を入球させようとする意欲が高まるようになる。なお、専用演出の実行時には、標的指示演出と同様に、演出表示装置１６００において、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像が表示されていることで、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技が継続して行われている旨を遊技者に理解させることができる。

【１２７９】

次に、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が４ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（４ラウンドＡ開始コマンド、４ラウンドＢ開始コマンド）を受信した後、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの４～１５ラウンド目の間には、１～３ラウンド目のような第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技ではなく、単純に、第一大入賞口２００５の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うことから、その遊技の期間中を楽しませるための大当り遊技中演出を実行している。具体的には、図２１６（Ｅ）に示すように、演出表示装置１６００において、４～１５ラウンド目の各々で実行されているラウンド数を表示しているが、その他にも、大当り遊技状態以外で表示されることがない特典映像、第一大入賞口２００５の開放時に受け入れられた遊技球の個数や、第一大入賞口２００５に遊技球が受け入れられたことに基づいて払い出される遊技球の個数（トータルの賞球数）などを表示するようにしている。

【１２８０】

上記したように、第一の別演出例では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）において、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出を、大当りの種別（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいて実行しているが、示唆演出として示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格することを可能とし、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格した場合には１５Ｒ大当りＡである可能性がより高くなるように実行する仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第二の別演出例として、図２１６乃至図２１９を参照して説明する。

【１２８１】

まず、大当りの種別（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいて決定される示唆演出（示唆演出Ａ、示唆演出Ｂ）の決定方法について説明する。演出制御処理（ステップＳ

６０２）において、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、受信した判定結果通知コマンド（大当りの種類に応じた大当り開始コマンドでもよい。）から１５Ｒ大当りＡを特定した場合には、図２１６に示す１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルを選択し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には、図２１６に示す１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルを選択する。そして、乱数更新処理（ステップＳ６０６）で更新されている各種乱数のうち演出パターン決定乱数を読み出し、該読み出した演出パターン決定乱数と上記選択した演出パターン決定テーブルとを比較することにより、７種類の演出パターン（演出パターン０～６）からいずれかの演出パターンを決定する。これにより、演出パターンに基づいた演出として、演出パターン０が決定された場合には、示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂのいずれも実行することがなく、演出パターン１が決定された場合には、１～３ラウンド目の発生期間の前に示唆演出Ａを実行し、演出パターン２～６に決定された場合には、１～３ラウンド目の発生期間の前に示唆演出Ａを実行した後に、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間に示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格するようにしている。

【１２８２】

図２１７に示すように、演出パターン０は、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出（示唆演出Ａ、示唆演出Ｂ）を実行しない演出パターンであり、第一実施形態と同様に、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）には、１～３ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行し、１～３ラウンド目の発生期間には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行することとなる。

【１２８３】

また、図２１７に示すように、演出パターン１は、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出として示唆演出Ａのみを実行する演出パターンであり、示唆演出Ａを実行する期間として、周辺制御基板１５１０が大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）を受信してから１ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信するまでの期間、すなわち、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの期間が設定されている。

【１２８４】

また、図２１７に示すように、演出パターン２～６は、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出として示唆演出Ａを実行した後、該示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格するように実行する演出パターンであり、示唆演出Ａを実行する期間は演出パターン１と同様であるが、それぞれの演出パターンで、示唆演出Ｂを実行する期間が異なるようにしている。具体的には、示唆演出Ｂを実行する期間として、演出パターン２には、第二大入賞口２００６の１回目の開放終了時から２回目の開放開始時までのインターバル時間（４．５秒）に相当する期間、演出パターン３には、第二大入賞口２００６の２回目の開放開始時から所定時間（４．５秒）が経過するまでの期間、演出パターン４には、第二大入賞口２００６の２回目の開放終了時から３回目の開放終了時までのインターバル時間（４．５秒）に相当する期間、演出パターン５には、第二大入賞口２００６の３回目の開放終了時から４回目の開放開始時までの期間、演出パターン６には、第二大入賞口２００６の４回目の開放開始時から所定時間（４．５秒）が経過するまでの期間が設定されている。このように、示唆演出Ｂを実行する期間は、所定時間（４．５秒）で統一されながらも、第二大入賞口２００６の開放期間だけでなく、閉鎖期間（インターバル時間）にも設定されていることで、示唆演出Ａから示唆演出Ｂにいつ昇格するかを分かり難くし、突然的に示唆演出Ｂに昇格するかのように見せることができる。

【１２８５】

また、演出パターンとして演出パターン０に決定された場合には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の

開始前）において、１～３ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行するが、演出パターン１～６に決定された場合には、説明演出ではなく、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出として示唆演出Ａを実行するようにしている。また、演出パターンとして演出パターン２～６に決定された場合には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１ラウンド目の開始時から、演出パターン０，１と同様の標的指示演出を実行するが、演出パターンの種類によって指定された期間の開始タイミングで、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出として示唆演出Ｂに切り替えて実行するようにしている。そして、示唆演出Ｂを実行した後、すなわち演出パターンの種類によって指定された期間が終了した後、１～３ラウンド目の発生期間が終了するまでの期間（４ラウンド目を開始するまでの期間）には、演出パターン０，１と同様の標的指示演出に戻らず、標的指示演出とは異なる専用演出を実行するようにしている。本演出例では、専用演出として、演出表示装置１６００における背景画像を、標的指示演出の実行時とは異なる赤色の背景画像に変更しているが、示唆演出の実行後である旨が判別し得るものであればよく、例えば、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００の背面側から照射されるＬＥＤを、標的指示演出の実行時とは異なる配色で発光制御したり、遊技盤５に設けた各種可動体を、突然的に作動したりしてもよい。なお、このような専用演出は、示唆演出Ｂの実行後ではなく、示唆演出Ｂの実行中から実行するようにしてもよい。

【１２８６】

図２１６に示す演出パターン決定テーブルは、上記周辺制御ＭＰＵ１５１１ａの周辺制御ＲＯＭ１５１１ｂに記憶され、１５Ｒ大当りＡが決定されている場合に使用する１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルと、１５Ｒ大当りＢが決定されている場合に使用する１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルと、を備えている。そして、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルには、演出パターン０，１のそれぞれに対して５個の判定値が設定され、演出パターン２～６のそれぞれに対して１８個の判定値が設定されている。一方、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、演出パターン０，１のそれぞれに対して４５個の判定値が設定され、演出パターン２～６のそれぞれに対して２個の判定値が設定されている。

【１２８７】

上記したように、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルでは、少なくとも示唆演出Ａを実行する演出パターン１～６に対して合計９５個の判定値が設定されているのに対し、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、少なくとも示唆演出Ａを実行する演出パターン１～６に対して合計５５個の判定値が設定されている。すなわち、大当りＡが決定されている場合には、９５％の割合で示唆演出Ａを実行するのに対し、大当りＢが決定されている場合には、５５％の割合で示唆演出Ａを実行する。このように、大当りの種類によって示唆演出Ａの実行割合を異ならせることで、示唆演出Ａの実行によって１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆するようにしている。そして、示唆演出Ａの実行によって１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨が示唆されたときには、１５Ｒ大当りＡが、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当りであることから、１～３ラウンド目の発生期間における遊技（第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技）を、高確率状態となる期待をもって行わせることができる。

【１２８８】

また、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルでは、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６に対して合計９０個の判定値が設定されているのに対し、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６に対して合計１０個の判定値が設定されている。すなわち、大当りＡが決定されている場合には、９０％の割合で示唆演出Ｂを実行するのに対し、大当りＢが決定されている場合には、１０％の割合で示唆演出Ｂを実行する。このように、大当り

の種類によって示唆演出Ｂの実行割合を異ならせているが、示唆演出Ａの実行割合よりも大きく異ならせることで、示唆演出Ａのみが実行されるよりも示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格したときのほうが、１５Ｒ大当りＡである可能性がより高い旨を示唆するようにしている。そして、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格したときには、示唆演出Ｂが、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い示唆演出であることから、示唆演出Ａの実行時よりもさらに、高確率状態となる期待をもって遊技を行わせることができる。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａが実行された場合には、その後の１～３ラウンド目の発生期間において、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格するかどうかに期待をもって注目させることができる。

【１２８９】

また、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６のそれぞれに対して均等に判定値が設定（１５Ｒ大当りＡ時には１８個ずつ、１５Ｒ大当りＢ時には２個ずつ）されることで、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれでの示唆演出Ｂの実行割合が同じとなっている。これに対し、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６のそれぞれに対して設定される判定値の数を異ならせ、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれでの示唆演出Ｂの実行割合が異なるようにしてもよい。例えば、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン２＞演出パターン３＞演出パターン４＞演出パターン５＞演出パターン６の順で判定値が多くなるように設定することで、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階での示唆演出Ｂの実行割合が高くなり、早い段階から示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を認識する割合が高くなる。このような仕様とした場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階から、第二大入賞口２００６及び第二受入口２４３２に遊技球を入球させようとする意欲が高くなり、高確率状態となる期待をもって遊技を行わせることができる。

【１２９０】

また、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６のそれぞれに対して均等に判定値が設定（１５Ｒ大当りＡ時には１８個ずつ、１５Ｒ大当りＢ時には２個ずつ）されることで、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれで示唆演出Ｂが実行された際に、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が同じとなっている。これに対し、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６のそれぞれに対して設定される判定値の数を異ならせ、演出パターンの種類によって指定された期間のそれぞれで示唆演出Ｂが実行された場合における、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が異なるようにしてもよい。例えば、１５Ｒ大当りＡ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン２＞演出パターン３＞演出パターン４＞演出パターン５＞演出パターン６の順で判定値が多くなるように設定し、１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルでは、演出パターン２＜演出パターン３＜演出パターン４＜演出パターン５＜演出パターン６の順で判定値が多くなるように設定することで、１～３ラウンド目の発生期間のうち遅い段階で示唆演出Ｂが実行されるほど、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が高くなる。このような仕様とした場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち早い段階で示唆演出Ｂが実行されなくても、遅い段階で示唆演出Ｂが実行されるほど、１５Ｒ大当りＡである可能性（期待度）が高くなることから、その後の段階で示唆演出Ｂが実行されるかどうかに期待をもって注目させることができる。

【１２９１】

なお、１５Ｒ大当りＡ時及び１５Ｒ大当りＢ時の演出パターン決定テーブルには、演出パターン２～６として、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａを実行した後、１～３ラウンド目の発生期間に示唆演出Ｂを実行するようにしているが、１～３ラウンド目の発

生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａを実行することなく、１～３ラウンド目の発生期間に示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂを順に実行する演出パターンを設定してもよい。また、１～３ラウンド目の発生期間において、示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂのいずれか一方のみを突然的に実行する演出パターンを設定してもよい。このような仕様とした場合には、１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａが実行されなかったときにも、その後の１～３ラウンド目の発生期間に示唆演出Ａや示唆演出Ｂが実行されるかどうかに期待をもって注目させることができる。

【１２９２】

次に、第二の別演出例として１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａが実行された後、１～３ラウンド目の発生期間（特別状態及び非特別状態が設定されている間）に示唆演出Ｂが実行される場合について、演出表示装置１６００における示唆演出Ａ及び示唆演出Ｂの実行時の具体的な演出例を、図２１９を参照して説明する。

【１２９３】

まず、演出パターンとして示唆演出Ａを実行しない演出パターン０が決定されている場合には、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）を受信してから１ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信するまでの間、すなわち、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的には、図２１９（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００において、「Ｖアタッカー開放中にＶ通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

【１２９４】

一方、演出パターンとして少なくとも示唆演出Ａを実行する演出パターン１～６が決定されている場合には、周辺制御基板１５１０が大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）を受信してから１ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信するまでの間、すなわち、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、上記した説明演出ではなく、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出Ａを実行している。具体的には、図２１９（Ｂ）に示すように、演出表示装置１６００において、「チャンス！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い、すなわち実行される大当り遊技状態が１５Ｒ大当り遊技状態Ａである可能性が高い旨を遊技者に認識させることができる。そして、示唆演出Ａの実行によって１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨が示唆されたときには、１５Ｒ大当りＡが、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当りであることから、１～３ラウンド目の発生期間における遊技（第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技）を、高確率状態となる期待をもって行わせることができる。

【１２９５】

次に、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が１ラウンド目の大当り開始コマンド（１ラウンドＡ開始コマンド、１ラウンドＢ開始コマンド）を受信してから３ラウンド目の大当り終了コマンド（３ラウンドＡ終了コマンド、３ラウンドＢ終了コマンド）を受信するまでの間、すなわち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの１～３ラウンド目の間には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように

第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図２１９（Ｃ）に示すように、演出表示装置１６００において、「チャレンジ中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像を表示している。これにより、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域５ａ上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。なお、１～３ラウンド目の発生期間の前（大当り遊技状態の開始前）に示唆演出Ａが実行された場合には、演出表示装置１６００において、「チャンス中！ココを狙え！」というメッセージに変更することで、１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆演出Ａから継続して遊技者に認識させることができ、１～３ラウンド目の発生期間の残りの期間において、第二大入賞口２００６及び第二受入口２４３２に遊技球を入球させようとする意欲が高まるようになる。

【１２９６】

次に、演出パターンとして示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格する演出パターン２～６が決定されている場合には、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間において、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出Ｂを実行している。具体的には、図２１９（Ｄ）に示すように、演出表示装置１６００において、「大チャンス！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い、すなわち実行中の大当り遊技状態が１５Ｒ大当り遊技状態Ａである可能性が高い旨を遊技者に認識させることができる。そして、示唆演出Ａから示唆演出Ｂに昇格したときには、示唆演出Ｂが、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い示唆演出であることから、示唆演出Ａの実行時よりもさらに、高確率状態となる期待をもって遊技を行わせることができる。

【１２９７】

次いで、１～３ラウンド目の発生期間のうち演出パターンの種類によって指定された期間において、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆する示唆演出Ｂが実行された後には、標的指示演出とは背景色が異なる専用演出を実行している。具体的には、図２１９（Ｅ）に示すように、演出表示装置１６００において、「大チャンス中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知するとともに、演出表示装置１６００における背景画像を、標的指示演出の実行時とは異なる赤色の背景画像に変更している。これにより、示唆演出Ａよりも１５Ｒ大当りＡである可能性が高い旨を示唆演出Ｂから継続して遊技者に認識させることができ、１～３ラウンド目の発生期間の残りの期間において、第二大入賞口２００６及び第二受入口２４３２に遊技球を入球させようとする意欲が高まるようになる。なお、専用演出の実行時には、標的指示演出と同様に、演出表示装置１６００において、第二大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像が表示されていることで、第二大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技が継続して行われている旨を遊技者に理解させることができる。

【１２９８】

次に、第一実施形態の演出例と同様に、周辺制御基板１５１０が４ラウンド目の大当りラウンド開始コマンド（４ラウンドＡ開始コマンド、４ラウンドＢ開始コマンド）を受信した後、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ及び１５Ｒ大当り遊技状態Ｂの４～１５ラウンド目の間には、１～３ラウンド目のような第二大入賞口２００６の開放時に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技ではなく、単純に、第一大入賞口２００５の開放時に遊技球が受け入れられるかどうかの遊技を行うことから、その遊技の期間中を楽しませるための大当り遊技中演出を実行している。具体的には、図２１９（Ｆ）に示すように、演出表示装置１６００において、４～１５ラウンド目の各々で実行されているラウンド数を表示しているが、その他にも、大当り遊技状態以外で表示されることがない特典映像

、第一大入賞口２００５の開放時に受け入れられた遊技球の個数や、第一大入賞口２００５に遊技球が受け入れられたことに基づいて払い出される遊技球の個数（トータルの賞球数）などを表示するようにしている。

【１２９９】

［１２．第二実施形態の大当り遊技状態について］

上記した実施形態（第一実施形態）では、第一大入賞口２００５と、内部に第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２を有する第二大入賞口２００６と、の２つの大入賞口を備えているが、第一大入賞口２００５を備えることなく、第二大入賞口２００６のみを備える仕様としてもよい。そして、第二大入賞口２００６を用いた１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃを実行するようにし、その１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける１～１５ラウンドの各々のラウンドで、第二大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングだけでなく、振分片２４３３の作動時間及び作動回数、作動タイミングも同じとすることで、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれであるかを遊技者が判別不可能とする仕様としてもよい。このような仕様とした場合について、第二実施形態として、図２２０乃至図２２５を参照して説明する。以下の第二実施形態の説明では、第二大入賞口２００６について、第一大入賞口２００５を備えていないため、単に、大入賞口２００６と記載するが、内部に第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２を有するなどの機能については第二大入賞口２００６と同じである。

【１３００】

図２２０に示すように、第二実施形態の遊技盤５は、内部に第一受入口２４３１及び第二受入口２４３２を有する大入賞口２００６や振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を備えている。第二実施形態のアタッカユニット２４００には、第一大入賞口２００５に関わる部材（第一大入賞口２００５、第一大入賞口センサ４００５、第一大入賞口扉２４１２、第一アタッカソレノイド２１０８など）を備えていないこと以外、第一実施形態の遊技盤５と同様に構成されている。

【１３０１】

図２２１に示すように、第二実施形態の図柄決定テーブルには、判定結果毎（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ、１５Ｒ大当りＣ）に図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）が関連付けされるかたちで記憶されている。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａでは、取得した図柄乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当りの種類を決定する。なお、第二実施形態の図柄決定テーブルでは、第一図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率と第二図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率とが異なるように設定している。

【１３０２】

具体的には、

１．１５Ｒ大当り遊技状態Ａに応じて大入賞口２００６を３０回開閉制御するものであって、大入賞口２００６の１～５回目の開放時には短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）とし、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、２秒）とし、６ラウンド目及び１５ラウンド目に相当する合計１５回の大入賞口２００６の長時間開放で特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＡ

２．１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに応じて大入賞口２００６を３０回開閉制御するものであって、大入賞口２００６の１～５回目の開放時には短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）とし、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には長時間開放（

遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、２秒）とし、６ラウンド目及び１５ラウンド目に相当する合計２回の大入賞口２００６の長時間開放で特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＢ

３．１５Ｒ大当り遊技状態Ｃに応じて大入賞口２００６を３０回開閉制御するものであって、大入賞口２００６の１～５回目の開放時には短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）とし、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、２秒）とし、６ラウンド目及び１５ラウンド目に相当する合計９回の大入賞口２００６の長時間開放で特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＣ、の３種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

【１３０３】

第二実施形態では、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルとを備えている。そして、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルでは、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと比べて判定値の振分けが異なるように設定されており、各々の大当りの決定割合が異なるようにしている。具体的には、図２２１に示すように、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいて、１５Ｒ大当りＡ～Ｃのうち、遊技者に比較的有利な１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＣ（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当り）に対して２５個ずつの判定値の振分けが設定されているのに対し、遊技者に比較的不利な１５Ｒ大当りＢ（特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が低い大当り）に対して５０個の判定値の振分けが設定されている。一方、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいては、１５Ｒ大当りＡ～Ｃのうち、遊技者に比較的有利な１５Ｒ大当りＡに対してのみ判定値の振分けが設定されている。

【１３０４】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定し、１５Ｒ大当りＢに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＢ図柄に決定し、１５Ｒ大当りＣに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＣ図柄に決定する。なお、図示しない第二特別図柄停止図柄設定処理において、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定する。

【１３０５】

また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち１５Ｒ大当りＡを特定した場合には１５Ｒ大当りＡ図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には１５Ｒ大当りＢ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、１５Ｒ大当りＣを特定した場合には１５Ｒ大当りＣ図柄（１５Ｒ大当りＣ図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１

６００に表示制御する。このように、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄が１５Ｒ大当りＡ図柄、１５Ｒ大当りＢ図柄または１５Ｒ大当りＣ図柄のいずれかで変動停止されたときには、その装飾図柄の停止図柄から大当りであることを判別することができるが、１５Ｒ大当りＡ図柄、１５Ｒ大当りＢ図柄及び１５Ｒ大当りＣ図柄として共通の図柄を用いているため、１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢまたは１５Ｒ大当りＣのいずれかを判別することができない。

【１３０６】

図２２２に示す１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃ時の実行テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭ４１００ｄに記憶され、１～１５ラウンド目における大入賞口２００６の動作スケジュールと、振分片２４３３の動作スケジュールと、第二受入口２４３２の状態設定スケジュールと、がそれぞれ関連付けされている。図２２３（Ａ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートであり、図２２３（Ｂ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートであり、図２２４（Ｃ）は、１５Ｒ大当り遊技状態Ｃ時の実行テーブルに従って実行される１～１５回目の開放のタイミングチャートである。

【１３０７】

図２２２に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃでは、大入賞口２００６の動作スケジュールとして、大入賞口２００６の１～５回目の開放時にはそれぞれ大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）し、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時にはそれぞれ大入賞口２００６を長時間開放（２秒）するように設定されている。また、振分片２４３３の動作スケジュールとして、大入賞口２００６の１～５回目の開放時にはそれぞれ大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）するときに振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）し、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時にはそれぞれ大入賞口２００６を長時間開放（２秒）するときに振分片２４３３を長時間作動（１秒）するように設定されている。

【１３０８】

また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、大入賞口２００６の１～５回目の開放時をそれぞれ１～５ラウンド目とし、大入賞口２００６の６～１３回目の開放時を６ラウンド目とし、大入賞口２００６の１４～２１回目の開放時をそれぞれ７～１４ラウンドとし、大入賞口２００６の２２～３０回目の開放時を１５ラウンドとするように設定されている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、大入賞口２００６の１～４回目の開放時をそれぞれ１～４ラウンド目とし、大入賞口２００６の５～１０回目の開放時を５ラウンド目とし、大入賞口２００６の１１回目の開放時を６ラウンド目とし、大入賞口２００６の１２～２２回目の開放時を７ラウンド目とし、大入賞口２００６の２３～３０回目の開放時をそれぞれ８～１５ラウンド目とするように設定されている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｃでは、大入賞口２００６の１～４回目の開放時をそれぞれ１～４ラウンド目とし、大入賞口２００６の５～１３回目の開放時を５ラウンド目とし、大入賞口２００６の１４～２１回目の開放時を６ラウンド目とし、大入賞口２００６の２２～３０回目の開放時をそれぞれ７～１５ラウンド目とするように設定されている。

【１３０９】

第二実施形態では、第二受入口２４３２の状態設定スケジュールとして、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける６ラウンド目及び１５ラウンド目では、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されているが、６ラウンド目及び１５ラウンド目を除いたラウンド数では、非特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しないこととなる状態）に設定されている。すなわち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、大入賞口２００６の６～１３回目の開放時及び２２～３０回目の開放時に、特別状態に設定されている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、大入賞口２００６の１１回目の開放時及び３０回目の開放時に、特別状態に設定されて

いる。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｃでは、大入賞口２００６の１４～２１回目の開放時及び３０回目の開放時に、特別状態に設定されている。

【１３１０】

また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、大入賞口２００６の３０回の開放時のうちトータル１５回の開放時に、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、大入賞口２００６の３０回の開放時のうちトータル２回の開放時に、特別状態に設定されている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ｃでは、大入賞口２００６の３０回の開放時のうちトータル９回の開放時に、特別状態に設定されている。このため、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのうち１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、特別状態に設定されている開放回数がもっとも多いことから、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率がもっとも高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率がもっとも高くなっている。一方、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのうち１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、特別状態に設定されている開放回数がもっとも少ないことから、特別状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率がもっとも低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率がもっとも低くなっている。

【１３１１】

図２２３（Ａ），（Ｂ）及び図１２８（Ｃ）に示すように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃでは、１～１５ラウンド目として大入賞口２００６を３０回開放するようにし、大入賞口２００６の開放時間及び開放回数、開放タイミングが全て同じとなっている。また、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃでは、１～１５ラウンド目の各々のラウンドにおける大入賞口２００６の開放回数を異ならせているが、実行中のラウンド数については遊技者に通知していない。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃでは、１～１５ラウンド目の全体として、大入賞口２００６の開放パターンを同じにし、且つ、振分片２４３３の作動パターン（振分片２４３３の作動時間や作動タイミングなど）も同じにしているため、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれであるかを遊技者が判別不可能となっている。

【１３１２】

第二実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれも大入賞口２００６の１～５回目の開放時には、短時間開放（０．５秒）しかしないため、大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）する期間中に振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）しかしないため、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。

【１３１３】

また、第二実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれも大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には、長時間開放（２秒）するため、大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが容易であり、さらに大入賞口２００６を長時間開放（２秒）する期間中に振分片２４３３を長時間作動（１秒）するため、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが容易となっている。ただし、１５Ｒ大当り遊技状態Ａでは、大入賞口２００６の６～１３回目の開放時（６ラウンド目）及び２２～３０回目の開放時（１５ラウンド目）に、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂでは、大入賞口２００６の１１回目の開放時（６ラウンド目）及び３０回目の開放時（１５ラウンド目）に、１５Ｒ大当り遊技状態Ｃでは、大入賞口２００６の１４～２１回目の開放時（６ラウンド目）及び３０回目の開放時（１５ラウンド目）に、特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定されている。このように、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃでは、１～１５ラウンド目として大入賞口２００６を３０回開放するようにし、６ラウンド目及び１５ラウンド目で特別状態に設定するようにしているが、大入賞口２００６の１～３０回目の開放時のうち、特別状態に設定されている開放時期（何回目の開放時か）については異ならせている。より詳細には、大入賞口２００６の１～３０回目の開

放時のうち、特別状態に設定されている開放期間の開始時期（何回目の開放時から特別状態に設定されるか）、特別状態に設定されている開放期間の終了時期（何回目の開放時に特別状態の設定が終了するか）、特別状態に設定されている開放回数（１～３０回の開放時のうち何回の開放時に特別状態に設定されるか）、の全てを異ならせている。また、大入賞口２００６の開放時が何ラウンド目であるのか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、大入賞口２００６の開放時に、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられた（受け入れられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となっている。

【１３１４】

また、第二実施形態では、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時のうちいずれの開放時にも、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃのいずれかに基づいた特別状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）が設定されている。また、大入賞口２００６の開放時が何ラウンド目であるのか、加えて、特別状態に設定されているか又は非特別状態に設定されているかについては、遊技者に通知していない。このため、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時のうち、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられた（受け入れられた）開放時がいずれの開放時であっても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する可能性があることから、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知するまでは、高確率状態となる期待をもって遊技を継続させることができる。また、大入賞口２００６の６～３０回目の開放時のうち、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられた（受け入れられた）開放時がいずれの開放時であっても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御しない可能性があることから、大入賞口２００６の６～３０回目の開放が終了するまでは、大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が振り分けられる（受け入れられる）かどうかの遊技を継続させることができる。

【１３１５】

次に、第二実施形態の演出表示装置１６００における１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの実行時の具体的な演出例について、図２２５を参照して説明する。第二実施形態では、少なくとも１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける大入賞口２００６の１～５回目の開放時と、６～３０回目の開放時と、で、それぞれ演出表示装置１６００にて共通の演出を実行するようにしている。

【１３１６】

まず、演出表示装置１６００では、周辺制御基板１５１０が受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するように表示制御されるが、装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち１５Ｒ大当りＡを特定した場合には１５Ｒ大当りＡ図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には１５Ｒ大当りＢ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、１５Ｒ大当りＣを特定した場合には１５Ｒ大当りＣ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御するようにしている。このように、１５Ｒ大当りＡ～Ｃのいずれに決定した場合にも、演出表示装置１６００に装飾図柄の停止図柄として共通の停止図柄を表示制御することで、装飾図柄の停止図柄からは１５Ｒ大当りＡ～Ｃのいずれかを判別することができない。

【１３１７】

次に、上記したステップＳ１９０の処理でインターバルタイマにセットされた大当り遊技状態を開始するまでの待機時間が経過するまでの間には、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの６～３０回目の開放時における遊技方法を説明する説明演出を実行している。具体的に

は、図２２５（Ａ）に示すように、演出表示装置１６００において、「Ｖアタッカー開放中にＶ通過すれば確変かも！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなるチャンスが生じることを遊技者に理解させることができる。

【１３１８】

次に、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける大入賞口２００６の１～５回目の開放時には、６～３０回目の開放を開始するまでの待機時間をカウントダウンするカウントダウン演出を実行している。具体的には、図２２５（Ｂ）に示すように、演出表示装置１６００において、「カウントダウン！」というメッセージを遊技者に通知するとともに、画面中央部に時間が経過するのに伴って「５」、「４」、「３」、「２」、「１」のように表示し、６～３０回目の開放を開始するまでの待機時間を遊技者に通知するようにしている。また、上記したように、大入賞口２００６の１～５回目の開放時には、短時間開放（０．５秒）しかしないため、大入賞口２００６に遊技球が受け入れられることが極めて困難であり、さらに大入賞口２００６を短時間開放（０．５秒）する期間中に振分片２４３３を短時間作動（０．２秒）しかしないため、大入賞口２００６に受け入れられた遊技球が第二受入口２４３２に振り分けられる（受け入れられる）ことが極めて困難となっている。このため、大入賞口２００６の１～５回目の開放時には、大入賞口２００６及び第二受入口２４３２への遊技球の入球に対する期待が減退しがちであるが、カウントダウン演出を実行することで、その後に開始される大入賞口２００６の６～３０回目の開放に対する期待を煽るようになり、大入賞口２００６及び第二受入口２４３２への遊技球の入球に対する期待が減退しないようにしている。

【１３１９】

次に、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるように第二受入口２４３２の開放時（振分片２４３３の作動時）を狙うべき旨を示す標的指示演出を実行している。具体的には、図２２５（Ｄ）に示すように、演出表示装置１６００において、「チャンスモード中！ココを狙え！」というメッセージを遊技者に通知し、大入賞口２００６や第二受入口２４３２、振分片２４３３などが含まれるアタッカユニット２４００を模写した画像とともに、遊技者が狙うべき第二受入口２４３２の場所を示す画像を表示している。これにより、大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるためには、遊技領域５ａ上のどこを狙えばよいのかを明確に知ることができる。なお、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける大入賞口２００６の６～３０回目の開放時には、特別状態または非特別状態のいずれかの期間内に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるごとに、その第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を示すＶ通過時演出を実行している。このＶ通過時演出では、図２１１（Ｃ）に示した画像と同じく、演出表示装置１６００において、「Ｖ通過！」というメッセージを遊技者に通知している。これにより、例えば実際に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを遊技者が見逃した場合であっても、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた旨を明確に知ることができ、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる期待を高めることができる。

【１３２０】

第二実施形態では、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃにおける大入賞口２００６の１～３０回目の開放時、すなわち、全てのラウンド数を消化するまでは、大入賞口２００６の開放中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを判別することができないが、その後の遊技において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか（制御したか）又は高確率状態に制御しないか（制御していないか）を判別できるようにしている。例えば、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの１５ラウンド目の終了時（終了前後）において、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者に通知したり、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの終了後から特別図柄の変動表示として数変動

～数十変動が行われた後に、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを遊技者に通知したりすればよい。これらのうち、１５Ｒ大当り遊技状態Ａ～Ｃの終了後にも、高確率状態に制御されているか又は高確率状態に制御されていないかを潜伏させる場合には、高確率状態に制御されているかも知れないという期待をもって遊技を継続させることができる。

【１３２１】

以上、第二実施形態によれば、第二受入口２４３２を有する大入賞口２００６の６回目以降の開放中に特別状態及び非特別状態のいずれかを設定することで、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた（振り分けられた）としても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかを遊技者が判別困難となる。これにより、第一実施形態と同様に、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても遊技者に安心感を与えず、高確率状態に制御するか又は高確率状態に制御しないかの期待感や緊張感を遊技者に与えたまま大当り遊技を継続させることが可能となる。

【１３２２】

また、第二実施形態によれば、第一実施形態により得られる各種の効果に加え、以下の効果を奏することができる。すなわち、「第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることが可能とされる大入賞口２００６の複数回開放が行われる間、できるだけ多くの大入賞口２００６の開放で遊技球を入球させ、且つ、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることで、利益付与（高確率状態の付与）の可能性が高まる」というゲーム性を実現可能となる。より詳しくは、「大入賞口２００６の複数回開放の全てで第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、確実に利益を付与する（安心感を与える）一方で、大入賞口２００６の複数回開放のうち第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた回数が減少するほど利益付与の可能性が低下する（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた回数が増加するほど期待感を与える）」という特異なゲーム性を実現できる。こうしたゲーム性により、従来に比して「第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた回数」に遊技者を注目させる新たな面白みを付加することができる。

【１３２３】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【１３２４】

すなわち、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

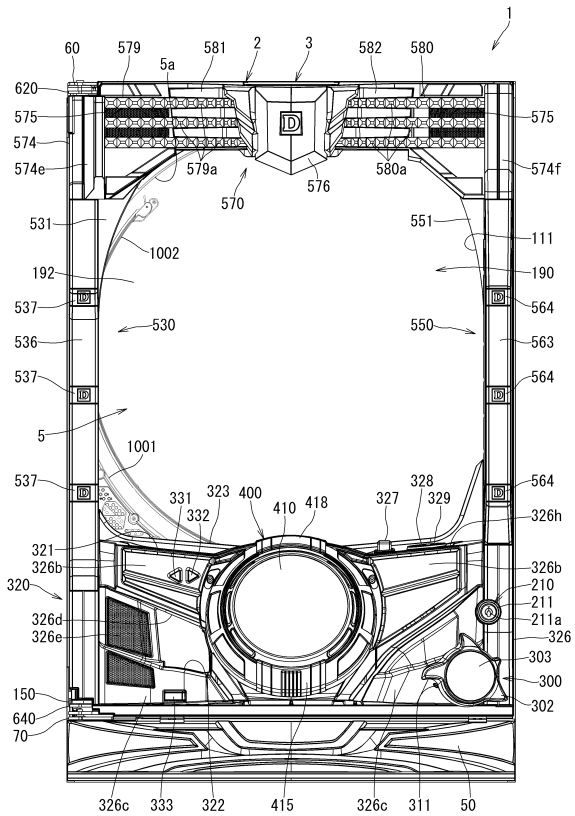
【１３２５】

１　パチンコ機
２　外枠
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
１０００　前構成部材
１１００　遊技パネル
２０００　表ユニット
２００５　第一大入賞口
２００６　第二大入賞口
２４００　アタッカユニット（可変入球装置）
２４３１　第一受入口

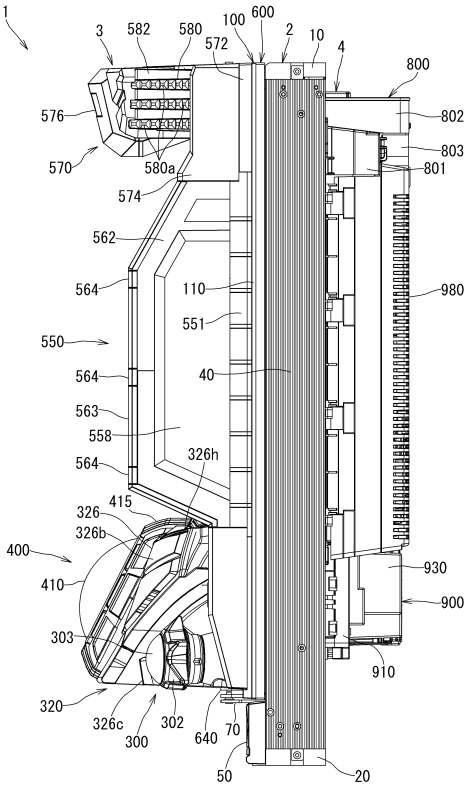
２４３２　第二受入口（特定領域）
２４３３　振分片
２４３４　第一受入口センサ
２４３５　第二受入口センサ（特定領域）
３０００　裏ユニット
３５００　裏上可動演出ユニット
３５１０　裏上第一装飾体ユニット（装飾体）
３５１１　第一左可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５１２　第一右可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５１３　第一固定装飾レンズ（固定装飾部）
３５１６　第一下アーム
３５１８　第一上アーム
３５２０　第一開閉ギア部材
３５２１　第一開閉アーム
３５２３　第一開閉バネ（付勢部材）
３５２４　第一取付ベース
３５２５　第一取付軸部材
３５３０　裏上第二装飾体ユニット（装飾体）
３５３１　第二左可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５３２　第二右可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５３３　第二固定装飾レンズ（固定装飾部）
３５３６　第二下アーム
３５３８　第二上アーム
３５４０　第二開閉ギア部材
３５４１　第二開閉アーム
３５４３　第二開閉バネ（付勢部材）
３５４４　第二取付ベース
３５５０　裏上第三装飾体ユニット（装飾体）
３５５１　第三左可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５５２　第三右可動装飾レンズ（可動装飾部）
３５５３　第三固定装飾レンズ（固定装飾部）
３５５６　第三下アーム
３５５８　第三上アーム
３５６０　第三開閉ギア部材
３５６１　第三開閉アーム
３５６３　第三開閉バネ（付勢部材）
３５６４　第三取付ベース
３５７０　裏上回転ベースユニット（ベース体）
３５７１　裏上回転ベース
３５７３　第二用駆動リンクギア部材
３５７８　第三用駆動リンクギア部材
３５８３　作用レバー駆動モータ
３５８５　作用レバーピニオンギア
３５８６　作用レバー（作用体）
３５８６ａ　作用レバーラックギア
３５８６ｆ　第一用作用部
３５８６ｉ　第二用作用部
３５８６ｋ　第三用作用部
３６００　裏上昇降ユニット
３６１０　可動側ユニット

３６１１　可動側ベース（出現ベース）
３６１２　裏上回転駆動モータ
３６１４　回転ベース駆動ギア
３６５０　固定側ユニット
３６５２　昇降用回転体
３６５４　裏上昇降駆動モータ

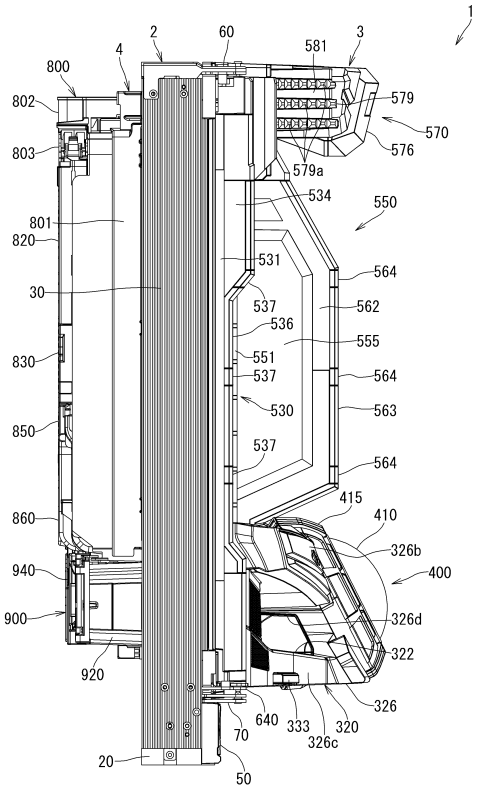
【図１】



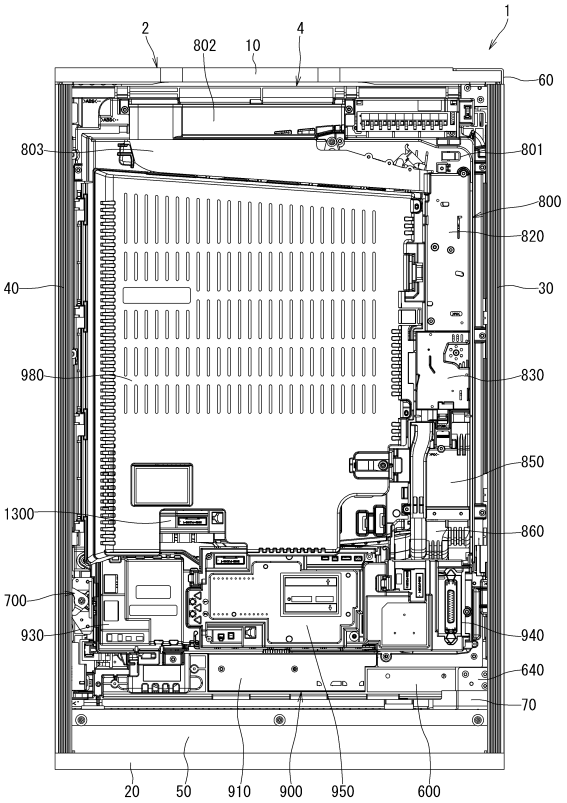
【図２】



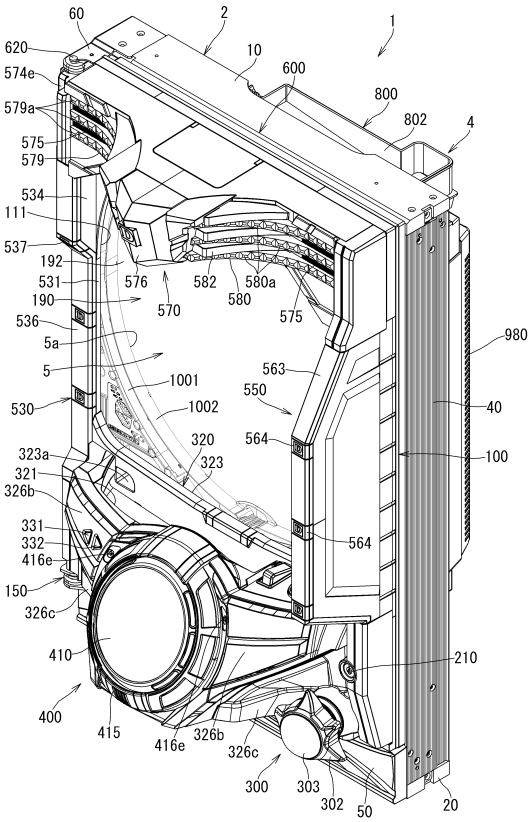
【図３】


1
2
60
581
3
4
800
802
579
570
576
803
579a
534
550
801
820
531
564
30
537
562
536
555
830
551
564
537
530
563
850
537
564
415
860
410
326b
940
400
900
326d
322
920
326
640
333
320
70
326c
20
50

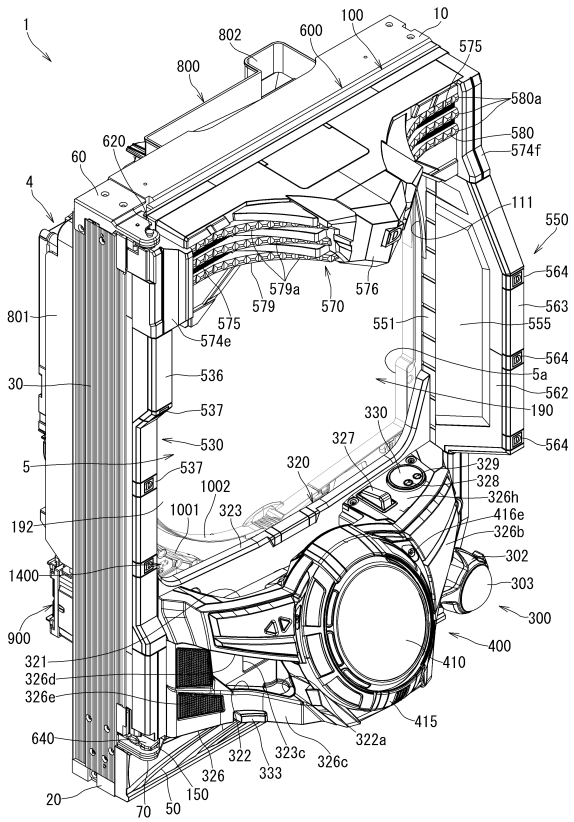
【図４】


1
2
802
10
4
60
803
801
800
820
40
30
980
830
850
1300
860
700
930
940
640
70
20
50
910
900
950
600

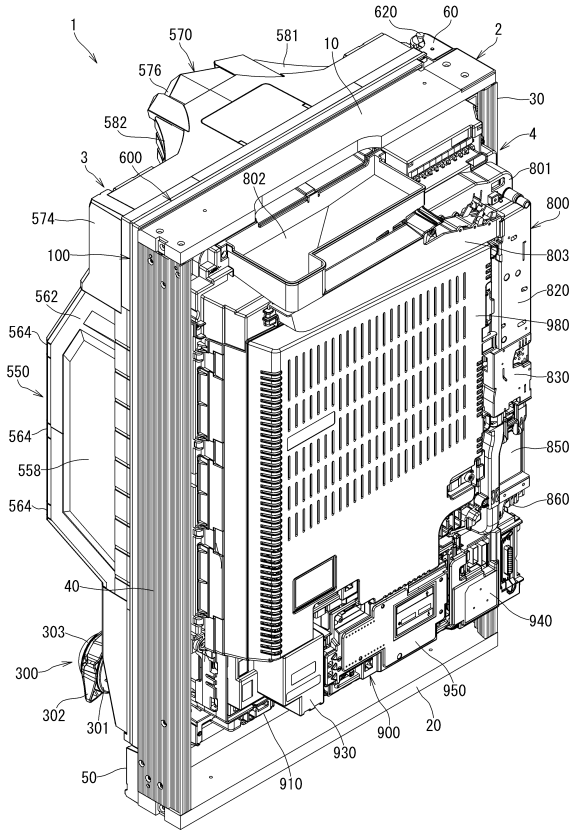
【図５】


60
2
1
620
10
600
574e
800
579a
802
4
575
579
534
111
537
192
531
576
582
580a
190
570
580
575
536
5a
980
5
563
1001
550
530
1002
40
320
564
323a
323
100
321
326b
331
564
332
416e
150
326c
410
210
400
415
416e
326b
326c
300
303
302
50
20

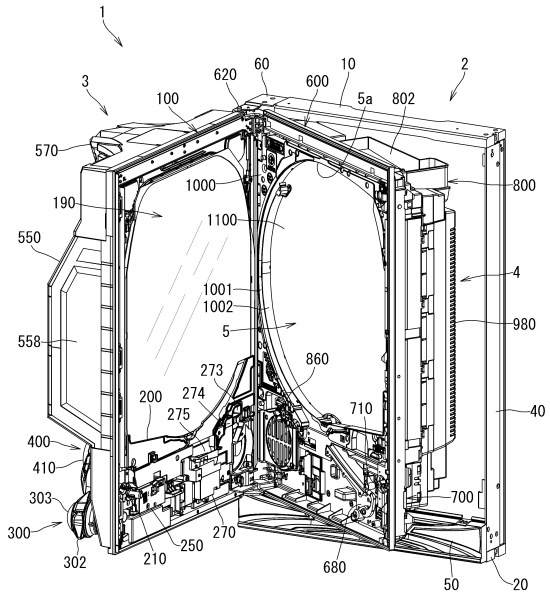
【図６】


1
802
600
100
10
800
575
580a
620
580
60
574f
4
111
550
564
579a
576
579
570
563
801
575
551
555
574e
564
5a
30
536
562
537
190
330
564
530
327
5
537
320
329
328
1002
326h
1001
323
416e
192
326b
1400
302
303
900
300
321
400
410
326d
326e
415
322a
640
322
323c
326c
333
326
150
20
70
50

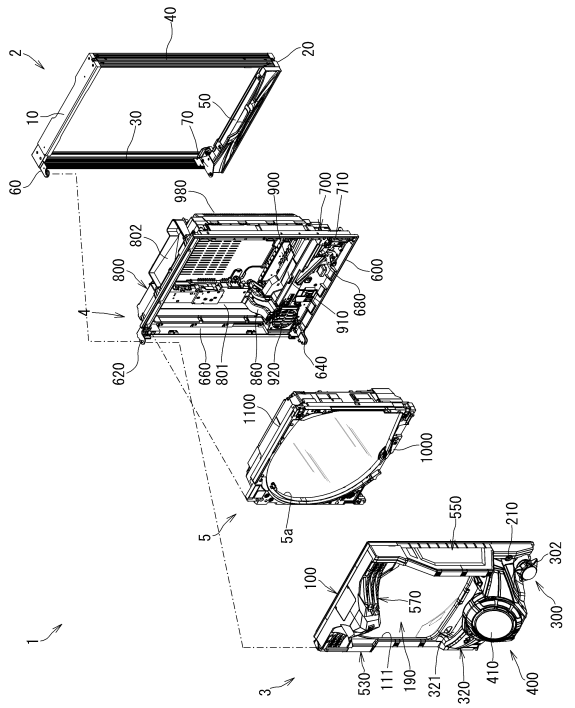
【図７】


1
570
581
10
620
60
2
576
582
30
4
3
600
802
801
800
574
100
803
562
820
564
980
550
830
564
850
558
860
564
40
940
303
300
950
302
301
900
20
930
50
910

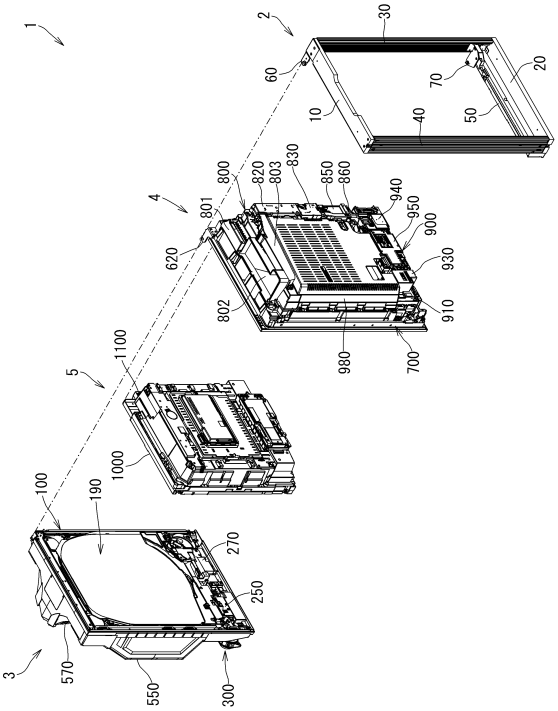
【図８】


1
3
620
60
10
600
2
100
5a
802
570
800
1000
190
1100
550
4
1001
1002
980
5
558
860
273
200
274
710
40
275
400
410
700
303
300
302
210
250
270
680
50
20

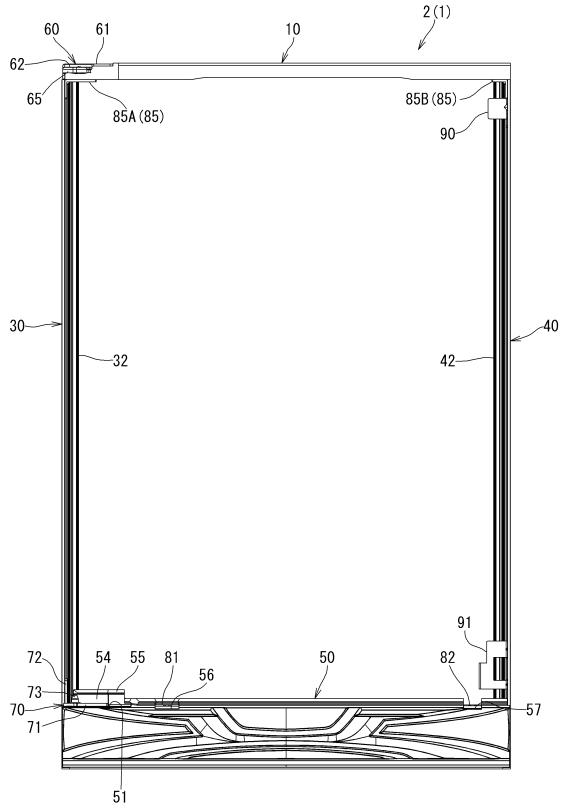
【図９】


40
2
20
10
30
70
50
60
980
900
700
710
802
800
600
4
680
910
620
660
801
860
920
640
1100
1000
5a
5
550
210
302
100
570
300
1
530
111
190
321
320
410
400
3

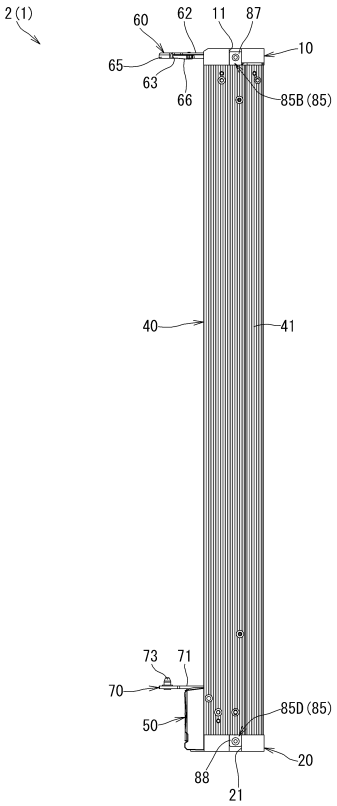
【図１０】


1
2
30
60
70
20
10
40
50
800
820
803
830
850
860
4
801
940
950
900
620
930
910
802
980
700
1100
5
1000
100
190
270
250
3
570
550
300

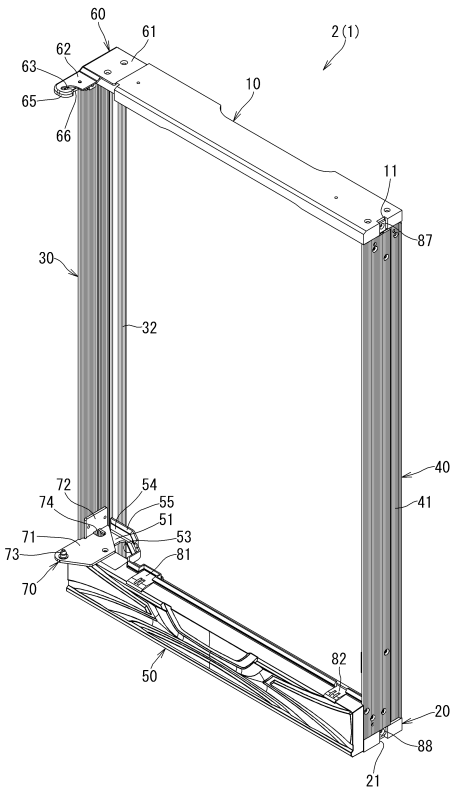
【図１１】



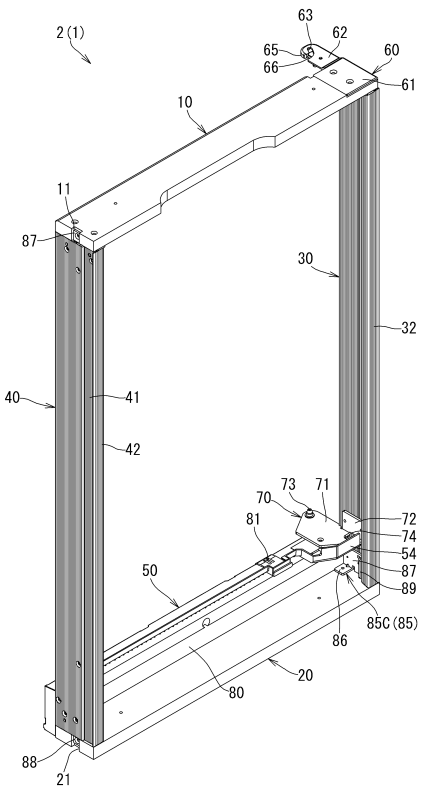
【図１２】



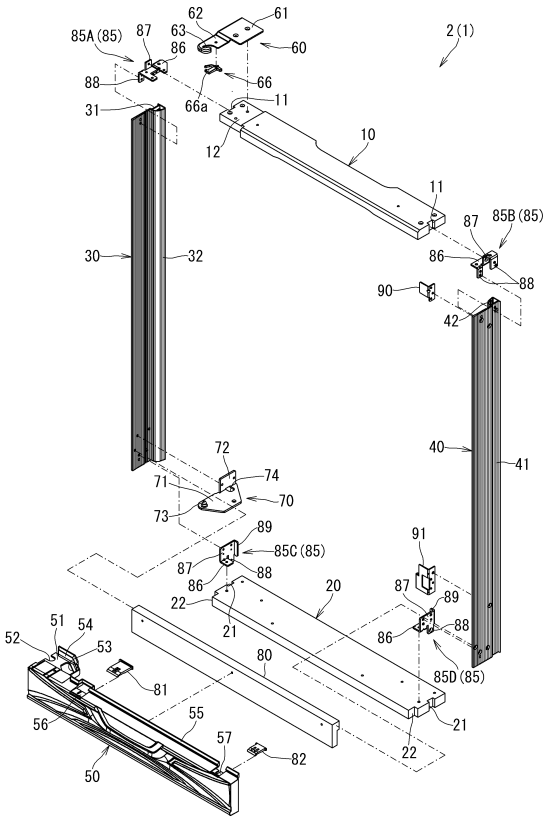
【図１３】



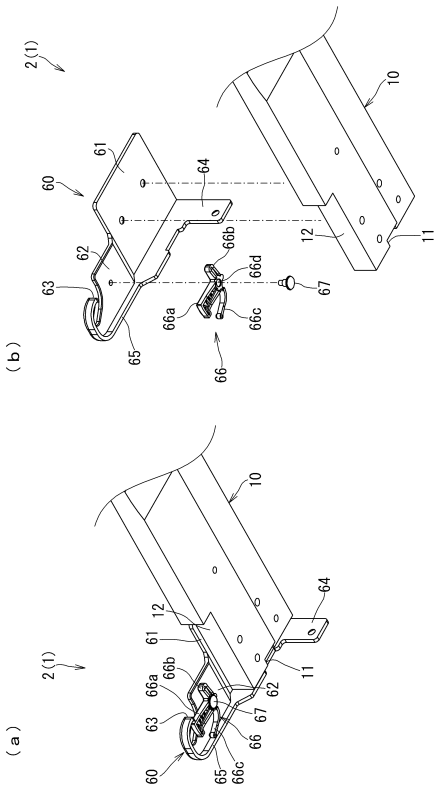
【図１４】



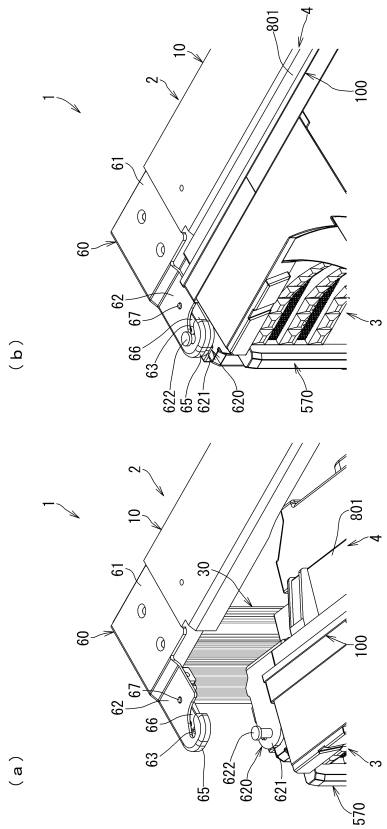
【図１５】



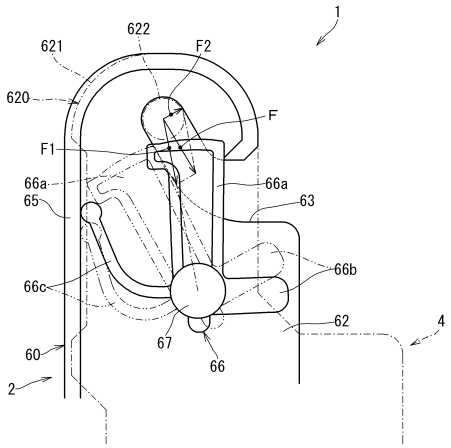
【図１６】



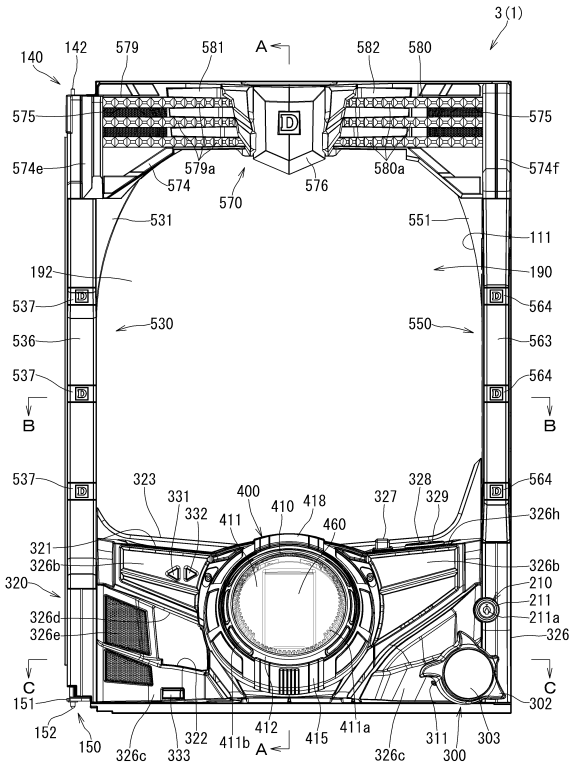
【図１７】



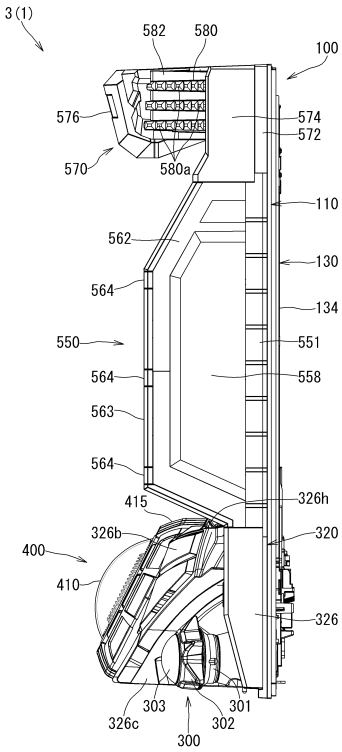
【図１８】



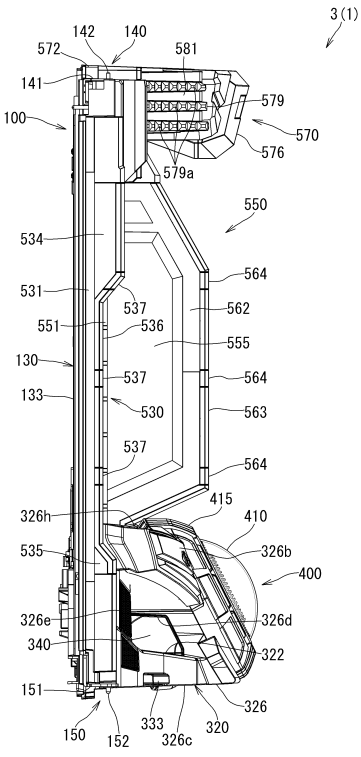
【図１９】



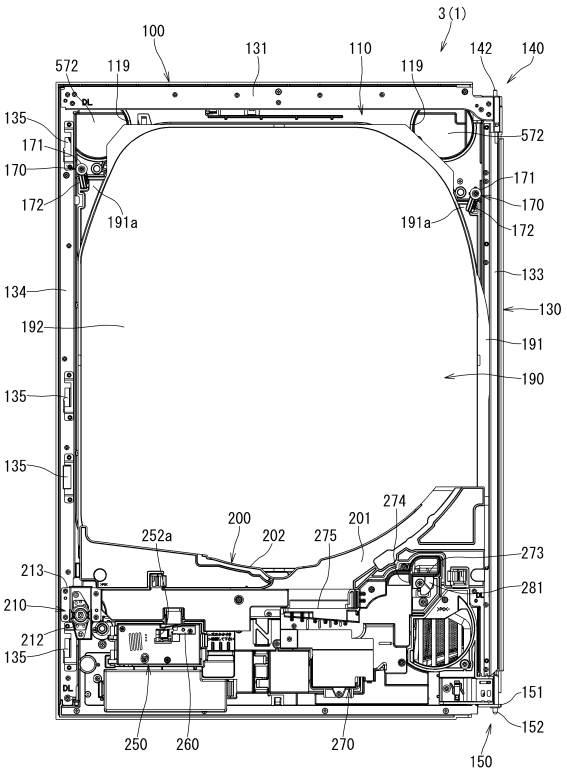
【図２０】



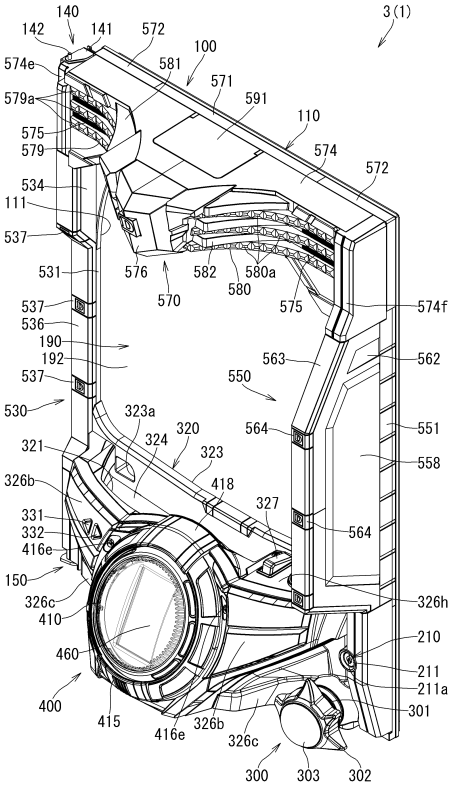
【図２１】



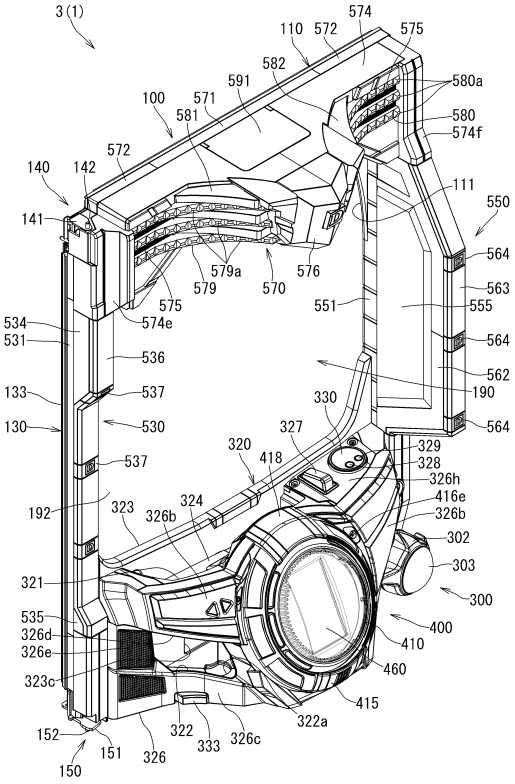
【図２２】



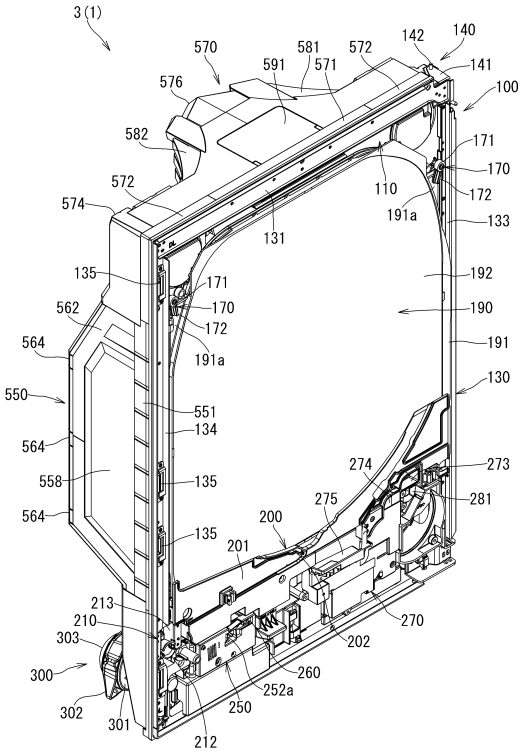
【図２３】



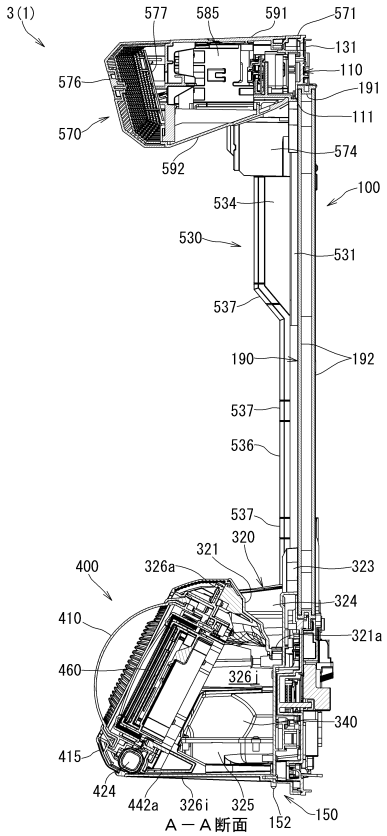
【図２４】



【図２５】

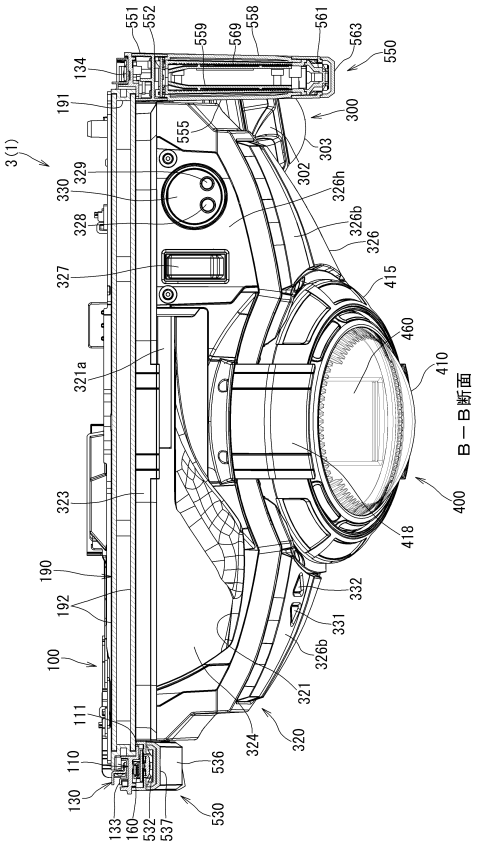


【図２６】

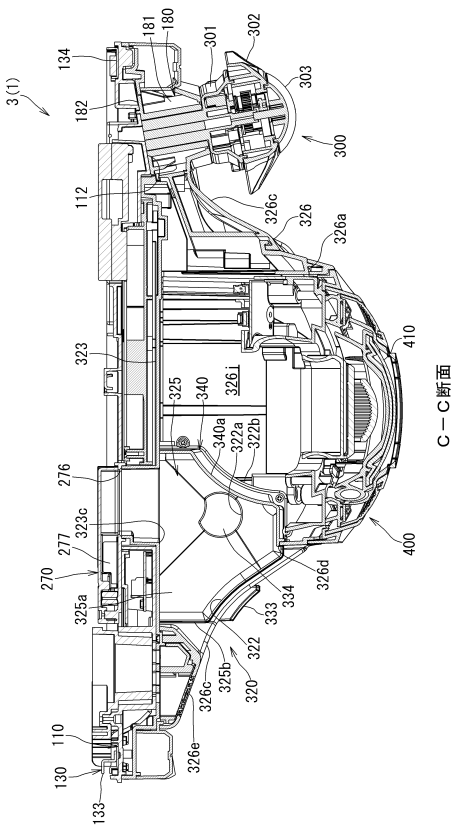


A－A断面

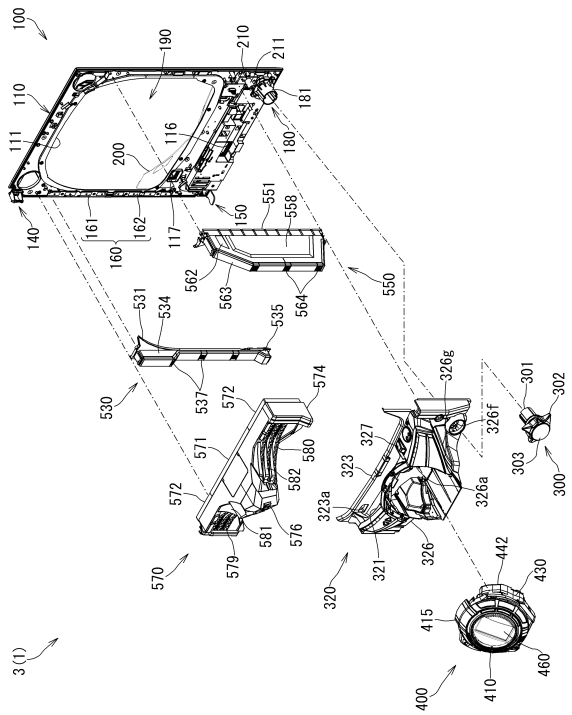
【図２７】



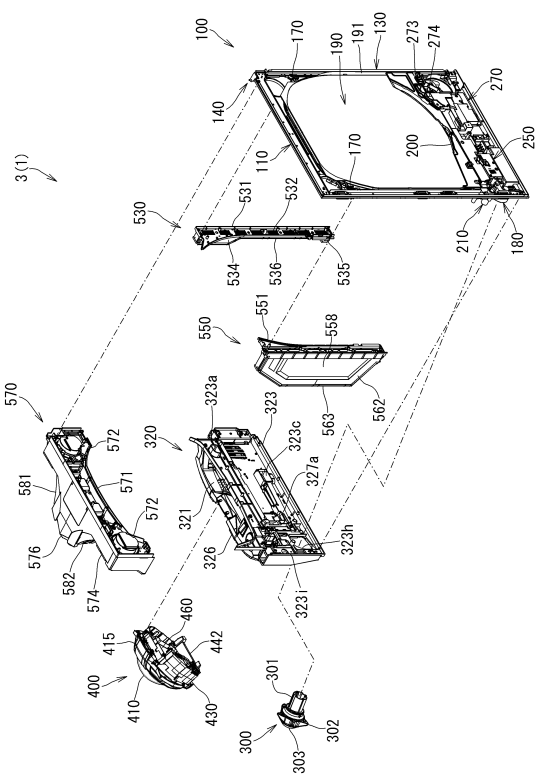
【図２８】



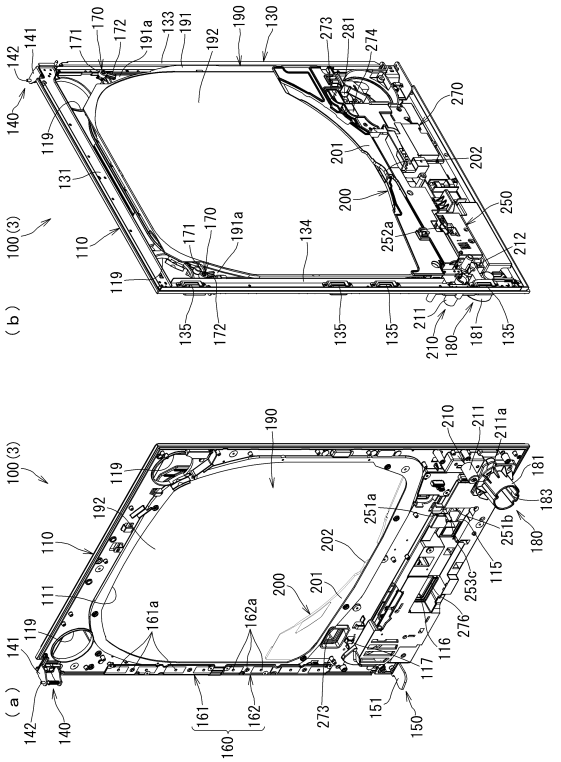
【図２９】



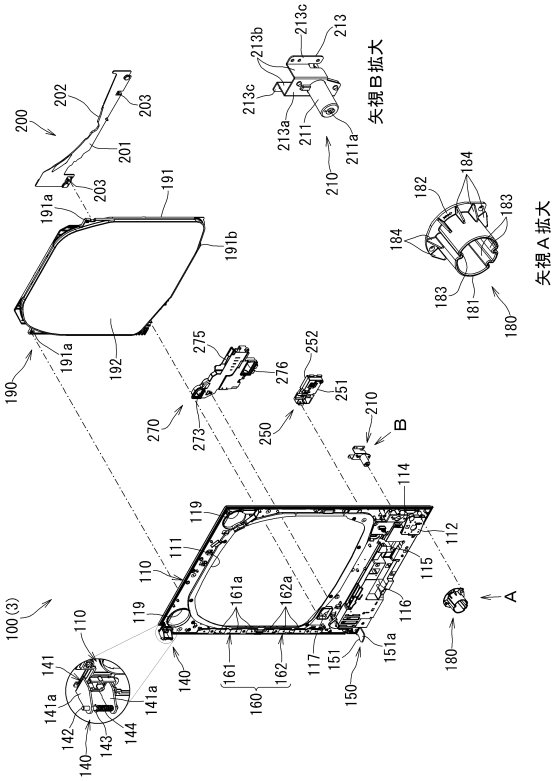
【図３０】



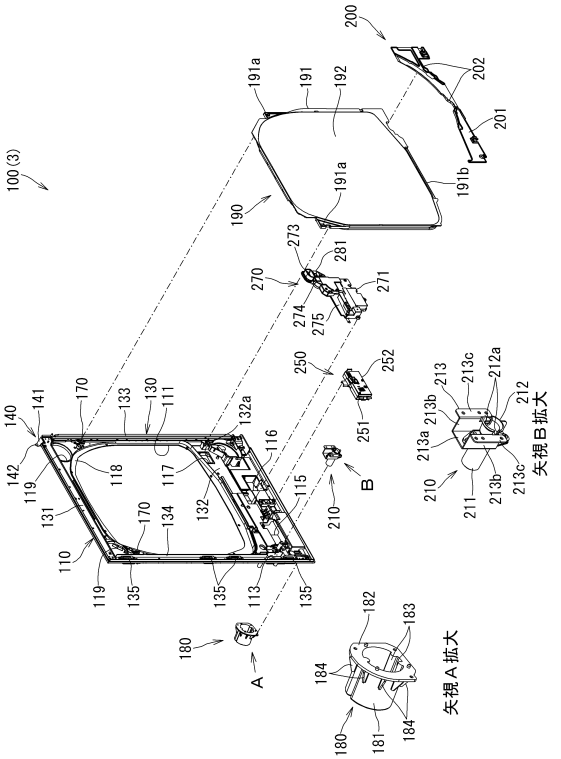
【図３１】



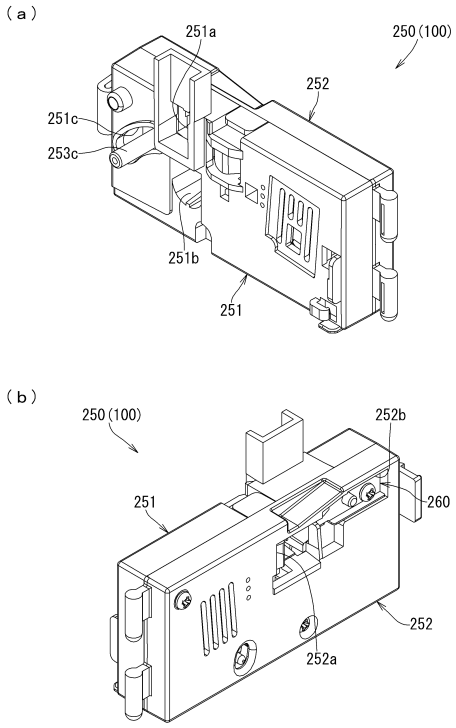
【図３２】



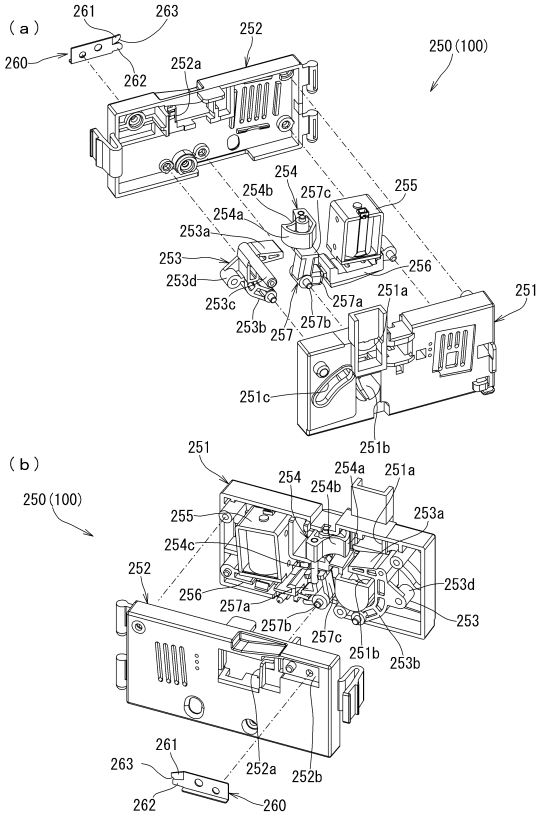
【図３３】



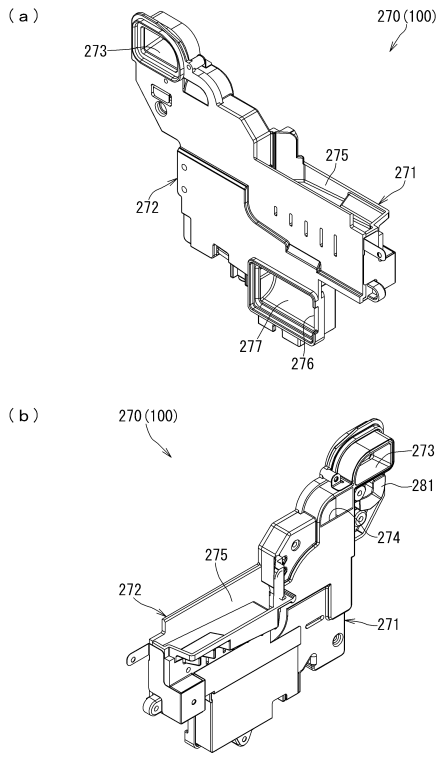
【図３４】



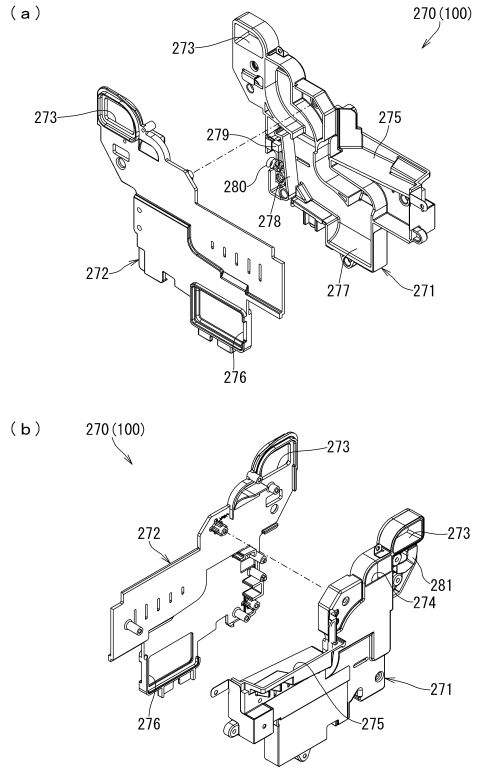
【図３５】



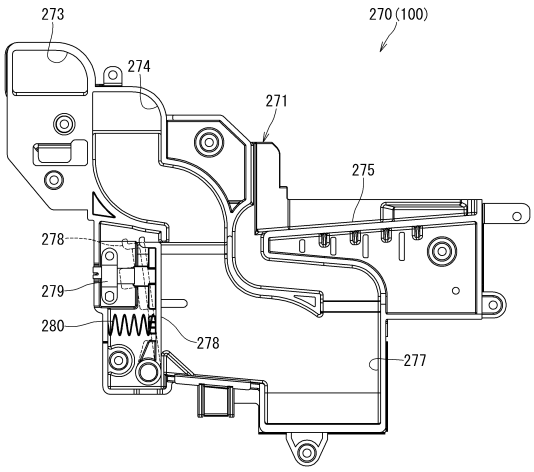
【図３６】



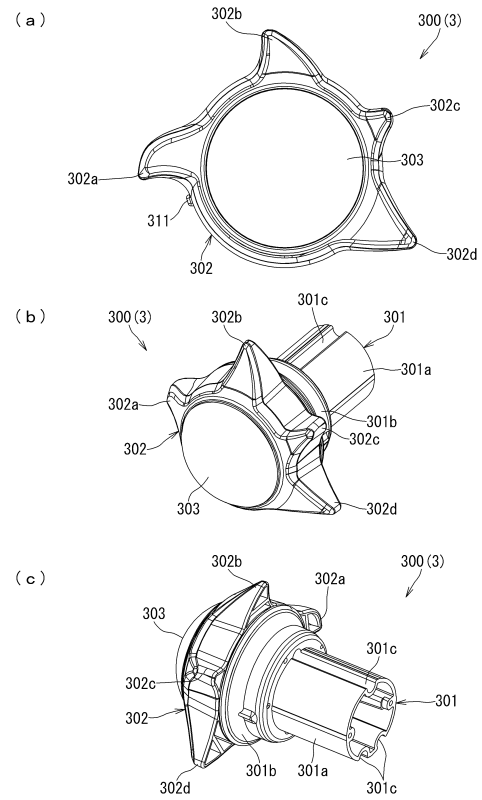
【図３７】



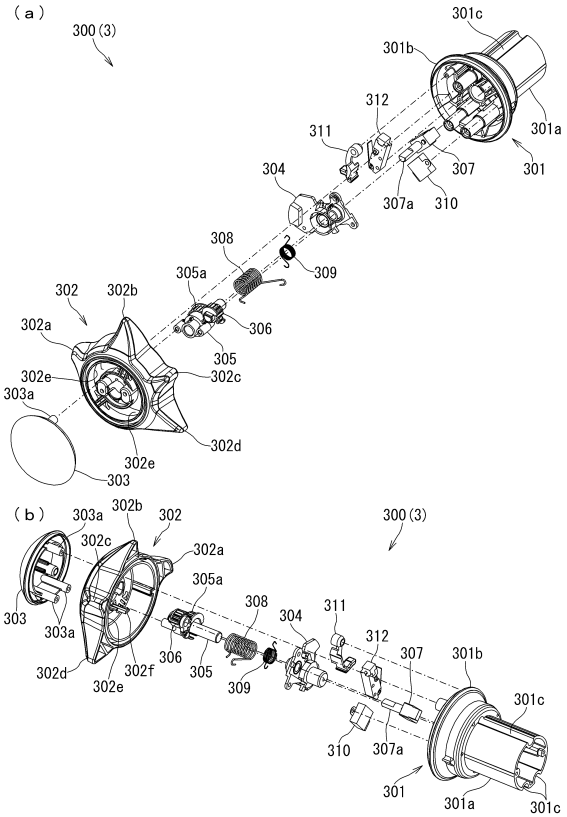
【図３８】



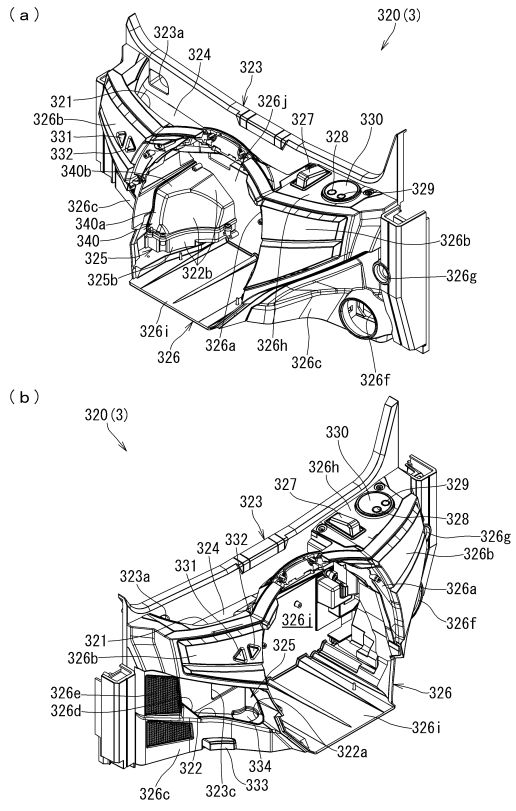
【図３９】



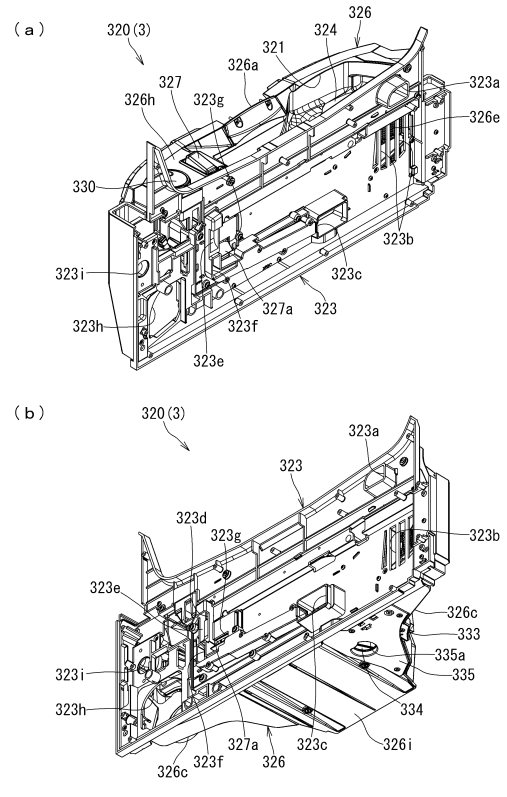
【図４０】



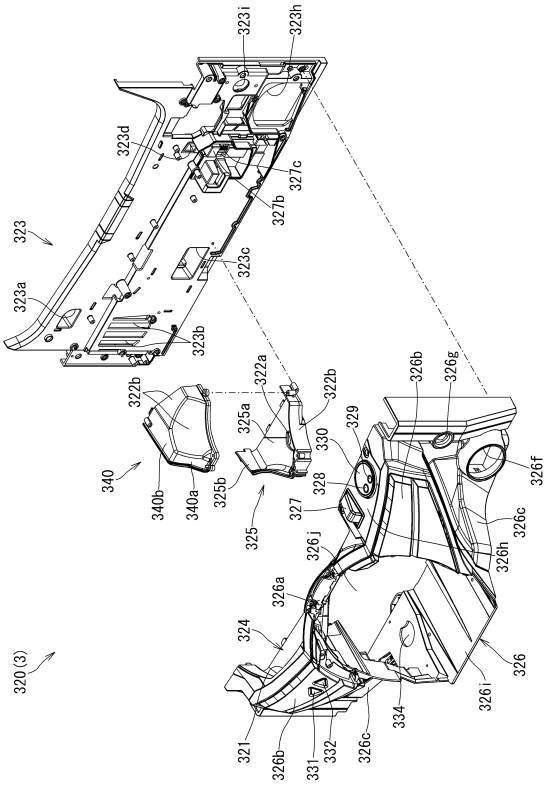
【図４１】



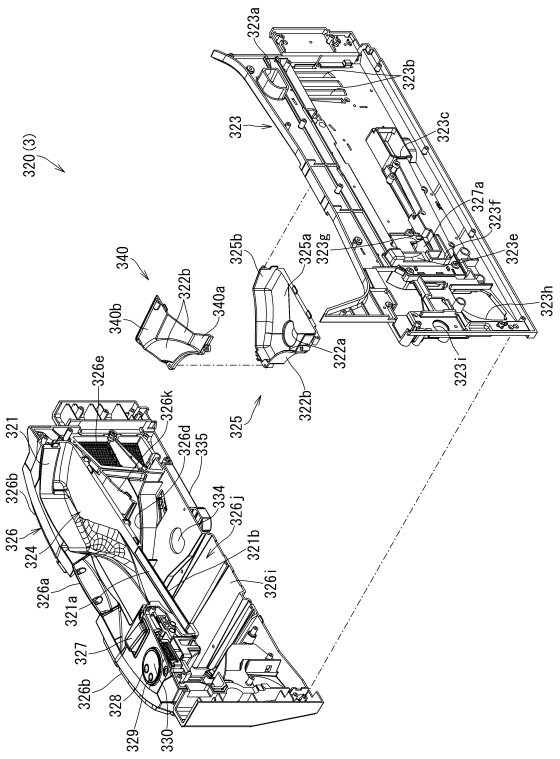
【図４２】



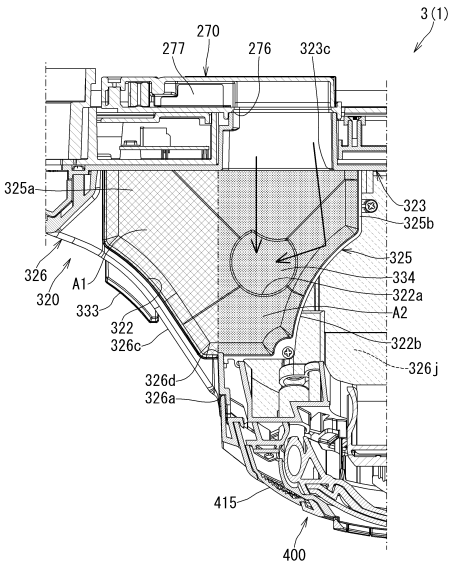
【図４３】



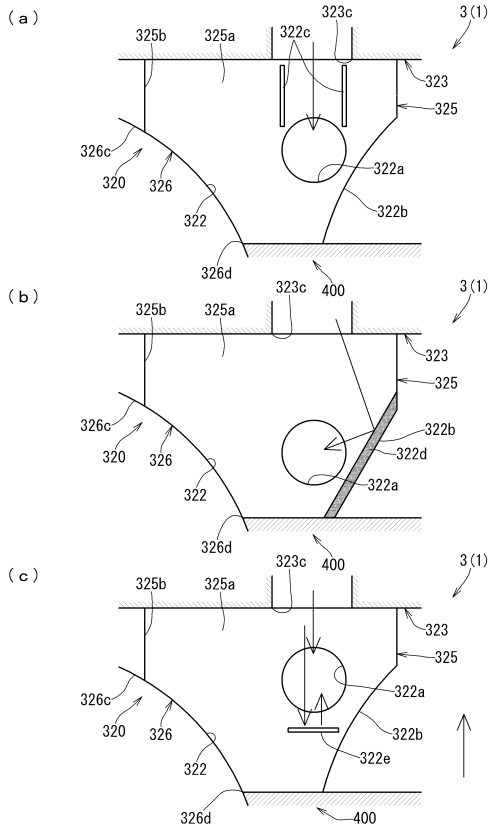
【図４４】



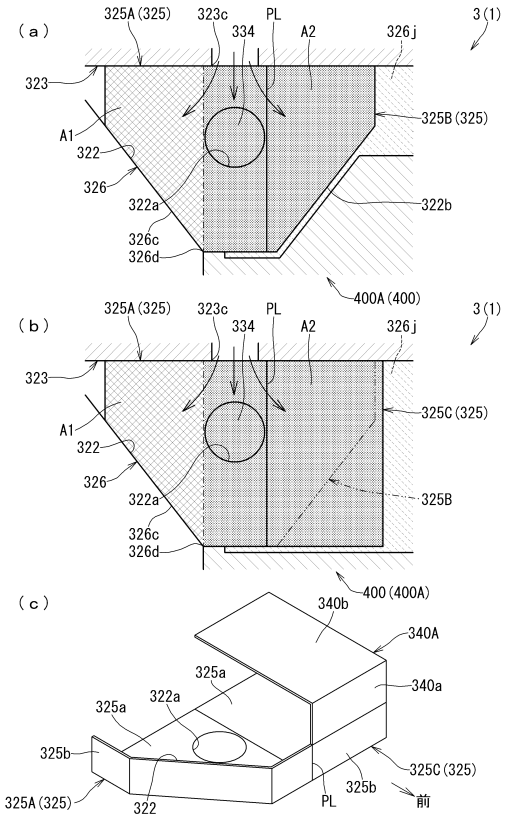
【図４５】



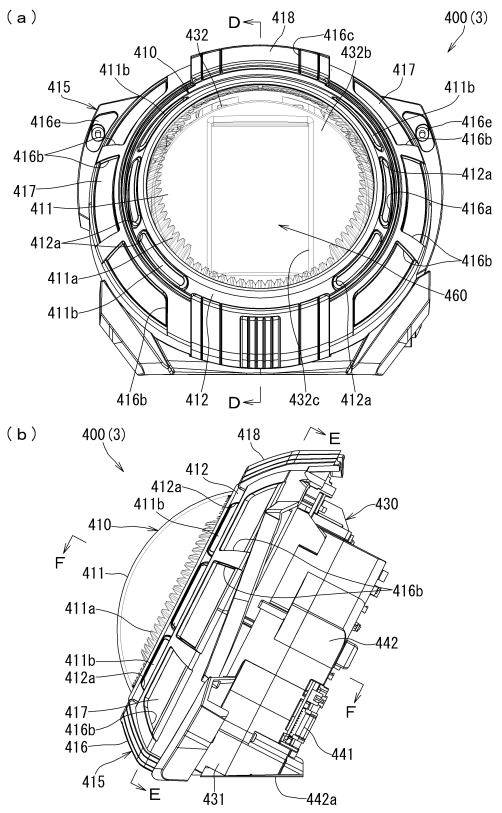
【図４６】



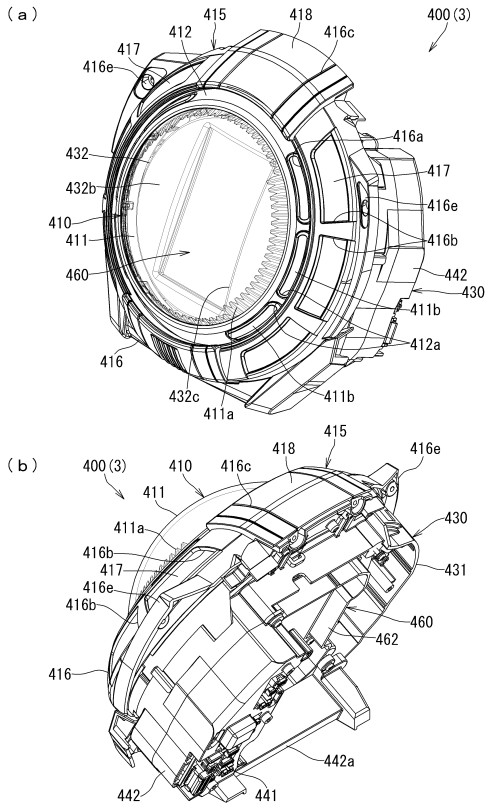
【図４７】



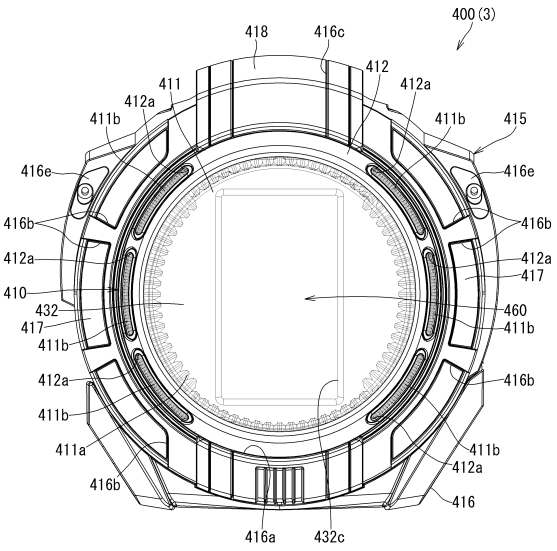
【図４８】



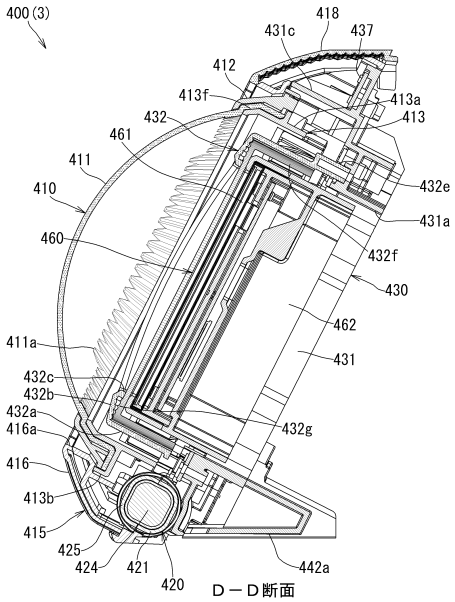
【図４９】



【図５０】

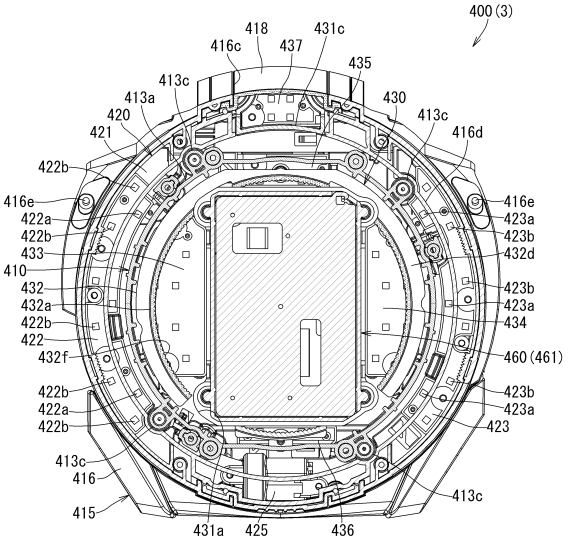


【図５１】



Ｄ－Ｄ断面

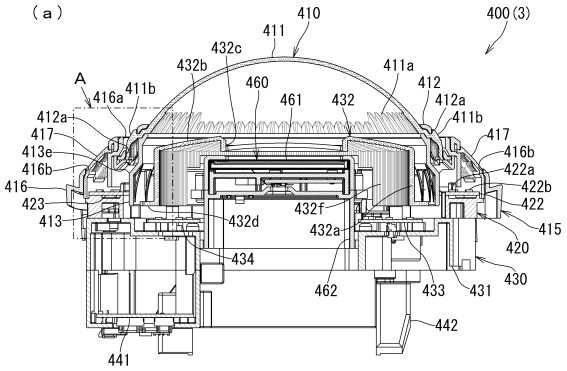
【図５２】



Ｅ－Ｅ断面

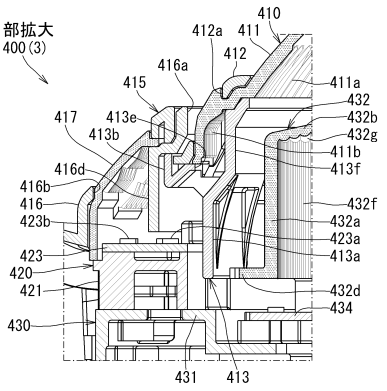
【図５３】

（ａ）

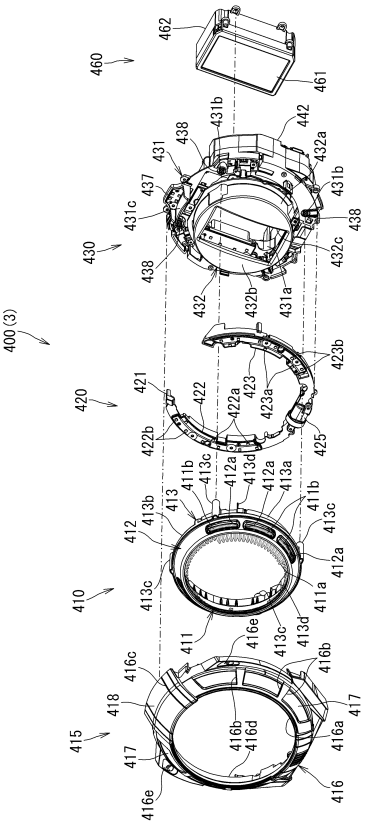


Ｆ－Ｆ断面

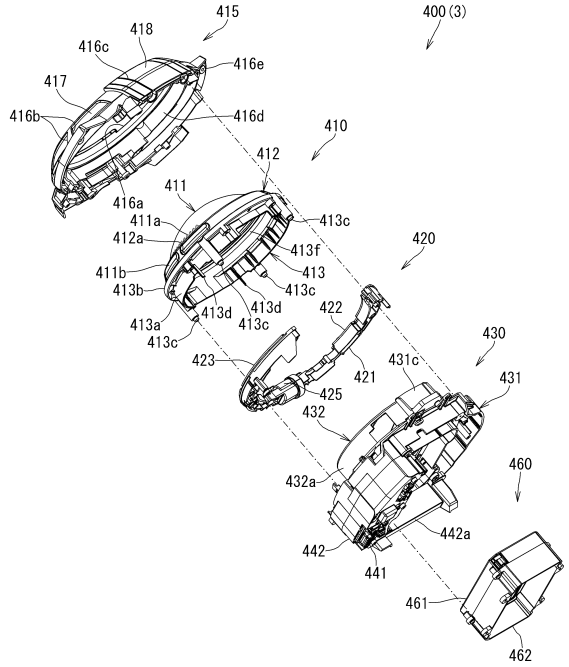
（ｂ）Ａ部拡大



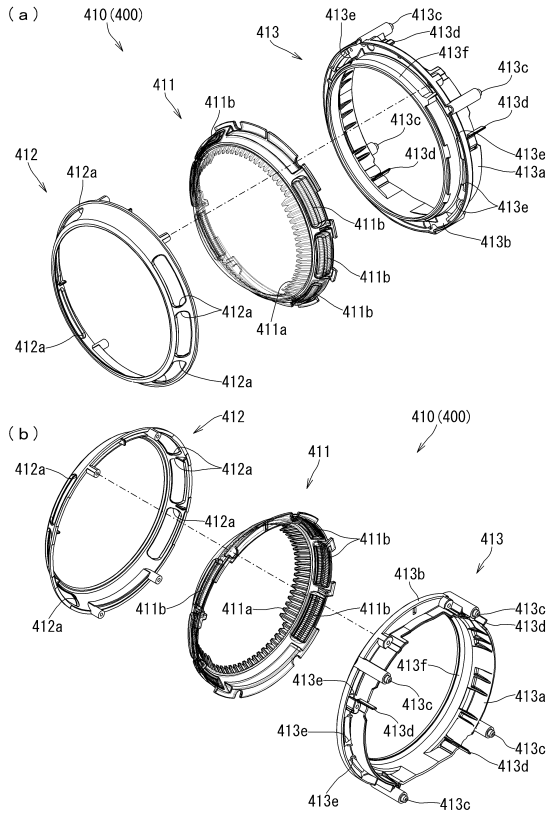
【図５４】



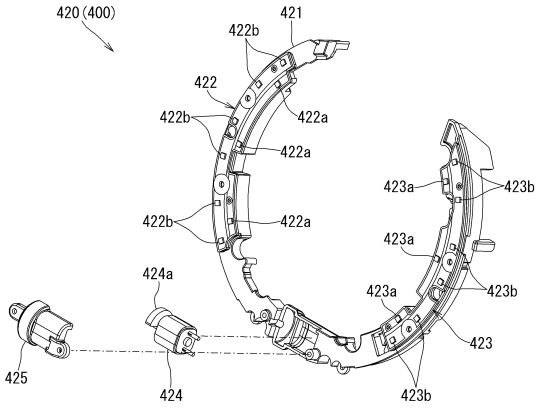
【図５５】



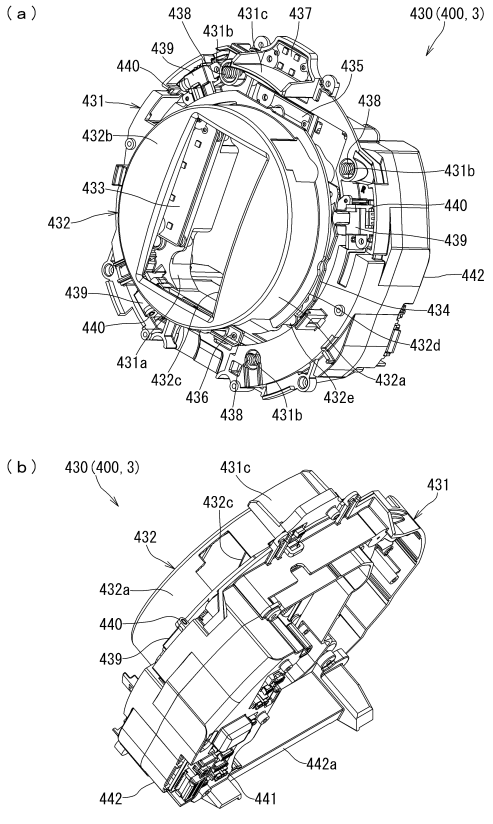
【図５６】



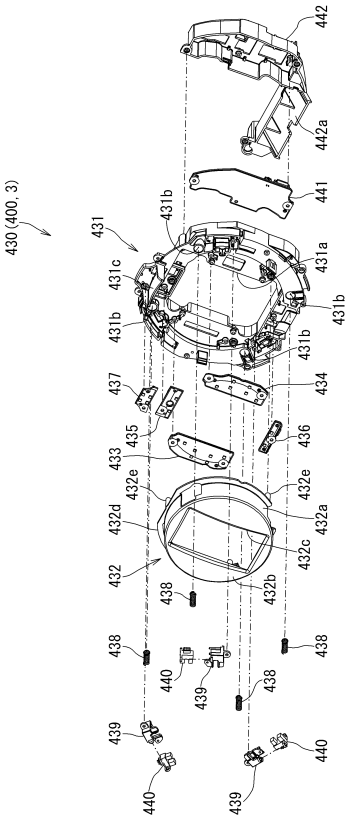
【図５７】



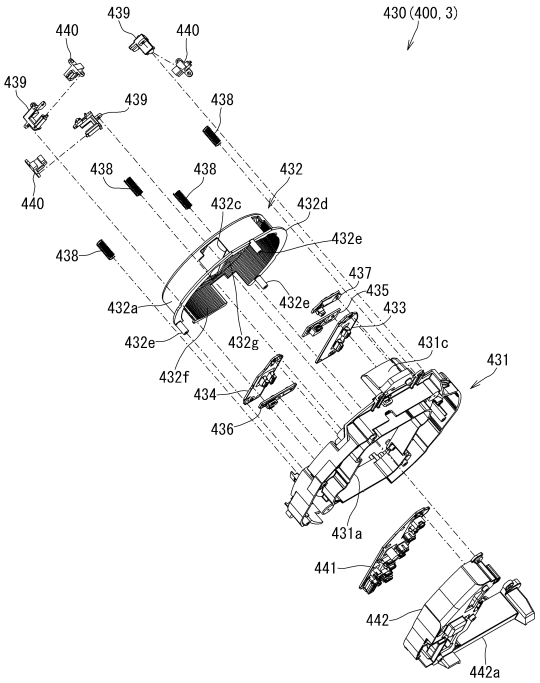
【図５８】



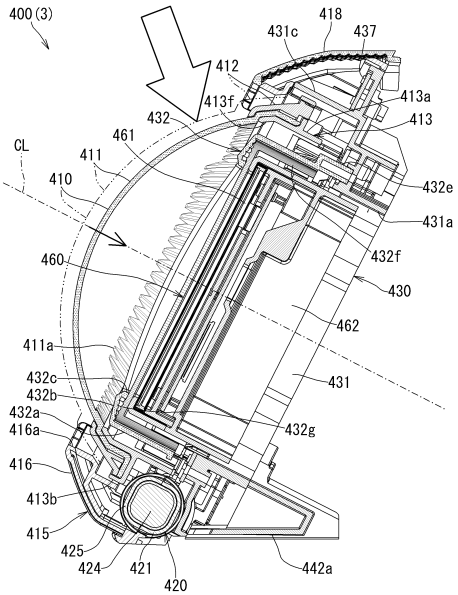
【図５９】



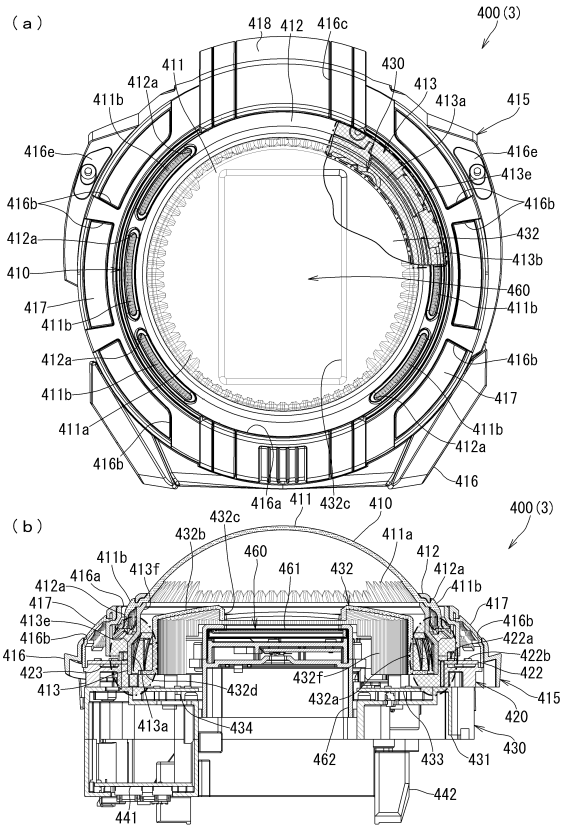
【図６０】



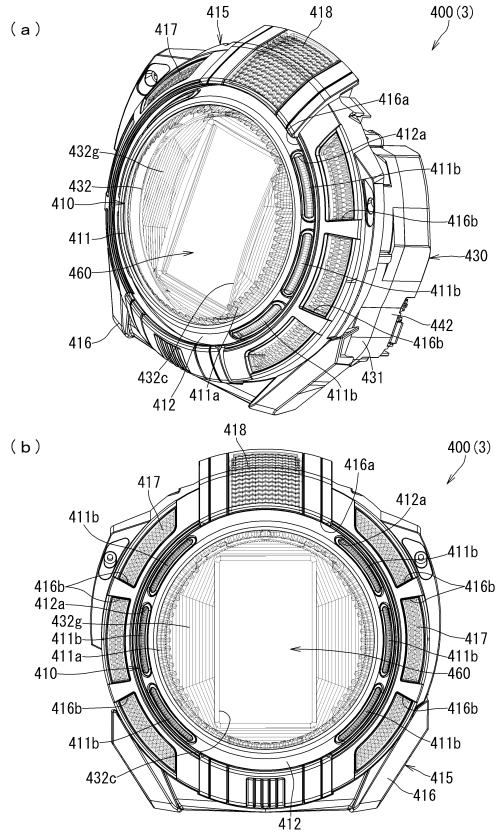
【図６１】



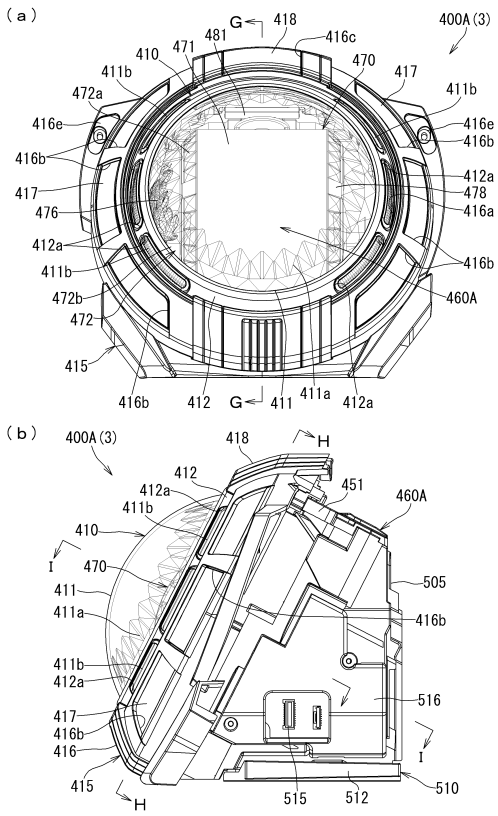
【図６２】



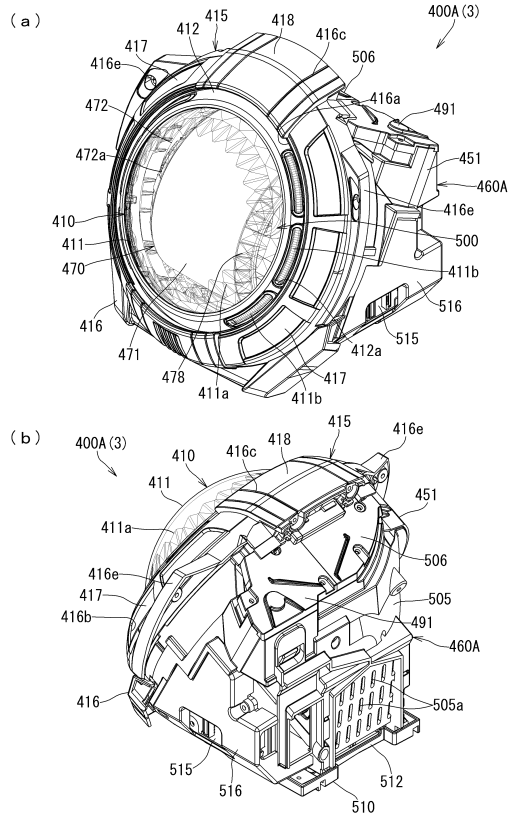
【図６３】



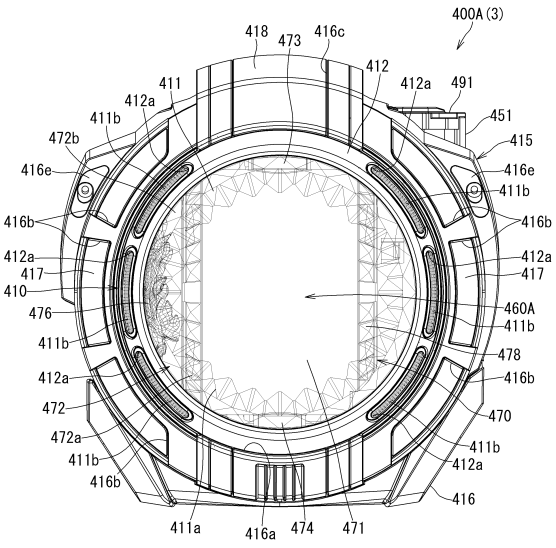
【図６４】



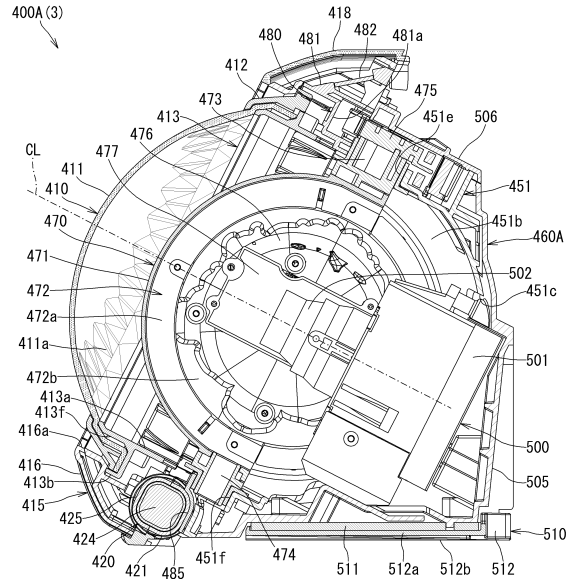
【図６５】



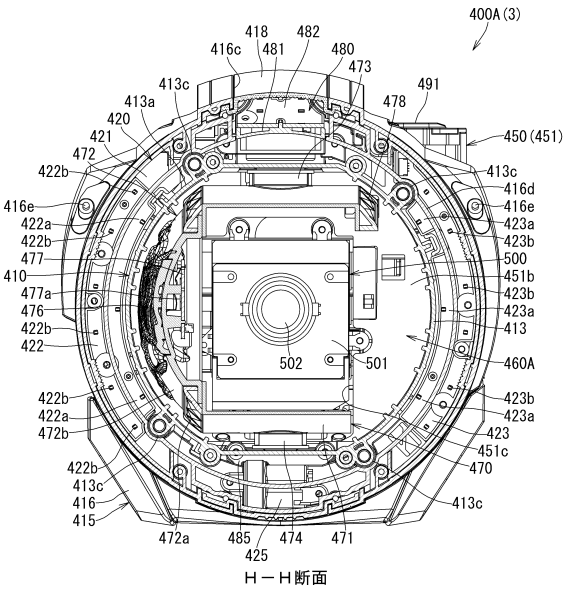
【図６６】



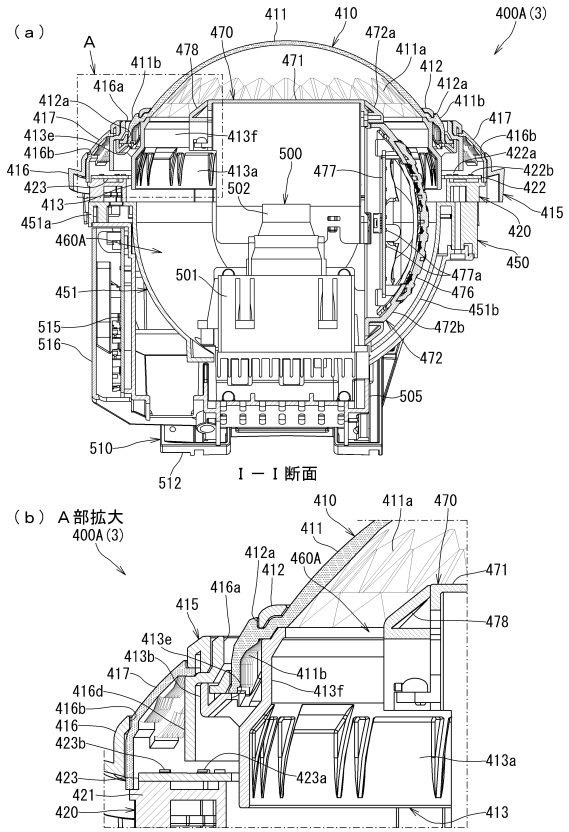
【図６７】



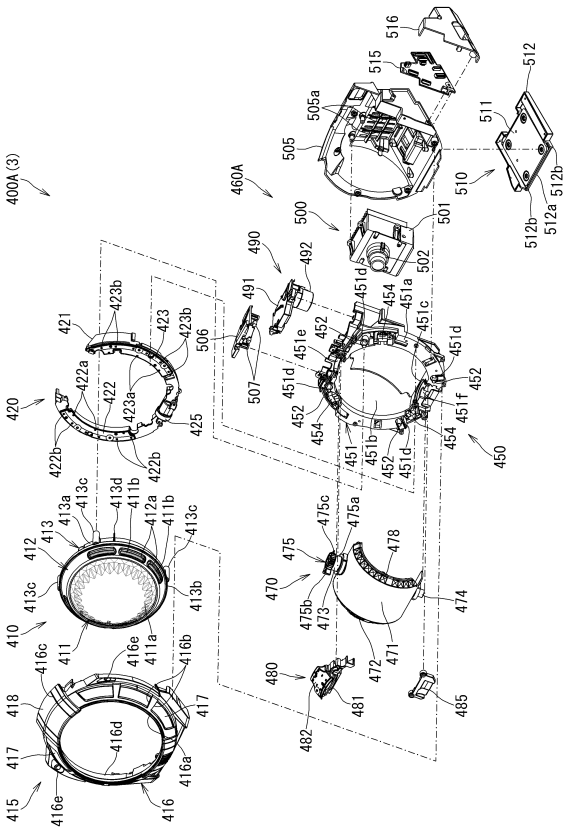
【図６８】



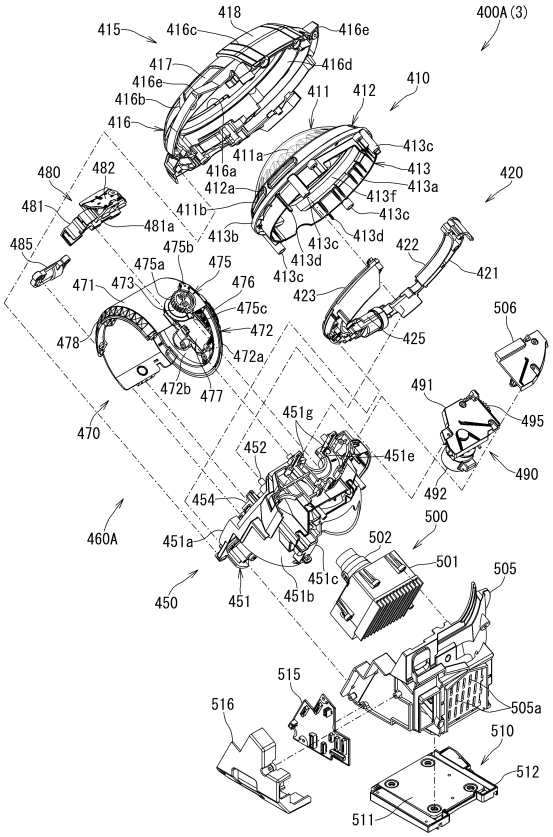
【図６９】



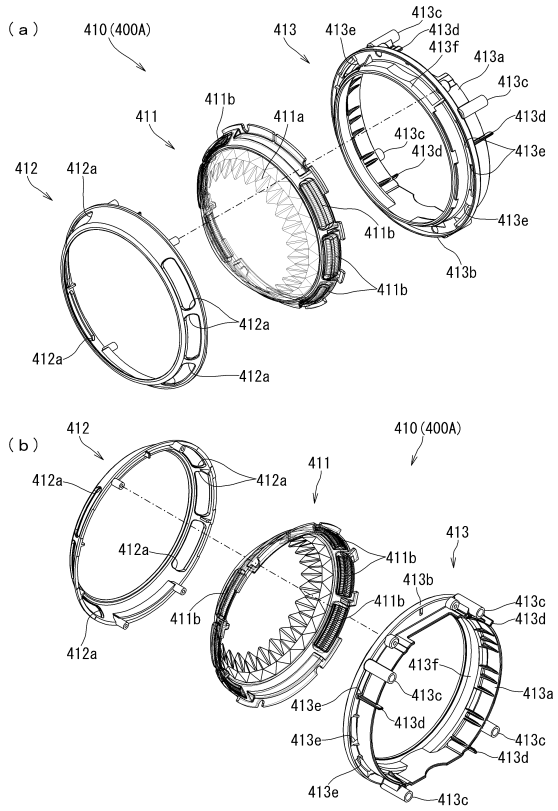
【図７０】



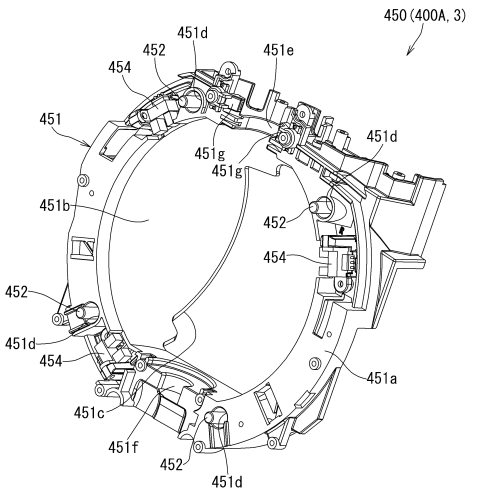
【図７１】



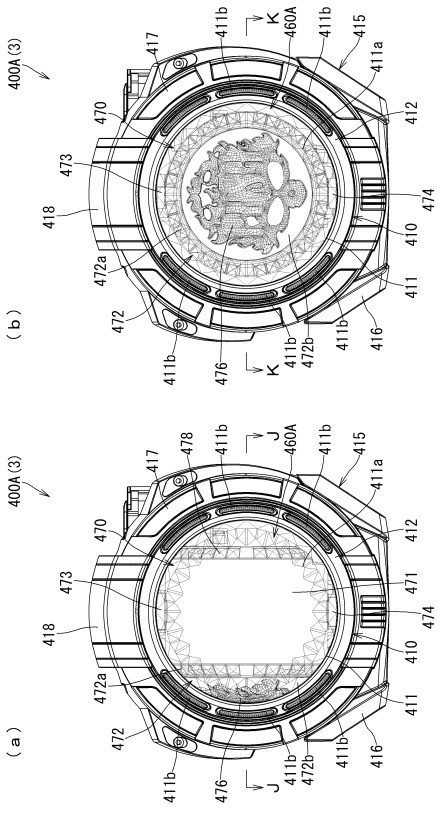
【図７２】



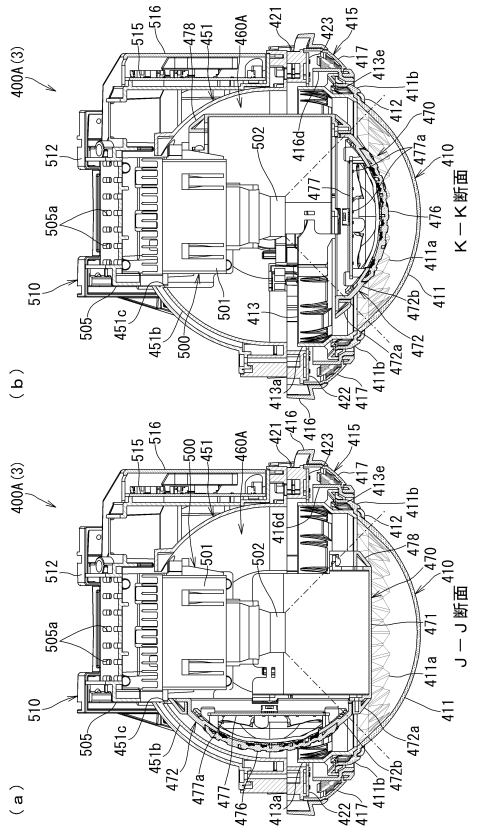
【図７３】



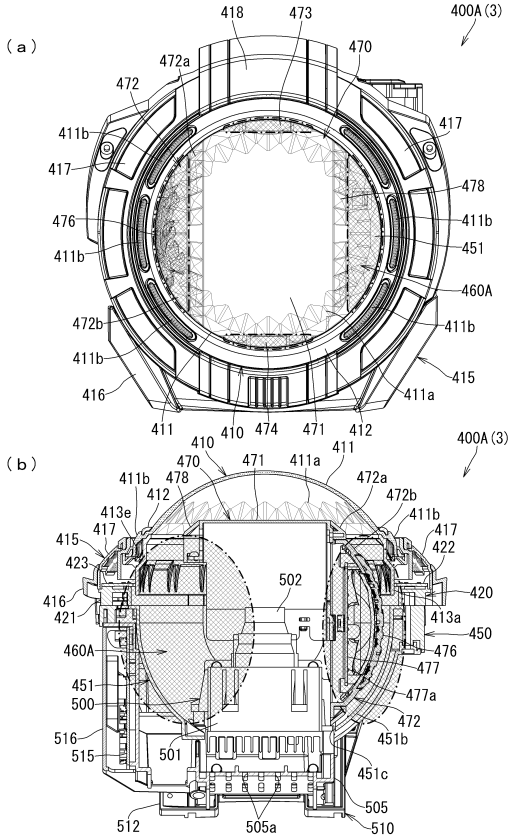
【図７４】



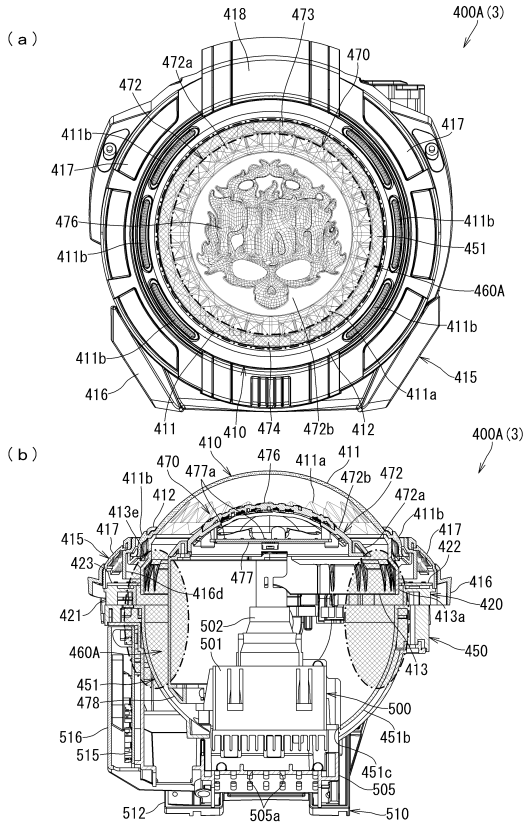
【図７５】



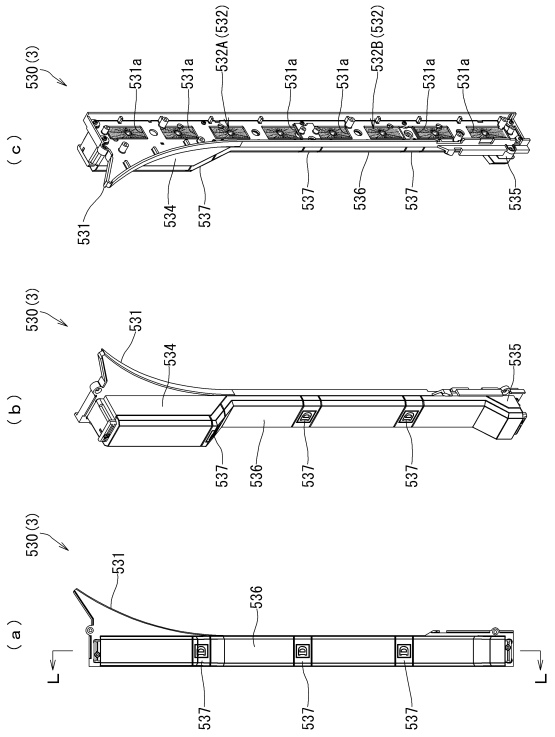
【図７６】



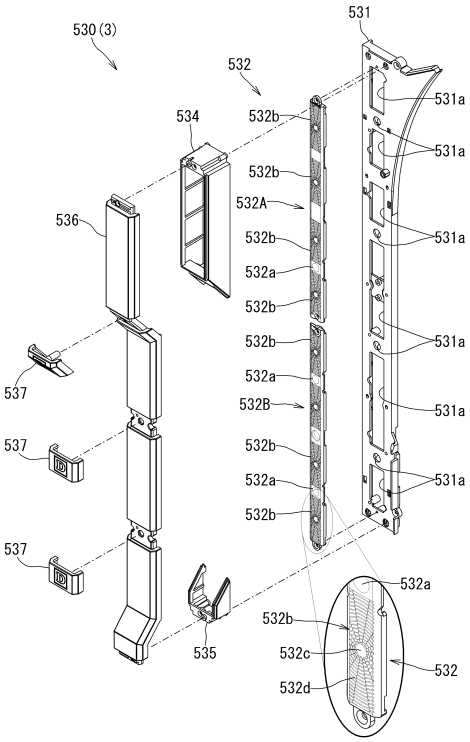
【図７７】



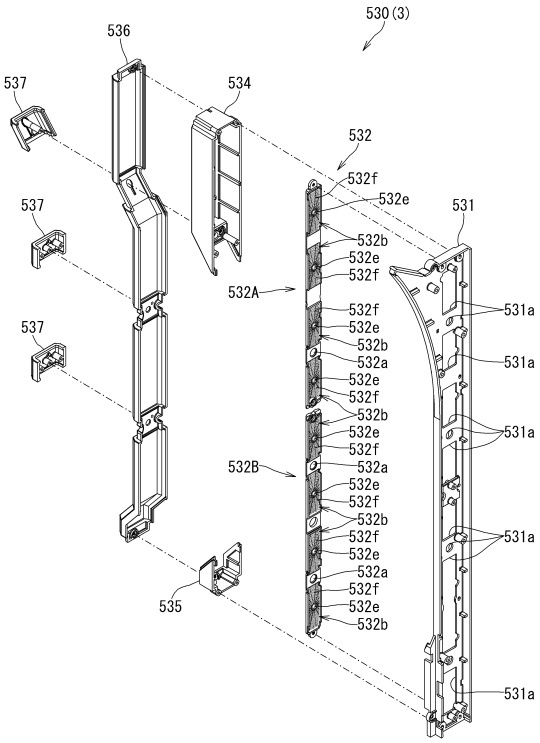
【図７８】



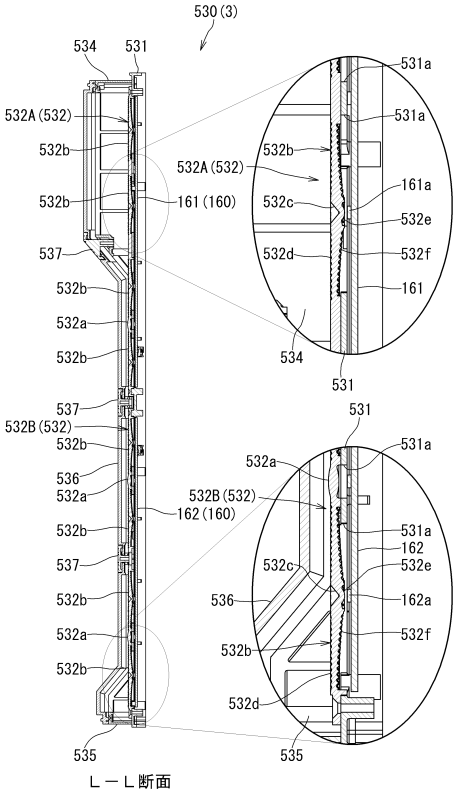
【図７９】



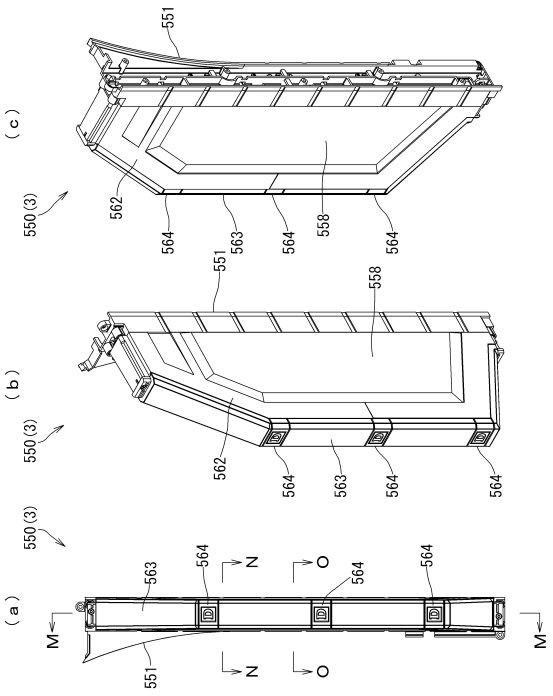
【図８０】



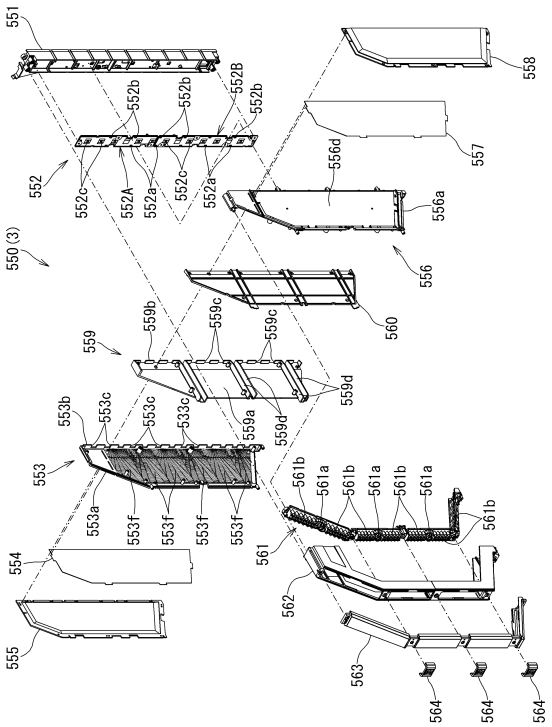
【図８１】



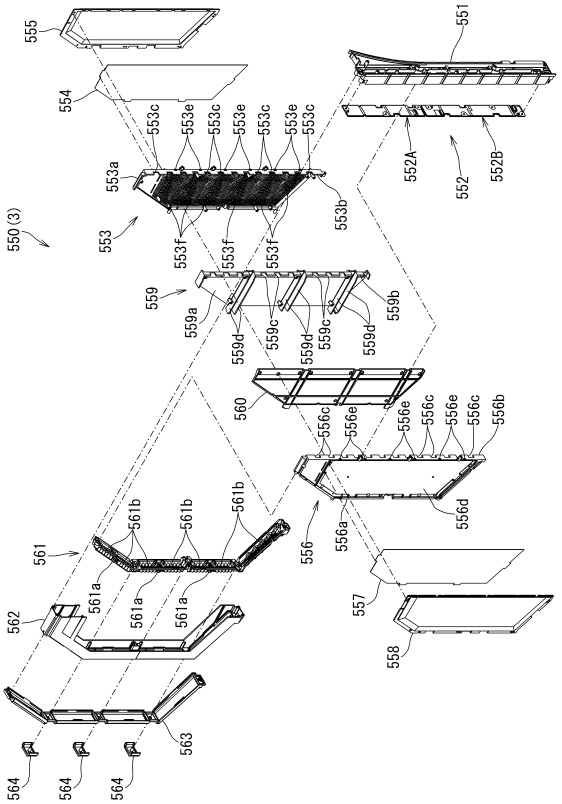
【図８２】



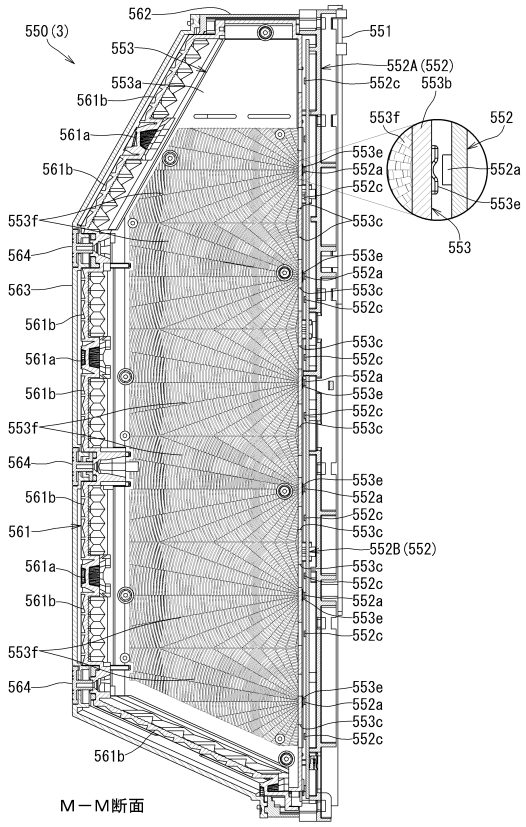
【図８３】



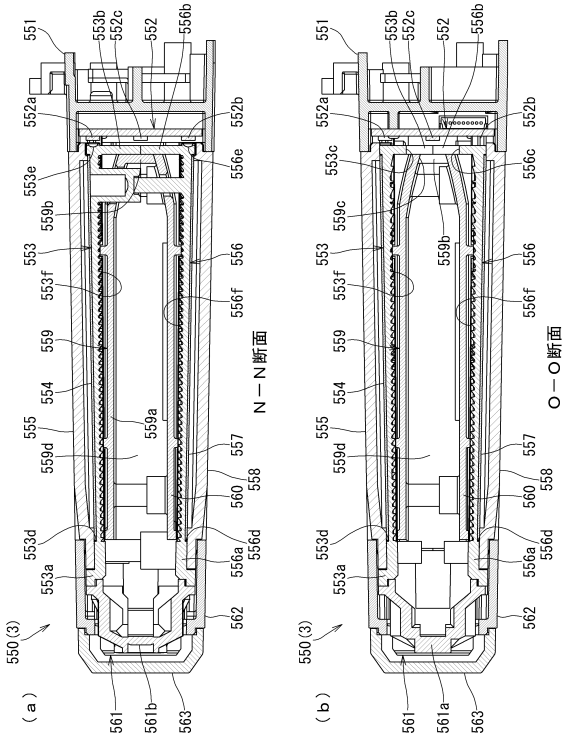
【図８４】



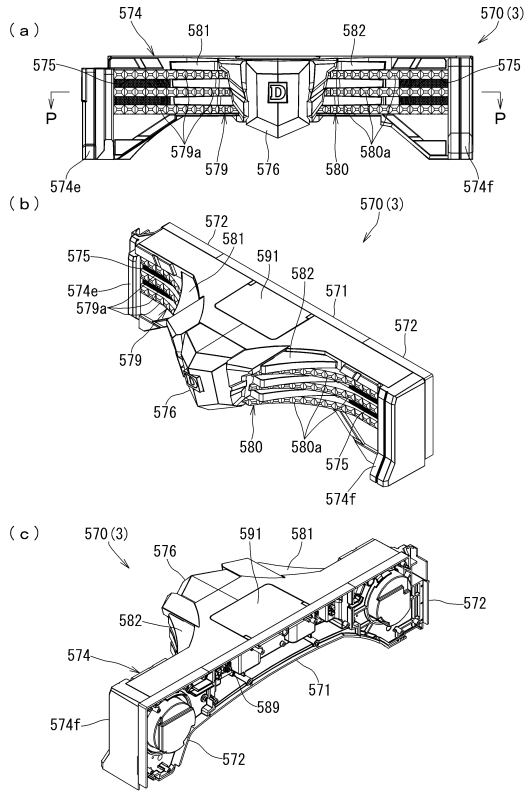
【図８５】



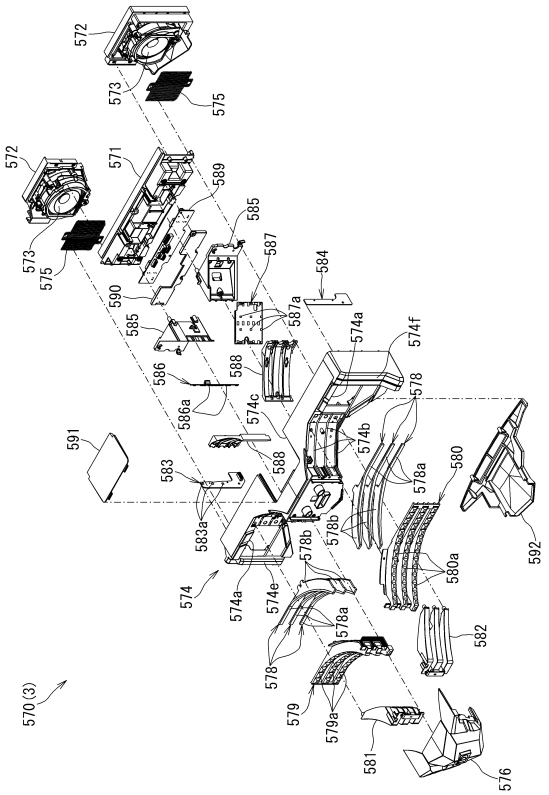
【図８６】



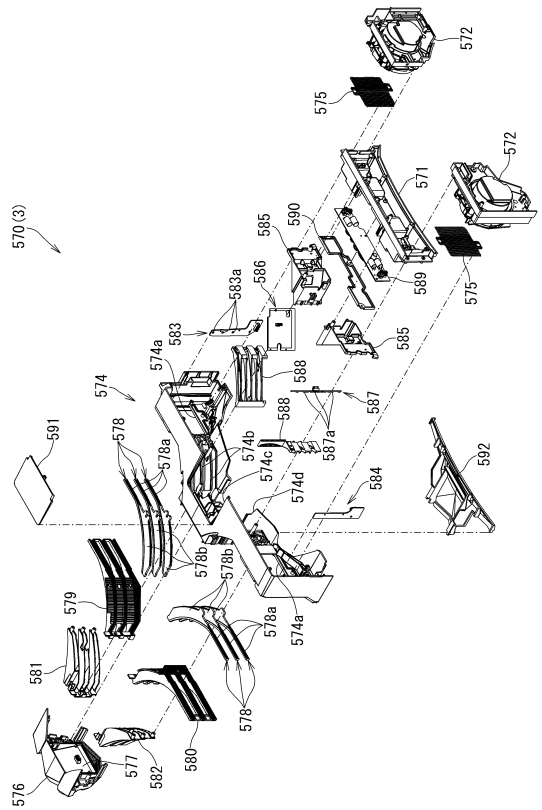
【図８７】



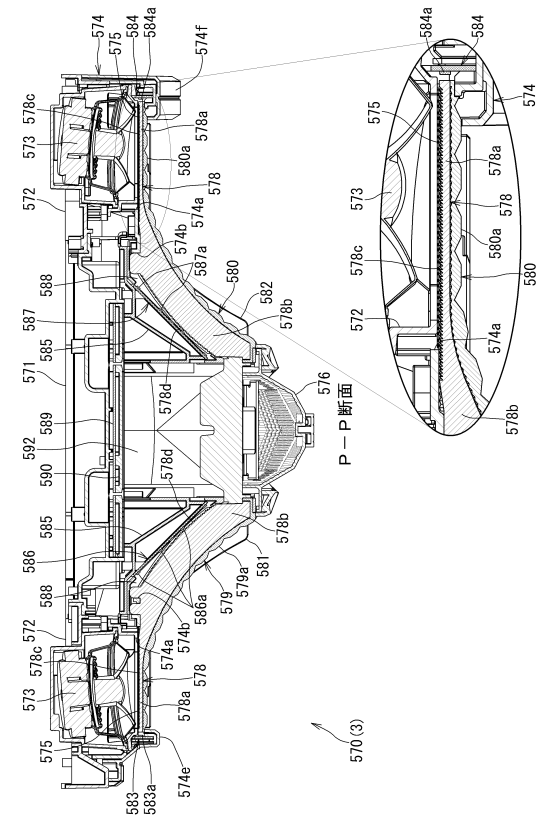
【図８８】



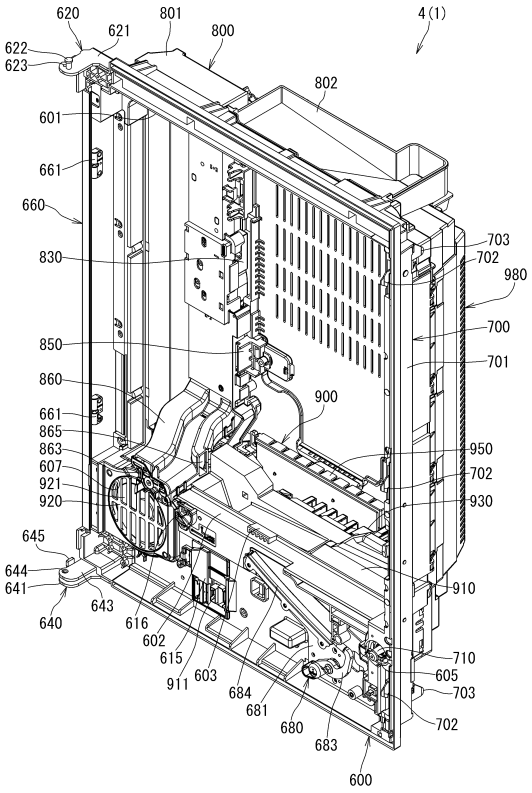
【図８９】



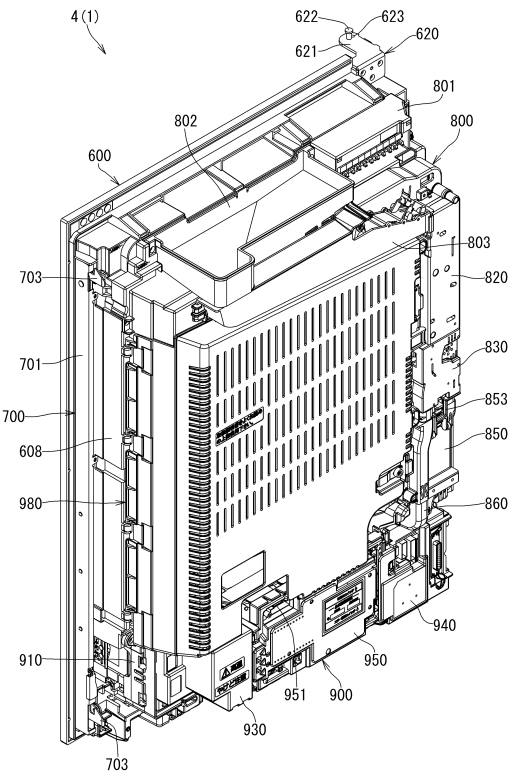
【図９０】



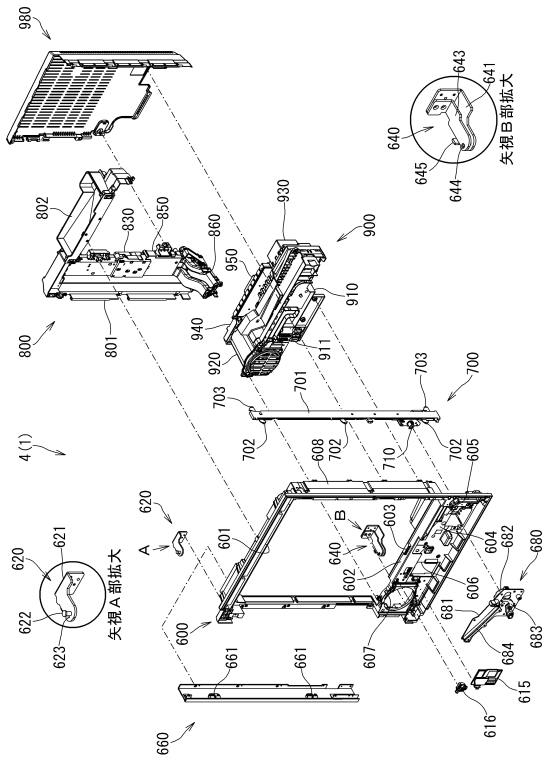
【図９１】



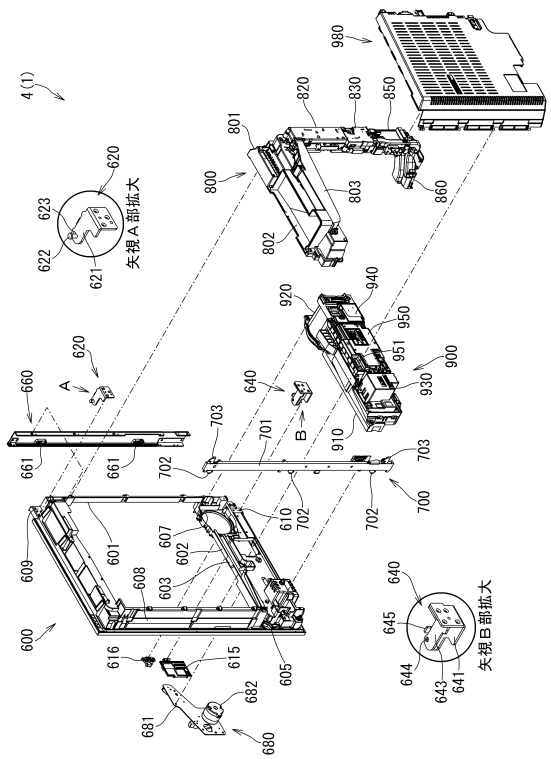
【図９２】



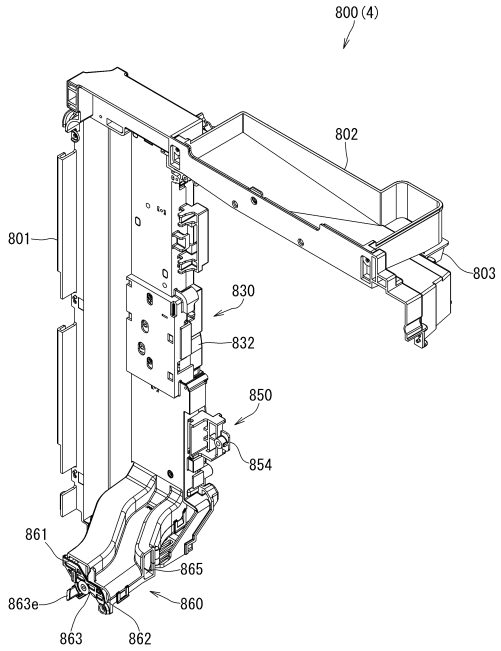
【図９３】



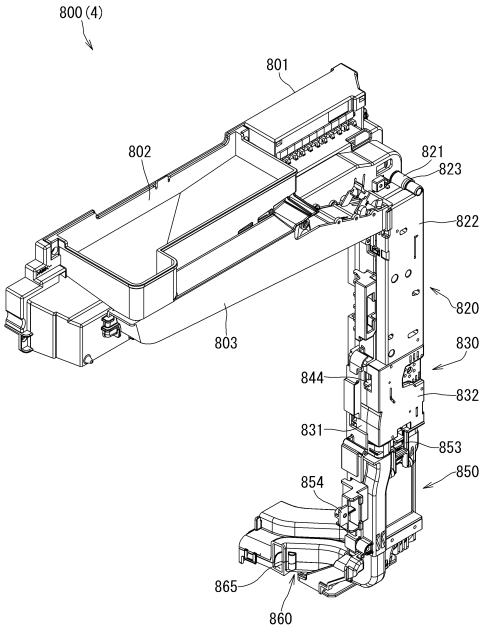
【図９４】



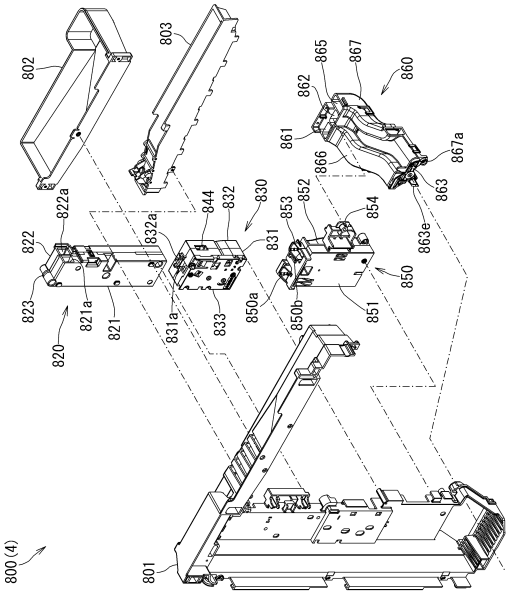
【図９５】



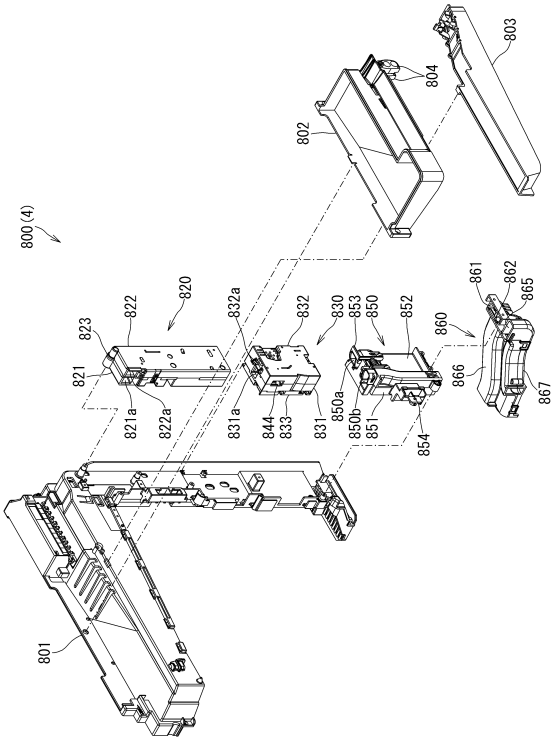
【図９６】



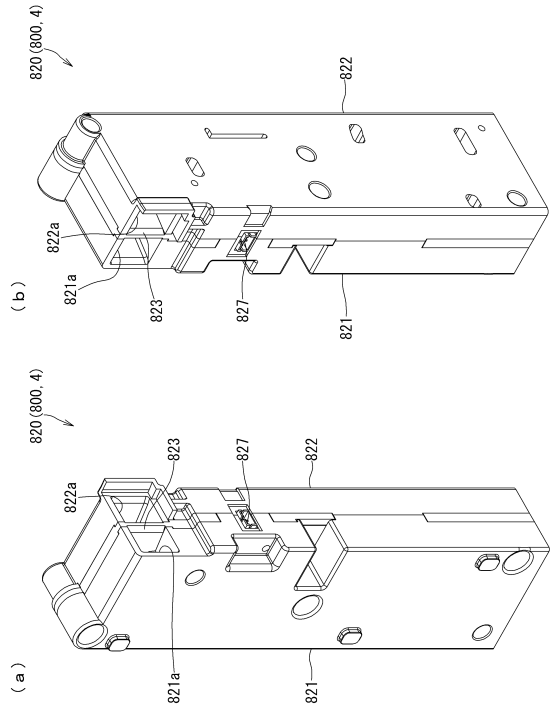
【図９７】



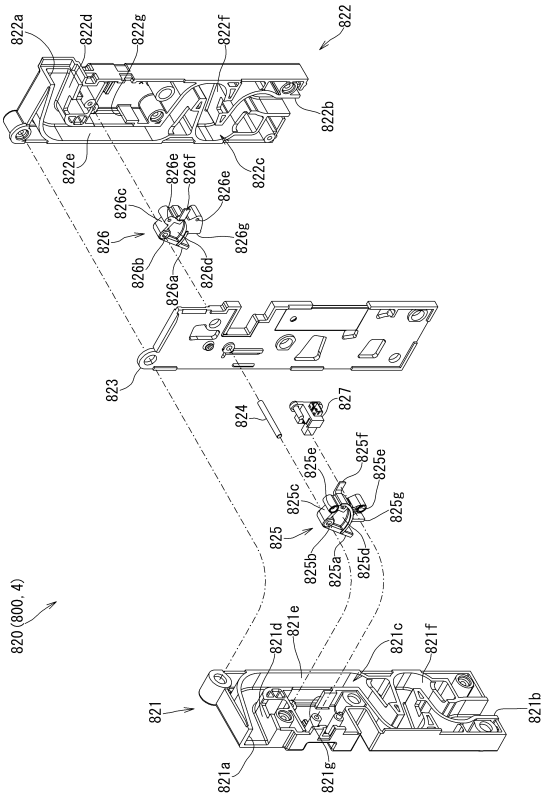
【図９８】



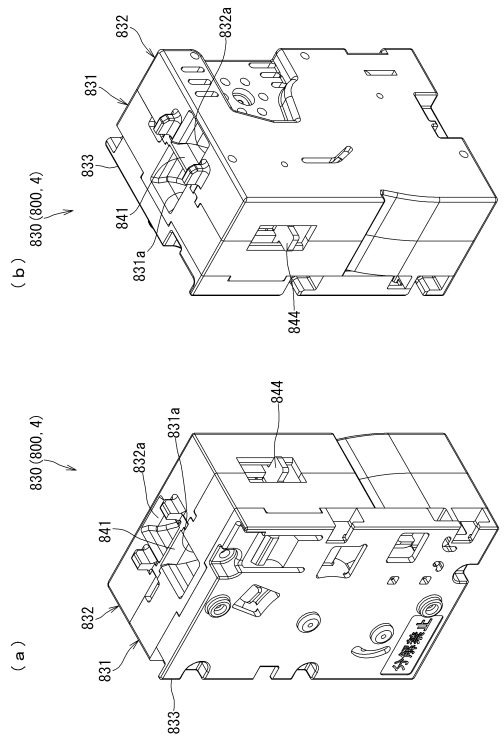
【図９９】



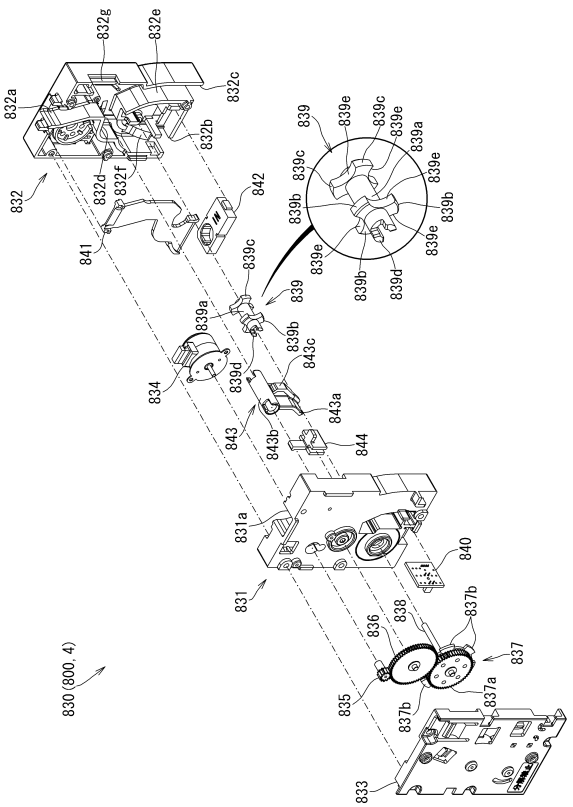
【図１００】



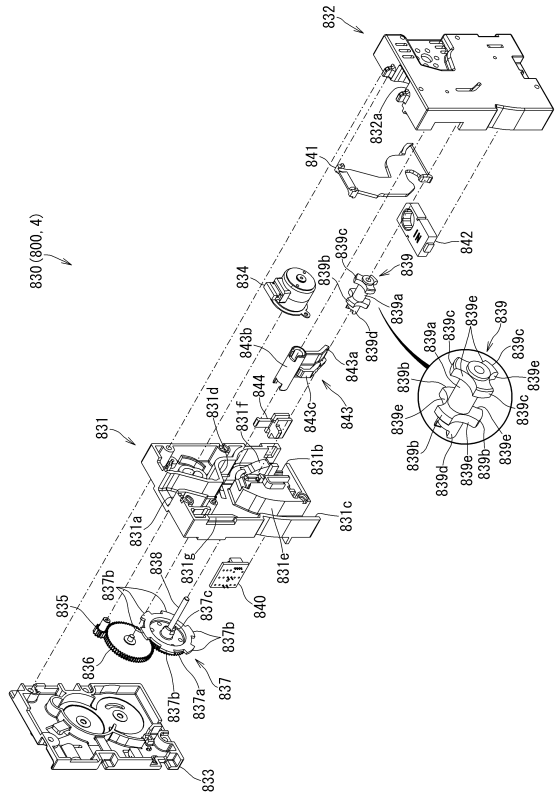
【図１０１】



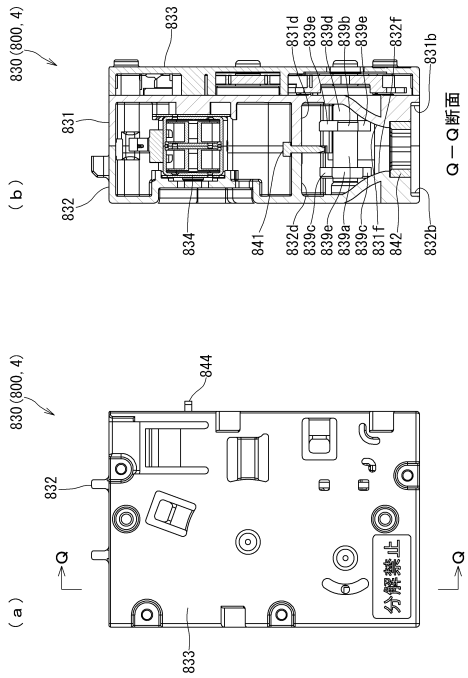
【図１０２】



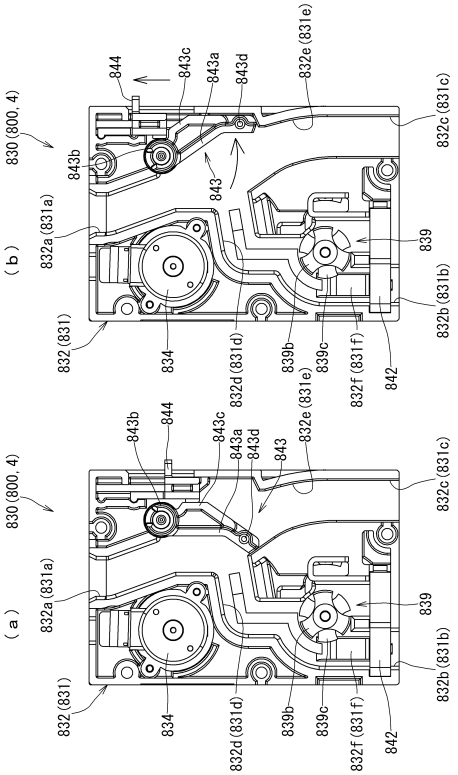
【図１０３】



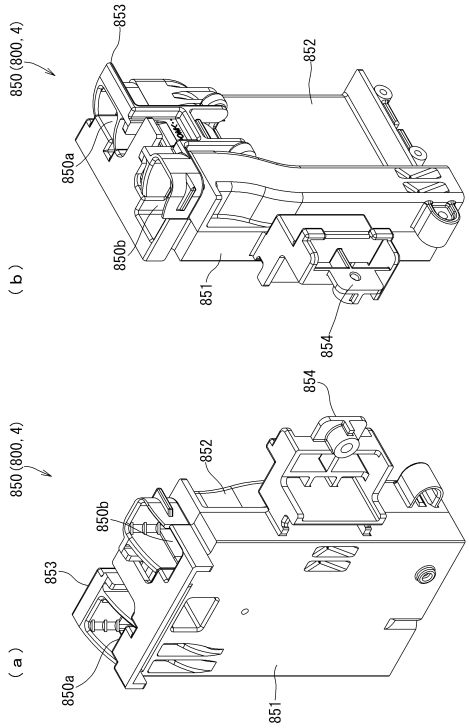
【図１０４】



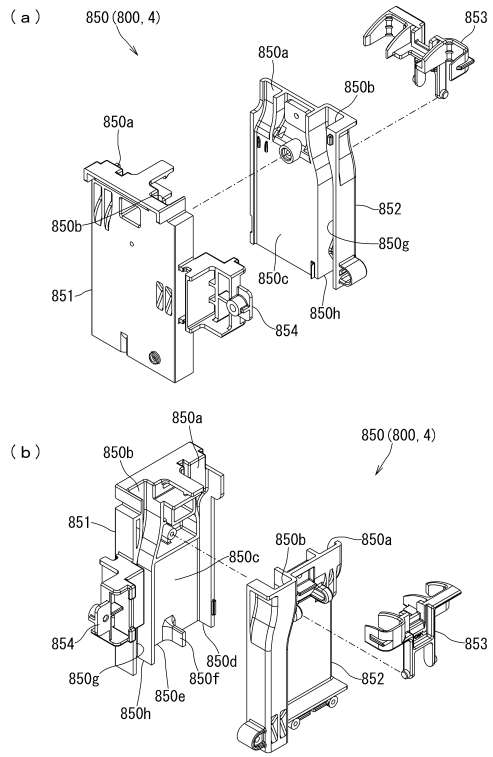
【図１０５】



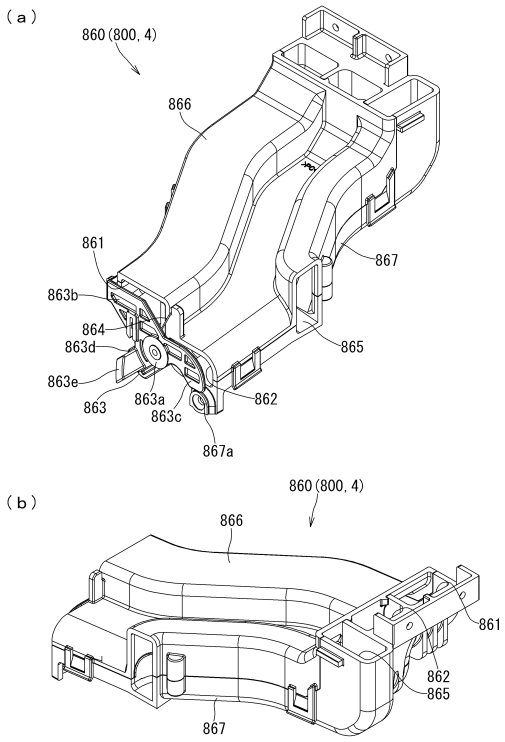
【図１０６】



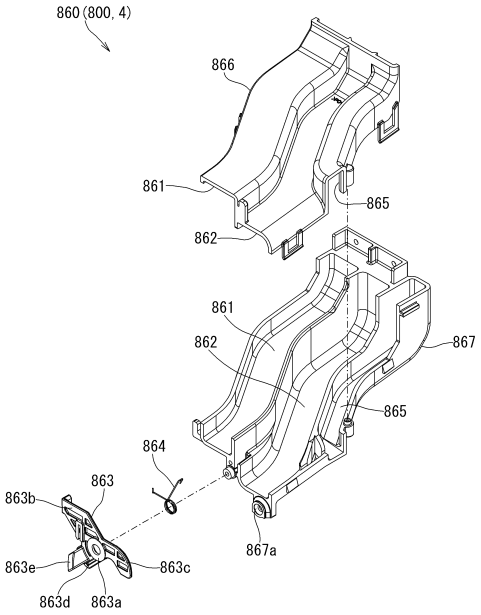
【図１０７】



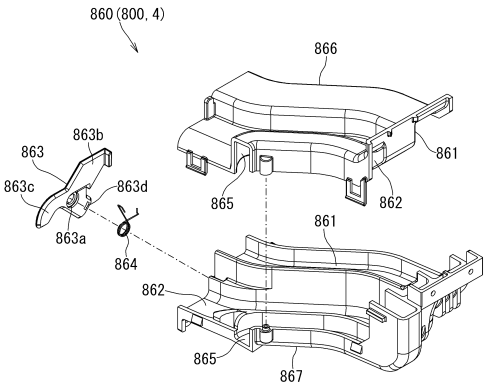
【図１０８】



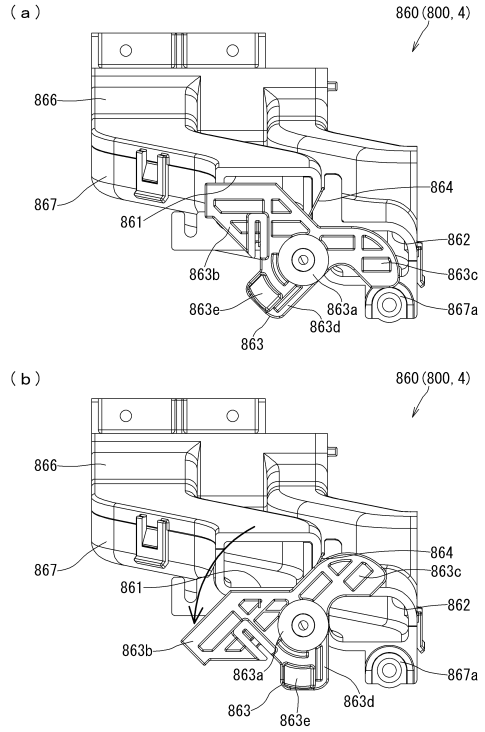
【図１０９】



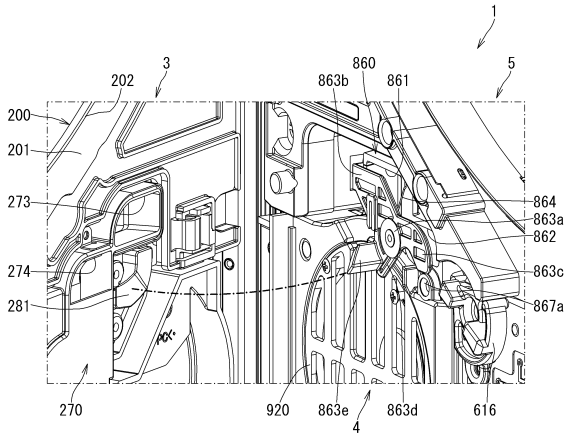
【図１１０】



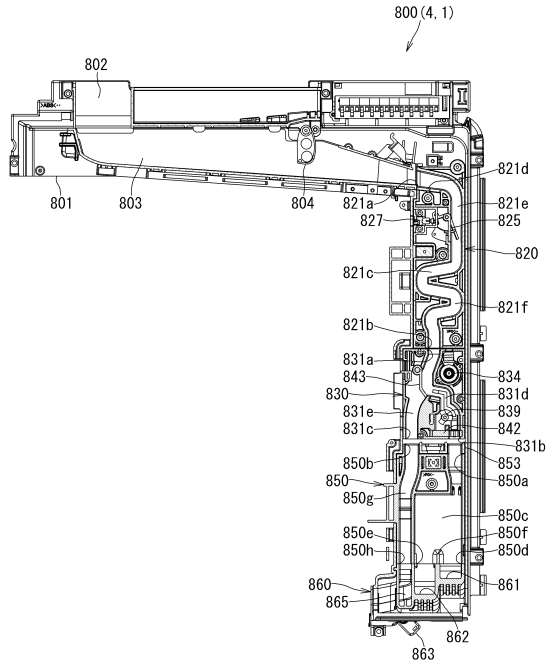
【図１１１】



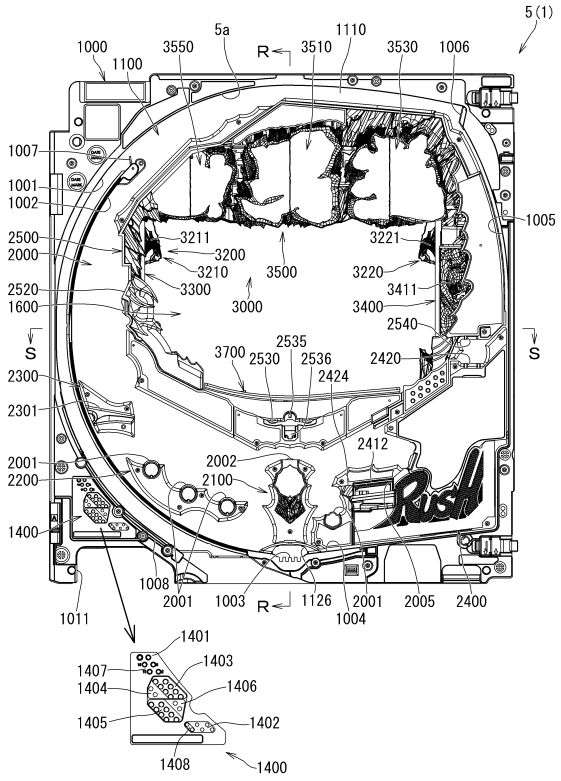
【図１１２】



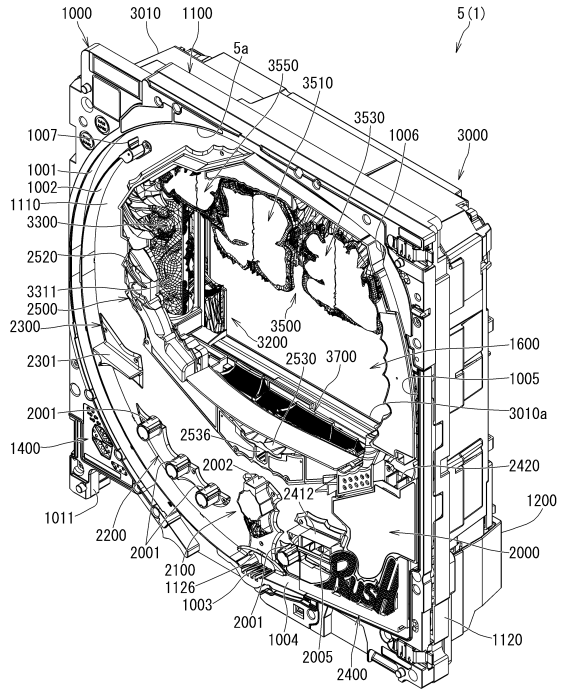
【図１１３】



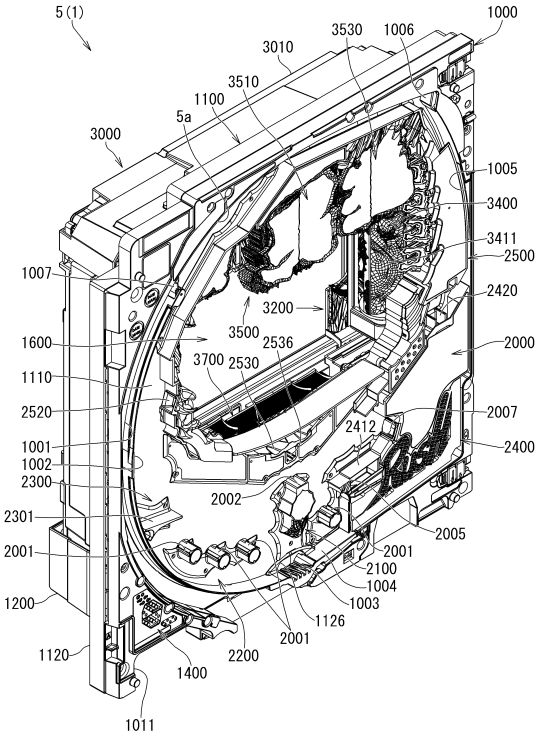
【図１１４】



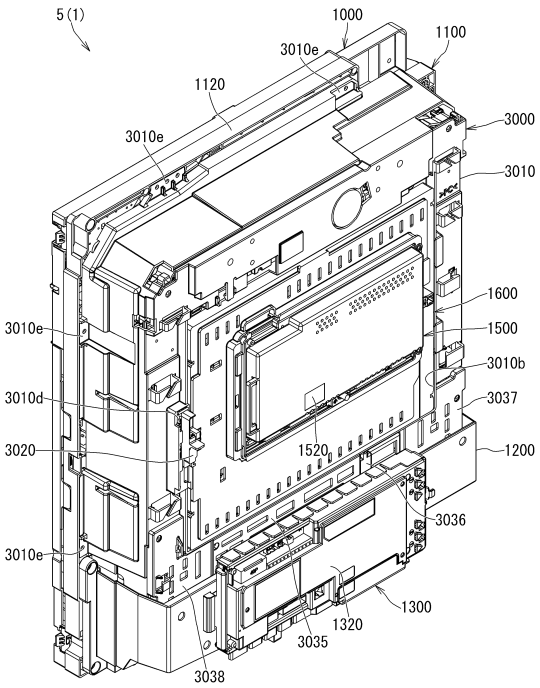
【図１１５】



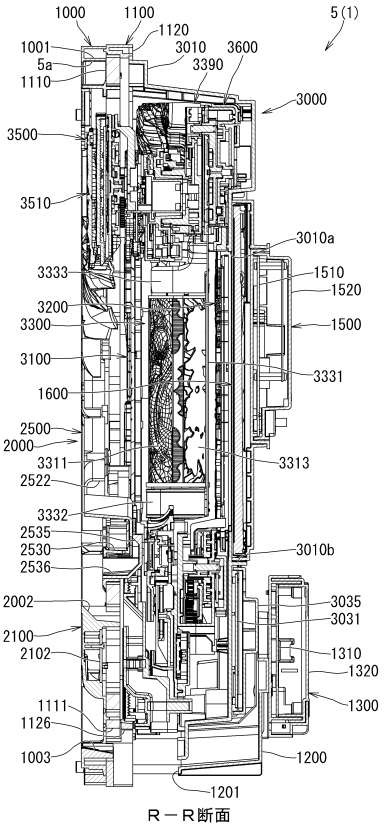
【図１１６】



【図１１７】

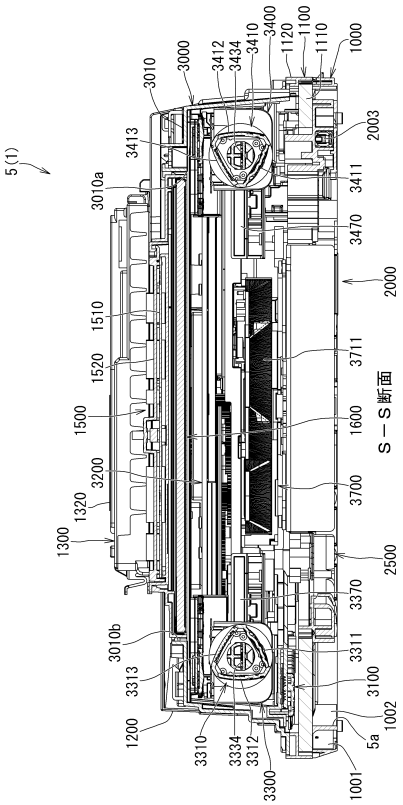


【図１１８】

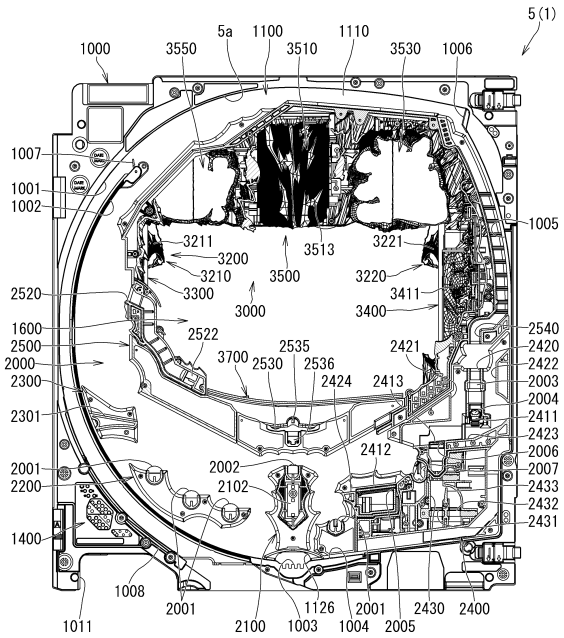


R－R断面

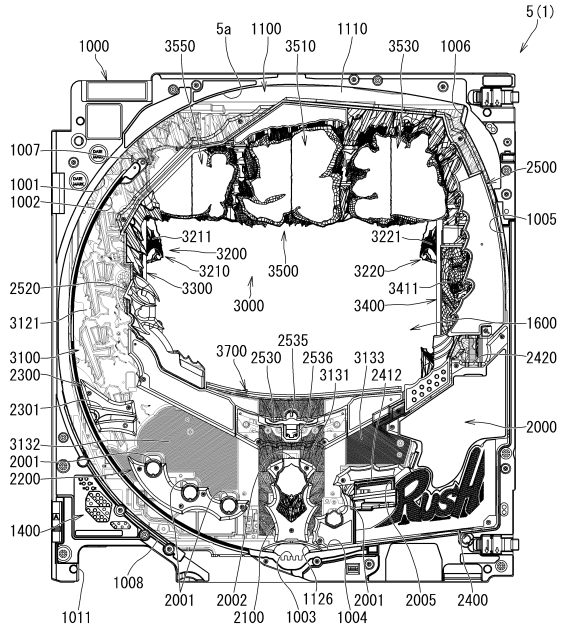
【図１１９】



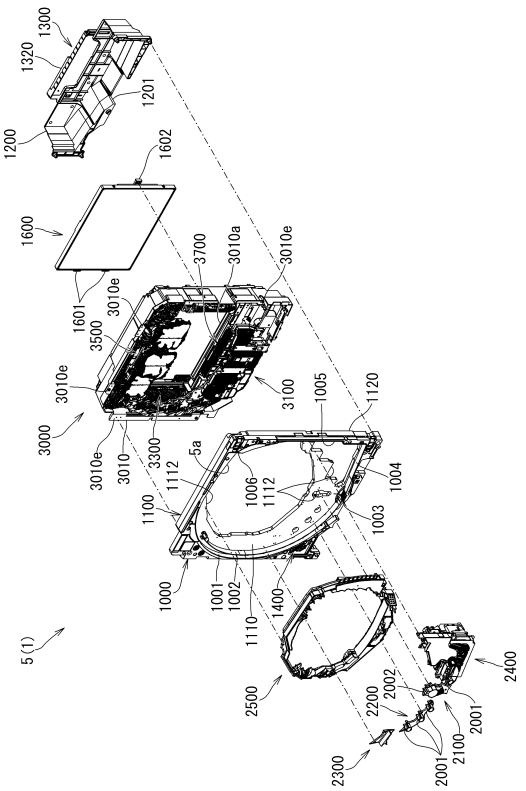
【図１２０】



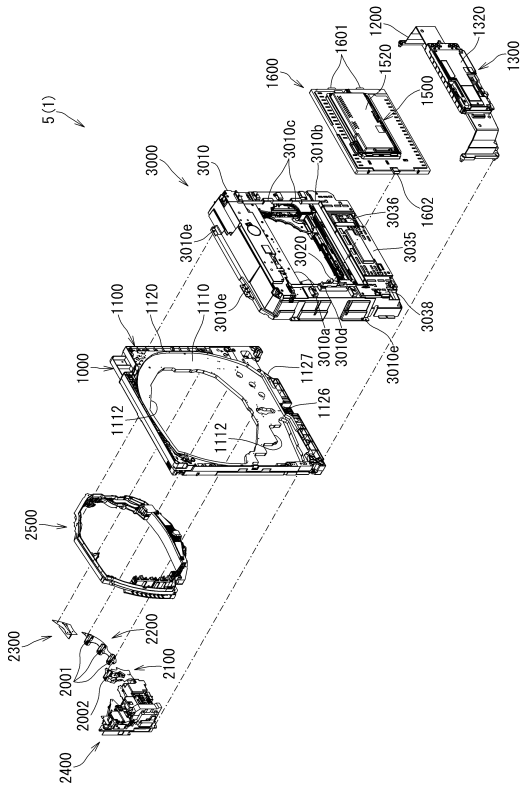
【図１２１】



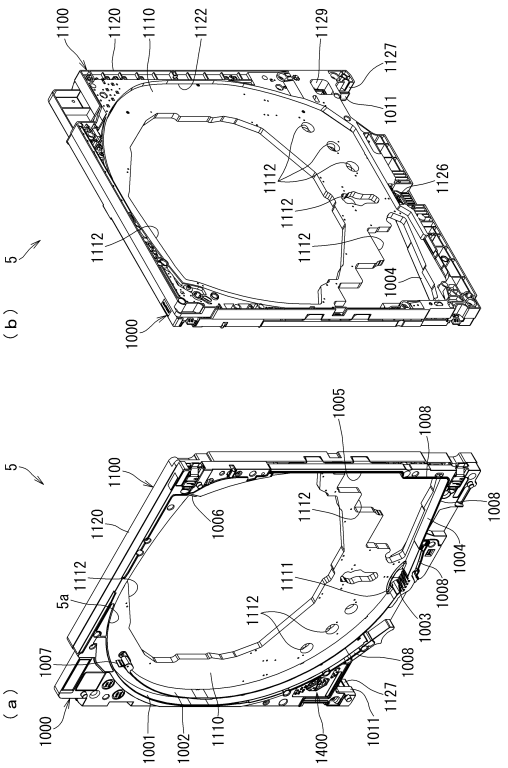
【図１２２】



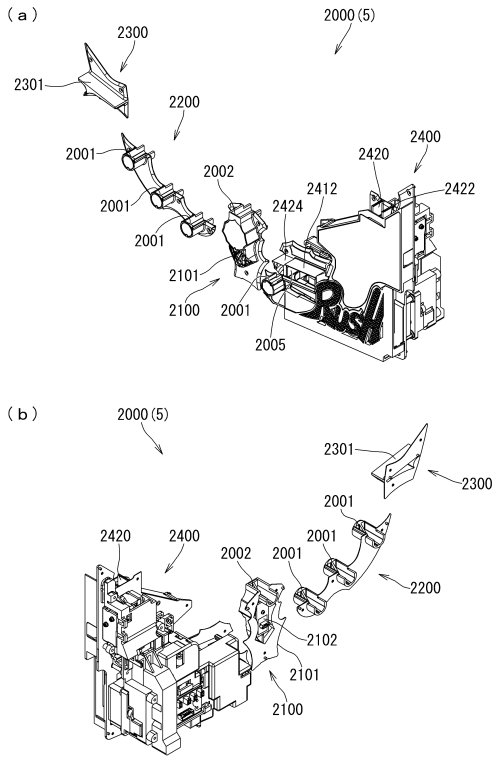
【図１２３】



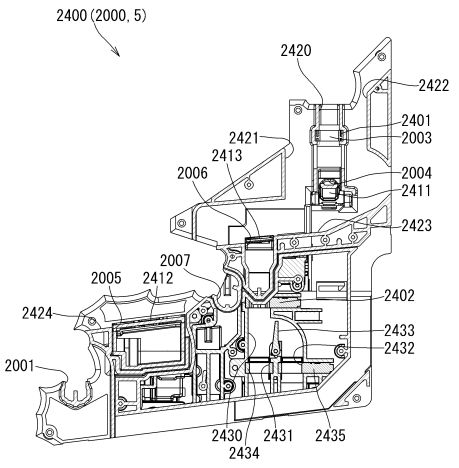
【図１２４】



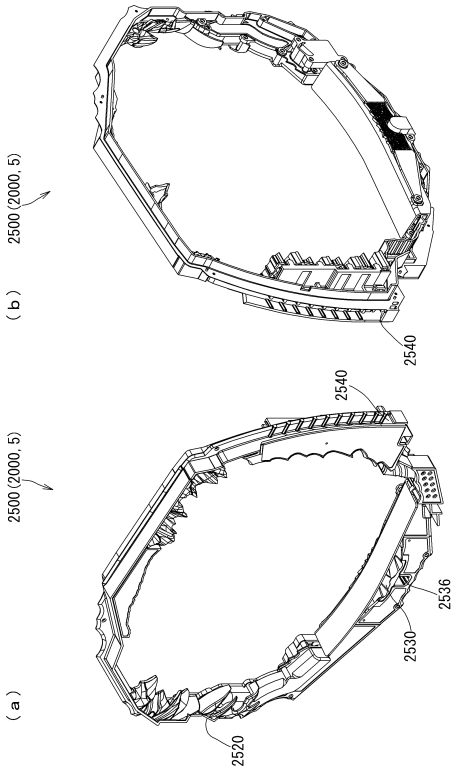
【図１２５】



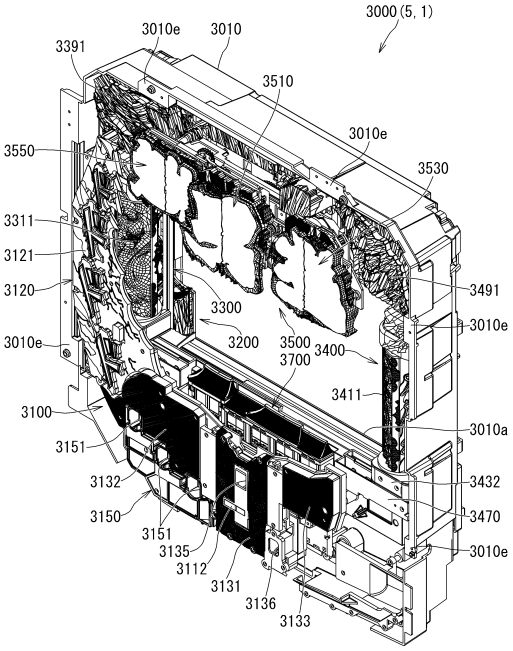
【図１２６】



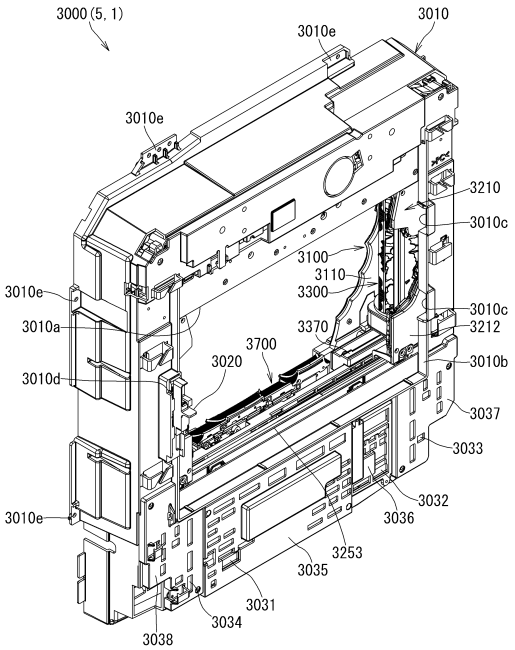
【図１２７】



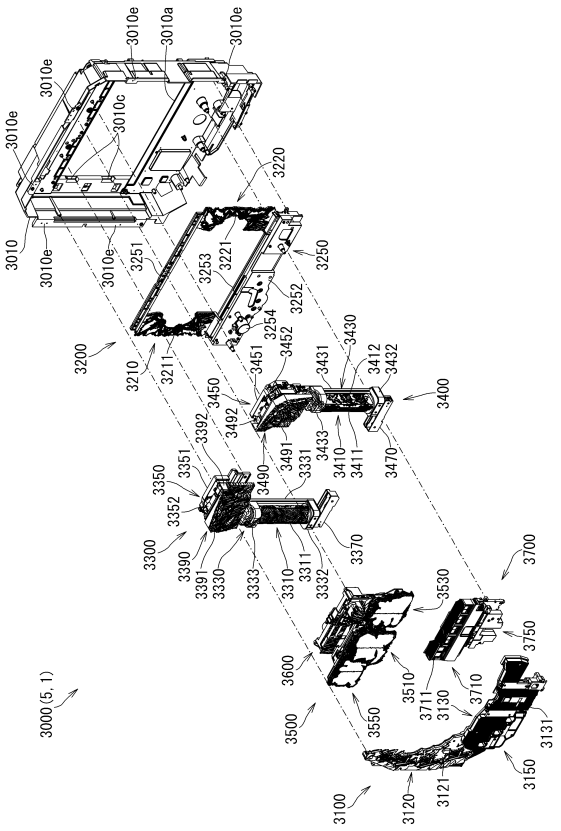
【図１２８】



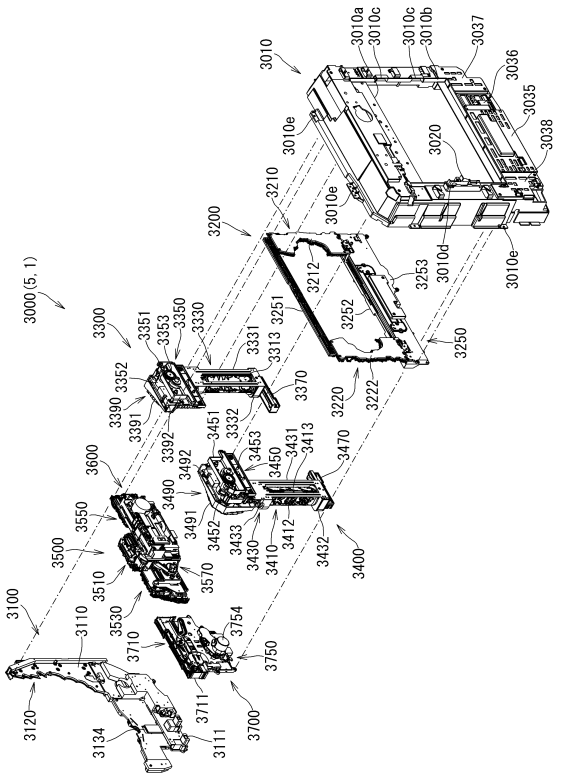
【図１２９】



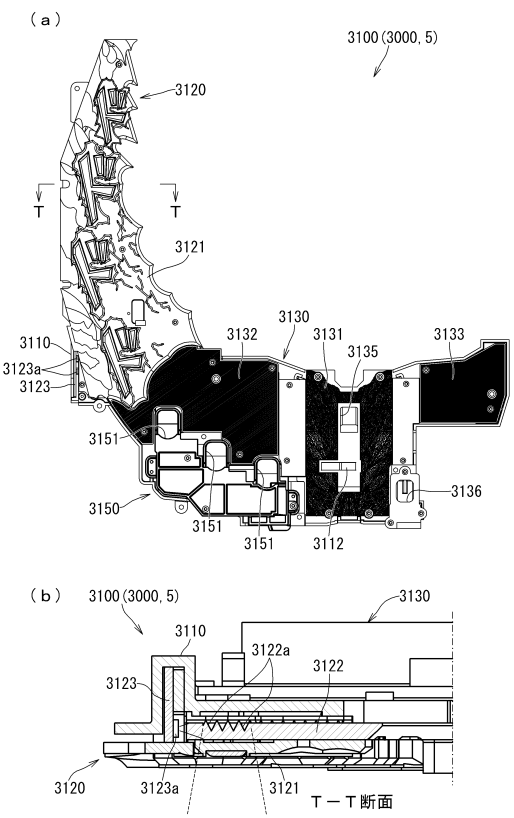
【図１３０】



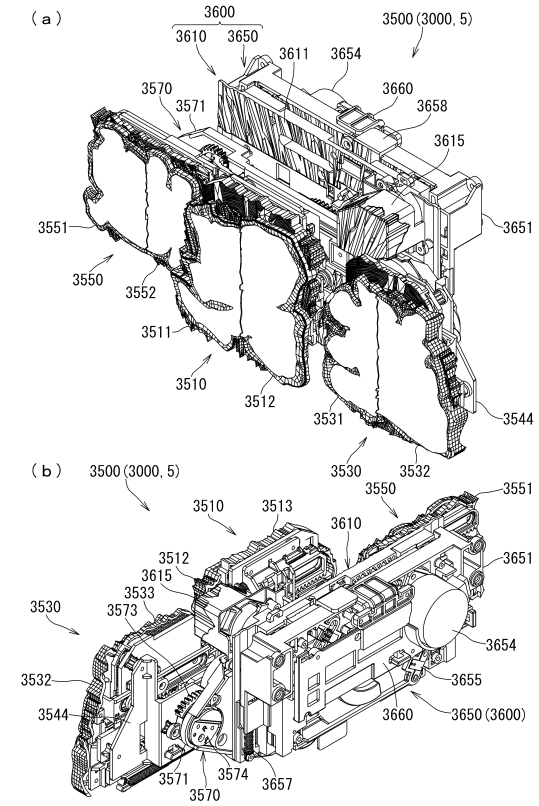
【図１３１】



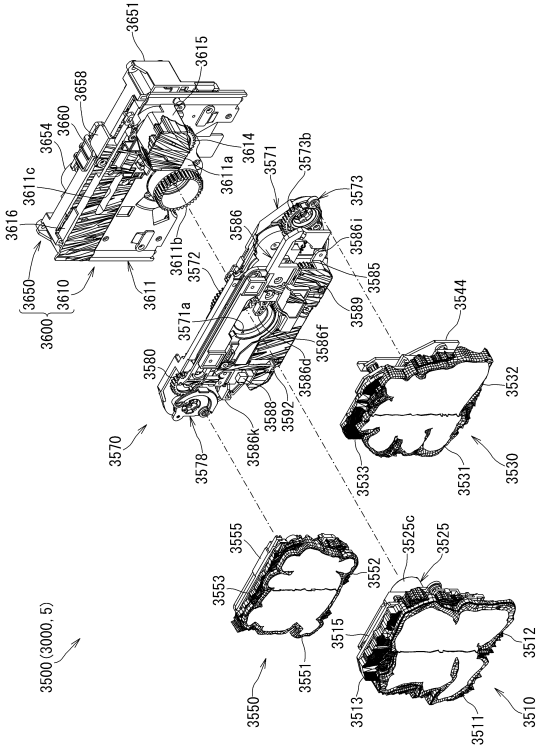
【図１３２】



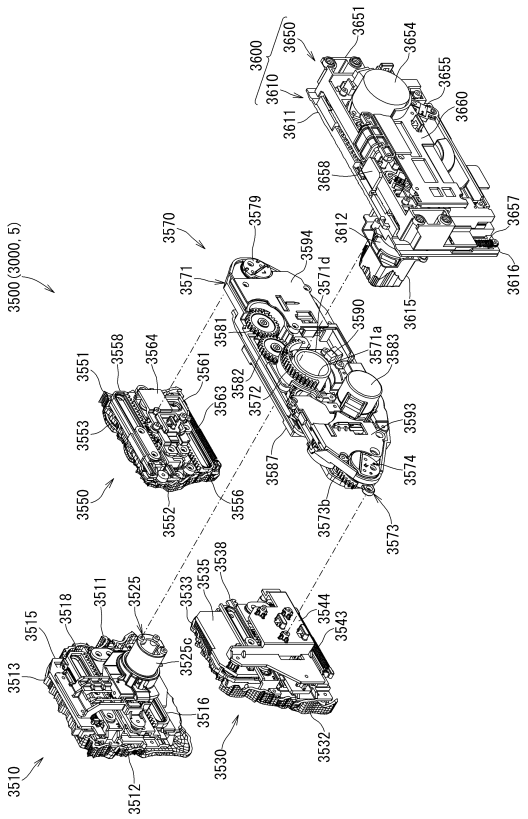
【図１３３】



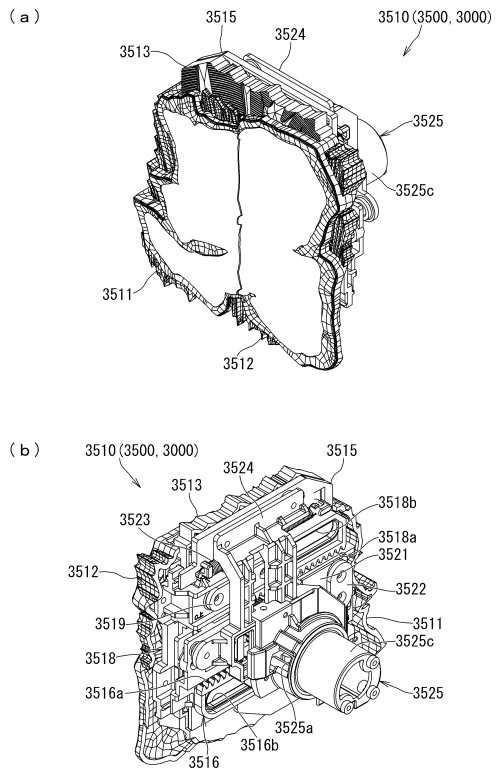
【図１３４】



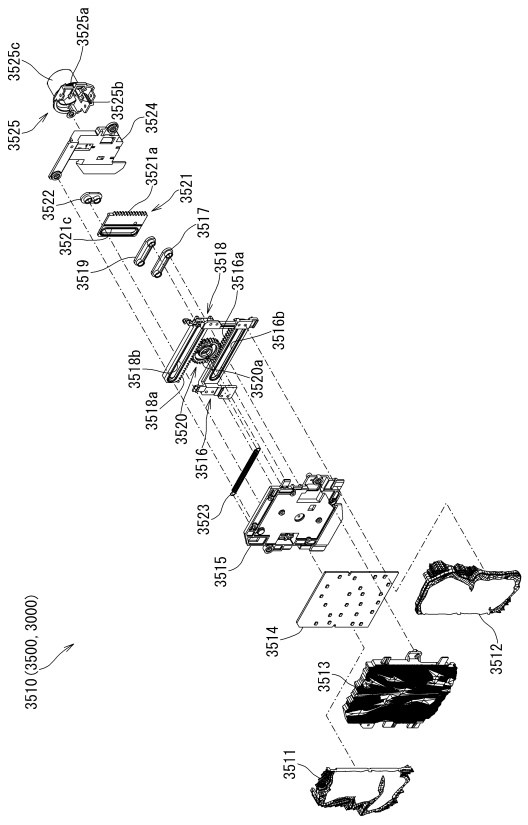
【図１３５】



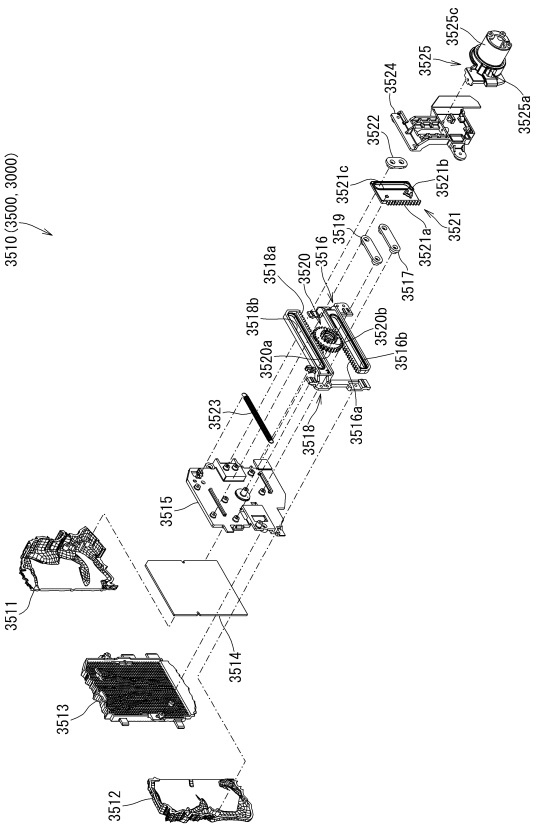
【図１３６】



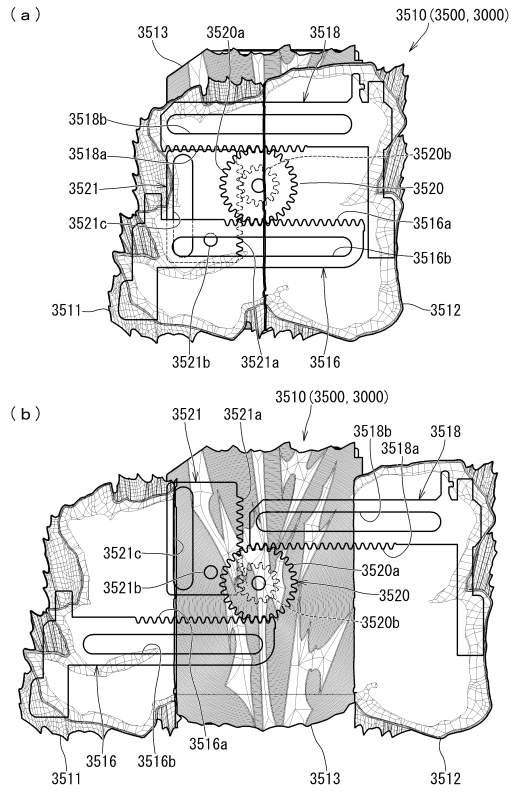
【図１３７】



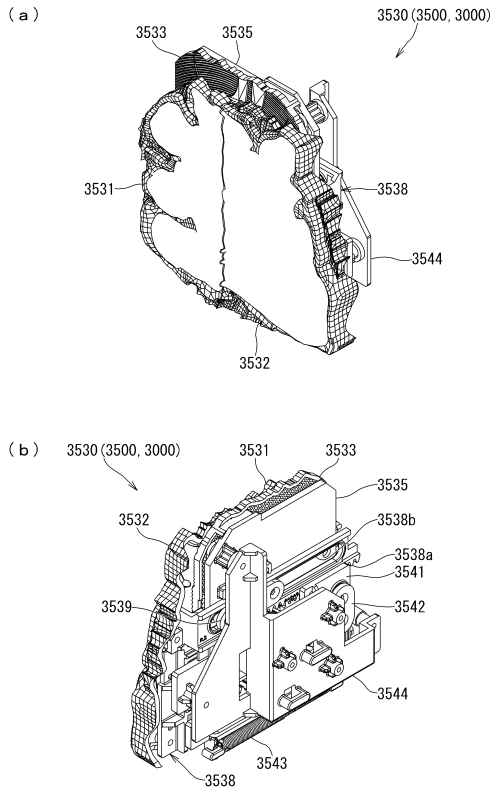
【図１３８】



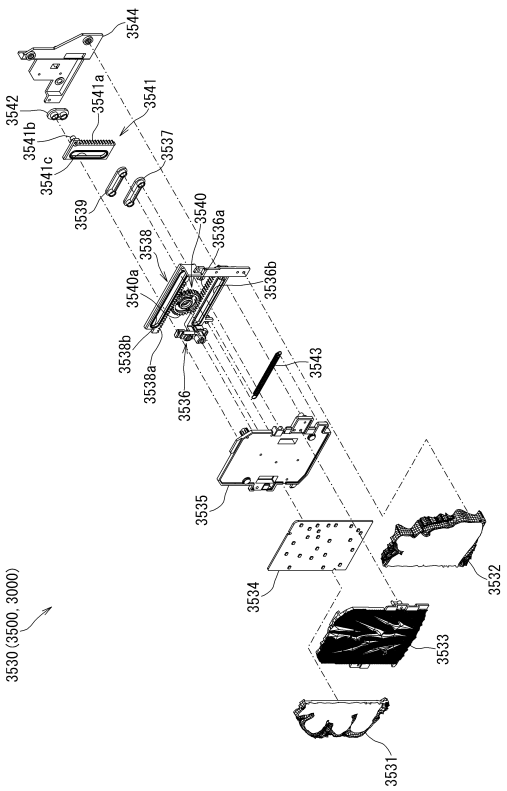
【図１３９】



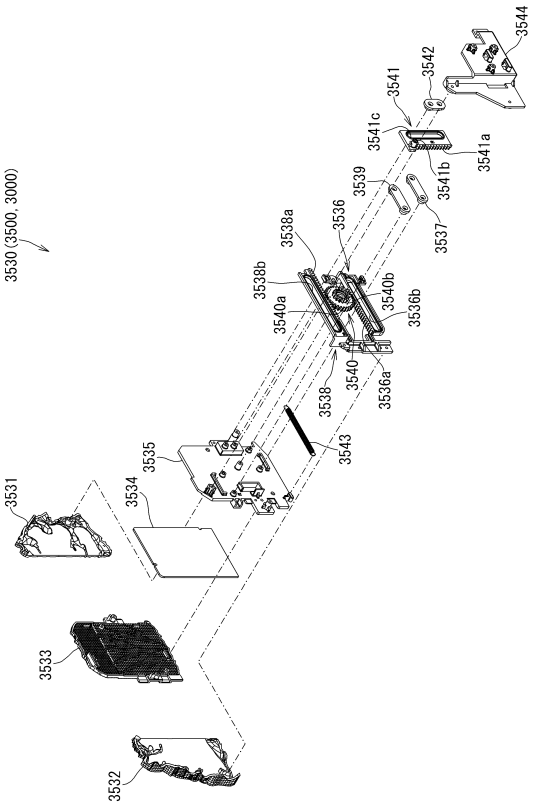
【図１４０】



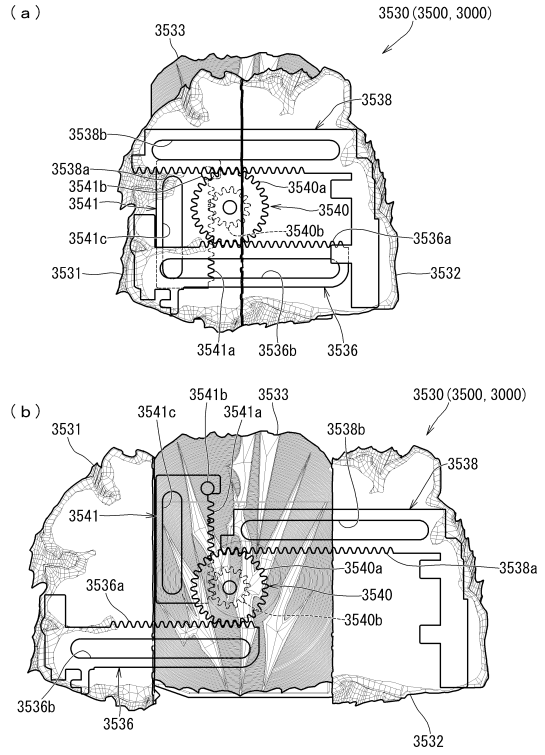
【図１４１】



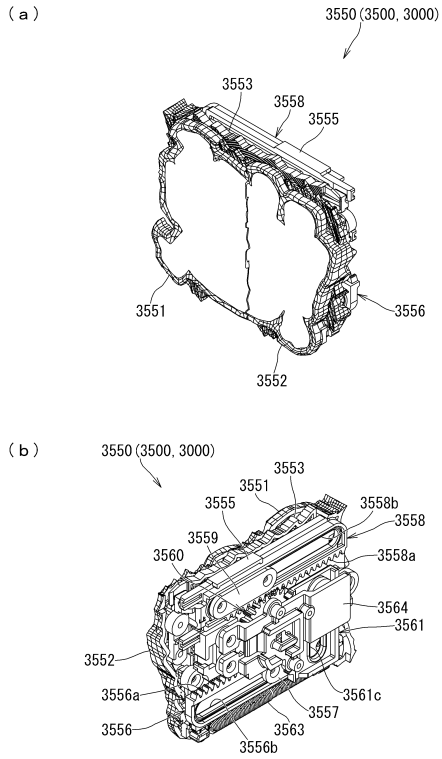
【図１４２】



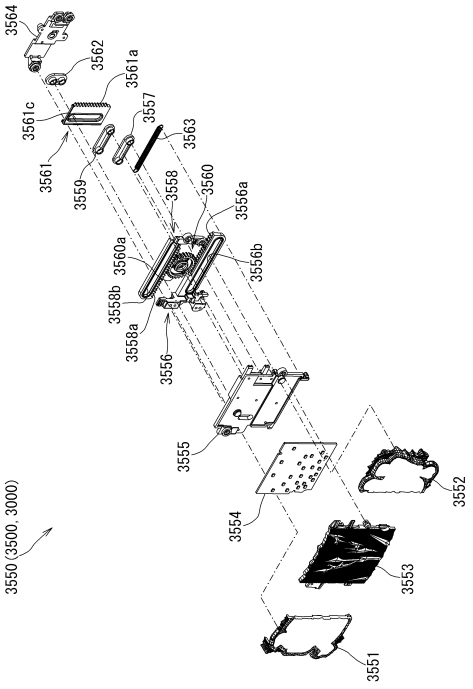
【図１４３】



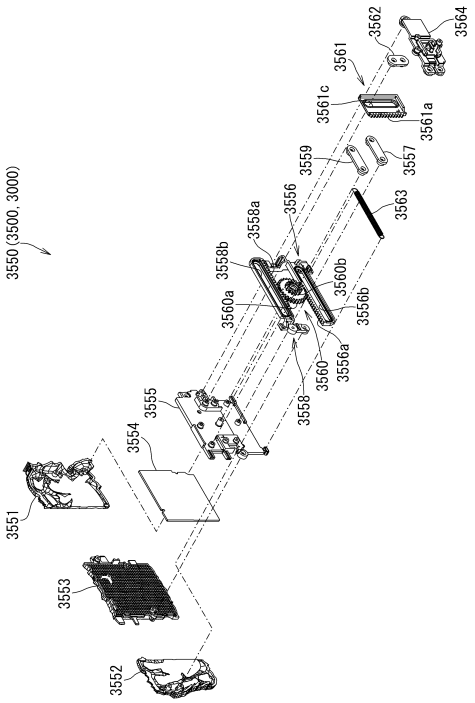
【図１４４】



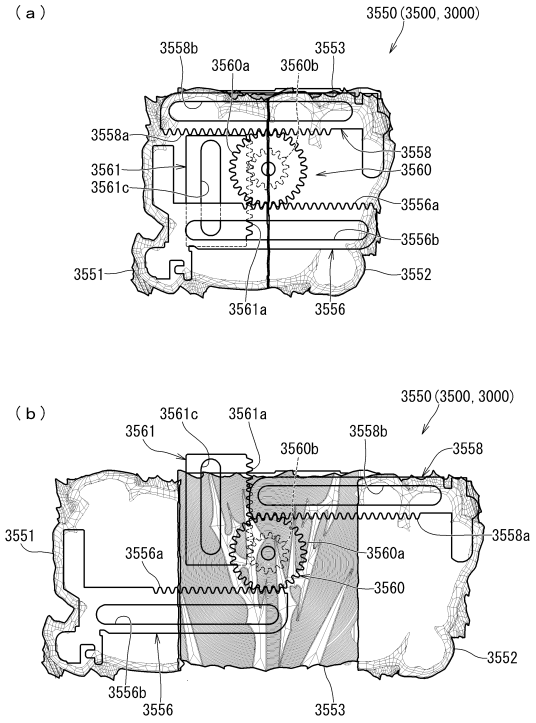
【図１４５】



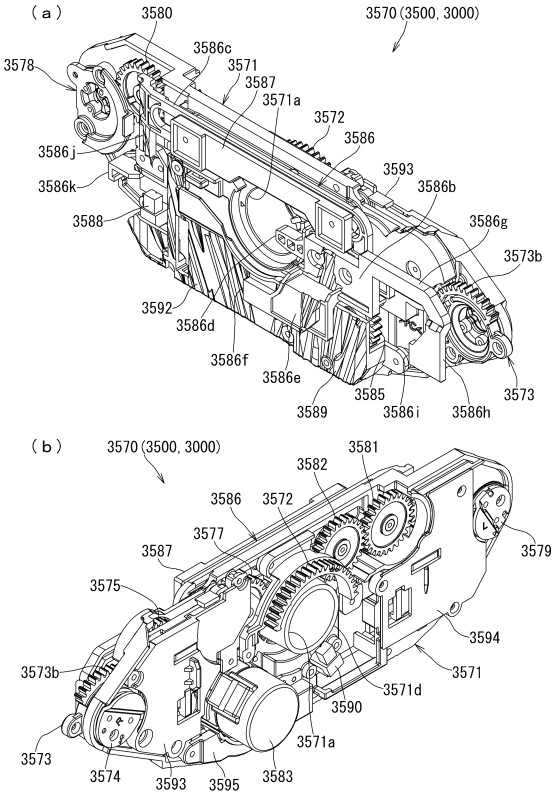
【図１４６】



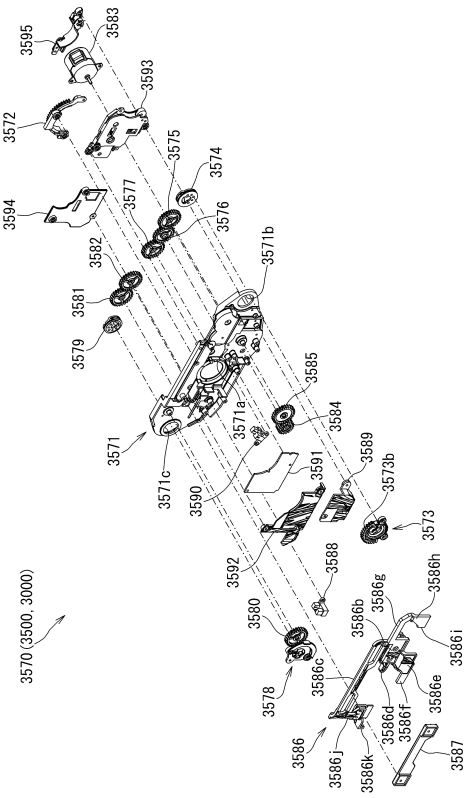
【図１４７】



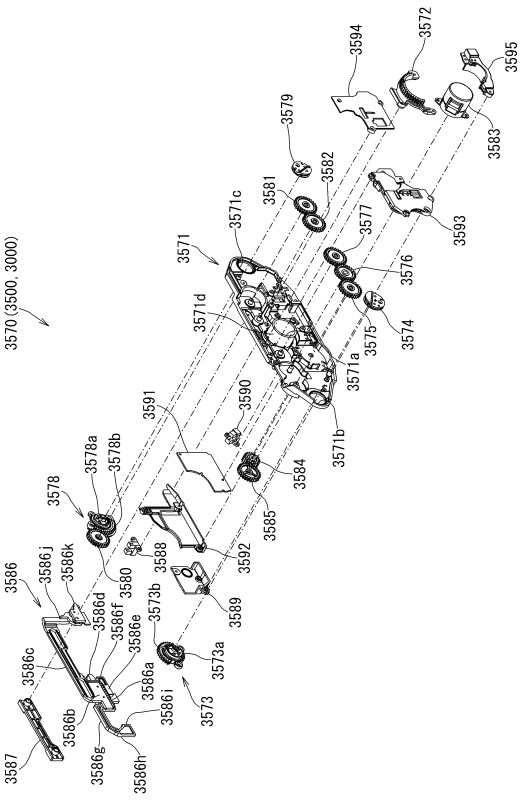
【図１４８】



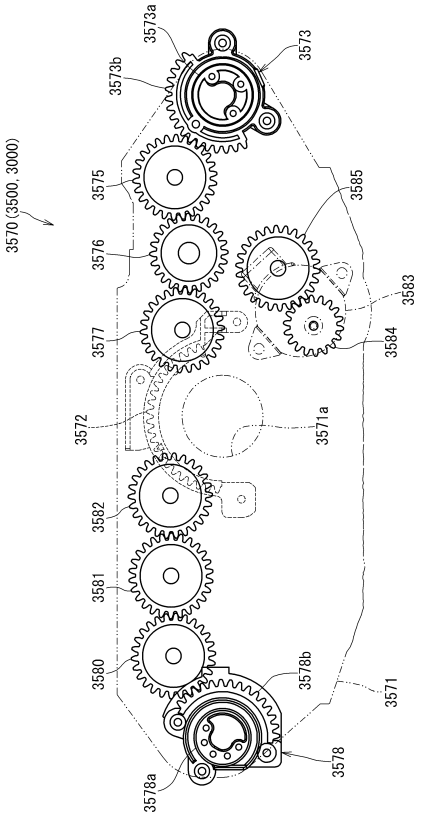
【図１４９】



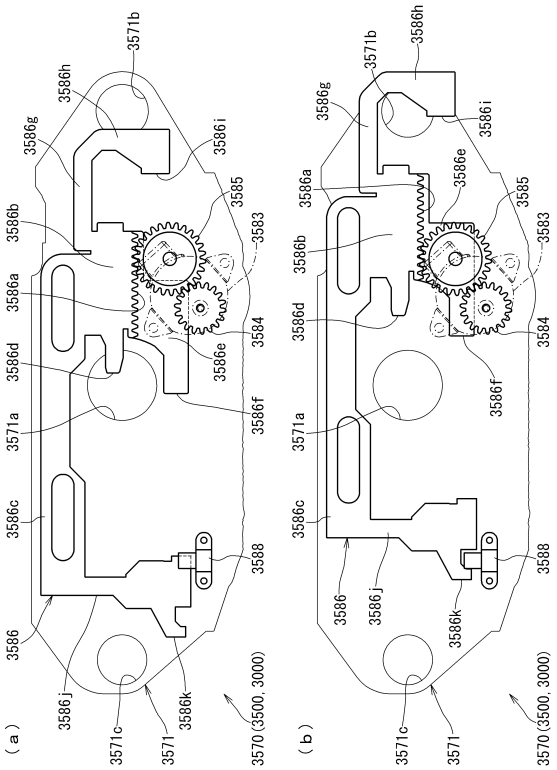
【図１５０】



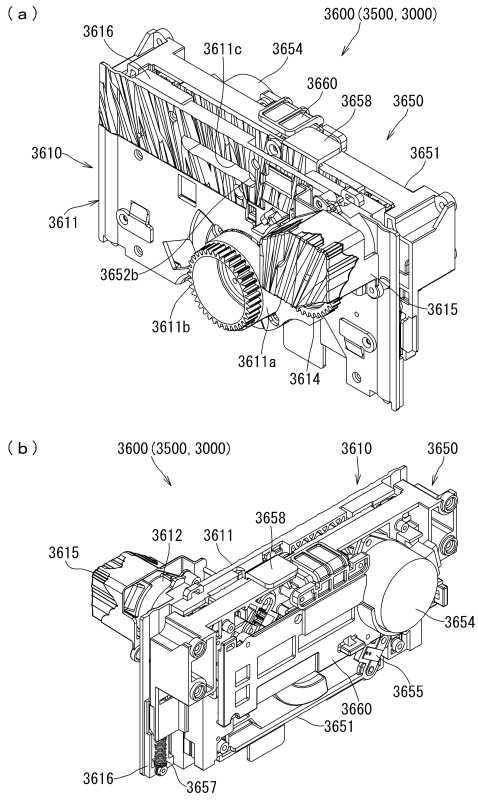
【図１５１】



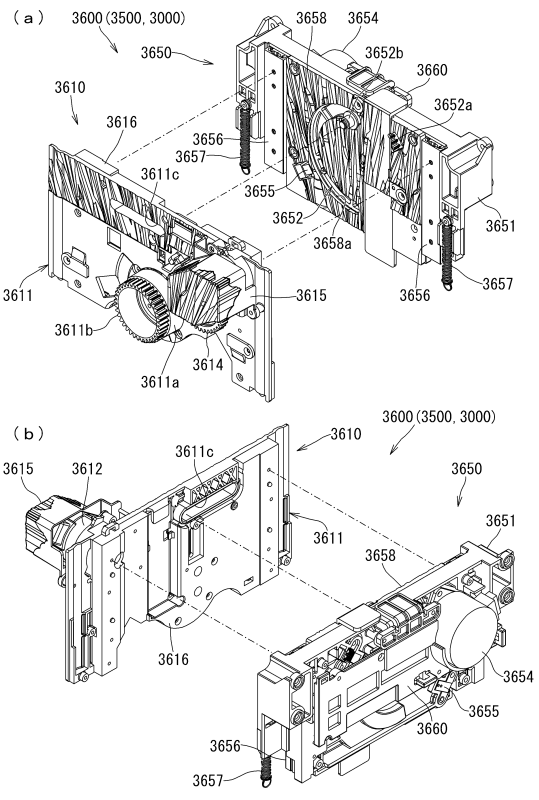
【図１５２】



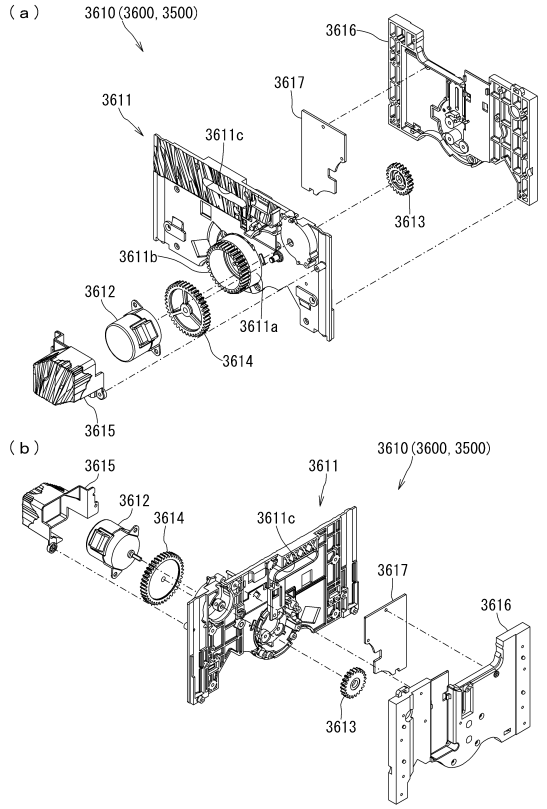
【図１５３】



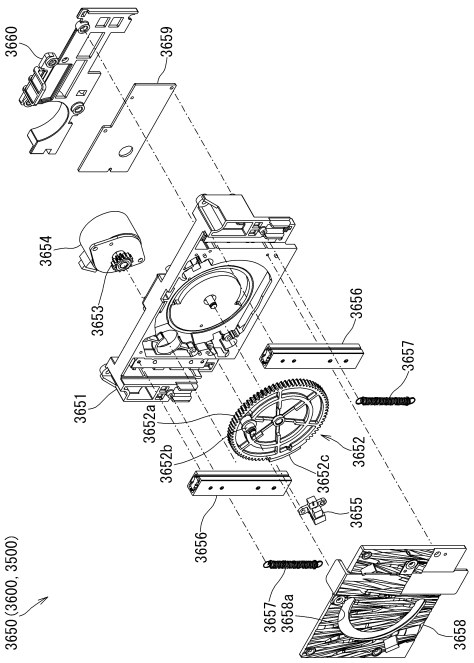
【図１５４】



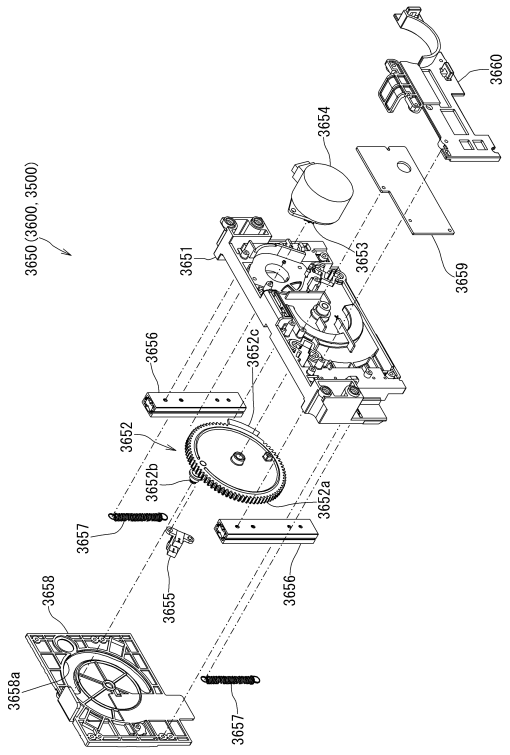
【図１５５】



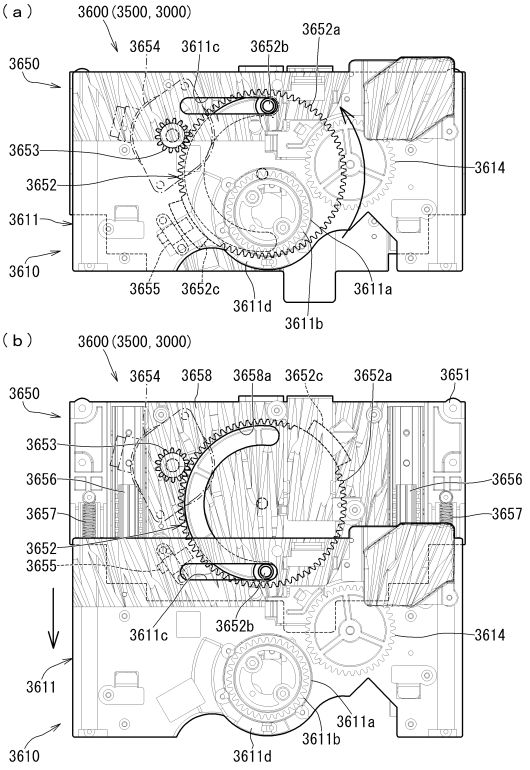
【図１５６】



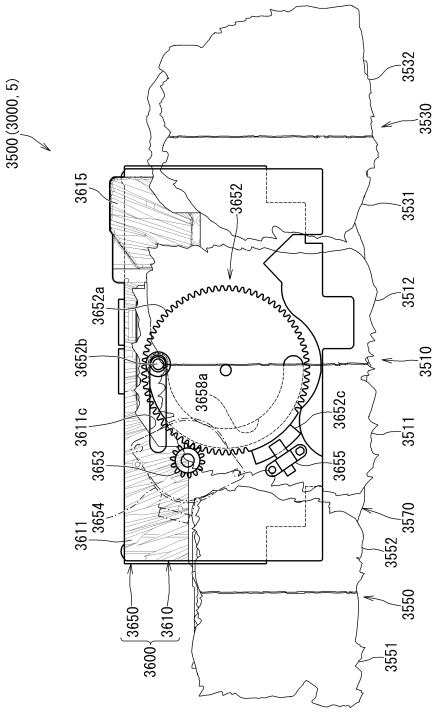
【図１５７】



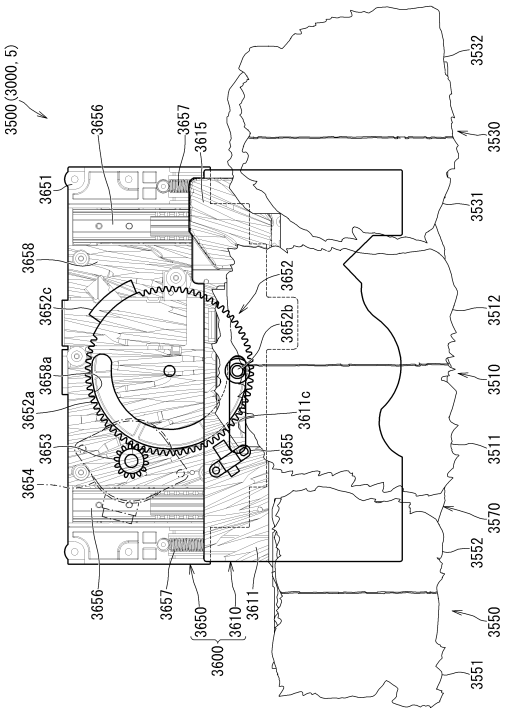
【図１５８】



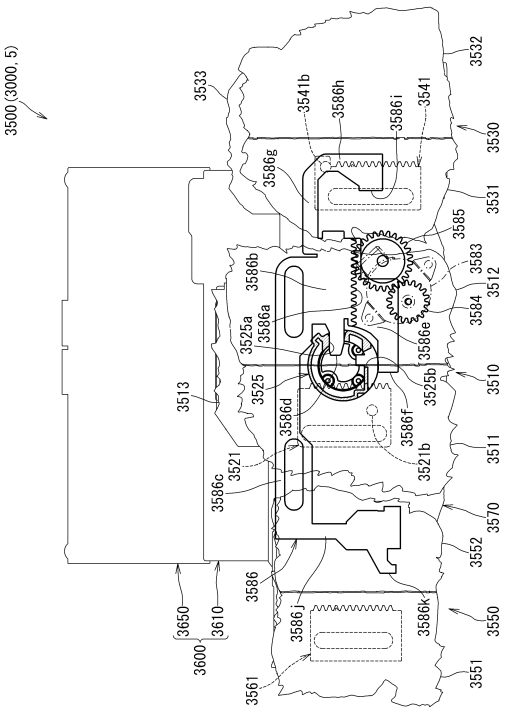
【図１５９】



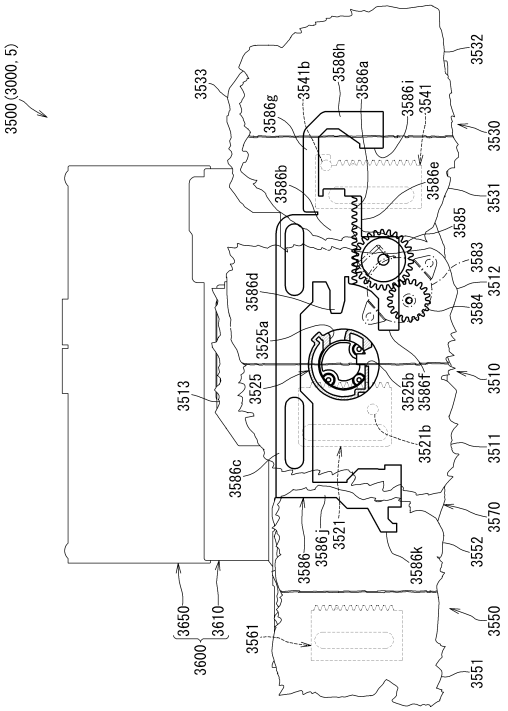
【図１６０】



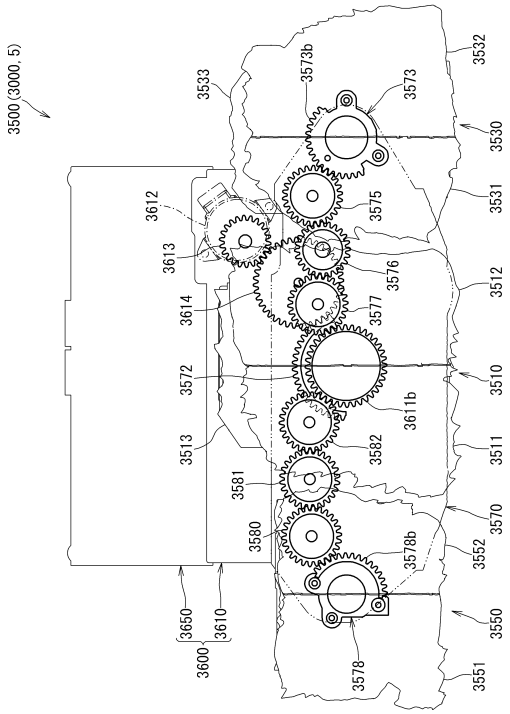
【図１６１】



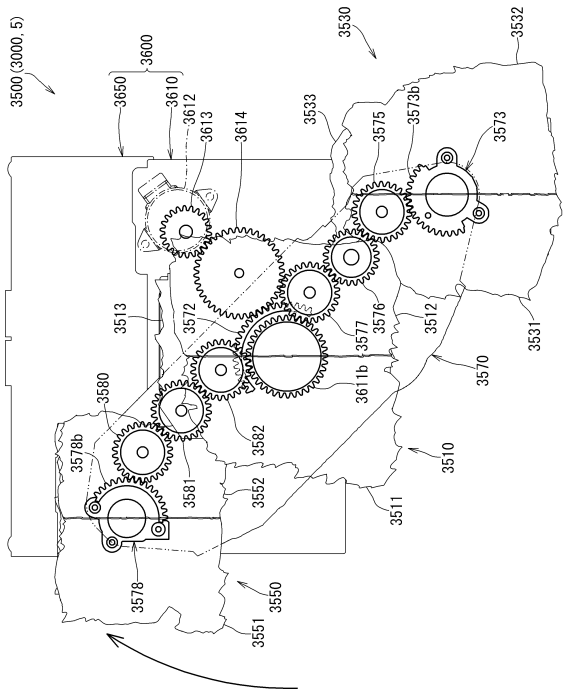
【図１６２】



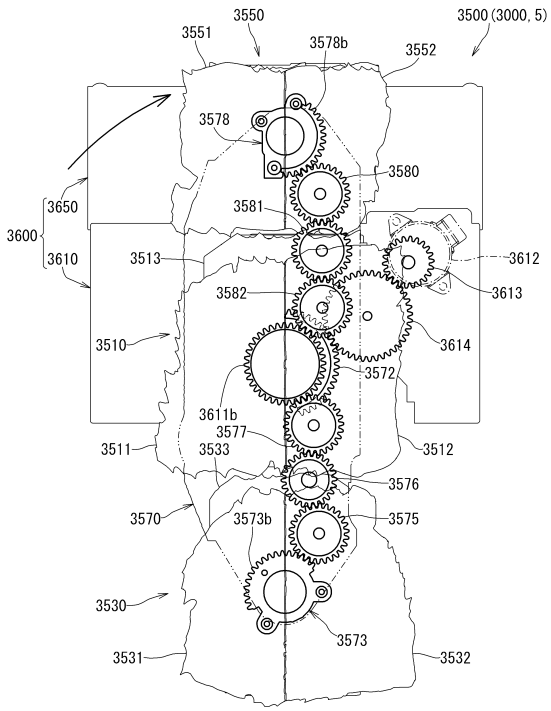
【図１６３】



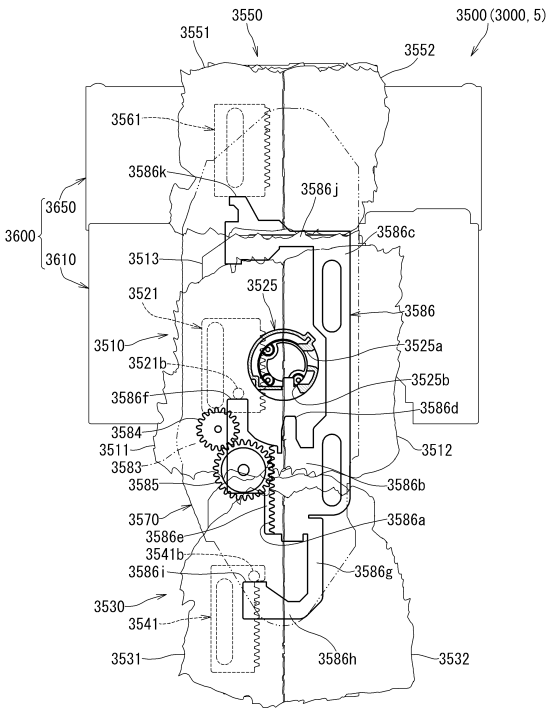
【図１６４】



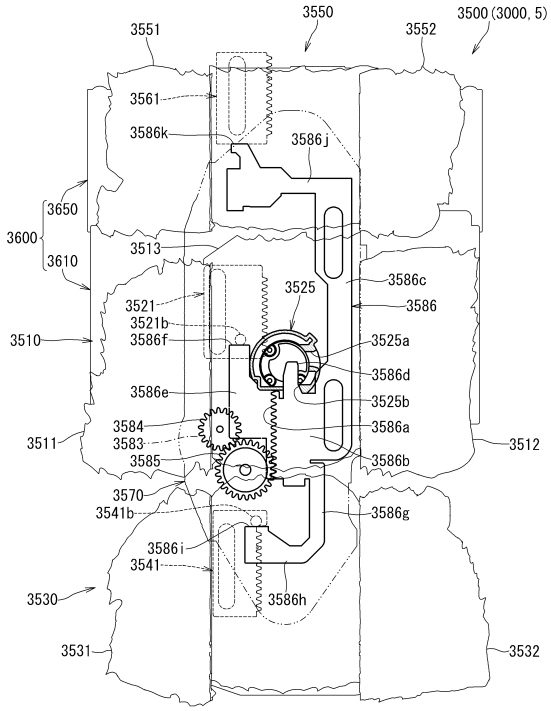
【図１６５】



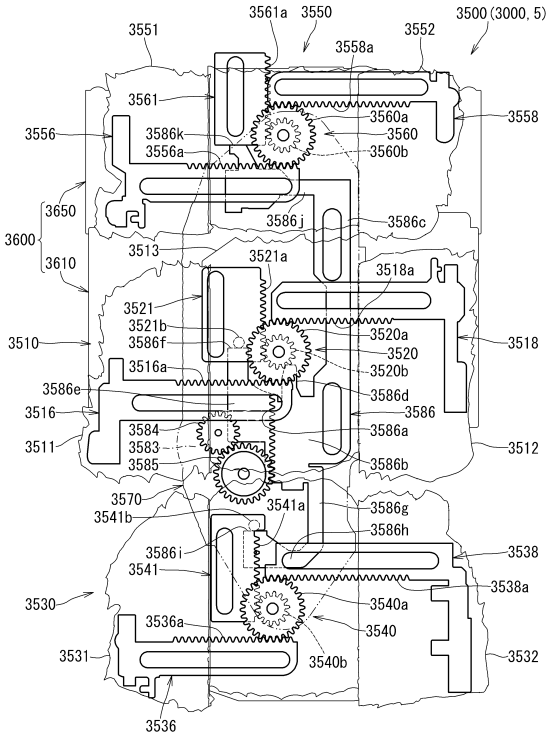
【図１６６】



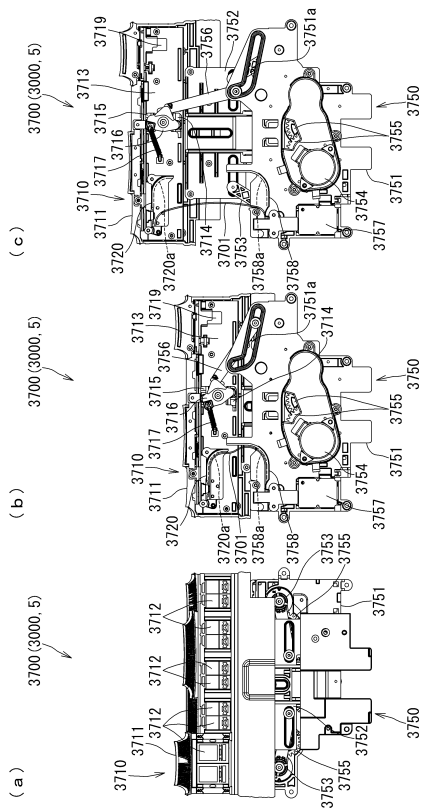
【図１６７】



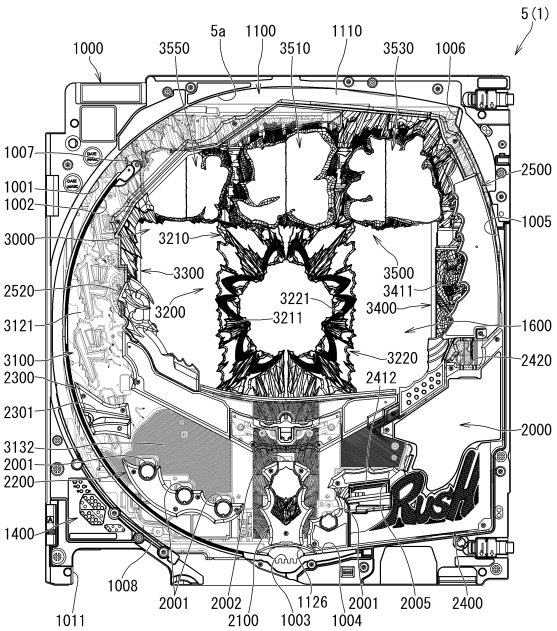
【図１６８】



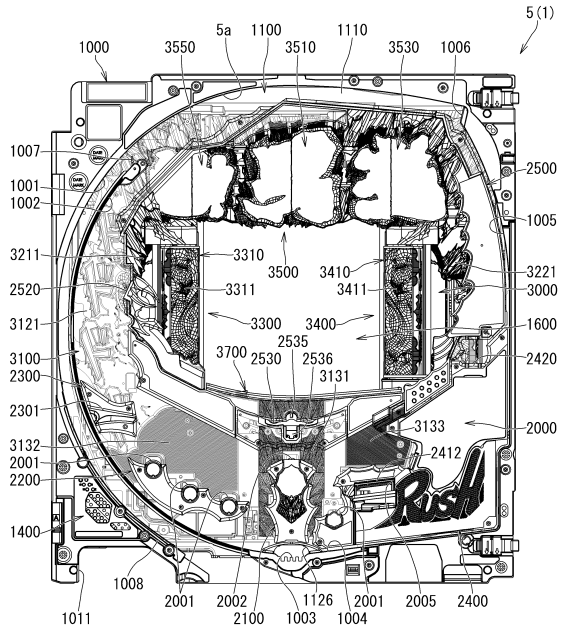
【図１６９】



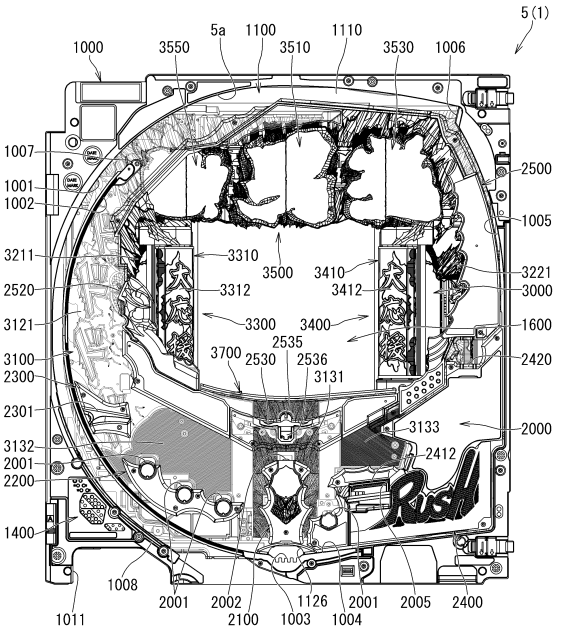
【図１７０】



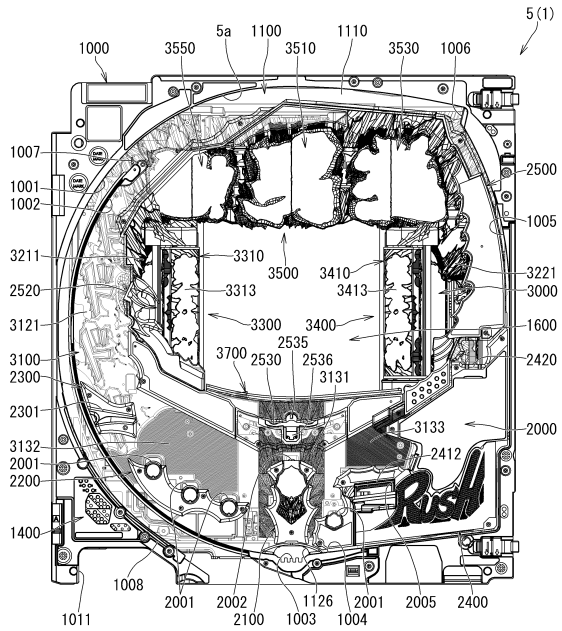
【図１７１】



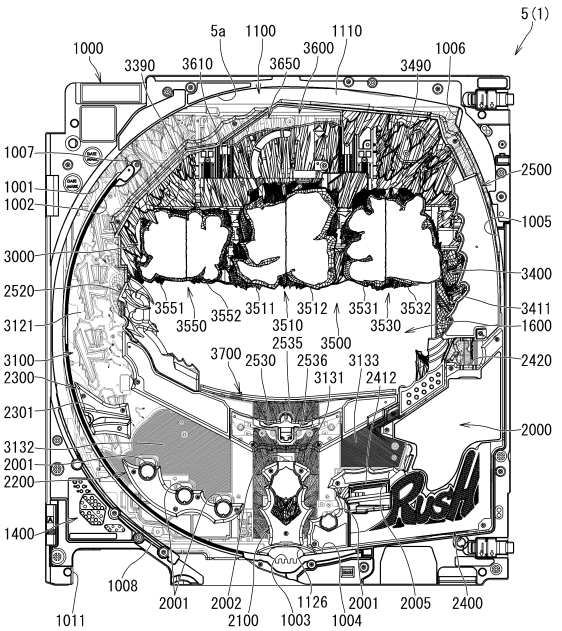
【図１７２】



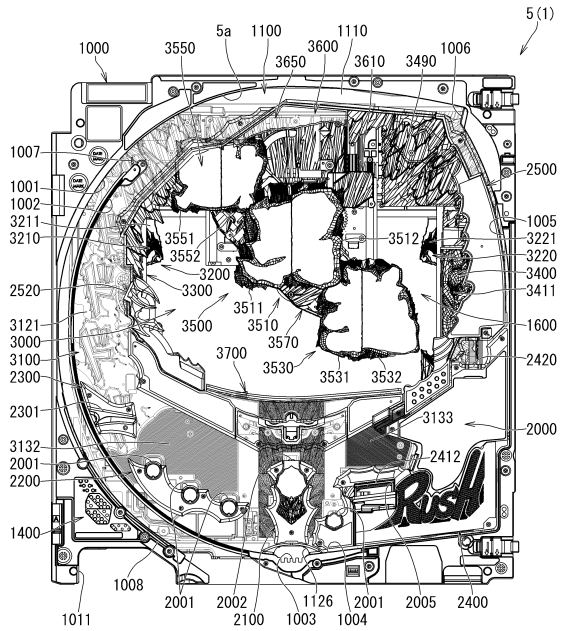
【図１７３】



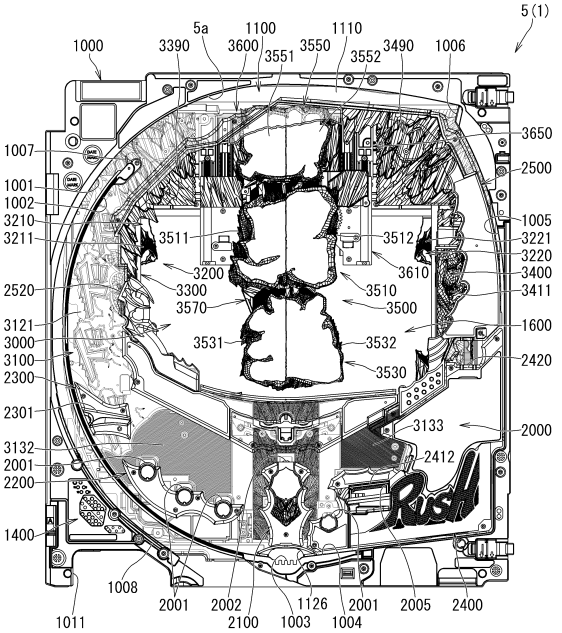
【図１７４】



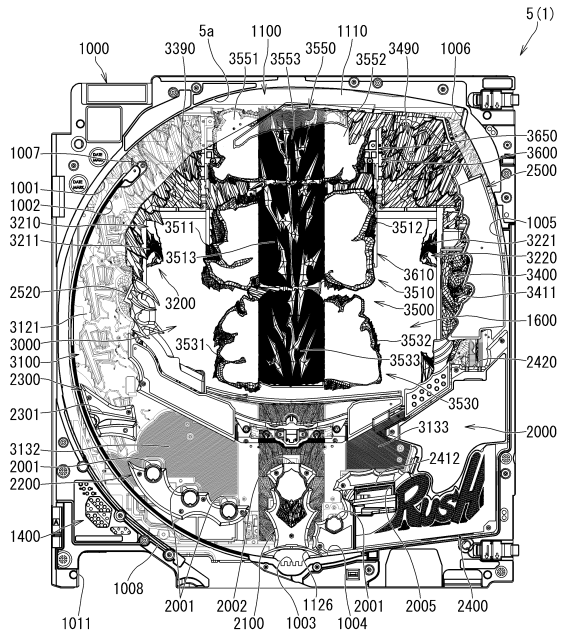
【図１７５】



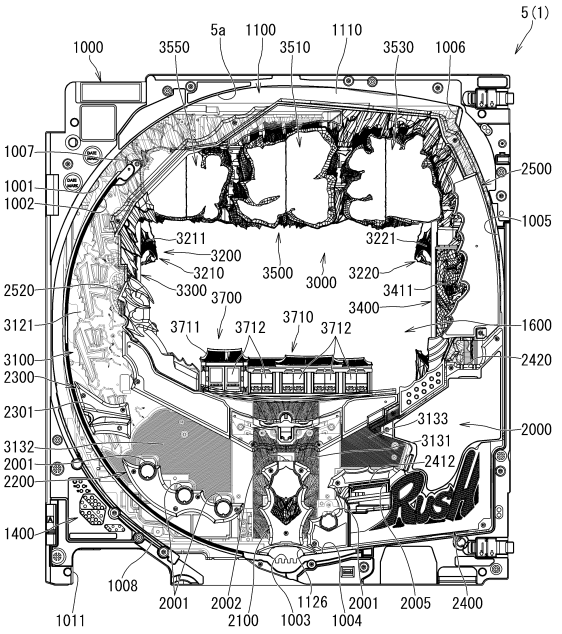
【図１７６】



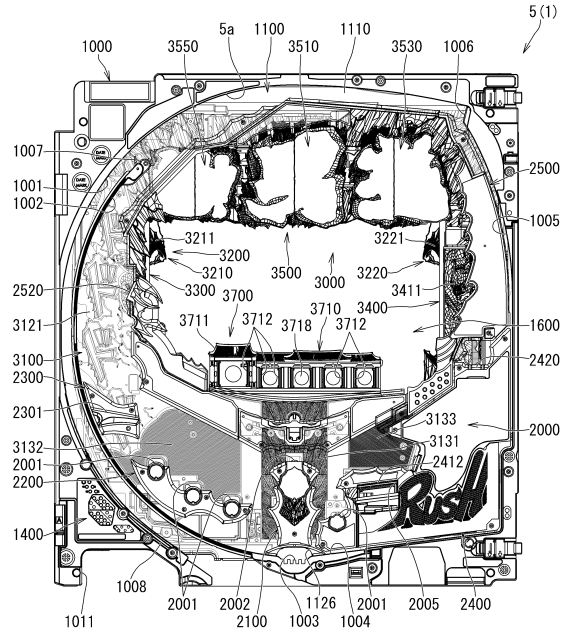
【図１７７】



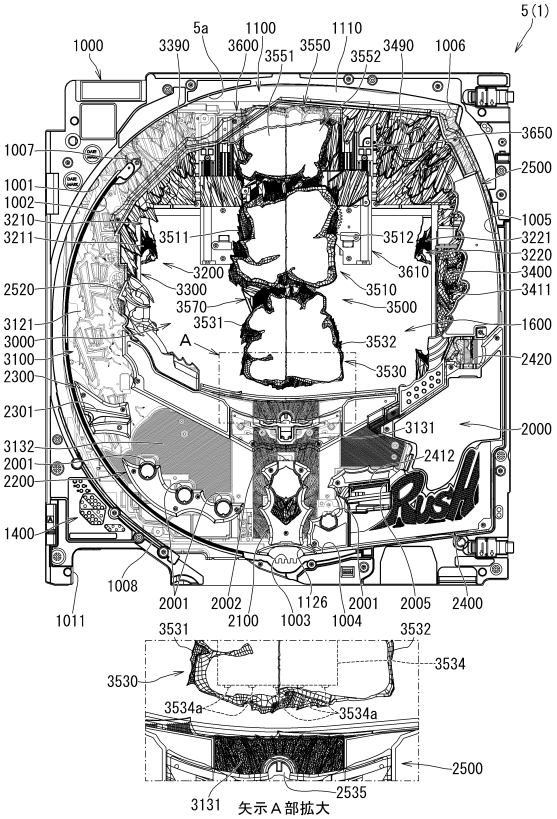
【図１７８】



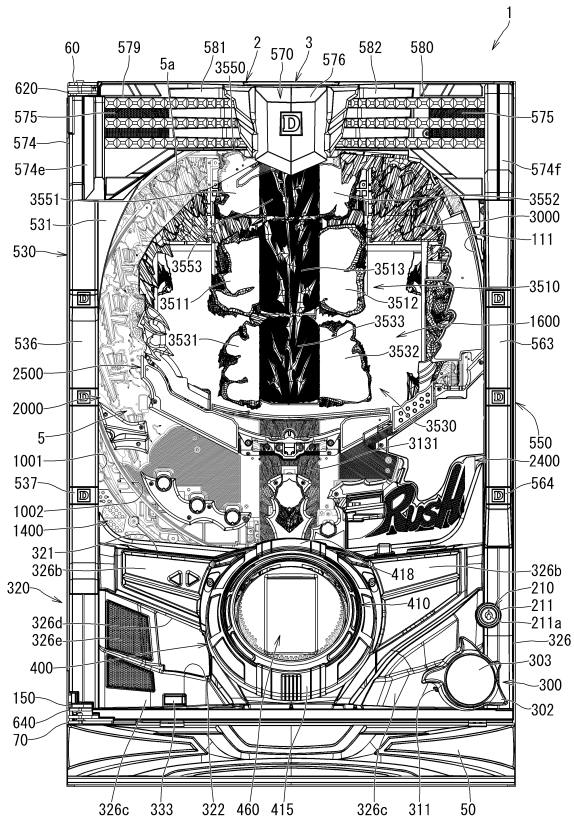
【図１７９】



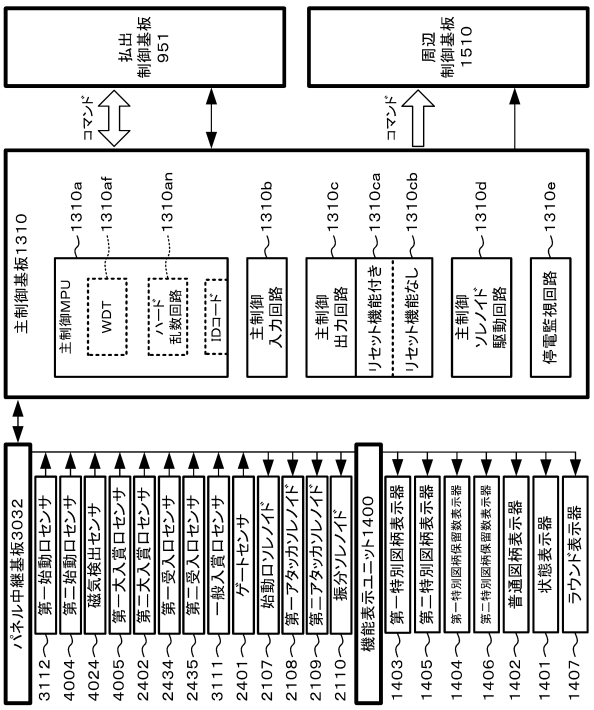
【図１８０】



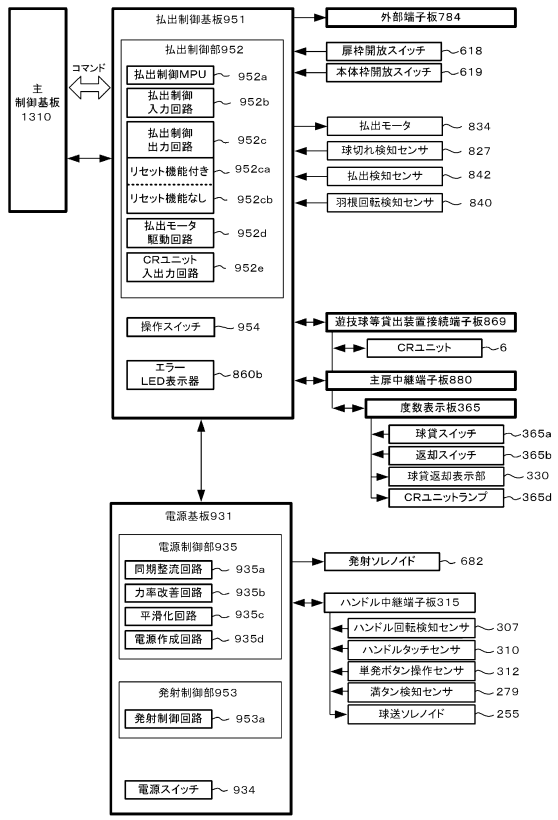
【図１８１】



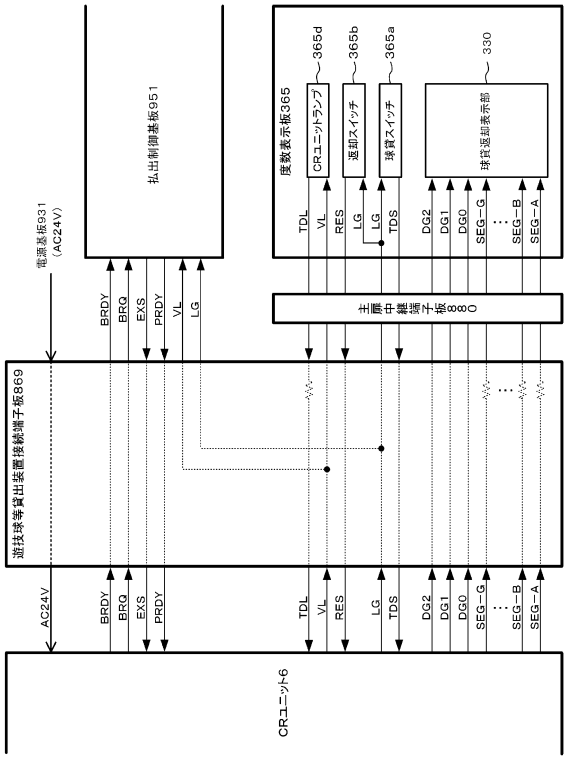
【図１８２】



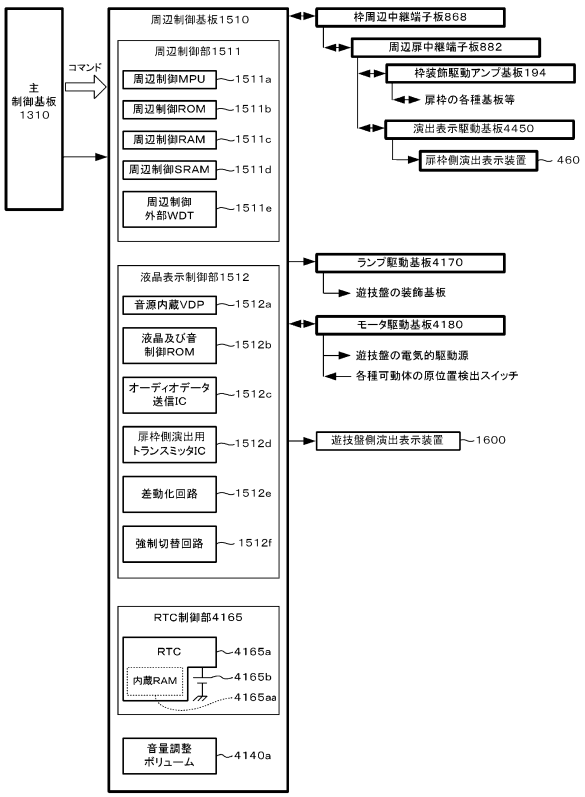
【図１８３】



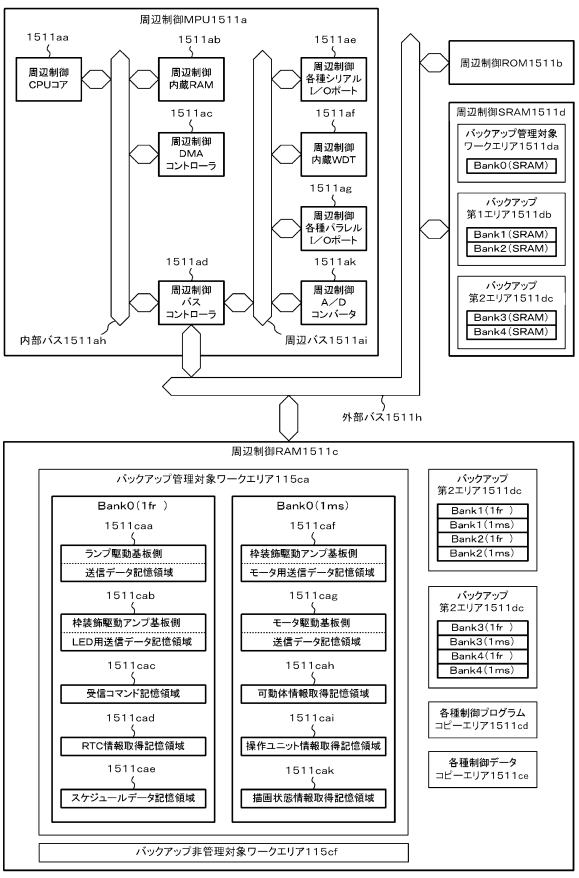
【図１８４】



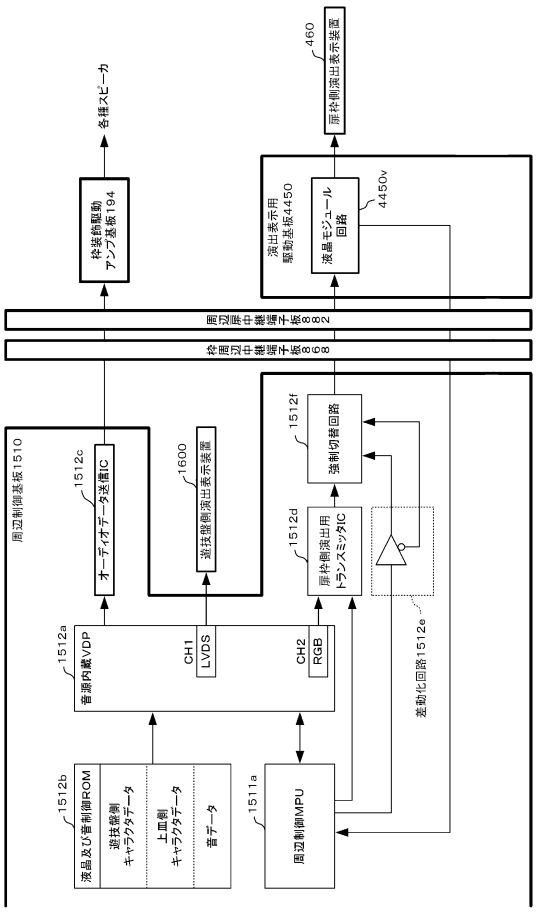
【図１８５】



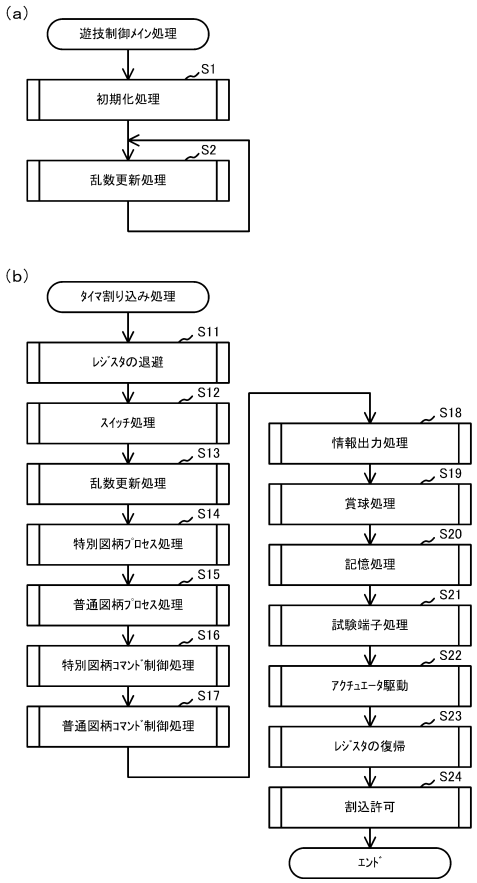
【図１８６】



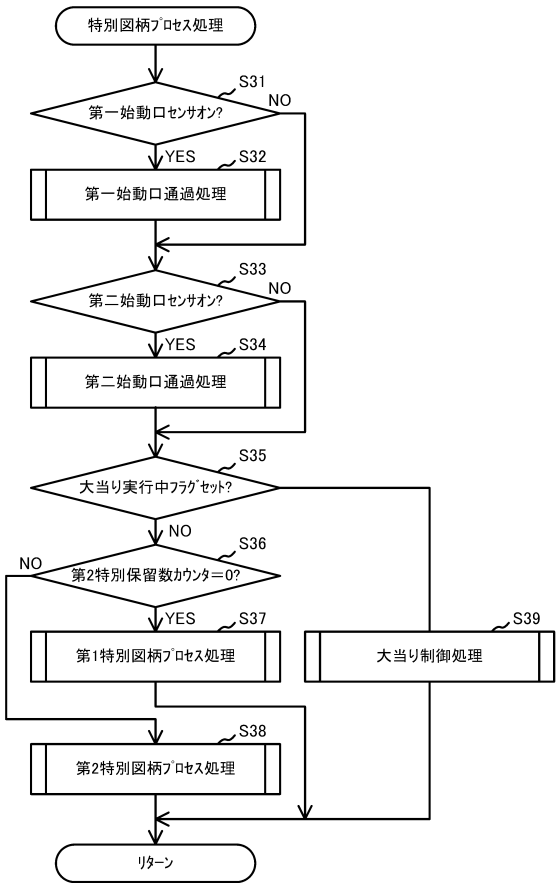
【図１８７】



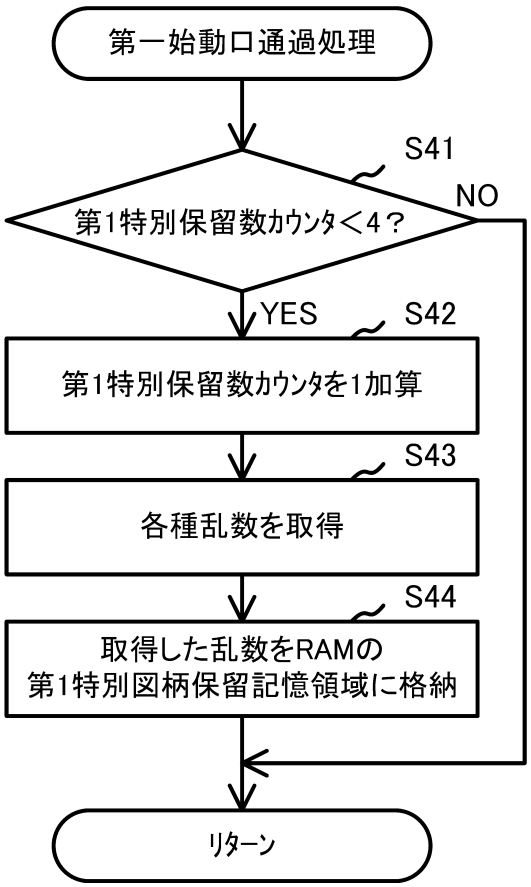
【図１８８】



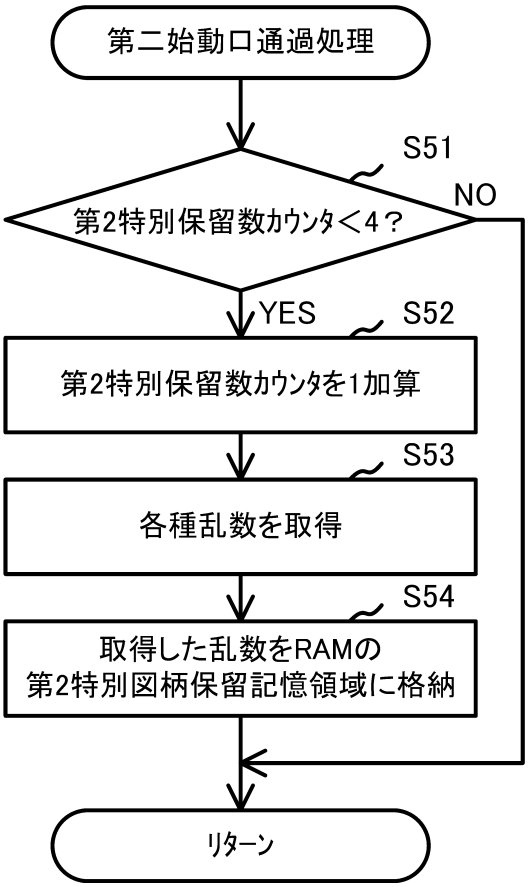
【図１８９】



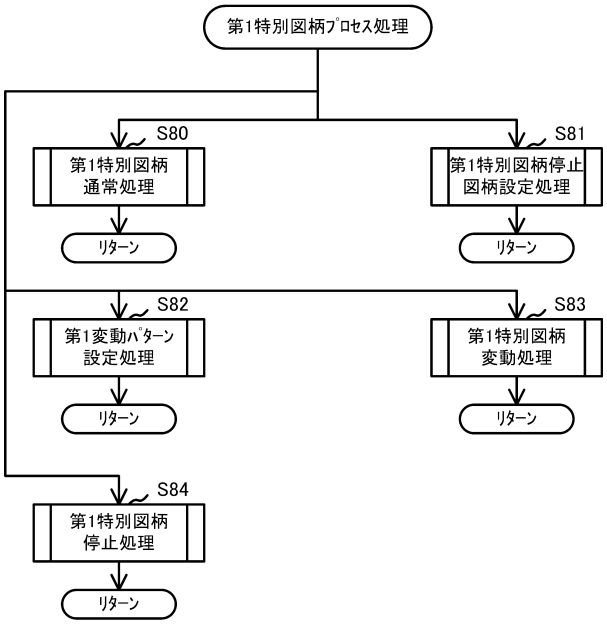
【図１９０】



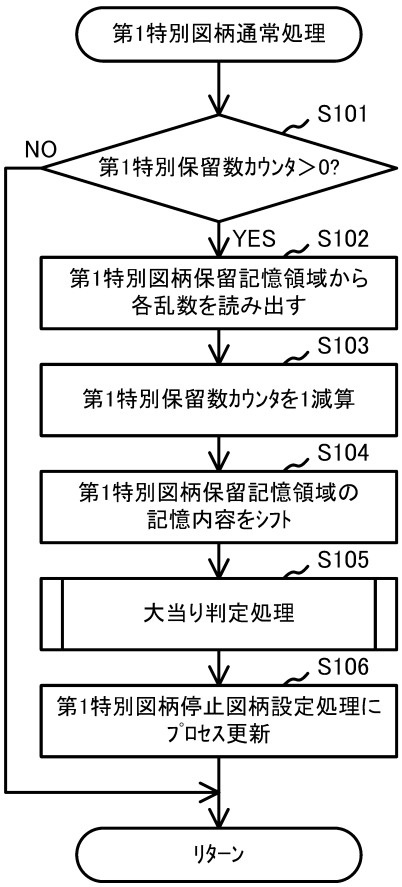
【図１９１】



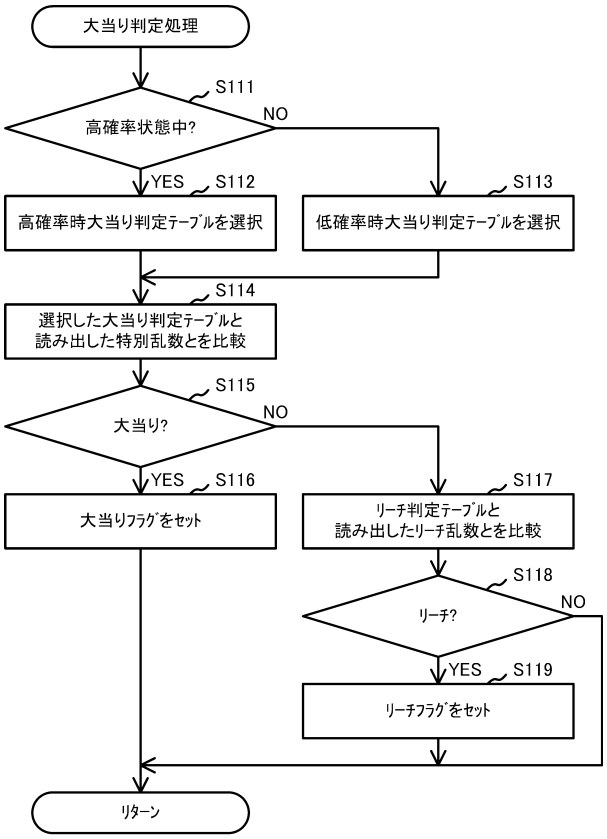
【図１９２】



【図１９３】



【図１９４】



【図１９５】

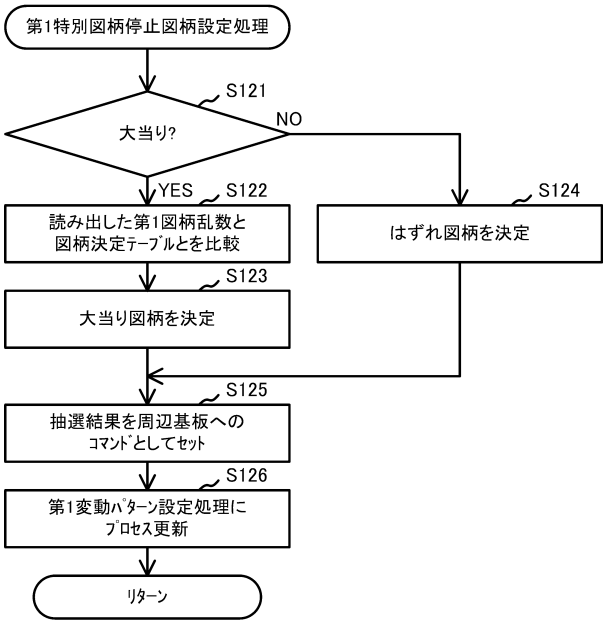
(A)大当り判定テーブル:特別乱数(0-299)

		はずれ	大当り
第一特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10
第二特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10

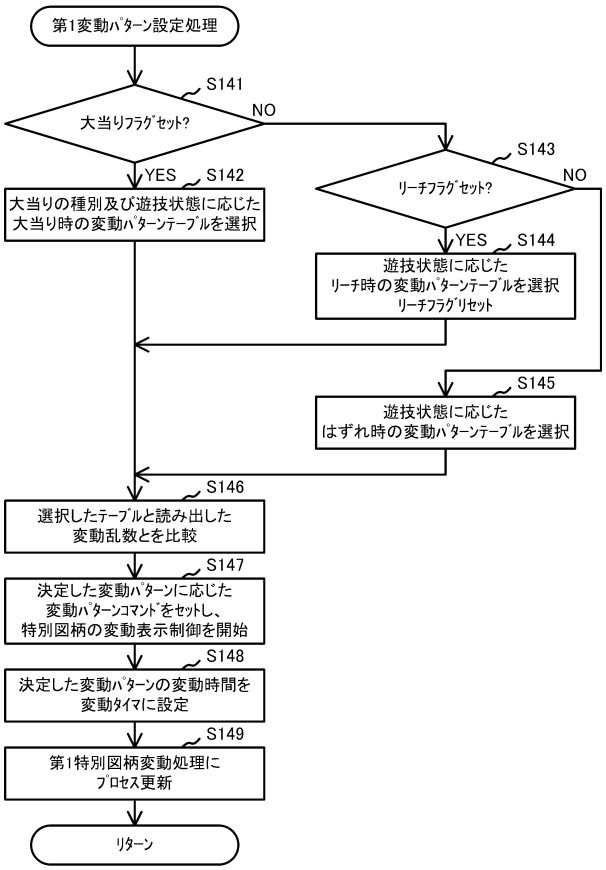
(B)図柄決定テーブル:図柄乱数(0-99)

	15R大当りA	15R大当りB
第一特別乱数	50	50
第二特別乱数	100	0

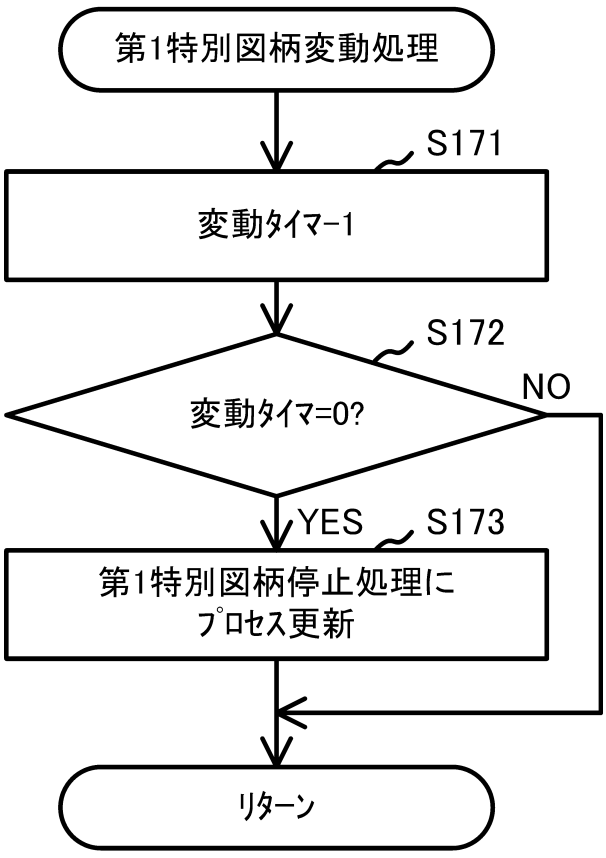
【図１９６】



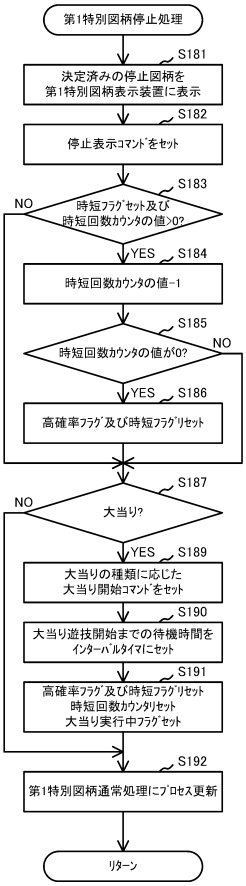
【図１９７】



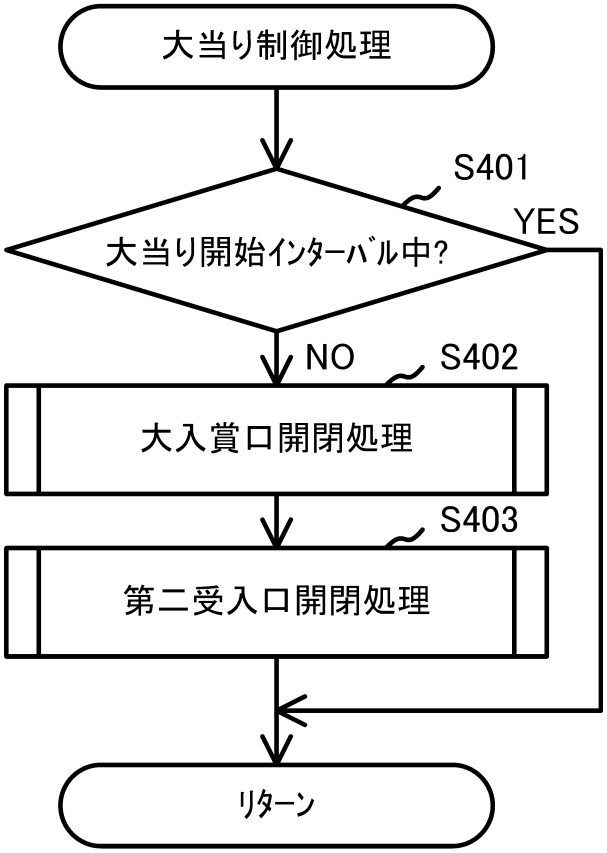
【図１９８】



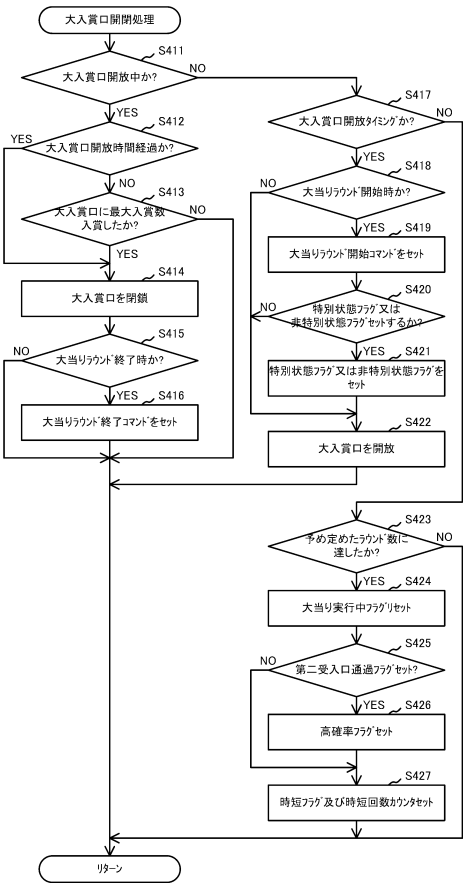
【図１９９】



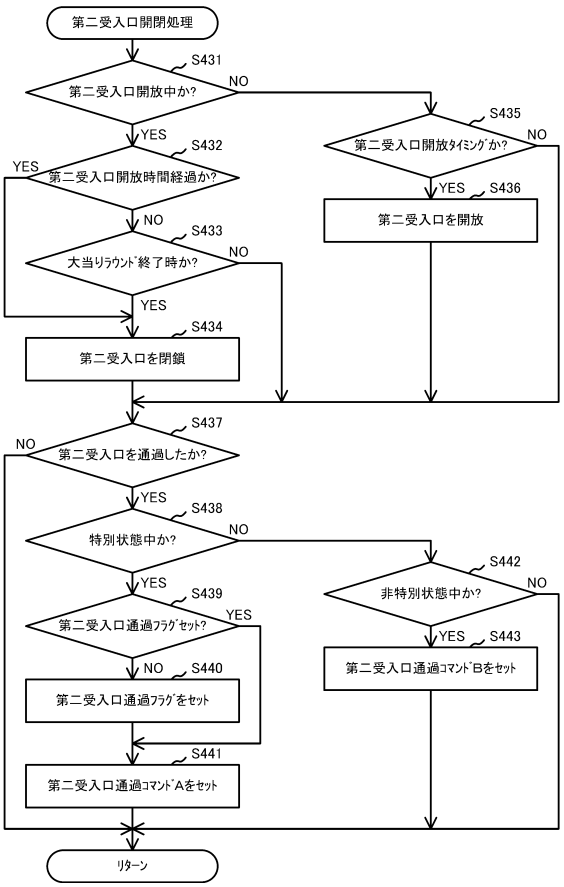
【図２００】



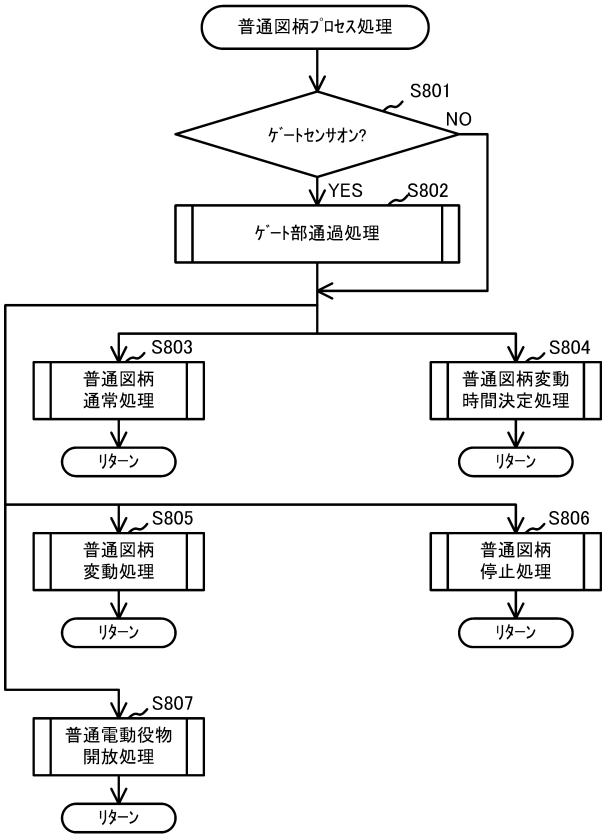
【図２０１】



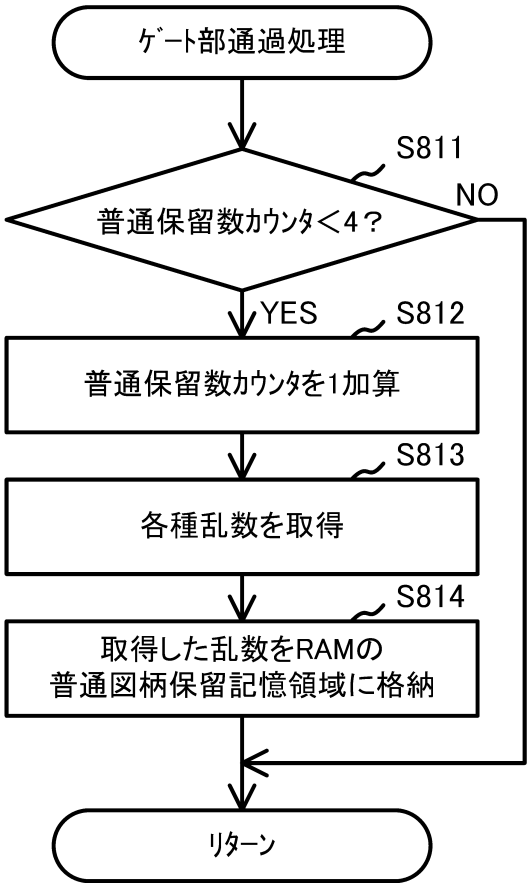
【図２０２】



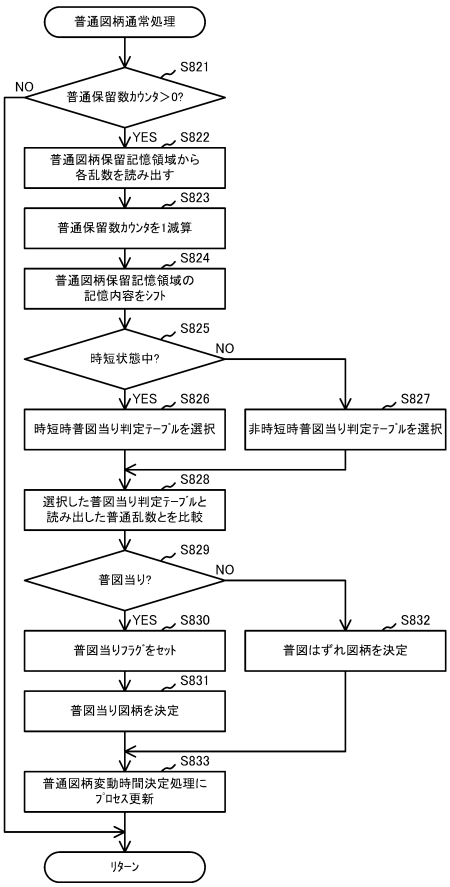
【図２０３】



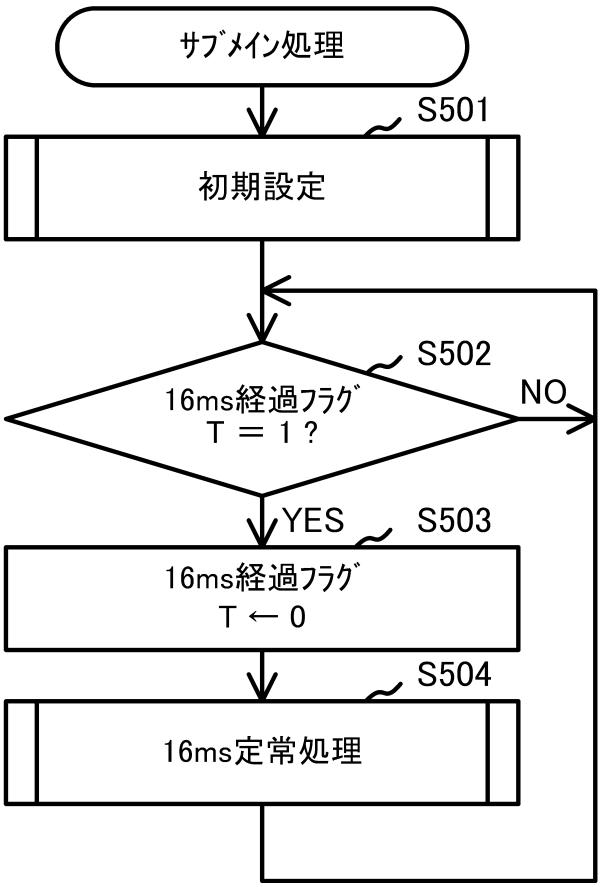
【図２０４】



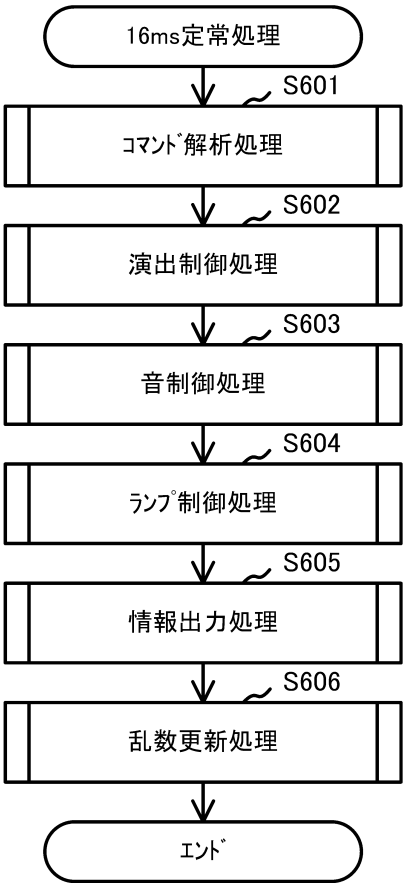
【図２０５】



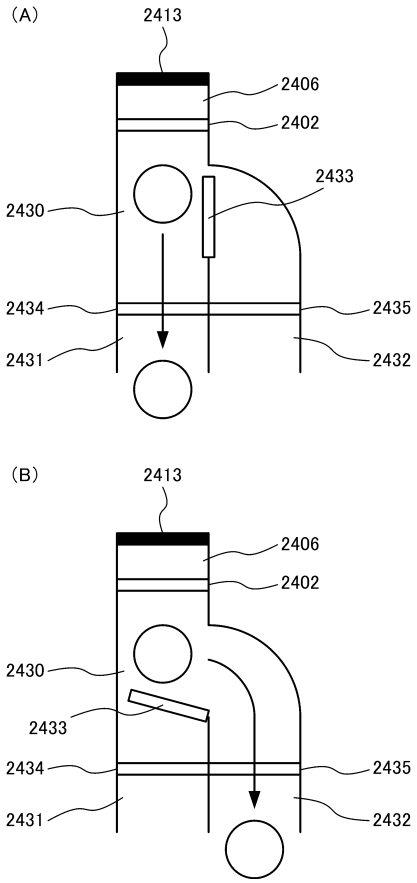
【図２０６】



【図２０７】



【図２０８】



【図２０９】

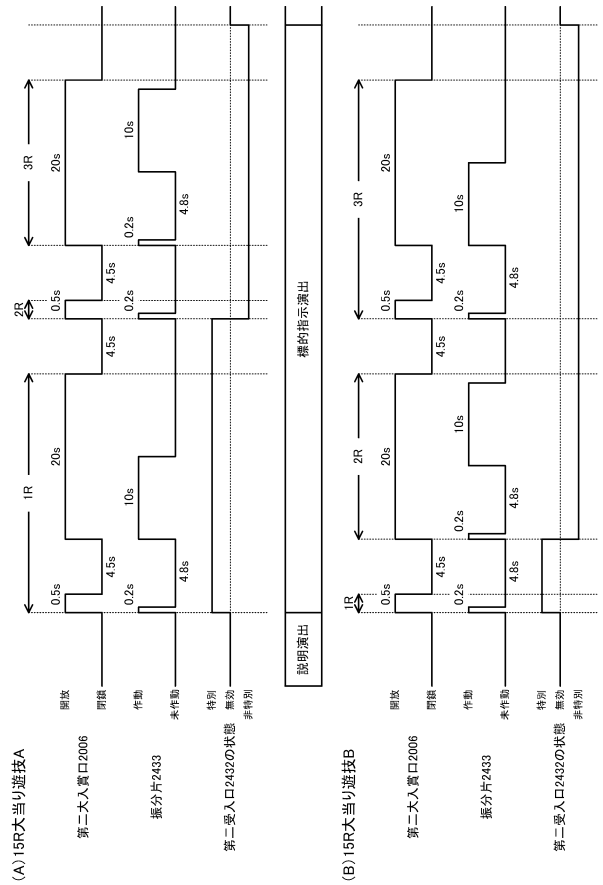
(A)15R大当り遊技A

	第一大入賞口	第二大入賞口	振分片	第二受入口の状態
1R	-	0.5s	0.2s	特別
		20s	10s	
2R	-	0.5s	0.2s	非特別
3R	-	20s	0.2s	非特別
			10s	
4～15R	30s	-	-	-

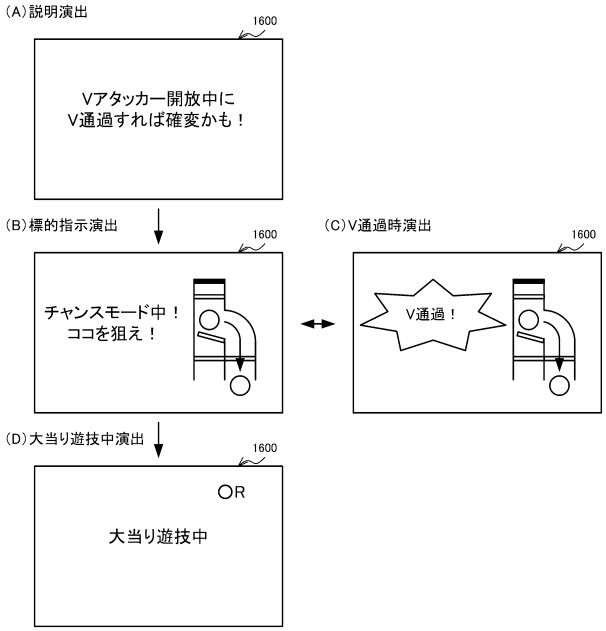
(B)15R大当り遊技B

	第一大入賞口	第二大入賞口	振分片	第二受入口の状態
1R	-	0.5s	0.2s	特別
2R	-	20s	0.2s	非特別
			10s	
3R	-	0.5s	0.2s	非特別
		20s	10s	
4～15R	30s	-	-	-

【図２１０】



【図２１１】



【図２１２】

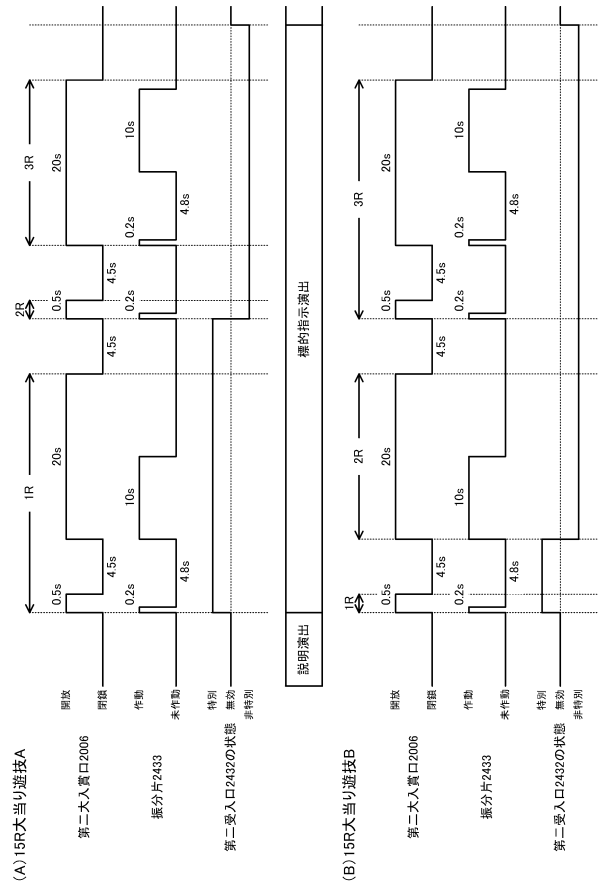
(A)15R大当り遊技A

	第一大入賞口開放時間	第二大入賞口開放時間	振分片作動時間	第二受入口の状態
1R	－	0.5s	0.2s	特別
		20s	10s	
2R	－	0.5s	0.2s	非特別
3R	－	20s	0.2s	非特別
			10s	
4～15R	30s	－	－	－

(B)15R大当り遊技B

	第一大入賞口開放時間	第二大入賞口開放時間	振分片作動時間	第二受入口の状態
1R	－	0.5s	0.2s	特別
2R	－	20s	10s	非特別
3R	－	0.5s	0.2s	非特別
		20s	0.2s	
			10s	
4～15R	30s	－	－	－

【図２１３】

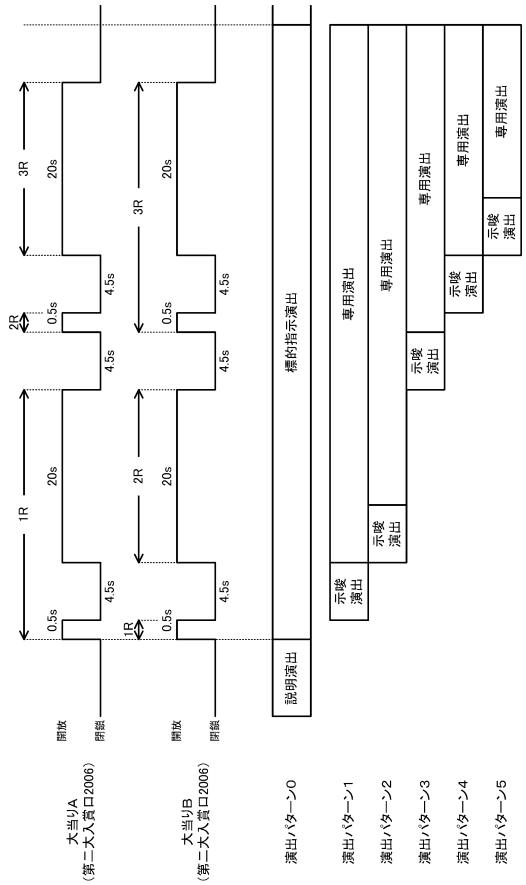


【図２１４】

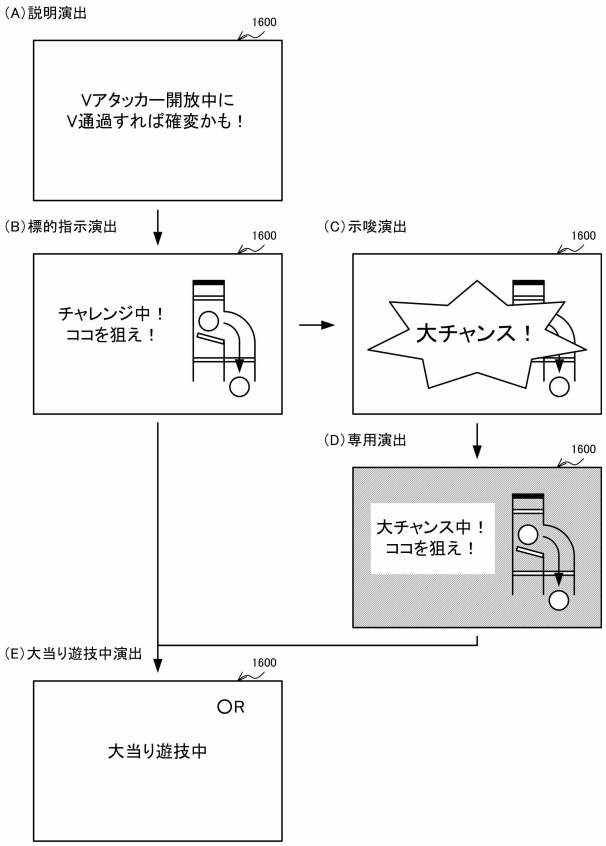
演出パターン決定テーブル：演出パターン決定乱数（0-99）

	演出パターン					
	0	1	2	3	4	5
大当りA	10	18	18	18	18	18
大当りB	90	2	2	2	2	2

【図２１５】



【図２１６】

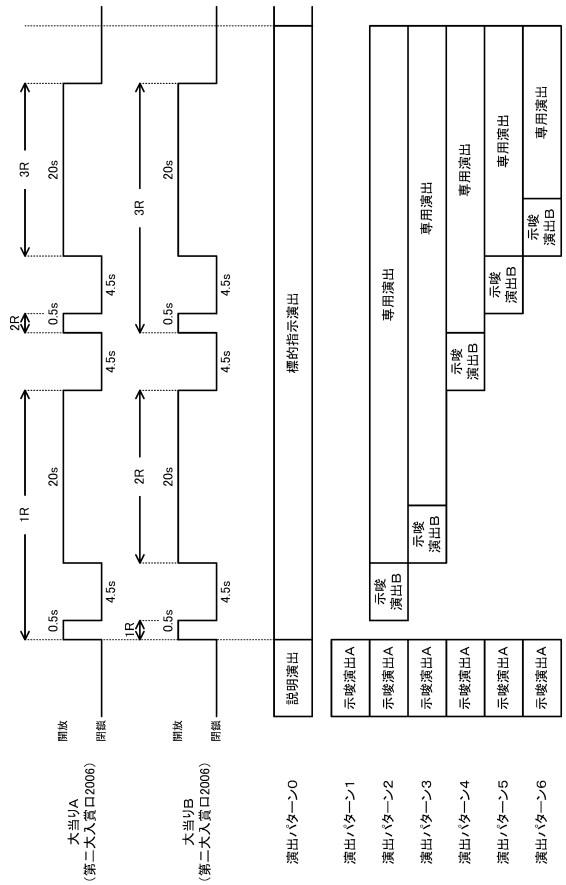


【図２１７】

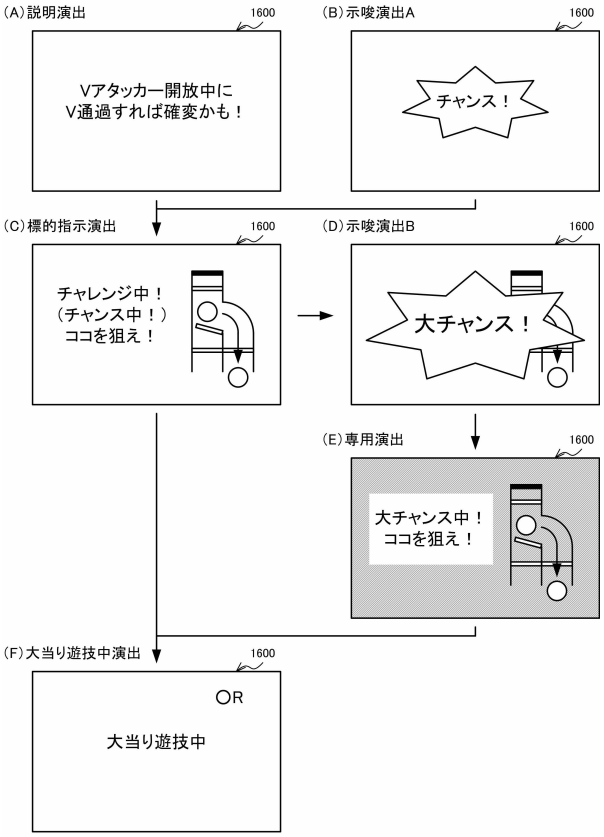
演出パターン決定テーブル：演出パターン決定乱数（0-99）

	演出パターン						
	0	1	2	3	4	5	6
大当りA	5	5	18	18	18	18	18
大当りB	45	45	2	2	2	2	2

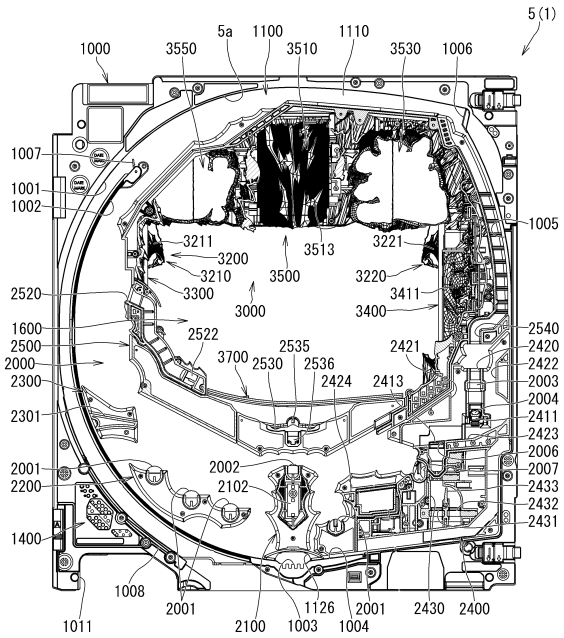
【図２１８】



【図２１９】



【図２２０】



【図２２１】

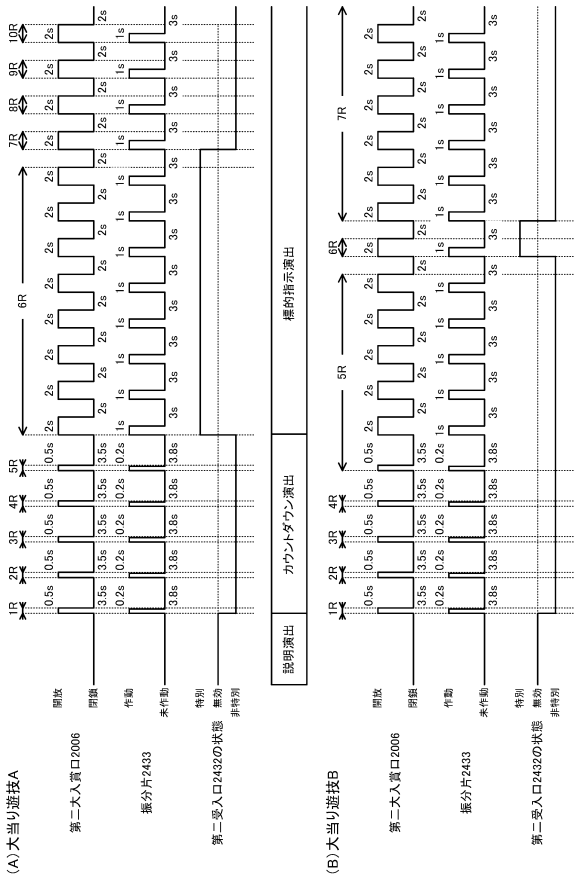
図柄決定テーブル：図柄乱数（0-99）

	15R大当りA	15R大当りB	15R大当りC
第一特別乱数	25	50	25
第二特別乱数	100	0	0

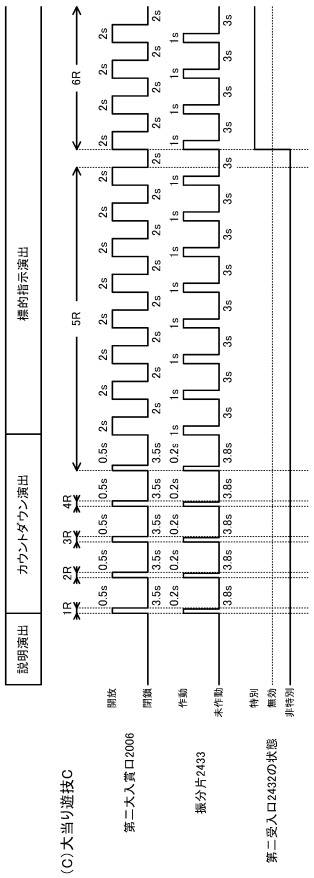
【図２２２】

			15R大当り遊技A		15R大当り遊技B		15R大当り遊技C	
大入賞口開放順	大入賞口開放時間	振分片作動時間	ﾗｳﾝﾄﾞ数	第二受入口の状態	ﾗｳﾝﾄﾞ数	第二受入口の状態	ﾗｳﾝﾄﾞ数	第二受入口の状態
1	0.5s	0.2s	1R	非特別	1R	非特別	1R	非特別
2	0.5s	0.2s	2R	非特別	2R	非特別	2R	非特別
3	0.5s	0.2s	3R	非特別	3R	非特別	3R	非特別
4	0.5s	0.2s	4R	非特別	4R	非特別	4R	非特別
5	0.5s	0.2s	5R	非特別				
6	2s	1s						
7	2s	1s			5R	非特別		
8	2s	1s						
9	2s	1s					5R	非特別
10	2s	1s	6R	特別				
11	2s	1s			6R	特別		
12	2s	1s						
13	2s	1s						
14	2s	1s	7R	非特別				
15	2s	1s	8R	非特別				
16	2s	1s	9R	非特別				
17	2s	1s	10R	非特別	7R	非特別		
18	2s	1s	11R	非特別			6R	特別
19	2s	1s	12R	非特別				
20	2s	1s	13R	非特別				
21	2s	1s	14R	非特別				
22	2s	1s					7R	非特別
23	2s	1s			8R	非特別	8R	非特別
24	2s	1s			9R	非特別	9R	非特別
25	2s	1s			10R	非特別	10R	非特別
26	2s	1s	15R	特別	11R	非特別	11R	非特別
27	2s	1s			12R	非特別	12R	非特別
28	2s	1s			13R	非特別	13R	非特別
29	2s	1s			14R	非特別	14R	非特別
30	2s	1s			15R	特別	15R	特別

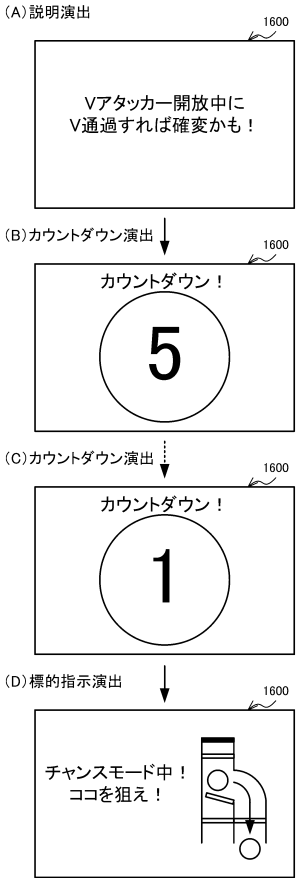
【図２２３】



【図２２４】



【図２２５】



フロントページの続き

(72)発明者　江口　鉦一郎
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

審査官　眞壁　隆一

(56)参考文献　特開２０１４－１５８９０８（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－０４６１７７（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－０３３６９２（ＪＰ，Ａ）
特開２００３－０５２９８７（ＪＰ，Ａ）
特開２００５－２３０１０８（ＪＰ，Ａ）
特開２０１５－０２９５５６（ＪＰ，Ａ）
特開２０１５－０９１５６３（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－１９５６９２（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　　７／０２